



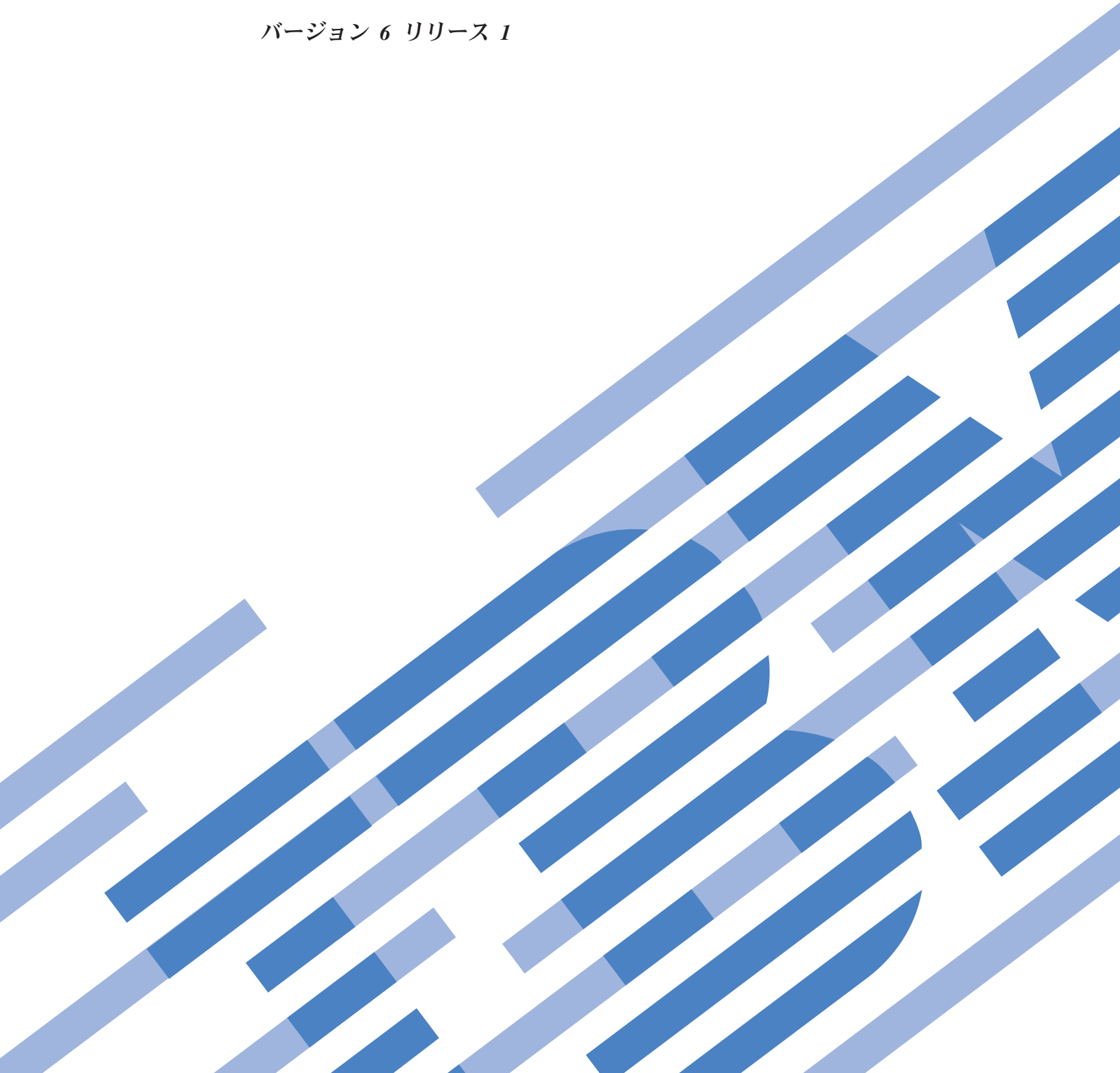
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

COMMIT (コミット) ~

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

COMMIT (コミット) ~

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、1107 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
i5/OS commands
Starting with COMMIT (Commit)
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

コミット (COMMIT)	1
パラメーター	1
コミット識別 (CMTID)	1
例	2
エラー・メッセージ	2
オブジェクトのコピー (COPY)	5
パラメーター	7
オブジェクト (OBJ)	7
TOディレクトリー (TODIR)	8
TOオブジェクト (TOOBJ)	8
シンボリック・リンク (SYMLNK)	8
変換元CCSID (FROMCCSID)	9
変換先CCSID (TOCCSID)	9
データ形式 (DTAFMT)	10
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	11
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	12
所有者 (OWNER)	12
権限 (AUT)	12
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	13
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	13
例	14
エラー・メッセージ	15
著作権 (COPYRIGHT)	17
パラメーター	17
著作権テキスト (TEXT)	17
例	17
エラー・メッセージ	18
オブジェクトの圧縮 (CPROBJ)	19
パラメーター	20
オブジェクト (OBJ)	20
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	21
未使用の日数 (DAYS)	22
プログラム・オプション (PGMOPT)	22
例	22
エラー・メッセージ	23
オブジェクトのコピー (CPY)	25
パラメーター	27
オブジェクト (OBJ)	27
TOディレクトリー (TODIR)	28
TOオブジェクト (TOOBJ)	28
シンボリック・リンク (SYMLNK)	28
変換元CCSID (FROMCCSID)	29
変換先CCSID (TOCCSID)	29
データ形式 (DTAFMT)	30
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	31
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	32
所有者 (OWNER)	32

権限 (AUT)	32
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	33
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	33
例	34
エラー・メッセージ	35

監査ジャーナル項目のコピー (CPYAUDJRNE)	37
パラメーター	37
ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)	38
出力ファイル接頭部 (OUTFILE)	41
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	41
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	42
検索されたジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	42
開始日および時刻 (FROMTIME)	43
終了日および時刻 (TOTIME)	44
例	44
エラー・メッセージ	45

構成リスト・コピー (CPYCFGL)	47
パラメーター	47
取り出し構成リスト (FROMCFGL)	47
構成リスト (CFGL)	47
テキスト'記述' (TEXT)	48
権限 (AUT)	48
例	48
エラー・メッセージ	48

文書コピー (CPYDOC)	51
パラメーター	51
取り出し文書 (FROMDOC)	51
取り出しフォルダー (FROMFLR)	52
受け取り文書 (TODOC)	52
受け取りフォルダー (TOFLR)	52
文書置き換え (REPLACE)	52
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	53
例	53
エラー・メッセージ	53

ファイル・コピー (CPYF)	55
パラメーター	55
FROMファイル (FROMFILE)	57
TOファイル (TOFILE)	57
FROMメンバー (FROMMBR)	58
TOメンバーまたはラベル (TOMBR)	59
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	59
ファイル作成 (CRTFILE)	60
印刷形式 (OUTFMT)	60
印刷するレコード (PRINT)	61
論理ファイルのレコード様式 (RCDFMT)	61
コピー開始レコード番号 (FROMRCD)	61

コピー終了レコード番号 (TORCD)	62
コピー開始レコード・キー (FROMKEY)	62
コピー終了レコード・キー (TOKEY)	63
コピーするレコードの数 (NBRRCD)	64
文字テストによるレコード組込 (INCCHAR)	64
フィールド・テストでレコードの組込 (INCREL)	65
レコード様式フィールドのマッピング (FMTOPT)	67
ソース更新オプション (SRCOPT)	69
ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)	69
許容エラー (ERRLVL)	69
削除済みレコードの圧縮 (COMPRESS)	70
例	70
エラー・メッセージ	73

ディレクトリーからのコピー (CPYFRMDIR) 75

パラメーター	75
ファイル・ラベル (LABEL)	75
装置 (DEV)	76
システム名 (SYSNAME)	76
ボリューム識別コード (VOL)	76
順序番号 (SEQNBR)	76
テープ終了オプション (ENDOPT)	77
ファイル満了日 (EXPDATE)	77
例	77
エラー・メッセージ	78

インポート・ファイルからのコピー (CPYFRMIMPF) 79

パラメーター	82
FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)	83
FROMファイル (FROMFILE)	83
TO データベース・ファイル (TOFILE)	84
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	85
STREAM FILEレコード長 (STMFLEN)	86
変換元CCSID (FROMCCSID)	86
変換先CCSID (TOCCSID)	86
レコード区切り文字 (RCDDL)	86
インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)	87
ストリング区切り文字 (STRDLM)	87
ストリング・エスケープ文字 (STRESCCHR)	87
ブランクの除去 (RMVBLANK)	88
フィールド区切り文字 (FLDDL)	88
フィールド定義ファイル (FLDDFNFILE)	89
小数点 (DECPNT)	89
10進数浮動丸めモード (DECFLTRND)	90
日付の形式 (DATFMT)	90
日付区切り記号 (DATSEP)	91
時刻形式 (TIMFMT)	91
時刻区切り記号 (TIMSEP)	91
コピー開始レコード番号 (FROMRCD)	92
許容エラー (ERRLVL)	92
エラー・レコード・ファイル (ERRRCDFILE)	92
レコードの置き換えまたは追加 (ERRRCDOPT)	93
ヌル値の置き換え (RPLNULLVAL)	93
列の識別 (IDCOL)	94

例	94
エラー・メッセージ	95

LDIFからのコピー (CPYFRMLDIF) 97

パラメーター	97
LDIFストリーム・ファイル (LDIFSTMF)	97
インスタンス (INSTANCE)	98
管理者 (ADMIN)	98
インポート・データの複製 (REPLICATE)	98
例	98
エラー・メッセージ	99

PC文書からのコピー (CPYFRMPCD) 101

エラー・メッセージ: CPYFRMPCD	101
パラメーター	101
取り出しフォルダー (FROMFLR)	102
受け入れファイル (TOFILE)	102
取り出し文書 (FROMDOC)	102
受け入れメンバー (TOMBR)	102
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	103
変換テーブル (TRNTBL)	103
PCデータの形式 (TRNFMT)	104
DBCSコード・ページ (TRNIGC)	104
SO/SIの挿入 (IGCSOSI)	104
例	105
エラー・メッセージ	105

PCFファイルからコピー (CPYFRMPCFF) 107

パラメーター	107
コピー元PCFファイル (FROMPCFF)	108
コピー先漢字フォント・テーブル (TOIGCTBL)	108
フォントの置き換え (RPLFNT)	109
例	109
エラー・メッセージ	109

QUERYファイルからのコピー (CPYFRMQRYF) 111

パラメーター	112
FROM オープン・ファイル識別コード (FROMOPNID)	112
TOファイル (TOFILE)	113
TOメンバーまたはラベル (TOMBR)	113
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	114
ファイル作成 (CRTFILE)	114
印刷形式 (OUTFMT)	115
コピーするレコードの数 (NBRRCD)	115
レコード様式フィールドのマッピング (FMTOPT)	115
許容エラー (ERRLVL)	116
例	117
エラー・メッセージ	118

ストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF) 121

パラメーター	122
------------------	-----

FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)	122
TO ファイル・メンバーか保管ファイル (TOMBR)	122
メンバー・オプション (MBROPT)	123
データ変換オプション: (CVTDTA)	123
ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)	123
データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)	124
変換テーブル (TBL)	124
行の終わり文字 (ENDLINFMT)	125
タブ拡張文字 (TABEXPN)	126
ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCDPAG)	126
例	127
エラー・メッセージ	128

テープからのコピー (CPYFRMTAP) 129

パラメーター	129
テープ・ファイル (FROMFILE)	130
TOファイル (TOFILE)	130
順序番号 (FROMSEQNBR)	131
テープ・ラベル (FROMLABEL)	131
メンバー (TOMBR)	132
装置 (FROMDEV)	132
コピー元リール (FROMREELS)	133
レコード長 (FROMRCLEN)	134
テープ終了オプション (FROMENDOPT)	134
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	134
印刷形式 (OUTFMT)	135
ボリューム識別コード (FROMVOL)	135
ブロックの長さ (FROMBLKLEN)	135
レコード・ブロックのタイプ (FROMRCDBLK)	136
コピーするレコードの数 (NBRRCD)	136
例	136
エラー・メッセージ	137

DBCSフォント・テーブルのコピー (CPYIGCTBL) 139

パラメーター	139
DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)	140
コピー・オプション (OPTION)	141
装置 (DEV)	141
ファイル・ラベル (LABEL)	141
選択イメージ (SELECT)	141
イメージの範囲 (RANGE)	142
ユーザー・イメージの置き換え (RPLIMG)	144
ボリューム識別コード (VOL)	144
ファイル満了日 (EXPDATE)	144
順序番号 (SEQNBR)	144
テープ終了オプション (ENDOPT)	145
ファイル (FILE)	145
メンバー (MEMBER)	145
例	145
エラー・メッセージ	146

ライブラリー・コピー (CPYLIB) 147

パラメーター	148
既存のライブラリー (FROMLIB)	148

新しいライブラリー (TOLIB)	148
ライブラリー作成 (CRTLIB)	148
データの複写 (DATA)	149
重複制約 (CST)	149
重複トリガー (TRG)	149
重複ファイルID (FILEID)	150
例	150
エラー・メッセージ	151

光ディスク・コピー (CPYOPT) 153

パラメーター	153
FROMボリューム識別コード (FROMVOL)	154
FROM経路 (FROMPATH)	154
TOボリューム識別コード (TOVOL)	154
TO経路 (TOPATH)	155
コピーするファイルの選択 (SLTFILE)	155
サブディレクトリー・コピー (CPYSUBDIR)	155
ディレクトリー作成 (CRTDIR)	156
反対側へのコピー可能 (ALWCPYOPP)	156
コピー・オプション (COPYTYPE)	156
開始日および時刻 (FROMTIME)	157
例	158
エラー・メッセージ	158

パフォーマンス収集のコピー (CPYPRCOL) 163

パラメーター	163
FROM収集 (FROMCOL)	163
FROMライブラリー (FROMLIB)	163
宛先収集 (TOCOL)	164
TOライブラリー (TOLIB)	164
収集タイプ (COLTYPE)	164
例	165
エラー・メッセージ	165

プログラム一時修正コピー (CPYPTF) 167

パラメーター	167
プロダクト (LICPGM)	168
取り出し装置 (FROMDEV)	168
受け取り装置 (TODEV)	168
選択するPTF番号 (SELECT)	168
除外するPTF番号 (OMIT)	169
リリース (RLS)	169
取り出し保管ファイル (FROMSAVF)	169
取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)	170
FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)	170
FROM経路識別コード (FROMPATHID)	171
ボリューム識別コード (TOVOL)	171
受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)	171
TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)	172
受け取り保管ファイル (TOSAVF)	172
消去 (CLEAR)	172
PTFカバー・レター・コピー (COVER)	173
カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)	173
データ圧縮 (DTACPR)	173
例	174

エラー・メッセージ	174
PTFカバー・レターのコピー (CPYPTFCVR)	177
パラメーター	177
装置 (DEV)	177
プロダクト (LICPGM)	177
選択するPTF番号 (SELECT)	178
リリース (RLS)	178
カバー・レター・オプション (CVROPT)	178
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	179
例	179
エラー・メッセージ	179

PTFグループのコピー (CPYPTFGRP)	181
パラメーター	181
PTFグループ (PTFGRP)	182
取り出し装置 (FROMDEV)	182
受け取り装置 (TODEV)	182
取り出し保管ファイル (FROMSAVF)	182
取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)	183
FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)	183
ボリューム識別コード (TOVOL)	184
受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)	184
TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)	184
受け取り保管ファイル (TOSAVF)	185
消去 (CLEAR)	185
置き換え (REPLACE)	185
PTFグループ・レベル (PTFGRPLVL)	186
関連PTFグループのコピー (RELPTFGRP)	186
データ圧縮 (DTACPR)	187
PTFのコピー (CPYPTF)	187
代替PTFの置き換え (RPLSPR)	187
PTFカバー・レター・コピー (COVER)	188
例	188
エラー・メッセージ	189

スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF)	191
パラメーター	191
スプール・ファイル (FILE)	192
TO データベース・ファイル (TOFILE)	192
ジョブ名 (JOB)	192
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	193
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	193
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	193
TOメンバー (TOMBR)	194
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	194
制御文字 (CTLCHAR)	194
チャンネル値 (CHLVAL)	195
例	195
エラー・メッセージ	196

ソース・ファイルのコピー (CPYSRCF)	199
パラメーター	200
データベース・ソース・ファイル (FROMFILE)	200

TOファイル (TOFILE)	201
FROMメンバー (FROMMBR)	201
メンバー (TOMBR)	202
TOメンバー識別コード (TOMBRID)	202
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	202
ソース変更日 (SRCCHGDATE)	203
ソース更新オプション (SRCOPT)	203
ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)	203
例	204
エラー・メッセージ	204

TCP/IPホスト・テーブルのコピー (CPYTCPHT)	207
パラメーター	207
TOファイル (TOFILE)	207
TOメンバー (TOMBR)	208
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	208
例	208
エラー・メッセージ	209

ディレクトリーへのコピー (CPYTODIR)	211
パラメーター	211
ファイル・ラベル (LABEL)	211
装置 (DEV)	212
自動初期設定 (AUTOINZ)	212
データの置換え (RPLDTA)	212
ボリューム識別コード (VOL)	212
順序番号 (SEQNBR)	213
テープ終了オプション (ENDOPT)	213
例	213
エラー・メッセージ	214

インポート・ファイルへのコピー (CPYTOIMPF)	215
パラメーター	216
FROMファイル (FROMFILE)	217
TO データベース・ファイル (TOFILE)	217
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	218
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	219
変換元CCSID (FROMCCSID)	219
変換先CCSID (TOCCSID)	219
ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)	220
ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCDPAG)	220
ストリーム・ファイル権限 (STMFAUT)	221
レコード区切り文字 (RCDDLML)	222
インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)	222
ストリング区切り文字 (STRDLM)	223
ストリング・エスケープ文字 (STRESCCHR)	223
ブランクの除去 (RMVBLANK)	224
フィールド区切り文字 (FLDDLML)	224
ヌル・フィールド標識 (NULLIND)	224
数字フィールド埋め込み (NUMFLDPAD)	225
小数点 (DECPNT)	225
日付の形式 (DATFMT)	225
時刻形式 (TIMFMT)	225

例	226
エラー・メッセージ	226
LDIF へのコピー (CPYTOLDIF)	227
パラメーター	227
インスタンス (INSTANCE)	227
LDIFストリーム・ファイル (LDIFSTMF)	228
管理者 (ADMIN)	228
サブツリー識別名 (SUBTREE)	228
cn=localhostのコピー (LOCALHOST)	228
cn=pwdpolicyのコピー (PWDPOLICY)	229
ネストされたレプリカのコピー (NESTRPLC)	229
操作属性のコピー (OPRATR)	229
パスフレーズ (PASSPHRASE)	230
暗号化ソルト (ENCSALT)	230
例	230
エラー・メッセージ	231
PC文書へのコピー (CPYTOPCD)	233
エラー・メッセージ: CPYTOPCD	233
パラメーター	233
取り出しファイル (FROMFILE)	234
受け取りフォルダー (TOFLR)	234
取り出しメンバー (FROMMBR)	234
受け取り文書 (TODOC)	234
文書置き換え (REPLACE)	235
変換テーブル (TRNTBL)	235
PCデータの形式 (TRNFMT)	236
DBCSコード・ページ (TRNIGC)	236
レコード様式 (RCDFMT)	236
例	237
エラー・メッセージ	237
PCFファイルへコピー (CPYTOPCFF)	239
パラメーター	239
コピー元漢字フォント・テーブル (FROMIGCTBL)	239
コピー先PCFファイル (TOPCFF)	240
フォントの置き換え (RPLFNT)	240
例	240
エラー・メッセージ	241
ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)	243
パラメーター	243
FROM ファイル・メンバーか保管ファイル (FROMMBR)	244
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	244
ストリーム・ファイル・オプション (STMFOPT)	245
データ変換オプション: (CVTDTA)	245
データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)	245
ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)	246
変換テーブル (TBL)	247
行の終わり文字 (ENDLINFMT)	247
権限 (AUT)	248
ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)	248

例	249
エラー・メッセージ	250
テープへのコピー (CPYTOTAP)	251
パラメーター	251
FROMファイル (FROMFILE)	252
テープ・ファイル (TOFILE)	252
FROMメンバー (FROMMBR)	253
ファイル順序番号 (TOSEQNBR)	253
テープ・ラベル (TOLABEL)	253
装置 (TODEV)	254
コピー先リール (TOREELS)	254
レコード長 (TORCDLEN)	255
テープ終了オプション (TOENDOPT)	255
ボリューム識別コード (TOVOL)	256
ブロックの長さ (TOBLKLEN)	256
レコード・ブロックのタイプ (TORCDBLK)	256
ファイル満了日 (TOEXPDATE)	257
コピーするレコードの数 (NBRRCD)	257
データ短縮 (COMPACT)	257
例	258
エラー・メッセージ	258
警報テーブルの作成 (CRTALRTBL)	261
パラメーター	261
警報テーブル (ALRTBL)	261
プロダクト (LICPGM)	262
ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)	262
テキスト'記述' (TEXT)	262
権限(AUT)	263
例	263
エラー・メッセージ	264
権限ホルダー作成 (CRTAUTHLR)	265
パラメーター	265
オブジェクト (OBJ)	266
権限(AUT)	266
例	267
エラー・メッセージ	267
権限リスト作成 (CRTAUTL)	269
パラメーター	269
権限リスト (AUTL)	269
テキスト'記述' (TEXT)	270
権限(AUT)	270
例	270
エラー・メッセージ	271
バインドCL PGMの作成 (CRTBNDCL)	273
パラメーター	273
プログラム (PGM)	274
ソース・ファイル (SRCFILE)	274
ソース・メンバー(SRCMBR)	275
テキスト'記述' (TEXT)	275
省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)	275
活動化グループ (ACTGRP)	276

ストレージ・モデル (STGM DL)	276
出力 (OUTPUT)	276
ソース・リスト・オプション (OPTION)	277
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	278
ログ・コマンド (LOG)	278
プログラムの置き換え (REPLACE)	278
ターゲット・リリース (TGTRLS)	279
権限 (AUT)	279
分類順序 (SRTSEQ)	280
言語識別コード (LANGID)	281
最適化 (OPTIMIZE)	281
デバッグ・ビュー (DBGVIEW)	282
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)	282
INCLUDEファイル (INCFIL E)	282
例	283
エラー・メッセージ	283

バインド・ディレクトリーの作成 (CRTBNDDIR) 285

パラメーター	285
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	285
権限 (AUT)	286
テキスト'記述' (TEXT)	286
例	286
エラー・メッセージ	287

構成リスト作成 (CRTCFGL) 289

パラメーター	289
構成リスト・タイプ (TYPE)	291
構成リスト (CFGL)	292
省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)	292
APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTFTR)	292
テキスト'記述' (TEXT)	292
APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCL E)	293
APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMT E)	293
非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)	295
非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)	296
小売業パススルー項目 (RTL PASTHRE)	296
権限 (AUT)	297
例	298
エラー・メッセージ	298

鍵ストア・ファイルの作成 (CRTCKMKSF) 299

パラメーター	299
鍵ストア・ファイル (KEYSTORE)	299
マスター・キー (MSTKEY)	300
権限 (AUT)	300
テキスト'記述' (TEXT)	300
例	301
エラー・メッセージ	301

C ロケール記述の作成 (CRTCLD) 303

エラー・メッセージ: CRTCLD	303
パラメーター	303
ロケール名 (CLD)	304

ソース・ファイル (SRCFILE)	304
ソース・メンバー (SRCMBR)	305
テキスト記述 (TEXT)	305
ソース・リスト・オプション (OPTION)	305
エラー・リスト・レベル (LISTING)	305
印刷ファイル (PRTFILE)	306
置き換え (REPLACE)	306
権限 (AUT)	306
ターゲット・リリース (TGTRLS)	307
例	308
エラー・メッセージ	308

CLモジュールの作成 (CRTCLMOD) 309

パラメーター	309
モジュール (MODULE)	310
ソース・ファイル (SRCFILE)	310
ソース・メンバー (SRCMBR)	311
テキスト'記述' (TEXT)	311
出力 (OUTPUT)	311
ソース・リスト・オプション (OPTION)	312
ログ・コマンド (LOG)	312
モジュール・オブジェクトの置き換え (REPLACE)	313
ターゲット・リリース (TGTRLS)	313
権限 (AUT)	314
分類順序 (SRTSEQ)	314
言語識別コード (LANGID)	315
最適化 (OPTIMIZE)	315
デバッグ・ビュー (DBGVIEW)	316
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)	316
INCLUDEファイル (INCFIL E)	317
例	317
エラー・メッセージ	317

CLプログラム作成 (CRTCLPGM) 319

パラメーター	319
プログラム (PGM)	320
ソース・ファイル (SRCFILE)	320
ソース・メンバー (SRCMBR)	321
テキスト'記述' (TEXT)	321
ソース・リスト・オプション (OPTION)	321
生成オプション (GENOPT)	323
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	323
ログ・コマンド (LOG)	324
RTVCLSRC可能 (ALWRTVSR C)	324
プログラムの置き換え (REPLACE)	324
ターゲット・リリース (TGTRLS)	325
権限 (AUT)	325
分類順序 (SRTSEQ)	326
言語識別コード (LANGID)	327
INCLUDEファイル (INCFIL E)	327
例	327
エラー・メッセージ	328

クラス作成 (CRTCLS) 331

パラメーター	331
クラス (CLS)	331

実行優先順位 (RUNPTY)	332
タイム・スライス (TIMESLICE)	332
除去適格 (PURGE)	332
省略時の待ち時間 (DFTWAIT)	333
最大CPU時間 (CPUTIME)	333
最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)	333
最大スレッド数 (MAXTHD)	334
テキスト'記述' (TEXT)	334
権限(AUT)	334
例	335
エラー・メッセージ	335

コマンド作成 (CRTCMD) 337

パラメーター	337
コマンド (CMD)	339
コマンドを処理するプログラム (PGM)	340
ソース・ファイル (SRCFILE)	340
ソース・メンバー (SRCMBR)	341
REXXソース・ファイル (REXSRCFILE)	341
REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)	341
REXXコマンド環境 (REXCMDENV)	342
REXX出口プログラム (REXEXITPGM)	342
スレッド・セーフ (THDSAFE)	343
マルチスレッド・ジョブの処置 (MLTTHDACN)	344
テキスト'記述' (TEXT)	344
妥当性検査プログラム (VLDCR)	344
有効なモード (MODE)	345
実行可能な環境 (ALLOW)	345
制限ユーザー可能 (ALWLMTUSR)	346
最大定位置パラメーター数 (MAXPOS)	346
プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)	347
メッセージ・ファイル (MSGF)	348
ヘルプ・ブックシェルフ (HLPSHELF)	348
ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)	349
ヘルプ識別コード (HLPID)	349
ヘルプ検索見出し (HLPSCHIDX)	349
現行ライブラリー (CURLIB)	350
実行ライブラリー (PRDLIB)	350
プロンプト一時変更プログラム (PMTOVRPGM)	351
権限 (AUT)	351
コマンドの置き換え (REPLACE)	352
GUI使用可能 (ENBGUI)	353
例	353
エラー・メッセージ	353

サービス・クラス記述作成 (CRTCOSD) 355

パラメーター	355
サービス・クラス記述 (COSD)	371
送信優先順位 (TMSPTY)	371
回線の1行目 (ROW1LINE)	371
ノードの1行目 (ROW1NODE)	373
回線の2行目 (ROW2LINE)	374
ノードの2行目 (ROW2NODE)	376
回線の3行目 (ROW3LINE)	376
ノードの3行目 (ROW3NODE)	378

回線の4行目 (ROW4LINE)	378
ノードの4行目 (ROW4NODE)	380
回線の5行目 (ROW5LINE)	381
ノードの5行目 (ROW5NODE)	383
回線の6行目 (ROW6LINE)	383
ノードの6行目 (ROW6NODE)	385
回線の7行目 (ROW7LINE)	385
ノードの7行目 (ROW7NODE)	387
回線の8行目 (ROW8LINE)	388
ノードの8行目 (ROW8NODE)	390
テキスト'記述' (TEXT)	390
権限 (AUT)	390
例	391
エラー・メッセージ	391

CRQ記述の作成 (CRTCRQD) 393

パラメーター	393
要求記述の変更 (CRQD)	393
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	394
問題識別コード (PRBID)	394
問題の起点 (PRBORG)	394
テキスト'記述' (TEXT)	395
権限 (AUT)	395
例	396
エラー・メッセージ	396

通信サイド情報の作成 (CRTCSI) 397

パラメーター	397
サイド情報 (CSI)	397
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	398
トランザクション・プログラム (TNSPGM)	398
テキスト'記述' (TEXT)	398
装置 (DEV)	398
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	399
モード (MODE)	399
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	399
権限 (AUT)	400
例	400
エラー・メッセージ	401

制御装置記述の作成 (APPC)

(CRTCTLAPPC) 403

パラメーター	403
制御装置記述 (CTLD)	406
リンク・タイプ (LINKTYPE)	407
IPL時のオンライン (ONLINE)	409
交換接続 (SWITCHED)	409
短期保留モード (SHM)	410
交換網バックアップ (SNBU)	410
APPN可能 (APPN)	410
リモートIPアドレス (RMTINTNETA)	411
ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)	411
LDLCタイマー (LDLCTMR)	412
LDLCリンク速度 (LDLCLNKSPD)	413
LDLC送信グループ (LDLCTMSGRP)	414
制御装置のタイプ (TYPE)	415

接続される非交換回線 (LINE)	417
交換回線リスト (SWTLINLST)	417
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	417
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	418
リモート制御点 (RMTCPNAME)	418
リモート・システム名 (RMTSYSNAME)	419
交換識別コード (EXCHID)	419
初期接続 (INLCNN)	420
ダイヤル開始 (DIALINIT)	420
接続番号 (C>NNNBR)	421
返答番号 (ANSNBR)	421
発信接続リスト (CNLSTOUT)	421
接続リスト項目 (CNLSTOUTE)	422
データ・リンクの役割 (ROLE)	422
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	422
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	423
端末アドレス (STNADR)	423
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	423
LAN DSAP (DSAP)	424
LAN SSAP (SSAP)	424
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	425
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	425
X.25論理チャンネルID (LGLCHLID)	425
X.25接続パスワード (C>NNPWD)	426
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	426
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	426
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	427
APPN/HPR使用可能 (HPR)	427
HPRパス・スイッチ (HPRTHSWT)	428
APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	428
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	428
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	429
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	429
ユーザー定義1 (USRDFN)	430
ユーザー定義2 (USRDFN)	430
ユーザー定義3 (USRDFN)	430
モデル制御装置記述 (MDLCTL)	431
接続ネットワークID (C>NNNETID)	431
接続ネットワークCP (C>NNCPNAME)	431
テキスト'記述' (TEXT)	432
接続されている装置 (DEV)	432
文字コード (CODE)	432
SSCP識別コード (SSCPID)	433
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	433
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	433
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	434
IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	434
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	434
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	435
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	435
交換回線切断 (SWTDSC)	435
切断タイマー (DSCTMR)	436
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	436
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	437
SDLC出力限界 (OUTLMT)	437

SDLC接続ポーリング再試行 (C>NNPOLLRTY)	437
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	438
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	438
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	438
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	439
LAN接続タイマー (LANC>NNTMR)	439
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	439
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	440
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	440
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	440
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	441
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	441
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	442
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	442
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	443
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	443
X.25着信課金 (RVSCRG)	444
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	444
X.25接続再試行 (X25C>NNRTY)	444
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	445
X.25接続タイマー (X25C>NNTMR)	445
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	445
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	446
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	446
ユーザー機能 (USRFLC)	446
回復限界 (CMNRCYLMT)	446
MSG 待ち行列 (MSGQ)	447
権限 (AUT)	448
例	448
エラー・メッセージ	449

制御装置記述の作成 (非同期)

(CRTCTLASC)	451
パラメーター	451
制御装置記述 (CTLD)	452
リンク・タイプ (LINKTYPE)	452
IPL時のオンライン (ONLINE)	453
交換接続 (SWITCHED)	453
交換網バックアップ (SNBU)	453
接続される非交換回線 (LINE)	454
交換回線リスト (SWTLINLST)	454
初期接続 (INLCNN)	454
接続番号 (C>NNNBR)	455
返答番号 (ANSNBR)	455
X.25論理チャンネルID (LGLCHLID)	455
テキスト'記述' (TEXT)	456
接続されている装置 (DEV)	456
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	456
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	456
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	457
交換回線切断 (SWTDSC)	457
ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)	457
ファイル転送再試行 (RETRY)	458
リモート検査 (RMTVIFY)	458
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	458

ローカル識別コード (LCLID)	458
PADエミュレーション (PADEML)	459
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	459
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	459
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	460
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	461
X.25着信課金 (RVSCRG)	461
ユーザー機能 (USRFCL)	461
回復限界 (CMNRCYLMT)	462
MSG 待ち行列 (MSGQ)	462
権限 (AUT)	463
例	463
エラー・メッセージ	464

制御装置記述の作成(BSC)

(CRTCTLBSC) 465

パラメーター	465
制御装置記述 (CTLD)	466
IPL時のオンライン (ONLINE)	466
接続タイプ (CNN)	466
交換網バックアップ (SNBU)	467
接続される非交換回線 (LINE)	467
交換回線リスト (SWTLINLST)	467
適用業務タイプ (APPTYPE)	467
初期接続 (INLCNN)	468
接続番号 (C>NNNBR)	468
ローカル識別コード (LCLID)	469
リモート識別コード (RMTID)	469
RJEホスト・タイプ (RJEHOST)	470
RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)	470
テキスト'記述' (TEXT)	470
接続されている装置 (DEV)	470
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	471
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	471
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	471
回復限界 (CMNRCYLMT)	472
権限 (AUT)	472
例	473
エラー・メッセージ	473

制御装置記述作成 (金融機関)

(CRTCTLFNC) 475

パラメーター	475
制御装置記述 (CTLD)	477
制御装置のタイプ (TYPE)	477
制御機構型式 (MODEL)	478
リンク・タイプ (LINKTYPE)	478
IPL時のオンライン (ONLINE)	479
交換接続 (SWITCHED)	479
短期保留モード (SHM)	479
交換網バックアップ (SNBU)	480
接続される非交換回線 (LINE)	480
交換回線リスト (SWTLINLST)	480
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	481
交換識別コード (EXCHID)	482
初期接続 (INLCNN)	482

接続番号 (C>NNNBR)	482
返答番号 (ANSNBR)	483
SHM切断限界 (SHMDSLCLMT)	483
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	484
端末アドレス (STNADR)	484
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	484
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	484
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	485
X.25論理チャンネルID (LGLCHLID)	485
X.25接続パスワード (CNNPWD)	486
テキスト'記述' (TEXT)	486
接続されている装置 (DEV)	486
文字コード (CODE)	487
SSCP識別コード (SSCPID)	487
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	487
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	488
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	488
交換回線切断 (SWTDSC)	488
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	488
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	489
SDLC出力限界 (OUTLMT)	489
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	489
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	490
LAN DSAP (DSAP)	490
LAN SSAP (SSAP)	491
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	491
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	491
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	492
LAN接続タイマー (LANC>NNTMR)	492
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	492
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	493
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	493
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	493
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	494
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	494
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	495
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	495
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	496
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	496
X.25着信課金 (RVSCRG)	497
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	497
X.25接続再試行 (X25C>NNRTY)	497
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	498
X.25接続タイマー (X25C>NNTMR)	498
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	498
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	499
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	499
ユーザー機能 (USRFCL)	499
回復限界 (CMNRCYLMT)	499
権限 (AUT)	500
例	501
エラー・メッセージ	501

制御装置記述の作成(SNA ホスト)	
(CRTCTHHOST)	503
パラメーター	503
制御装置記述 (CTLD)	506
リンク・タイプ (LINKTYPE)	506
IPL時のオンライン (ONLINE)	507
交換接続 (SWITCHED)	507
短期保留モード (SHM)	508
交換網バックアップ (SNBU)	508
APPN可能 (APPN)	508
接続される非交換回線 (LINE)	509
交換回線リスト (SWTLINLST)	509
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	509
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	510
リモート制御点 (RMTCPNAME)	510
隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)	511
SSCP識別コード (SSCPID)	511
ローカル交換識別コード (LCLEXCHID)	511
初期接続 (INLCNN)	512
ダイヤル開始 (DIALINIT)	512
接続番号 (CNNNBR)	513
返答番号 (ANSNBR)	513
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	514
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	514
端末アドレス (STNADR)	514
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	514
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	515
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	515
X.25論理チャネルID (LGLCHLID)	515
X.25接続パスワード (CNNPWD)	516
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	516
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	517
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	517
APPN/HPR使用可能 (HPR)	517
HPRパス・スイッチ (HPRTHSWT)	518
APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	518
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	519
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	519
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	519
ユーザー定義1 (USRDFN)	520
ユーザー定義2 (USRDFN)	520
ユーザー定義3 (USRDFN)	521
オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)	521
テキスト'記述' (TEXT)	521
1次DLUS名 (PRIDLUS)	522
バックアップDLUS名 (BKUDLUS)	522
従属PU名 (DEPPUNAME)	523
30-2550 (秒) (ACTTMR)	524
切断/再接続タイマー(T309) (RECNNTMR)	524
接続されている装置 (DEV)	525
文字コード (CODE)	525
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	525
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	526
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	526
IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	526

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)	527
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDLDLY)	527
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	527
交換回線切断 (SWTDSC)	527
切断タイマー (DSCTMR)	528
LAN DSAP (DSAP)	528
LAN SSAP (SSAP)	529
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	529
LAN接続再試行 (LANCNRRTY)	530
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	530
LAN接続タイマー (LANCNNTMR)	530
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	531
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	531
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	531
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	532
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	532
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	532
X.25交換回線選択 (SWTLINLCT)	533
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	533
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	534
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	534
X.25着信課金 (RVSCRG)	535
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	535
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	535
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	536
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	536
ユーザー機能 (USRFCL)	536
回復限界 (CMNRCYLMT)	536
MSG 待ち行列 (MSGQ)	537
権限 (AUT)	538
例	538
エラー・メッセージ	538

制御装置記述の作成(ローカル WS)	
(CRTCTLLWS)	541
パラメーター	541
制御装置記述 (CTLD)	542
制御装置のタイプ (TYPE)	542
制御機構型式 (MODEL)	544
資源名 (RSRCNAME)	544
IPL時のオンライン (ONLINE)	544
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	545
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	545
初期設定プログラム (INZPGM)	546
テキスト'記述' (TEXT)	546
接続されている装置 (DEV)	547
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	547
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	548
権限 (AUT)	548
MSG 待ち行列 (MSGQ)	549
例	549
エラー・メッセージ	550

制御装置記述の作成(ネットワーク)	
(CRTCTLNET)	551
パラメーター	551

制御装置記述 (CTLD)	551
IPL時のオンライン (ONLINE)	551
接続回線 (LINE)	552
応答タイマーの接続 (CNNRSPTMR)	552
テキスト'記述' (TEXT)	552
接続されている装置 (DEV)	552
権限 (AUT)	553
例	553
エラー・メッセージ	553

制御装置記述の作成 (小売業)

(CRTCTLRTL)	555
パラメーター	555
制御装置記述 (CTLD)	557
制御装置のタイプ (TYPE)	557
制御機構型式 (MODEL)	557
リンク・タイプ (LINKTYPE)	558
IPL時のオンライン (ONLINE)	558
交換接続 (SWITCHED)	558
交換網バックアップ (SNBU)	559
接続される非交換回線 (LINE)	559
交換回線リスト (SWTLINLST)	560
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	560
交換識別コード (EXCHID)	560
初期接続 (INLCNN)	561
接続番号 (CNNNBR)	561
返答番号 (ANSNBR)	561
端末アドレス (STNADR)	562
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	562
LAN DSAP (DSAP)	562
LAN SSAP (SSAP)	563
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	563
X.25論理チャネルID (LGLCHLID)	564
X.25接続パスワード (CNNPWD)	564
テキスト'記述' (TEXT)	564
接続されている装置 (DEV)	565
文字コード (CODE)	565
SSCP識別コード (SSCPID)	565
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	566
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	566
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	566
交換回線切断 (SWTDSC)	566
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	567
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	567
SDLC出力限界 (OUTLMT)	567
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	568
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	568
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	568
LAN接続再試行 (LANCNNRTY)	569
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	569
LAN接続タイマー (LANCNTMR)	569
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	570
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	570
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	570

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	571
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	571
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	571
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	572
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	572
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	573
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	573
X.25着信課金 (RVSCRG)	574
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	574
X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	575
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	575
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	575
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	576
ユーザー機能 (USRFCL)	576
回復限界 (CMNRCYLMT)	576
権限 (AUT)	577
例	578
エラー・メッセージ	578

制御装置記述の作成(リモート WS)

(CRTCLRWS)	579
パラメーター	579
制御装置記述 (CTLD)	581
制御装置のタイプ (TYPE)	582
制御機構型式 (MODEL)	582
リンク・タイプ (LINKTYPE)	583
IPL時のオンライン (ONLINE)	583
交換接続 (SWITCHED)	584
短期保留モード (SHM)	584
交換網バックアップ (SNBU)	585
接続される非交換回線 (LINE)	585
交換回線リスト (SWTLINLST)	585
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	586
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	586
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	586
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	587
交換識別コード (EXCHID)	587
初期接続 (INLCNN)	587
ダイヤル開始 (DIALINIT)	588
接続番号 (CNNNBR)	588
返答番号 (ANSNBR)	588
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	589
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	589
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	589
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	590
端末アドレス (STNADR)	590
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	590
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	591
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	591
X.25論理チャネルID (LGLCHLID)	591
X.25接続パスワード (CNNPWD)	592
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	592
交換回線切断 (SWTDSC)	593
テキスト'記述' (TEXT)	593
接続されている装置 (DEV)	593

接続されている装置 (DEV)	593
文字コード (CODE)	594
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	594
SSCP識別コード (SSCPID)	594
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	595
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	595
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	595
IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	596
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	596
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	596
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	597
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	597
SDLCポーリング限界 (POLLLMT)	597
SDLC出力限界 (OUTLMT)	598
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	598
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	598
LAN DSAP (DSAP)	599
LAN SSAP (SSAP)	599
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	600
LAN接続再試行 (LANCNNRTY)	600
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	600
LAN接続タイマー (LANCNNTMR)	601
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	601
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	601
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	602
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	602
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	602
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	603
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	603
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	603
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	604
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	605
X.25着信課金 (RVSCRG)	605
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	605
X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	606
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	606
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	606
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	607
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	607
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	607
ユーザー機能 (USRFLC)	608
割り振り再試行タイマー (ALCRTYTMR)	608
回復限界 (CMNRCYLMT)	608
MSG 待ち行列 (MSGQ)	609
権限 (AUT)	609
例	610
エラー・メッセージ	610

**制御装置記述の作成 (テープ)
(CRTCTLTAP) 613**

パラメーター	613
制御装置記述 (CTLD)	613
制御装置のタイプ (TYPE)	613
制御機構型式 (MODEL)	614
資源名 (RSRCNAME)	614

IPL時のオンライン (ONLINE)	614
テキスト'記述' (TEXT)	615
接続されている装置 (DEV)	615
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	615
権限 (AUT)	616
例	616
エラー・メッセージ	616

**制御装置記述の作成 (仮想WS)
(CRTCTLVWS) 619**

パラメーター	619
制御装置記述 (CTLD)	619
IPL時のオンライン (ONLINE)	620
テキスト'記述' (TEXT)	620
接続されている装置 (DEV)	620
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	620
MSG 待ち行列 (MSGQ)	621
権限 (AUT)	621
例	622
エラー・メッセージ	622

DDMファイル作成 (CRTDDMF) 625

パラメーター	625
DDMファイル (FILE)	626
リモート・ファイル (RMTFILE)	626
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	627
リレーショナル・データベース (RDB)	629
テキスト'記述' (TEXT)	629
装置 (DEV)	629
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	629
モード (MODE)	630
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	630
ポート番号 (PORT)	631
アクセス方式 (ACCMTH)	631
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	633
保護された会話 (PTCCNV)	633
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	633
権限 (AUT)	634
ファイルの置き換え (REPLACE)	635
例	635
エラー・メッセージ	636

装置記述の作成(APPC) (CRTDEVAPPC) 637

パラメーター	637
装置記述 (DEV)	638
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	638
IPL時のオンライン (ONLINE)	638
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	638
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	639
接続される制御装置 (CTL)	639
モード (MODE)	639
MSG 待ち行列 (MSGQ)	639
APPN可能 (APPN)	640
単一セッション (SNGSSN)	640
ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)	641
事前確立セッション (PREESTSSN)	641

ロケーション・パスワード (LOCPWD)	642
保護ロケーション (SECURELOC)	642
テキスト'記述' (TEXT)	643
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	643
権限 (AUT)	643
例	644
エラー・メッセージ	644

装置記述の作成 (非同期)

(CRTDEVASC) 645

パラメーター	645
装置記述 (DEV)	645
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	645
IPL時のオンライン (ONLINE)	646
接続される制御装置 (CTL)	646
テキスト'記述' (TEXT)	646
権限 (AUT)	646
例	647
エラー・メッセージ	647

装置記述の作成(ASP) (CRTDEVASP) 649

パラメーター	649
装置記述 (DEV)	649
資源名 (RSRCNAME)	649
リレーショナル・データベース (RDB)	650
MSG 待ち行列 (MSGQ)	650
テキスト'記述' (TEXT)	650
権限 (AUT)	651
例	651
エラー・メッセージ	652

装置記述の作成(BSC) (CRTDEVBSC) 653

パラメーター	653
装置記述 (DEV)	655
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	655
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	655
IPL時のオンライン (ONLINE)	655
接続される制御装置 (CTL)	655
接続タイプ (CNN)	656
適用業務タイプ (APPTYPE)	656
回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)	657
ブロック化のタイプ (BLOCK)	657
区切り文字 (SEPCHAR)	658
リモートBSC (RMTBSC)	658
レコード長 (RCDLEN)	658
ブロックの長さ (BLKLEN)	658
透過モード伝送 (TRNSPY)	659
データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)	659
後書きブランクの切り捨て (TRUNC)	660
グループ区切りのタイプ (GRPSEP)	660
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	660
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	661
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	661
エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	662
テキスト'記述' (TEXT)	662

権限 (AUT)	662
例	663
エラー・メッセージ	663

装置記述の作成 (暗号) (CRTDEVCRP) 665

パラメーター	665
装置記述 (DEV)	665
資源名 (RSRCNAME)	666
適用業務タイプ (APPTYPE)	666
IPL時のオンライン (ONLINE)	666
MSG 待ち行列 (MSGQ)	667
PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)	667
DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)	668
テキスト'記述' (TEXT)	669
権限 (AUT)	669
例	669
エラー・メッセージ	670

装置記述の作成 (表示装置)

(CRTDEVDSP) 671

パラメーター	671
装置記述 (DEV)	673
装置クラス (DEVCLS)	674
装置タイプ (TYPE)	674
装置型式 (MODEL)	676
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	677
ポート番号 (PORT)	678
スイッチの設定値 (SWTSET)	678
共用セッション番号 (SHRSSNNBR)	678
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	679
ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)	679
物理的接続 (ATTACH)	680
IPL時のオンライン (ONLINE)	681
接続される制御装置 (CTL)	681
キーボード言語タイプ (KBDTYPE)	681
サインオフ時の回線切断 (DROP)	687
カーソル明滅可能 (ALWBLN)	687
補助装置 (AUXDEV)	687
印刷装置 (PRINTER)	688
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	688
適用業務タイプ (APPTYPE)	688
活動化タイマー (ACTTMR)	689
非活動タイマー (INACTTMR)	689
SNAバススルー装置記述 (SNPTDEV)	691
SNAバススルー・グループ名 (SNPTGRP)	691
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	691
回線速度 (LINESPEED)	692
語の長さ (WORDLEN)	692
パリティのタイプ (PARITY)	693
停止ビット (STOPBITS)	694
最大未処理フレーム数 (MAXOUT)	695
アイドル・タイマー (IDLTMR)	695
NRMポーリング・タイマー (NRMPOLLTMR)	696
フレーム再試行 (FRAMERTY)	696
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	696

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	697
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	697
DBCS機能 (IGCFEAT)	697

テキスト'記述' (TEXT)	699
------------------------	------------

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	701
-------------------------------	------------

文字識別コード (CHRID)	703
------------------------	------------

印刷装置 (PRTDEV)	705
----------------------	------------

出力待ち行列 (OUTQ)	707
----------------------	------------

印刷出力ファイル (PRTFILE)	709
---------------------------	------------

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	711
--	------------

権限 (AUT)	713
-----------------	------------

例	715
----------	------------

エラー・メッセージ	717
------------------	------------

装置記述の作成 (金融機関) (CRTDEVFNC)	719
-----------------------------------	------------

パラメーター	719
装置記述 (DEV D)	719
装置タイプ (TYPE)	720
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	720
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	720
IPL時のオンライン (ONLINE)	721
接続される制御装置 (CTL)	721
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	721
装置クラス (DEVCLS)	721
活動化タイマー (ACTTMR)	722
非活動タイマー (INACTTMR)	722
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	723
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	723
テキスト'記述' (TEXT)	723
権限 (AUT)	724
例	724
エラー・メッセージ	725

装置記述の作成(SNA ホスト) (CRTDEVHOST)	727
--------------------------------------	------------

パラメーター	727
装置記述 (DEV D)	728
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	728
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	728
IPL時のオンライン (ONLINE)	728
接続される制御装置 (CTL)	728
適用業務タイプ (APPTYPE)	729
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	729

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	729
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	730
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	731

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	731
ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)	731
テキスト'記述' (TEXT)	732
従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	732
権限 (AUT)	732
例	733
エラー・メッセージ	733

装置記述の作成(INTRA) (CRTDEVINTR)	735
------------------------------------	------------

パラメーター	735
装置記述 (DEV D)	735
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	735
IPL時のオンライン (ONLINE)	736
テキスト'記述' (TEXT)	736
権限 (AUT)	736
例	737
エラー・メッセージ	737

装置記述の作成 (媒体ライブラリー) (CRTDEVMLB)	739
---------------------------------------	------------

パラメーター	739
装置記述 (DEV D)	740
装置クラス (DEVCLS)	740
資源名 (RSRCNAME)	740
装置タイプ (TYPE)	741
IPL時のオンライン (ONLINE)	741
アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)	742
装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)	742
資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)	743
初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)	743
ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)	744
カートリッジID生成 (GENCTGID)	744
ロボット装置記述 (ROBOTDEV)	744
ロボット・ホスト (ROBOTHOST)	745
ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)	745
MSG 待ち行列 (MSGQ)	745
テキスト'記述' (TEXT)	746
権限 (AUT)	746
例	747
エラー・メッセージ	747

装置記述の作成(ネットワーク) (CRTDEVNET)	749
------------------------------------	------------

パラメーター	749
装置記述 (DEV D)	749
装置タイプ (TYPE)	749
IPL時のオンライン (ONLINE)	750
接続される制御装置 (CTL)	750
テキスト'記述' (TEXT)	750
権限 (AUT)	750
例	751

エラー・メッセージ	751	拡張機能の印刷 (AFP)	787
装置記述の作成(NWSH)		AFP接続機構 (AFPATTACH)	789
(CRTDEVNWSH)	753	ポート番号 (PORT)	791
パラメーター	753	スイッチの設定値 (SWTSET)	793
装置記述 (DEVD)	754	ローカル・ロケーション・アドレス	
資源名 (RSRCNAME)	754	(LOCADR)	795
ローカル (ターゲット) インターフェース (LCLIFC)	754	補助印刷装置 (AUXPRT)	797
IPL時のオンライン (ONLINE)	757	ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)	799
MSG 待ち行列 (MSGQ)	758	物理的接続 (ATTACH)	801
回復限界 (CMNRCYLMT)	758	IPL時のオンライン (ONLINE)	803
テキスト'記述' (TEXT)	759	接続される制御装置 (CTL)	805
権限 (AUT)	759	言語タイプ (LNGTYPE)	807
例	760	印刷品質 (PRTQLTY)	811
エラー・メッセージ	760	フォント識別コード (FONT)	813
装置記述の作成 (光ディスク)		用紙送り (FORMFEED)	815
(CRTDEVOPT)	761	区切り用紙入れ (SEPDRAWER)	817
パラメーター	761	セパレーター・プログラム (SEPPGM)	819
装置記述 (DEVD)	761	用紙入れの数 (NBRDRAWER)	821
資源名 (RSRCNAME)	762	印刷装置エラー・メッセージ	
装置タイプ (TYPE)	762	(PRTERMSG)	823
ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)	762	MSG 待ち行列 (MSGQ)	825
リモートIPアドレス (RMTINTNETA)	763	要求単位の最大長 (MAXLENRU)	827
ネットワーク・イメージ・ディレクトリー		適用業務タイプ (APPTYPE)	829
(NETIMGDIR)	763	活動化タイマー (ACTTMR)	831
ユーザーID番号 (UID)	764	非活動タイマー (INACTTMR)	833
グループID番号 (GID)	764	SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	835
IPL時のオンライン (ONLINE)	764	SNAパススルー・グループ名	
MSG 待ち行列 (MSGQ)	765	(SNPTGRP)	837
テキスト'記述' (TEXT)	765	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマン	
権限 (AUT)	765	ド (LOGON)	839
例	766		
エラー・メッセージ	767		
装置記述の作成 (印刷装置)			
(CRTDEVPRT)	769		
パラメーター	769		
装置記述 (DEVD)	773		
装置クラス (DEVCLS)	774		
装置タイプ (TYPE)	774		
装置型式 (MODEL)	775		
LAN接続機構 (LANATTACH)	777		
LAN リモート・アダプター・アドレス			
(ADPTADR)	779		
アダプター・タイプ (ADPTTYPE)	781		
アダプター接続タイプ (ADPTCNNTYP)	783		
エミュレートされる平衡型装置			
(EMLDEV)	785		

ペーシング値 (PACING)	841	システム・ドライバー・プログラム (SYSDRVPGM).	899
回線速度 (LINESPEED)	843	保護接続(SECURECNN)	901
語の長さ (WORDLEN).	845	妥当性検査リスト (VLDL)	903
パリティのタイプ (PARITY).	847	テキスト'記述' (TEXT).	905
停止ビット (STOPBITS)	849	従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	907
ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)	851	リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	909
メーカー・タイプ, 型式 (MFRTYPMDL)	853	ワークステーション・カスタマイズ・オ ブジェクト (WSCST)	911
用紙入れ 1 (PPRSRC1)	861	権限 (AUT)	913
用紙入れ 2 (PPRSRC2)	863	例	915
エンベロープ・ソース (ENVELOPE)	865	エラー・メッセージ	917
ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899).	867	装置記述の作成 (小売業) (CRTDEVRTL)	919
イメージ構成 (IMGCFG)	869	パラメーター	919
保留中要求の最大数 (MAXPNDRQS)	873	装置記述 (DEVDD)	919
変換中の印刷 (PRTCVT)	875	ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	920
印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)	877	リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	920
書式定義 (FORMDF).	879	IPL時のオンライン (ONLINE)	920
文字識別コード (CHRID)	881	接続される制御装置 (CTL)	920
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	883	ペーシング値 (PACING).	920
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	885	要求単位の最大長 (MAXLENRU)	921
モード (MODE).	887	適用業務タイプ (APPTYPE)	921
DBCS機能 (IGCFEAT).	889	装置クラス (DEVCLS)	922
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	891	活動化タイマー (ACTTMR).	922
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	893	非活動タイマー (INACTTMR)	922
データ変換プログラム (USRDTATFM)	895	SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	923
ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM).	897	SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	923
		テキスト'記述' (TEXT)	924
		権限 (AUT)	924
		例	924
		エラー・メッセージ	925
		装置記述の作成(SNPT) (CRTDEVSNPT)	927
		パラメーター	927
		装置記述 (DEVDD)	927
		ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	927
		SNAパススルー・クラス (SNPTCLS)	928
		IPL時のオンライン (ONLINE)	928
		接続される制御装置 (CTL)	928
		活動化タイマー (ACTTMR).	928
		SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	929
		SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	929
		テキスト'記述' (TEXT)	929

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	930
権限 (AUT)	930
例	931
エラー・メッセージ	931

装置記述の作成(SNUF) (CRTDEVSNUF) 933

パラメーター	933
装置記述 (DEV)	933
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	934
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	934
IPL時のオンライン (ONLINE)	934
接続される制御装置 (CTL)	934
プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)	934
特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)	935
適用業務識別コード (APPID)	935
ホスト・タイプ (HOST)	935
レコード長 (RCDLEN)	935
ブロックの長さ (BLKLEN)	936
省略時のプログラム (DFTPGM)	936
HCPエミュレーション (HCP EML)	936
テキスト'記述' (TEXT)	937
従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	937
権限 (AUT)	938
例	938
エラー・メッセージ	938

装置記述の作成 (テープ)

(CRTDEVTAP) 941

パラメーター	941
装置記述 (DEV)	941
装置タイプ (TYPE)	942
装置型式 (MODEL)	942
資源名 (RSRCNAME)	942
スイッチの設定値 (SWTSET)	943
IPL時のオンライン (ONLINE)	943
接続される制御装置 (CTL)	943
オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)	944
オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)	944
MSG 待ち行列 (MSGQ)	944
テキスト'記述' (TEXT)	945
権限 (AUT)	945
例	946
エラー・メッセージ	946

ディレクトリーの作成 (CRTDIR). 947

パラメーター	948
ディレクトリー (DIR)	948
データの共通権限 (DTAAUT)	948
オブジェクトの共通権限 (OBJAUT)	949
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	950
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	951
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	952
例	952
エラー・メッセージ	952

文書作成 (CRTDOC). 955

パラメーター	955
文書 (DOC)	955
フォルダー (FLR)	955
テキスト・プロファイル (TXTPRF)	956
文書記述 (TEXT)	956
文書明細 (DETAILS)	956
文書の編集 (EDIT)	956
出口表示画面 (EXITPNL)	956
例	957
エラー・メッセージ	957

表示装置ファイル作成 (CRTDSPF). 959

パラメーター	959
ファイル (FILE)	960
ソース・ファイル (SRCFILE)	961
ソース・メンバー(SRCMBR)	961
生成重大度レベル (GENLVL)	962
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	962
表示装置 (DEV)	962
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	963
外字 (IGCEXNCHR)	963
テキスト'記述' (TEXT)	963
ソース・リスト・オプション (OPTION)	964
装置の最大数 (MAXDEV)	964
拡張表示 (ENHDSP)	965
画面復元 (RSTDSP)	965
書き出し据え置き (DFRWRT)	965
文字識別コード (CHRID)	966
10進数形式 (DECfmt)	967
SFLENDテキスト (SFLENDTXT)	967
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	967
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	967
データ待ち行列名 (DTAQ)	968
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	968
分類順序 (SRTSEQ)	969
言語識別コード (LANGID)	969
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	970
権限 (AUT)	970
ファイルの置き換え (REPLACE)	970
例	971
エラー・メッセージ	971

配布リスト作成 (CRTDSTL) 973

パラメーター	973
リスト識別コード (LSTID)	973
リスト記述 (LSTD)	974
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	974
例	974
エラー・メッセージ	975

データ域作成 (CRTDTAARA) 977

パラメーター	978
データ域 (DTAARA)	978
タイプ (TYPE)	979
長さ (LEN)	979

初期値 (VALUE)	980
リモート・データ域 (RMTDTAARA)	980
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	980
リレーショナル・データベース (RDB)	981
APPC装置記述 (DEV)	981
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	981
モード (MODE)	981
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	982
テキスト'記述' (TEXT)	982
権限(AUT)	983
例	983
エラー・メッセージ	984

データ・ディクショナリー作成 (CRTDTADCT) 987

パラメーター	987
データ・ディクショナリー (DTADCT)	987
テキスト'記述' (TEXT)	987
権限 (AUT)	988
例	988
エラー・メッセージ	989

データ待ち行列作成 (CRTDTAQ) 991

パラメーター	991
データ待ち行列名 (DTAQ)	992
タイプ (TYPE)	992
最大項目長 (MAXLEN)	993
補助記憶域への強制書き込み (FORCE)	993
順序 (SEQ)	993
キーの長さ (KEYLEN)	993
送信元IDの組み込み (SENDERID)	994
待ち行列サイズ (SIZE)	994
自動再利用 (AUTORCL)	995
リモート・データ待ち行列 (RMTDTAQ)	995
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	995
リレーショナル・データベース (RDB)	996
APPC装置記述 (DEV)	996
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	996
モード (MODE)	997
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	997
テキスト'記述' (TEXT)	997
権限 (AUT)	998
例	998
エラー・メッセージ	999

複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ) 1001

パラメーター	1003
オブジェクト (OBJ)	1004
FROMライブラリー (FROMLIB)	1005
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	1005
TOライブラリー (TOLIB)	1006
新しいオブジェクト (NEWOBJ)	1006
複写元ASP装置 (ASPDEV)	1007
宛先ASP装置 (TOASPDEV)	1007
データの複写 (DATA)	1008
重複制約 (CST)	1008

重複トリガー (TRG)	1008
重複ファイルID (FILEID)	1009
例	1009
エラー・メッセージ	1010

編集記述作成 (CRTEDTD) 1013

パラメーター	1013
編集記述 (EDTD)	1013
整数マスク (INTMASK)	1014
小数点文字 (DECPNT)	1014
小数マスク (FRACMASK)	1015
充てん文字 (FILLCHAR)	1015
通貨記号 (CURSYM)	1015
ゼロ値の編集 (ZEROBAL)	1016
否定状況文字 (NEGSTS)	1016
肯定状況文字 (POSSTS)	1016
左の定数文字 (LFTCNS)	1017
右の定数文字 (RGTCNS)	1017
テキスト'記述' (TEXT)	1017
権限 (AUT)	1017
例	1018
エラー・メッセージ	1020

フォルダー作成 (CRTFLR) 1021

パラメーター	1021
フォルダー (FLR)	1021
フォルダー中 (INFLR)	1022
テキスト'記述' (TEXT)	1022
権限 (AUT)	1022
補助記憶域プールID (ASP)	1023
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	1023
例	1024
エラー・メッセージ	1024

ファームウェア・プロダクトの作成 (CRTFMWPRD) 1025

パラメーター	1025
プロダクト識別コード (PRDID)	1025
リリース (RLS)	1026
例	1026
エラー・メッセージ	1026

フォント資源の作成 (CRTFNTRSC) 1027

パラメーター	1027
フォント資源 (FNTRSC)	1027
ソース・ファイル (FILE)	1028
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	1028
フォント取り込み (FNTPCAPTURE)	1028
テキスト'記述' (TEXT)	1029
フォント資源の置き換え (REPLACE)	1029
権限 (AUT)	1030
例	1030
エラー・メッセージ	1031

フォント・テーブルの作成 (CRTFNNTBL) 1033

パラメーター	1034
フォント・テーブル (FNTTBL)	1034
テキスト'記述' (TEXT)	1035
権限 (AUT)	1036
例	1036
エラー・メッセージ	1036

書式定義の作成 (CRTFORMDF) 1039

パラメーター	1039
書式定義 (FORMDF)	1039
ソース・ファイル (FILE)	1040
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	1040
テキスト'記述' (TEXT)	1040
書式定義の置き換え (REPLACE)	1041
権限 (AUT)	1041
例	1042
エラー・メッセージ	1042

フィルターの作成 (CRTFTR) 1043

パラメーター	1043
フィルター (FILTER)	1043
タイプ (TYPE)	1044
テキスト'記述' (TEXT)	1044
権限 (AUT)	1044
例	1045
エラー・メッセージ	1045

クラフィックス・シンボル・セットの作成 (CRTGSS) 1047

パラメーター	1047
クラフィックス・シンボル・セット (GSS)	1048
ファイル (FILE)	1048
メンバー (MBR)	1048
テキスト'記述' (TEXT)	1048
権限 (AUT)	1049
例	1050
エラー・メッセージ	1050

ICFファイル作成 (CRTICFF) 1051

パラメーター	1051
ファイル (FILE)	1052
ソース・ファイル (SRCFILE)	1052
ソース・メンバー (SRCMBR)	1053
生成重大度レベル (GENLVL)	1053
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	1053
獲得するプログラム装置 (ACQPGMDEV)	1053
テキスト'記述' (TEXT)	1054
ソース・リスト・オプション (OPTION)	1054
プログラム装置の最大数 (MAXPGMDEV)	1055
最大レコード長 (MAXRCDLN)	1055
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	1055
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	1055
データ待ち行列名 (DTAQ)	1056
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	1056
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	1057
権限 (AUT)	1057

ファイルの置き換え (REPLACE)	1058
例	1058
エラー・メッセージ	1058

DBCS変換辞書作成 (CRTIGCDCT) 1059

パラメーター	1059
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	1059
テキスト'記述' (TEXT)	1059
権限 (AUT)	1060
例	1060
エラー・メッセージ	1061

イメージ・カタログの作成 (CRTIMGCLG) 1063

パラメーター	1064
イメージ・カタログ (IMGCLG)	1065
ディレクトリー (DIR)	1065
イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)	1065
ディレクトリーの作成 (CRTDIR)	1065
イメージカタログのインポート (IMPORT)	1066
カタログASPしきい値 (CLGASPTHLD)	1066
仮想ボリュームの追加 (ADDVRTVOL)	1067
参照イメージ・カタログ (REFIMGCLG)	1067
FILE & VOLUME名接頭部 (PREFIX)	1067
イメージ・サイズ (IMGSIZ)	1068
記憶域サイズの割り振り (ALCSTG)	1068
ボリューム・タイプ (VOLTYP)	1069
テープ密度 (DENSITY)	1069
新しい所有者識別コード (NEWOWNID)	1069
コード (CODE)	1070
テキスト'記述' (TEXT)	1070
権限 (AUT)	1070
例	1071
エラー・メッセージ	1072

ジョブ記述作成 (CRTJOB) 1073

パラメーター	1073
ジョブ記述 (JOB)	1074
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	1075
ジョブ優先順位 (JOBQでの) (JOBPTY)	1075
出力優先順位 (OUTQでの) (OUTPTY)	1075
印刷装置 (PRTDEV)	1076
出力待ち行列 (OUTQ)	1076
テキスト'記述' (TEXT)	1077
ユーザー (USER)	1077
アカウント・コード (ACGCDE)	1077
印刷テキスト (PRTTXT)	1078
経路指定データ (RTGDTA)	1078
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	1078
初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)	1079
初期ASPグループ (INLASPGRP)	1079
メッセージのロギング (LOG)	1080
CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)	1081
ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)	1081
ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)	1082

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)	1082
CL構文検査 (SYNTAX)	1083
終了重大度 (ENDSEV)	1083
照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)	1083
ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)	1084
ジョブ日付 (DATE)	1084
ジョブ・スイッチ (SWS)	1084
装置回復処置 (DEVRCYACN)	1085
タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)	1085
権限(AUT)	1085
マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)	1086
スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)	1087
DDM会話 (DDMCNV)	1087
例	1088
エラー・メッセージ	1088
ジョブ待ち行列作成 (CRTJOBQ)	1089
パラメーター	1089
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	1090
テキスト'記述' (TEXT)	1090
操作員制御 (OPRCTL)	1090
検査権限 (AUTCHK)	1090
権限(AUT)	1091
例	1091
エラー・メッセージ	1092

ジャーナル作成 (CRTJRN)	1093
パラメーター	1093
ジャーナル (JRN)	1094
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	1095
ASP番号 (ASP)	1095
ジャーナル・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	1096
レシーバーの管理 (MNGRCV)	1097
レシーバーの削除 (DLTRCV)	1098
レシーバー・サイズ・オプション (RCVSIZEOPT)	1098
項目固有のデータの最小化 (MINENTDTA)	1099
ジャーナル・キャッシング (JRNCACHE)	1100
受信側遅延時間の管理 (MNGRCVDLY)	1100
受信側遅延時間の削除 (DLTRCVDLY)	1101
固定長データ (FIXLENDTA)	1101
ジャーナル・オブジェクト限界 (JRNOBJLMT)	1102
テキスト'記述' (TEXT)	1102
権限 (AUT)	1103
例	1103
エラー・メッセージ	1104

付録. 特記事項	1107
プログラミング・インターフェース情報	1108
商標	1109
使用条件	1110
コードに関するライセンス情報および特記事項	1110

コミット (COMMIT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コミット(COMMIT)コマンドは、現行のトランザクションを完了し、コマンドを出したプログラムに対応するコミットメント定義に新しいコミットメント境界を設定するために使用されます。

コミットメント制御開始(STRCMTCTL)コマンドは、COMMITコマンドが出される前に、コミットメント定義を設定するために最初に出されなければなりません。そうでない場合には、メッセージが送られます。

COMMITコマンドが出されると、最後のコミットメント境界が開始された後でコミットメント定義のコミットメント制御のもとで資源に対して行われた保留中のすべての変更が永続的なものになります。この一連の変更に関連するコミットメントIDを指定することができます。ジャーナルに関連したファイルまたはAPIコミットメント資源がコミットメント制御のもとにある場合には、コミットメントIDが各ジャーナルのコミットされた変更(CM)ジャーナル項目に入れられます。

コミットメントIDは、活動化グループの終了時、ジョブの終了時、またはIPL（初期プログラム・ロード）の処理時に更新する必要がある場合には、通知オブジェクトの更新時にもシステムによって使用されます。

コミットが出された時に資源がコミットメント定義のコミットメント制御のもとにない場合には、エラーは起こりません。コミットメント定義のコミットメント制御のもとでオープンされたファイルに対して保留されているすべてのレコード・ロックは、コミットが出された時に解放されます。トランザクションの実行中に、資源が作成または変更された時に獲得されたオブジェクト・レベルのコミットメント制御資源のロックは、コミットが出された時に解放されます。

COMMITコマンドの詳細はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「コミットメント制御」トピック・コレクションを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMTID	コミット識別	文字値, *NONE, *LUWID	オプションル, 定位置 1

上

コミット識別 (CMTID)

コミットメント境界によってコミットされる1グループの変更を識別するために使用されるテキストを指定します。システムの異常障害が起こった場合、あるいはジョブがコミットされていない変更またはゼロ以外の完了コードで終了した場合には、このテキストはIPL処理中にSTRCMTCTLコマンドのNFYOBJパラメーターに指定されたオブジェクトに入れられます。

***NONE**

このコミットメント境界でコミットされるトランザクションを識別するために、テキストは使用されません。

***LUWID**

このコミットメント境界によってコミットしている変更グループを識別するためには、作業論理単位識別名およびこの作業論理単位の省略時のジャーナル名が使用されます。

'記述' このコミットメント境界でコミットされている変更グループを識別するために、アポストロフィで囲まれた最大3000文字を指定します。

上

例

```
COMMIT CMTID('ACCOUNT #123456 CHANGES END')
```

このコマンドは、コマンドを出したプログラムに関連したコミットメント定義に対してこの時点で行われたすべての変更がコミットされることを指定します。コミットメント識別コードは、'ACCOUNT #123456 CHANGES END'であり、活動化グループの終了時、ジョブの終了時、またはIPLの処理時に更新する必要がある場合に、通知オブジェクトの更新時にシステムによって使用されることがあります。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF5030

メンバー&4で部分的な損傷がある。

CPF509F

入出力エラーの後でジョブが正常に接続された。

CPF5104

メッセージ&7に取り消し応答を受け取った。

CPF511D

理由コード&1でパラメーター保全性エラーが起こった。

CPF5134

メンバー&4に対する要求の処理は認可されていない。

CPF5149

プログラム装置またはライブラリー&3のファイル&2のメンバー&4の操作が正しくない。

CPF5168

&2のファイル&1のメンバー&3をオープンすることができない。

CPF5169

&3のDDMファイル&2への入出力(I/O)を完了することができなかった。

CPF5173

バッファ中の&6レコードが正しくない。

CPF5235

メンバー&4の項目はジャーナル処理されなかった。

CPF5257

ライブラリー&3ファイル&2の装置またはメンバー&4に障害がある。

CPF5272

レコードはメンバー&4に追加されなかった。

CPF83DB

コミット操作の結果ロールバックとなった。

CPF83D0

コミットメント操作は使用できない。

CPF83E1

制約違反のためにコミット操作が正常に実行されなかった。

CPF83E2

ロールバック操作が必要である。

CPF835F

コミットまたはロールバック操作が正常に実行されなかった。

CPF8350

コミットメントの定義が見つからない。

CPF8363

コミット操作が正常に実行されなかった。

CPF8367

コミットメント制御操作を実行できない。

CPF9203

DDMターゲット・システムから受け取った応答&1は予期されていなかった。

CPF9255

コミットメント制御操作が正常に実行されなかった。

STATUS メッセージ*CPF5001**

ライブラリー&3にファイル&2の終わりが検出された。

CPF83E6

コミットメント制御操作が進行中の再同期化とともに完了した。

NOTIFY メッセージ*CPF5018**

メンバー&4が最大サイズとなっている。増分を使用することはできません。

CPF502A

メンバー&4で可変長レコード・エラー。

CPF502B

トリガー・プログラムでエラーが起こった。

CPF502D

メンバー&4で参照制約違反。

CPF502E

メンバー&4の参照制約を妥当性検査することができない。

CPF502F

メンバー&4に対する検査制約違反。

CPF5026

メンバー&4に重複キーを使用することはできない。

CPF5029

メンバー&4でデータ・マッピング・エラー。

CPF503A

メンバー&4で参照制約違反。

CPF503B

メンバー&4にレコードを挿入または更新することができない。

CPF503F

メンバー&4で区画キー・エラー。

CPF5030

メンバー&4で部分的な損傷がある。

CPF5033

メンバー&4で選択/除外エラー。

CPF5034

アクセス・パスでキーが重複しています。

CPF5079

このジョブのコミットメント制御の資源の限界を超えている。

CPF5084

メンバー&4に重複キーを使用することはできない。

CPF5085

基礎になっているメンバー&4のアクセス・パスでキーが重複している。

CPF5090

固有アクセス・パスの問題のためにメンバー&4を更新することができない。

CPF5097

メンバー&4でキー・マッピング・エラー。

上

オブジェクトのコピー (COPY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトのコピー (COPY)コマンドは、単一のオブジェクトまたはオブジェクト・グループをコピーします。

省略時では、ターゲット・オブジェクトがすでに存在している場合には、その個々のオブジェクトのコピーは失敗します。REPLACE(*YES)パラメーターが指定されている場合には、ターゲット・オブジェクトが書きされます。新しく作成されたオブジェクトを元のオブジェクトと同じディレクトリーに記憶する場合には、そのオブジェクトの名前を変更しなければなりません。元のオブジェクトが入っているディレクトリーとは別のディレクトリーに保管する場合には、元のオブジェクトの名前で保存することができます。

オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループをコピーすることができます。元の名前がターゲットのファイル・システムの要件を満たしていない場合には、パターンを使用してオブジェクトのグループを1つのファイル・システムから別のファイル・システムにコピーすることはできません。例えば、QOPENSYSの/OBJAという名前のファイルはディレクトリー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/FILEA.FILEにコピーすることはできません。QSYS.LIBファイル・システムでは、ファイルに書き出す時にOBJA.MBRの形式の名前が必要だからです。「名前. オブジェクト・タイプ」の要件を満たしていない場合には、パターン内で見つかったすべての名前は正常にコピーされません。

また、コピー・コマンドは、指定されたディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容がコピーされるディレクトリー・ツリーのコピーにも使用することができます。

SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、コマンドは、サブツリー内の可能な限りのオブジェクトをコピーしようとします。コピーできない各オブジェクトに対して、診断メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトの処理が行われた時、エラーがあった場合にエスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトがエラーなしでコピーされた場合には、完了メッセージが送信されます。

サブツリー・コピーは、可能な限り多くの属性をオリジナル・オブジェクトから保存しようとします。これによって、1つのファイル・システムから他のファイル・システムにデータを移行することができます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PC読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル)で、SUBTREE(*NODIR)が指定されている場合には、新たに作成されるオブジェクトは読み取り専用にはなりません。これは、OS/2階層ファイル・システム(HFS)の規則に従います。

注: ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターの値が*NONE または*ALLの場合には、PCの読み取り専用属性フラグがコピーされます。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが指定されている場合には、オブジェクトは同じ名前でのディレクトリーにコピーされます。所有者 (OWNER)パラメーターの値が*NEWの場合には、このコマンドを出したユーザーがコピーされたオブジェクトを所有します。コピーされたオブジェクトの他の権限値は、権限 (AUT)パラメーターに指定された値に従属します。

SUBTREE(*NODIR)を指定したファイルを"ルート"/(), QOPENSYS, QDLS,およびUDFSファイル・システムにコピーすると、最終アクセス日付/時刻とデータ変更日付/時刻は新しいファイルに保存され、属性変更日付/時刻は現在の時刻に更新されます。元のファイルの最終アクセス日付/時刻は現在の時刻に更新さ

れます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)にコピーすると、データの変更日付/時刻も更新されます。

注: パラメーターSUBTREE(*NODIR)が指定されている場合には、作成日付/時刻も同様に現在時刻に更新されます。

このコマンドは、オブジェクトのコピー (CPY)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CPY

コピー・コマンドの他に、ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)およびストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF)コマンドを使用して、ストリーム・ファイルとデータベース・メンバー・ファイルまたは保管ファイルの間でコピーすることができます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- コマンドは、サポートされている場合にオブジェクトの共通および専用権限をコピーします。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、System i機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- 別のオブジェクト・タイプからデータベース・ファイル・メンバーにコピーする場合、または現行ジョブのライブラリー名スペースにないメンバー相互間でコピーする場合には、一部の属性がコピーされません。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。
- データベース・メンバーを同じライブラリー名スペース内の別のメンバーにコピーする場合には、属性はファイル・コピー (CPYF)コマンドと同じように処理されます (これが適用されるのは、**データ形式 (DTAFMT)**パラメーターが***BINARY**の場合だけです)。
- コピーされるその他のオブジェクト・タイプは、複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)コマンドで属性が処理されるのと同様に処理されます (これが適用されるのは、DTAFMTパラメーターが***BINARY**の場合だけです)。
- REPLACE(*YES)オプションは、ターゲット・オブジェクトが存在する時にファイル・メンバー、ユーザー・スペース、および保管ファイルでのみサポートされます。他のすべてのオブジェクト・タイプでは、ターゲット・オブジェクトが存在すると失敗します。

QOPTファイル・システムの相違点

- QOPTファイル・システム内のファイルをコピーしている場合には、作成日付/時刻は常に現在時刻に更新されます。

QFILESVR.400ファイル・システムの相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、オブジェクトのQFILESVR.400ファイル・システムへのコピー時にはサポートされません。コピーはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。
- スキャン関連属性はコピーされません。

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)の相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、マウントされたネットワーク・ファイル・システム(NFS)ディレクトリーとの間で相互にオブジェクトをコピーする時はサポートされません。コピーはエラー・メッセージ CPFA0ADで失敗します。
- スキャン関連属性はコピーされません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, '?'	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO, *YES	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *OBJ, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, *OBJ, *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	*BINARY, *TEXT	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NODIR, *NONE, *ALL	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO, *YES	オプション
OWNER	所有者	*NEW, *KEEP	オプション
AUT	権限	*OBJ, *INDIR, *INDIROBJ	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, *OBJ, *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, *OBJ, *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

オブジェクトのパス名, またはコピーされるオブジェクトの名前を突き合わせるためのパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は, 単純名, またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ, 疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか, あるいはパターンを含んでいる場合には, パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

注: オブジェクト名のパターンを使用して複数のオブジェクトをコピーできるのは, **TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターが指定されている場合だけです。

パス名を指定するときの詳細については, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの名前規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトがコピーされる先のディレクトリーのパス名を指定します。このパラメーターを使用すると、コピーされたオブジェクトは**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されている名前と同じ名前を持ちます。

。 オブジェクトは、既存のオブジェクトと同じ名前で行ディレクトリーにコピーされます。

ディレクトリー・パス名

オブジェクトをコピーする先の既存のディレクトリーのパス名を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

TOオブジェクト (TOOBJ)

コピーされたオブジェクトの名前を指定します。これはパスまたは相対パスを含めて、新しいオブジェクトの名前です。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

シンボリック・リンク (SYMLNK)

オブジェクトとシンボリック・リンクのどちらをオブジェクトにコピーするかを指定します。

***NO** オブジェクトへのシンボリック・リンクではなく、オブジェクトがコピーされます。

***YES** コピーするオブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされる代わりに、シンボリック・リンクがコピーされます。

注: サブツリーのコピー中にシンボリック・リンクが見つかると、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされます。そのシンボリック・リンクがディレクトリーに指示されている場合には、そのディレクトリーがコピーされますが、その内容はコピーされません。ディレクトリー・ツリーの最上位ディレクトリーがディレクトリーへの事実上のシンボリック・リンクの時も、これと同様です。

上

変換元CCSID (FROMCCSID)

コピー操作のソースでコード化文字セットID (CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**FROMコード・ページ (FROMCODPAG)**または**TOコード・ページ (TOCODEPAGE)**パラメーターと共に指定できません。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105) のCCSIDを計算するには、コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのCCSIDが使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。

上

変換先CCSID (TOCCSID)

コピー操作のターゲットでデータのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されません。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**FROMコード・ページ (FROMCODPAG)**または**TOコード・ページ (TOCODEPAGE)**パラメーターと共に指定できません。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*CALC

コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させてコピーを続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSID (MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95ロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)に基づいて計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのCCSIDが使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。

上

データ形式 (DTAFMT)

コピーするファイルのデータ形式を指定します。

*BINARY

ファイルにはデータが2進数形式で入っています（例えば実行可能ファイル）。

コピー時にデータを変換しないでください。ただし、コピーするオブジェクトにソース・オブジェクトとは別のCCSIDがある場合には、設定される前に、すべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

*TEXT

ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。コピー時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データはコピー時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルにコピーされる場合には、行形式設定文字（改行、タブ、ファイルの終わりなど）は、一方のCCSIDから別のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルをデータベース・メンバーにコピーする場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていないなければ、コピーは失敗します。入っていないとコピーは正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへのコピー時に、次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク（ソース物理ファイル・メンバーの場合）またはヌル（データ物理ファイル・メンバーの場合）で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリー・サブツリーをコピーするかどうかを指定します。

*NODIR

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。オブジェクトがディレクトリーの場合、TODIRキーワードに指定されたターゲット・ディレクトリーがその中に既にソース・オブジェクトが存在するディレクトリーでないかぎり、コピーは失敗します。この場合、処置は実行されないで、正常終了メッセージが出されます。

*NONE

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがコピーされませんが、これらの内容はコピーされません。

***ALL** OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがそれらの内容、およびすべてのサブディレクトリーの内容と同様コピーされます。

省略時値のSUBTREE(*NODIR)の代わりにSUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている時には、属性のコピー方法に2, 3の違いがあります。ディレクトリー・サブツリー・コピーは、可能な限り多くのオリジナル・オブジェクトの属性を保存します。

- PC読み取り専用属性フラグは、コピーされたオブジェクトではオフになっています。SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、このフラグがコピーされます。
- SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、作成日付/時刻がコピーされます（省略時にはこれは現在時刻に変更されます）。

注：ターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトのサブディレクトリーであるか、あるいはターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトと一致する場合には、コピーは失敗します。

注：OBJパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内でのオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合にこれを置き換えるかどうかを指定します。

- *NO** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これを置き換えません。
- *YES** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。
REPLACE(*YES)がディレクトリー・オブジェクトで指定されている場合には、既存のターゲット・ディレクトリーの属性は変更されますが、そのディレクトリーにあるオブジェクトは除去されません。

上

所有者 (OWNER)

新しく作成されたオブジェクトの所有者を指定します。

- *NEW** 新規オブジェクトの所有者は、ジョブの現行ユーザー・プロファイルです。ターゲット・オブジェクトがすでに存在していて、ジョブの現行ユーザー・プロファイル以外の誰かによって所有されている場合でも、ターゲット・オブジェクトの所有者はジョブの現行ユーザー・プロファイルに変更されます。

- *KEEP**

新しいオブジェクトの所有者は、コピーする元のオブジェクトの所有者と同じです。

ファイル・システムの中には、あるオブジェクト・タイプの所有者の変更がサポートされていないものがあります。例えば、QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システム中の*MBRオブジェクトの所有者は、それらがコピーされる先の*FILEオブジェクトの所有者によって決定されます。

上

権限 (AUT)

コピーされたオブジェクトに権限情報を割り当てるために使用する方法を指定します。

- *OBJ** 複写されたオブジェクトの権限情報は、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されたオブジェクトの権限に基づきます。ターゲット・オブジェクトには、コピー元オブジェクトと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。ターゲット・ファイル・システムがこれらのすべての値の設定をサポートしない場合は、サポートされない値は無視されます。

- *INDIR**

コピーされたオブジェクトの権限情報は、オブジェクトが作成されるディレクトリーの権限に基づきます。ターゲット・オブジェクトには、それらが作成されるディレクトリーと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ、1次グループ権限、および権限リストが割り当てられます。コピーされるオブジェクトに割り当てられる監査値は、ディレクトリーのオブジェクト監査の作成値によって制御されます。ターゲット・ファイル・システムが*INDIR値をサポートしない場合は、コマンドはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合は、この値は無視され、権限情報はコピーされません。

- *INDIROBJ**

コピーされたオブジェクトの権限情報は、最初はオブジェクトが作成されるディレクトリーの権限

に基づきます。その後、**OBJ**パラメーターに指定されたオブジェクトの権限情報がターゲット・オブジェクトにコピーされます。コピーが成功すると、ディレクトリーから獲得される追加の専用権限と同様に、ターゲット・オブジェクトには、コピー元オブジェクトと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。結果の権限情報は、System iナビゲーターを使用してコピーおよび貼り付けすることによって生成されるものと同様です。

ターゲット・ファイル・システムが*INDIROBJ特殊値をサポートしない場合は、コマンドはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合は、ディレクトリーから専用権限情報はコピーされず、その結果は*OBJが指定された場合と同じになります。

上

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

コピー操作のソース用コード・ページを入手するための方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**変換元CCSID (FROMCCSID)**または**変換先CCSID (TOCCSID)**パラメーターと共に指定できません。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**と置き換えられますが、FROMCODPAGはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCH

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。

DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。

上

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

コピー操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**変換元CCSID (FROMCCSID)**または**変換先CCSID (TOCCSID)**パラメーターと共に指定できません。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、**TOCODEPAGE**パラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能な限り**TOCCSID**パラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***CALC**

コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させてコピーを続行してください。

***STDASCH**

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、**IBM PC**データ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、また**DTAFMT(*TEXT)**が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***PCASCH**

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、**MICROSOFT WINDOWS**のエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、**DTAFMT(*TEXT)**が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータを**MICROSOFT WINDOWS**アプリケーションで使用することができます。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

上

例

COPYの代替コマンド名は**CPY**です。次の例では代替コマンド名を使用していますが、**COPY**はそれらすべてで直接**CPY**に置き換えることができます。

例1:ファイルのコピー

```
CPY OBJ('DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE') TOOBJ('PAY')
```

このコマンドは、**DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE**という名前のファイルの複製である**PAY**という名前の別のファイルを作成します。

例2:別のディレクトリーへのファイルのコピー

```
CPY OBJ('PAY') TODIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリー**MYDIR**に**PAY**という名前の別のファイルを作成します。

例3:シンボリック・リンクのコピー

14 System i: プログラミング i5/OS コマンド COMMIT (コミット) ~

```
CPY OBJ('SL1') TOOBJ('YOURDIR/SL2') SYMLNK(*YES)
```

SL1がシンボリック・リンクの場合には、新しいオブジェクトYOURDIR/SL2もシンボリック・リンクです。SYMLNK(*NO)が指定されている場合には、新しいオブジェクトは、それがコピー機能の正当な候補であれば、SL1がポイントしているもののコピーとなります。

例4:変換によるコピー

```
CPY OBJ('/DATAFB')
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')
    TOCCSID(*CALC) DTAFMT(*TEXT)
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル'DATAFB'をデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'にコピーします。TOCCSID(*CALC)を指定することにより、(この場合にはQSYS.LIBファイル・システムに)コピーされるファイル・システムは、'DATAFB'と同じコード化文字セットID (CCSID)で新しいメンバーを作成しようとします。これが失敗すると(この場合には、'DATA.FILE'が'DATAFB'と同じCCSIDでないと)、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、コピーを完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

例5:ディレクトリーのサブツリーのコピー

```
CPY OBJ('/QDLS/MYINFO') TODIR('/MYFOLDER') SUBTREE(*ALL)
    OWNER(*KEEP) REPLACE(*YES)
```

*FLRオブジェクト(QDLSファイル・システムのフォルダー)は、"ルート" (/)ファイル・システムの'/MYFOLDER'ディレクトリーにパス名'/MYFOLDER/MYINFO'で作成されます。その内容もコピーされます。OWNER(*KEEP)が指定されているので、作成された新しいオブジェクトは前のオブジェクトと同じプロファイルに属します。REPLACEパラメーターを*YESに設定して、ターゲット・ファイルがすでに存在していれば、それらが上書きされます。

例6:ディレクトリーからコピーされた権限を使用した、ファイルのコピー

```
CPY OBJ('PAY') TODIR('MYDIR') AUT(*INDIR)
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRにPAYという名前の別のファイルを作成します。*PUBLIC権限、権限リスト、および1次グループ権限のようなすべての権限値が、ディレクトリーMYDIRからコピーされて、新しいファイルPAYに適用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA082

所有者のユーザー・プロファイルに対する*ADD権限が必要である。

CPFA083

オブジェクトを置き換えるための権限が不十分。オブジェクトは&1です。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BB

&1オブジェクトはコピーされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DA

オブジェクトはディレクトリーです。オブジェクトは&1です。

CPFB41E

オブジェクト・タイプは置き換えるオブジェクト・タイプと一致しなければならない。

上

著作権 (COPYRIGHT)

実行可能場所:

- バッチ ILE CL モジュール (*BMOD)
- 対話式 ILE CL モジュール (*IMOD)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

著作権(COPYRIGHT)コマンドは、CLモジュールに追加される著作権ステートメントのテキストを定義します。

制約事項:

- COPYRIGHTコマンドが有効となるのはILE CLモジュールの中だけです。
- 使用する場合には、COPYRIGHTコマンドはPGMコマンドの後で、他のコマンド(DCL, DCLF,およびDCLPRCOPTを除く) より前になければなりません。
- CLコンパイラーは1つのCOPYRIGHTコマンドしか使用しません。複数個指定した場合には、最初に見つかったものだけが使用され、追加のCOPYRIGHTステートメントに対して警告メッセージが出されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TEXT	著作権テキスト	文字値	必須, 定位置 1

上

著作権テキスト (TEXT)

このモジュールに挿入する著作権テキストを指定します。

'版權テキスト'

著作権ステートメントに使用するテキストを指定してください。このテキストは指定通りに正確に使用されます。指定できる最大長は256桁です。

上

例

例1: CLモジュールの著作権テキストの設定

```
COPYRIGHT TEXT('COPYRIGHT ACME CORP. 1995. ALL RIGHTS RESERVED.')
```

このコマンドは、作成しているモジュールの著作権テキストを指定します。このテキストは、ユーザーが当該モジュールに対して、DETAIL(*COPYRIGHT)を指定したモジュール表示(DSPMOD)コマンドを実行した時に表示されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

オブジェクトの圧縮 (CPROBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト圧縮(CPROBJ)コマンドによって、プログラム、パネル・グループ、メニュー、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、モジュール、およびサービス・プログラムを圧縮することができます。

- 圧縮されたオブジェクトとは圧縮解除されたオブジェクトより記憶域スペースを少ししか占有しないオブジェクトのことです。圧縮されたオブジェクトが使用されるか、あるいは圧縮されたプログラムが呼び出される時には、圧縮解除されたバージョンのオブジェクトが自動的にユーザーに使用可能になります。
- 圧縮解除されたオブジェクトは、それに割り振られたシステム記憶域スペースを使用し、最終的な使用可能状態になります。
- 一時的に圧縮解除したオブジェクトは圧縮済みオブジェクトの一時的な圧縮解除されたコピーです。システムまたはユーザーが一時記憶域スペースを再利用する必要があると判断するまで、システムは一時コピーに記憶域スペースを割り振ります。

次の場合に、一時記憶域は自動的に再利用されます。

- RCLTMPSTGコマンドが実行されます。
- 次の初期プログラム・ロード(IPL)が実行された。
- オブジェクトが頻繁に使用され、システムがそのオブジェクトを永続的に圧縮解除するようになる。

オブジェクトが永続的に圧縮解除された場合には、そのオブジェクトのすべての一時形式の他にオブジェクトの圧縮バージョンも破棄されます。しかし、圧縮済みバージョンは、そのオブジェクトが一時的な圧縮解除である限り元のまま残ります。

制約事項:

1. 指定されたオブジェクトに対する*OBJMGT権限およびオブジェクトが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. 記憶域を解放して保管されたオブジェクトを圧縮または圧縮解除することはできません。
3. 圧縮されたオブジェクトを、オペレーティング・システムのバージョン2リリース1より前のリリースで保管することはできません。
4. 有効な妥当性検査値のないプログラムは圧縮されません。
5. オペレーティング・システムのバージョン1リリース3以前に作成され、(プログラム変更 (CHGPGM)コマンドを使用して)再変換されていないプログラムは、妥当性検査値が生成されていないために圧縮することはできません。
6. オペレーティング・システムのバージョン3リリース6以前に作成されたプログラム、サービス・プログラム、またはモジュールは、オブジェクトを圧縮する前に再変換しなければなりません。オブジェクトはCHGPGM, CHGSRVPGM,またはCHGMODコマンドを使用して再変換してください。
7. システム・プログラムを圧縮するためには、すべての活動サブシステムを終了しなければなりません。
8. プログラムの異常終了を防止するためには、圧縮時にプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	値 (最大 6 回の繰り返し): *ALL, *FILE, *MENU, *MODULE, *PGM, *PNLGRP, *SRVPGM	必須, 定位置 2
DAYS	未使用の日数	1-366, *NONE	オプション
PGMOPT	プログラム・オプション	*ALL, *OBS	オプション

オブジェクト (OBJ)

圧縮するオブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー中の、**オブジェクト・タイプ**プロンプト (OBJTYPE パラメーター) で指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが圧縮されます。

総称*オブジェクト名

圧縮するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

オブジェクト名

圧縮するオブジェクトの名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVRxRxBx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSCR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

圧縮するオブジェクトのタイプを指定します。*ALLを指定することができるし、あるいはその他の1つまたは複数の使用できる値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前およびライブラリーのすべてのメニュー、パネル・グループ、表示装置および印刷装置ファイル、プログラム、モジュール、およびサービス・プログラムが圧縮されます。

***FILE** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つ表示装置および印刷装置ファイルが圧縮されます。

*MENU

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つメニューが圧縮されます。

*MODULE

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前およびライブラリーのモジュールが圧縮されます。

*PNLGRP

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つパネル・グループが圧縮されます。

*PGM オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つプログラムが圧縮されます。

*SRVPGM

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前およびライブラリーのサービス・プログラムが圧縮されます。

上

未使用の日数 (DAYS)

オブジェクトが使用または変更されていない日数を指定します。オブジェクトは、指定された日数より多くの日数の間、使用または変更されていない場合には圧縮されます。使用または変更された場合には、圧縮解除のままになっています。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

オブジェクトが使用または変更されていない日数に関係なく圧縮されます。

1から366

日数を指定してください。有効な値の範囲は1から366です。

上

プログラム・オプション (PGMOPT)

プログラムまたはサービス・プログラムの全体を圧縮するのか、それともプログラム識別情報テーブルだけを圧縮するのかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ALL プログラムまたはサービス・プログラムの全体 (命令ストリームおよびプログラム識別情報テーブル) が圧縮されます。

*OBS プログラム識別情報テーブルだけが圧縮されます。

上

例

```
CPROBJ OBJ(QGPL/*ALL) OBJTYPE(*FILE)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のすべての表示装置および印刷装置ファイルを圧縮します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF3B01

&2のオブジェクト&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B02

&2のファイル&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B03

圧縮されたオブジェクトはない。

CPF3B04

&1個のオブジェクトが圧縮された。&3個は圧縮されなかった。&8個は含まれなかった。

CPF3B08

&2のオブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF3B09

終了していないサブシステムがある。

CPF3B10

&2タイプ*&3のオブジェクト&1を圧縮することはできない。

CPF3B11

&2タイプ*&3のオブジェクト&1を圧縮することはできない。

CPF8108

&9の装置ファイルまたは保管ファイル&4に損傷がある。

CPF812E

&9のモジュール&4に損傷がある。

CPF8129

&9のプログラム&4に損傷がある。

CPF813D

&9のサービス・プログラム&4に損傷がある。

CPF8150

&9のパネル・グループ&4に損傷がある。

CPF8151

&9のメニュー&4に損傷がある。

CPF9570

デバッグ・データの作成またはアクセス中にエラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

オブジェクトのコピー (CPY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトのコピー (CPY)コマンドは、単一オブジェクトまたはオブジェクト・グループをコピーします。

省略時では、ターゲット・オブジェクトがすでに存在している場合には、その個々のオブジェクトのコピーは失敗します。REPLACE(*YES)パラメーターが指定されている場合には、ターゲット・オブジェクトが書きされます。新しく作成されたオブジェクトを元のオブジェクトと同じディレクトリーに記憶する場合には、そのオブジェクトの名前を変更しなければなりません。元のオブジェクトが入っているディレクトリーとは別のディレクトリーに保管する場合には、元のオブジェクトの名前で保存することができます。

オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループをコピーすることができます。元の名前がターゲットのファイル・システムの要件を満たしていない場合には、パターンを使用してオブジェクトのグループを1つのファイル・システムから別のファイル・システムにコピーすることはできません。例えば、QOPENSYSの/OBJAという名前のファイルはディレクトリー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/FILEA.FILEにコピーすることはできません。QSYS.LIBファイル・システムでは、ファイルに書き出す時にOBJA.MBRの形式の名前が必要だからです。「名前. オブジェクト・タイプ」の要件を満たしていない場合には、パターン内で見つかったすべての名前は正常にコピーされません。

また、コピー・コマンドは、指定されたディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容がコピーされるディレクトリー・ツリーのコピーにも使用することができます。

SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、コマンドは、サブツリー内の可能な限りのオブジェクトをコピーしようとします。コピーできない各オブジェクトに対して、診断メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトの処理が行われた時、エラーがあった場合にエスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトがエラーなしでコピーされた場合には、完了メッセージが送信されます。

サブツリー・コピーは、可能な限り多くの属性をオリジナル・オブジェクトから保存しようとします。これによって、1つのファイル・システムから他のファイル・システムにデータを移行することができます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PC読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル)で、SUBTREE(*NODIR)が指定されている場合には、新たに作成されるオブジェクトは読み取り専用にはなりません。これは、OS/2階層ファイル・システム(HFS)の規則に従います。

注: ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターの値が*NONE または*ALLの場合には、PCの読み取り専用属性フラグがコピーされます。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが指定されている場合には、オブジェクトは同じ名前でのディレクトリーにコピーされます。所有者 (OWNER)パラメーターの値が*NEWの場合には、このコマンドを出したユーザーがコピーされたオブジェクトを所有します。コピーされたオブジェクトの他の権限値は、権限 (AUT)パラメーターに指定された値に従属します。

SUBTREE(*NODIR)を指定したファイルを"ルート"/(), QOPENSYS, QDLS,およびUDFSファイル・システムにコピーすると、最終アクセス日付/時刻とデータ変更日付/時刻は新しいファイルに保存され、属性変更日付/時刻は現在の時刻に更新されます。元のファイルの最終アクセス日付/時刻は現在の時刻に更新さ

れます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)にコピーすると、データの変更日付/時刻も更新されます。

注: パラメーターSUBTREE(*NODIR)が指定されている場合には、作成日付/時刻も同様に現在時刻に更新されます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- COPY

CPYコマンドの他に、ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)およびストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF)コマンドを使用して、ストリーム・ファイルとデータベース・メンバー・ファイルまたは保管ファイルの間でコピーすることができます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- コマンドは、サポートされている場合にオブジェクトの共通および専用権限をコピーします。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、System i機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- 別のオブジェクト・タイプからデータベース・ファイル・メンバーにコピーする場合、または現行ジョブのライブラリー名スペースにないメンバー相互間でコピーする場合には、一部の属性がコピーされません。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。
- データベース・メンバーを同じライブラリー名スペース内の別のメンバーにコピーする場合には、属性はファイル・コピー (CPYF)コマンドと同じように処理されます (これが適用されるのは、**データ形式 (DTAFMT)**パラメーターが***BINARY**の場合だけです)。
- コピーされるその他のオブジェクト・タイプは、複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)コマンドで属性が処理されるのと同様に処理されます (これが適用されるのは、DTAFMTパラメーターが***BINARY**の場合だけです)。
- REPLACE(*YES)オプションは、ターゲット・オブジェクトが存在する時にファイル・メンバー、ユーザー・スペース、および保管ファイルでのみサポートされます。他のすべてのオブジェクト・タイプでは、ターゲット・オブジェクトが存在すると失敗します。

QOPTファイル・システムの相違点

- QOPTファイル・システム内のファイルをコピーしている場合には、作成日付/時刻は常に現在時刻に更新されます。

QFILESVR.400ファイル・システムの相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、オブジェクトのQFILESVR.400ファイル・システムへのコピー時にはサポートされません。コピーはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。
- スキャン関連属性はコピーされません。

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)の相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、マウントされたネットワーク・ファイル・システム(NFS)ディレクトリーとの間で相互にオブジェクトをコピーする時はサポートされません。コピーはエラー・メッセージ CPFA0ADで失敗します。
- スキャン関連属性はコピーされません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, '?'	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO, *YES	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *OBJ, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, *OBJ, *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	*BINARY, *TEXT	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NODIR, *NONE, *ALL	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO, *YES	オプション
OWNER	所有者	*NEW, *KEEP	オプション
AUT	権限	*OBJ, *INDIR, *INDIROBJ	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, *OBJ, *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, *OBJ, *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

オブジェクトのパス名, またはコピーされるオブジェクトの名前を突き合わせるためのパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は, 単純名, またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ, 疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか, あるいはパターンを含んでいる場合には, パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

注: オブジェクト名のパターンを使用して複数のオブジェクトをコピーできるのは, **TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターが指定されている場合だけです。

パス名を指定するときの詳細については, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの名前規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトがコピーされる先のディレクトリーのパス名を指定します。このパラメーターを使用すると、コピーされたオブジェクトは**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されている名前と同じ名前を持ちます。

。 オブジェクトは、既存のオブジェクトと同じ名前で行ディレクトリーにコピーされます。

ディレクトリー・パス名

オブジェクトをコピーする先の既存のディレクトリーのパス名を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

TOオブジェクト (TOOBJ)

コピーされたオブジェクトの名前を指定します。これはパスまたは相対パスを含めて、新しいオブジェクトの名前です。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

シンボリック・リンク (SYMLNK)

オブジェクトとシンボリック・リンクのどちらをオブジェクトにコピーするかを指定します。

***NO** オブジェクトへのシンボリック・リンクではなく、オブジェクトがコピーされます。

***YES** コピーするオブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされる代わりに、シンボリック・リンクがコピーされます。

注: サブツリーのコピー中にシンボリック・リンクが見つかると、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされます。そのシンボリック・リンクがディレクトリーに指示されている場合には、そのディレクトリーがコピーされますが、その内容はコピーされません。ディレクトリー・ツリーの最上位ディレクトリーがディレクトリーへの事実上のシンボリック・リンクの時も、これと同様です。

上

変換元CCSID (FROMCCSID)

コピー操作のソースでコード化文字セットID (CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**FROMコード・ページ (FROMCODPAG)**または**TOコード・ページ (TOCODEPAGE)**パラメーターと共に指定できません。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを計算するには、コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのCCSIDが使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。

上

変換先CCSID (TOCCSID)

コピー操作のターゲットでデータのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されません。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**FROMコード・ページ (FROMCODPAG)**または**TOコード・ページ (TOCODEPAGE)**パラメーターと共に指定できません。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*CALC

コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させてコピーを続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSID (MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95ロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)に基づいて計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのCCSIDが使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。

上

データ形式 (DTAFMT)

コピーするファイルのデータ形式を指定します。

*BINARY

ファイルにはデータが2進数形式で入っています（例えば実行可能ファイル）。

コピー時にデータを変換しないでください。ただし、コピーするオブジェクトにソース・オブジェクトとは別のCCSIDがある場合には、設定される前に、すべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

*TEXT

ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。コピー時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データはコピー時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルにコピーされる場合には、行形式設定文字（改行、タブ、ファイルの終わりなど）は、一方のCCSIDから別のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルをデータベース・メンバーにコピーする場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていないと、コピーは失敗します。入っていないとコピーは正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへのコピー時に、次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク（ソース物理ファイル・メンバーの場合）またはヌル（データ物理ファイル・メンバーの場合）で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリー・サブツリーをコピーするかどうかを指定します。

*NODIR

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。オブジェクトがディレクトリーの場合、TODIRキーワードに指定されたターゲット・ディレクトリーがその中に既にソース・オブジェクトが存在するディレクトリーでないかぎり、コピーは失敗します。この場合、処置は実行されないで、正常終了メッセージが出されます。

*NONE

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがコピーされませんが、これらの内容はコピーされません。

***ALL** OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがそれらの内容、およびすべてのサブディレクトリーの内容と同様コピーされます。

省略時値のSUBTREE(*NODIR)の代わりにSUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている時には、属性のコピー方法に2, 3の違いがあります。ディレクトリー・サブツリー・コピーは、可能な限り多くのオリジナル・オブジェクトの属性を保存します。

- PC読み取り専用属性フラグは、コピーされたオブジェクトではオフになっています。SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、このフラグがコピーされます。
- SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、作成日付/時刻がコピーされます（省略時にはこれは現在時刻に変更されます）。

注：ターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトのサブディレクトリーであるか、あるいはターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトと一致する場合には、コピーは失敗します。

注：OBJパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内でのオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合にこれを置き換えるかどうかを指定します。

- *NO** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これを置き換えません。
- *YES** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。
REPLACE(*YES)がディレクトリー・オブジェクトで指定されている場合には、既存のターゲット・ディレクトリーの属性は変更されますが、そのディレクトリーにあるオブジェクトは除去されません。

上

所有者 (OWNER)

新しく作成されたオブジェクトの所有者を指定します。

- *NEW** 新規オブジェクトの所有者は、ジョブの現行ユーザー・プロファイルです。ターゲット・オブジェクトがすでに存在していて、ジョブの現行ユーザー・プロファイル以外の誰かによって所有されている場合でも、ターゲット・オブジェクトの所有者はジョブの現行ユーザー・プロファイルに変更されます。

- *KEEP**

新しいオブジェクトの所有者は、コピーする元のオブジェクトの所有者と同じです。

ファイル・システムの中には、あるオブジェクト・タイプの所有者の変更がサポートされていないものがあります。例えば、QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システム中の*MBRオブジェクトの所有者は、それらがコピーされる先の*FILEオブジェクトの所有者によって決定されます。

上

権限 (AUT)

コピーされたオブジェクトに権限情報を割り当てるために使用する方法を指定します。

- *OBJ** 複写されたオブジェクトの権限情報は、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されたオブジェクトの権限に基づきます。ターゲット・オブジェクトには、コピー元オブジェクトと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。ターゲット・ファイル・システムがこれらのすべての値の設定をサポートしない場合は、サポートされない値は無視されます。

- *INDIR**

コピーされたオブジェクトの権限情報は、オブジェクトが作成されるディレクトリーの権限に基づきます。ターゲット・オブジェクトには、それらが作成されるディレクトリーと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ、1次グループ権限、および権限リストが割り当てられます。コピーされるオブジェクトに割り当てられる監査値は、ディレクトリーのオブジェクト監査の作成値によって制御されます。ターゲット・ファイル・システムが*INDIR値をサポートしない場合は、コマンドはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合は、この値は無視され、権限情報はコピーされません。

- *INDIROBJ**

コピーされたオブジェクトの権限情報は、最初はオブジェクトが作成されるディレクトリーの権限

に基づきます。その後、**OBJ**パラメーターに指定されたオブジェクトの権限情報がターゲット・オブジェクトにコピーされます。コピーが成功すると、ディレクトリーから獲得される追加の専用権限と同様に、ターゲット・オブジェクトには、コピー元オブジェクトと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。結果の権限情報は、System iナビゲーターを使用してコピーおよび貼り付けすることによって生成されるものと同様です。

ターゲット・ファイル・システムが*INDIROBJ特殊値をサポートしない場合は、コマンドはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合は、ディレクトリーから専用権限情報はコピーされず、その結果は*OBJが指定された場合と同じになります。

上

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

コピー操作のソース用コード・ページを入手するための方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**変換元CCSID (FROMCCSID)**または**変換先CCSID (TOCCSID)**パラメーターと共に指定できません。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**と置き換えられますが、FROMCODPAGはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCH

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。

DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。

上

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

コピー操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

このパラメーターは、**変換元CCSID (FROMCCSID)**または**変換先CCSID (TOCCSID)**パラメーターと共に指定できません。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、**TOCODEPAGE**パラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能な限り**TOCCSID**パラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***CALC**

コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させてコピーを続行してください。

***STDASCII**

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、**IBM PC**データ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、また**DTAFMT(*TEXT)**が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***PCASCII**

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、**MICROSOFT WINDOWS**のエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、**DTAFMT(*TEXT)**が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータを**MICROSOFT WINDOWS**アプリケーションで使用することができます。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

上

例

例1:ファイルのコピー

```
CPY OBJ('DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE') TOOBJ('PAY')
```

このコマンドは、**DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE**という名前のファイルの複製である**PAY**という名前の別のファイルを作成します。

例2:別のディレクトリーへのファイルのコピー

```
CPY OBJ('PAY') TODIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリー**MYDIR**に**PAY**という名前の別のファイルを作成します。

例3:シンボリック・リンクのコピー

```
CPY OBJ('SL1') TOOBJ('YOURDIR/SL2') SYMLNK(*YES)
```


SL1がシンボリック・リンクの場合には、新しいオブジェクトYOURDIR/SL2もシンボリック・リンクです。SYMLNK(*NO)が指定されている場合には、新しいオブジェクトは、それがコピー機能の正当な候補であれば、SL1がポイントしているもののコピーとなります。

例4:変換によるコピー

```
CPY OBJ('/DATAFB')
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')
    TOCCSID(*CALC) DTAFMT(*TEXT)
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル'DATAFB'をデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'にコピーします。TOCCSID(*CALC)を指定することにより、（この場合にはQSYS.LIBファイル・システムに）コピーされるファイル・システムは、'/DATAFB'と同じコード化文字セットID (CCSID)で新しいメンバーを作成しようとしています。これが失敗すると（この場合には、'DATA.FILE'が'DATAFB'と同じCCSIDでないと）、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、コピーを完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

例5:ディレクトリーのサブツリーのコピー

```
CPY OBJ('/QDLS/MYINFO') TODIR('/MYFOLDER') SUBTREE(*ALL)
    OWNER(*KEEP) REPLACE(*YES)
```

*FLRオブジェクト(QDLSファイル・システムのフォルダー)は、"ルート" (/)ファイル・システムの'/MYFOLDER'ディレクトリーにパス名'/MYFOLDER/MYINFO'で作成されます。その内容もコピーされます。OWNER(*KEEP)が指定されているので、作成された新しいオブジェクトは前のオブジェクトと同じプロファイルに属します。REPLACEパラメーターを*YESに設定して、ターゲット・ファイルがすでに存在していれば、それらが上書きされます。

例6:ディレクトリーからコピーされた権限を使用した、ファイルのコピー

```
CPY OBJ('PAY') TODIR('MYDIR') AUT(*INDIR)
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRにPAYという名前の別のファイルを作成します。*PUBLIC権限、権限リスト、および1次グループ権限のようなすべての権限値が、ディレクトリーMYDIRからコピーされて、新しいファイルPAYに適用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA082

所有者のユーザー・プロファイルに対する*ADD権限が必要である。

CPFA083

オブジェクトを置き換えるための権限が不十分。オブジェクトは&1です。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BB

&1オブジェクトはコピーされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DA

オブジェクトはディレクトリーです。オブジェクトは&1です。

CPFB41E

オブジェクト・タイプは置き換えるオブジェクト・タイプと一致しなければならない。

上

監査ジャーナル項目のコピー (CPYAUDJRNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

監査ジャーナル項目コピー(CPYAUDJRNE)コマンドによって、機密保護監査レコードを機密保護監査ジャーナル(QAUDJRN)から1つ以上の出力ファイルにコピーすることができます。選択された各監査項目タイプが、別個の出力ファイルにコピーされます。

出力ファイルにコピーされた監査ジャーナル項目を表示するには、QUERY実行(RUNQRY)コマンドを使用して、レコードを列見出し付きで表示することができます。CPYAUDJRNEとそれに続くRUNQRYの組み合わせによって、監査ジャーナル項目表示(DSPAUDJRNE)コマンドと類似の機能が提供されますが、次のような利点があります。

- すべてのジャーナル項目タイプがサポートされます。
- すべての監査ジャーナル項目フィールドがコピーされ、使用可能になります。

可能なすべての監査項目については、「System i機密保護解説書(SD88-5027)」の第9章を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、*AUDIT特殊権限を持っていないければなりません。
2. 指定されたライブラリー中に新規出力ファイルを作成するために、そのファイルに対する*EXECUTEおよび*ADD権限を持っていないければなりません。
3. 既存の出力ファイル中のメンバーを追加または更新するために、*OBJOPR、*OBJMGT、*ADD、*DLT権限を持っていないければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ENTTYP	ジャーナル項目タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 74 回の繰り返し): AD, <u>AF</u> , AP, AU, CA, CD, CO, CP, CQ, CU, CV, CY, DI, DO, DS, EV, GR, GS, IM, IP, IS, JD, JS, KF, LD, ML, NA, ND, NE, OM, OR, OW, O1, O2, O3, PA, PG, PO, PS, PW, RA, RJ, RO, RP, RQ, RU, RZ, SD, SE, SF, SG, SK, SM, SO, ST, SV, VA, VC, VF, VL, VN, VO, VP, VR, VS, VU, VV, XD, X0, X1, YC, YR, ZC, ZR	オプション、定位置 1

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTFILE	出力ファイル接頭部	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ファイル接頭部	名前, <u>QAUDIT</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QTEMP</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, <u>*ALL</u>	オプション
JRNRCV	検索されたジャーナル・レシーバー	単一値: <u>*CURRENT</u> , *CURCHAIN その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FROMTIME	開始日および時刻	単一値: <u>*FIRST</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOTIME	終了日および時刻	単一値: <u>*LAST</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	

上

ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)

出力ファイルにコピーするジャーナル項目タイプを指定します。

単一値

***ALL** すべての監査レコード項目タイプが選択されます。

項目タイプ (最大74個指定可能)

- AF** 権限傷害
- AD** 監査の変更
- AP** 借用権限の取得
- AU** 属性の変更

CA	変更権限
CD	コマンド・ストリング
CO	オブジェクトの作成
CP	ユーザー・プロファイルの変更
CQ	*CRQDオブジェクトの変更
CU	クラスター管理操作
CV	接続検査
CY	暗号構成
DI	ディレクトリー・サービス
DO	オブジェクトの削除
DS	DST機密保護パスワードのリセット
EV	環境変数操作
GR	総称レコード
GS	ソケット記述子が別のジョブに指定された
IM	侵入モニター
IP	プロセス間通信
IS	インターネット機密保護管理
JD	ジョブ記述のユーザー・パラメーターへの変更
JS	ジョブに対する処置項目
KF	鍵リング・ファイル
LD	ディレクトリー項目のリンク、リンク解除、またはルックアップ
ML	オフィス・サービス・メール処置
NA	ネットワーク属性が変更された
ND	ディレクトリー検索フィルター違反
NE	末端地点フィルター違反
OM	オブジェクト移動または名前変更
OR	オブジェクトが復元された
OW	オブジェクト所有権が変更された
O1	(光ディスク・アクセス) 単一ファイルまたはディレクトリー
O2	(光ディスク・アクセス) 複式ファイルまたはディレクトリー
O3	(光ディスク・アクセス) ボリューム
PA	プログラムが借用権限に変更された
PG	オブジェクトの基本グループの変更
PO	印刷出力項目
PS	プロファイル・スワップ
PW	正しくないパスワード項目

RA	復元時の権限の変更
RJ	指定されたユーザー・プロファイルによるジョブ記述の復元
RO	復元時のオブジェクト所有者の変更
RP	借用権限プログラムの復元
RQ	*CRQDオブジェクトの復元
RU	ユーザー・プロファイル権限の復元
RZ	復元時の基本グループの変更
SD	システム配布ディレクトリーへの変更
SE	サブシステム・ルーティング項目が変更された
SF	スプール・ファイルでの処置項目
SG	非同期シグナル
SK	セキュア・ソケット接続
SM	システム管理の変更
SO	サーバー機密保護ユーザー情報処置
ST	保守ツールの使用
SV	システム値変更項目
VA	アクセス制御リストの変更
VC	接続の開始または終了
VF	サーバー・ファイルのクローズ
VL	アカウント限界を超えた
VN	ネットワークのログオン/ログオフ
VO	妥当性検査リスト処置
VP	ネットワーク・パスワード・エラー
VR	ネットワーク資源のアクセス
VS	サーバー・セッションの開始または終了
VU	ネットワーク・プロファイルの変更
VV	サービス状況の変更
XD	ディレクトリー・サービス拡張機能
X0	ネットワーク認証
X1	識別トークン
YC	DLOオブジェクト変更項目
YR	DLOオブジェクト読み取り項目
ZC	オブジェクト変更項目
ZR	オブジェクト読み取り項目

上

出力ファイル接頭部 (OUTFILE)

コマンドの出力が送られる各データベース・ファイルの接頭部を指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにファイルを作成します。このコマンドによって出力ファイルが作成される場合には、そのファイルの共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

修飾子1: 出力ファイル接頭部

QAUDIT

各出力データベース・ファイル名は「QAUDIT」で始まり、監査項目タイプが追加されて、完全なファイル名を構成します。例えば、ENTTYP(ZR)が指定された場合には、QAUDITZRがファイル名となります。

名前の接頭部

監査項目がコピーされる各データベース・ファイルの名前の先頭の1から8文字を指定します。この名前の接頭部に監査項目タイプが追加されて、完全なデータベース・ファイル名を構成します。例えば、FEB2004が名前の接頭部として指定され、ENTTYP(AF)が指定された場合には、使用されるデータベース・ファイル名はFEB2004AFです。

修飾子2: ライブラリー

QTEMP

ファイルを見つけるために、ジョブのQTEMPライブラリーが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定され、ファイルにメンバーが存在していない場合に、システムは、出力ファイル接頭部 (OUTFILE)およびジャーナル項目タイプ (ENTTYP)パラメーターから生成されたファイルの名前を持つメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

出力ファイルに組み込むユーザー・プロファイルのジャーナル項目を指定します。

***ALL** 出力ファイルには、すべてのユーザー・プロファイルの項目が入れられます。

名前 ジャーナル項目を出力ファイルにコピーするユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

検索されたジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

ジャーナル項目が検索される開始（最初の）および終了（最後の）ジャーナル・レシーバーを指定します。

注: この範囲内のレシーバーの最大数(256)を超えた場合には、エラーが起こり、ジャーナル項目はコピーされません。

単一値

***CURRENT**

現在接続されているジャーナル・レシーバーのジャーナル項目が検索されます。

***CURCHAIN**

現在接続されているジャーナル・レシーバーの連鎖内のジャーナル項目が検索されます。この連鎖内に中断がある場合には、レシーバー範囲はその連鎖中の最新の中断から、ジャーナル項目の変換を開始した時に接続されたレシーバーまでとなります。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

名前 項目が検索される最初のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

単一値

*CURRENT

現在接続されているジャーナル・レシーバーが終了ジャーナル・レシーバーとして使用されます。

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

名前 項目が検索される最後のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

開始日および時刻 (FROMTIME)

検索する最初のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。

単一値

*FIRST

検索がジャーナル・レシーバーの最初のレコードで開始されることを指定します。

要素1: 開始日付

日付 開始日を指定してください。指定された開始日および時刻以降に発生する最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索される項目の範囲の開始点になります。

要素2: 開始時刻

時刻 開始時刻を指定してください。指定された開始日および時刻以降に発生する最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索される項目の範囲の開始点になります。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

終了日および時刻 (TOTIME)

検索する最後のジャーナル項目の作成日および時刻を指定します。

単一値

*LAST

検索がジャーナル・レシーバーの最後のレコードで終了することを指定します。

要素1: 終了日付

日付 終了日を指定してください。指定された終了日の指定された終了時刻以前に発生する最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索される項目の範囲の終了点になります。

要素2: 終了時刻

時刻 終了時刻を指定してください。指定された終了日の指定された終了時刻以前に発生する最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索される項目の範囲の終了点になります。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

例

例1:権限障害(AF)レコードのコピー

```
CPYAUDJRNE ENTYP(AF)
```

このコマンドは、現行ジャーナル・レシーバーのすべての「権限障害」監査レコードをコピーし、それらをデータベース・ファイルQTEMP/QAUDITAFのメンバーQAUDITAFに書き込みます。

コピーされた監査レコードは、次のようなRUNQRYコマンドによって表示することができます。

```
RUNQRY QRY(*NONE) QRYFILE((QTEMP/QAUDITAF))
```

例2: 2つの項目タイプのコピー

```
CPYAUDJRNE ENTYP(CO DO) OUTFILE(AUDITLIB/SYSTEM1)
```

このコマンドは、現行ジャーナル・レシーバーのすべての「オブジェクトの作成」および「オブジェクトの削除」監査レコードをコピーし、それらをそれぞれデータベース・ファイルAUDITLIB/SYSTEM1COおよびAUDITLIB/SYSTEM1DOに書き込みます。

コピーされた監査レコードは、次のようなRUNQRYコマンドによって表示することができます。

```
RUNQRY QRY(*NONE) QRYFILE((AUDITLIB/SYSTEM1CO))  
OUTTYPE(*DISPLAY) OUTFORM(*RUNOPT)
```

```
RUNQRY  QRY(*NONE) QRYFILE((AUDITLIB/SYSTEM1D0))
        OUTTYPE(*DISPLAY) OUTFORM(*RUNOPT)
```

例3:すべての項目タイプのコピー

```
CPYAUDJRNE  ENTTP(*ALL) OUTFILE(SAVEAUDIT/JUNE)
            OUTMBR(SMITHJ *REPLACE) USRPRF(SMITHJ)
            JRNRCV(*CURCHAIN)
            FROMTIME('06/01/2004' '00:00:00')
            TOTIME('07/01/2004' '00:00:00')
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルSMITHJに関するすべての監査項目を、JUNEXXのような名前（ここで、XXは監査レコードの項目タイプです）を持つライブラリーSAVEAUDITのデータベース・ファイルのセットにコピーします。監査レコードの検索は、現在のジャーナル・レシーバーの連鎖内のすべてのジャーナル・レシーバーについて実行されます。2004年6月1日の深夜12時から2004年7月1日の深夜12時までの間に書き込まれた監査レコードだけがコピーされます。

注: このコマンドの実行は非常に長時間を要する場合があります。それぞれの監査レコードの項目タイプごとに、ジャーナル・レシーバーの連鎖全体が繰り返し検索されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF303

QAUDJRNからのデータにアクセスできない。

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

CPF30A

レコード様式名&2が予想された名前&1と一致していません。

CPF4AA4

一部のENTTP値のレコードがコピーされていません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

構成リスト・コピー (CPYCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト・コピー(CPYCFGL)コマンドにより、既存の構成リストのコピーとして構成リストが作成されます。

注: 非同期ネットワーク・アドレス・リストだけが、コピーすることのできる唯一のタイプの構成リストです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMCFGL	取り出し構成リスト	名前	必須, 定位置 1
CFGL	構成リスト	名前	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	*CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

取り出し構成リスト (FROMCFGL)

コピー元になる構成リストを指定します。

コピー元構成リスト

コピー元にした構成リストを指定してください。

上

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。

作成リスト

作成したい構成リストを指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

上

例

```
CPYCFGL FROMCFGL(CONFIG01) CFGL(CONFIG02)
```

このコマンドは、CONFIG01という名前の構成リストを新しいCONFIG02という名前の構成リストにコピーします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF260D

構成リスト&1はすでに存在している。

CPF260E

構成リスト&1は作成されなかった。

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF2612

リスト・タイプ&1はコピー操作には正しくない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

上

文書コピー (CPYDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書コピー(CPYDOC)コマンドによって、あるフォルダーから別のフォルダーに文書をコピーするか、あるいはフォルダー内にない文書をフォルダーにコピーすることができます。

制約事項:

- フォルダー内の文書を置き換える場合には、その文書に対して変更(*CHANGE)権限がなければなりません。
- フォルダー内に新しい文書を作成する場合には、そのフォルダーに対して*CHANGE 権限が必要です。新しい文書は、コピー元の文書と同じ権限をもつことになります。
- コピーしている文書に対して使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMDOC	取り出し文書	文字値, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
TODOC	受け取り文書	文字値, *FROMDOC	オプション, 定位置 3
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値, *FROMFLR	オプション, 定位置 4
REPLACE	文書置き換え	*NO, *YES	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

上

取り出し文書 (FROMDOC)

コピー中の文書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 コピーされる文書の名前を指定してください。

FROMDOC(NAME)が指定された場合には、FROMFLRにフォルダー名を指定しなければなりません。

*SYSOBJNAM

コピーされる文書を識別するために、システム・オブジェクト名が使用されます。

FROMDOC(*SYSOBJNAM)が指定された場合には、SYSOBJNAM(NAME), TODOC(NAME)およびTOFLR(NAME)も指定しなければなりません。

取り出しフォルダー (FROMFLR)

コピーされる文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

文書のフォルダー名は指定されません。文書がフォルダー内には、FROMFLR(*NONE)を指定しなければなりません。FROMDOC(NAME)が指定された場合には、FROMFLR(*NONE)を指定することはできません。

名前 コピーされる文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。

受け取り文書 (TODOC)

出力文書名を指定します。

*FROMDOC

出力文書名は、**取り出し文書 (FROMDOC)**パラメーターに指定されたものと同じです。TODOC(*FROMDOC)が指定された場合には、TOFLR(*FROMFLR)を指定することはできません。

名前 出力文書名を指定します。

FROMDOC(*SYSOBJNAME)が指定された場合には、TODOC(NAME)を指定しなければなりません。

受け取りフォルダー (TOFLR)

出力文書をコピーするフォルダーを指定します。

*FROMFLR

フォルダー名は**取り出しフォルダー (FROMFLR)**パラメーターに指定されたものと同じです。すなわち、文書は同じフォルダーにコピーされます。

名前 文書がコピーされるフォルダーの名前を指定してください。

FROMDOC(*SYSOBJNAME)が指定された場合には、TOFLR(NAME)を指定しなければなりません。

文書置き換え (REPLACE)

TODOCに指定された文書を置き換えることができるかどうかを指定します。

*NO

出力文書は、**受け取りフォルダー (TOFLR)**パラメーターに指定されたフォルダー内に作成された新しい文書です。フォルダー内に同じ名前の文書がすでに存在している場合には、コピーは行われません。

***YES** 出力文書は、TOFLRパラメーターに指定されたフォルダー内の同じ名前の既存の文書と置き換えられます。フォルダー内に同じ名前の文書が存在していない場合には、新しい文書が作成されます。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)が指定された場合だけです。

名前 コピーされる文書のシステム・オブジェクト名を指定します。10桁全部を指定しなければなりません。

上

例

例1:文書のコピー

```
CPYDOC FROMDOC(MYDOC) FROMFLR(MYFLR)
        TODOC(MYDOC2) TOFLR(MYFLR2)
        REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内にある文書MYDOCをフォルダーMYFLR2内にある文書MYDOC2にコピーします。文書MYDOC2がMYFLR2内にすでにある場合は、システムはその文書を文書MYDOCのコピーによって置き換えます。そうでない場合は、MYDOC2がMYFLR2内にMYFLR内のMYDOCのコピーとして作成されます。

例2:文書のコピーおよびソース文書名の保持

```
CPYDOC FROMDOC(*SYSOBJNAM) SYSOBJNAM(AMBT133080)
        TODOC(MYDOC4) TOFLR(MYFLR)
```

このコマンドは、システム・オブジェクト名で識別された文書を、フォルダーMYFLR内にある文書MYDOC4にコピーします。文書名はソース文書の名前と同じになります。

例3:文書の同一フォルダー内の文書へのコピー

```
CPYDOC FROMDOC(XYZ) FROMFLR('MYFLR/TEST') TODOC(NEW)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR/TEST内にある文書XYZを同じフォルダー内の文書NEWにコピーします。文書NEWが存在している場合は、エラー・メッセージが送信されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A12

フォルダー&1の文書&2はコピーされなかった。

上

ファイル・コピー (CPYF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル・コピー(CPYF)コマンドは、すべてまたは一部のファイルをデータベースまたは外部装置からデータベースまたは外部装置にコピーします。このコマンドは次のことを行うことができます。

- データベース・ファイル相互間でデータ・ファイルおよびソース・ファイルをコピーします。レコードは、物理ファイルまたは論理ファイル から コピーすることができます。ただし、レコードは、物理ファイル へ だけコピーすることができ、論理ファイル へ コピーすることはできません。
- データおよびソース・ファイルを、ディスクまたはテープなどの外部装置からデータベースにコピーします。
- データおよびソース・ファイルを、データベースから外部装置へコピーします。
- データ・ファイルおよびソース・ファイルを、外部装置から他の外部装置にコピーします。
- データ・ファイルおよびソース・ファイルをインライン・データ・ファイルからデータベースまたは外部装置へコピーします。

制約事項:

- CPYF要求の実行中には、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに指定されたファイルは、アクセスが可能でなくなるようにロックされることがあります (タイムアウトのない*EXCLロックと類似している)。
- CRTFILE(*YES)パラメーターが指定され、コピーされるファイル (FROMFILEパラメーター) が関連したトリガーをもつ時には、作成されるファイル (TOFILEパラメーター) は関連したトリガーをもちません。物理ファイル・トリガー追加(ADDPFTRG)コマンドを使用して、ファイルにトリガーを追加しなければなりません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、複数のデータベース・ファイル・メンバー、装置ファイル(SPOOL(*YES)印刷ファイル)、分散ファイル、またはSNAタイプのDDMファイルとのコピー時に、このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、*SNAタイプのリレーショナル・データベースおよび*SNAタイプのDDMファイルを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。スレッド・セーフであるのは、単一のデータベース・ファイル・メンバー (ローカルまたは*IPタイプのDDM)あるいはSPOOL(*YES)印刷ファイルとのコピー時だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
TOMBR	TOメンバーまたはラベル	名前, *FIRST, *FROMMBR, *ALL	オプション, 定位置 4
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*NONE, *ADD, *REPLACE, *UPDADD	オプション, 定位置 5
CRTFILE	ファイル作成	*NO, *YES	オプション, 定位置 6
OUTFMT	印刷形式	*CHAR, *HEX	オプション
PRINT	印刷するレコード	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *EXCLD, *COPIED, *ERROR	オプション
RCDFMT	論理ファイルのレコード様式	名前, *ONLY, *ALL	オプション
FROMRCD	コピー開始レコード番号	符号なし整数, *START	オプション
TORCD	コピー終了レコード番号	符号なし整数, *END	オプション
FROMKEY	コピー開始レコード・キー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: キー・フィールドの数	整数, *BLDKEY	
	要素 2: キーの値	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	
TOKEY	コピー終了レコード・キー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: キー・フィールドの数	整数, *BLDKEY	
	要素 2: キーの値	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	
NBRRCDS	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション
INCCHAR	文字テストによるレコード組込	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド	名前, *RCD, *FLD	
	要素 2: 文字位置	整数	
	要素 3: 比較演算子	*EQ, *GT, *LT, *NE, *GE, *NL, *LE, *NG, *CT	
	要素 4: 値	文字値	
INCREL	フィールド・テストでレコードの組込	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 関係	*IF, *AND, *OR	
	要素 2: フィールド	名前	
	要素 3: 比較演算子	*EQ, *GT, *LT, *NE, *GE, *NL, *LE, *NG	
	要素 4: 値	文字値, *NULL	

キーワード	記述	選択項目	ノート
FMTOPT	レコード様式フィールドのマッピング	単一値: *NONE , *NOCHK, *CVTSRC その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *MAP, *DROP, *CVTFLOAT, *NULLFLAGS	オプション
SRCOPT	ソース更新オプション	単一値: *SAME その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SEQNBR, *DATE	オプション
SRCSEQ	ソース・ステートメントの順序番号付け	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	0.01-9999.99, 1.00	
	要素 2: 増分番号	0.01-9999.99, 1.00	
ERRLVL	許容エラー	符号なし整数, 0 , *NOMAX	オプション
COMPRESS	削除済みレコードの圧縮	*YES , *NO	オプション

上

FROMファイル (FROMFILE)

コピーされるレコードが入っているデータベース・ファイルまたは装置ファイルを指定します。データベース・ファイルは物理ファイルまたは論理ファイルとすることができます。装置ファイルはディスク・ファイルまたはテープ・ファイルとすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: FROMファイル

名前 コピーするレコードが入っているデータベース・ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データベース・ファイルまたは装置ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: 装置ファイルはディスク・ファイル, テープ・ファイル, または印刷装置ファイルにすることができます。ただし, (1)取り出しファイルと受け入れファイルの両方がディスク・ファイルである場合には, 受け入れファイルはスプールされなければなりません (ディスク装置ファイル作成(CRTDKTF)コマンド, ディスク装置ファイル変更(CHGDKTF)コマンド, またはディスク装置ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンドにSPOOL(*YES)が指定されていなければならない)。 (2)外部記述印刷装置ファイルを指定することはできません。

装置ファイルが印刷ファイルの場合, あるいはTOFILE(*PRINT)が指定された場合には, シフトアウトおよびシフトイン(SO-SI)文字は図形データには追加されません。OUTFMT(*HEX)を指定して, 16進数形式でデータを印刷することができます。

単一値

*PRINT

データは, システム印刷装置ファイル(QSYSPRT)にコピーされ, **印刷形式 (OUTFMT)**パラメータに指定された値にしたがって様式設定されます。

修飾子1: TOファイル

名前 コピーされるレコードを受け入れる物理ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

物理ファイルまたは装置ファイルを見つけるために, ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には, QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

FROMメンバー (FROMMBR)

コピーされる取り出しファイル中のデータベース・ファイル・メンバー, あるいはディスク・ファイル・ラベルまたはテープ・ファイル・ラベルを指定します。

*FIRST

データベース取り出しファイルの最初のメンバーがコピーされます。ディスクの場合には, 装置ファイルまたはディスク・ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンドにラベルIDを指定しなければなりません。取り出しファイルがインライン・ファイルである場合には, 指定できる値は *FIRSTだけです。

***ALL** データベース取り出しファイルのすべてのメンバー, あるいはディスク取り出しファイルのすべてのファイル・ラベルIDがコピーされます。テープ・ファイルまたはインライン・ファイルの場合には, *ALLは正しくありません。

名前 コピーされるデータベース取り出しファイル・メンバーの名前, あるいはファイル・メンバーのディスク取り出しファイル・ラベルまたはテープ取り出しファイル・ラベルを指定してください。

総称名 同じ接頭部の名前をもつすべてのデータベース・ファイル・メンバー, あるいは同じ接頭部ラベル

IDをもつすべてのディスク・データ・ファイルをコピーするためには、総称名を指定してください。多くの取り出しファイル・メンバーまたはラベルIDのコピーの詳細については、FROMMBR(*ALL)の説明を参照してください。

上

TOメンバーまたはラベル (TOMBR)

コピー済みデータ・レコードを受け取る受け入れファイル・メンバーのデータベース・ファイル・メンバー名、あるいはディスク・ファイルまたはテープ・ファイルのラベルIDを指定します。TOファイル (TOFILE)パラメーターに*PRINTを指定した場合には、このパラメーターに*FIRSTまたは*FROMMBRのいずれかを指定しなければなりません。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

*FROMMBR

対応する取り出しファイルおよび受け入れファイルのメンバー名または装置ラベルIDが使用されます。

***ALL** データは区画に分割されたテーブルの適切な受け入れメンバーにコピーされます。*ALLが有効となるのは、区画に分割されたテーブルの場合だけです。

名前 物理受け入れファイル・メンバーの名前、またはコピー済みレコードを受け取るディスクまたはテープ装置受け入れファイルのラベルIDを指定してください。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

注: レコードが既存の物理ファイルにコピーされている場合には、このパラメーターに*ADD, *UPDADD, または*REPLACEを指定しなければなりません。受け入れファイルは存在しないが、CRTFILE(*YES)が指定された場合には、コピー操作では、このパラメーターに指定された値とは関係なく、それが作成された後にそのファイルにコピーされるすべてのレコードに対してMBROPT(*ADD)と見なされます。

*ADDまたは*UPDADDが指定され、FROMファイルが空であった(レコードが含まれていない)場合には、コピー操作は正常に完了します。*REPLACEが指定され、FROMファイルが空であった場合には、コピー操作は異常終了します。

*NONE

パラメーターはこのコピー操作には適用されません。受け入れファイルが既存の物理ファイルである場合には*NONEは使用できません。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

*UPDADD

システムは、キーが重複しているレコードを更新し、新しいレコードを既存のレコードの終わりに

追加します。使用可能な詳細説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリを参照してください。

上

ファイル作成 (CRTFILE)

このコマンドを物理ファイルまたは論理ファイルからのコピーに使用する時に、指定した受け入れファイルが存在していない場合にデータを受け取る物理ファイルを作成するかどうかを指定します。受け入れファイルが、存在していないリモート・ファイルを識別する分散データ管理(DDM)ファイルの場合には、受け入れファイルはターゲット・システム上に作成されます。

***NO** このコマンドが開始される時には、受け入れファイルが存在していなければなりません。データを受け取るための物理ファイルは作成されません。

***YES** 受け入れファイルが存在していない場合には、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに指定された名前の物理ファイルが作成されます。取り出しファイルがSQLテーブル、ビュー、または索引であり、ユーザー定義のタイプ、データ・リンク、またはLOBフィールド・タイプが入っている場合には、作成された物理ファイルがSQLテーブルになります。他のすべてのインスタンスでは、作成された受け入れファイルはSQLテーブルではないデータベース物理ファイルになります。コピー操作で受け入れファイルを作成するには、通常のコピー操作の妥当性検査に加えて、次の特殊な条件がすべて満たされなければなりません。

- 取り出しファイルは物理ファイルまたは論理ファイルでなければなりません。
- **TOファイル (TOFILE)**パラメーターにライブラリー名を指定しなければなりません。省略時の値*LIBLは使用することはできません。
- 別のファイル名またはライブラリー名への一時変更があってはなりません。受け入れファイルについては、このコマンドに指定した値を使用しなければなりません。
- このコマンド実行するユーザーは、ファイルを受け入れファイル・ライブラリーに追加するための権限とともに、物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対する操作権限が必要です。
- 取り出しファイルでは単一のレコード様式が使用されていないなければなりません。取り出しファイルが複数様式の論理ファイルである場合には、**論理ファイルのレコード様式 (RCDFMT)**パラメーターにレコード様式名を指定しなければなりません。

上

印刷形式 (OUTFMT)

レコードを文字形式で印刷するか、あるいは文字および16進数形式の両方で印刷するかどうかを指定します。このパラメーターが使用されるのは、*PRINTが**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに指定された場合、あるいは*EXCLDまたは*COPIEDが**印刷するレコード (PRINT)**パラメーターに指定された場合だけです。

***CHAR**

レコードは文字形式で印刷されます。

***HEX** レコードは、文字形式および16進数形式の両方で印刷されます。

上

印刷するレコード (PRINT)

コピーされたレコードを印刷するか、除外されたレコードを印刷するか、あるいはその両方を印刷するかを指定します。

単一値

*NONE

コピーされたレコード、除外されたレコード、またはエラー・レコードは印刷されません。

その他の値 (最大3個指定可能)

*EXCLD

文字テストによるレコード組込 (**INCCHAR**)パラメーターおよび フィールド・テストでレコードの組込 (**INCREL**)パラメーターによるコピー操作から除外されたレコードが印刷されます。

*COPIED

コピーされたレコードが印刷されます。

*ERROR

許容エラー (**ERRLVL**)パラメーターに指定された数の回復可能な出力エラー・レコードが印刷されます。

上

論理ファイルのレコード様式 (RCDFMT)

データベース・ファイルからのコピーの場合にかぎり、コピーされるレコードのレコード様式名を指定します。取り出しファイルが論理ファイルまたは物理ファイルでない場合には、指定できる値は***ONLY**だけです。論理ファイルのレコード様式が1つだけの場合には、レコード様式名は任意指定ですが、取り出しファイルに複数のレコード様式がある場合には、様式名または***ALL**を指定しなければなりません。

*ONLY

取り出しファイルの唯一のレコード様式がコピーされます。取り出しファイルが論理ファイルである場合には、この値が使用できるのはそのファイルにレコード様式が1つしかない場合だけです。

***ALL** 取り出し論理ファイル内のすべてのレコード様式が使用されます。

名前 取り出しファイルが論理ファイルまたは物理ファイルである時には、コピーされるレコード様式の名前を指定してください。

上

コピー開始レコード番号 (FROMRCD)

コピーを開始するレコードのレコード番号を指定します。***NONE**以外の値が**コピー開始レコード・キー (FROMKEY)**パラメーターまたは**コピー終了レコード・キー (TOKEY)**パラメーターに指定された場合には、レコード番号は有効ではなく、また、取り出しファイルがキー付き論理ファイルである場合にも、これは使用できません。

*FIRST

コピー操作は、ファイルの最初のレコードから始められます。

1から4294967288

取り出しファイルからコピーする最初のレコードのレコード番号を指定します。

上

コピー終了レコード番号 (TORCD)

取り出しファイル（あるいは各取り出しファイル・メンバー）中で最後にコピーされるレコードのレコード番号を指定します。 *NONE以外の値が**コピー開始レコード・キー (FROMKEY)**パラメーターまたは**コピー終了レコード・キー (TOKEY)**パラメーターに指定された場合、 *END以外の値が**コピーするレコードの数 (NBRRCDS)**パラメーターに指定された場合、あるいは取り出しファイルがキー付き論理ファイルである場合には、レコード番号は有効ではありません。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

1から4294967288

取り出しファイルからコピーする最後のレコードのレコード番号を指定します。

上

コピー開始レコード・キー (FROMKEY)

キー・フィールドつきファイルをコピーする時に、コピーされる取り出しファイル（または各取り出しファイル・メンバー）の最初のレコードのキーの値を指定します。このパラメーターが有効となるのは、キー付きデータベース・ファイルである取り出しファイルの場合だけであり、レコード番号の値が**コピー開始レコード番号 (FROMRCD)**パラメーターまたは**コピー終了レコード番号 (TORCD)**パラメーターに指定された場合には、それは使用できません。

単一値

***NONE**

コピーする最初のレコードをキーにより選択しません。

要素1: キー・フィールドの数

***BLDKEY**

キー・フィールド（キーのすべてのフィールドの単一の文字ストリング値ではなく）の値のリスト（それぞれ、最大256文字）が提供されます。リスト内のいずれかの値（50まで）がヌル値可能キー・フィールドに対応している場合には、*BLDKEYは無効です。

要素2に指定した値のリストは、FROMファイルのキーの中の対応するフィールドに（その順序で）適用されます。文字フィールドの場合には、文字ストリングは現行ジョブのCCSIDからFROMファイルのフィールドのCCSIDに変換されます。日付、時刻、またはタイム・スタンプ・フィールドの場合には、対応する入力値はFROMファイルのフィールドの形式および区切り記号の形式に変換されます。可変長フィールドの場合には、2バイト長の部分でなく、文字データだけを入力してください。DBCS図形フィールドを指定する時には、入力ストリング(DBCSデータ)はシフトアウト(SO)文字とシフトイン(SI)文字で囲まなければなりません。SO-SI文字は入力ストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

整数 コピーする最初のレコードを見つけるために使用するキー・フィールドの数を指定します。

要素2: キーの値

文字値 最初の要素で指定されたキー・フィールド数の実際のキーの値を指定する文字ストリングを指定します。このキー・ストリング値は、空白または特殊文字が入っている場合には引用符で囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。16進数形式は、キーにパック10進数または2進数字フィールドが入っている場合、あるいはキーが可変長の文字フィールドである場合に有用です。単一のストリングが指定された時には、文字フィールドでCCSID変換は実行されません。

上

コピー終了レコード・キー (TOKEY)

キー・フィールドつきファイルのコピーする時に、コピーされる取り出しファイル（または各取り出しファイル・メンバー）の最終レコードのキーの値を指定します。このパラメーターが有効となるのは、取り出しファイルがキー付きデータベース・ファイルの場合だけであり、また、レコード番号の値が**コピー開始レコード番号 (FROMRCD)**パラメーターまたは**コピー終了レコード番号 (TORCD)**パラメーターに指定された場合、あるいはレコード数が**コピーするレコードの数 (NBRCDS)**パラメーターに指定された場合には、これは使用できません。

単一値

*NONE

コピーされる最後のレコードはキーにより選択されません。

要素1: キー・フィールドの数

***BLDKEY**

キー・フィールド（キーのすべてのフィールドの単一の文字ストリング値ではなく）の値のリスト（それぞれ、最大256文字）が提供されます。リスト内のいずれかの値（50まで）がヌル値可能キー・フィールドに対応している場合には、*BLDKEYは無効です。

要素2に指定した値のリストは、FROMファイルのキーの中の対応するフィールドに（その順序で）適用されます。文字フィールドの場合には、文字ストリングは現行ジョブのCCSIDからFROMファイルのフィールドのCCSIDに変換されます。日付、時刻、またはタイム・スタンプ・フィールドの場合には、対応する入力値はFROMファイルのフィールドの形式および区切り記号の形式に変換されます。可変長フィールドの場合には、2バイト長の部分でなく、文字データだけを入力してください。DBCS図形フィールドを指定する時には、入力ストリング(DBCSデータ)はシフトアウト(SO)文字とシフトイン(SI)文字で囲まなければなりません。SO-SI文字は入力ストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

整数 コピーする最後のレコードを見つけるために使用するキー・フィールドの数を指定します。

要素2: キーの値

文字値 最初の要素で指定されたキー・フィールド数の実際のキーの値を指定する文字ストリングを指定します。このキー・ストリング値は、空白または特殊文字が入っている場合には引用符で囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。16進数形式は、キーにパック10進数または2進数字フィールドが入っている場合、あるいはキーが可変長の文字フィールドである場合に有用です。単一のストリングが指定された時には、文字フィールドでCCSID変換は実行されません。

コピーするレコードの数 (NBRRCDs)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

***END** TOKEYまたはTORCDパラメーターが指定されていない限り、取り出しファイルにファイルの終わり条件が示されるまで、レコードがコピーされます。

1から4294967288

受け入れファイルにコピーするレコード数を指定します。

文字テストによるレコード組込 (INCCHAR)

文字ストリング値と、レコード内のフィールドまたはレコード全体の中の所定の位置にあるデータとの比較に基づいて、レコードをコピーすることを指定します。

単一値

***NONE**

コピーするレコードを選択するために比較を使用しません。

比較値

どのレコードをコピーするかを判別するための比較を指定するには、4つの値を入力しなければなりません。まず、*RCDまたはフィールド名を入力し、その後に、比較を制御する3つの値、すなわち、開始位置、演算子、文字ストリング値を入力しなければなりません。この関係を満足するすべてのレコードが受け入れファイルにコピーされます。

要素1: フィールド

***RCD** 文字ストリング値が、取り出しファイル内にある各レコードの中の指定された開始位置にあるデータと比較されます。

***FLD** この値は*RCD値と同じです。

名前 比較を行うために使用されるレコード様式中のフィールド名を指定してください。フィールドは、取り出しファイルについてのデータ記述仕様(DDS)で文字フィールドとして定義されていなければなりません。

要素2: 文字位置

開始桁 フィールドまたはレコード内の比較が開始される開始位置を指定してください。可変長フィールドの場合には、この位置は可変長フィールドのデータ部分の位置です。DBCS図形フィールドの場合には、この位置はDBCS文字部分です。*CT以外の演算子の場合には、指定した文字ストリング値の長さ（最大256桁）に対して比較が行われます。*CT演算子の場合には、フィールドまたはレコードは、指定した開始位置からそのフィールドまたはレコードの終わりまで走査され、指定された文字ストリングが入っているかどうか判別されます。

要素3: 比較演算子

レコードまたはフィールドと指定した文字ストリングとの間に存在しなければならない関係を示す演算子を指定してください。

- *EQ 等しい
- *GT より大
- *LT より小
- *NE 等しくない
- *GE より大きいか等しい
- *NL より小さくない
- *LE より小さいか等しい
- *NG より大きくない
- *CT 含む

要素4: 値

文字値 指定したフィールドまたはレコードと比較する文字ストリング（最大256桁の長さ）を指定します。この文字ストリング値は、ブランクまたは特殊文字が入っている場合にはアポストロフィで囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。フィールド名を指定した場合には、文字ストリング値は比較を実行する前に現行ジョブのCCSIDからフィールドのCCSIDに変換されます。可変長フィールドのフィールド名を指定する場合には、2バイト長の部分でなく、比較する文字データだけを指定しなければなりません。フィールド名を指定した場合には、ヌル値であるフィールド値とのいずれの比較でも偽についてテストされます。DBCS図形では、シフトアウトとシフトイン(SO-SI)内に入力(DBCSデータ)ストリングを指定します。SO-SI文字は入力ストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

上

フィールド・テストでレコードの組込 (INCREL)

レコード中の一定のフィールドに指定した関係を満たすデータがあるかどうかに基づいてレコードがコピーされることを指定します。このパラメーターは、複数のレコード様式をもつ論理ファイルのすべてのレコード様式からのコピーでは無効です。

単一値

*NONE

コピーするレコードを選択するためにフィールド値の比較を使用しません。

関係値

コピーするレコードの条件を指定するために、各条件についてそれぞれ1セットの値を指定します。最大50セットの値を指定することができます。各セットには、必ず次の4つの値が含まれていなければなりません。

1. 論理演算子
2. 比較されるフィールドの名前
3. 関係演算子

4. 比較値

要素1: 関係

- *IF** これは比較のセットの最初の値として指定しなければなりません。
- *AND** *AND値の両側のフィールド値比較グループは、レコードがコピーされる前にすべて満たされなければなりません。
- *OR** *OR値のどちらかのフィールド値比較グループが満たされた場合には、そのレコードはコピーされます。

要素2: フィールド

名前 比較されるフィールド名を指定してください。このフィールドは、取り出しファイルのレコード様式になければならず、ファイルについてのデータ記述仕様(DDS)中に文字または数字として定義することができます。

要素3: 比較演算子

レコード内のフィールドと指定したフィールド値との間に存在していなければならない関係を示す演算子を指定します。

- *EQ** 等しい
- *GT** より大
- *LT** より小
- *NE** 等しくない
- *GE** より大きいか等しい
- *NL** より小さくない
- *LE** より小さいか等しい
- *NG** より大きくない

要素4: 値

*NULL

*NULLは、レコード中のフィールドの値がヌル値であるかどうかをテストする値として使用することができます。*NULLを指定した場合には、演算子*EQおよび*NEだけを使用することができます。"*EQ *NULL"関係が真となるのは、レコード中のフィールド値がヌル値の場合だけです。"*NE *NULL"関係が真となるのは、レコード中のフィールド値がヌル値でない場合だけです。

文字値 指定したフィールドの内容と比較される値（最大256桁）を指定します。指定される値を別のフィールド名とすることはできません。フィールド値は、空白または特殊文字が入っている場合にはアポストロフィで囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。ヌルであるレコード中のフィールド値と*NULL以外の比較は、使用する演算子に関係なく偽についてテストされます。可変長フィールドの場合には、2バイト長の部分でなく、値のデータ部分だけを指定してください。文字フィールドの場合には、このデータはデータとフィールド・データとの比較の前に、現行ジョブのCCSIDからフィールドのCCSIDに変換されます。DBCS図形フィールドを指定する時には、入カストリング(DBCSデータ)はシフトアウトとシフトイン(SO-SI)の文字で囲まなければなりません。SO-SI文字は入カストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

上

レコード様式フィールドのマッピング (FMTOPT)

物理または論理取り出しファイルを物理受け入れファイルにコピーする時に、どのフィールド・レベル・レコード様式処理（ある場合）を実行するかを指定します。取り出しファイルおよび受け入れファイルが異なったファイル・タイプ（一方は*SRCで、他方は*DATA)のデータベース・ファイルである場合には、*CVTSRCを指定しなければなりません。

単一値

*NONE

コピー操作の実行中には、フィールドのマッピングまたは除外は行われません。この値が有効なのは、取り出しファイルと受け入れファイルの両方がデータベース・ファイルでない場合、または両方ともデータベース・ファイルでレコード様式が同じ場合だけです。レコード様式が同じになるのは、取り出しファイルと受け入れファイルの両方の形式にすべてのフィールドが存在する場合で、両方のレコードの開始位置と属性が同じ場合だけです。属性には、フィールドがヌル値可能であるかどうかと、日付/時刻の形式および区切り記号（フィールドが日付/時刻フィールドの場合）が含まれます。ヌル値がコピーされるのは、*NONEが有効な場合だけです。

*NOCHK

データベース・ファイルのレコード様式が異なる場合には、コピー操作は、その相違点にかかわらず、続行されます。レコード・データは、1つのファイルから他のファイルに（左から右へ）直接コピーされます。すべてのレコード様式を複数の様式の論理ファイルから取り出しファイルと同じタイプ（ソースまたはデータ）の物理ファイルにコピーする場合には、*NOCHKが必要です。この値が指定された場合には、ヌル値は無視されて、日付/時刻データの変換は行われません。

*CVTSRC

データベース・ファイル相互間、ソース・ファイルからデータ・ファイルへ、またはデータ・ファイルからソース・ファイルへのコピーのためには、この値が使用されます。これが有効なのは、取り出しファイルと受け入れファイルが異なったタイプ（ソースとデータ）の時だけです。ファイル・タイプの変換は次の通り行われます。

- 受け入れファイルがデータ・ファイルである場合には、取り出しファイルの順序番号および日付フィールドが除去され、取り出しファイルの各レコードのソース・データ部分が受け入れファイルにコピーされます。
- 受け入れファイルがソース・ファイルである場合には、順序番号と日付フィールドが追加され、取り出しファイルのレコード・データがそれぞれの受け入れファイルのレコードのソース・データ部分にコピーされます。ヌル値は無視されて、日付/時刻データの変換は行われません。
- 取り出しファイルまたは受け入れファイルがデータベース・ファイルでない時には、ソース・ファイルからデータ・ファイルへのコピーあるいはデータ・ファイルからソース・ファイルへのコピーではFMTOPT(*CVTSRC)は必要ありません。ファイル・タイプによって、自動的に順序番号および日付フィールドが加えられるか、あるいは除外されます。受け入れファイルがソース物理ファイルである場合には、受け入れファイルにコピーされたレコードに作成される順序番号を制御するためにSRCOPTパラメーターおよびSRCSEQパラメーターを使用することができます。

その他の値（最大2個指定可能）

*MAP 取り出しファイルと受け入れファイルのレコード様式中で同じ名前のフィールドがコピーされ、取り出しファイルの様式中に存在しない受け入れファイル中のフィールドは、受け入れファイルのデータ記述仕様(DDS)のDFTキーワードに指定された省略時の値に設定されるか、あるいは数字フィ

ールドの場合にはゼロ、文字フィールドの場合にはブランク、日付/時刻フィールドの場合には現在の日付/時刻、またヌル値可能フィールドの場合にはヌル値に設定されます。

*MAPが指定されている場合には、*DROPも指定することができます。 マップされたフィールドは、取り出しファイルと受け入れファイルのレコード様式で開始位置が異なる場合があります。

*MAPが指定されていて、取り出しファイル・フィールドのCCSIDおよび受け入れファイル・フィールドのCCSIDの間に正しい変換が定義されている場合には、文字データは受け入れファイル・フィールドのCCSIDに変換されます。しかし、取り出しファイル・フィールドのCCSIDまたは受け入れファイル・フィールドのCCSIDのいずれかが65535である場合には、文字データは変換されません。

*MAPによって、日付/時刻データの変換とヌル値のコピーができるようになります。

***DROP**

受け入れファイルのレコード様式中に取り出しファイルのレコード様式のフィールド名が存在しない場合には、フィールド・レベルのマッピングでこの値を指定しなければなりません。*DROPが指定されている場合には、*MAPも指定することができます。*DROPが指定されている場合には、両方のレコード様式中に存在するフィールド名はすべて取り出しファイルおよび受け入れファイルのレコード様式中で同じ属性と相対位置を備えていなければならない、あるいは*MAPも指定しなければなりません。ヌル値はコピーされます。

***CVTFLOAT**

出力データベース物理ファイルの外部記述によって識別される各浮動小数点フィールドを処理し、それをシステム/390の浮動小数点形式からi5/OSによって使用されるIEEE形式に変換するためには、CPYFを指定します。

***NULLFLAGS**

出力ファイルの外部記述によってヌル値可能と識別されるそれぞれのフィールドの後のバイトを使用して、対応する入力フィールドがヌルであるかどうかを示すフラグとして使用するためには、CPYFを指定します。このバイトがブランク('40'X)であるかまたは'00'Xが入っている場合には、データはヌル値でないと見なされます。このフラグにその他の値が入っていると、対応する入力フィールドのデータは無視されて、出力値がヌル値に設定されます。

注: *CVTFLOATまたは*NULLFLAGSが指定されていて、入力ファイルが外部記述の場合には、その入力ファイルの外部記述はコピーされたデータのマッピングには使用されません。*CVTFLOATまたは*NULLFLAGSが指定されている場合には、他の値は（両方が指定されていない限り）すべて無視されます。TOFILEは外部記述物理データ・ファイルでなければなりません。*CVTFLOATまたは*NULLFLAGSが指定されている場合には、次のパラメータ値を指定することはできません。

- 取り出しファイルが複数様式論理ファイルである場合のRCDFMT(*ALL)
- CRTFILE（すでにTOFILEが存在していて*YESが無視される場合を除く）、FROMKEY, TOKEY, INCCHAR, INCREL, SRCOPT,およびSRCSEQの省略時値以外の値。

***** 重要 *****

*CVTFLOATおよび*NULLFLAGSが使用されるのはi5/OS形式にデータを変換する場合だけ、データが損傷する可能性を避けるために正しく使用しなければなりません。

上

ソース更新オプション (SRCOPT)

ソース物理ファイルへのコピーの場合にだけ、順序番号フィールドに新しい順序番号が挿入されるかどうか、および日付フィールドがゼロにセットされるかどうかを指定します。*SEQNBRと*DATEの両方を指定することができます。

単一値

*SAME

受け入れファイルにコピーされるレコードの中で、ソース順序番号は挿入されず、ソース日付フィールドはゼロにセットされません。受け入れファイルがソース物理ファイルでない場合には、*SAMEを指定しなければなりません。

その他の値 (最大2個指定可能)

*SEQNBR

受け入れファイルにコピーされるレコードに、新しい順序番号が挿入されます。新しい順序番号は、ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)パラメーターの値により制御されます。

*DATE

受け入れファイルにコピーされるレコードの中で、ソース日付フィールドがゼロにセットされます。

上

ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)

*SEQNBRがソース更新オプション (SRCOPT)パラメーターに指定された時にかぎり、受け入れファイルにコピーされた最初のレコードに指定する順序番号、およびコピーされた他のすべてのレコードの番号を付け直すために追加される値を指定します。

要素1: 開始順序番号

1.00 受け入れファイルにコピーされた最初のソース・レコードは、0001.00という順序番号をもちます。

0.01から9999.99

受け入れファイルにコピーされる最初のソース・レコードの順序番号を指定します。

要素2: 増分番号

1.00 受け入れファイル中のコピーされたソース・レコードは、整数の増分値1で番号が付け直されます。

0.01から9999.99

最初のレコードの後にコピーされるすべてのソース・レコードの番号を付け直すために追加される値を指定します。

上

許容エラー (ERRLVL)

データベース取り出しファイル・メンバーまたはテープ取り出しファイルのラベルIDに対するコピー操作の実行中に、容認されるファイルの回復可能な読み取りまたは書き込みエラーの最大数を指定します。

0 回復可能エラーが1つでも起こると、そのエラーが起こったファイル・メンバーでコピー操作は終了します。

***NOMAX**

エラーの最大数が指定されず、すべての回復可能エラーは容認されます。

整数 コピーされる各取り出しファイル・メンバーまたはラベルで許される回復可能エラーの最大数を指定します。

上

削除済みレコードの圧縮 (COMPRESS)

受け入れファイルに圧縮形式の取り出しファイルが入るかどうかを指定します。圧縮は、取り出しファイルの削除済みレコードが受け入れファイルにコピーされなかった時に起こります。*NOは、取り出しファイルと受け入れファイルが両方とも物理ファイルである時にすべてのレコードをコピーするために使用されます。取り出しファイルが削除可能で、受け入れファイルが削除可能でない場合には、*YESを指定しなければなりません。

***YES** 受け入れファイルにコピーされたレコードは圧縮されます。取り出しファイルに存在する削除済みレコードは受け入れファイルにコピーされません。

***NO** 削除されたレコードと削除されないレコードの両方が受け入れファイルにコピーされます。

上

例

例1: 物理ファイルから物理ファイル

```
CPYF FROMFILE(PERSONNEL/PAYROLL) TOFILE(TESTPAY/PAYROLL)
      MBROPT(*ADD) CRTFILE(*YES) ERRRLVL(10)
```

このコマンドは、PERSONNELライブラリー中のPAYROLLの名前の物理ファイル中のすべてのレコードを、TESTPAYライブラリー中のファイルPAYROLLにコピーします。取り出しファイルに複数のメンバーが含まれている場合には、最初のメンバーだけがコピーされます。TESTPAY/PAYROLLが存在しない場合は、レコードのコピーの前にそれが作成されて、コピーされたレコードを受け取るために、取り出しファイルと同じ名前のメンバーがTESTPAY/PAYROLLに追加されます。

MBROPT(*ADD)が指定されたために、コピーされたレコードは受け入れファイル・メンバー中の既存レコードのいずれかに追加されます。RCDFMT(*NONE)が想定されるために、受け入れファイルTESTPAY/PAYROLLは、取り出しファイルと同じレコード・フォーマットでなければなりません。受け入れファイル(TESTPAY/PAYROLL)がコピー操作で作成される場合は、これは、取り出しファイル(PERSONNEL/PAYROLL)と同じレコード・フォーマットおよびアクセス・パスをもつこととなります。コピー操作中に10個以上の回復可能エラーが起こった場合には、操作は終了します。

また、FROMMBR(*ALL)およびTOMBR(*FROMMBR)も指定された場合には、取り出しファイルのすべてのメンバーが受け入れファイルの対応するメンバー（同じ名前をもつ）にコピーされます。対応する受け入れメンバーがないそれぞれの取り出しメンバーでは、メンバーが受け入れファイルに追加されて、取り出しメンバー中のすべてのレコードが新規メンバーにコピーされます。すでに存在するそれぞれの取り出しメンバーでは、新規のレコードだけがメンバーに追加されます。どのタイプのコピー操作でも、既存のレコードへ

の更新が行われません。取り出しファイル中で対応するメンバーがないメンバーが受け入れファイルに含まれている場合には、コピー操作の後、受け入れファイルには、取り出しファイルより多いメンバーが含まれます。

コピー中のメンバー内で10個以上の回復可能エラーが起こった場合には、その操作はその時点で終了して、残りのメンバーはコピーされません。すべての回復可能エラーを許容するためにERRLVL(*NOMAX)を指定できるので、特定のファイル・メンバーで回復可能エラーがいくつ起こっても、コピー操作は終了しません。

例2: 物理ファイルから物理ファイル

```
CPYF FROMFILE(PERSONNEL/EMP1) TOFILE(PERSONNEL/VACLEFT)
      FROMMBR(VAC) MBROPT(*REPLACE)
      FROMKEY(1 X'0008872F') TOKEY(1 X'0810199F')
      INCREL((*IF VAC *GT 5.0)) FMTOPT(*MAP *DROP)
```

この例では、受け入れファイル(VACLEFT)が既存の物理ファイルであるが、そのレコード・フォーマットはコピーしているEMP1の名前の物理ファイルのフォーマットと異なります。両方のファイルはPERSONNELライブラリー中にあります。取り出しファイルには従業員レコードが含まれていて、キー（従業員番号）をもっています。取り出しファイルで選択したレコードは、008872から810199の範囲の従業員番号をもっています。5日以上のお休み(VAC)をもつ従業員のレコードだけが受信ファイルにマップされます。レコードはメンバーVACから選択されて、これらはファイルVACLEFTの最初のメンバー中の既存レコードを置き換えます。

ファイルのキーがパック10進数であるために、FROMKEYおよびTOKEYの値は16進数ストリングとして指定する必要があり、値には先行ゼロおよび16進数符号が必要となります。同じキーの値の範囲を指定するもう1つの方法は次の通りです。

```
FROMKEY(*BLDKEY 8872) TOKEY(*BLDKEY 810199)
```

*BLDKEYを指定すると、コピー操作はそれぞれの数値を、ファイル・キー定義に必要な形式に変換します。単一値だけが指定されるので、使用されるキー・フィールドは1つだけです。FROMKEYおよびTOKEYパラメーターの*BLDKEY形式によって、キーが数値の時の先行ゼロおよび肯定符号は省略できます。

ファイルのキーが複数フィールドの複合の場合には、*BLDKEYフォームは、FROMKEYおよびTOKEYパラメーターの値のリストとともに使用されます。たとえば、ファイルのキー・フィールドが販売領域(10桁)で、最終月の販売（小数点以下の2桁の7桁のパック10進数）の場合には、完全なキーは次のいずれかの方法で指定されます。

```
FROMKEY(*BLDKEY (GEORGIA 99.50))
- あるいは -
FROMKEY(2 X'C7C5D6D9C7C9C14040400009950F')
```

*BLDKEY形式を使用する時には、それぞれの文字フィールドにブランクが埋め込まれて、それぞれの数字フィールドは小数点を正しく位置合わせするためには、左または右に桁移動された値の実際のキー形式に変換されます。

例3: 物理データ・ファイルから物理ソース・ファイル

```
CPYF FROMFILE(MYLIB/DATAFILE) TOFILE(QIDU/QTXTSRC)
      FROMMBR(A1) TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE)
      FMTOPT(*CVTSRC)
```

このコマンドは、FILETYPE(*DATA)として定義される、ライブラリーMYLIB中の物理ファイルDATAFILEから、FILETYPE(*SRC)として定義される、ライブラリーQIDU中の物理ファイルQTXTSRCにレコードをコピーします。この2つのデータベース・ファイルは異なったタイプのものなので、FMTOPT(*CVTSRC)を指

定しなければなりません。レコードはメンバーA1にコピーされて、取り出しファイル・メンバーと同じ名前をもちます。ソース・ファイルにコピーされるレコードの順序実行ソース・フィールドに値が割り当てられて、これは1.00で始まり、1.00で増分されます。SRCOPT(*SEQNBR)を指定した場合には、SRCSEQパラメーターを使用して、作成される順序実行を制御します。日付ソース・フィールドは常にゼロに設定されます。

例4: 論理ファイルから物理ファイル

```
CPYF  FROMFILE(DEPTS/SALES) TOFILE(DEPTS/YTDSALES)
      FROMMBR(TOTSALES) TOMBR(MARCH) RCDfmt(AA)
      NBRRCDs(5) MBROPT(*REPLACE)
```

このコマンドは、(ライブラリーDEPTS中の) 論理ファイルSALESのメンバーTOTSALESから、(ライブラリーDEPTS中の) 物理ファイルYTDSALESのメンバーMARCHに5個のレコードをコピーします。メンバーMARCHが存在しない場合には、コピー操作によってそれが作成されて、受け入れファイルに自動的に追加されます。レコード様式AAを使用するライブラリーDEPTS中の論理ファイルSALESからのレコードだけがコピーされて、同じ様式をもつYTDSALESにこれらがコピーされます。コピー操作の後、そのメンバーのすべてのレコードが最初に作成されて、次にTOTSALESメンバーの最初の5つのレコード(キー・シーケンスの)のデータだけをそれらにコピーするので、MARCHメンバーには5個の非削除レコードだけが含まれています。

例5: 装置ファイルから物理ファイル

```
CPYF  FROMFILE(QDKT) TOFILE(QGPL/QCLSRC) FROMMBR(PAY*)
      TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE)
      SRCOPT(*SEQNBR) SRCSEQ(1 .25)
```

このコマンドは、文字PAYで始まる名前のディスクット・ラベルの汎用セットからレコードをコピーします。これらは、QGPLライブラリー中のソース・ファイルQCLSRCの同名のメンバーにコピーされます。受け入れファイルがソース・ファイルであっても、QDKTはFILETYPE(*SRC)として定義された装置ファイルよりも効率的であるために、FILETYPE(*DATA)と定義されたディスクット・ファイル(QDKT)が取り出しファイルとして使用されます。コピーされる各ラベルでは、最初のレコードの順序実行は1.00であり、その後続くレコードは.25が増分されます。ソースの日付フィールドは自動的にゼロに設定されます。

例6: 物理ファイルから印刷装置

```
CPYF  FROMFILE(TEMPFILE) TOFILE(*PRINT) FROMMBR(EMP1)
      FROMKEY(1 448762) NBRRCDs(20) OUTFMT(*HEX)
```

このコマンドは、TEMPFILEの名前のファイルのメンバーEMP1からレコードをコピーします。レコードは従業員レコードです。1つのキー・フィールド、従業員番号がレコード・キーの探索に使用されます。従業員番号448762で開始して、20個のレコードがIBM提供印刷装置ファイルQSYSPRTにコピーされて、文字と16進形式の両方でリストされます。IBM提供印刷装置ファイルはTOFILE(*PRINT)のコーディングによって指示されます。

例7: 物理ファイルから装置ファイル

```
CPYF  FROMFILE(PERSONNEL/PAYROLL) TOFILE(DISK1)
      FROMMBR(VAC1) INCCHAR(NAME 1 *CT SMITH)
      INCREL((*IF VAC *GT 10.5)(*AND HOLIDAYS *EQ 0))
```

このコマンドは、その姓がSMITHで、10.5日以上の累積休暇(休日ではない)をもつ従業員のすべての従業員レコードを、PERSONNELライブラリーのPAYROLLファイルからディスクットにコピーします。コピーされるファイル・メンバー名はVAC1です。休暇(VAC)と休日(HOLIDAYS)のフィールドはバック10進数と

して定義されますが、INCRELパラメーターには値は文字形式で指定されます。使用されるディスク装置ファイルはDISK1であり、これには、コピー先のファイルのラベル、および位置やボリュームIDなどのその他のディスク属性が入っています。

例8: 物理ファイルから装置ファイル

```
CPYF FROMFILE(PERSONNEL/PAYROLL) TOFILE(DISK1)
      FROMMBR(*ALL) TOMBR(*FROMMBR)
```

このコマンドは、PERSONNELライブラリー中のファイルPAYROLLのすべてのメンバーを、ディスク装置ファイルDISK1)のデータ・ファイルにコピーします。それぞれの取り出しファイルのメンバー名は有効なディスク・ラベルIDでなければなりません。そうでない場合は、コピーする前に、RNMM (メンバーの名前変更) コマンドを使用して、取り出しファイルのメンバーの名前を変更してください。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2807

メッセージ&7に取り消し応答を受け取った。

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2818

TOMBRパラメーターに*FROMMBR値を使用することはできない。

CPF2835

INCCHARの開始桁および長さが長すぎる。

CPF2857

一時変更で、複数のメンバーまたはラベルのコピーを使用することはできない。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2864

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2883

ライブラリー&2にファイル&1を作成中にエラー。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2904

複数のラベル・コピーのディスク・ラベルが正しくない。

CPF2906

INCRELフィールドの値が正しくない。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2968

&2のファイル&1のコピー中に位置指定エラーが起こった。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF2975

キー付きファイルからの読み取り中にエラー。

CPF2976

エラーの数がERRLVL値より大きい。

CPF3140

メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。

CPF3143

メンバー&2に増分値を使用することはできない。

CPF3148

新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。

CPF3150

メンバー&2のデータベース・コピーが正常に行なわれなかった。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

上

ディレクトリーからのコピー (CPYFRMDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーからのコピー(CPYFRMDIR)コマンドは、システム配布ディレクトリー・データをローカル・システムから磁気テープまたはディスク装置にコピーするために使用されます。この後、このディレクトリー・データは、リモート・システムでディレクトリーへのコピー(CPYTODIR)コマンドを使用して、他のリモート・システムにコピーすることができます。この機能により、リモート・システムは、ディレクトリー・データに対してローカル・システムから行なわれた変更をシャドー処理して、ローカル・システムでディレクトリーのシャドー処理環境を開始することができます。

注意: データを回復するためにディレクトリーのデータを保管および復元するバックアップ・ユーティリティとして、このコマンドを使用してはいけません。Recovering your system book (SD88-5008)に説明されている通常のバックアップおよび回復の手順の指針に従ってください。

制約事項: このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LABEL	ファイル・ラベル	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
SYSNAME	システム名	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *END	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション

上

ファイル・ラベル (LABEL)

コピーされるテープまたはディスクの装置ファイルのラベルを識別する名前を指定します。テープ装置には最大17桁、ディスク装置には最大8桁を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

上

装置 (DEV)

コピー操作に使用されるテープまたはディスク装置の名前を指定します。それぞれのテープまたはディスク装置名は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。

ディスク装置名

コピー操作に使用するディスク装置の名前を指定してください。

テープ装置名

コピー操作に使用する1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置名を指定してください。複数のテープ・ボリュームを使用する場合には、複数のテープ装置を使用することで、1つのテープ・ボリュームを巻き戻しあるいは取り外している時に別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理することができます。

これは必須パラメーターです。

上

システム名 (SYSNAME)

このコマンドによって作成された磁気テープまたはディスクからシステム配布ディレクトリー・データをコピーするリモート・システムの名前を指定します。このパラメーターのリモート・システムの名前は、ローカル・システムからのディレクトリー・データに対する変更を収集するシステム名のリストに追加されます。

注: 通常のシャドー処理セッション中にディレクトリー・データに対するすべての変更がリモート・システムに送られるように、このコマンドによって作成されたテープまたはディスクを使用するすべてのリモート・システムの名前を含めなければなりません。

上

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリュームIDを指定してください。

*NONE

ファイルのボリュームIDが指定されていません。ボリュームIDは検査されません。

ボリュームID

装置に取り付ける順序で、複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号を指定します。データ・ファイルの最初の見出しラベルから、4桁のファイル順序番号が読み取られます。

*END コピー操作は、テープ・ボリュームの最後の順序番号の後で開始されます。

ファイル順序番号

使用されるファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は0001から9999 です。

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされません。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

ファイル満了日 (EXPDATE)

満了日を指定します。ファイルは満了日まで上書きすることはできません。満了日は、現在日付と等しいかまたはそれより後でなければなりません。

***PERM**

データ・ファイルは永続的に保護されます。999999の満了日が割り当てられます。

満了日 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

例

```
CPYFRMDIR  DEV(TAP01)  SYSNAME(CHICAGO NEWYORK)
```

このコマンドはディレクトリー・データのすべてをローカル・システムから磁気テープ装置TAP01にコピーします。CHICAGOおよびNEWYORKは、ディレクトリー・データに対する変更をローカル・システムから収集するシステムのリストに追加します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF90FB

エラーのためにディレクトリー・データはコピーされなかった。

上

インポート・ファイルからのコピー (CPYFRMIMPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

インポート・ファイルからのコピー(CPYFRMIMPF)コマンドは、インポート・ファイルのすべてまたは一部をTOFILEにコピーします。インポート・ファイルという用語は、異なるデータベース間でデータをコピーする目的で作成されるファイルを説明するために使用します。このコマンドでは、インポート・ファイル(FROMSTMFまたはFROMFILEパラメーター)は 取り出しファイル と呼ばれます。

このコマンドの重要な局面は、データを並行してコピーする機能です。並列処理は、少なくとも50,000のレコードをもつファイルに対して活動化されます。FROMSTMFを指定した場合には、レコードは並行にコピーされません。QUERY属性変更(CHGQRYA)コマンドを使用して、コピーを実行するために使用されるタスクの数は、CHGQRYAコマンドのDEGREEパラメーターによって判別されます。このコマンドを実装する際に最良のパフォーマンスを得るためには、タスクの数はCPU数+ 1に設定されていなければなりません。

例えば、システムに2つのCPUがある場合には、CHGQRYA DEGREE(*NBRTASKS 3)を指定します。

複数のタスクを使用するには、対称型マルチプロセッシング・プロダクト(SMP)機能がシステムにロードされていなければなりません。

磁気テープ・ファイル、ライブラリーQTEMPの任意のファイル、配布ファイル、または論理ファイルからのコピー時には、使用されるタスクは1つだけです。詳細については、CHGQRYAコマンドを参照してください。

CPYFRMIMPFコマンドによって実行できる特定機能の一部には、次が含まれています。

- 外部記述物理ファイルへの取り出しファイルのコピー。コピーを行う前に、取り出しファイルがシステム上に存在していなければなりません。
- 開始および終了相対レコード番号を基にしたコピー・レコード範囲の限定。
- 既存のファイル・メンバーへのレコードの追加または受け取りファイル・メンバー (MBROPTパラメーター) の内容の置き換え。

エラーの処理: コピー操作中に発生することがある多くの異なるエラー条件の場合にエスケープ・メッセージCPF2817が送られます。常に、エスケープ・メッセージの前に、特定のエラー条件を示す診断メッセージが少なくとも1つは出されます。エラー処理の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリーに記載されています。

一時変更: 一時変更はすべてのファイルについて処理されます。

状況メッセージ: CPYFRMIMPFコマンドの実行中に、コピー操作が実行中であることを対話式ユーザーに通知するメッセージCPI2801が状況メッセージとして送られます。状況メッセージが表示されないようにする方法の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリーに記載されています。

パフォーマンス:

コピーのパフォーマンスを向上するには、次のようにします。

1. 取り出しファイルの基礎になっている論理キー付きファイルをすべて削除します。
2. 取り出しファイルの制約およびトリガーをすべて使用不可にします。
3. すべてのレコードをコピーする前に、FROMRCDおよびレコード数オプションを使用して、レコードを何件かコピーしてみることで、取り出しファイルのレコードが正しくコピーされることを確認します。
4. データを正しくコピーすることができることがわかった後で、ERRLVL(*NOMAX)パラメーターを使用します。

区切られたデータに関する注釈

1. 区切り文字をブランク(' ')文字とすることはできません。
2. 数字フィールドにブランク(' ')を入れることはできません。
3. 受け入れファイル中の対応のフィールドより長い取り出しファイル内のフィールドは（右端が）切り捨てられます。
4. 取り出しファイルのデータが受け入れファイルのフィールドのすべてを表していない場合には、その受け入れファイルのフィールドはヌルに設定されます。これが起こって、受け入れファイルのフィールドにヌル値が使用できない場合には、エラーが起こり、レコードは受け入れファイルにコピーされません。
5. 取り出しファイルのヌル・フィールドは、2つの隣接したフィールド区切り文字、2つの隣接したストリング区切り文字、またはフィールド区切り文字とそれに続くレコード区切り文字で指定することができます。
6. 受け入れファイルの固定長フィールドに保管されるすべてブランク文字の取り出しファイルのフィールドは、ブランクの除去が指定されていても、ブランク文字が保存されます。
7. 受け入れファイルの変長フィールドに保管されるすべてブランク文字の取り出しファイルのフィールドは、ブランクの除去が指定されていると、ただ1つの有効なブランク文字として表わされます。

固定データでの注: 固定形式ファイルの各フィールドに関する情報は、次の順序になっていなければなりません。

フィールド名	開始位置	終了位置	ヌル文字位置
フィールド1	1	10	11
フィールド2	12	15	16
*END			

このフィールド定義ファイルの情報は次のようになります。

1. フィールド名は、受け入れファイル内のフィールドの名前です。
2. 開始位置は、フィールドのデータのコピーを開始する取り出しファイル内のバイト位置を示します。
3. 終了位置は、フィールドのデータのコピーを終了する取り出しファイル内のバイト位置を示します。
4. ヌル文字位置は、フィールドがヌルであるかどうかを示す取り出しファイル中のバイト位置です。「Y」値はフィールドがヌルであることを意味します。「N」の値はフィールドがヌルでないことを意味します。この値が0の場合には、ヌル文字は指定されません。
5. *ENDは、フィールド定義ファイルの終わりのための標識です。

上の例のフィールド定義ファイルは次のようになります。

フィールド1	1	10	11
フィールド2	12	15	16
*END			

6. フィールド定義ファイルを作成する代替方法は、実際の列名ではなく、キーワード *COLを使用することです。 *COLは、順にリストされたターゲット・ファイル内のすべての列のストリーム・ファイル内のデータの位置を示します。

*COLを使用する場合の上記のフィールド定義ファイルに対応するファイルの例:

```
*COL      1          10      11
*COL      12         15      16
*END
```

LOBデータ・フィールドに関する注釈:

LOBデータ・フィールドの場合、LOBデータを含む2次ストリーム・ファイル、およびデータ・ファイル内のフィールドのオフセットを記述するフィールド定義ファイルを使用する必要があります。インポート・ファイル内のLOBを表わす各レコードには、データではなく、2次ストリーム・ファイルの名前が含まれます。

注: 以下の例では、ディレクトリー「/LOBDATA」内部の3つの2次ストリーム・ファイル(LOB1.DAT, LOB2.DAT,およびLOB3.DAT)があり、インポートする実際のLOBデータを含んでいます。

次のFDFを使用します。

フィールド名	開始位置	終了位置	ヌル文字位置
FIELD1	1	10	42
FIELD2	12	40	44
*END			

インポート・ファイルは、レコード長が44文字（上記FDFに基づく）となり、次のデータを含んでいます。

```
0      1      2      3      4      /文字
12345678901234567890123456789012345678901234 /位置
AAAAAAA /LOBDATA/LOB1.DAT      N N
BBBBBB /LOBDATA/LOB2.DAT      N N
        /LOBDATA/LOB3.DAT      Y N
CCCCCCCC      N Y
```

制約事項:

- 取り出しファイルと受け入れファイルを同じファイルにすることはできません。
- コピーの前に、受け入れファイルが存在していなければなりません。
- 受け入れファイルは、取り出しファイルと同じ相対レコード番号をもちません。
- 取り出しファイルは、ソース・ファイル、または数値データ・タイプでないフィールドを1 つもつ有効なファイルとしなければなりません。
- 取り出しファイルがSHARE(*YES)オプションで定義されているファイルの場合には、予測できない結果が起こることがあります。したがって、ファイルがSHARE(*YES)を指定して定義されている場合には、ユーザーは、コピーの前に、そのファイルがなにかのプロセスでオープンされていないことを確認する必要があります。

注: この項目が（画面自身またはヘルプ情報で）アスタリスクを付けて表示されている「特殊値」でないかぎり、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMSTMF	FROMストリーム・ファイル	パス名	オプション, 定位置 2
FROMFILE	FROMファイル	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , *ALL	
TOFILE	TO データベース・ファイル	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , *FROMMBR, *ALL	
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	<u>*ADD</u> , *REPLACE, *UPDADD	オプション
STMFLN	STREAM FILEレコード長	整数, <u>*TOFILE</u>	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, <u>*FILE</u>	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, <u>*FILE</u>	オプション
RCDDLML	レコード区切り文字	文字値, *ALL, *CRLF, *LF, *CR, *LFCR, <u>*EOR</u>	オプション
DTAFMT	インポート・ファイルのレコード 様式	<u>*DLM</u> , *FIXED	オプション
STRDLM	ストリング区切り文字	文字値, <u>*DBLQUOTE</u> , *NONE	オプション
STRESCCHR	ストリング・エスケープ文字	文字値, <u>*STRDLM</u> , *NONE	オプション
RMVBLANK	ブランクの除去	*NONE, <u>*LEADING</u> , *TRAILING, *BOTH	オプション
FLDDLML	フィールド区切り文字	文字値, <u>'</u> , *TAB	オプション
FLDDFNFILE	フィールド定義ファイル	要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , *ALL	
DECPNT	小数点	<u>*PERIOD</u> , *COMMA	オプション
DECFLTRND	10進数浮動丸めモード	<u>*HALFEVEN</u> , *HALFDOWN, *HALFUP, *UP, *CEILING, *DOWN, *FLOOR	オプション
DATFMT	日付の形式	<u>*ISO</u> , *USA, *EUR, *JIS, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL, *YYMD	オプション
DATSEP	日付区切り記号	<u>'</u> , <u>'</u> , <u>'</u> , <u>'</u> , *BLANK	オプション
TIMFMT	時刻形式	<u>*ISO</u> , *USA, *EUR, *JIS, *HMS	オプション
TIMSEP	時刻区切り記号	<u>'</u> , <u>'</u> , *BLANK	オプション
FROMRCD	コピー開始レコード番号	要素リスト	オプション
	要素 1: コピー開始レコード番号	符号なし整数, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: コピーするレコードの数	符号なし整数, <u>*END</u>	
ERRLVL	許容エラー	符号なし整数, <u>*NOMAX</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ERRRCDFILE	エラー・レコード・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL	
ERRRCDOPT	レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	オプション
RPLNULLVAL	ヌル値の置き換え	*NO, *FLDDFT	オプション
IDCOL	列の識別	*GEN, *FROMFLD	オプション

上

FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)

データのコピー元のストリーム・ファイルのパス名を指定します。このパラメーターまたはFROMFILEパラメーターのいずれか一方が必要です。

パス名 入力ストリーム・ファイルのパス名を指定してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

FROMファイル (FROMFILE)

コピーされるレコードが含まれる取り出しファイルおよびファイル・メンバーを指定します。このパラメーターまたはFROMSTMFパラメーターのどちらかが必要です。

取り出しファイルは次のファイル・タイプのいずれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル
- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 単一形式の論理ファイル
- 1つの（非数値）フィールドがある物理ファイル
- テープ・ファイル。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされるレコードが含まれるファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

*FIRST

取り出しファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。取り出しファイルのOVRDBF（データベース・ファイル一時変更）コマンドにメンバー名が指定されていない限り、取り出しファイルにメンバーがない場合には、*FIRSTの指定は許されません。

***ALL** 指定された取り出しファイルのすべてのメンバーがコピーされます。テープ・ファイルの場合、*ALLは正しくありません。

名前 使用するファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

TO データベース・ファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取る出力データベース・ファイルおよびメンバーを指定します。また、出力ファイルは 受け入れファイル とも呼ばれます。

受け入れファイルは次のファイル・タイプのいずれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル
- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 外部記述物理ファイル。

これは必須パラメーターです。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされたレコードを受け取るファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

出力ファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。受け入れファイルのOVRDBF（データベース・ファイル一時変更）コマンドにメンバー名が指定されていない限り、受け入れファイルにメンバーがない場合には、*FIRSTの指定は許されません。

***ALL** データは区画に分割されたテーブルの適切な受け入れメンバーにコピーされます。*ALLが有効となるのは、区画に分割されたテーブルの場合だけです。

***FROMMBR**

対応する取り出しファイルおよび受け入れファイルのメンバー名が使用されます。

名前 コピーされたレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。指定された名前のメンバーがまだファイル内に存在しない場合には、そのメンバーが作成されます。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

指定された名前のメンバーがすでに存在している場合に、コピー操作でデータベース・ファイル・メンバー内のレコードを置き換えるか、追加するか、あるいは更新するかを指定します。メンバーが存在していない場合には、そのメンバーが作成されてデータベース・ファイルに追加されます。

注: *ADDまたは*UPDADDが指定されて、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は正常に完了します。*REPLACEが指定されて、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は異常終了します。

***ADD** コピーされたレコードは既存のメンバー・レコードの終わりに追加されます。

***REPLACE**

コピーされたレコードが既存のメンバー・レコードを置き換えます。

***UPDADD**

システムは、キーが重複しているレコードを更新し、新しいレコードを既存のレコードの終わりに追加します。使用可能な詳細説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリーを参照してください。

上

STREAM FILEレコード長 (STMFLLEN)

インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)パラメーターに*DLMが指定された場合のストリーム・ファイルのレコードの最大レコード長, あるいはDTAFMTパラメーターに*FIXEDが指定された場合のストリーム・ファイルのすべてのレコードの実際のレコード長。

*TOFILE

受け入れファイル・レコードのレコード長が使用されます。

レコード長

ストリーム・ファイルの各レコードに使用される長さを指定します。

上

変換元CCSID (FROMCCSID)

取り出しファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

*FILE 取り出しファイルCCSIDが使用されます。取り出しファイルがテープ・ファイルの場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

1から65533

取り出しファイルのCCSIDが65535である時, あるいは取り出しファイルがテープ・ファイルの場合に使用されるCCSIDを指定します。取り出しファイルのCCSIDが65535でないか, あるいは取り出しファイルがテープ・ファイルでない場合には, エラー・メッセージが送信されます。

上

変換先CCSID (TOCCSID)

受け入れファイルのフィールドに使用するコード化文字セット ID (CCSID)を指定します。

*FILE データは, 受け入れファイルのフィールドのCCSIDに変換されます。受け入れファイルのフィールドのCCSIDが65535である場合には, フィールドは変換されず, 2進データとして扱われます。

1から65533

受け入れファイルのフィールドのCCSIDが65535である場合に使用するCCSIDを指定してください。受け入れファイルのフィールドのCCSIDが65535でない場合には, このパラメーターは無視されます。

上

レコード区切り文字 (RCDDLML)

使用するレコード区切り文字を指定します。

FROMFILEパラメーターを指定する場合, 有効な値は*EORまたは文字値です。FROMSTMFパラメーターを指定する場合, 有効な値は*CR, *CRLF, *LF, *LFCR,または*ALLです。

*EOR レコードの終わり。

*ALL 改行および行送りの任意の単一文字または2つの文字の組み合わせが最初に現れる位置。

***CRLF**

改行とそれに続く行送り。

***LF** 行送り。

***CR** 改行。

***LFCR**

行送りとそれに続く改行。

文字値 単一レコードの終わりを指示する単一文字を指定してください。

上

インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)

取り出しファイル内のデータの形式を指定します。

***DLM** データには区切り文字が入っています。 スtring、フィールド、およびレコード区切り文字については、STRDLM、FLDDLM、およびRCDDLMLのパラメーターの説明を参照してください。

***FIXED**

データ形式は固定です。各レコードのデータは固定欄に入っています。データの形式の記述は、FLDDFNFILEパラメーターによって識別されるファイル・メンバーに入っています。レコード区切り文字については、RCDDLMLのパラメーターの説明を参照してください。

上

STRING区切り文字 (STRDLM)

コピー元のフィールドのデータについてのSTRING区切り文字を指定します。この文字は、取り出しファイル内の文字、日付、時刻、およびタイム・スタンプ・STRINGの開始と終了を指示します。取り出しファイルの作成に使用されるユーティリティーによっては、一部のタイプのSTRINGがSTRING区切り文字なしで取り出しファイル内に現れることがあります。

指定した区切り文字は、ジョブのコード化文字セット ID (CCSID)から取り出しファイルのCCSIDに変換されます。

***DBLQUOTE**

二重引用符文字がSTRING区切り文字として使用されます。

***NONE**

区切り文字はSTRING区切り文字として不要です。空白文字()は*NONE 値を表します。

文字値 STRING区切り文字の文字値を指定してください。

上

STRING・エスケープ文字 (STRESCCHR)

取り出しファイルのSTRING・フィールド内で検索される文字を指定します。取り出しファイルの文字フィールドには、CPYFRMIMPFに対して特殊な意味を持つ文字が含まれる場合があります。これらの文字には、STRING区切り文字およびSTRING・エスケープ文字自体があります。結果として、CPYFRMIMPFがデータを誤って解釈し、予期しない結果をもたらすことがあります。

文字列・エスケープ文字は、データ内でこうした文字の前にあって、その特殊な意味を取り消します。これにより、CPYFRMIMPFは、文字がデータであるか、それとも文字列区切り文字であるかを判断できます。エスケープ文字は、受け入れファイルにインポートされません。

このパラメータは、エクスポート・ユーティリティが文字列・エスケープ文字または文字列区切り文字を含んでいた文字フィールドに使用したメソッドを説明します。

指定した文字列・エスケープ文字は、ジョブのコード化文字セットID (CCSID)から取り出しファイルのCCSIDに変換されます。取り出しファイルのCCSIDが1200、1208、または13488である場合には、文字列・エスケープ文字がジョブのCCSIDに変換されるか、あるいはジョブのCCSIDが65535であると、ジョブの省略時のCCSIDに変換されます。

***STRDLM**

文字列区切り文字は、エスケープ文字として使用されます。文字データ・フィールドに2つの隣接した文字列区切り文字が含まれる場合には、それらは1つのデータ文字として解釈されます。

***NONE**

データに文字列・エスケープ文字はありません。データに文字列区切り文字があると、文字列区切りとして扱われます。

文字値 エスケープ文字として使用される文字を指定してください。

上

ブランクの除去 (RMVBLANK)

ブランクを除去するのか、あるいは保存するのかを指定します。

***LEADING**

先行ブランクは除去されます。

***TRAILING**

後書きブランクは除去されます。

***BOTH**

先行および後書きブランクは除去されます

***NONE**

先行および後書きブランクはすべて保存されます。

上

フィールド区切り文字 (FLDDLM)

コピー元レコードのフィールド区切り文字を指定します。この値は、あるフィールドの終わりと次のフィールドの始めを判別するために使用されます。

; コマ文字はフィールド区切り文字の省略時の名前です。

***TAB** 水平タブ文字がフィールド区切り文字として使用されます。

文字値 フィールド区切り文字の文字値を指定してください。

上

フィールド定義ファイル (FLDDFNFILE)

:インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)パラメーターに*FIXEDを指定した時に、データの形式を定義するフィールド定義ファイルを指定します。DTAFMT(*FIXED)を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

フィールド定義ファイルは次のファイル・タイプのどれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル
- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 1つのフィールドをもつ外部記述物理ファイル。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 固定長フィールド定義が入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

フィールド定義ファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

名前 使用するフィールド定義ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

小数点 (DECPNT)

取り出しファイルから数字データをコピーする時に使用される小数点文字を指定します。

***PERIOD**

ピリオド(.)が小数点文字として使用されます。

*COMMA

コンマ(,)が小数点文字として使用されます。

上

10進数浮動丸めモード (DECFLTRND)

10進浮動小数点データを丸める時に使用されるモードを指定します。

*HALFEVEN

直近への丸め。端数が中間値の場合は、結果の最終桁が偶数になるように丸められます。端数が1つ上の桁の値1の中間値(0.5)より大きい場合、結果の係数は1増分(切り上げ)されます。端数が中間値より小さい場合、結果の係数は調整されません(つまり、端数は無視されます)。上記以外(端数がちょうど中間値)の場合、結果となる係数の右端桁が偶数の場合は変更されず、右端桁が奇数の場合は(偶数桁になるように)1増分(切り上げ)されます。これがこのパラメーターの省略時の値です。

*HALFDOWN

直近への丸め。端数が中間値の場合は切り捨てられます。端数が1つ上の桁の値1の中間値(0.5)より大きい場合、結果の係数は1増分(切り上げ)されます。それ以外(端数が0.5以下)の場合、端数は無視されます。

*HALFUP

直近への丸め。端数が中間値の場合は切り上げられます。端数が1つ上の桁の値1の中間値(0.5)以上の場合、結果の係数は1増分(切り上げ)されます。それ以外の場合、端数は無視されます。

*UP 0からの切り捨て。端数の桁がすべてゼロの場合、端数が除去される以外に結果は変更されません。それ以外の場合は、結果の係数は1増分(切り上げ)されます。

*CEILING

正の無限大への丸め。端数の桁がすべてゼロの場合、あるいは符号が負の場合、端数が除去される以外に結果は変更されません。それ以外の場合は、結果の係数は1増分(切り上げ)されます。

*DOWN

0への丸め。端数は無視されます。これは、切り捨てと同じであり、概念的には「ゼロへの丸め」と同じです。

*FLOOR

負の無限大への丸め。端数の桁がすべてゼロの場合、あるいは符号が正の場合、端数が除去される以外に結果は変更されません。上記以外(符号が負)の場合は、結果の係数は1増分されます。

上

日付の形式 (DATFMT)

取り出しファイルから日付フィールドをコピーする時に使用される日付形式を指定します。

*ISO 国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

*USA 米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。

*EUR 欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。

*JIS 日本工業規格(JIS)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

- *MDY 日付形式MM/DD/YYが使用されます。
- *DMY 日付形式DD/MM/YYが使用されます。
- *YMD 日付形式YY/MM/DDが使用されます。
- *JUL 年間通算日形式YY/DDDが使用されます。
- *YYMD
日付形式YYYYMMDDが使用されます。

上

日付区切り記号 (DATSEP)

日付形式の日付区切り記号を指定します。 DATFMTが *ISO, *USA, *EUR,および*JISの場合は固定の日付区切り記号をもつので、区切り記号は無視されます。

- ?/ 日付区切り文字としてスラッシュが使用されます。
- ?- 日付区切り文字としてハイフンが使用されます。
- ?.' 日付区切り文字としてピリオドが使用されます。
- ?,' 日付区切り文字としてコンマが使用されます。

*BLANK

日付区切り文字としてブランクが使用されます。

上

時刻形式 (TIMFMT)

取り出しファイルから時刻フィールドをコピーする時に使用される時刻形式を指定します。

- *ISO 国際標準化機構(ISO)時刻形式HH.MM.SSが使用されます。
- *USA 米国時刻形式hh:mm xxが使用されます。ここで、xxはAMまたはPMです。
- *EUR 欧州時刻形式HH.MM.SSが使用されます。
- *JIS 日本工業規格(JIS)時刻形式HH:MM:SSが使用されます。
- *HMS HH:MM:SS形式が使用されます。

上

時刻区切り記号 (TIMSEP)

時刻形式の時刻区切り記号を指定します。これらの時刻形式が必要な時刻区切り文字を定義するので、時刻形式 (TIMFMT)パラメーターに*ISO, *USA, *EUR,または*JISが指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

- ?: 時刻区切り文字としてコロンが使用されます。
- ?.' 時刻区切り文字としてピリオドが使用されます。

*BLANK

時刻区切り文字としてブランクが使用されます。

コピー開始レコード番号 (FROMRCD)

取り出しファイルからどのレコードをコピーするかを指定します。

要素1: コピー開始レコード番号

*FIRST

コピー操作は、取り出しファイルの最初のレコードから始められます。

1から4294967288

取り出しファイルからコピーする最初のレコードのレコード番号を指定します。

要素2: コピーするレコードの数

*END レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

1から4294967288

取り出しファイルからコピーするレコード数を指定します。このレコード数をコピーする前にファイルの終わり条件に達した場合には、エラー・メッセージは出されずに、コピー操作は正常に終了します。

許容エラー (ERRLVL)

コピー操作の実行中に許容される、受け入れファイルでの回復可能な読み取りまたは書き込みエラーの最大数を指定します。

*NOMAX

エラーの最大数が指定されず、すべての回復可能エラーは容認されます。コピー操作は、見つかった回復可能なエラーの数とは無関係に続行されます。

エラー数

許容される回復可能エラーの最大数を指定します。ここで指定された値より1つだけ多い回復可能エラーが起こった場合には、コピー操作は終了します。

エラー・レコード・ファイル (ERRRCDFILE)

エラーのレコードを書き込むデータベース・ファイルを指定します。

エラー・レコード・ファイルは、次のファイル・タイプのどれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル
- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 外部記述物理ファイル。

単一値

***NONE**

エラー・レコード・ファイルを指定しません。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 エラー・レコード・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

エラー・ファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

名前 エラーが含まれている取り出しファイル・レコードを含めるために使用するエラー・ファイル・メンバーを指定します。

上

レコードの置き換えまたは追加 (ERRRCDOPT)

エラー・レコードをエラー・レコード・ファイルに追加する方法を指定します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーをすべて削除し、新しいレコードを追加します。

上

ヌル値の置き換え (RPLNULLVAL)

インポート・ファイル・レコードのコピー時にヌル・フィールド値を置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 受け入れファイルのフィールドがヌル値使用可能である場合には、ヌル値が使用されます。そうでない場合には、エラーが送られます。

*FLDDFT

インポート・ファイル・レコードの構文解析時にヌル値が検出されると、データベース・ファイル・レコード内の対応するフィールドに、フィールド・タイプに基づいた省略時の値またはDDSの省略時の値が割り当てられます。

上

列の識別 (IDCOL)

欄の値がシステムによって生成されるか、あるいは省略時の値が使用されるかのいずれにしても、受け入れファイルがIDENTITY属性をもつ欄、またはROWIDデータ・タイプをもつ欄が含まれているSQLテーブルであるかどうかを指定します。

***GEN** システム生成の値が「識別」欄または「ROWID」欄に挿入されます。

*FROMFLD

値がFROMFILEの「識別」欄または「ROWID」欄に存在している場合は、この値がTOFILEの「識別」欄に挿入されます。

上

例

例1: 物理ファイルのインポート・ファイルのコピー

```
CHGQRYA  DEGREE(*NBRTASKS 3)
:
CPYFRMIMPF  FROMFILE(IMPFILE) TOFILE(DB2FILE)
             FLDDL(';') RCDDL(X'07')
             DATFMT(*JIS) TIMFMT(*JIS)
```

照会属性変更(CHGQRYA)は、3つのタスクの平行実行によってコピー処理の実行を可能にするためには、CPYFRMIMPFの前に実行されます。

ファイルIMPFILEのすべてのレコードは外部記述の物理ファイルDB2FILEにコピーされます。取り出しファイルのフィールドはセミコロン(;);文字で区切られます。取り出しファイルの各レコードは16進'07'文字によって区切られます。入力の日付フィールドはYYYY-MM-DD形式です。入力の時刻フィールドはHH:MM:SS形式です。

例2: 磁気テープ・ファイルのインポート・ファイルのコピー

```
OVRTAPF  FILE(QTAPE) DEV(TAP02) SEQNBR(3)
:
CPYFRMIMPF  FROMFILE(QTAPE) TOFILE(DB2WHS)  ERRFILE(IMPERR)
```

磁気テープ・ファイルの指定変更(OVRTAPF)パラメーターは、磁気テープ装置TAP02をコピーの実行に使用する必要があることを指示するためには、CPYFRMIMPFの前に実行されます。取り出しファイルは、TAP02に取り付ける磁気テープの3番目のファイルでなければなりません。

取り出しファイル中のすべてのレコードが外部記述物理ファイルDB2WHSにコピーされます。取り出しファイルのフィールドはコンマ(,)文字で区切られます。入力の日付フィールドはYYYY-MM-DD (ISO)形式です。入力の時刻フィールドはHH.MM.SS (ISO)形式です。エラーを含むことが検出されて、ファイルDB2WHSに追加できない取り出しファイルのレコードはエラー・ファイルIMPERRに追加されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

LDIFからのコピー (CPYFRMLDIF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LDIFからのコピー (CPYFRMLDIF)コマンドは、LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルからディレクトリー・サーバー・インスタンスのディレクトリーにディレクトリー項目をコピーするために使用されます。ディレクトリー・サーバーは、i5/OS上にLightweight Directory Access Protocol (LDAP)サーバーを提供します。このコマンドは、新しい項目をディレクトリーに追加する場合のみ使用でき、既にディレクトリー内にある項目を変更したり削除したりすることはできません。

制約事項:このコマンドを使用するには、以下のいずれかの条件を実行または満たす必要があります。

- 全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 管理者の識別名およびパスワードを指定します。
- Directory Services管理者になります。許可されたユーザーに管理者権限を認可するようにDirectory Servicesサーバーが構成されており、呼び出し元がオペレーティング・システムの「Directory Services管理者」機能に対して許可されている場合は、その呼び出し元がDirectory Services管理者となります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LDIFSTMF	LDIFストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 1
INSTANCE	インスタンス	名前, <u>QUSRDIR</u>	オプション, 定位置 2
ADMIN	管理者	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別名	文字値	
	要素 2: パスワード	文字値	
REPLICATE	インポート・データの複製	<u>*YES</u> , *NO	オプション

上

LDIFストリーム・ファイル (LDIFSTMF)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルに統合ファイル・システム・パスを指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名 ディレクトリー・サーバー・インスタンスのディレクトリーにコピーするディレクトリー項目が入ったLDIFストリーム・ファイルのパス名を指定します。

上

インスタンス (INSTANCE)

ディレクトリー項目のコピー先となるディレクトリーのディレクトリー・サーバー・インスタンス名を指定します。

QUSRDIR

システムの省略時のディレクトリー・サーバー・インスタンスの名前。

名前 ディレクトリー・サーバー・インスタンス名を指定します。この名前の文字数は、最小で1文字、最大で8文字です。

上

管理者 (ADMIN)

ディレクトリー・サーバー管理者を指定します。これを指定しない場合、ユーザーは*ALLOBJおよび*IOSYSCFG特殊権限が必要になります。

要素1: 識別名

文字値 ディレクトリー・サーバー管理者の識別名を指定します (例えば, cn=administrator)。最大50文字まで指定できます。

要素2: パスワード

文字値 ディレクトリー・サーバー管理者のパスワードを指定します。パスワードは大／小文字の区別があり、アポストロフィで囲む必要があります。最大50文字まで指定できます。

上

インポート・データの複製 (REPLICATE)

コピーされたディレクトリー項目をレプリカ用のディレクトリー・サーバーに複製するかどうかを指定します。このオプションは、例えば、追加のマスター・サーバーを初期化して、このサーバーがこれらのディレクトリー項目を既に含むディレクトリー・サーバーにデータの複製を試行しないようにする場合に使用できます。

***YES** コピーされたディレクトリー項目が複製されます。

***NO** コピーされたディレクトリー項目は複製されません。

上

例

例1: QUSRDIRディレクトリーへのコピー

```
CPYFRMLDIF LDIFSTMF('/ldap/qusrdir.ldif') INSTANCE(QUSRDIR)
```

このコマンドは、**ldap**ディレクトリーにある**qusrdir.ldif**ストリーム・ファイルのディレクトリー項目をQUSRDIRインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーにコピーします。この方法でコマンドを実行するユーザーは、全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

例2: QUSRDIRディレクトリーのコピーと複製

```
CPYFRMLDIF LDIFSTMF('/ldap/qusrdir.ldif') INSTANCE(QUSRDIR)
            REPLICATE(*YES) ADMIN('cn=admin' 'secret')
```

このコマンドは、**ldap**ディレクトリーにある**qusrdir.ldif**ストリーム・ファイルのディレクトリー項目をQUSRDIRインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーにコピーします。コピーされたデータは、レプリカ用のディレクトリー・サーバーに複製されます。

例3: DOGGIESディレクトリーへのコピー

```
CPYFRMLDIF LDIFSTMF('/ldap/doggies.ldif') INSTANCE(DOGGIES)
            ADMIN('cn=fluffy' 'poodle')
```

このコマンドは、**ldap**ディレクトリーにある**doggies.ldif**ストリーム・ファイルのディレクトリー項目をDOGGIESインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーにコピーします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

GLD0202

管理者のDNまたはパスワードが正しくない。

GLD0213

ファイルをオープンまたは作成中にエラー。

GLD0215

ディレクトリー・サーバー・インスタンス&1が見つかりません。

GLD0218

不十分な権限または誤った識別名およびパスワードが指定されています。

GLD0225

&1個の項目がディレクトリーに追加され、&2個の項目が追加されなかった。

GLD0226

クライアント要求が拒否されました。ディレクトリー・サーバーは読み取り専用です。

上

PC文書からのコピー (CPYFRMPCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PC文書からのコピー(CPYFRMPCD)コマンドは、PC文書のデータをシステム・データベース・ファイルにコピーします。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: CPYFRMPCD

*ESCAPE メッセージ

IWS1603

PC文書は&6レコードが切り捨てられてファイルにコピーされた。

IWS1611

PC文書&1はコピーされなかった。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値	必須, 定位置 1
TOFILE	受け入れファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 受け入れファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMDOC	取り出し文書	文字値	必須, 定位置 3
TOMBR	受け入れメンバー	名前, *FIRST, *FROMDOC	オプション, 定位置 4
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	オプション, 定位置 5
TRNTBL	変換テーブル	単一値: *DFT, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TRNFMT	PCデータの形式	*TEXT, *NOTEXT	オプション
TRNIGC	DBCSコード・ページ	*DFT, *JPN, *CHT, *BG5, *CHS, *KOR, *KSC, *SCGS, *NONE	オプション
IGCSOSI	SO/SIの挿入	*YES, *NO	オプション

上

取り出しフォルダー (FROMFLR)

コピーするPC文書が入っているフォルダーの名前を指定します。また、このパラメーターは次の形式のフォルダーのパスの名前も指定することができます。

- フォルダー1 / フォルダー2 / フォルダー3 / ... / フォルダーn

パス名の長さは、63桁以内で指定することができます。

これは必須パラメーターです。

上

受け入れファイル (TOFILE)

PC文書をコピーする先の物理データベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

このファイルがソース・ファイルで、PC文書の変換を選択した場合には、ファイルへコピーされる時に順序番号およびゼロのシステム日付が追加されます。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

取り出し文書 (FROMDOC)

コピーされるPC文書の名前を指定します。名前は次の形式となります。

- ファイル名 . エクステンション

ファイル名は1-8文字で、エクステンションは1-3文字とすることができます。エクステンションは必須ではありません。

これは必須パラメーターです。

上

受け入れメンバー (TOMBR)

コピーされるPC文書を入れるメンバーの名前を指定します。メンバーが指定されない場合には、ファイルの最初のメンバーが複写されるメンバーとなります。メンバーが存在していない場合には、そのメンバーが作成されます。

***FIRST**

PC文書が最初のメンバーにコピーされます。

***FROMDOC**

コピー中のメンバーはPC文書と同じ名前となります。(PC文書名は正しいシステム・メンバー名でなければなりません。)

メンバー名

PC文書がコピーされるメンバー名を指定します。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

コピーされるレコードを物理ファイルに追加するか、または物理ファイルの既存のレコードと置き換えるかを指定します。

***REPLACE**

コピーされるレコードは物理ファイル・メンバーの既存のレコードと置き換えられます。

***ADD** コピーされるレコードは物理ファイル・メンバーの既存のレコードに追加されます。

上

変換テーブル (TRNTBL)

変換を実行するかどうか、実行する場合には、ASCIIからEBCDICにデータを変換するために使用する変換テーブルの名前を指定します。

注: ユーザー定義の2バイト文字セットでは、このパラメーターは変換を実行するかどうか、実行する場合には、単一バイト変換に使用する変換テーブルも指定します。

***DFT** 省略時の変換テーブルが使用されます。

変換テーブル名

変換テーブルの名前およびライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** テーブルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

テーブルが入っているライブラリーを指定します。

***NONE**

ASCIIからEBCDICへの変換は行われません。データはバイトごとにコピーされます。

上

PCデータの形式 (TRNFMT)

PC文書のレコードの様式を指定します。

変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) に*NONEが指定された場合には、このパラメーターは無効です。

*TEXT

標準DOS ASCII可変長形式のPC文書レコードは、データベース・ファイルの固定長形式に変換されます。復帰、改行、およびファイルの終わりの各文字は除去されます。組み込みタブ文字はブランクに展開され、固定長形式を満たすためにレコードにEBCDICブランクが埋め込まれます。

*NOTEXT

PC文書のレコードは、コピーされる先の物理データベース・ファイル・レコードと同じ長さの固定長レコードと見なされます。

上

DBCSコード・ページ (TRNIGC)

変換に使用される2バイト文字セットを指定します。変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) によって一時変更されないかぎり、このパラメーターも単一バイト変換テーブルを指定します。

*DFT 省略時の国または地域の2バイト文字セット。

*JPN IBM日本語。

*CHT IBM中国語 (繁体字)。

*BG5 台湾工業規格(BIG-5)。

*CHS IBM中国語 (簡体字)。

*KOR IBM韓国語(KS)。

*KSC 韓国工業規格。

*SCGS

中華人民共和国国家規格(GB)。

*NONE

2バイト変換は実行されません。

上

SO/SIの挿入 (IGCSOSI)

変換時にシフト・アウトとシフト・イン文字が挿入されるかどうかを指定します。このパラメーターは、2バイト文字セット・ユーザーの場合にだけ有効です。変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) に*NONEが指定された場合には、このパラメーターは無効です。

*YES 変換時にシフト・アウト文字およびシフト・イン文字が挿入されます。

*NO 変換時にシフト・アウト文字およびシフト・イン文字は挿入されません。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

IWS1603

PC文書は&6レコードが切り捨てられてファイルにコピーされた。

IWS1611

PC文書&1はコピーされなかった。

上

PCFファイルからコピー (CPYFRMPCFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ポータブル・コンパイル済み形式ファイルからのコピー(CPYFRMPCFF)コマンドは、ポータブル・コンパイル済み形式(PCF)ファイルに入っているすべてのユーザー定義のDBCS文字フォントをDBCS文字セット(DBCS)フォント・テーブルにコピーします。コピー操作の実行中に、ドット・マトリックス変換が自動的に実行されます。

次の表にはサポートされるドット・マトリックス変換をリストしています。

変換前DBCS フォント・テーブル 変換後PCFファイル

24 X 24	16 X 16
24 X 24	24 X 24
24 X 24	32 X 32
24 X 24	48 X 48
32 X 32	16 X 16
32 X 32	24 X 24
32 X 32	32 X 32
32 X 32	48 X 48

DBCSフォント・テーブルとPCFファイルの間にはサポートされるユーザー定義DBCS文字の数に差があります。

次の表にはDBCSフォント・テーブルのタイプごとにコピーできるユーザー定義のDBCS文字フォントの最大数をリストしています。

DBCS フォント・テーブル	最大数	最初のDBCS コード	最後のDBCSコード
日本語	1880	6941	72EA
韓国語	1880	D441	DDEA
中国語 (繁体字)	2660	D041	DDFE
中国語 (簡体字)	1880	7641	7FEA

制約事項: 次の権限が必要です。

1. CPYIGCTBL, CRTPF, CHKIN,およびCHKOUTコマンドに対する*USE権限。
2. 漢字フォント・テーブルに対する*CHANGE権限。
3. PCFファイルのパス名接頭部のディレクトリーに対する*X権限。
4. PCFファイルに対する*RW権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMPCFF	コピー元PCFファイル	パス名	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TOIGCTBL	コピー先漢字フォント・テーブル	QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	必須, 定位置 2
RPLFNT	フォントの置き換え	*NO, *YES	オプション

上

コピー元PCFファイル (FROMPCFF)

ユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー元のPCFファイルのパス名を指定します。PCFファイルはストリーム・ファイル・オブジェクトであり、UCS-2エンコードを用いたユーザー定義の文字セットでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

コピー先漢字フォント・テーブル (TOIGCTBL)

ユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー先のDBCSフォント・テーブルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

QIGC2424

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424C

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (繁体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424K

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される韓国語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424S

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGCRRCCCL

コピーされるDBCSフォント・テーブルの名前は常にQIGCRRCCCLという形式になっていなければなりません。ここで、RRはテーブル行のマトリックス・サイズで、CCはテーブル列のマトリックス・サイズで、英字Lは任意選択の言語識別コードです。

フォントの置き換え (RPLFNT)

指定されたDBCSフォント・テーブルのユーザー定義のDBCS文字フォントが、指定されたPCFファイルからのDBCS文字フォントで置き換えられるかどうかを指定します。

- *NO** システムは、指定されたDBCSフォント・テーブルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたPCFファイルからのDBCS文字フォントで置き換えません。
- *YES** システムは、指定されたDBCSフォント・テーブルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたPCFファイルからのDBCS文字フォントで置き換えます。

例

例1:既存のフォントを置き換えずにコピー

```
CPYFRMPCFF
  '/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/IBM_JPN17.PCF'
  TOIGCTBL(QIGC2424) RPLFNT(*NO)
```

このコマンドは、ディレクトリー/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のIBM_JPN17.PCFという名前の日本語PCFファイル(24 X 24ドット・マトリックス・フォント)に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントを日本語DBCS フォント・テーブルQIGC2424 (24 X 24ドット・マトリックス・フォント)にコピーします。DBCSフォント・テーブルで見つからないユーザー定義DBCS文字フォントだけがコピーされます。

例2:ユーザー定義DBCS文字フォントをDBCSフォント・テーブルからPCFファイルにコピーして、既存のフォントを置き換え

```
CPYFRMPCFF '/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/CHTPC17.PCF'
  TOIGCTBL(QIGC2424C) RPLFNT(*YES)
```

このコマンドは、ディレクトリー/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のCHTPC17.PCFという名前の中国語(繁体字)PCFファイル(24 X 24ドット・マトリックス・フォント)に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントを中国語(繁体字)DBCSフォント・テーブルQIGC2424C (24 X 24ドット・マトリックス)にコピーします。DBCSフォント・テーブル中のユーザー定義DBCS文字フォントは、PCFファイル中に見つかったものによって置き換えられます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFB7A7

&1コマンドがエラーのために終了した。

QUERYファイルからのコピー (CPYFRMQRYP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERYファイルからのコピー(CPYFRMQRYP)コマンドは、QUERYファイル・オープン(OPNQRYP)コマンドによってオープンされたファイルの全部または一部を、物理ファイル、DDMファイル、プログラム記述印刷装置ファイル、またはテープ・ファイルにコピーします。あるいは、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTを指定すると、IBM提供の印刷装置ファイルQSYSPRTを使用して選択されたレコードを印刷することができます。

注: DDMファイルの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「分散データベース・プログラミング」トピック・コレクションを参照してください。

このコマンドによって、次を行うことができます。

- MBROPTパラメーターを使用して、レコードを既存の物理ファイル・メンバーに追加するか、あるいは受け取り物理ファイル・メンバーの内容を置き換えます。
- 受け入れファイルのレコード様式と異なるオープンされているQUERYファイルの様式からレコードをコピーし、ソース物理ファイルにコピーする時にレコードを変換します。この様式が異なる場合には、コピー操作によって次を行うことができます。
 - オープンされているQUERYファイルの様式および受け入れファイルのレコード様式と同じ名前をもつフィールドをマップします。
 - オープンされているQUERYファイルの様式から、受け入れファイルのレコード様式に存在しないフィールドを除去します。
 - オープンされているQUERYファイルの様式と受け入れファイルのレコード様式との相違に関係なく、レコードを直接コピーします。
- TOFILE(*PRINT)が指定された時の印刷出力の形式を選択します。レコードは文字形式または文字形式と16進数形式の両方でリストすることができます (OUTFMTパラメーター)。
- コピー操作の前に受け入れファイルが存在していない場合には、そのファイルがオープンされているQUERYファイルと同じ形式となるように、ファイルを作成します (CRTFILEパラメーター)。オープンされているQUERY様式の各フィールドの名前、タイプ、長さ、および小数点以下の桁数だけが使用されます。
- NBRRCDS(*END)が指定されたか、NBRRCDSパラメーターに特定の数値が指定されたかによって、指定された数のレコードまたはすべてのレコードをオープンされているQUERYファイルからコピーします。

CPYFRMQRYPの詳細説明については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリおよびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリに示されています。

制約事項:

- CPYFRMQRYPコマンドによって使用されたQUERYファイル・オープンでは、DDMファイル (OPNQRYPコマンドのFILEパラメーターに指定) を使用してはなりません。

- メンバーをそれ自身にコピーすることができません。この制約事項は、CPYFRMQRYPコマンドのTOFILEパラメーターおよびTOMBRパラメーターによって指定されたメンバーがOPNQRYFコマンドのFILEパラメーターに指定されたメンバーと同じ名前を持つことができないこと、あるいはメンバーがOPNQRYFコマンドのFILEパラメーターの論理ファイルによって使用される物理ファイル・メンバーと同じ修飾名もつことができないことを意味します。
- CRTFILE(*YES)パラメーターが指定され、FROMOPNIDパラメーターが関連したトリガーをもつQUERYファイルを識別している時には、作成されるファイル(TOFILEパラメーター)は関連したトリガーをもちません。物理ファイル・トリガー追加(ADDPFTRG)コマンドを使用して、ファイルにトリガーを追加しなければなりません。
- マルチスレッド・ジョブでは、OPNQRYFコマンドがスレッド・セーフの方法で実行されていない場合、あるいは複数のデータベース・メンバー、装置ファイル(SPOOL(*YES)印刷ファイルを除く)、分散ファイル、または*SNAタイプのDDMファイルにコピーする場合には、このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、*SNAタイプのリレーショナル・データベースおよび*SNAタイプのDDMファイルを使用する分散ファイルに対しては正常に実行されません。スレッド・セーフであるのは、単一のデータベース・ファイル・メンバー(ローカルまたは*IPタイプのDDM)あるいはOPNQRYFコマンドが指定されるSPOOL(*YES)印刷ファイルへのコピーが、スレッド・セーフの方法で実行される時だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMOPNID	FROM オープン・ファイル識別コード	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOMBR	TOメンバーまたはラベル	名前, *FIRST	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*NONE, *ADD, *REPLACE	オプション
CRTFILE	ファイル作成	*NO, *YES	オプション
OUTFMT	印刷形式	*CHAR, *HEX	オプション
NBRRCDS	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション
FMTOPT	レコード様式フィールドのマッピング	単一値: *NONE, *NOCHK, *CVTSRC その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *MAP, *DROP	オプション
ERRLVL	許容エラー	符号なし整数, 0, *NOMAX	オプション

上

FROM オープン・ファイル識別コード (FROMOPNID)

QUERYファイルのオープンIDを識別するためにOPNQRYFコマンドで使用された名前を指定します。オープンされていて、OPNQRYFコマンドのOPNIDおよびOPTIONパラメーターに指定された入力、更新、またはすべての操作を可能にするQUERYファイルに関連したオープンIDを指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

注: 装置ファイルはテープ・ファイル, またはプログラム記述印刷装置ファイルにすることができます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*PRINT

データは, システム印刷装置ファイル(QSYSPRT)にコピーされ, **印刷形式 (OUTFMT)**パラメーターに指定された値にしたがって様式設定されます。

弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTは, 別のファイル名に一時変更することはできません。また RPLUNPRT(*YES)およびCTLCHAR(*NONE)属性をもっていなければなりません。

修飾子1: TOファイル

名前 コピーされるレコードを受け入れる物理ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。CRTFILE(*YES)が指定されて, 指定されたファイルが見つからない場合には, そのファイル名はライブラリー名で修飾されていなければなりません。物理受け入れファイルが作成された場合には, これは指定したライブラリーに入れられます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

物理ファイルまたは装置ファイルを見つけるために, ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には, QGPLが使用されます。

名前 物理ファイルまたは装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

TOメンバーまたはラベル (TOMBR)

コピー済みレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

受け入れファイルが印刷装置ファイルの場合には, このパラメーターに*FIRSTを指定しなければなりません。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 物理受け入れファイル・メンバーの名前, またはレコードを受け取るテープ受け入れファイルのラベルIDを指定してください。指定された名前のメンバーが物理受け入れファイルにまだ存在しない場合, コピー操作では, 指定された名前のメンバーをそのファイルに追加しようとします。

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

注: コピーが既存の物理ファイルに対するものである場合には、このパラメーターは*ADDまたは*REPLACEのいずれかを指定しなければなりません。受け入れファイルは存在しないが、CRTFILE(*YES)が指定された場合には、コピー操作では、このパラメーターに指定された値とは関係なく、それが作成された後にそのファイルにコピーされるすべてのレコードに対してMBROPT(*ADD)と見なされます。コピーされるレコードは常に、データベース・ファイル・メンバーの終わりに追加されます。これはオープンされたQUERYファイルから検索された順序になります。

*NONE

パラメーターはこのコピー操作には適用されません。受け入れファイルが既存の物理ファイルである場合には、*NONEを指定することはできません。すなわち、使用される各受け入れファイル・メンバーのレコードの追加または置き換えのいずれかを示すために、*ADDまたは*REPLACEを指定しなければなりません。

*ADD コピーされたレコードは、使用された各受け入れファイル・メンバーの既存レコードに追加されます。

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

上

ファイル作成 (CRTFILE)

受け入れファイルが存在していない場合に、データを受け取るために物理ファイルが作成されるかどうかを指定します。このコマンドの開始時に受け入れファイルがすでに存在している場合には、このパラメーターは無視されます。

*NO このコマンドが開始される時には、受け入れファイルが存在していなければなりません。データを受け取るための物理ファイルは作成されません。

*YES 受け入れファイルが存在していない場合には、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターで指定された名前の物理ファイルが作成されます。オープンQUERYファイル形式にユーザー定義のタイプ、データ・リンク、またはLOBフィールド・タイプが入っている場合には、作成された物理ファイルがSQLテーブルになります。他のすべてのインスタンスでは、作成された受け入れファイルはSQLテーブルではないデータベース物理ファイルになります。コピー操作で受け入れファイルを作成するには、通常のコピー操作の妥当性検査に加えて、次の特殊な条件がすべて満たされなければなりません。

- TOFILE パラメーターにライブラリー名を指定しなければなりません。省略時の値*LIBLは、使用することはできません。
- 別のファイル名またはライブラリー名への一時変更があってはなりません。受け入れファイルについては、このコマンドに指定した値を使用しなければなりません。
- このコマンドを実行するユーザーは、ファイルをTOFILEライブラリーに追加する権限とともに、物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対する操作権限が必要です。

印刷形式 (OUTFMT)

レコードを文字形式で印刷するか、あるいは文字および16進数形式の両方で印刷するかどうかを指定します。このパラメーターは、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTが指定されている時にだけ使用されます。

***CHAR**

レコードは文字形式で印刷されます。

***HEX** レコードは、文字形式および16進数形式の両方で印刷されます。

コピーするレコードの数 (NBRRCDS)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

1から4294967288

コピーするレコード数を指定してください。指定されたレコード数がコピーされる前にファイルの終わり条件が起こった場合には、コピーされるレコード数が少なくなります。

レコード様式フィールドのマップ (FMTOPT)

オープンされているQUERYファイルが物理受け入れファイルにコピーされる時に実行されるフィールド・レベルのレコード様式処理（それがあつた場合）を指定します。受け入れファイルがソース物理ファイルの場合には、このパラメーターに*CVTSRCを指定しなければなりません。オープンされているQUERY様式の文字およびDBCSフィールドの場合のCCSIDは、QUERYファイル・オープン(OPNQRYF)コマンドが実行されるジョブのCCSIDによって決まります。65535以外のすべてのCCSIDは、OPNQRYFコマンドのジョブのCCSIDにリセットされます。ただし、OPNQRYFジョブのCCSIDが65535である場合には、CCSIDは変わりません。オープンされているQUERYファイルの様式が受け入れファイルのレコード様式と同じで、受け入れファイルがデータ物理ファイルである場合には、コピー操作を実行するために、*CVTSRCを除く任意のFMTOPT値を指定することができます。

注: CPYFRMQRYPコマンドを使用する計画がある場合には、OPNQRYFコマンドの実行前にジョブのCCSIDを65535に変更してください。

単一値

***NONE**

コピー操作の実行中にフィールドのマッピングまたは除外は行われません。この値は、オープンされているQUERYファイルと受け入れファイルが同じレコード様式をもっている場合か、あるいは受け入れファイルがデータベース・ファイルでない場合にだけ有効です。レコード様式が同じになるのは、すべてのフィールドがオープンされているQUERYファイルと受け入れファイルの両方の様式に存在し、しかもすべてのフィールドが両方の様式で同じ開始桁と属性をもっている場合だけです。属性には、CCSID、フィールドが空値可能であるかどうか、それに日付/時刻の形式お

よび区切り記号（フィールドが日付／時刻フィールドの場合）があります。 *NONEが有効で、両方のファイルがデータベース・ファイルである場合には、空値がコピーされます。

*NOCHK

オープンされているQUERYファイルと受け入れファイルのレコード様式が異なる場合には、その相違を無視してコピー操作が続行されます。レコード・データは、1つのファイルから他のファイルに（左から右へ）直接コピーされます。

*CVTSRC

この値はソース・ファイルをコピーするために使用されます。この値は受け入れファイルがソース・ファイルの時にだけ有効です。受け入れファイルがソース・ファイルの場合には、順序番号および日付フィールドが追加され、オープンされているQUERYファイルのレコード・データが受け入れファイルの各レコードのソース・データ部分にコピーされます。空値は無視され、日付／時刻データの変換は行われません。

その他の値（最大2個指定可能）

***MAP** オープンされているQUERYファイルと受け入れファイルのレコード様式に同じ名前をもつフィールドはコピーされ、オープンされているQUERYファイルのレコード様式に存在していない受け入れファイルのフィールドは受け入れファイルのデータ記述仕様(DDS)のDFTキーワードに指定された省略時の値（あるいは数字フィールドの場合はゼロ、文字フィールドの場合ブランク、日付／時刻フィールドの場合は現在の日付／時刻、または空値可能フィールドの場合は空値）に設定されます。*MAPが指定されている場合には、*DROPも指定することができます。マップされたフィールドは、オープンされているQUERYファイルと受け入れファイルのレコード様式で開始位置が異なる場合があります。*MAPによって、日付／時刻データの変換とヌル値のコピーができるようになります。

*DROP

オープンされているQUERYファイルのレコード様式にあるフィールド名で受け入れファイルのレコード様式にないものがある場合には、フィールド・レベルのマッピングでこの値を指定しなければなりません。*DROPが指定されている場合には、*MAPも指定することができます。*DROPが指定されている時には、両方のレコード様式に存在するすべてのフィールド名がオープンされているQUERYファイルと受け入れファイルのレコード様式で同じ属性および相対位置をもつようにするか、あるいは*MAPも指定しなければなりません。

上

許容エラー (ERRLVL)

コピー操作の実行中にファイルで許される回復可能な読み取りエラーまたは書き出しエラーの最大数を指定します。回復可能なエラー・カウントがCPYFRMQRYPFの各操作の始めにリセットされます。扱われる回復可能なエラー数がERRLVLパラメーターに指定された数より大きい場合には、コピー操作が終了して、メッセージが送信されます。

0 回復可能エラーが起こった場合には、コピー操作は終了します。

*NOMAX

エラーの最大数が指定されません。すべての回復可能エラーは受け入れられます。コピー操作は、見つかった回復可能なエラーの数とは無関係に続行されます。

整数 コピー操作で許される回復可能エラーの最大数を指定してください。ここに指定された値より多いエラーが起こった場合には、コピー操作が終了します。

例

例1: レコードのサブセットがあるファイルの作成

```
OPNQRYF FILE(CUSTOMER/ADDRESS) QRYSLT('STATE *EQ "TEXAS"')
:
CPYFRMQRYF FROMOPNID(ADDRESS) TOFILE(TEXAS/ADDRESS)
          CRTFILE(*YES)
```

これらのコマンドは、STATEフィールドでTEXASの値をもつ、レコードが含まれるCUSTOMER/ADDRESSファイルからファイルを作成します。

例2: 選択ベースのレコードの印刷

```
OPNQRYF FILE(FILEA) QRYSLT('CITY *EQ "CHICAGO"')
:
CPYFRMQRYF FROMOPNID(FILEA) TOFILE(*PRINT)
```

これらのコマンドは、CITYフィールドの値がCHICAGOであるFILEAからすべてのレコードを印刷します。

例3: ディスケットへのレコードのサブセットのコピー

```
OPNQRYF FILE(FILEB) QRYSLT('FIELDB *EQ "10"') OPNID(MYID)
:
CPYFRMQRYF FROMOPNID(MYID) TOFILE(DISK1)
```

これらのコマンドは、FIELDBの値が10であるFILEBからのすべてのレコードをディスク・ファイルにコピーします。

例4: 動的結合からの出力のコピーの作成

ユーザーがFILEAおよびFILEBの形式とデータをもつ物理ファイルを作成したいものとします。このファイルには、次のフィールドが含まれているものとします。

FILEA	FILEB	JOINAB
-----	-----	-----
CUST	CUST	CUST
NAME	AMT	NAME
ADDR		AMT

```
OPNQRYF FILE(FILEA FILEB) FORMAT(JOINAB)
          JFLD((FILEA/CUST FILEB/CUST))
          MAPFLD((CUST 'FILEA/CUST')) OPNID(QRYFILE)
:
CPYFRMQRYF FROMOPNID(QRYFILE) TOFILE(MYLIB/FILEC)
          CRTFILE(*YES)
```

これらのコマンドはFILEAとFILEBを結合して、その結果のコピーを、新規の物理ファイルMYLIB/FILECに保管します。ファイルの形式はJOINABと類似しています。このファイルには、CUSTフィールドを使用したFILEAとFILEBの結合からのデータが含まれます。ライブラリーMYLIBのファイルFILECは、CLコマンド（たとえば、物理ファイル・メンバーの表示(DSPPFM))およびユーティリティ（たとえば、QUERY/400)によって他の物理ファイルと同じように処理することができます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2864

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2883

ライブラリー&2にファイル&1を作成中にエラー。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF2975

キー付きファイルからの読み取り中にエラー。

CPF2976

エラーの数がERRLVL値より大きい。

CPF3140

メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。

CPF3143

メンバー&2に増分値を使用することはできない。

CPF3148

新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。

CPF3150

メンバー&2のデータベース・コピーが正常に行なわれなかった。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

上

ストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF) コマンドは、ストリーム・ファイルのデータをデータベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルにコピーします。データベース・ファイル・メンバーをコピーする時に、任意選択のデータの変換および形式変更が実行されます。このコマンドを使用して、リモート・システムとの間でデータベース・ファイル・メンバーをコピーすることはできません。データベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルに有効な指定変更は、このコマンドでは使用されません。

このコマンドは、通常のファイルおよび/DEV/NULL文字特殊ファイルで操作することができます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: 作成されたデータベース・ファイル・メンバーの順序番号が違っている場合があります。順序番号の順序づけが必要な機能を使用する場合には、SRCOPT(*SEQNBR)パラメーターを指定して、メンバーの物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)コマンドを使用してください。

制約事項:

- データベース・メンバーのパス名は、**名前.オブジェクト・タイプ**の形式でなければなりません。例えば、/QSYS.LIB/LIBA.LIB/FILEA.FILE/MBRA.MBRは、QSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
- 保管ファイルのパス名は**名前.オブジェクト・タイプ**の形式でなければなりません。例えば、/QSYS.LIB/LIBA.LIB/SAVEFILEA.FILEはQSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
- 次の権限が必要です。
 - データベース・ファイル、保管ファイル、ストリーム・ファイル、または変換テーブルの、パス名接頭部のディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 - ストリーム・ファイルに対する読み取り(*R)権限。
 - データベース・ファイルに対する書き込みおよび実行(*WX)権限。さらに、MBROPT(*NONE)またはMBROPT(*REPLACE)が指定された場合は、データベース・ファイルにオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
 - データベース・メンバーがまだ存在していない場合のデータベース・メンバーのライブラリーへの追加(*ADD)権限。
 - 保管ファイルすでに存在する場合の保管ファイルに対する読み取り、書き込み、実行(*RWX)、およびオブジェクト管理(*OBJMGT) 権限。
 - 保管ファイルがまだ存在していない場合の保管ファイルのライブラリーに対する読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限。
 - 変換テーブルが指定されている場合には、その変換テーブルに対する読み取り(*R)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMSTMF	FROMストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 1
TOMBR	TO ファイル・メンバーか保管ファイル	パス名	必須, 定位置 2
MBROPT	メンバー・オプション	*NONE, *ADD, *REPLACE	オプション
CVTDTA	データ変換オプション:	*AUTO, *TBL, *NONE	オプション
STMFCSSID	ストリーム・ファイルのCCSID	1-65533, *STMF, *PCASCII	オプション
DBFCCSID	データベース・ファイルCCSID	1-65533, *FILE	オプション
TBL	変換テーブル	パス名	オプション
ENDLINFMT	行の終わり文字	*ALL, *CRLF, *LF, *CR, *LFCR, *FIXED	オプション
TABEXP	タブ拡張文字	*YES, *NO	オプション
STMFCODPAG	ストリーム・ファイル・コード・ページ	1-32767, *STMF, *PCASCII	オプション

上

FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)

データのコピー元のストリーム・ファイルのパス名を指定します。このコマンドは、タイプ*STMFおよび/DEV/NULL文字特殊ファイルで操作することができます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

TO ファイル・メンバーか保管ファイル (TOMBR)

データベース・ファイル・メンバーまたはデータがコピーされる保管ファイルのパス名を指定します。パス名のすべてのディレクトリーが存在しなければなりません。

保管ファイルにコピーする時に、存在しない場合には保管ファイルが作成されます。

データベース・ファイル・メンバーにコピーする時には、データベース・ファイルが存在しなければなりません。メンバーが存在しない場合には作成されます。ファイルはソース物理ファイルまたはプログラム記述物理ファイルのいずれかになります。複数のデータ・フィールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

データベース・ファイルがソース物理ファイルであった場合には、レコードがデータベース・ファイル・メンバーにコピーされた時に、順序番号およびゼロの日付が各レコードに追加されます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

メンバー・オプション (MBROPT)

TO ファイル・メンバーか保管ファイル (TOMBR)パラメーターで指定されたオブジェクトがすでに存在している場合には、コピー操作で置き換えるか、追加するか、あるいは失敗させるかを指定します。オブジェクトが存在していない場合には、これが作成されます。

***NONE**

オブジェクトが存在している場合には、レコードはコピーされず、操作は失敗します。

***ADD** コピーされたレコードは、既存のレコードの終わりに追加されます。

***REPLACE**

コピーされたレコードは、既存のレコードを置き換えます。

上

データ変換オプション: (CVTDTA)

データをストリーム・ファイルからデータベース・ファイル・メンバーに変換するための処理を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

***AUTO**

データは、コピー操作の実行中に、ストリーム・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)およびデータベース・ファイルのCCSIDを使用して変換されます。

***TBL** データは、変換テーブルを使用して変換されます。1バイト文字セットだけがサポートされています。変換テーブルは、**変換テーブル (TBL)**パラメーターで指定しなければなりません。

***NONE**

ソース物理ファイルへの順序番号および日付の挿入と、指定された行形式設定文字のストリーム・ファイルからの任意選択の除去だけが実行されます。その他の文字のストリーム・ファイルのCCSIDからデータベース・ファイルのCCSIDへの変換は実行されません。

上

ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCSSID)

データ変換に使用するストリーム・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を入手する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時、またはCVTDTA(*TBL)またはCVTDTA(*NONE)が指定された時は無視されます。

このパラメーターは、 **ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)**パラメーターと共に指定できません。

***STMF**

FROMストリーム・ファイル (**FROMSTMF**)パラメーターに指定されたストリーム・ファイルに関連付けされたCCSIDが、データ変換に使用されます。

***PCASCII**

Microsoft Windowsエンコード・スキーム(x4105)のCCSIDを計算するために、 **FROM**ストリーム・ファイル (**FROMSTMF**)パラメーターに指定されたストリーム・ファイルに関連付けされたCCSIDを使用します。データ変換が必要な場合には、このCCSIDが使用されます。データがMICROSOFT WINDOWSを使用して作成された場合には、このオプションによりデータを適切に変換できます。(“Microsoft”および“Windows”はMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。)

例えば、ストリーム・ファイルと関連したCCSIDが37の場合には、ストリーム・ファイル・データはデータ変換のCCSID 1252にあると見なされます。

1から65533

データ変換に使用するストリーム・ファイルCCSIDを使用します。

上

データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)

データ変換に使用されるデータベース・ファイルのCCSIDを入手する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

***FILE** データベース・ファイルのCCSIDが65535でなければ、それが使用されます。データベース・ファイルのCCSIDが65535で、ファイルがプログラム記述ファイルでない場合には、操作は失敗します。データベース・ファイルのCCSIDが65535で、ファイルがプログラム記述ファイルの場合には、省略時のジョブCCSIDが使用されます。

1から65533

データベース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定してください。このオプションは、データベース・ファイルのCCSIDが65535であるか、または指定されたCCSIDと同じであった場合にだけ有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

上

変換テーブル (TBL)

ストリーム・ファイルからデータベース・ファイル・メンバーへのデータの変換に使用される変換テーブルのパス名を指定します。

注: このパラメーターは必須であり、有効となるのはCVTDTA(*TBL)が指定された場合だけです。このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

行の終わり文字 (ENDLINFMT)

レコードのコピー時にストリーム・ファイル内で認識される行の終わり文字を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

レコードがデータベース・ファイルにコピーされた時には、すべてのレコードが固定長様式に変換されます。この固定長は、レコードがコピーされる先のデータベース・ファイル・レコードの長さと同しくなります。行の終わり文字の1つのオプションが選択された(ENDLINFMT(*FIXED)が指定されない) 場合には、ストリーム・ファイルはその文字の最初のオカレンスまで読み取られます。行の終わり文字はレコードから取り除かれます。レコードの残りの部分にはブランクが埋め込まれます。データは、宛先データ形式に変換され(それが指定された場合)、データベース・ファイル・メンバーにコピーされます。レコードが長すぎて固定長様式では入り切れない場合には、切り捨てられてから、コピーされます。

***ALL** 改行および行送りの単一または二重文字の組み合わせが各行の終わりに付加されます。

***CRLF**

改行に続いて行送りが各行の終わりに付加されます。

***LF** 行送りが各行の終わりに付加されます。

***CR** 改行が各行の終わりに付加されます。

***LFCR**

行送りに続いて改行が各行の終わりに付加されます。

***FIXED**

ストリーム・ファイルのテキスト行は、コピー先のデータベース・ファイルのレコードと同じ長さの固定長レコードとみなされます。見つかったCR, LF,またはEOF文字は、いずれもストリーム・ファイルからは取り除かれませんが、タブ拡張は許可されず、**タブ拡張文字 (TABEXP)**パラメーターは無効です。ストリーム・ファイルの最後のレコードでデータベース・ファイル・レコードが充てんされない場合には、そのレコードにブランクが埋め込まれます。

CVTDTA(*AUTO)が指定された場合は、変換されたデータは圧縮または展開することができません。そのため、ストリーム・ファイルCCSIDとデータベース・ファイルCCSIDのエンコード・スキームは互換性がなければなりません。例えば、ストリーム・ファイルが1バイト・エンコード・スキームで、データベース・ファイルが2バイト・エンコード・スキームの場合は、コマンドが失敗します。

上

タブ拡張文字 (TABEXPN)

組み込みタブ文字を次の8文字のタブ位置までブランクで拡張するかどうかを指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

***YES** タブ文字は、データベース・ファイル・メンバーにコピーされません。見つかったタブ文字は、すべて次のタブ位置までブランクで拡張されます。

注: ENDLINFMT(*FIXED)を指定した場合には、*YESはこのパラメーターに有効な値ではありません。

***NO** タブ文字は、データベース・ファイル・メンバーにコピーされません。タブ拡張は起こりません。

上

ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)

データ変換に使用するストリーム・ファイルのコード化文字セットID (CCSID) を決定するために使用するコード・ページ値を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

このパラメーターは、ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)パラメーターと共に使用できません。

注: このパラメーターはSTMFCCSIDで置き換えられますが、今まで通りSTMFCODPAGパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならばSTMFCCSIDパラメーターを使用してください。

***STMF**

この値を指定した場合には、コード・ページ処理は行われません。 **FROM**ストリーム・ファイル (**FROMSTMF**)パラメーターに指定したストリーム・ファイルのCCSIDが、データ変換に使用されます。1

***PCASCH**

Microsoft Windowsエンコード・スキーム(x4105)のCCSIDを計算するために、 **FROM**ストリーム・ファイル (**FROMSTMF**)パラメーターに指定されたストリーム・ファイルに関連付けされたCCSIDを使用します。データ変換が必要な場合には、このCCSIDが使用されます。データがMICROSOFT WINDOWSを使用して作成された場合には、このオプションによりデータを適切に変換できます。(“Microsoft”および“Windows”はMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。)

例えば、ストリーム・ファイルと関連したCCSIDが37の場合には、ストリーム・ファイル・データはデータ変換のCCSID 1252にあると見なされます。

1から32767

ストリーム・ファイルのコード・ページを指定してください。その後、データ変換に使用されるストリーム・ファイルCCSIDを計算するために、この値が使用されます。

上

例

例1:自動変換を使用したストリーム・ファイルからデータベース・ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('STMF.TXT')
            TOMBR('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBR')
```

このコマンドは、現行作業ディレクトリーのストリーム・ファイルSTMF.TXTに入っているデータをデータベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBRにコピーします。データの自動変換は、ストリーム・ファイル・データのCCSIDとデータベース・ファイルのCCSIDを使用して行われます。CRとLFの1バイトまたは2バイト文字の組み合わせは、ストリーム・ファイルの行の終わりとして認識され、組み込みタブは次のタブ位置まで空白を埋めて拡張されます。これらが省略時の値であるためです。メンバーMYMBR.MBRがファイルに存在しない場合には、それが作成されます。メンバーMYMBR.MBRが存在する場合には、MBROPT(*NONE)が省略時の値であるため、レコードはコピーされません。

例2:変換テーブルを使用したストリーム・ファイルからデータベース・ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('FINANCE.NEW')
            TOMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
            CVTDTA(*TBL) STMFCCSID(437)
            TBL('/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIB/TBL1.TBL')
            ENDLINFMT(*CRLF) TABEXPN(*NO)
```

このコマンドは、現行作業ディレクトリーのストリーム・ファイルFINANCE.NEWに入っているデータをデータベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR にコピーします。ストリーム・ファイルのデータは、ディレクトリー/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIBに入っているユーザー指定の変換テーブルTBL1.TBLを使用して変換されます。CRとLFの2バイト文字の組み合わせは、ストリーム・ファイルの行の終わりとして認識されます。組み込みタブは、空白で拡張されません。認識される行形式設定文字は、STMFCCSID パラメーターに指定されたCCSID 437で表現されるCRおよびLFのペアのみです。

例3:データ変換なしのストリーム・ファイルからデータベース・ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('FINANCE.NEW')
            TOMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
            CVTDTA(*NONE) ENDLINFMT(*FIXED)
```

このコマンドは、現行作業ディレクトリーのストリーム・ファイル'FINANCE.NEW'に入っているデータを、データ変換なしでデータベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBRにコピーします。ストリーム・ファイル・データの各行は、データベース・レコードと同じ長さの固定長のレコードとみなされます。TABEXPN(*NO)が指定されているので、見つかったタブ文字はコピー中に空白には拡張されません。ストリーム・ファイルとデータベース・ファイルのエンコード・スキームに互換性がない場合には、コピーは終了してエラー・メッセージが出されます。

例4:ストリーム・ファイルから保管ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('/MYDIR/SOFTWARE')
            TOMBR('/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILE')
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル/MYDIR/SOFTWAREに入っているデータを保管ファイル/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILE にコピーします。ストリーム・ファイル・データは、長さが528の固定長レコードとしてコピーされます。行形式設定文字は挿入されず、データ変換も実行されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA095

ストリーム・ファイルはコピーされなかった。

上

テープからのコピー (CPYFRMTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープからのコピー(CPYFRMTAP)コマンドは、テープ・ファイルから出力ファイルまたは印刷装置にレコードをコピーします。

取り出しファイルはテープ・ファイルでなければなりません、受け入れファイルは物理ファイル、テープ・ファイル、またはプログラム記述印刷装置ファイルとすることができます。テープ取り出しファイル中のレコードの印刷リストを作成する場合、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTを指定できます。

このコマンドは、ファイル・コピー(CPYF)コマンドで使用可能なパラメーターのサブセットをよりテープに限定されたパラメーターと一緒に提供します。

このコマンドで使用できないパラメーターが必要になった場合には、取り出しファイルまたは受け入れファイルに対する一時変更を使用するか、あるいはファイル・コピー(CPYF)コマンドを使用することができます。

このコマンドの1回の呼び出しで、テープ・ファイルを1つだけ（順序番号1つ分）をコピーすることができます。

コマンドの開始時には、受け入れファイルが存在しなければなりません。このコマンドは受け入れファイルを作成しませんが、その受け入れファイルにメンバーがまだ存在しない場合に、既存の物理ファイルにメンバーを追加します。

制約事項:

- ファイルのオープン・データ・パス(ODP)は、コピー操作中にジョブ（経路指定ステップ）の他のプログラムと共用することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMFILE	テープ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テープ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMSEQNBR	順序番号	1-16777215, *TAPF, *NEXT	オプション
FROMLABEL	テープ・ラベル	文字値, *TAPF, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
TOMBR	メンバー	名前, *FROMLABEL , *FIRST	オプション
FROMDEV	装置	単一値: *TAPF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
FROMREELS	コピー元リール	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*TAPF , *SL , *NL , *NS , *BLP , *LTM	
	要素 2: リールの数	1-255, *TAPF	
FROMRCDLEN	レコード長	整数, *TAPE , *CALC	オプション
FROMENDOPT	テープ終了オプション	*TAPF , *REWIND , *UNLOAD , *LEAVE	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*NONE , *ADD , *REPLACE	オプション
OUTFMT	印刷形式	*CHAR , *HEX	オプション
FROMVOL	ボリューム識別コード	単一値: *TAPF , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
FROMBLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *TAPF , *CALC	オプション
FROMRCDBLK	レコード・ブロックのタイプ	*TAPF , *F , *FB , *V , *VB , *D , *DB , *VS , *VBS , *U	オプション
NBRRCDSD	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション

上

テープ・ファイル (FROMFILE)

コピーされるレコードが入っているテープ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: テープ・ファイル

名前 テープ装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

修飾子1: TOファイル

名前 コピーされるレコードを受け入れる物理ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

順序番号 (FROMSEQNBR)

コピーされたテープ・ファイルの順序番号を指定します。

取り出しファイルのテープが標準ラベルをもつ時には、ファイル順序番号は、データ・ファイルの最初の見出しラベルから読み取られます。ラベル迂回処理が取り出しファイルに指定される（すなわち、FROMREELS(*BLP)がこのコマンドに、あるいはテープ・ファイルを記述するために使用されるコマンドに指定される）時、あるいは標準ラベルのテープが使用されていない場合には、システムはこのパラメーターに指定されたテープ・マークおよび値を使用して、コピーされる正しいデータ・ファイルを検出します。

***TAPF**

コピーされるファイルを指示するために、テープ・ファイルまたは一時変更に指定された順序番号が使用されます。

***NEXT**

テープ上の次のファイルが処理されます。テープが現在最初のファイルより前に位置付けられている場合には、テープ上の最初のファイルが処理されます。

1から16777215

テープ上のコピーされるファイルの順序番号を指定します。ラベル付きテープの場合には、FROMLABELで指定されたラベルがこの順序番号で見つかる必要があります。

上

テープ・ラベル (FROMLABEL)

テープからコピーするファイルのデータ・ファイルIDを指定します。指定されたファイルIDは、順序番号 (FROMSEQNBR) パラメーターに指定された開始順序番号で検出されなければなりません。

***TAPF**

コピーされるテープ・ファイルを識別するために、テープ・ファイル記述または一時変更中のファイルIDが使用されます。

*NONE

ファイルIDを指定しません。 どのラベルIDも受け入れられます。

データ・ファイルID

取り出しテープ・ファイルからコピーされるファイル・ラベルの名前を指定してください。 ラベルは、最大17文字の長さにすることができます。

総称*データ・ファイルID

テープ取り出しファイルからコピーされるファイル・ラベルの総称名を指定してください。

上

メンバー (TOMBR)

コピー済みデータ・レコードを受け取る受け入れファイル中のデータベース・ファイル・メンバーまたはテープ・ファイルのラベルを指定します。 **TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTを指定した場合には、このパラメーターに*FIRSTまたは*FROMLABELのいずれかを指定しなければなりません。

*FROMLABEL

FROMLABELおよびFROMSEQNBRパラメーターによって指定されたファイルは、受け入れファイルの対応するメンバーまたはラベルにコピーされます。

取り出しファイル・テープ・ラベルIDの名前は、物理受け入れファイルまたはテープ受け入れファイルのメンバーまたはラベルIDとして使用されます。受け入れファイルがテープ・ファイルである場合には、取り出しファイルのラベルIDは変更なしで使用されます。

受け入れファイルがデータベース・ファイルである場合には、取り出しファイル・ラベルのすべての連続ブランクの前に現われる最後の10桁が、受け入れファイルのメンバー名として使用されます。すべての連続ブランクの前に現われる最後の10桁が正しくない場合には、最後のピリオド(.)の右側の文字が受け入れファイルのメンバー名に使用されます。

取り出しファイルがラベルなしテープ・ファイルである場合には、テープの取り出しファイルのデータ・ファイルと対応した受け入れファイル・メンバーまたはラベル名がCPYNNNNの形式で作成されます。ここでNNNNはデータ・ファイルのテープ順序番号です。受け入れファイルがテープ装置ファイルである場合には、装置ファイル記述または一時変更のラベルが使用されます。

*FIRST

物理受け入れファイルの最初のメンバーがコピー済みレコードを受け取ります。

名前 コピーされるレコードを受け取る物理受け入れファイルの名前またはテープ受け入れファイルのラベルID名を指定してください。テープ・ラベルIDが10桁より長い、あるいは特殊文字が入っている場合には、CPYFRMTAP コマンドの開始の前に、CRTTAPF、CHGTAPF、またはOVRTAPFコマンドにこれを指定しなければなりません。

上

装置 (FROMDEV)

テープ取り出しファイルのコピー元として、最大4つのテープ装置、1つの仮想テープ装置、または1つの媒体ライブラリー装置を指定します。

単一値

***TAPF**

使用される装置を指示するために、テープ・ファイルに指定された値が使用されます。

その他の値（最大4個指定可能）

名前 取り出しファイルからのレコードのコピー時に使用する最大4つのテープ装置、または1つの仮想テープ装置、または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。装置名を指定する順序は、装置上のテープが連続して読み取られる順序です。それぞれの装置は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。

上

コピー元リール (FROMREELS)

取り出しファイルが入っているテープ・リールで使用されるラベル付けのタイプを指定します。このパラメーターに指定されるテープ・リール数の値は標準ラベルのテープの限定値ではありません。標準ラベル・テープの場合、テープのラベルは、処理されるボリュームの数を制限するファイルの終わり条件を指示します。リール数の情報が使用されるのは、指定されたボリュームIDのリストがない場合、および取り出しファイルが*NL、*NSまたは*BLPのいずれかである場合だけです。リール数の値が使用される時には、ラベル付きのテープに取り出しファイルが存在する場合に、その装置に入っているボリューム上のボリュームIDは無視されます。その場合には、操作員はそのリールが装置に入っている順序を検査しなければなりません。

要素1: ラベル処理タイプ

***TAPF**

取り出しファイル用にテープ・ファイルまたは一時変更に指定された値がラベル・タイプ値に使用されます。

***SL** 各テープ・ボリュームに標準ラベルが付いています。

***NL** どのテープ・ボリュームにもラベルはありません。テープ上の各データ・ファイルの終わりを示すためにテープ・マークが使用されます。

***NS** 各テープ・ボリュームに標準外ラベルが付いています。標準外テープ・リール（ボリューム）には、1つのデータ・ファイルしか存在することはできません。

***BLP** 取り出しファイルのボリュームのコピーの際に、標準ラベル処理は省略されます。

***LTM** 取り出しファイルのボリュームにはラベルがありませんが、テープの最初のファイルの前に、1つの先行テープ・マークがあります。

要素2: リールの数

***TAPF**

使用されるリール数の値は、取り出しファイル用にテープ・ファイルまたは一時変更に指定された値です。

1から255

使用されるリールの最大数を指定してください。テープの終わりに達した時に次のリールが装置にない場合には、装置に次のテープを取り付けるように要求するメッセージが操作員に送られます。

上

レコード長 (FROMRCDLLEN)

テープの取り出しファイルに入っているレコードの長さ (バイト数) を指定します。*NS, *NL, *BLP, または*LTMテープの場合, またはHDR2ラベルなしテープの場合には, このコマンドまたはテープ・ファイル・コマンドにこのパラメーターを指定しなければなりません。*SLテープの場合には, レコード長はそのラベル自身から取り出されます。

*TAPF

テープ・ファイルまたは一時変更で定義されたレコード長が使用されます。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

1から32767

テープ取り出しファイルのレコード長として使用される値を指定してください。レコード長は, ブロックの長さおよびレコードのブロック形式パラメーター値と矛盾しないものでなければなりません。

上

テープ終了オプション (FROMENDOPT)

テープ・ファイルがクローズされる時に取り出しファイル・テープの最後のボリュームに対して自動的に実行される位置指定操作を指定します。マルチボリューム・テープの取り出しファイルの場合には, このパラメーターは最後のリール (ボリューム) にだけ適用されます。中間にあるボリュームはすべて位置指定属性として*UNLOADでコピーされます。

*TAPF

テープの位置設定は, 装置ファイルまたは一時変更で指定された値にしたがって行われます。

*REWIND

テープは巻き戻されますが, アンロードされません。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

*LEAVE

テープは, 操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか, または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

*NONE

パラメーターはこのコピー操作には適用されません。受け入れファイルが既存の物理ファイルである場合には*NONEは使用できません。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

上

印刷形式 (OUTFMT)

レコードを文字形式で印刷するか、あるいは文字および16進数形式の両方で印刷するかどうかを指定します。このパラメーターは、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTが指定されている時にだけ使用されます。

***CHAR**

レコードは文字形式で印刷されます。

***HEX** レコードは、文字形式および16進数形式の両方で印刷されます。

上

ボリューム識別コード (FROMVOL)

(テープ) 取り出しファイルからレコードをコピーする際に使用するテープのボリュームID (1つまたは複数) を指定します。これらのボリュームは、IDが指定されたのと同じ順序 (および装置名がFROMDEVパラメーターに指定されたのと同じ順序) で装置に入れなければなりません。

単一値

***TAPF**

テープ・ファイルまたは一時変更に指定された値が使用されます。

***NONE**

このファイルにはテープ・ボリュームIDは指定されません。正しいラベル・タイプのボリュームがテープ装置に入れられたことを検査する以外のボリュームのチェックは実行されません。

その他の値 (最大50個指定可能)

文字値 テープ・ファイルのコピー元となる最大50個のボリュームIDを指定してください。ボリュームのIDは、装置にある順序と同じ順序で入力しなければなりません。

上

ブロックの長さ (FROMBLKLEN)

テープ取り出しファイルから転送されるデータ・ブロックの長さ (バイト数) を指定します。標準外またはラベルなしテープの場合、ラベル処理が迂回されたテープの場合、あるいはHDR2ラベルなしテープの場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。標準ラベルのテープの場合には、ブロックの長さはそのラベル自身から取り出されて、このパラメーターは無視されます。

***TAPF**

テープ・ファイルまたは一時変更からのブロック長の値が使用されます。

***CALC**

システムは使用する値を計算します。

18-524288

テープの取り出しファイルの各ブロックの長さを指定します。ブロックの長さは、レコードの長さおよびレコードのブロック形式の値と矛盾するものであってはいけません。

上

レコード・ブロックのタイプ (FROMRCDBLK)

取り出しテープ・ファイルの中のレコード・ブロック形式およびレコードの属性が使用されます。

***TAPF**

テープ・ファイルまたは一時変更からのレコード・ブロック形式の値が使用されます。

***F** EBCDIC形式またはASCII形式の固定長非ブロック化レコードが使用されます。

***FB** EBCDIC形式またはASCII形式の固定長ブロック化レコードが使用されます。

***V** EBCDIC形式の変長非ブロック化レコードが使用されます。

***VB** EBCDIC形式の変長ブロック化レコードが使用されます。

***D** ASCIIタイプD形式の変長非ブロック化レコードが使用されます。

***DB** ASCIIタイプD形式の変長ブロック化レコードが使用されます。

***VS** 可変長スパン・レコードが使用されます。

***VBS** 可変長スパン・ブロック化レコードが使用されます。

***U** 未定義の形式のレコードが使用されます。

上

コピーするレコードの数 (NBRRCDSD)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

1から4294967288

コピーするレコード数を指定してください。指定されたレコード数がコピーされる前にファイルの終わり条件が起こった場合には、コピーされるレコード数が少なくなります。

上

例

例1: コピーされたレコードの既存レコードへの追加

```
CPYFRMTAP  FROMFILE(QTAPE)  TOFILE(DEPT/YTDSALES)
            FROMSEQNBR(3)  FROMLABEL(DAILY)
            FROMDEV(QTAPE1) MBROPT(*ADD)
```

このコマンドは、磁気テープ装置ファイルQTAPEを使用して磁気テープからレコードをコピーします。装置QTAPE1でDAILYのラベルをもつ順序番号3のデータ・ファイルがコピーされます。レコード長やレコード・ブロック形式などのデータ・ファイルの特定の属性は、そのテープ上のラベルからシステムによって判別されます。レコードはメンバーDAILY中の既存のレコードに追加され、これは、ファイルYTDSALES中の、パラメーターの省略時の値(TOMBR(*FROMLABEL))によって暗示され、これはライブラリーDEPT中にあります。

例2: 既存レコードの置き換え

```
CPYFRMTAP  FROMFILE(QTAPE)  TOFILE(MYLIB/KEN)  FROMSEQNBR(2)
            FROMDEV(QTAPE1)  FROMREELS(*NL 1)  FROMRCDLEN(100)
            FROMBLKLEN(1000) FROMRCDBLK(*FB)  TOMBR(*FIRST)
            MBROPT(*REPLACE)
```

このコマンドは、磁気テープ装置ファイルQTAPEを使用して磁気テープからレコードをコピーします。1000バイト（または10レコード）を1ブロックにブロック化する固定長レコードの、磁気テープ装置QTAPE1上でラベルのない磁気テープ・ファイルの順序実行2のデータ・ファイル中のレコードがコピーされて、ライブラリーMYLIB中にあるファイルKENの最初のメンバー中の既存のレコードを置き換えます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2818

TOMBRパラメーターに*FROMMMBR値を使用することはできない。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

上

DBCSフォント・テーブルのコピー (CPYIGCTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

漢字テーブル・コピー(CPYIGCTBL)コマンドは、システム記憶域からテープ、ディスク、または物理ファイルへ、あるいはテープ、ディスク、または物理ファイルからフォント・テーブルに、2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルの一部または全部をコピーします。DBCSフォントをテープ、ディスク、または物理ファイルからフォント・テーブルにコピーすることは、システムにその定義を置くことにもなります。DBCSフォント・テーブルはオブジェクトであり、保管および復元することができます。

DBCSフォント・テーブルには、システムで使用される2バイトの外字の所定ドット・マトリックスのイメージが入っています。システムは、該当の文字を印刷および表示する場合にこのテーブルを参照します。テーブルは、システムに接続されている装置で使用される各文字のイメージ・マトリックスごとに別個のものとなっています。

このコマンドを入力する前に、次のことを考慮してください。

- コピー操作で使用するディスクは*DATA形式でなければなりません。ディスクを*DATA形式で初期化する手順はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)に記載されています。
- システムは、OPTION(*IN)が指定された時に漢字フォント・テーブルをコピーしますが、さらに次の場合にも漢字フォント・テーブルを作成します。
 - 指定されたテーブルがシステムにまだ存在していない。
 - テーブルのコピー元であるテープまたはディスクに、システム提供のすべての漢字が入っている。
 - SELECT(*ALL)またはSELECT(*SYS)が指定された。
- システムから漢字フォント・テーブルを削除する前に、その漢字フォント・テーブルをテープまたはディスクにコピーすることを考慮してください。

制約事項:テーブル情報の保管および復元に使用される物理ファイルは、74バイトの最小レコード長でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IGCTBL	DBCSフォント・テーブル	名前, QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	必須, 定位置 1
OPTION	コピー・オプション	*OUT, *IN	必須, 定位置 2
DEV	装置	名前, *FILE	必須, 定位置 3
LABEL	ファイル・ラベル	名前, *IGCTBL	オプション
SELECT	選択イメージ	*ALL, *SYS, *USER, *RANGE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
RANGE	イメージの範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ユーザー・コード	文字値, *FIRST	
	要素 2: 終了ユーザー・コード	文字値, *LAST	
RPLIMG	ユーザー・イメージの置き換え	*NO , *YES	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値, *MOUNTED	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *SEARCH , *END	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND , *LEAVE , *UNLOAD	オプション
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
MBR	メンバー	名前	オプション

上

DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)

コピーする 2 バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルの名前を指定します。次のテーブル名の 1 つを選択してください。

QIGC2424

24 X 24 のドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語 DBCS フォント・テーブル。

QIGC2424C

24 X 24 のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語 DBCS フォント・テーブル。

QIGC2424K

24 X 24 のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される韓国語 DBCS フォント・テーブル。

QIGC2424S

24 X 24 のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語 (簡体字) DBCS フォント・テーブル。

QIGC3232

32 X 32 のドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語 DBCS フォント・テーブル。

QIGC3232S

32 X 32 ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語 (簡体字) DBCS フォント・テーブル。

QIGCRRCL

コピーする DBCS フォント・テーブルの名前を指定してください。名前は常に QIGCRRCL という形式になっていなければなりません。RR はテーブル行のマトリックス・サイズ、CC はテーブル列のマトリックス・サイズ、および英字 L は任意選択の言語識別コードです。

コピー・オプション (OPTION)

2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルをコピーする方法として、システムからディスク、テープ、または物理ファイルへコピーするか、あるいはディスク、テープ、または物理ファイルからシステムへコピーするかを指定します。

***OUT** 指定された漢字フォント・テーブルは、ディスク、テープ、または物理ファイルにコピーされます。

***IN** 指定された漢字フォント・テーブルは、ディスク、テープ、または物理ファイルからシステムにコピーされます。

装置 (DEV)

コピー機能で使用されるディスク装置やテープ装置または物理ファイルの名前を指定します。

***FILE** DBCSフォント・テーブルが物理ファイルに保管されることあるいは物理ファイルから復元されることを指定します。

***装置名**

テーブルの保管先または復元元であるディスクまたはテープの名前を指定します。この装置名は、装置記述により、システム上ですでに認識されているものでなければなりません。

ファイル・ラベル (LABEL)

2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルが入っている（あるいは入れられる）ディスクまたはテープ上のデータ・ファイルの名前を指定します。このテーブルがシステムにコピーされる場合には、ラベルは、ディスクまたはテープに存在するファイルを識別します。このテーブルがディスクまたはテープにコピーされる場合には、ラベルは、ディスクまたはテープに作成されるファイルを識別します。

***IGCTBL**

ディスクまたはテープのデータ・ファイル名は、DBCSフォント・テーブル名（最初の文字がないもの）と同じです。

データ・ファイル識別コード

データ・ファイルの名前（ディスクの場合には最大8文字、テープの場合には最大17文字で、英字で始まるもの）を指定します。

選択イメージ (SELECT)

2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルのコピーされる部分を指定します。

***ALL** 弊社提供およびユーザー定義のすべての2バイト文字がコピーされます。

*SYS 弊社提供の2バイト文字だけがコピーされます。

***USER**

ユーザー定義の2バイト文字だけがコピーされます。

***RANGE**

イメージの範囲(RANGE)パラメーターに指定された範囲内にあるユーザー定義の2バイト文字だけがコピーされます。

上

イメージの範囲 (RANGE)

コピー元のユーザー定義の文字の範囲を指定します。

範囲の値に指定できる漢字コードおよび漢字番号は、このパラメーター記述の終わりのテーブルにリストされます。日本語、韓国語、中国語（繁体字）、および中国語（簡体字）の言語のテーブルが提供されます。

最初の値はコピーされる最初に文字を識別します。

コピーされる開始文字で使用できる値は次の通りです。

***FIRST**

システムは、テーブル中の最初のユーザー定義の2バイト文字からコピーを開始します。

最初のユーザー定義の文字

4文字の2バイト文字セット(DBCS)コードまたは5文字のDBCS番号を指定します。システムは指定したDBCSコードまたはDBCS番号からコピーを開始します。

コピーされる終了文字で使用できる値は次の通りです。

2番目の値により、コピーする最後の文字が識別されます。

***LAST**

システムは、最後のユーザー定義の文字を見つけると、コピーを停止します。

最後のユーザー定義の文字

4文字のDBCSコードまたは5文字のDBCS番号を指定します。これにより、システムは指定したDBCSまたはDBCS番号でコピーを停止します。

以下は、ユーザー定義文字範囲の開始値と終了値に指定する有効なコードと番号をリストした表です。

ユーザー定義文字の日本語漢字コード

6941 - 69FE	6A41 - 6AFE	6B41 - 6BFE
6C41 - 6CFE	6D41 - 6DFE	6E41 - 6EFE
6F41 - 6FFE	7041 - 70FE	7141 - 71FE
7241 - 72FE	7341 - 73FE	7441 - 74FE
7541 - 75FE	7641 - 76FE	7741 - 77FE
7841 - 78FE	7941 - 79FE	7A41 - 7AFE
7B41 - 7BFE	7C41 - 7CFE	7D41 - 7DFE
7E41 - 7EFE	7F41 - 7FFE	

ユーザー定義文字の日本語漢字番号

10561 - 10750	10817 - 11006
11073 - 11262	11329 - 11518
11585 - 11774	11841 - 12030
12097 - 12286	12353 - 12542

12609 - 12798	12865 - 13054
13121 - 13310	13377 - 13566
13633 - 13822	13889 - 14078
14145 - 14334	14401 - 14590
14657 - 14846	14913 - 15102
15169 - 15358	15425 - 15614
15681 - 15870	15937 - 16126
16193 - 16382	

ユーザー定義文字の韓国語漢字コード

D441 - D4FE	D541 - D5FE	D641 - D6FE
D741 - D7FE	D841 - D8FE	D941 - D9FE
DA41 - DAFE	DB41 - DBFE	DC41 - DCFE
DD41 - DDFE		

ユーザー定義文字の韓国語漢字番号

37953 - 38142	38209 - 38393
38465 - 38654	38721 - 38910
38977 - 39166	39233 - 39422
39489 - 39678	39745 - 39934
40001 - 40190	40257 - 40446

ユーザー定義文字の中国語（繁体字）漢字コード

D041 - D0FE	D141 - D1FE	D241 - D2FE
D341 - D3FE	D441 - D4FE	D541 - D5FE
D641 - D6FE	D741 - D7FE	D841 - D8FE
D941 - D9FE	DA41 - DAFE	DB41 - DBFE
DC41 - DCFE	DD41 - DDFE	

ユーザー定義文字の中国語（繁体字）漢字番号

36929 - 37118	37185 - 37374
37441 - 37630	37697 - 37886
37953 - 38142	38209 - 38398
38465 - 38654	38721 - 38910
38977 - 39166	39233 - 39422
39489 - 39678	39745 - 39934
40001 - 40190	40257 - 40446

ユーザー定義文字の中国語（簡体字）漢字コード

7641 - 76FE	7741 - 77FE
7841 - 78FE	7941 - 79FE
7A41 - 7AFE	7B41 - 7BFE
7C41 - 7CFE	7D41 - 7DFE
7E41 - 7EFE	7F41 - 7FFE

ユーザー定義文字の中国語（簡体字）漢字番号

13889 - 14078	14145 - 14334
14401 - 14590	14657 - 14846
14913 - 15102	15169 - 15358
15425 - 15614	15681 - 15870
15937 - 16126	16193 - 16382

上

ユーザー・イメージの置き換え (RPLIMG)

指定したテーブルのユーザー定義の2バイト文字をテープまたはディスク上で見つかった2バイト文字に置き換えるかどうかを指定します。この値は、テープまたはディスクからシステムへコピーするときにだけ指定してください。

***NO** システムは、システムに記憶されているテーブル中のユーザー定義の2バイト文字を、テープまたはディスク上で見つかったユーザー定義の2バイト文字で置き換えません。

***YES** システムは、システムに記憶されているテーブル中のユーザー定義の2バイト文字を、テープまたはディスク上で見つかったユーザー定義の2バイト文字で置き換えます。

上

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリュームIDを指定してください。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリューム識別コード

テープ装置またはディスク装置に入っている1つまたは複数のディスクまたはテープを、コピー操作で使用される順序どおりに指定します。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

満了日を指定します。ファイルは満了日まで上書きすることはできません。満了日は、現在日付と等しいかまたはそれより後でなければなりません。

***PERM**

データ・ファイルは永続的に保護されます。

満了日 ファイルがもはや保護されなくなる日を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

順序番号 (SEQNBR)

コピー操作の開始点として使用される順序番号を指定します（テープが使用される場合のみ）。

***END** システムは、システムからテープにコピーする場合にはテープの最後の順序番号の後にテーブルをコピーします。

***SEARCH**

ファイル・ラベル(LABEL)パラメーターに指定された名前と一致する名前のデータ・ファイルを見

つけるために、テープ装置に入っているテープが検索されます。一致する名前が見つかり、テーブルがシステムにコピーされます。ファイルの検索は、現在のテープ位置より後にある最初のデータ・ファイルから開始されます。

ファイル順序番号

コピー操作に使用されるファイルの順序番号を指定します。

上

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされません。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

上

ファイル (FILE)

(DBCS)フォント・テーブルが入っている既存の物理ファイルの名前を指定します。

物理ファイルの名前は、次のライブラリー値によって修飾することができます。

ライブラリー名

使用するライブラリーの名前を指定してください。

物理ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

上

メンバー (MEMBER)

保管先または保管元の既存の物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

例

```
CPYIGCTBL IGCTBL(QIGC2424) OPTION(*OUT)
          LABEL(*IGCTBL) DEV(QDKT)
```

このコマンドは、システムに日本語DBCSフォント・テーブルQIGC2424全体をシステムからディスクケットにコピーさせます。ディスクケット上のラベルの名前はIGC2424です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8181

DBCSフォント・テーブル&4に損傷がある。

CPF8416

DBCSフォント・テーブル&1は更新されず、イメージはコピーされなかった。

CPF8417

RANGEキーワードにエラーが見つかった。

CPF8418

データ・ファイル&2を使用してDBCSフォント・テーブル&1をコピーすることはできない。

CPF8419

DBCSフォント・テーブル&1は作成されず、イメージはコピーされなかった。

CPF8420

エラーのためにCPYIGCTBLコマンドが終了した。

CPF8421

DBCSフォント・テーブル&1が見つからない。

CPF8422

漢字フォント・テーブル&1を使用することはできない。

CPF8423

キーワードIGCTBLにエラーが見つかった。

CPF8426

装置&1が見つからなかったか、あるいはコマンドに対して正しくない。

CPF8427

DBCSフォント・テーブル&1は移行されなかった。

上

ライブラリー・コピー (CPYLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー・コピー(CPYLIB)コマンドは、ライブラリーの内容を新しいライブラリーにコピーします。新規ライブラリーが存在していない場合は、このコマンドがコピー前にオプションで作成します。

コピーされたオブジェクトはすべて、新規ライブラリーと同じ補助記憶域プール(ASP)に作成されます。新規ライブラリーにすでに存在している新規ライブラリーは、新規オブジェクトのコピー後に新規ライブラリー内に残っています。

注:新規ライブラリーをこのコマンドで作成する場合は、以下の通りです。

- 新規ライブラリーは、既存ライブラリーと同じASPに作成されます。
- 既存のライブラリーのライブラリー・タイプ、作成権限、およびオブジェクト監査の作成の値が新規ライブラリーにコピーされます。
- 新規ライブラリーの共通権限はQSYSライブラリーの作成権限と同じです。QSYSライブラリーの作成権限はライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用して表示することができます。新規ライブラリーの作成後に、ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドによってQSYSライブラリーの作成権限を変更すると、新規権限は新規ライブラリーの共通権限に影響を及ぼしません。
- 既存ライブラリーの専用権限は新規ライブラリーにはコピーされません。
- 権限を既存ライブラリーから新規ライブラリーにコピーするために参照オブジェクト (REFOBJ)パラメーターに既存ライブラリーを指定してオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドを使用することができます。
- 新規ライブラリーの所有者はコマンドを出したユーザーのユーザー・プロファイルか、またはグループ・プロファイル (コマンドを出したユーザーのユーザー・プロファイルがグループ・プロファイルが所有者であると指定されているメンバー・ユーザー・プロファイルである場合) のいずれかです。
- 既存ライブラリーが権限リストによって保護されていても、新規ライブラリーは権限リストによって保護されません。
- 既存のライブラリーのジャーナル処理継承ルールは新規ライブラリーにコピーされません。

ライブラリー記述の表示(DSPLIBD)コマンドを使用して、ライブラリーのジャーナル情報を表示してください。ライブラリーのジャーナル処理の詳細については、ライブラリーのジャーナル開始(STRJRNLIB)コマンドを参照してください。

制約事項:

- オブジェクト複製(CRTDUPOBJ)コマンドがサポートしているオブジェクト・タイプしかコピーできません。CRTDUPOBJコマンドの制限はこのコマンドにも適用されます。
- このコマンドが完了前に中断されると、結果は予測できません。
- 別のジョブが既存のライブラリー (FROMLIB)パラメーターに指定されたライブラリー内のオブジェクトのいずれかを処理しようとする時、結果は予測不能です。例えば、次の通りです。
 - コピーが開始された後に既存ライブラリー内に作成されたオブジェクトは、コピーされません。

- コピーが開始された後に既存ライブラリーからオブジェクトが削除された場合は、このコマンドのユーザーがエラー・メッセージを受け取ります。
- 既存ライブラリー内のオブジェクトが使用中か、あるいは別のジョブによってロックされている場合には、コピーは正常に行なわれていないことがあります。
- コピーが完了するまで、他のジョブが**新しいライブラリー (TOLIB)**パラメーターに指定されたライブラリー内のオブジェクトを使用しようとしてはいけません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMLIB	既存のライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TOLIB	新しいライブラリー	名前	必須, 定位置 2
CRTLIB	ライブラリー作成	<u>*YES</u> , *NO	オプション
DATA	データの複写	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CST	重複制約	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TRG	重複トリガー	<u>*YES</u> , *NO	オプション
FILEID	重複ファイルID	<u>*NO</u> , *YES	オプション

上

既存のライブラリー (FROMLIB)

コピーする既存ライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 コピーする既存ライブラリーの名前を指定してください。

上

新しいライブラリー (TOLIB)

既存ライブラリーからのオブジェクトのコピー先の新規ライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 オブジェクトのコピー先のライブラリーの名前を指定してください。

上

ライブラリー作成 (CRTLIB)

新規ライブラリーを作成するかどうかを指定します。

***YES** 既存ライブラリーの内容が新規ライブラリーにコピーされる前に、新規ライブラリーはこのコマンドで作成されます。新規ライブラリーがすでに存在している場合は、エラー・メッセージが出されます。

***NO** 新規ライブラリーは作成されません。新規ライブラリーが存在していない場合は、エラー・メッセージが出されます。

上

データの複写 (DATA)

既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルまたは保管ファイル内のデータ・レコードを、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーするかどうかを指定します。中に入っているデータがコピーされるかどうかにかかわらず、物理ファイルのメンバーがコピーされます。データベース物理ファイルまたは保管ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

***YES** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードは、新規ライブラリー中の新規オブジェクトにコピーされます。

注: 新しいファイルの相対レコード番号は元のファイルと同じです。

***NO** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードは、新規ライブラリー中の新規オブジェクトにコピーされません。

上

重複制約 (CST)

既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連した制約は、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされます。データベース物理ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

***YES** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連した制約は、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされます。

***NO** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連した制約は、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされません。

上

重複トリガー (TRG)

既存のライブラリー内のデータベース・ファイルと関連したトリガーを、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーするかどうかを指定します。データベース・ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

注: トリガーの複写に関して注意する必要がある特別な考慮事項があります。例えば、複写では、既存のファイルと関連したトリガー・プログラムが既存のファイルと同じライブラリー中にあったかどうかによって異なります。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリーを参照してください。

- *YES** 既存のライブラリー内のデータベース・ファイルと関連したトリガーは、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされます。
- *NO** 既存のライブラリー内のデータベース・ファイルと関連したトリガーは、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされません。

上

重複ファイルID (FILEID)

既存のライブラリーのデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが新規ライブラリーの新しく作成するファイルで使用されるかどうかを指定します。データベース・ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

- *NO** 既存のライブラリーのデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDは新規ライブラリーの新しく作成するファイルで使用されません。新しく作成するファイルのメンバー・レベルおよびファイル・レベル IDは、システムによって生成されます。例えば、1070224092922 などです。
- *YES** 既存のライブラリーのデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが新規ライブラリーの新しく作成するファイルで使用されます。同じファイル・レベルおよびメンバー・レベル IDを持つ2つのデータベース・ファイルを持つと、データベースの操作に影響する場合があります。この値は、まったく同じデータベース・ファイルが必要な場合にのみ使用すべきです。

上

例

例1: 新規ライブラリーの作成後にライブラリーの内容を新規ライブラリーにコピーする

```
CPYLIB FROMLIB(MYLIB) TOLIB(NEWLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーNEWLIBの作成後にライブラリーMYLIBの内容をライブラリーNEWLIBにコピーします。ライブラリーMYLIB中のデータベース物理ファイルと関連したデータ・レコード、制約、およびトリガーがライブラリーNEWLIB中のデータベース物理ファイルにコピーされます。新しいファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが、ライブラリーNEWLIBに作成された各データベース・ファイル用に生成されます。これは、ライブラリーNEWLIBに作成されたデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが、コピー元のライブラリーMYLIBのデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDと違うことを意味します。

例2: ライブラリーの内容を既存のライブラリーにコピーする

```
CPYLIB FROMLIB(MYLIBA) TOLIB(MYLIBB) CRTLIB(*NO) +  
DATA(*YES) CST(*NO) TRG(*NO) FILEID(*YES)  
MONMSG MSGID(CPF2358)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBAの内容を既存のライブラリーMYLIBBにコピーします。コピーされたオブジェクトはすべて、ライブラリーMYLIBBとして同じ補助記憶域プール(ASP)内に作成されます。ライブラリーMYLIBBに既に存在していたオブジェクトはライブラリーMYLIBA からコピーされず、それらのオブジェクトは新規オブジェクトのコピー後もライブラリーMYLIBB内に残っています。ライブラリーMYLIBAのデータベース物理ファイル内のデータ・レコードは、ライブラリーMYLIBBに作成されたデータベース物理ファイルにコピーされます。ライブラリーMYLIBAのデータベース・ファイルと関連した制約お

よびトリガーは、ライブラリーMYLIBBに作成されたデータベース・ファイルにコピーされません。ライブラリーMYLIBBに作成された各データベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDは、コピー元のライブラリーMYLIBAのデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDと同じになります。

MONMSGコマンドによってエスケープ・メッセージCPF2358を無視できます。このメッセージは、ライブラリーMYLIBA中のすべてのオブジェクトをライブラリーMYLIBBにコピーできない場合に通知することができます。オブジェクトをコピーできない1つの理由は、そのオブジェクトがライブラリーMYLIBB中にすでに存在する場合です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2358

ライブラリー&1はコピーされなかったかあるいは部分的にコピーされた。

CPF2365

FROMLIBとTOLIBパラメーターに同じライブラリーを指定することはできない。

上

光ディスク・コピー (CPYOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・コピー(CPYOPT)コマンドは、指定されたディレクトリーの中の特定のファイル、すべてのファイル、新しいファイル、または変更されたファイルを別のディレクトリーまたは別の光ディスク・ボリュームにコピーします。また、このコマンドによって次のこともできます。

- ファイルをコピーするためのディレクトリーを作成する
- 指定されたディレクトリー中のすべてのサブディレクトリーとそのファイルをコピーする
- 同じ名前の既存のファイルを置き換える

コピー元ボリュームまたはコピー先ボリュームがバックアップ用光ディスク・ボリュームである場合には、ディレクトリー、サブディレクトリー、およびファイルの名前がコピー操作中に変更されることはありません。また、ディレクトリー、サブディレクトリー、またはファイルの作成およびモディフィケーション日付および時刻も、コピー操作中に変更されることはありません。

制約事項: このコマンドを使用するためには、コピーされるボリューム(FROMVOL)を保護するために権限リストに対する*USE権限が必要であり、新しいボリューム(TOVOL)を保護するために権限リストに対する*CHANGE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMVOL	FROMボリューム識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ボリューム	文字値	
	要素 2: ボリューム・タイプ	<u>*PRIMARY</u> , *BACKUP	
FROMPATH	FROM経路	文字値	必須, 定位置 2
TOVOL	TOボリューム識別コード	要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: ボリューム	文字値, *FROMVOL	
	要素 2: ボリューム・タイプ	<u>*PRIMARY</u> , *BACKUP	
TOPATH	TO経路	文字値, *FROMPATH	オプション
SLTFILE	コピーするファイルの選択	<u>*CHANGED</u> , *NEW, *ALL	オプション
CPYSUBDIR	サブディレクトリー・コピー	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CRTDIR	ディレクトリー作成	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ALWCPYOPP	反対側へのコピー可能	<u>*NO</u> , *YES	オプション
COPYTYPE	コピー・オプション	<u>*IOP</u> , *SYSTEM	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u>	
	要素 2: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	

FROMボリューム識別コード (FROMVOL)

コピーされるディレクトリーおよびファイルが入っている光ディスク・ボリュームのボリュームIDおよびタイプを指定します。

要素1: ボリューム

ボリュームID

コピーされるディレクトリーおよびファイルが入っているボリュームのID を指定してください。

要素2: ボリューム・タイプ

*PRIMARY

光ディスク・ボリュームが基本ボリュームとなります。

*BACKUP

光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとなります。

FROM経路 (FROMPATH)

コピー元ボリュームからコピーされるディレクトリーまたはファイルのパス名を指定します。パス名がディレクトリーである場合には、指定されたディレクトリー中のすべてのファイルがコピーされます。パス名がファイルである場合には、そのファイルだけがコピーされます。

TOボリューム識別コード (TOVOL)

ディレクトリーおよびファイルのコピー先の光ディスク・ボリュームのボリュームIDおよびタイプを指定します。

要素1: ボリューム

*FROMVOL

ボリュームIDは、オブジェクトのコピー元の光ディスク・ボリュームのIDと同じとなります。

ボリュームID

オブジェクトのコピー先の光ディスク・ボリュームの名前を指定してください。

要素2: ボリューム・タイプ

*PRIMARY

光ディスク・ボリュームが基本ボリュームとなります。

*BACKUP

光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとなります。新しいバックアップ・ボリュームを使用するか、あるいはオブジェクトのコピー先のボリュームとして前に使用されたバックアップ・ボリュームを使用することができます。バックアップ・ボリュームの詳細については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

TO経路 (TOPATH)

書き込まれるファイルのパス名、あるいはボリュームのルート・ディレクトリーから始まるコピー先ボリュームの新規ファイルを受け取るパス名を指定します。

***FROMPATH**

パス名は、コピー元ボリュームからコピーされるファイルまたはディレクトリーのパス名と同じになります。

'パス名'

コピーされるファイルを受け取るディレクトリーのパス名、あるいは書き出されるファイルのパス名を指定してください。

コピーするファイルの選択 (SLTFILE)

コピー用のファイルまたはディレクトリーの選択方法を指定します。指定されたSLTFILE値に基づいてファイルがコピーされなくても、これはエラー条件と見なされません。ファイルは完了メッセージで「コピーに不適合」と見なされますが、それでもコマンドはエラーなしで完了することができます。

***CHANGED**

コピー元ボリュームのファイルの変更日付および時刻がコピー先ボリュームのファイルのものより後である場合に、ファイルがコピーされます。ファイルが変更されている場合には、2組の日付および時刻が決ります。すなわち、ファイルが最後に変更された日付および時刻、またはファイル属性が最後に変更された日付および時刻。これらの日付および時刻は、光ディスク表示(DSPOPT)コマンドにDATA(*FILATR)を指定することによって、表示することができます。

***ALL** すべてのファイルがコピーされます。コピー先ボリュームにあるファイルは日付が同じであっても置き換えられます。

***NEW** コピー先ボリュームにないファイルだけがコピーされます。

サブディレクトリー・コピー (CPYSUBDIR)

サブディレクトリー中のファイルをコピーするかどうかを指定します。

***NO** サブディレクトリーとサブディレクトリー内のファイルはコピーされません。

***YES** サブディレクトリー中のファイルはコピーされます。コピー先ボリュームにサブディレクトリーがない場合には、作成されます。新しく作成されるサブディレクトリーは、親ディレクトリーの名前が異なることがあっても、コピー元ボリュームにあったものと同じ名前となります。

コピー操作に先立って、結果として作成される新しいパス名がパス名の最大長を超えないかどうかを検査されます。また、ディレクトリーのすべてのサブディレクトリーを同じボリューム上のそのディレクトリーのサブディレクトリーにコピーしようとしていないかどうかを検査されます。

ディレクトリー作成 (CRTDIR)

コピー先ボリュームにディレクトリーがない場合に、コピー先パスの最後のディレクトリーが作成されるかどうかを指定します。コピー先パスのすべての要素の存在は、最後の要素を除いてCPYOPT要求が開始される前に、検査されます。

注: コピー先ボリュームまたはコピー元ボリュームのいずれかがバックアップ・タイプの光ディスク・ボリュームとして初期設定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** コピー先ボリュームにディレクトリーがない場合には、コピー先パスの最後のディレクトリーは作成されません。

***YES** コピー先ボリュームにディレクトリーがない場合には、コピー先パスの最後のディレクトリーが作成されます。このパラメーターはファイルまたはディレクトリーのコピー先のディレクトリーを指定するだけで、そのディレクトリー下のサブディレクトリーには適用されません。CPYSUBDIRパラメーターはサブディレクトリーが作成されるかどうかを制御します。

上

反対側へのコピー可能 (ALWCPYOPP)

ファイルまたはディレクトリーを、光ディスク・カートリッジの一方の側のボリュームから反対側にコピーできるようにするかどうかを指定します。

注: 大量のデータを光ディスク・カートリッジの反対側にコピーする時には、システム・パフォーマンスが低下します。

***NO** コピー先ボリュームがコピー元ボリュームの反対側にある場合には、コピー操作は試みられません。この値を使用することにより、不注意によって光ディスク・カートリッジの反対側にコピーすることを避けることができます。

***YES** コピー先ボリュームがコピー元の反対側にある場合に、コピー操作が試みられます。

注: コピー元ボリュームまたはコピー先ボリュームの光ディスク・カートリッジがバックアップ・タイプの光ディスク・ボリュームとして初期設定されている場合には、この値は無効となります。

上

コピー・オプション (COPYTYPE)

コピー要求に対して使用される処理のタイプを指定します。

***IOP** 入出力プロセッサ(IOP)が、1つのボリュームから別のボリュームに最少のデータ移動で、データをコピーします。2つのボリュームが必要な場合には、光ディスク媒体ライブラリーの2つのドライブがコピー操作の期間中に割り振られます。

注: COPYTYPE(*IOP)を指定することにより、コピー要求に対して最高のパフォーマンスが提供されます。しかし、光ディスク媒体ライブラリー中の2つの光ディスク・ドライブがコピー操作の間に割り振られるので、光ディスク媒体ライブラリー中の他のボリュームに対する要求の対話機能に不利な影響を与えることもあります。

***SYSTEM**

システムは使用可能な資源を使用してデータをコピーします。以下の場合は、このタイプの処理が自動的に使用されます。

- 操作できるドライブが1つだけである。
- 2つのボリュームが別々の光ディスク・ライブラリーに入っている。
- 2つのボリュームが同じ光ディスク・カートリッジの反対サイドにある。
- いずれか一方の媒体形式が汎用ディスク形式(UDF)である。
- ボリュームのコード化文字セットが異なっている。

コピー操作中に光ディスク媒体ライブラリー中のボリュームに対して対話式要求が行なわれる場合には、このオプションをお奨めします。

上

開始日および時刻 (FROMTIME)

コピー用のファイルまたはディレクトリーを選択するかどうかを決定するために使用される開始日および開始時刻を指定します。開始日および開始時刻以降に、作成または変更されているか、属性が変更されているすべてのファイルまたはディレクトリーがコピー用に選択されます。このパラメーターは、単一ファイルをコピーする場合、またはバックアップ・ボリュームから1次ボリュームにコピーする場合は無視されます。

次のようにすることによって、ファイルが最後に作成または変更された日時を判別することができます。

1. 光ディスク表示(DSPOPT)コマンドにDATA(*FILATR)を指定する。
2. 階層ファイル・システム(HFS)のAPIプログラムQHFRTVATを使用する。標準属性QWRTDTTMはファイルの最終変更日付と時刻です。拡張属性OPT.CHGATDTTMは属性の最終変更日付と時刻です。

要素1: 開始日付

*BEGIN

見つかったすべての日付が使用されます。すべてのファイルおよびディレクトリーがコピー用に選択されます。

開始日 開始点として使用する日付を指定してください。開始日以降に作成または変更されたすべてのファイルが選択されます。

日付はシステム値QDATFMT（区切り記号を使用する場合には、QDATSEP）によって指定された形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

*AVAIL

開始日に対して使用可能なすべての時刻が使用されます。

開始時刻

開始時刻または開始日として使用する時刻を指定してください。時刻区切り記号はシステム値QTIMSEPによって定義されます。区切り記号は次の通りです。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のSTRINGで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、STRINGをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された時刻区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のSTRING(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。

例

例1:すべてのディレクトリー内のすべてのファイルのコピー

```
CPYOPT FROMVOL(VOL01) FROMPATH('/') TOVOL(VOL02)
        CPYSUBDIR(*YES) SLTFILE(*ALL) CRTDIR(*YES)
```

このコマンドは、ディレクトリーおよびサブディレクトリーのすべてのファイルのすべてを光ディスク・ボリュームVOL01から光ディスク・ボリュームVOL02にコピーします。ディレクトリーがボリュームVOL02に存在していない場合は、そのディレクトリーは作成されます。ファイルがボリュームVOL02上にすでに存在している場合は、そのファイルは置き換えられます。

例2:変更済みファイルのコピー

```
CPYOPT FROMVOL(VOL01) FROMPATH('/DIR1/DIR2') TOVOL(VOL02)
```

このコマンドは、ディレクトリー/DIR1/DIR2内のすべての変更済みファイルを光ディスク・ボリュームVOL02上の同じファイルにコピーします。

例3:ファイルのバックアップから1次ボリュームへのコピー

```
CPYOPT FROMVOL(VOL01BACKUP *BACKUP) FROMPATH('/DIR1')
        TOVOL(VOL02) CPYSUBDIR(*YES)
```

このコマンドは、光ディスク・バックアップ・ボリュームVOL01BACKUP上のディレクトリー/DIR1内のファイルおよびサブディレクトリーのすべてを、1次光ディスク・ボリュームVOL02上の同じファイルにコピーします。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT0147

操作にはSLTFILE値を使用することができない。

OPT0149

FROMPATH値にはCPYSUBDIR(*YES)は使用できない。

OPT0152

FROMTIME(*BEGIN)では指定した開始時刻は使用できない。

OPT1105

ファイルは読み取り専用である。

OPT1115

ファイルが見つからない。

OPT1120

ファイルはすでに存在している。

OPT1125

ファイルが使用中。

- OPT1129**
拡張バッファ入出力用にオープンされているファイルには操作は行なえません。
- OPT1130**
指定されたファイル名は予約ファイル名である。
- OPT1135**
オープン・ファイル数が限界に達したので要求は失敗しました。
- OPT1140**
ファイル処理中に予期しないエラーが起こった。
- OPT1185**
保留中の光ディスク・ファイルをアクセスすることができない。
- OPT1205**
ディレクトリーが見つからない。
- OPT1212**
ディレクトリーが使用中です。
- OPT1220**
ファイルまたはディレクトリー名はすでに存在している。
- OPT1224**
パスの長さが最大値の256バイトを超えている。
- OPT1255**
ファイルが壊れている。
- OPT1261**
ボリューム&1で活動ファイルが見つかった。
- OPT1305**
光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。
- OPT1315**
光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。
- OPT1317**
ディレクトリー名が長すぎる。
- OPT1320**
光ディスク・ボリューム&1は使用中である。
- OPT1325**
光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。
- OPT1330**
光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。
- OPT1331**
光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。
- OPT1340**
光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。
- OPT1344**
光ディスク・ファイル名が正しくない。

OPT1345

媒体上に使用可能なフリー・スペースがありません。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗しました。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1462

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームではありません。

OPT1463

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームが基本ボリュームではありません。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1640

ファイルまたはディレクトリーの読み取り中にエラーが起こった。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1795

ディレクトリー属性のアクセス中にエラー。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1813

予期しないエラーが起こった。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

- OPT1860**
光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。
- OPT1861**
装置&1に構成された装置記述がない。
- OPT1862**
資源&1に活動状態の装置記述がない。
- OPT1863**
光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。
- OPT1872**
光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。
- OPT2001**
&1個のファイルがコピーされ、&2個のファイルまたはディレクトリーがコピーされませんでした。&8個のファイルはコピーに不適合です。
- OPT2004**
コピー要求が終了した。&1個のファイルはコピーされました。
- OPT2005**
ディレクトリーにファイルが見つからない。
- OPT2006**
ディレクトリー・パスが長すぎる。
- OPT2007**
TOVOLはFROMVOLの反対側にある。
- OPT2008**
コピー要求は使用できない。
- OPT2009**
バックアップ・ボリュームからのコピーは許されない。
- OPT2010**
バックアップ・ボリュームへのコピーは許されない。
- OPT2015**
ファイルをコピーすることができなかった。
- OPT2028**
指定された光ディスク・ボリュームではバックアップへのコピーは行なえない。
- OPT2029**
TOVOLはFROMVOLの反対側にある。
- OPT2040**
バックアップ制御ファイルのアクセス中にエラー。
- OPT2301**
内部システム・オブジェクトが使用中である。
- OPT2420**
光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。
- OPT2422**
ファイルまたはディレクトリーに対して許可されていません。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

上

パフォーマンス収集のコピー (CPYPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集のコピー (CPYPFRCOL)コマンドは、パフォーマンス収集のコピーを作成します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMCOL	FROM収集	名前, <u>*SELECT</u>	オプション, 定位置 1
FROMLIB	FROMライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
TOCOL	宛先収集	名前, <u>*FROMCOL</u>	オプション
TOLIB	TOライブラリー	名前, <u>*FROMLIB</u>	オプション
COLTYPE	収集タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値, <u>*CSFILE</u>	オプション

上

FROM収集 (FROMCOL)

コピーするパフォーマンス収集を指定します。

*SELECT

コピーするパフォーマンス収集をユーザーが選択できるように、指定されたライブラリーにあるすべての収集をリストします。

注: この値が有効なのは、パフォーマンス収集をコピーするジョブが対話式に投入されている場合のみです。

名前 コピーするパフォーマンス収集を指定してください。

上

FROMライブラリー (FROMLIB)

パフォーマンス収集が入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス収集は、弊社提供パフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス収集が入っているライブラリーの名前を指定してください。

宛先収集 (TOCOL)

パフォーマンス・データのコピー先のパフォーマンス収集の名前を指定します。

*FROMCOL

新しいパフォーマンス収集は、**FROM収集 (FROMCOL)**パラメーターで指定されるパフォーマンス収集と同じ名前になります。これを指定する場合には、新しいパフォーマンス収集と元のパフォーマンス収集が異なるライブラリーになければなりません。

名前 パフォーマンス・データをコピーする先のパフォーマンス収集の名前を指定してください。

上

TOライブラリー (TOLIB)

パフォーマンス収集の新しいコピーが保管されるライブラリーを指定します。

*FROMLIB

新しいパフォーマンス収集は、コピー元の収集と同じライブラリーに保管されます。

名前 新しいパフォーマンス収集を保管するライブラリーの名前を指定してください。

上

収集タイプ (COLTYPE)

コピーされる収集のタイプを指定します。

単一値

***ALL FROM収集 (FROMCOL)**パラメーターに指定されたものと同じ名前のすべてのタイプのパフォーマンス収集がコピーされます。これには、ファイル・ベースの収集とオブジェクト・ベースの収集が含まれます。

その他の値 (最大10個指定可能)

*CSFILE

FROM収集 (FROMCOL)パラメーターに指定された、収集サービスのファイル・ベースの収集のみがコピーされます。

*CSMGTCOL

FROM収集 (FROMCOL)パラメーターに指定された、収集サービスのオブジェクト・ベースの収集のみがコピーされます。

*DWFIL

FROM収集 (FROMCOL)パラメーターに指定された、ディスク監視のファイル・ベースの収集のみがコピーされます。

*JWFIL

FROM収集 (FROMCOL)パラメーターに指定された、ジョブ監視のファイル・ベースの収集のみがコピーされます。

*PEXFILE

FROM収集 (**FROMCOL**)パラメーターに指定された、Performance Explorerのファイル・ベースの収集のみがコピーされます。

*PEXMGTCOL

FROM収集 (**FROMCOL**)パラメーターに指定された、Performance Explorerのオブジェクト・ベースの収集のみがコピーされます。

タイプ コピーする収集のタイプを指定してください。

有効な値は、システムによってサポートされるパフォーマンス収集によって異なります。このコマンド・パラメーターのプロンプトが表示されている間にF4を押すと、有効な収集タイプ値のリストが表示されます。

上

例

例1:パフォーマンス収集のリストを表示

```
CPYPFRCOL
```

このコマンドは、QPFRCOLライブラリー内のすべてのパフォーマンス収集を選択用に表示します。ユーザーは、コピーするパフォーマンス収集をこのリストから選択できます。

例2:データをコピー

```
CPYPFRCOL FROMCOL(COL1) TOLIB(NEWLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRCOL内のパフォーマンス収集COL1を、ライブラリーNEWLIBにコピーします。ライブラリーNEWLIB内の新規コピーの名前はCOL1になります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

```
CPFC731
```

パフォーマンス収集&2をコピーできません。

上

プログラム一時修正コピー (CPYPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正コピー(CPYPTF)コマンドは、指定されたプログラム一時修正(PTF)をテープ、光ディスク、サービス、または保管ファイルから、テープ、光ディスク媒体、または保管ファイルにコピーします。各PTFには、プログラムを含め、1つまたは複数のオブジェクトが入っています。これはプログラム一時修正ロード (LODPTF)コマンドによってロードされ、プログラム一時修正適用 (APYPTF)コマンドによってプロダクトに適用できます。

制約事項:

- このコマンドは、除外(*EXCLUDE)共通権限をともなって出荷されます。 QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用権限があります。
- コピーされるPTFにターゲット・リリースがない場合、あるいは指定されたターゲット・リリースが有効な保管および復元リリースでない場合には、PTFオブジェクトの最初に有効な保管および復元ターゲット・リリースにコピーされます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
FROMDEV	取り出し装置	名前, *SERVICE, *SAVF	必須, 定位置 2
TODEV	受け取り装置	名前, *SAVF	必須, 定位置 3
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 4
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY	オプション
FROMSAVF	取り出し保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 取り出し保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMSEQNBR	取り出しテープ順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
FROMENDOPT	FROM媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
FROMPATHID	FROM経路識別コード	1-9999, *FIRST, *SELECT	オプション
TOVOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
TOSEQNBR	受け取りテープ順序番号	1-16777215, *END	オプション
TOENDOPT	TO媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
TOSAVF	受け取り保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受け取り保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CLEAR	消去	*NONE, *ALL	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COVER	PTFカバー・レター・コピー	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CVRLTRLNG	カバー・レター言語	文字値, <u>*ONLY</u>	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES	オプション

上

プロダクト (LICPGM)

コピーするPTFのプロダクトの7桁のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

取り出し装置 (FROMDEV)

PTFがどの装置からコピーされるのかを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SERVICE

保守サポート・システムから送られたPTFがコピーされます。

*SAVF

PTFは保管ファイルからコピーされます。

名前 PTFのコピー元であるテープまたは光ディスク装置の名前を指定します。

上

受け取り装置 (TODEV)

PTFをコピーする場合のコピー先の装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SAVF

PTFは保管ファイルにコピーされます。

名前 PTFのコピー先であるテープ、または光ディスク装置の名前を指定してください。

上

選択するPTF番号 (SELECT)

どのPTFをコピーするかを指定します。個別のPTFを指定した場合には、除外するPTF番号 (OMIT)パラメーターに値を指定することはできません。

単一値

***ALL** すべてのPTFがコピーされます。 ***SERVICE**の値が**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに指定された場合には、このパラメーターを指定することはできません。

その他の値 (最大50個指定可能)

文字値 コピーする各プログラミング修正のPTF番号を指定してください。

上

除外するPTF番号 (OMIT)

このパラメーターに指定されたものを除いて、すべてのPTFをコピーするように指定します。残りのすべてをコピーする時に、コピーしないプログラミング修正のPTF番号を指定してください。最大50個のPTF番号を指定することができます。 **選択するPTF番号 (SELECT)**パラメーターに単一のPTF番号を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

文字値 除外される (コピーされない) 各プログラム修正のPTF番号を指定してください。

上

リリース (RLS)

ソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルを指定します。

***ONLY**

この値が有効なのは、FROMDEV(*SERVICE)が指定された時にシステム上に導入またはサポートされているリリースが1つだけか、あるいはFROMDEVパラメーターが光ディスク装置で、媒体上にあるプロダクトのリリースが1つだけの場合だけです。 FROMDEVパラメーターがテープ装置の場合には、媒体上のソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルは無視されます。

文字値 リリース・レベルをVXR YMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

上

取り出し保管ファイル (FROMSAVF)

PTFがどの保管ファイルからコピーされるのかを指定します。

注: このパラメーターは、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

修飾子1: 取り出し保管ファイル

名前 保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)

PTFをコピーする場合のコピー元のテープ・ボリューム上の順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を取り出し装置(FROMDEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***SEARCH**

テープ・ボリュームは、ライセンス・プログラムの最初のPTFファイルについて検索してから、そのPTFをコピーします。

1から16777215

PTFデータのコピーを開始したい順序番号を指定してください。この順序番号はテープ上に存在しなければなりません。

上

FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)

PTFコピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュームで実行される操作を指定してください。テープの1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームに適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がFROMDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

FROM経路識別コード (FROMPATHID)

コピーしたいPTFが入っている、光ディスク媒体上のファイルの識別番号を指定します。光ディスク媒体上に存在する各プロダクトおよびリリースのPTFファイルにはパスIDの番号があり、これによって特定の順序でファイル进行处理できます。指定されたパスIDからのPTFだけがシステム上にコピーされます。

注: このパラメーターが有効なのは、光ディスク装置名を取り出し装置(FROMDEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***FIRST**

指定されたプロダクトおよびリリースの光ディスク媒体で最初のPTFファイルが検索されます。これはSELECTパラメーターに指定された検索従属性に従って行われます。

- SELECTパラメーターに特定のPTF IDが指定された場合には、指定されたPTFの最初のオカレンスがコピーされます。
- SELECTパラメーターに*ALLが指定された場合には、最低のパスIDをもつ既存のPTFファイルがコピーされます。

***SELECT**

光ディスク媒体上に存在し、プロダクトおよびリリースと一致するPTFファイルのリストが表示されます。特定のファイルを選択して、そこからPTFをコピーすることができます。バッチ環境では、この値は選択できません。

1から9999

既存のPTFファイルのパスID番号を指定し、そこからプロダクトおよびリリースのPTFデータをコピーします。

上

ボリューム識別コード (TOVOL)

コピーされたPTFを受け取るテープ、または光ディスク・ボリュームIDを指定してください。

注: このパラメーターが有効なのは、テープまたは光ディスク装置名を受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

文字値 テープまたは光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

上

受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)

コピーされたPTFを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定した場合だけです。

*END PTFはテープの終わりにコピーされます。

1から16777215

コピーされたPTFを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定してください。

TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)

PTFコピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュームで実行される操作を指定してください。テープの1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームに適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がTODEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

受け取り保管ファイル (TOSAVF)

PTFをコピーする場合のコピー先の保管ファイルを指定します。

修飾子1: 受け取り保管ファイル

名前 保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

消去 (CLEAR)

PTFのコピーで自動的に消去される時に、見つかった保管ファイルを消去しないかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、受け取り装置 (TODEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

***NONE**

未消去保管ファイルは自動的に消去されません。

***ALL** 未消去保管ファイルは自動的に消去されるので、操作を続行することができます。

上

PTFカバー・レター・コピー (COVER)

PTFのカバー・レターをコピーするかどうかを指定します。カバー・レターは、複数のPTF (SELECTパラメーター) でFROMDEV(*SERVICE)が指定されている場合はコピーされません。

***YES** カバー・レターがコピーされます。

***NO** カバー・レターはコピーされません。

上

カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

コピーされるPTFのカバー・レター言語を指定してください。FROMDEV(*SERVICE) が指定されてPTFに複数のカバー・レターがある (複数言語) 場合には、コピーしたいカバー・レターの言語機能コードを指定してください。

注: このパラメーターは、 **PTFカバー・レター・コピー (COVER)**パラメーターに*YESが指定されている場合にのみ有効です。

***ONLY**

言語機能コードにかかわらず、PTFと関連したカバー・レターだけがコピーされます。

文字値 コピーしたいPTFカバー・レターの言語機能コードを指定してください。言語機能コードを指定できるのは、FROMDEVパラメーターに*SERVICEを指定した場合だけです。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。 そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。 圧縮がサポートされていない場合、あるいは保管データが保管ファイルに書き込まれる場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。 システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

上

例

例1: PTFの保管ファイルへのコピー

```
CPYPTF LICPGM(5761SS1) FROMDEV(TAP01)
        TODEV(*SAVF) SELECT(*ALL) TOSAVF(MYLIB/PTFFILE)
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープから製品5761SS1のPTFFILEという名前の保管ファイルに、すべてのPTFをコピーします。

例2: 光ディスク装置からのPTFのコピー

```
CPYPTF LICPGM(5761SS1) FROMDEV(OPT01) TODEV(TAP01)
        SELECT(*ALL) FROMPATHID(2) RLS(*ONLY)
```

このコマンドは、パスID 0002をもつファイルに存在する製品5761SS1のすべてのPTFを、OPT01という名前の光ディスク装置からTAP01という名前のテープ装置にコピーします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF35AE

重複したPTF &1が見つかった。

CPF35CC

PTF操作に必要なライブラリーはすでに存在しています。

CPF35C2

PTF &1-&2 &3を含めることはできない。

CPF35C3

PTF &1-&2を組み込むことはできない。

CPF35C4

CPYPTFは異常終了した。

CPF35C6

TOVOLパラメーターを指定しなければならない。

CPF35C7

FROMDEV装置のボリューム名がTOVOLパラメーター値と同じである。

CPF35C8

コピーするPTFファイルが正しくない。

CPF35D5

カバー・レターNLVが正しくない。

CPF354C

光ディスク・ボリューム上のPTFファイルを処理できない。

CPF354D

装置&1は使用できない。

CPF354F

必要なPTFファイルを処理できない。

CPF3558

&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF363A

ボリュームの媒体タイプが操作に適していない。

CPF363D

PTF &2-&1 &3に複数のカバー・レターが存在している。

CPF363E

必要なPTFファイルを光ディスク・ボリュームに書き込めない。

CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

上

PTFカバー・レターのコピー (CPYPTFCVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正カバー・レター・コピー(CPYPTFCVR)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)カバー・レターをテープまたは光ディスク媒体からライブラリーQGPL内のファイルQAPZCOVERにコピーします。各カバー・レターには、問題記述、訂正、および特別な指示などの情報が入っています。カバー・レターは、次に、PTFカバー・レターの表示 (DSPPTFCVR)およびプログラム一時修正表示 (DSPPTF)コマンドを使用して表示することができます。

制約事項:

- このコマンドは除外(*EXCLUDE)共通権限を伴って出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルは、このコマンドを使用するための専用権限を伴って出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	文字値	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL, *SUPPTD	オプション, 定位置 2
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *NOTAPY, *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RLS	リリース	文字値, *ALL	オプション
CVROPT	カバー・レター・オプション	*NEW, *ADD, *ALL	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション

上

装置 (DEV)

コピーするカバー・レターが入っている装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 カバー・レターのコピー元であるテープ装置または光ディスク装置の名前を指定します。

上

プロダクト (LICPGM)

カバー・レターをコピーするプロダクトの7桁のIDを指定します。

***ALL** すべての導入済みまたはサポートされるプロダクトのカバー・レターがコピーされます。

***SUPPTD**

すべてのサポートされるプロダクトのカバー・レターがコピーされます。

文字値 コピーするカバー・レターのプロダクトID指定します。

上

選択するPTF番号 (SELECT)

指定されたプロダクトについてコピーされるカバー・レターを指定します。

単一値

***NOTAPY**

指定されたプロダクトのまだ適用されていないかまたは延期されたPTFのすべてのカバー・レターがコピーされます。

***ALL** 指定されたプロダクトのすべてのカバー・レターがコピーされます。

その他の値 (最大300個指定可能)

文字値 コピーされるカバー・レターのPTF識別番号を指定します。特定のPTF IDが使用できるのは、**プロダクト (LICPGM)**パラメーターに特定のプロダクトIDを指定した場合だけです。

上

リリース (RLS)

ソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルを指定します。

***ALL** 指定されたプロダクトのすべてのリリースのカバー・レターがコピーされます。

文字値 リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。特定のリリースが使用できるのは、**プロダクト (LICPGM)**パラメーターに特定のプロダクトIDを指定した場合だけです。

上

カバー・レター・オプション (CVROPT)

コピーされるカバー・レターがすでにシステム上に存在する場合に何を実行するかを指定します。

***NEW** PTFのカバー・レターがすべての言語機能コードでシステム上に存在する場合には、そのカバー・レターは媒体からコピーされません。PTFのカバー・レターがシステム上に存在しない場合には、そのカバー・レターがコピーされます。

***ADD** PTFの同じ言語機能コードのカバー・レターがシステム上に存在しない場合には、そのカバー・レターは媒体からコピーされます。それ以外の場合には、カバー・レターはコピーされません。

***ALL** 同じ言語機能コードのカバー・レターがすでにシステム上に存在する場合には、それが置き換えられます。その言語機能コードについてシステム上にカバー・レターが存在しない場合には、そのカバー・レターがコピーされます。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

PTF操作が終了した後にテープ・ボリュームまたは光ディスク・ボリュームで自動的に実行される操作を指定します。媒体の1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームにのみ適用されます。

注: 光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

例

```
CPYPTFCVR  DEV(OPT01) LICPGM(5761SS1) SELECT(*ALL)
           RLS(V5R4M0)
```

このコマンドは、製品5761SS1リリースV5R4M0に適用されていないPTFのすべてのカバー・レターを装置OPT01からコピーします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF354D

装置&1は使用できない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF359D

装置&3のPTFが選択基準に一致していない。

CPF35BE

プロダクト&1 &3がサポートされていないか、または導入されていない。

CPF35E0

PTF情報のコピー中にエラーが起きました。

CPF35F1

カバー・レター・ファイル&1が&2に見つからない。

CPF363C

PTFカバー・レターが装置&3からコピーされない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

PTFグループのコピー (CPYPTFGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正グループのコピー(CPYPTFGRP)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)グループをテープ、光ディスク、保管ファイル、またはサービスからテープ、光ディスク、保管ファイル、またはサービスにコピーします。PTFグループ情報が指定した装置にコピーされます。PTFグループ内で名付けられたPTFも、CPYPTFパラメーターを使用してコピーすることができます。PTFグループの処理 (WRKPTFGRP)コマンドを使用して、システム上のPTFグループのリストを表示および処理することができます。

制約事項:

- このコマンドは、除外(*EXCLUDE)共通権限をともなって出荷されます。 QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用権限があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTFGRP	PTFグループ	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
FROMDEV	取り出し装置	名前, *SERVICE, *SAVF	必須, 定位置 2
TODEV	受け取り装置	名前, *SERVICE, *SAVF	必須, 定位置 3
FROMSAVF	取り出し保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 取り出し保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMSEQNBR	取り出しテープ順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
FROMENDOPT	FROM媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
TOVOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
TOSEQNBR	受け取りテープ順序番号	1-16777215, *END	オプション
TOENDOPT	TO媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
TOSAVF	受け取り保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受け取り保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CLEAR	消去	*NONE, *ALL	オプション
REPLACE	置き換え	*LVLGT, *NO, *YES	オプション
PTFGRPLVL	PTFグループ・レベル	1-99999, *INSTALLED, *LATEST, *ALL	オプション
RELPTFGRP	関連PTFグループのコピー	*NO, *YES, *INSTALLED, *LATEST	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション
CPYPTF	PTFのコピー	*NO, *YES	オプション
RPLSPR	代替PTFの置き換え	*YES, *NO	オプション
COVER	PTFカバー・レター・コピー	文字値, *DFT, *NONE	オプション

PTFグループ (PTFGRP)

コピーするPTFグループを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのPTFグループがコピーされます。

名前 コピーするPTFグループの名前を指定します。

取り出し装置 (FROMDEV)

コピーするPTFグループが入っている装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

***SERVICE**

PTFグループがシステムからコピーされます。 PTFグループの処理 (WRKPTFGRP)コマンドを使用して、システム上のPTFグループのリストを表示することができます。

***SAVF**

PTFグループが保管ファイルからコピーされます。

名前 PTFグループのコピー元であるテープまたは光ディスク装置の名前を指定します。

受け取り装置 (TODEV)

PTFグループのコピー先である装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

***SERVICE**

PTFグループがシステムにコピーされます。 PTFグループの処理 (WRKPTFGRP)コマンドを使用して、システム上のPTFグループのリストを表示することができます。FROMDEV(*SERVICE)を指定した場合には、TODEV(*SERVICE)を指定することはできません。

***SAVF**

PTFグループが保管ファイルにコピーされます。

名前 PTFのコピー先であるテープまたは光ディスク装置の名前を指定します。

取り出し保管ファイル (FROMSAVF)

PTFグループがどの保管ファイルからコピーされるのかを指定します。

注: このパラメーターは、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

修飾子1: 取り出し保管ファイル

名前 保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)

PTFグループのコピー元であるテープ・ボリュウム上の順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を**取り出し装置(FROMDEV)**パラメーターに指定した場合だけです。

***SEARCH**

指定されたPTFグループの最初の媒体ファイルがテープ・ボリュウムで検索されます。

1から16777215

PTFデータのコピーを開始したい順序番号を指定してください。この順序番号はテープ上に存在しなければなりません。

上

FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)

コピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュウムで実行される操作を指定します。テープの1つまたは複数のボリュウムが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュウムに適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がFROMDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

ボリューム識別コード (TOVOL)

コピーされたPTFグループを受け取るテープまたは光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定してください。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

文字値 テープまたは光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

上

受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)

コピーされたPTFグループを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***END** PTFグループがテープの終わりにコピーされます。

1から16777215

最初にコピーされたPTFグループを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定します。

上

TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)

コピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュームで実行される操作を指定します。テープの1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームに適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、受け取り装置 (TODEV)パラメーターにテープ装置または光ディスク装置の名前が指定されている場合のみです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

受け取り保管ファイル (TOSAVF)

PTFグループのコピー先である保管ファイルを指定します。

注: このパラメーターは、受け取り装置 (TODEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

修飾子1: 受け取り保管ファイル

名前 保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

消去 (CLEAR)

PTFグループのコピー時に、消去されていない保管ファイルを自動的に消去するかどうかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、TODEV(*SAVF)を指定した場合だけです。

***NONE**

未消去保管ファイルは自動的に消去されません。

***ALL** 未消去保管ファイルは自動的に消去されるので、操作を続行することができます。

上

置き換え (REPLACE)

コピーされるPTFグループがすでにシステム上に存在する場合に実行する内容を指定します。

1つのPTFグループの異なるレベルのものが同じ名前でもシステム上に存在できる数は、サービス属性の変更(CHGSRVA)コマンドのPTFグループ・レベル(PTFGRPLVL)パラメーターで制御されます。PTFグループがコピーされる時、PTFGRPLVLパラメーターに指定された値が、そのPTFグループの異なるレベルのものが最大いくつまでシステムに存在できるのかを示します。PTFグループがコピーされた後、そのPTFグループの最も低いレベルのものが自動的に削除され、高いレベルのものがシステムに残ります。

注: このパラメーターが適用されるのは、TODEV(*SERVICE)を指定した場合だけです。

***LVLGT**

既存PTFグループのコピーは、コピーしようとしているPTFグループのレベルが、システム上の最高レベルのPTFグループより高い場合にのみ実行されます。

- *NO 同じ名前のPTFグループが既にシステムに存在する場合は、既存PTFグループのレベルに関わらず、PTFグループをコピーしません。同じ名前のPTFグループがシステム上にすでに存在し、PTFGRP(*ALL)が指定されていない場合には、エラーが起こります。
- *YES 同じ名前の既存PTFグループのレベルに関わらず、常にPTFグループをコピーします。コピーされるPTFグループのレベルが、他のすべての既存PTFグループのレベルよりも低い場合、システム上のPTFグループのレベル数がCHGSRVAコマンドのPTFGRPLVLパラメーターの現行値を超える場合には、そのPTFグループは自動的に削除されます

上

PTFグループ・レベル(PTFGRPLVL)

コピーするPTFグループのレベルを指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、*SERVICEが取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターに指定されている場合だけです。

***INSTALLED**

状況が導入されていますまたは次のIPLで適用されますである最新レベルのPTFグループがコピーされます。どのレベルのPTFグループでも状況が導入されていますまたは次のIPLで適用されずではない場合、システムに存在する最新レベルのPTFグループがコピーされます。

*ALL すべてのレベルのPTFグループがコピーされます。

***LATEST**

システムに存在する最新レベルのPTFグループがコピーされます。

1から99999

コピーするPTFグループのレベルを指定してください。

上

関連PTFグループのコピー (RELPTFGRP)

関連PTFグループをコピーするかどうかを指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、*SERVICEが取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターに指定されている場合だけです。

*NO 指定のPTFグループ内で指定された関連PTFグループはコピーされません。

*YES 指定のPTFグループ内で指定されているすべてのレベルの関連PTFグループがコピーされます。関連PTFグループ内で指定されているすべてのレベルの関連PTFグループもコピーされます。

***INSTALLED**

指定されたPTFグループ内に指定されている最新レベルの関連PTFグループで、状況が導入されていますまたは次のIPLで適用されますのものがコピーされます。また、関連PTFグループ内の指定関連PTFグループもコピーされます。どのレベルの関連PTFグループでも状況が導入されていますまたは次のIPLで適用されずではない場合、システムに存在する最新レベルの関連PTFグループがコピーされます。

*LATEST

指定されたPTFグループ内で指定されている最新レベルの関連PTFグループがコピーされます。また、関連PTFグループ内の指定関連PTFグループもコピーされます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合、あるいは保管データが保管ファイルに書き込まれる場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

上

PTFのコピー (CPYPTF)

PTFグループ情報に加えて、指定されたPTFグループ内に指定されているPTFをコピーするかどうかを指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに***SERVICE**が指定され、**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターにテープ装置または光ディスク装置の名前が指定されている場合のみです。

***NO** 指定のPTFグループ内で名付けられた関連PTFグループはコピーされません。

***YES** 指定のPTFグループ内で名付けられた関連PTFグループがコピーされます。PTFグループ内で名付けられたPTFのすべての前提条件、相互必要条件、および配布必要条件PTFもコピーされます。PTFがコピーされるのは、これがサポートされる、または導入済みのプロダクトであり、また保管ファイルがPTFまたは代替のPTFのシステムに存在する場合だけです。

上

代替PTFの置き換え (RPLSPR)

指定したPTFグループ内で名付けられたPTFまたはPTFの必要条件を置換するかどうかを指定します。PTFを置換できるのは、保管ファイルが見つからず、保管ファイルをもつ代替のPTFがシステムに存在する場合だけです。このパラメーターが適用されるのは、**CPYPTF(*YES)**を指定した場合だけです。

***YES** PTFのコピー時に、指定したPTFグループ内で名付けられたPTFまたはPTFの必要条件が保管ファイルをもたない場合には、このPTFを保管ファイルをもつ最新の代替のPTFで置き換えてください。PTFグループ内で名付けられたPTFまたはPTFの必要条件に保管ファイルがある場合には、このPTFが置き換えられている、あるいはより新しい代替PTFをもつかどうかに関係なく、このPTFがコピーされます。

***NO** PTFのコピー時に、システムに保管ファイルをもたないPTFを置き換えしないでください。指定したPTFグループ内で名付けられたすべてのPTFおよびPTFの必要条件に保管ファイルが存在しなければなりません。

上

PTFカバー・レター・コピー (COVER)

PTFとともにカバー・レターをコピーするかどうかを指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、*YESがPTFのコピー (CPYPTF)パラメーターに指定されている場合だけです。

***DFT** カバー・レターは省略時の言語機能コードを使用してコピーされます。PTFのカバー・レターが1つだけであった場合には、それがコピーされます。PTFに複数のカバー・レターがあった場合には、以下の基準を使用して、コピーするカバー・レターが決定されます。

保守サポート連絡先情報(WRKCNTINF)と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報と一致する言語機能コードがない場合には、オペレーティング・システムの1次言語と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報の言語機能コードまたはオペレーティング・システムの言語機能コードと一致するカバー・レターがない場合には、PTFのカバー・レターはコピーされません。

***NONE**

PTFカバー・レターはコピーされません。

文字値 コピーしたいPTFカバー・レターの言語機能コードを指定してください。選択された言語機能コードのカバー・レターが使用できない場合には、そのPTFのカバー・レターはコピーされません。

上

例

例1:保管ファイルへのPTFグループのコピー

```
CPYPTFGRP PTFGRP(SF99100) FROMDEV(*SERVICE) TODEV(*SAVF)
           TOSAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、SF99100という名前の導入済みの最新レベルのPTFグループを、システムから、ライブラリーMYLIB内のMYSAVFという名前の保管ファイルにコピーします。SF99100内に指定されている関連PTFグループはコピーされません。

例2:テープへのPTFグループのコピー

```
CPYPTFGRP PTFGRP(SF99200) FROMDEV(*SERVICE) TODEV(TAP01)
           TOSEQNBR(1) RELPTFGRP(*YES) CPYPTF(*YES)
```

このコマンドは、SF99200という名前の導入済みの最新レベルのPTFグループと、すべてのレベルのその関連PTFグループを、システムから、装置TAP01にマウントされたテープに、順序番号1から始めてコピーします。PTFグループ内で名付けられたすべてのPTFがテープにコピーされます。省略時の言語機能コードを使用して、PTFのカバー・レターがコピーされます。

例3:光ディスクからのすべてのPTFグループのコピー

```
CPYPTFGRP  PTFGRP(*ALL) FROMDEV(OPT01)  TODEV(*SERVICE)
REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、光ディスク装置OPT01に装てんされたボリュームからシステムに、すべてのPTFグループをコピーします。システムに既に存在する同じレベルのPTFグループは置き換えられます。

例4:テープから保管ファイルへのPTFグループのコピー

```
CPYPTFGRP  PTFGRP(SF99300) FROMDEV(TAP01)  TODEV(*SAVF)
TOSAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、装置TAP01に装てんされたテープを検索し、ライブラリーMYLIB中の保管ファイルMYSAVFにPTFグループSF99300をコピーします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF35CC

PTF操作に必要なライブラリーはすでに存在しています。

CPF35D5

カバー・レターNLVが正しくない。

CPF354C

光ディスク・ボリューム上のPTFファイルを処理できない。

CPF354D

装置&1は使用できない。

CPF354F

必要なPTFファイルを処理できない。

CPF355D

保管／復元媒体にPTFグループが見つかりません。

CPF355E

CPYPTFGRPが異常終了しました。

CPF355F

TODEVとFROMDEVパラメーターで同じ装置を指定することはできません。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF36AB

PTFグループが見つかりません。

CPF36A3

PTFグループ&1レベル&2はすでに存在します。

CPF36A4

PTFグループ&1が見つかりません。

CPF36A5

PTFグループ&1の情報が完了していません。

CPF36A6

PTFグループ名&1が無効です。

CPF36B8

保管ファイルがないのでPTF &2-&3 &4をコピーできません。

CPF363A

ボリュームの媒体タイプが操作に適していない。

CPF363E

必要なPTFファイルを光ディスク・ボリュームに書き込めない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

OPT1660

光ディスク装置&1が空である。

上

スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル・コピー(CPYSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルのデータ・レコードをユーザー定義の物理データベース・ファイルにコピーします。この変換によって、マイクロフィッシュ、データ通信、またはデータ処理を使用するアプリケーションでスプール・ファイルを使用することができません。全部がブランクの印刷行はコピーされません。スプール・ファイルを物理ファイルにコピーする時に、特定の情報は失われるか、あるいは変更されます。例えば、次の通りです。

- グラフィックス・データは消失します。
- バーコード・データは消失します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	TO データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TO データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプションル
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプションル
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプションル
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
TOMBR	TOメンバー	名前, *FIRST	オプションル
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	オプションル
CTLCHAR	制御文字	*NONE, *FCFC, *PRTCTL, *S36FMT	オプションル
CHLVAL	チャンネル値	単一値: *NORMAL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	オプションル
	要素 1: チャンネル	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12	
	要素 2: 回線	1-255	

上

スプール・ファイル (FILE)

データベース・ファイルにコピーされるスプール・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 コピーするスプール・ファイルのファイル名を指定してください。

上

TO データベース・ファイル (TOFILE)

スプール・レコードをコピーするユーザー定義の物理データベース・ファイルを指定します。このファイルがコピーの時点で存在していない場合には、コピーは正常に実行されないことになります。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: TO データベース・ファイル

名前 コピーを受け取る物理ファイルのファイル名を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

データ・レコードをコピーするスプール・ファイルを作成したジョブを指定します。

単一値

***** このコマンドを出したジョブが、そのスプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

このジョブでデータ・レコードをコピーするスプール・ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST

指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決断するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

1から999999

データ・レコードをコピーするスプール・ファイルの番号を指定してください。

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決断するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

上

TOメンバー (TOMBR)

コピー済みレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 物理ファイルのメンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在しない場合には、メンバーが作成されてコピーは続行します。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

制御文字 (CTLCHAR)

スプール・ファイルの内部印刷制御文字を置き換える印刷制御文字（存在する場合）を指定します。

***NONE**

印刷制御文字は作成されません。

***FCFC**

各レコードの最初の文字にAS/400 CL解説書(SD88-5022)にリストされているANSI用紙制御コードのいずれか1つが含まれることを指定します。このオプションはマイクロフィッシュの作成に役立ちます。

***PRTCTL**

各レコードの最初の4文字に、高水準言語プログラムで役立つ印刷前スキップおよび印刷前スペースの値が含まれることを指定します。このコードはSSSLとして表示することができ、ここでSSSは印刷前スキップ行の値で、Lは印刷前スペースの値です。

***S36FMT**

データベース・ファイルにコピーされるレコード様式がCOPYPRTでIBMシステム/36で作成されたものと同じであることを指定します。この値は、1次または2次補助記憶域プールに存在しているスプール・ファイルには許可されません。

上

チャンネル値 (CHLVAL)

行番号が割り当てられたチャンネル番号のリストを指定します。**制御文字 (CTLCHAR)**パラメーターに***FCFC**を指定した場合にだけこのパラメーターを指定してください。チャンネル番号は報告書のスキップを決定する方法を示します。報告書で正しい位置決めを行うためには、割り当てられた各チャンネルが対応する行番号を持っていないければなりません。

単一値

***NORMAL**

チャンネル1だけが割り当てられたチャンネル番号であることを示します。チャンネル1に割り当てられた行番号は行1です。

その他の値 (最大12個指定可能)

要素1: チャンネル

チャンネル番号

報告書でのスキップを制御するために使用するチャンネルを指定してください。このパラメーターの有効な値は1から12だけです。各チャンネル番号はスプール・ファイル・コピー(CPYSPFL)コマンドごとに1回しか指定できません。

要素2: 回線

1から255

同じリストでチャンネル番号に割り当てられた行番号。有効な行番号の範囲は1から255です。各行番号はスプール・ファイル・コピー(CPYSPFL)コマンドごとに1回しか指定できません。

上

例

例1: データの置き換え

```
CPYSPLF FILE(QPRINT) JOB(PAYROLL01) SPLNBR(4)
        TOFILE(MYFILE) TOMBR(MYMBR) CTLCHAR(*PRTCTL)
```

この例では、ファイルQPRINT（ジョブPAYROLL01によって作成された4番目のファイル）が物理ファイルMYFILE（ライブラリー・リストの検索によって見つかったライブラリーの中にあります）のメンバーMYMBRにコピーされます。すべての旧レコードは消去されているので、新規にコピーされたデータがメンバー内のすべての旧データを置き換えます。4バイト印刷制御コードが作成されます。

例2:データの追加

```
CPYSPLF FILE(QPRINT) TOFILE(MYLIB/MYFILE) JOB(PAYROLL02)
        MBROPT(*ADD) CTLCHAR(*FCFC) CHLVAL((1 3) (4 15))
```

この例では、ファイルQPRINT（ジョブPAYROLL02に残されているその名前の唯一のファイル）がライブラリーMYLIBにある物理ファイルの最初のメンバーにコピーされます。新規にコピーされたデータは、メンバー内の既存のデータに追加されます。FCFC 1バイト印刷制御文字が使用され、出力の形式設定で割り当てられたチャンネル値が活用されます。コマンドの指定の通りに割り当てられるチャンネル値は次の通りです：

- チャンネル1への行3の割り当て
- チャンネル4への行15の割り当て

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3207

メンバーは追加されなかった。エラーが起っています。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3311

&7のファイル&6に対するコピー要求は正常に実行されなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF338A

制御文字*S36FMTは使用できません。

CPF3394

スプール・ファイル・データを変換することはできない。

CPF3429

ファイル&1番号&7を表示, コピー, または送信することができない。

CPF3482

コピー要求は正常に実行されなかった。スプール・ファイル&1はオープンされています。

CPF3483

&7のファイル&6に対するコピー要求は正常に実行されなかった。

CPF3486

CHLVALパラメーターの値が正しくない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF3493

ファイル&1に対してCTLCHARパラメーターが正しくない。

CPF3499

ファイル&1のレコードが割り当てられたすべてのチャンネル値に先行する。

CPF5812

メンバー&3はライブラリー&2のファイル&1にすでに存在している。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9837

ファイル&1をMBR(*ALL)に一時変更しようとした。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

上

ソース・ファイルのコピー (CPYSRCF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソース・ファイル・コピー(CPYSRCF)コマンドは、データベースソース・ファイルまたはDDMファイルをソース物理ファイルまたはDDMファイルにコピーし、文字データを取り出しファイルのCCSIDから受け入れファイルのCCSIDに変換します。TOFILE(*PRINT)が指定された場合には、弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTを使用して、定様式印刷装置ファイルが作成されます（ソース・レコードのファイルが変更されて、他のコピー・コマンドのファイル形式とは異なる）。取り出しファイルまたは受け入れファイルに対して出された一時変更は、コピー操作に使用されたファイルに適用されます。レコード・データは、取り出しファイルから受け入れファイルにコピーされ、文字データは取り出しファイルCCSIDから受け入れファイルCCSIDに変換されます。レコード様式のこの他の相違（CPYFコマンドのFMTOPT(*NOCHK)パラメーター・オプションの相違点など）は無視されます。

注: DDMファイルの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「分散データベース・プログラミング」トピック・コレクションを参照してください。

1つのメンバー、すべてのメンバー、またはメンバーの総称セットは、コマンドを呼び出す度にコピーすることができます。受け入れファイル・メンバーは、類似名の受け入れファイル・メンバーまたは単一の受け入れファイル・メンバーにコピーすることができます。多くのメンバーはアルファベット順にコピーされリストされます。CPYSRCFコマンドの開始時には、受け入れファイルが存在しなければなりません。このコマンドは受け入れファイルを作成しませんが、その受け入れファイルにメンバーがまだ存在しない場合に、既存の物理ファイルにメンバーを追加します。

このコマンドは、ファイル・コピー(CPYF)コマンドと同様のサポートを提供します。MBROPTパラメーターの省略時の値は*REPLACEである（他のコピー・コマンドとは異なる）ことに注意してください。これは、取り出しファイルからコピーされるレコードと既存のレコードを置き換える前に、受け入れファイルの受け入れメンバーにすでにある既存のレコードを消去します。また、TOMBRパラメーターの省略時の値が*FROMMBRの場合には、これによって、取り出しファイル・メンバーを類似名の受け入れファイルのメンバーにコピーすることになります。

制約事項:

- ファイルのオープン・データ・パス(ODP)は、コピー操作中にジョブ（経路指定ステップ）の他のプログラムと共用することはできません。
- マルチスレッド・ジョブでは、複数のデータベース・ファイル・メンバー、装置ファイル(SPOOL(*YES)印刷ファイルを除く)、分散ファイル、または*SNAタイプのDDMファイルとのコピー時に、このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、*SNAタイプのリレーショナル・データベースおよび*SNAタイプのDDMファイルを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。スレッド・セーフであるのは、単一のデータベース・ファイル・メンバー（ローカルまたは*IPタイプのDDM）あるいはSPOOL(*YES)印刷ファイルとのコピー時だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMFILE	データベース・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3
TOMBR	TOメンバーまたはラベル	名前, *FROMMBR, *FIRST	オプション, 定位置 4
TOMBRID	TOメンバー識別コード	*GEN, *FROMMBR	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	オプション, 定位置 5
SRCCHGDATE	ソース変更日	*FROMMBR, *NEW	オプション
SRCOPT	ソース更新オプション	単一値: *SAME その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SEQNBR, *DATE	オプション
SRCSEQ	ソース・ステートメントの順序番号付け	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	
	要素 2: 増分番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	

上

データベース・ソース・ファイル (FROMFILE)

コピーされるレコードが入っているデータベース・ソース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ソース・ファイル

名前 コピーされるレコードが入っているデータベース・ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*PRINT

レコードは弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTにコピーされます。*PRINTが指定された場合、コード化文字セットID (CCSID)の変換は行われません。この形式ではレコード間に空白行は入れられません。ソース順序番号フィールドとソース変更日フィールドは、データと区別されます。複数のファイル・メンバーがコピーされた場合、それらのメンバーはアルファベット順にリストされます。16進数形式のリストが必要な場合には、OUTFMT(*HEX)パラメーター値を指定したファイル・コピー(CPYF)コマンドを使用してください。弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTを別のファイル名に一時変更できないことがあり、これはRPLUNPRT(*YES)およびCTLCHAR(*NONE)の属性でなければなりません。

修飾子1: TOファイル

名前 コピー済みレコードを受け取るソース物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

FROMメンバー (FROMMBR)

取り出しファイルからコピーされるファイル・メンバーを指定します。取り出しファイルの1つのメンバー、メンバーの総称セット、またはすべてのメンバーがコピーされます。メンバーはアルファベット順にコピーされます。

これは必須パラメーターです。

***ALL** データベース・ファイルのすべてのメンバーがコピーされます。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

総称名 コピーされるメンバーのグループの総称名を指定してください。

名前 コピーするデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

メンバー (TOMBR)

コピー済みレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

TOファイル (TOFILE)パラメーターに*PRINTを指定した場合には、このパラメーターに*FIRSTまたは*FROMMBRのいずれかを指定しなければなりません。

***FROMMBR**

取り出しファイルおよび受け入れファイル相互間で対応するメンバー名またはラベルIDが使用されます。対応する名前のメンバーが受け入れファイルに存在しない場合には、その名前のメンバーが受け入れファイルに追加されます。

メンバー名または*FIRSTがFROMMBRパラメーターの値として指定された場合には、同じ名前の受け入れファイルのメンバーがコピーされるレコードを受け取ります。*ALLまたは総称メンバー名がFROMMBRパラメーターの値として指定された場合には、取り出しファイルの各メンバーは受け入れファイルの同じ名前のメンバーにコピーされます。取り出しファイルの1つまたは複数のメンバー (FROMMBRパラメーターによって指定される) からのレコードが受け入れファイルの最初のメンバーにコピーされます。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

受け入れメンバー名

レコードを受け取る物理受け入れファイル・メンバー名を指定してください。指定された名前のメンバーが存在しない場合には、同じ名前のメンバーが追加されます。

上

TOメンバー識別コード (TOMBRID)

新しいメンバーが受け入れファイルに追加される場合に、メンバー・レベルIDが生成されるようにするか、あるいは取り出しファイルのメンバーのメンバー・レベルIDからコピーされるようにするかを指定します。

***GEN** 受け入れファイルに入った新しいメンバーのメンバー・レベルIDが生成されます。

***FROMMBR**

受け入れファイルに入った新しいメンバーのメンバー・レベルIDが、コピー元のメンバーのものと同じになります。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

ソース変更日 (SRCCHGDATE)

新しいメンバーが受け入れファイルに追加される場合、またはMBROPT(*REPLACE)が指定された場合、「ソースの最終更新日付/時刻」が新しい日付/時刻になるようにするか、あるいは取り出しファイルのメンバーの「ソースの最終更新日付/時刻」からコピーされるようにするかを指定します。

*FROMMBR

MBROPT(*REPLACE)が指定された場合、あるいは*FROMMBRの値が指定された場合、受け入れファイルにある新しいメンバーの「ソースの最終更新日付/時刻」は、コピーされるメンバーと同じものになります。

***NEW** MBROPT(*REPLACE)が指定された場合、あるいは*NEWの値が指定された場合、受け入れファイルにある新しいメンバーの「ソースの最終更新日付/時刻」は、新しい日付/時刻になります。

上

ソース更新オプション (SRCOPT)

取り出しファイルのレコードを受け入れファイルにコピーする時に、ソース順序番号フィールドおよび日付フィールドに新しい値を割り当てるかどうかを指定します。

単一値

*SAME

ソース順序番号フィールドおよび日付フィールドに新しい値は割り当てられません。

その他の値 (最大2個指定可能)

*SEQNBR

ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)パラメーターで指定されたとおりに、順序番号とその順序番号に加えられる増分値が割り当てられます。

*DATE

コピーされる各レコードの変更日フィールドは、6個のゼロに設定されます。

上

ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)

ソース更新オプション (SRCOPT)パラメーターに*SEQNBRも指定した時に限り、コピーされた最初のレコードに使用する順序番号、およびコピーされた後続のレコードごとの順序番号を計算するために初期の順序番号に増分する値を指定します。順序番号の最大値は9999.99です。値がこの限界より大きい場合には、メンバーの追加のレコードには、すべて順序番号9999.99が割り当てられています。

要素1: 開始順序番号

1.00 受け入れファイルにコピーされる最初のソース・レコードの順序番号が0001.00になります。

0.01から9999.99

受け入れファイルにコピーされる最初のソース・レコードの順序番号を指定します。

要素2: 増分番号

1.00 受け入れファイル中のコピーされたソース・レコードは、整数の増分値1で番号が付け直されます。

0.01から9999.99

最初のレコードの後でコピーされるすべてのソース・レコードの番号を付け直すために追加される値を指定します。最大値9999.99に達した場合、以降にコピーされる追加レコードの順序番号も9999.99となります。

上

例

例1: 既存レコードの置き換え

```
CPYSRCF FROMFILE(QGPL/QCLSRC) TOFILE(MYLIB/CLSRC)
        FROMMBR(PGMA)
```

このコマンドは、QGPLライブラリー中にあるデータベース・ソース・ファイルQCLSRCのメンバーPGMAからレコードをコピーします。TOMBRおよびMBROPTパラメーターの省略時の値が取られるので、レコードはライブラリーMYLIB中のCLSRCの同名メンバー(PGMA)にコピーされて、そのメンバーの既存のレコードを置き換えます。メンバーPGMAが受け入れファイル中に存在しない場合は、それがコピー操作の一部として追加されます。QGPL/QCLSRCのCCSIDがMYLIB/CLSRCのCCSIDと異なる場合は、文字データはCLSRCのCCSIDに変換されます。

例2: ファイルの印刷

```
CPYSRCF FROMFILE(QRPG/QRPGSRC) TOFILE(*PRINT) FROMMBR(INV*)
```

このコマンドは、ライブラリーQRPG中のデータベース・ソース・ファイルQRPGSRCから、文字INVで始まる名前をもつすべてのファイル・メンバーをコピーします。特殊値*PRINTが受け入れファイルに対して指定されるので、レコードは印刷装置にコピーされて、SEUによって作成される印刷出力のように、ソース・レコードに合わせた形式でリストされます。TOFILE(*PRINT)の指定時には、文字データは変換されません。

例3: 増分値の変更

```
CPYSRCF FROMFILE(MYLIB/TXTSRC) TOFILE(QIDU/QTXTSRC)
        FROMMBR(*ALL) SRCOPT(*SEQNBR *DATE) SRCSEQ(1 .25)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ソース・ファイルTXTSRCのすべてのメンバーをコピーします。これらがコピーされて、ライブラリーQIDU中のデータ・ソース・ファイルQTXTSRCの（省略時のTOMBR(*FROMMBR)を使用して）同名のメンバーの既存レコードを（省略時のMBROPT(*REPLACE)を使用して）置き換えます。受け入れファイル・メンバーが存在しない場合は、コピー操作によってこれらが追加されます。コピーされる各メンバーでは、最初のレコードには1の番号が付けられ、以下の番号のそれぞれは0.25ずつ増分されます。また、ソース日付フィールドは各レコードでゼロに設定されます。MYLIB/TXTSRCのCCSIDがQIDU/QTXTSRCのCCSIDと異なる場合には、文字データはQIDU/QTXTSRCのCCSIDに変換されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

- CPF2816**
エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。
- CPF2817**
エラーのために、コピー・コマンドが終了した。
- CPF2858**
印刷出力のファイル属性が正しくない。
- CPF2859**
共用オープン・データ・パスを使用することはできない。
- CPF2864**
ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。
- CPF2875**
正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。
- CPF2888**
エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。
- CPF2909**
&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。
- CPF2949**
&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。
- CPF2952**
ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。
- CPF2968**
&2のファイル&1のコピー中に位置指定エラーが起こった。
- CPF2971**
ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。
- CPF2972**
ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。
- CPF3140**
メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。
- CPF3143**
メンバー&2に増分値を使用することはできない。
- CPF3148**
新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。
- CPF3150**
メンバー&2のデータベース・コピーが正常に行なわれなかった。
- CPF9212**
&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

上

TCP/IPホスト・テーブルのコピー (CPYTCPHT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPホスト・テーブルのコピー (CPYTCPHT)コマンドは、TCP/IPホスト・テーブルの内容を物理ファイル・メンバーにコピーするために使用されます。結果の物理ファイル・メンバーは、TCP/IPホスト・テーブルの内容を変更する場合に、TCP/IPホスト・テーブルの組み合わせ (MRGTCPTH) コマンドに対する入力として使用されます。結果の物理ファイル・メンバーの内容は、どのユーザー・プログラムまたはデータベース・ユーティリティでも変更することはできません。

注: このコマンドは、TCP/IPホスト・テーブルを*OPSYS形式でコピーします。詳細については、MRGTCPTHコマンドのヘルプ・テキストを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TOFILE	TOファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: TOファイル	名前, <u>QTCPHT</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOMBR	TOメンバー	名前, *FIRST	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	オプション

上

TOファイル (TOFILE)

TCP/IPホスト・テーブルがコピーされる物理ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合は、指定されたライブラリーに物理ファイルが作成されます。ファイルが作成されると、そのファイルの共通権限は、ファイルが作成されたライブラリーに指定された作成権限と同じになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用します。

修飾子1: TOファイル

QTCPHT

省略時のファイル名。

名前 TCP/IPホスト・テーブルがコピーされる物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリー内に作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

TOメンバー (TOMBR)

TCP/IPホスト・テーブルがコピーされる物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。TOMBR(*FIRST)が指定されたが、メンバーが存在しない場合、システムは、メンバーを**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前で作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかを指定します。

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

例

例1:省略時の値を使用してホスト・テーブルをコピー

CPYTCPHT

このコマンドは次のことを行います。

- QTCPHTという名前の物理ファイルがライブラリー・リストのライブラリーの1つで見つかり、そのファイルの最初のメンバーが消去され、TCP/IPホスト・テーブルの内容がファイルの最初のメンバーにコピーされます。ファイルにメンバーが存在しない場合には、QTCPHTという名前のメンバーがファイルに追加され、内容がそのメンバーにコピーされます。
- QTCPHTという名前のファイルが見つからない場合には、物理ファイルQTCPHTが現行ライブラリー（現行ライブラリーが存在しない場合はライブラリーQGPL）に作成され、QTCPHTという名前のメンバーがそのファイルに追加され、ホスト・テーブルの内容がそのメンバーにコピーされます。

例2:特定のファイル・メンバーへのホスト・テーブルのコピー

CPYTCPHT TOFILE(MYLIB/MYFILE) TOMBR(MBR2) MBROPT(*ADD)

このコマンドは次のことを行います。

- 物理ファイルMYLIB/MYFILEが存在し、メンバーMBR2が存在する場合には、ホスト・テーブルの内容がメンバーMBR2の終わりに追加されます。
- 物理ファイルMYLIB/MYFILEが存在し、メンバーMBR2が存在しない場合には、MBR2がファイルに追加され、ホスト・テーブルの内容がMBR2にコピーされます。
- 物理ファイルMYLIB/MYFILEが存在しない場合には、ファイルMYFILEがライブラリーMYLIBに作成され、MBR2という名前のメンバーがそのファイルに追加され、ホスト・テーブルの内容がMBR2にコピーされます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上

ディレクトリーへのコピー (CPYTODIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーへのコピー(CPYTODIR)コマンドは、システム配布ディレクトリー・データを磁気テープまたはディスクからローカル・システムへコピーするために使用されます。ローカル・システムへコピーされるディレクトリーのデータは、リモート・システムのディレクトリーからのコピー(CPYFRMDIR)コマンドによって作成されます。この機能によって、ローカル・システムは、リモート・システムからディレクトリーのデータに対して行なわれた変更をシャドー処理することにより、リモート・システムでディレクトリーのシャドー処理環境を開始することができます。

注意: データを回復するためにディレクトリーのデータを保管および復元するバックアップ・ユーティリティーとして、このコマンドを使用してはいけません。Recovering your system book (SD88-5008)に説明されている通常のバックアップおよび回復の手順の指針に従ってください。

制約事項: このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LABEL	ファイル・ラベル	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
AUTOINZ	自動初期設定	*YES, *NO	オプション
RPLDTA	データの置換え	*YES, *NO	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *NEXT	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション

上

ファイル・ラベル (LABEL)

コピー操作に使用するテープまたはディスク上の装置ファイルのラベルを指定します。テープ装置には最大17桁、ディスク装置には最大8桁を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

上

装置 (DEV)

コピー操作に使用されるテープまたはディスク装置の名前を指定します。それぞれのテープまたはディスク装置名は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。

テープ装置名

コピー操作に使用する1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置名を指定してください。複数のテープ・ボリュームを使用する場合には、複数のテープ装置を使用することで、1つのテープ・ボリュームを巻き戻しあるいは取り外している時に別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理することができます。

ディスク装置名

コピー操作に使用するディスク装置の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

自動初期設定 (AUTOINZ)

このシステムにコピーされた情報を、ディレクトリーのシャドー処理によって自動的に他の収集システムに渡すかどうかを指定します。

***YES** コピーされたディレクトリー項目は、自動的に収集システムに提供されます。

***NO** コピーされたディレクトリー項目は、すでに初期設定されている他の収集システムには提供されません。

上

データの置換え (RPLDTA)

ローカル・システムのディレクトリー項目を、テープまたはディスクからコピーされたディレクトリーのデータで置き換えるかどうかを指定します。

***NO** シャドー処理されたデータはテープまたはディスクからコピーされますが、ディレクトリー項目がシステム上に存在すれば、そのディレクトリー項目はコピーされたディレクトリー・データと置き換えられません。

***YES** ディレクトリーのすべてのデータがテープまたはディスクからコピーされます。ディレクトリー項目は、すでにシステム上に存在する同じユーザーの項目を置き換えます。

上

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリュームIDを指定してください。

***NONE**

ファイルのボリュームIDが指定されていません。ボリュームIDは検査されません。

ボリュームID

複数のボリュームのIDを、それらが装置上に取り付けられてコピー操作に使用される順序で指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号を指定します。データ・ファイルの最初の見出しレベルから、4桁のファイル順序番号が読み取られます。

*NEXT

コピー操作は、テープ・ボリューム上の次のファイルで開始されます。テープが現在最初のファイルよりも前に位置付けられている場合には、そのテープから最初のファイルが処理されます。

ファイル順序番号

使用されるファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

上

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

上

例

CPYTODIR DEV(DKT01) AUTOINZ(*YES) RPLDTA(*NO)

このコマンドは、ディレクトリー・データのすべてをディスク装置DKT01からローカル・システムにコピーします。ローカル・システムにコピーされるデータは、ディレクトリー・シャドーイングの初期化または通常のディレクトリー・シャドーイングを実行するために通信を使用する他のシステムに沿って渡されます。ディスク・データと同じであると識別されたローカル・システム・データは置き換えられません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF90FB

エラーのためにディレクトリー・データはコピーされなかった。

上

インポート・ファイルへのコピー (CPYTOIMPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

インポート・ファイルへのコピー(CPYTOIMPF)コマンドは、外部記述ファイルをインポート・ファイルにコピーします。インポート・ファイルという用語は、異なるデータベース間でデータをコピーする目的で作成されるファイルを説明するために使用します。インポート・ファイル (TOSTMFまたはTOFILEパラメーター) は、このコマンドの 受け入れファイル と呼ばれます。

CPYTOIMPFコマンドによって実行できる特定機能の一部には、次が含まれています。

- 外部記述物理ファイルから受け入れファイル(TOFILEまたはTOSTMFパラメーター) へのコピー。
- 既存の受け入れファイル・メンバーへのレコードの追加、または受け入れファイル・メンバー(MBROPTパラメーター) の内容の置き換え。

エラーの処理: コピー操作中に発生することがある多くの異なるエラー条件の場合にエスケープ・メッセージCPF2817が送られます。常に、エスケープ・メッセージの前に、特定のエラー条件を示す診断メッセージが少なくとも1つは出されます。エラー処理の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリーに記載されています。

一時変更: このコマンドにはすべての一時変更が有効です。 CPYTOIMPF によってサポートされている一時変更のパラメーターは、次の通りです。

- FILE
- MBR
- OPNSCOPE
- SHARE
- LVLCHECK
- RCDFMTLCK
- SEQONLY
- INHWRT
- WAITRCD
- DSTDTA
- NBRRCD

状況メッセージ: CPYTOIMPFコマンドの実行中に、コピー操作が実行中であることを対話式ユーザーに通知するメッセージCPI2801が状況メッセージとして送られます。状況メッセージが表示されないようにする方法の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリーに記載されています。

制約事項:

- CPYTOIMPF要求の実行中には、 **TO データベース・ファイル (TOFILE)**パラメーターに指定されたファイルは、アクセス可能でなくなるようにロックされることがあります (タイムアウトのない*EXCLロックと類似している)。

- 取り出しファイルにSHARE(*YES)属性がある場合には、予測できない結果が起こることがあります。したがって、取り出しファイルがSHARE(*YES)で定義されている場合には、コピーの前に、ユーザーはそのファイルがどれかのプロセスによってオープンされていないことを確認する必要があります。
- STMFAUT(*FILE)またはSTMFAUT(*INDIRFILE)が指定された場合、ユーザーにはデータベース・ファイルとストリーム・ファイルに対するオブジェクト管理権限(*OBJMGT)が必要です。

注: この項目が (画面自身またはヘルプ情報で) アスタリスクを付けて表示されている「特殊値」でないかぎり、項目の前にアスタリスクを付けしないでください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMFILE	FROMファイル	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL	
TOFILE	TO データベース・ファイル	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *FROMMBR, *ALL	
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	パス名	オプション, 定位置 3
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *FILE	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, *FILE	オプション
STMFCSSID	ストリーム・ファイルのCCSID	1-65533, *STMF, *PCASCI, *STDASCI	オプション
STMFCODPAG	ストリーム・ファイル・コード・ページ	1-32767, *STMF, *PCASCI, *STDASCI	オプション
STMFAUT	ストリーム・ファイル権限	*DFT, *INDIR, *FILE, *INDIRFILE	オプション
RCDDL	レコード区切り文字	文字値, *EOR, *CRLF, *LF, *CR, *LFCR	オプション
DTAFMT	インポート・ファイルのレコード様式	*DLM, *FIXED	オプション
STRDLM	ストリング区切り文字	文字値, *DBLQUOTE, *NONE	オプション
STRESCCHR	ストリング・エスケープ文字	文字値, *STRDLM, *NONE	オプション
RMVBLANK	ブランクの除去	*NONE, *LEADING, *TRAILING, *BOTH	オプション
FLDDL	フィールド区切り文字	文字値, ', *TAB	オプション
NULLIND	ヌル・フィールド標識	*NO, *YES	オプション
NUMFLDPAD	数字フィールド埋め込み	*NONE, *BLANK, *ZERO	オプション
DECPNT	小数点	*PERIOD, *COMMA	オプション
DATFMT	日付の形式	*ISO, *USA, *EUR, *JIS, *YYMD	オプション
TIMFMT	時刻形式	*ISO, *USA, *EUR, *JIS	オプション

FROMファイル (FROMFILE)

コピーされたレコードを含めるファイルを指定します。データベース・ファイルは単一様式の論理ファイル、物理ファイル、またはマルチ・システム・ファイルとすることができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされるレコードが含まれるファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

指定された取り出しファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。取り出しファイルにメンバーがない場合には、*FIRSTの指定は許可されません。

***ALL** 指定したファイルのすべてのメンバーがコピーされます。

名前 コピーするレコードが入っている取り出しファイルのメンバーの名前を指定してください。

TO データベース・ファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るデータベース・ファイルを指定します。このパラメーターまたはTOSTMFパラメーターのいずれか一方が必要です。

受け入れファイルは次のファイル・タイプのいずれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 1つの非数値フィールドをもつ外部記述物理ファイル。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされたレコードを受け取るファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

指定された受け入れファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

指定された受け入れファイルにメンバーがなくて、受け入れファイルのメンバー名を指定した有効な一時変更(OVRDBFコマンド)がない場合には、*FIRSTの指定は許されません。

***ALL** データは区画に分割されたテーブルの適切な受け入れメンバーにコピーされます。*ALLが有効となるのは、区画に分割されたテーブルの場合だけです。

***FROMMBR**

対応する取り出しファイルおよび受け入れファイルのメンバー名が使用されます。

名前 コピーされたレコードを受け取る受け入れファイル・メンバーの名前を指定してください。指定された名前のメンバーがまだ受け入れファイル内に存在しない場合には、そのメンバーが追加されます。

上

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

データのコピー先の出力ストリーム・ファイルを指定します。このパラメーターまたはTOFILEパラメーターのいずれか一方が必要です。パス名のディレクトリーはすべて存在していなければなりません。新しいディレクトリーは作成されません。ストリーム・ファイルが存在していない場合には、作成されます。

注: QSYS.LIBファイル・システムにより、属性はセットできないので、TOSTMFパラメーターに指定されたパス名がQSYSメンバーの場合には、診断メッセージがジョブ・ログに表示されます。この診断メッセージによって、コピー操作の正常な完了が妨げられることはありません。

パス名 データのコピー先の出力ストリーム・ファイルのパス名を指定します。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

指定された名前のメンバーがすでに存在している場合には、コピー操作で受け入れファイル・メンバー内のレコードを置き換えるか、追加するか、あるいはコピーを正常に実行しないかを指定します。メンバーが存在していない場合には、それが作成されて、受け入れファイルに追加されます。

注: *ADDが指定されて、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は正常に完了します。*REPLACEが指定されて、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は異常終了します。

使用可能な詳細説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリを参照してください。

***ADD** コピーされたレコードは既存のメンバー・レコードの終わりに追加されます。

***REPLACE**

コピーされたレコードが既存のメンバー・レコードを置き換えます。

上

変換元CCSID (FROMCCSID)

取り出しファイルのフィールドに使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***FILE** データは、取り出しファイルのフィールドCCSIDに変換されます。取り出しファイルのフィールドのCCSIDが65535である場合には、フィールドは変換されず、2進データとして扱われます。

1から65533

取り出しファイルのフィールドのCCSIDが65535である場合に使用するCCSIDを指定してください。取り出しファイルのフィールドのCCSIDが65535でない場合には、このパラメーターは無視されます。

上

変換先CCSID (TOCCSID)

TO データベース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたファイルに使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***FILE** 受け入れファイル・データベース・ファイルのCCSIDが使用されます。

1から65533

受け入れファイルのCCSIDが65535である時に使用されるCCSIDを指定します。受け入れファイルのCCSIDが65535でない場合には、エラー・メッセージが発信されます。

上

ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)

データ変換用のコード・ページに相当するストリーム・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を入手する方法を指定します。

このパラメーターは、**ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)**パラメーターとともに指定することはできません。

*STMF

ストリーム・ファイルが存在し、データ変換が必要な場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページのCCSIDに等しい物が変換の実行に使用されます。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、ソース・データベース・ファイルCCSIDに相当するCCSIDが使用され、ストリーム・ファイルに関連付けられます。

*STDASCH

ストリーム・ファイルが存在する場合は、ストリーム・ファイルに関連付けられたコード・ページに相当するCCSIDが指定値と同じ場合のみ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、IBM PCデータ・エンコード・スキーム (X2100)のCCSIDが計算されます。このCCSIDはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けられ、必要であればデータ変換に使用されます。

*PCASCH

ストリーム・ファイルが存在する場合は、ストリーム・ファイルに関連付けられたコード・ページに相当するCCSIDが指定値と同じ場合のみ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム (X4105)中のCCSIDが計算されます。(MICROSOFTおよびWINDOWSはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。) このCCSIDはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けられ、必要であればデータ変換に使用されます。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。

1から65533

任意のストリーム・ファイルのCCSIDを指定します。ストリーム・ファイルが存在する場合、このオプションは、指定された値がそのストリーム・ファイルのCCSIDに一致する場合のみ有効になります。そうでない場合には、エラー・メッセージが送信されます。ストリーム・ファイルが存在しない場合には、指定したCCSIDは、ストリーム・ファイルが作成された時にそのストリーム・ファイルと関連付けられます。

上

ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)

ストリーム・ファイルのコード・ページ、およびデータ変換に使用するコード・ページのコード化文字セットID (CCSID)と同等なものを入手する方法を指定します。

このパラメーターは、**ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)**パラメーターとともに指定することはできません。

注: このパラメーターはSTMFCSSIDで置き換えられますが、今まで通りSTMFCODPAGパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能であればSTMFCSSIDパラメーターを使用してください。

***STMF**

ストリーム・ファイルが存在し、データ変換が必要な場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページのCCSIDに等しい物が変換の実行に使用されます。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、ソース・データベース・ファイルCCSIDのコード・ページと等しい物が使用され、ストリーム・ファイルと関連付けされます。

***STDASCI**

ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(x2100)のコード・ページが計算されます。このコード・ページはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けられ、必要であればデータ変換に使用されます。

***PCASCI**

ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページが計算されます。(MICROSOFTおよびWINDOWSはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。) このコード・ページはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けられ、必要であればデータ変換に使用されます。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。

1から32767

使用するコードページを指定してください。ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連付けされたコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションは有効です。そうでない場合には、エラー・メッセージが送信されます。ストリーム・ファイルが存在しない場合には、指定したコード・ページは、ストリーム・ファイルが作成された時にそのストリーム・ファイルと関連付けられます。

上

ストリーム・ファイル権限 (STMFAUT)

データのコピー先として指定する出力ストリーム・ファイルに権限の設定を割り当てる方法を指定します。指定する出力ストリーム・ファイルが既に存在する場合、このパラメーターは無視されます。

***DFT:** ストリーム・ファイルの所有者は、ストリーム・ファイルについて*RWXデータ権限を認可されます。1次グループおよび*PUBLICは、ストリーム・ファイルについて*NONEデータ権限を保持します。オブジェクト権限は、ストリーム・ファイルが作成されるディレクトリーのオブジェクト権限に基づきます。

***INDIR**

この出力ストリーム・ファイル権限設定は、そのストリーム・ファイルが作成されるディレクトリーの権限に基づきます。ストリーム・ファイルには、そのストリーム・ファイルが作成されるディ

レクトリーと同じ共通権限、専用権限、1次グループ、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。ターゲット・ファイル・システムが*INDIR特殊値をサポートしていない場合、このコマンドは失敗します。

***FILE** この出力ストリーム・ファイル権限設定は、取り出しファイル(FROMFILE) パラメーターで指定されたオブジェクトの権限に基づきます。ストリーム・ファイルには、コピーされる取り出しファイル・オブジェクトと同じ共通権限、専用権限、1次グループ、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。ターゲット・ファイル・システムがこれらの値の中でサポートしないものがある場合、それらの非サポート値は無視されます。

取り出しファイル・オブジェクトがマルチシステム・ファイルの場合は、*FILE値の代わりに省略時の値*DFTが使用されます。

***INDIRFILE**

結果の権限情報は、IBM System iナビゲーター・グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用したストリーム・ファイルのコピーと貼り付けで作成される情報と同様のものになります。最初、このストリーム・ファイルの権限情報はそのストリーム・ファイルが作成されるディレクトリーに基づいています。その後、取り出しファイル(FROMFILE)パラメーターで指定されたオブジェクトからの権限情報がこのオブジェクトにコピーされます。これにより、ディレクトリーから取得された初期の権限情報の一部が置き換えられる可能性があります。

取り出しファイル・オブジェクトがマルチシステム・ファイルの場合は、*INDIRFILE値の代わりに省略時の値*INDIRが使用されます。

上

レコード区切り文字 (RCDDLML)

受け入れファイルのレコード区切り文字を指定します。

TOFILEパラメーターを指定する場合、有効な値は*EORまたは文字値です。TOSTMFパラメーターを指定する場合、有効な値は*CR、*CRLF、*LF、*LFCR、または*ALLです。

***EOR** レコードの終わりおよび最後のフィールドの後のデータはX'00'で埋め込まれます。

***CRLF**

改行とそれに続く行送りが行の終わりに付加されます。

***LF** 行送りが行の終わりに付加されます。

***CR** 改行が行の終わりに付加されます。

***LFCR**

行送りとそれに続く改行が行の終わりに付加されます。

文字値 単一レコードの終わりを指示する単一文字を指定してください。

上

インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)

生成される受け入れファイルのデータの形式を指定します。

***DLM** データには区切り文字が入っています。 スtring、フィールド、およびレコード区切り文字については、STRDLM、FLDDLML、およびRCDDLMLのパラメーターの説明を参照してください。

***FIXED**

データ形式は固定です。各レコードのデータは固定欄に入っています。受け入れファイルにヌル・フィールドがどのように現れるかの詳細については、**ヌル・フィールド標識 (NULLIND)**パラメーターを参照してください。

上

ストリング区切り文字 (STRDLM)

コピー先のフィールドのデータのストリング区切り文字を指定します。この文字は、受け入れファイル内の文字、日付、時刻、およびタイム・スタンプ・ストリングの開始と終了を指示します。受け入れファイルの作成に使用されるユーティリティによっては、一部のタイプのストリングがストリング区切り文字なしで取り出しファイル内に現れることがあります。

指定した区切り文字は、ジョブのコード化文字セットID (CCSID)から受け入れファイルのCCSIDに変換されます。取り出しファイルのCCSIDが1200, 1208,または13488である場合には、区切り文字がジョブのCCSIDに変換されるか、あるいはジョブのCCSIDが65535であると、ジョブの省略時のCCSIDに変換されず。

***DBLQUOTE**

二重引用符文字がストリング区切り文字として使用されます。

***NONE**

区切り文字はストリング区切り文字として不要です。空白文字()は*NONE 値を表します。

文字値 ストリング区切り文字の文字値を指定してください。

上

ストリング・エスケープ文字 (STRESCCHR)

受け入れファイルのストリング・フィールド内で生成されるエスケープ文字を指定します。受け入れファイルの文字フィールドには、インポート・ユーティリティに対して特殊な意味を持つ文字が含まれる場合があります。これらの文字には、ストリング区切り文字およびストリング・エスケープ文字自体があります。

ストリング・エスケープ文字は、受け入れファイルのデータ内でこうした文字の前であって、その特殊な意味を取り消します。これにより、インポート・ユーティリティは、その文字がデータであるか、それともストリング区切り文字であるかを判断できます。

指定したストリング・エスケープ文字は、ジョブのコード化文字セットID (CCSID)から受け入れファイルのCCSIDに変換されます。受け入れファイルのCCSIDが1200, 1208,または13488である場合には、ストリング・エスケープ文字がジョブのCCSIDに変換されるか、あるいはジョブのCCSIDが65535であると、ジョブの省略時のCCSIDに変換されます。

***STRDLM**

ストリング区切り文字は、エスケープ文字として使用されます。取り出しファイルの文字フィールドの各ストリング区切り文字は、2つの隣接したストリング区切り文字としてエクスポートされます。

***NONE**

データにストリング・エスケープ文字は挿入されません。データにストリング区切り文字があると、受け入れファイルに信頼を置いているインポート・ユーティリティーで予期しない結果と発生することがあります。

文字値 エスケープ文字として使用される文字を指定してください。

上

ブランクの除去 (RMVBLANK)

ブランクを除去するのか、あるいは保存するのかを指定します。DTAFMTパラメーターを*FIXEDに設定した時には、このパラメーターは無視されます。

***NONE**

先行および後書きブランクはすべて保存されます。

***LEADING**

先行ブランクは除去されます。

***TRAILING**

後書きブランクは除去されます。

***BOTH**

先行および後書きブランクは除去されます

上

フィールド区切り文字 (FLDDLML)

レコードのフィールド区切り文字を指定します。この値はフィールドとフィールドの間に入れます。

',' フィールド区切り文字としてコンマが使用されます。

***TAB** 水平タブ文字がフィールド区切り文字として使用されます。

文字値 フィールド区切り文字の文字値を指定してください。

上

ヌル・フィールド標識 (NULLIND)

各フィールドの次の最初の文字には、そのフィールドがヌルかどうかを示すYまたはNのいずれか一方が入ります。*FIXEDがインポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)パラメーターに指定された場合にかぎり、NULLIND(*YES)が有効です。

***NO** 各フィールドの後にヌル値標識を追加しません。

***YES** 生成された固定形式受け入れファイル内の各フィールドの後に、ヌル値標識文字を追加します。

上

数字フィールド埋め込み (NUMFLDPAD)

数字フィールドに適用される埋め込みを指定します。このパラメーターは、DTAFMTパラメーターが*FIXEDでない場合には無視されます。

*NONE

埋め込みなし。結果は左寄せになります。

*BLANK

左にブランクを埋め込みます。結果は右寄せになります。

*ZERO

左にゼロを埋め込みます。

上

小数点 (DECPNT)

受け入れファイルに数字データをコピーする時に使用される小数点文字を指定します。

*PERIOD

ピリオド(.)が小数点文字として使用されます。

*COMMA

コンマ(,)が小数点文字として使用されます。

上

日付の形式 (DATFMT)

受け入れファイルに日付フィールドをコピーする時に使用される日付形式を指定します。

*ISO 国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

*USA 米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。

*EUR 欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。

*JIS 日本工業規格(JIS)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

*YYMD

日付形式YYYYMMDDが使用されます。

上

時刻形式 (TIMFMT)

受け入れファイルに時刻フィールドをコピーする時に使用される時刻形式を指定します。

*ISO 国際標準化機構(ISO)時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

*USA 米国時刻形式hh:mm xxが使用されます。ここで、xxはAMまたはPMです。

*EUR 欧州時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

*JIS 日本工業規格(JIS)時刻形式HH:MM:SSが使用されます。

例

```
CPYTOIMPF FROMFILE(DB2FILE) TOFILE(EXPFILE)
           FLDDL(';') RCDDL('X'07')
           STRDLM(*DBLQUOTE) DATFMT(*JIS) TIMFMT(*JIS)
```

外部記述ファイルDB2FILEのすべてのレコードがインポート・ファイルEXPFILEに追加されます。インポート・ファイルのフィールドはセミコロン(;)文字で区切られます。インポート・ファイルの各レコードは16進'07'文字によって区切られます。文字、日付、時刻、およびタイム・スタンプの値は二重引用符文字で開始し終了します。日時フィールドは*JIS形式です。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

LDIF へのコピー (CPYTOLDIF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LDIF へのコピー (CPYTOLDIF)コマンドは、ディレクトリー・サーバー・インスタンスのディレクトリー内容をLDAPデータ交換形式(LDIF)ファイルにコピーするために使用されます。ディレクトリー・サーバーは、i5/OS上にLightweight Directory Access Protocol (LDAP)サーバーを提供します。

制約事項:このコマンドを使用するには、以下のいずれかの条件を実行または満たす必要があります。

- 全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 管理者の識別名およびパスワードを指定します。
- Directory Services管理者になります。許可されたユーザーに管理者権限を認可するようにDirectory Servicesサーバーが構成されており、呼び出し元がオペレーティング・システムの「Directory Services管理者」機能に対して許可されている場合は、その呼び出し元がDirectory Services管理者となります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
INSTANCE	インスタンス	名前, <u>QUSRDIR</u>	オプション, 定位置 2
LDIFSTMF	LDIFストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 1
ADMIN	管理者	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別名	文字値	
	要素 2: パスワード	文字値	
SUBTREE	サブツリー識別名	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
LOCALHOST	cn=localhostのコピー	<u>*NOCOPY</u> , *COPY	オプション
PWDPOLICY	cn=pwdpolicyのコピー	<u>*NOCOPY</u> , *COPY	オプション
NESTRPLC	ネストされたレプリカのコピー	<u>*COPY</u> , *NOCOPY	オプション
OPRATR	操作属性のコピー	<u>*COPY</u> , *NOCOPY	オプション
PASSPHRASE	パスフレーズ	文字値	オプション
ENCSALT	暗号化ソルト	文字値	オプション

上

インスタンス (INSTANCE)

ディレクトリー項目をコピーするディレクトリー・サーバー・インスタンスを指定します。

QUSRDIR

システムの省略時のディレクトリー・サーバー・インスタンスの名前。

名前 ディレクトリー・サーバー・インスタンス名を指定します。この名前の文字数は、最小で1文字、最大で8文字です。

上

LDIFストリーム・ファイル (LDIFSTMF)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルに統合ファイル・システム・パスを指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名 ディレクトリー・サーバー・インスタンスのディレクトリー項目のコピーを入れるLDIFストリーム・ファイルのパス名を指定します。

上

管理者 (ADMIN)

ディレクトリー・サーバー管理者を指定します。これを指定しない場合、ユーザーは全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要になります。

要素1: 識別名

文字値 ディレクトリー・サーバー管理者の識別名を指定します (例えば, cn=administrator)。最大50文字まで指定できます。

要素2: パスワード

文字値 ディレクトリー・サーバー管理者のパスワードを指定します。パスワードは大/小文字の区別があり、アポストロフィで囲む必要があります。最大50文字まで指定できます。

上

サブツリー識別名 (SUBTREE)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするディレクトリー・サブツリーのルートを示す識別名(DN)を指定します。このオブジェクトとすべての下位オブジェクトがコピーされます。

***ALL** 全ディレクトリー・ツリーをコピーします。

文字値 コピーするサブツリーの識別名を指定します。最大50文字まで指定できます。

上

cn=localhostのコピー (LOCALHOST)

識別名cn=localhostにあるデータをLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。

***NOCOPY**

cn=localhostの内容はLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。

***COPY**

cn=localhostの内容がLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。

上

cn=pwdpolicyのコピー (PWDPOLICY)

識別名cn=pwdpolicyにあるデータをLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。

***NOCOPY**

cn=pwdpolicyの内容はLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。

***COPY**

cn=pwdpolicyの内容がLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。これは、サブツリーDN (SUBTREE)パラメーターに*ALLが使用されている場合のみ指定できます。

上

ネストされたレプリカのコピー (NESTRPLC)

ネストされた複製コンテキストをLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。例えば、ディレクトリーに複製コンテキストo=acmeおよびcn=external users,o=acmeが含まれる場合、このオプションを使用すると、識別名cn=external users,o=acmeのすべての項目を除いて、識別名o=acmeのデータをコピーできます。

***COPY**

ネストされた複製コンテキストのデータがLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。

***NOCOPY**

ネストされた複製コンテキストのデータはLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。これは、サブツリーDN (SUBTREE)が指定されている場合のみ指定できます。

上

操作属性のコピー (OPRATR)

次の4つの運用属性をLDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルにコピーするかどうかを指定します。

- creatorsName
- createTimestamp
- modifiersName
- modifyTimestamp.

***COPY**

運用属性がLDIFストリーム・ファイルにコピーされます。

***NOCOPY**

運用属性はLDIFストリーム・ファイルにコピーされません。

上

パスフレーズ (PASSPHRASE)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルに格納された暗号化対象情報を暗号化するために使用する次世代暗号化標準(AES)パスフレーズを指定します。このパスフレーズは、ディレクトリー・サーバー・インスタンス（このLDIFストリーム・ファイルからの情報をコピーするもの）で使用されるパスフレーズと一致する必要があります。また、これは、ターゲットのディレクトリー・サーバー・インスタンスがAES暗号化方式を使用してデータを暗号化する場合のみ指定する必要があります。

文字値 パスフレーズを指定します。指定できる文字数は、最小で12文字、最大で1016文字です。パスフレーズは大／小文字の区別があるため、アポストロフィで囲む必要があります。有効な文字は次のとおりです。

```
! # ¥ @ ¯ ¸ $ ? ^ ` { } | ~
" % & ' ( ) * + , - . / ? > = < ; :
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
```

上

暗号化ソルト (ENCSALT)

LDAPデータ交換形式(LDIF)ストリーム・ファイルに格納された暗号化対象情報を暗号化するために使用する次世代暗号化標準(AES)ソルトを指定します。この暗号化ソルトは、ディレクトリー・サーバー・インスタンス（このコマンドで作成されるLDIFストリーム・ファイルからの情報をコピーするもの）で使用される暗号化ソルトと一致する必要があります。また、これは、ターゲットのディレクトリー・サーバー・インスタンスがAES暗号化方式を使用してデータを暗号化する場合のみ指定する必要があります。

文字値 暗号化ソルトを指定します。使用する文字数は、厳密に12文字でなければなりません。暗号化ソルトは大／小文字の区別があるため、アポストロフィで囲む必要があります。有効な文字は次のとおりです。

```
! # ¥ @ ¯ ¸ $ ? ^ ` { } | ~
" % & ' ( ) * + , - . / ? > = < ; :
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
```

上

例

例1: QUSRDIRディレクトリー全体のコピー

```
CPYTOLDIF INSTANCE(QUSRDIR) LDIFSTMF('/ldap/qusrdir.ldif')
```

このコマンドは、QUSRDIRインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーの項目を**ldap**ディレクトリーの**qusrdir.ldif**ストリーム・ファイルにコピーします。この方法でコマンドを実行するユーザーは、全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

例2: o=ibmサブツリーのためのコピー

```
CPYTOLDIF INSTANCE(QUSRDIR) LDIFSTMF('/ldap/ibmsubtree.ldif')
SUBTREE('o=ibm') ADMIN('cn=admin' 'secret')
```

このコマンドは、QUSRDIRインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーから、o=ibmサブツリー項目をldapディレクトリーのibmsubtree.ldifストリーム・ファイルにコピーします。

例3: cn=localhost項目のコピー

```
CPYTOLDIF  INSTANCE(DOGGIES)
            LDIFSTMF('/ldap/include/local.ldif')
            SUBTREE(*ALL) LOCALHOST(*COPY)
            ADMIN('cn=fluffy' 'poodle')
```

このコマンドは、cn=localhost内の項目も含めて、DOGGIESインスタンスのディレクトリー・サーバー・ディレクトリーの項目をldapディレクトリーのincludelocal.ldifストリーム・ファイルにコピーします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

GLD0202

管理者のDNまたはパスワードが正しくない。

GLD0213

ファイルをオープンまたは作成中にエラー。

GLD0215

ディレクトリー・サーバー・インスタンス&1が見つかりません。

GLD0218

不十分な権限または誤った識別名およびパスワードが指定されています。

GLD022B

オブジェクト&1が見つからない。

GLD0234

エクスポート・サブツリーが複製コンテキストではありません。

GLD0413

妥当性検査リスト項目エラーが起こった。

上

PC文書へのコピー (CPYTOPCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PC文書へのコピー(CPYTOPCD)コマンドは、システム・データベース・ファイルのメンバーをフォルダーのPC文書にコピーします。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: CPYTOPCD

*ESCAPE メッセージ

IWS1612

メンバー&1はPC文書にコピーされなかった。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMFILE	取り出しファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 取り出しファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値	必須, 定位置 2
FROMMBR	取り出しメンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 3
TODOC	受け取り文書	文字値, *FROMMBR	オプション, 定位置 4
REPLACE	文書置き換え	*NO, *YES	オプション, 定位置 5
TRNTBL	変換テーブル	単一値: *DFT, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TRNFMT	PCデータの形式	*TEXT, *NOTEXT	オプション
TRNIGC	DBCSコード・ページ	*DFT, *JPN, *CHT, *BG5, *CHS, *KOR, *KSC, *SCGS, *NONE	オプション
RCDFMT	レコード様式	名前, *ALL	オプション

上

取り出しファイル (FROMFILE)

コピーするデータが入っているデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルは物理ファイルまたは論理ファイルのいずれかとすることができます。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

このファイルがソース・ファイルで、レコードがEBCDICからASCIIに変換される場合には、レコードをPC文書に書き出す時に行番号および日付は除去されます。

上

受け取りフォルダー (TOFLR)

コピー先のPC文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

この名前は、次の形式のすべて修飾されたパス名とすることができます。

- フォルダー1 / フォルダー2 / フォルダー3 / ... / フォルダーn

パス名の長さは、63桁以内で指定することができます。パスのすべてのフォルダーが存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

取り出しメンバー (FROMMBR)

コピーされるメンバーの名前を指定します。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーがコピーされます。

メンバー名

コピーされるメンバー名を指定してください。

上

受け取り文書 (TODOC)

コピーしたデータベース・ファイル・メンバーを入れるフォルダー内PC文書の名前を指定します。指定した文書が存在していない場合には、それが作成されます。

***FROMMBR**

PC文書の名前はメンバー名と同じです。

文書名 次の形式の有効な文書名を指定してください。

- ファイル名 . エクステンション

ファイル名は1-8文字で、エクステンションは1-3文字とすることができます。

上

文書置き換え (REPLACE)

既存の文書をコピー操作によって置き換えるかどうかを指定します。

***NO** この名前の文書がすでに**受け取りフォルダ**プロンプト (TOFLRパラメーター) によって指定されたフォルダに存在している場合には、その文書のコピーは実行されません。

***YES** この名前の文書がすでに**受け取りフォルダ**プロンプト (TOFLRパラメーター) によって指定されたフォルダに存在している場合には、その文書はコピーされるデータベース・ファイル・メンバーによって置き換えられます。

上

変換テーブル (TRNTBL)

変換を実行するかどうか、実行する場合には、EBCDICからASCIIにデータを変換するために使用する変換テーブルの名前を指定します。

注: ユーザー定義の2バイト文字セットでは、このパラメーターは変換を実行するかどうか、実行する場合には、単一バイト変換に使用する変換テーブルも指定します。

PC文書のレコードの様式は、**PCデータの形式**プロンプト (TRNFMTパラメーター) によって処理されます。

***DFT** 省略時の変換テーブルが使用されます。

変換テーブル名

変換テーブルの名前およびライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** テーブルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

テーブルが入っているライブラリーを指定します。

***NONE**

EBCDICからASCIIへの変換は行なわれません。レコードは固定長レコードとしてPC 文書にコピー

されます。ASCIIの復帰文字、改行文字、またはファイルの終わり文字はPC文書に追加されません。これらの固定長レコードの長さはデータベース・ファイル・メンバーのレコードの長さと同じです。

上

PCデータの形式 (TRNFMT)

PC文書のレコードの様式を指定します。

変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) に*NONEが指定された場合には、このパラメーターは無効です。

*TEXT

PC文書のレコードは標準DOS ASCII可変長形式で書き出されます。ASCIIの復帰文字および行送り文字は各レコードの終わりに追加され、ASCIIのファイルの終わり文字がPC文書の終わりに追加されます。

*NOTEXT

PC文書のレコードは固定長レコードとなります。データベース・ファイルのレコードの長さがPC文書のレコードの長さとして使用されます。

上

DBCSコード・ページ (TRNIGC)

変換に使用される2バイト文字セットを指定します。変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) によって一時変更されないかぎり、このパラメーターも単一バイト変換テーブルを指定します。

*DFT 省略時の国または地域の2バイト文字セット。

*JPN IBM日本語。

*CHT IBM中国語 (繁体字)。

*BG5 台湾工業規格(BIG-5)。

*CHS IBM中国語 (簡体字)。

*KOR IBM韓国語(KS)。

*KSC 韓国工業規格。

*SCGS

中華人民共和国国家規格(GB)。

*NONE

2バイト変換は実行されません。

上

レコード様式 (RCDFMT)

コピーされるレコードのレコード様式を指定します。指定できる値は、次の通りです。

*ALL データベース・ファイルの (すべてのレコード様式の) すべてのレコードがコピーされます。

236 System i: プログラミング i5/OS コマンド COMMIT (コミット) ~

レコード様式名

特定のレコード様式のレコードだけをコピーしたい場合には、そのレコード様式の名前を指定してください。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

IWS1612

メンバー&1はPC文書にコピーされなかった。

上

PCFファイルへコピー (CPYTOPCFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ポータブル・コンパイル済み形式ファイルへのコピー(CPYTOPCFF)コマンドは、DBCS文字セット(DBCS)フォント・テーブルに入っているすべてのユーザー定義のDBCS文字フォントを既存のPCFフォント・ファイルにコピーします。コピー操作の実行中に、ドット・マトリックス変換が自動的に実行されます。サポートされているドット・マトリックス変換がリストされている表については、PCFファイルからコピー(CPYFRMPCFF)コマンドの説明を参照してください。DBCSフォント・テーブルのタイプごとにコピーすることができるユーザー定義のDBCS文字フォントの最大数がリストされている表もあります。

制約事項: 次の権限が必要です。

1. CPYIGCTBL, CRTPF, CHKIN,およびCHKOUTコマンドに対する*USE権限。
2. 漢字フォント・テーブルに対する*USE権限。
3. PCFファイルのパス名接頭部のディレクトリーに対する*X権限。
4. PCFフォント・ファイルに対する*RW権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMIGCTBL	コピー元漢字フォント・テーブル	QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	必須, 定位置 1
TOPCFF	コピー先PCFファイル	パス名	必須, 定位置 2
RPLFNT	フォントの置き換え	*NO, *YES	オプション

上

コピー元漢字フォント・テーブル (FROMIGCTBL)

すべてのユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー元のDBCSフォント・テーブルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

QIGC2424

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424C

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (繁体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424K

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される韓国語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424S

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGCRRCL

コピーされるDBCSフォント・テーブルの名前は常にQIGCRRCLという形式になっていなければなりません。ここで、RRはテーブル行のマトリックス・サイズで、CCはテーブル列のマトリックス・サイズで、英字Lは任意選択の言語識別コードです。

上

コピー先PCFファイル (TOPCFF)

ユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー先のPCFファイルのパス名を指定します。パス名のPCFファイルおよびすべてのディレクトリは存在していなければなりません。PCFファイルはストリーム・ファイル・オブジェクトであり、UCS-2エンコードを用いたユーザー定義の文字セットでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

フォントの置き換え (RPLFNT)

指定されたPCFフォント・ファイルのユーザー定義のDBCS文字フォントが、指定されたDBCSフォント・テーブルからのDBCS文字フォントで置き換えられるかどうかを指定します。

***NO** システムは、指定されたPCFフォント・ファイルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたDBCSフォント・テーブルからのDBCS文字フォントで置き換えません。

***YES** システムは、指定されたPCFフォント・ファイルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたDBCSフォント・テーブルからのDBCS文字フォントで置き換えます。

上

例

例1:既存のフォントを置き換えずにコピー

```
CPYTOPCFF QIGC2424
          '/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/IBM_JPN12.PCF'
          RPLFNT(*NO)
```

このコマンドは、日本語DBCSフォント・テーブルQIGC2424 (24 X 24ドット・マトリックス・フォント) に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントをディレクトリー/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のIBM_JPN12.PCF という名前の日本語PCFファイル(16 X 16ドット・マトリックス・フォント) にコピーします。PCFファイルで見つからないユーザー定義PCF文字フォントだけがコピーされます。コピー操作の時に、ユーザー定義DBCS文字フォントが24 X 24ドット・マトリックスから16 X 16ドット・マトリックスに変換されます。

例2:コピーして既存のフォントを置き換え

```
CPYTOPCFF QIGC2424C
          '/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/CHTPC23.PCF'
          RPLFNT(*YES)
```

このコマンドは、中国語（繁体字）DBCSフォント・テーブルQIGC2424C (24 X 24ドット・マトリックス・フォント) に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントをディレクトリー/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のCHTPC23.PCF という名前の中国語（繁体字）PCFファイル(32 X 32ドット・マトリックス・フォント) にコピーします。PCFファイル中のユーザー定義PCF文字フォントは、DBCSフォント・テーブル中に見つかったもので置き換えられます。コピー操作の時に、ユーザー定義DBCS文字フォントが24 X 24ドット・マトリックスから32 X 32ドット・マトリックスに変換されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFB7A7

&1コマンドがエラーのために終了した。

上

ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)コマンドは、データベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルのいずれかをストリーム・ファイルにコピーします。データベース・ファイル・メンバーをコピーする時に、任意選択のデータの変換および形式変更が実行されます。このコマンドを使用して、リモート・システムとの間でデータベース・ファイル・メンバーをコピーすることはできません。データベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルに有効な指定変更は、このコマンドでは使用されません。

このコマンドは、通常のファイルおよび/DEV/NULL文字特殊ファイルで操作することができます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- データベース・メンバーのパス名は、**名前.オブジェクト・タイプ**の形式でなければなりません。例えば、**/QSYS.LIB/LIBA.LIB/FILEA.FILE/MBRA.MBR**は、QSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
- 保管ファイルのパス名は**名前.オブジェクト・タイプ**の形式でなければなりません。例えば、**/QSYS.LIB/LIBA.LIB/SAVEFILEA.FILE**はQSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
- ユーザーには次の権限が必要です。
 - データベース・ファイル、保管ファイル、ストリーム・ファイル、または変換テーブルの、パス名接頭部のディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 - データベース・ファイルまたは保管ファイルに対する読み取りおよび実行(*RX)権限。
 - ストリーム・ファイルがすでに存在している場合には、ストリーム・ファイルに対する書き込み(*W)権限。
 - ストリーム・ファイルがまだ存在しない場合には、ストリーム・ファイルの親ディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限。
 - 変換テーブルが指定された場合は、その変換テーブルに対する読み取り(*R)権限。
 - AUT(*FILE)またはAUT(*INDIRFILE)が指定された場合は、データベース・ファイルおよびストリーム・ファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMMBR	FROM ファイル・メンバーか保管ファイル	パス名	必須, 定位置 1
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
STMFOP	ストリーム・ファイル・オプション	*NONE, *ADD, *REPLACE	オプション
CVTDTA	データ変換オプション:	*AUTO, *TBL, *NONE	オプション
DBFCCSID	データベース・ファイルCCSID	1-65533, *FILE	オプション
STMFCCSID	ストリーム・ファイルのCCSID	1-65533, *STMF, *PCASCI, *STDASCI	オプション
TBL	変換テーブル	パス名	オプション
ENDLINFMT	行の終わり文字	*CRLF, *LF, *CR, *LFCR, *FIXED	オプション
AUT	権限	*DFT, *INDIR, *FILE, *INDIRFILE	オプション
STMFCODPAG	ストリーム・ファイル・コード・ページ	1-32767, *STMF, *PCASCI, *STDASCI	オプション

上

FROM ファイル・メンバーか保管ファイル (FROMMBR)

データがコピーされる元のデータベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルのパス名を指定します。メンバーからコピーする時には、ファイルはソース物理ファイルまたはプログラム記述物理ファイルのいずれかになります。複数のデータ・フィールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

データベース・ファイルがソース物理ファイルであった場合には、レコードがストリーム・ファイルに書き出された時に、順序番号および日付が除去されます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

データをコピーする先のストリーム・ファイルのパスおよび名前を指定します。パス名のすべてのディレクトリが存在しなければなりません。新しいディレクトリは作成されません。このストリーム・ファイルが存在していない場合には、それが作成されます。

このコマンドは、タイプ*STMFおよび/DEV/NULL文字特殊ファイルで操作することができます。

注: QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムでは、属性を設定することができないために、TOSTMFパラメーターに指定されたパス名がQSYSメンバーである場合には、ジョブ・ログに診断メッセージが表示されます。この診断メッセージはコピー操作の正常な完了の妨げにはならず、無視することができます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

ストリーム・ファイル・オプション (STMFOPT)

指定された名前のストリーム・ファイルがすでに存在していた場合に、コピー操作でストリーム・ファイル内のレコードを置き換えるか、追加するか、またはレコードのコピーを正常に実行しないかを指定します。このストリーム・ファイルが存在していない場合には、それが作成されます。

***NONE**

レコードはコピーされず、操作は失敗します。

***ADD** レコードは、既存のストリーム・ファイル・レコードの終わりに追加されます。

この値は保管ファイルをコピーする時には使用できません。

***REPLACE**

レコードは、既存のストリーム・ファイル・レコードを置き換えます。

上

データ変換オプション: (CVTDTA)

データをデータベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルに変換するための処理を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

***AUTO**

データは、コピー操作の実行中に、ストリーム・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)およびデータベース・ファイルのCCSIDを使用して変換されます。

***TBL** データは、変換テーブルを使用して変換されます。1バイト文字セットだけがサポートされています。変換テーブルは、**変換テーブル (TBL)**パラメーターで指定しなければなりません。変換テーブルが使用可能でない場合には、操作は失敗します。

***NONE**

ソース物理ファイルからの順序番号および日付スタンプの除去と、指定された行形式設定文字のストリーム・ファイルへの任意選択の挿入だけが実行されます。その他の文字についてデータベース・ファイルのCCSIDからストリーム・ファイルのCCSIDへの変換は実行されません。

上

データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)

データベース・ファイルのCCSIDを入手する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

***FILE** データベース・ファイルのCCSIDが65535でなければ、それが使用されます。データベース・ファ

イルのCCSIDが65535で、ファイルがプログラム記述ファイルでない場合には、操作は失敗します。データベース・ファイルのCCSIDが65535で、ファイルがプログラム記述ファイルの場合には、省略時のジョブCCSIDが使用されます。

1から65533

データベース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定してください。

上

ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)

データ変換に使用するストリーム・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を入手する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

このパラメーターは、**ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMF CODPAG)**パラメーターと共に指定できません。

*STMF

ストリーム・ファイルが存在し、データ変換が必要な場合には、ストリーム・ファイルに関連付けされたCCSIDが変換の実行に使用されます。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、ソース・データベース・ファイルCCSIDが使用され、ストリーム・ファイルと関連付けされます。

*STDASCH

IBM PCデータ・エンコード・スキーム(x2100)のCCSIDを計算します。ストリーム・ファイルが存在し、ストリーム・ファイルCCSIDが計算した値と違う場合は、操作が失敗します。

ストリーム・ファイルが存在しない場合は、計算されたCCSIDがターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けされ、必要な場合、それがデータ変換に使用されます。

*PCASCH

Microsoft Windowsエンコード・スキーム(x4105)のCCSIDを計算します。(“Microsoft”および“Windows”はMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。)ストリーム・ファイルが存在し、ストリーム・ファイルCCSIDが計算した値と違う場合は、操作が失敗します。

ストリーム・ファイルが存在しない場合は、計算されたCCSIDがターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けされ、必要な場合、それがデータ変換に使用されます。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。

1から65533

使用するCCSIDを指定してください。ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連付けされたCCSIDが指定された値と同じ時だけ、このオプションは有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。ストリーム・ファイルが存在しない場合には、指定したCCSIDは、ストリーム・ファイルが作成された時にそのストリーム・ファイルと関連付けられます。

上

変換テーブル (TBL)

データベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータの変換に使用される変換テーブルのパス名を指定します。

注: このパラメーターは必須であり、有効となるのはCVTDTA(*TBL)が指定された場合だけです。このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

行の終わり文字 (ENDLINFMT)

レコードのコピー時にストリーム・ファイルに挿入する行の終わり文字を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

行の終わり文字の1つのオプションが選択された (ENDLINFMT(*FIXED)が指定されない) 場合には、コピーされる時に、データベース・ファイル・レコードが可変長のストリーム・ファイル・テキスト行に変換されます。各データベース・ファイル・レコードは、後書きブランクによってトリミングされます。次に、データは、宛先データ形式に変換され (それが指定された場合)、行の終わり文字がテキスト行の終わりに付加されます。このテキスト行がストリーム・ファイルにコピーされます。

***CRLF**

改行に続いて行送りが各行の終わりに付加されます。

***LF** 行送りが各行の終わりに付加されます。

***CR** 改行が各行の終わりに付加されます。

***LFCR**

行送りに続いて改行が各行の終わりに付加されます。

***FIXED**

ストリーム・ファイル内の行は、固定長レコードとして書き出されます。CRおよびLF文字は各行の終わりに追加されず、後書きブランクは各レコードの終わりから除去されません。ストリーム・ファイル・レコードの長さは、データベース・ファイル・レコードの長さと同しくなります。

CVTDTA(*AUTO)が指定された場合は、変換されたデータは圧縮または展開することができません。そのため、ストリーム・ファイルCCSIDとデータベース・ファイルCCSIDのエンコード・スキームは互換性がなければなりません。例えば、ストリーム・ファイルが1バイト・エンコード・スキームで、データベース・ファイルが2バイト・エンコード・スキームの場合は、コマンドが失敗します。

上

権限 (AUT)

ストリーム・ファイルに権限情報を割り当てるために使用する方法を指定します。

ストリーム・ファイルがすでに存在する場合には、このパラメーターは無視されます。

***DFT:** ストリーム・ファイルの所有者は、ストリーム・ファイルに対する*RWXデータ権限が認可されます。1次グループおよび*PUBLICは、ストリーム・ファイルに対して*NONEデータ権限を持つことになります。オブジェクト権限は、ストリーム・ファイルが作成されるディレクトリーのオブジェクト権限に基づきます。データベース・ファイルの監査値はストリーム・ファイルにコピーされません。

*INDIR

ストリーム・ファイルの権限情報は、ストリーム・ファイルが作成されるディレクトリーの権限に基づきます。ストリーム・ファイルには、それが作成されるディレクトリーと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ、1次グループ権限、および権限リストが割り当てられます。ストリーム・ファイルに割り当てられる監査値は、ディレクトリーのオブジェクト監査の作成値によって制御されます。ターゲット・ファイル・システムが*INDIR特殊値をサポートしない場合は、コマンドは失敗します。

***FILE** ストリーム・ファイルの権限情報は、 **FROM** ファイル・メンバーか保管ファイル (**FROMMBR**) パラメーターに指定されたオブジェクトの権限に基づきます。ストリーム・ファイルには、コピー元メンバーまたは保管ファイルと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。ターゲット・ファイル・システムがこれらの1つ以上の値の設定をサポートしない場合は、サポートされない値は無視されます。

*INDIRFILE

コピーされたオブジェクトの権限情報は、最初はオブジェクトが作成されるディレクトリーの権限に基づきます。その後、**FROMMBR**パラメーターに指定されたオブジェクトの権限情報がターゲット・オブジェクトにコピーされます。ストリーム・ファイルには、ディレクトリーから獲得した追加の専用権限と同様に、コピー元メンバーまたは保管ファイルと同じ、共通権限、専用権限、1次グループ権限、権限リスト、および監査値が割り当てられます。結果の権限情報は、System iナビゲーターを使用してコピーおよび貼り付けすることによって生成されるものと同様です。ターゲット・ファイル・システムが*INDIRFILE特殊値をサポートしない場合は、コマンドは失敗します。

上

ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)

ストリーム・ファイルのコード化文字セットID (CCSID) を決定するために使用するコード・ページ値を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

このパラメーターは、ストリーム・ファイルのCCSID (STMFCCSID)パラメーターと共に使用できません。

注: このパラメーターはSTMFCCSIDで置き換えられますが、今まで通りSTMFCODPAGパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能な場合はSTMFCCSIDパラメーターを使用してください。

*STMF

この値を指定した場合には、コード・ページ処理は行われません。

*STDASCH

IBM PCデータ・エンコード・スキーム(x2100)のCCSIDを計算します。ストリーム・ファイルが存在し、ストリーム・ファイルCCSIDが計算した値と違う場合は、操作が失敗します。

ストリーム・ファイルが存在しない場合は、計算されたCCSIDがターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けされ、必要な場合、それがデータ変換に使用されます。

*PCASCH

Microsoft Windowsエンコード・スキーム(x4105)のCCSIDを計算します。("Microsoft"および"Windows"はMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。) ストリーム・ファイルが存在し、ストリーム・ファイルCCSIDが計算した値と違う場合は、操作が失敗します。

ストリーム・ファイルが存在しない場合は、計算されたCCSIDがターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けされ、必要な場合、それがデータ変換に使用されます。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。この値からCCSIDが計算されます。ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連付けされたCCSIDが計算された値と同じ場合にのみ、このオプションは有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。ストリーム・ファイルが存在しない場合には、計算されたCCSIDは、ストリーム・ファイルが作成された時にそのストリーム・ファイルと関連付けられます。

上

例

例1:データベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBR')
           TOSTMF('STMF.TXT')
```

このコマンドは、データベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBRに入っているデータを現行作業ディレクトリーのSTMF.TXTという名前のストリーム・ファイルにコピーします。データベース・ファイル・メンバーのレコードは末尾ブランクが取り除かれ、ENDLINFMT(*CRLF)が省略時の値であるため、各レコードの終わりにCRとLF文字が挿入されます。ストリーム・ファイルSTMF.TXTが現行作業ディレクトリーにすでに存在する場合には、STMFOPT(*NONE)が省略時の値であるため、コピー操作は実行されません。ストリーム・ファイルはデータベース・ファイルと同じCCSIDで作成されるため、データ変換は行われません。

例2:変換テーブルを使用したデータベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
           TOSTMF('/MYDIR/FINANCE.MNG') CVTDTA(*TBL)
           DBFCCSID(37) STMFCCSID(437)
           TBL('/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIB/TBL1.TBL')
           ENDLINFMT(*CRLF)
```

このコマンドは、データベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBRに入っているデータをユーザー・ディレクトリー/MYDIRのFINANCE.MNGという名前のストリーム・ファイ

ルにコピーします。データは、ディレクトリー/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIBに入っている変換テーブル TBL1.TBLを使用して変換されます。データベース・ファイル・メンバーのレコードは、指定されたデータベース・ファイルのCCSID(37)で表現されている末尾ブランクが取り除かれ、CRとLF文字が付加されて、ストリーム・ファイルへ書き込まれます。挿入される行形式設定文字(CRおよびLF)は、STMFCSSIDパラメーターで指定されたCCSID 437の各文字に対応します。ストリーム・ファイルが存在する場合には、CCSIDは437でなければなりません。

例3:データ変換なしのデータベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
           TOSTMF('/MYDIR/FINANCE.MNG') CVTDTA(*NONE)
           ENDLINFMT(*FIXED)
```

このコマンドは、データベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBRに入っているデータをデータ変換なしにユーザー・ディレクトリーMYDIRのストリーム・ファイル FINANCE.MNGにコピーします。ストリーム・ファイルのデータは、データベース・ファイルのレコードと同じ長さの固定長のレコードとして書き込まれます。ENDLINFMT(*FIXED)が指定されているので、行形式設定文字は挿入されません。

例4:保管ファイルからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILE')
           TOSTMF('/MYDIR/SOFTWARE')
```

このコマンドは、保管ファイル/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILEに入っているデータをストリーム・ファイル/MYDIR/SOFTWAREにコピーします。ストリーム・ファイルのデータは、保管ファイルのレコードと同じ長さの固定長のレコードとして書き込まれます。行形式設定文字は挿入されず、データ変換も実行されません。

例5:データベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータおよび権限情報のコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBR')
           TOSTMF('STMF.TXT') AUT(*FILE)
```

このコマンドは最初の例と同じ処理を行います。それに加えて、ストリーム・ファイルには、コピー元メンバーと同じ、共通、専用および1次グループ権限、権限リスト、1次グループおよび監査値が割り当てられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA097

オブジェクトはコピーされませんでした。オブジェクトは&1です。

上

テープへのコピー (CPYTOTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープへのコピー(CPYTOTAP)コマンドはレコードをテープ・ファイルにコピーします。受け入れファイルもテープ・ファイルでなければなりません。コピー元ファイルは、物理ファイル、論理ファイル、DDMファイル、テープ・ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

注: DDMファイルの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「分散データベース・プログラミング」トピック・コレクションを参照してください。

このコマンドは、ファイル・コピー(CPYF)コマンドで使用可能なパラメーターのサブセットをよりテープに限定されたパラメーターと一緒に提供します。

制約事項:

- ファイルのオープン・データ・パス(ODP)は、コピー操作中にジョブ（経路指定ステップ）の他のプログラムと共用することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	テープ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: テープ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション
TOSEQNBR	ファイル順序番号	1-16777215, *TAPF, *END	オプション
TOLABEL	テープ・ラベル	文字値, *FROMMBR, *TAPF, *NONE	オプション
TODEV	装置	単一値: *TAPF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
TOREELS	コピー先リール	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*TAPF, *SL, *NL, *LTM	
TORCDLEN	レコード長	整数, *TAPF, *CALC, *FROMFILE	オプション
TOENDOPT	テープ終了オプション	*TAPF, *REWIND, *UNLOAD, *LEAVE	オプション
TOVOL	ボリューム識別コード	単一値: *TAPF, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
TOBLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *TAPF, *CALC	オプション
TORCDBLK	レコード・ブロックのタイプ	*TAPF, *F, *FB, *V, *VB, *D, *DB, *VS, *VBS, *U	オプション
TOEXPDATE	ファイル満了日	日付, *TAPF, *PERM	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NBRRCD5	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション
COMPACT	データ短縮	*TAPF, *NO	オプション

上

FROMファイル (FROMFILE)

コピーするレコードが入っている物理ファイル、論理ファイル、DDMファイル、テープ・ファイル、またはインライン・データ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: FROMファイル

名前 コピーするファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テープ・ファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: テープ・ファイル

名前 受け入れファイルとして使用されるテープ・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

FROMメンバー (FROMMBR)

取り出しファイルからコピーされるデータベース・メンバー、あるいはテープ・ファイルのIDを指定します。取り出しファイルがプール・インライン・ファイルである場合には、このパラメーターに*FIRSTを指定しなければなりません。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

***ALL** データベース取り出しファイルのすべてのメンバーがコピーされます。FROMMBR(*ALL)は、テープ・ファイルまたはインライン・データ・ファイルに有効ではありません。

総称名 コピーされるデータベース・メンバーのグループの総称名を指定します。総称名は、テープ・ファイルまたはインライン・データ・ファイルの場合は無効となります。

名前 コピーされるデータベース・ファイル・メンバーの名前またはテープ・データ・ファイルのラベルを指定します。コピーされるテープ・ファイルのテープ・ラベルIDに特殊文字が入っているか、あるいはこのIDの長さが10文字を超える場合は、装置ファイルのCRTTAPF, CHGTAPF,またはOVRTAPF コマンドにこれを指定する必要があります。

上

ファイル順序番号 (TOSEQNBR)

コピーされるレコードを受け入れるデータ・ファイルの順序番号を指定します。

*TAPF

テープ・ファイルに指定された順序番号が使用されます。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

ラベル付きテープの場合には、TOLABELで指定されたラベルがこの順序番号で見つかる必要があります。有効な順序番号の範囲は1から16777215までです。

新規データ・ファイルをテープ受け入れファイルに追加する場合には、順序番号はそのボリュームの最後のデータ・ファイルの順序番号より1だけ大きくなっている必要があります。一連の順序番号を飛ばすことはできません。既存のデータ・ファイルの順序番号を指定すると、そのファイルが上書きされ、ボリュームの後続のファイルはすべて破棄されます。

1から16777215

コピーされるレコードを受け入れるデータ・ファイルの順序番号を指定します。

上

テープ・ラベル (TOLABEL)

コピーされるレコードを受け入れるデータ・ファイルのラベルを指定します。ラベルなしテープの場合には、このデータ・ファイルIDは無視されます。

*FROMMBR

受け入れファイルのデータ受信ファイルは、取り出しファイルからコピーされるメンバー／ラベルと同じラベルとなります。メンバー／ラベル名がFROMMBRパラメーターの値として（または(*TAPF)によって暗黙指定される）指定された場合には、テープ受け入れファイルと同じ名前のデ

ータ・ファイルがコピーされるレコードを受け取ります。総称名または*ALLがFROMMBRパラメータの値として指定された場合には、この値は無効です。

取り出しファイルがラベルなしテープ・ファイルである場合には、テープの受け入れファイルのラベルIDがCPYNNNNNの形式で作成されます。ここでNNNNNはデータ・ファイルのテープ順序番号です

***TAPF**

コピー済みレコードを受け取るラベルを識別するために、テープ・ファイルまたは一時変更に指定されたラベル値が使用されます。

***NONE**

データ・ファイルIDは指定されません。受け入れファイル・テープが標準ラベルである場合には、*NONEは正しくありません。

文字値 コピーされるレコードを受け入れるテープ・データ・ファイルを識別するラベル値を指定します。

上

装置 (TODEV)

テープ受け入れファイルにレコードをコピーするために使用される装置の名前を指定します。

単一値

***TAPF**

テープ・ファイル記述に指定された装置が使用されます。

その他の値 (最大4個指定可能)

名前 テープ取り出しファイルからのレコードの書き込み時に使用する最大4つのテープ装置、1つの仮想テープ装置、または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。装置名を指定する順序は、装置上のテープがテープ受け入れファイルに連続して書き出される順序です。それぞれの装置は、このコマンドで指定する前に（装置記述作成(CRTDEV D)コマンドを使用して）装置記述に定義されていなければなりません。

上

コピー先リール (TOREELS)

コピー済みレコードを受け取るテープ・リールで使用されるラベルづけのタイプを指定します。このシステムは、標準ラベル・テープまたはラベルのないテープにだけ書き出しを行いません。

***TAPF**

受け入れファイル用にテープ・ファイルに指定された値が使用されます。

***SL** コピーされるレコードを受け入れるためのボリュームには標準ラベルが付いています。

***NL** 使用されるボリュームにはラベルがありません。各ボリュームの終わりおよび各ボリュームのデータ・ファイルを指示するために、テープ・マークが使用されます。

***LTM** 使用するボリュームにはラベルがありませんが、最初のデータ・レコードの前に先行テープ・マークがあります。

上

レコード長 (TORCDLEN)

テープの受け入れファイルに書き出されるレコードの長さ (バイト数) を指定します。取り出しファイルのレコードは、テープに書き込む前に指定されたレコード長になるように切り捨てるか、あるいはブランクを埋め込むことができます。既存のデータ・ファイル (標準ラベルの) がテープ上で拡張した場合には、2番目の見出しラベル(HDR2) からレコード長を獲得します。レコード長、ブロック長、およびレコードのブロック形式は矛盾しないように指定しなければなりません。新しいデータ・ファイルが追加される場合、あるいはこれがラベルなしファイルである場合には、そのレコード長は、このパラメーターまたはRCDLENパラメーターによって、テープ装置ファイル・コマンドの1つに明示的に指定しなければなりません。

***FROMFILE**

受け入れファイルのレコード長は取り出しファイルのレコード長と同じになります。取り出しファイルに可変長レコードがある場合には、取り出しファイルの最大レコード長が受け入れファイルのレコード長として使用されます。

***TAPF**

テープ・ファイルで定義されたレコード長が使用されます。

***CALC**

既存のデータ・ファイル・ラベルからのレコード長が使用されます。

レコード長

受け入れファイルに書き出されるレコードに対して使用される1から32767バイトの範囲のレコード長を指定します。レコード長は、ブロック長の値およびレコードのブロック形式の値と矛盾してはなりません。

上

テープ終了オプション (TOENDOPT)

テープ・ファイルがクローズされる時に、受け入れファイルの最後のテープ・ボリュームで自動的に行なわれる位置指定操作を指定します。マルチボリュームのテープ受け入れファイルの場合には、すべての中間リールは、*UNLOAD値を指定することによって位置指定されます。これは、最後のリールにだけ適用されます。

***TAPF**

テープ・ファイルに指定された値にしたがってテープの位置変更が行われます。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

ボリューム識別コード (TOVOL)

標準ラベルのテープの場合には、テープ受け入れファイルへのレコードのコピー時に使用する1つまたは複数のテープのボリュームIDを指定します。テープ・ボリュームは、IDを指定した時と同じ順序に装置に入れなければなりません。この順序でない場合には、メッセージが操作員に送られます。

単一値

*TAPF

テープ・ファイル中のテープ・ボリュームIDが使用されます。

*NONE

このファイルにはテープ・ボリュームIDは指定されません。正しいラベル・タイプのボリュームが装置上にあることを検査しますが、それ以上のボリューム検査は行われません。

その他の値 (最大50個指定可能)

文字値 コピーされるレコードを受け入れるテープを識別するために使用されるボリュームIDを50個まで指定します。テープ・ボリュームは、指定されたIDと同じ順序で、さらに、TODEVパラメーターに指定された装置名と同じ順序で装置上になければなりません。この順序でない場合には、メッセージが操作員に送られます。各IDは最大6桁の英数字とすることができます。

上

ブロックの長さ (TOBLKLEN)

テープに転送されるデータ・ブロックの長さ (バイト数) を指定します。ブロックの長さは、レコードの長さおよびレコードのブロック形式の値と矛盾するものであってはいけません。

*TAPF

テープ・ファイルからのブロック長の値が使用されます。

*CALC

テープ受け入れファイルにブロックの長さが指定されません。既存のデータ・ファイル・ラベルのブロックの長さが使用されます。

18-524288

テープに書き込まれるデータ・ブロックの最大長を指定します。

上

レコード・ブロックのタイプ (TORCDBLK)

テープ受け入れファイルにコピーされるレコードのレコード様式およびブロック化属性を指定します。既存のデータ・ファイルが受け入れファイルとして拡張している場合には、既存のデータ・ファイル・ラベルからのレコードのブロック形式が使用されます。レコード長、ブロックの長さ、およびレコードのブロック形式のパラメーターは矛盾しないように指定しなければなりません。

*TAPF

テープ・ファイルからのレコード・ブロック形式の値が使用されます。

- *F EBCDIC形式またはASCII形式の固定長非ブロック化レコードが使用されます。
- *FB EBCDIC形式またはASCII形式の固定長ブロック化レコードが使用されます。
- *V EBCDIC形式の可変長非ブロック化レコードが使用されます。
- *VB EBCDIC形式の可変長ブロック化レコードが使用されます。
- *D ASCIIタイプD形式の可変長非ブロック化レコードが使用されます。
- *DB ASCIIタイプD形式の可変長ブロック化レコードが使用されます。
- *VS 可変長スパン・レコードが使用されます。
- *VBS 可変長ブロック化スパン・レコードが使用されます。
- *U 未定義の形式のレコードが使用されます。

上

ファイル満了日 (TOEXPDATE)

受け入れファイルに追加中のデータ・ファイルの満了日を指定します。標準ラベルのテープ・ファイルのデータ・ファイル満了日だけが確立されて、そのラベルで記述されるデータ・ファイルの直前のテープ見出しラベルに記憶されます。

*TAPF

テープ・ファイルからの満了日が受け入れファイルに使用されます。

*PERM

追加中のデータ・ファイルは永続的に保護されます。

日付 データ・ファイルに使用される満了日を指定します。日付はシステム値QDATFMTによって定義された形式で指定し、区切り記号を使用する場合には、QDATSEPで指定しなければなりません。

上

コピーするレコードの数 (NBRRCDs)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

*END レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

1から4294967288

コピーするレコード数を指定してください。指定されたレコード数がコピーされる前にファイルの終わり条件が起こった場合には、コピーされるレコード数が少なくなります。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データの短縮が実行されるかどうかを指定します。受け入れファイルによって使用されているテープ装置がデータ短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターは無視されます。

***TAPF**

受け入れファイルによって使用されている装置がデータ短縮をサポートしている場合にのみ、受け入れファイルの装置データの短縮が実行されます。

***NO** 受け入れファイルの装置データの短縮は実行されません。

上

例

例1: データベース・ファイルの最初のメンバーの磁気テープへのコピー

```
CPYTOTAP FROMFILE(MYLIB/MYFILE) TOFILE(QTAPE) TODEV(QTAPE1)
TORCDLEN(*FROMFILE) TOEXPDATE(10 15 89)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ファイルMYFILEの最初のメンバーを磁気テープにコピーします。SEQNBR(1)およびRCDBLKFMT(*F)の属性をもつ磁気テープ装置ファイルQTAPEが使用され、これは、パラメーターTOSEQNBRおよびTORCDBLKの省略時の値として使用されます。コピー・コマンドに指定される追加の属性には、テープに書き込まれるファイルの磁気テープ装置名および有効期限が含まれています。テープ装置で使用されるラベル名は、コピーされたメンバーのラベル名と同じです。また、TORCDLEN (*FROMFILE)が指定されたので、磁気テープ装置ファイルのレコード長も、データベース取り出しファイルのレコード長と同じです。

例1: データベース・ファイルのメンバーの磁気テープへのコピー

```
CPYTOTAP FROMFILE(MYLIB/MYFILE) TOFILE(QTAPE) FROMMBR(M1)
TOLABEL(BACKUPM1) TODEV(QTAPE1) TORCDLEN(50)
TOBLKLEN(1000) TORCKBLK(*FB) TOENDOPT(*LEAVE)
```

このコマンドは、磁気テープ装置ファイルQTAPEを使用して、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ファイルMYFILEからメンバーM1を磁気テープにコピーします。レコードは磁気テープ装置QTAPE1上のラベルBACKUPM1にコピーされて、コピーの完了時には、リールはその現在位置でそのままになります。磁気テープに書き込まれるデータ・ファイルは固定長の50バイトのレコードとなり、1000バイト（あるいは20個のレコード）が1ブロックにブロック化されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2864

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2904

複数のラベル・コピーのディスクット・ラベルが正しくない。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2968

&2のファイル&1のコピー中に位置指定エラーが起こった。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

上

警報テーブルの作成 (CRTALRTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル作成(CRTALRTBL)コマンドは、警報記述レコードを記憶するための警報テーブルを作成します。警報テーブルは、警報（ネットワーク内の問題通知）に使用し、それを定義するために使用するハードウェアおよびソフトウェア・プロダクトを指定します。代表的なユーザーは、システム・プログラマーまたはネットワーク・プログラマー、あるいはネットワーク管理の責任がある操作員です。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)ブックを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
LICPGM	プロダクト	文字値, 5769SS1, *NONE	オプション
LICPGMTXT	ライセンス・プログラムのテキスト	文字値, *BLANK	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

警報テーブル (ALRTBL)

作成する警報テーブルの修飾名を指定します。各警報テーブルには、警報の作成に使用される警報記述が入っています。警報テーブルはメッセージ・ファイルと1対1で対応しています。特定のメッセージの警報を定義するためには、警報テーブルの名前をメッセージ・ファイルの名前と同じものにしなければなりません。

注: 警報テーブルおよびメッセージ・ファイルを同じライブラリーに入れる必要はありません。しかし、警報テーブル・ライブラリーは警報を作成するジョブのライブラリー・リストに入っていないなければなりません。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

警報テーブルが入っているライブラリーを指定してください。指定したライブラリーだけが検索されます。ユーザーは指定したライブラリーに対する読み取り権限および追加権限をもっていなければなりません。

上

プロダクト (LICPGM)

この警報テーブルに対応したライセンス・プログラムを指定します。このプログラムは、警報送信元のソフトウェア・プロダクト識別として警報中に組み込まれます。

5761SS1

IBM i5/OSのプロダクトID。

*NONE

ライセンス・プログラムは指定されません。この値は、システムのソフトウェア資源管理データベースに定義されていないプログラムで使用することができます。ソフトウェア・プロダクト識別は警報送信元の警報にはありません。

ライセンス・プログラム

ライセンス・プロダクトの7文字のプロダクトIDを指定してください。警報管理者はこのIDを使用して、リリースおよびレベル情報用のソフトウェア資源管理データベースをアクセスします。

注: このパラメーターは必ずしも弊社のライセンス・プログラムである必要はありません。警報処理コマンドの使用にとって意味のある任意の7桁のIDを指定できます。LICPGMパラメーターに指定された値をシステムに定義した場合には、IDと、リリースおよびレベル情報が警報中に組み込まれます。

上

ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)

警報テーブル・ライセンス・プログラム・パラメーターについての説明的なテキストを指定します（例えば、'IBM i5/OS'）。このテキストは、警報送信元のソフトウェア・プロダクト識別として警報中に組み込まれます。

*BLANK

テキストは指定されません。

ライセンス・プログラム・テキスト

プログラムを記述する最大30文字までのテキストを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入るライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドの**作成権限**プロンプト (CRTAUTパラメーター) で指定された値を使用して、オブジェクトに対する権限を判別します。 CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

例

```
CRTALRTBL ALRTBL(ALRTBLLIB/ALRTBLNBR1) LICPGM(5716SS1)
          LICPGMTXT('IBM i5/OS')
          TEXT('これは作成する最初の警報テーブルです')
```

このコマンドは、ライブラリーALRTBLLIBにALRTBLNBR1という警報テーブルを作成します。一般ユーザーは、このテーブルに対する*CHANGE権限をもちます。このALRTBLと関連したライセンス・プログラムはSystem IBM i5/OSです。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

権限ホルダー作成 (CRTAUTHLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限ホルダー作成(CRTAUTHLR)コマンドによってユーザーは、タイプが*FILEのオブジェクトを保護する権限ホルダーを、そのオブジェクトがシステム上に存在する前に作成することができます。このファイルはプログラム記述データベース・ファイルでなければなりません。指定の名前でオブジェクトが作成された時に、権限ホルダーに指定された権限が新たに作成されたオブジェクトにリンクされます。

権限ホルダーは、1つの特定のオブジェクト、オブジェクト・タイプ、およびライブラリーと関連づけられます。このため、正しい権限をもつユーザーだけがオブジェクトにアクセスすることができます。権限ホルダーおよび関連したオブジェクトの所有者は常に同じです。

オブジェクトと関連付けられた権限があった場合には、それが新たに作成された権限ホルダーにリンクされます。オブジェクトの所有者は権限ホルダーの所有者になります。権限ホルダーは、ライブラリーQSYSの中にあります。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- 新しい権限ホルダーによって保護されるオブジェクト・タイプは、*FILEに限定されています。このファイルはプログラム記述データベース・ファイルでなければなりません。
- ライブラリーQRCL, QRECOVERY, QSPL, QSPLXXXX, QSYS,またはQTEMPの中にあるオブジェクトについて権限ホルダーを作成することはできません。
- 権限ホルダーは、システム補助記憶域プール(ASP)または基本ユーザーASP中のファイルしか保護できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

権限ホルダーがオブジェクトの作成時に保護するデータベース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 権限ホルダー・オブジェクトに割り当てられる名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 権限ホルダーが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTAUTHLR OBJ(QGPL/FIL1) AUT(*EXCLUDE)
```

このコマンドは、*EXCLUDE権限をもつライブラリーQGPL内のオブジェクトFIL1の権限保有者を作成します。

```
GRTOBJAUT OBJ(QGPL/FIL1) TYPE(*FILE) USER(TWO) AUT(*USE)
```

このコマンドを実行することによって、*USE権限が、ライブラリーQGPL内のファイルFIL1を保護する権限保有者のユーザーTWOに認可されます。

```
CRTSRCF FILE(QGPL/FIL1)
```

このコマンドを実行することによって、ユーザーONEは、一致している権限所有者をもつファイルを作成します。ユーザーONEは、QGPL/FIL1に対する*USE権限をもっているユーザーTWOでファイル所有者になります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPC2212

権限ホルダーが作成された。

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF2163

&2に権限ホルダーを作成することはできない。

CPF22BA

権限ホルダーを作成することができなかった。

CPF22BC

タイプ&3のオブジェクト&1はプログラム定義のオブジェクトでない。

CPF22B2

権限ホルダーの作成または削除は認可されていない。

CPF22B5

権限ホルダーはすでに存在している。

CPF22B6

権限ホルダーを作成することができなかった。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

上

権限リスト作成 (CRTAUTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト作成(CRTAUTL)コマンドは、権限リストを作成します。権限リストは、1つのオブジェクトまたはオブジェクトのセットに対するユーザー特定権限のセットを付与するために使用されます。各ユーザーは、すべてのオブジェクトに対する権限を持ちます。オブジェクトに対する権限が権限リストに認可された場合には、そのリスト上のユーザーが、オブジェクトに対する権限を取得します。ユーザーが受け取る権限は、そのユーザーについて権限リストに指定されている権限です。

権限リスト上のユーザーの権限は、ユーザー特定権限をオブジェクトに認可することによって一時変更することができます。権限リストに指定されたユーザーの権限は、特定権限によって一時変更されます。ユーザーの権限とグループ権限の両方が指定されていた場合には、そのユーザーのグループ権限も特定権限によって一時変更されます。

オブジェクトに対して指定された共通権限が*AUTLであった場合には、権限リストに指定された共通権限が使用されます。

制約事項:

- ユーザー・プロファイルまたは他の権限リストを保護するために権限リストを使用することはできません。
- オブジェクトを保護するために使用できる権限リストは1つだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTL	権限リスト	名前	必須, 定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	*CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション, 定位置 2

上

権限リスト (AUTL)

作成する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 権限リスト・オブジェクトに割り当てられる名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

上

例

```
CRTAUTL  AUTL(PROGMR)  AUT(*CHANGE)
          TEXT('プログラマー権限リスト')
```

このコマンドは、権限リスト(PROGMR)を作成します。権限が権限リストから受け取られるオブジェクトにAUT(*AUTL)としてUSER(*PUBLIC)が指定されている場合は、変更権限をもっていないユーザーがオブジェクトに対する変更権限をもっていないユーザーには、この権限リストで保護されたオブジェクトに対して*CHANGE権限が付与されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF22AD

ユーザーのグループ・プロファイルが見つからなかった。

CPF22A6

権限リストを作成するユーザーは、自分のユーザー・プロファイルに対する*ADD権限をもっていないなければならない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF2278

権限リスト&1はすでに存在している。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

上

バインドCL PGMの作成 (CRTBNDCCL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

結合制御言語プログラム作成(CRTBNDCCL)コマンドは、指定されたCLソース・プログラムから統合化言語環境(ILE)制御言語(CL)プログラムを作成します。

CRTBNDCCLコマンドの大部分のパラメーターおよびオプションは、CRTBNDCCLコマンドにのみ存在するユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターを除き、制御言語モジュール作成(CRTCLMOD)コマンドのパラメーターおよびオプションと同じです。オプション*NOGENはCRTBNDCCLコマンドでは使用できません。常に完全なコンパイルが実行されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
DFACTGRP	省略時の活動化グループ	*YES, *NO	オプション
ACTGRP	活動化グループ	名前, *STGMDL, *NEW, *CALLER	オプション
STGMDL	ストレージ・モデル	*SINGLVL, *TERASPACE	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *NONE	オプション, 定位置 4
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *XREF, *NOXREF, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 5
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
LOG	ログ・コマンド	*JOB, *YES, *NO	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX , *JOB, *JOB RUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB RUN , *JOB	オプション
OPTIMIZE	最適化	*NONE , *BASIC, *FULL, 10, 20, 30, 40	オプション
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	*STMT , *SOURCE, *LIST, *ALL, *NONE	オプション
ENBPFRCOL	パフォーマンス収集使用可能	*PEP , *FULL, *NONE	オプション
INCFIL	INCLUDEファイル	単一値: *SRCFILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: INCLUDEファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

上

プログラム (PGM)

作成するプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 作成するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

プログラムはジョブの現行ライブラリーに保管されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムを入れるライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCLSRC

コンパイルするCLソース・メンバーが入っている、QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

名前 コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。このソース・ファイルは、データベース・ファイル、装置ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

コンパイルするCLソース・プログラムが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***PGM** コンパイルするCLソース・プログラムは、コンパイル済みプログラムの**プログラム (PGM)**パラメーターに指定されたのと同じ名前のソース・ファイルのメンバーの中にあります。

名前 メンバー名が作成するプログラムの名前と同じでない場合に、CLソース・プログラムが入っているメンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

コンパイル済みCLプログラムを簡単に記述するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLプログラムを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーからとられます。ソース・ファイルがインライン・データ・ファイルまたは装置ファイルであった場合には、このテキストはブランクとなります。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)

プログラムが省略時の活動化グループと関連付けられるかどうかを指定します。

***YES** プログラムは、省略時の活動化グループと関連付けられます。

注: この値を指定した場合には、ACTGRPパラメーターを指定することはできません。

***NO** プログラムは、省略時の活動化グループと関連付けられません。

活動化グループ (ACTGRP)

プログラムが呼び出された時に関連付けられる活動化グループを指定します。活動化グループにより、次のものが提供されます。

- プログラムの実行をサポートするための実行時データ構造
- アドレッシング保護
- メッセージを作成するための論理境界
- アプリケーションのクリーンアップを処理するための論理境界

*STGMDL

STGMDL(*SINGLVL)が指定されている場合には、このプログラムが呼び出されると、このプログラムは活動化されてQILE活動化グループに入れられます。STGMDL(*TERASPACE)が指定されている場合には、このプログラムが呼び出されると、このプログラムは活動化されてQILETS活動化グループに入れられます。

*CALLER

このプログラムが呼び出される時に、プログラムは呼び出し元の活動化グループ内で活動化されません。

***NEW** このプログラムが呼び出されると、システムは新しい活動化グループを作成します。

名前 このプログラムが呼び出された時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

ストレージ・モデル (STGMDL)

プログラムの記憶域モデル属性を指定します。

*SINGLVL

プログラムは単一レベル記憶域モデルで作成されます。単一レベル記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用の単一レベル記憶域が提供されます。単一レベル記憶域プログラムは単一レベル記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

*TERASPACE

プログラムはテラスペース記憶域モデルで作成されます。テラスペース記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用のテラスペース記憶域が提供されます。テラスペース記憶域プログラムはテラスペース記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。DFTACTGRP(*YES)が指定されている場合には、STGMDL(*TERASPACE)を指定することはできません。

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを作成するかどうかを指定します。

***PRINT**

コンパイル・リストが作成されます。このリストに含まれる情報は、ソース・リスト・オプション(OPTION)パラメーターに指定された値によって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストは作成されません。リストが不要な場合には、コンパイル時のパフォーマンスが向上することがあるので、このオプションを使用しなければなりません。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理時に作成される出力リストのタイプ、およびプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターには、以下の値を3つまで任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

相互参照オプション

***NOXREF**

ソース・プログラム中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

***XREF**

ソース・プログラムの相互参照表が作成されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストが印刷されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、CoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)プロダクトが使用するイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトが使用するイベント・ファイルを作成します。このイベント・ファイルは、ソース・ライブラリーのファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されません。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、このオプションはユーザーのためにCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に実行される権限検査に、プログラムを実行中のユーザー(*USER)だけを含めるか、あるいはプログラムを実行中のユーザーとプログラム所有者(*OWNER)の両方を含めるかどうかを指定します。プログラム・ユーザーのプロファイルまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルは、各オブジェクトについてプログラムがもつ権限を含め、プログラムで使用できるオブジェクトを制御するために使用されます。ユーザー・プロファイル属性を変更できるのは、プログラム所有者またはQSECOFR権限をもつユーザーだけです。

注: REPLACE(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*USER

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

*OWNER

プログラムの処理時には、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理時にオブジェクトを検索してアクセスするために、両方のユーザー・プロファイルにあるオブジェクト権限の集合セットが使用されます。所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行プログラムの権限には組み込まれません。

上

ログ・コマンド (LOG)

作成されたCLプログラムに関するロギング・オプションを指定します。

*JOB 実行中のCLプログラムの中のコマンドのロギングは、ジョブのロギング・フラグの状況によって決まります (ジョブ変更(CHGJOB)コマンドのLOGCLPGMパラメーターを参照してください)。ログされたコマンドをリストするためには、ジョブのロギング・レベルが3または4でなければなりません。

*YESまたは*NOの値は、CHGJOBコマンドに指定されたどの値よりも優先します。

*YES コマンドはすべての場合にログされます。

*NO コマンドはログされません。

上

プログラムの置き換え (REPLACE)

同じ名前のプログラムが指定したライブラリーにすでに存在していた場合に、既存のプログラムを置き換えるかどうかを指定します。

*YES 既存のプログラムをQRPLIBライブラリーに移動させることによって、それが置き換えられます。

注:

1. 実行中のCLプログラムがREPLACEパラメーターに*YESを指定して再コンパイルされた場合には、実行中のCLプログラムでメッセージ待ち行列エラーが起こる可能性があります。
2. このパラメーターに*YESを指定すると、USRPRFおよびAUTパラメーターの値は無視されます。権限の情報源として既存のプログラムが使用され、ユーザー・プロファイル属性は既存のプログラムから新しいプログラムにコピーされます。プロファイルを変更するためにはプログ

ラム変更 (CHGPGM)コマンドを使用することができます。プログラムに対する権限を変更するためにはオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドを使用することができます。

- *NO 既存のプログラムは置き換えられません。同じ名前のプログラムが指定したライブラリーに存在していた場合には、メッセージが表示され、コンパイルは停止します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

- *PRV オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトの特定権限をもたず、権限リストにも入っておらず、またこのオブジェクトの特定権限をもたないユーザー・グループに属しているユーザーに対して認可しようとしている権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

注: REPLACE(*YES)が指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このCLプログラムのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。この分類順序値は、使用する分類順序テーブルを決定するためにジョブの言語IDおよびコード化文字セットIDと一緒に使用されます。

単一値

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されません。

***JOB** 使用される分類順序は、CLプログラムの作成時にジョブと対応したSRTSEQです。

***JOBRUN**

使用される分類順序は、CLプログラムの実行時にジョブと対応したSRTSEQです。

***LANGIDUNQ**

分類順序テーブルでは、各文字ごとに固有の重みを使用され、これは、LANGIDパラメーターに指定された言語の順位別分類テーブルです。

***LANGIDSHR**

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターに指定された言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

修飾子1: 分類順序

名前 このCLプログラムで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。 スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***JOBRUN**

使用される言語IDは、CLプログラムの実行時にジョブと対応するLANGIDです。

***JOB** 使用される言語IDは、CLプログラムの作成時にジョブと対応するLANGIDです。

言語ID

ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

上

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたプログラム・コードの最適化レベルを指定します。 ILE CLは最適化できません。 互換性については*NONE以外の値は受け入れられますが、最適化は実行されません。 ILE CLモジュールおよびプログラムは、*NONEより高い最適化レベルが必要なシステム機能では使用しないでください。

***NONE**

生成されたコードは最適化されません。この値は、変換時間の点からは最速の最適化レベルです。このレベルによって、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。

***BASIC**

最適化は実行されません。 CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

***FULL**

最適化は実行されません。 CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

10 最適化は実行されません。 CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

20 最適化は実行されません。 CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

30 最適化は実行されません。 CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

40 最適化は実行されません。 CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

上

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

コンパイル済みプログラムに使用可能なデバッグ・レベル、およびソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューを指定します。

*STMT

プログラムのステートメント番号および記号識別名を使用して、コンパイル済みプログラムをデバッグすることができます。

***ALL** コンパイル済みプログラムをデバッグするためのデバッグ・オプションはすべて使用できます。ソースおよびデバッグ・リスト・ビューが生成されます。

***SOURCE**

コンパイル済みプログラムのデバッグのためにソース・ビューが生成されます。

***LIST** コンパイル済みプログラムのデバッグのためにリスト・ビューが生成されます。

***NONE**

コンパイル済みプログラムをデバッグするためのデバッグ・オプションは使用できません。

上

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)

このパラメーターは廃止されました。

上

INCLUDEファイル (INCFILE)

CLソースの組み込み(INCLUDE)コマンドを使用してプログラムに組み込まれるメンバーを含むソース・ファイルを指定します。

単一値

*SRCFILE

ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定されるソース・ファイルには、すべてのCL INCLUDEコマンドで指定されるソース・ファイル・メンバーが含まれます。

修飾子1: INCLUDEファイル

名前 すべてのCL INCLUDEコマンドで指定されたソース・ファイル・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

ここで指定するソース・ファイルのレコード長は、SRCFILEパラメーターに指定されたソース・ファイルのレコード長より大きいか等しくなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1:任意のシステム・ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTBNDCL  PAYROLL  TEXT('給与計算プログラム')
```

このコマンドは、ILE CLコンパイラーを呼び出して、PAYROLLという名前のプログラムを作成します。制御言語プログラムまたはILE CLプロシージャ・ソースは、省略時のソース・ファイルQCLSRCのメンバーPAYROLLに入っています。コンパイラー・リストが作成されます。プログラムは、プログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで処理され、任意のシステム・ユーザーが実行できます。

例2:許可ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTBNDCL  PGM(PARTS) SRCFILE(MYLIB/PARTDATA) AUT(*EXCLUDE)
          OUTPUT(*PRINT)
          TEXT('このプログラムはすべての部品データを表示します')
```

このコマンドは、PARTSという名前のCLプログラムを作成して、現行ライブラリーに保管します。このプログラムのソースは、ライブラリーMYLIBにあるソース・ファイルPARTDATAのPARTSメンバーに入っています。コンパイラー・リストが作成されます。このプログラムは、このプログラムを実行するユーザーのプロファイルのもとで処理することができます。このユーザーは、所有者であるか、所有者がオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドで名前によって特定の権限を付与した別のユーザーです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0C33

ターゲット・リリース&1が正しくない。

CPF0C35

ターゲット・リリース&1はサポートされているリリースではない。

CPF0807

コンパイラー印刷出力を含むファイルがオープンされなかった。

CPF0808

コンパイラー作成のコードにエラー。

CPF0814

ライセンス・プログラム5761-SS1のオプション9が導入されていない。

CPF0815

&2のCLプログラム&1を前のリリース用に作成することはできない。

CPF0820

プログラム&1は作成されなかった。

CPF0849

アドレス空間のアドレス指定の違反。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3224

ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。

上

バインド・ディレクトリーの作成 (CRTBNDDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの作成(CRTBNDDIR)コマンドは、指定したライブラリーにバインド・ディレクトリー・オブジェクトを作成します。

制約事項:

- バインド・ディレクトリーを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

上

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

作成するバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 作成するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

バインド・ディレクトリーはジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 バインド・ディレクトリーを作成するライブラリーの名前を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

バインド・ディレクトリー・オブジェクトを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

CRTBNDDIR BNDDIR(*CURLIB/DISPLAYS)

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリー内に、あるいはそのジョブの現行ライブラリーがない場合は QGPLライブラリー内に、DISPLAYSという名前のバインド・ディレクトリーを作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5D0B

バインド・ディレクトリー&1が作成されなかった。

上

構成リスト作成 (CRTCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト作成(CRTCFGL)コマンドにより、構成リストが作成されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TYPE	構成リスト・タイプ	*APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	必須, 定位置 1
CFGL	構成リスト	名前	オプション
DFTFTRACN	省略時のフィルター処置	*ACCEPT, *REJECT	オプション
APPNRMIFTR	APPN リモート CFGL フィルター	*ACCEPT, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
APPNLCL	APPN ローカル・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ローカル・ロケーション名	通信名	
	要素 2: 項目記述	文字値, *BLANK	

キーワード	記述	選択項目	ノート
APPNRMTE	APPN リモート・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	総称名, 名前, *ANY	
	要素 2: リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR , *NONE	
	要素 3: ローカル・ロケーション名	通信名, *NETATR	
	要素 4: リモート制御点	通信名, *NONE	
	要素 5: 制御点ネットワークID	通信名, *NETATR , *NONE	
	要素 6: ロケーション・パスワード	文字値, *NONE	
	要素 7: 保護ロケーション	*YES , *NO , *VFYENCPWD	
	要素 8: 単一セッション	*YES , *NO	
	要素 9: ローカル制御セッション	*YES , *NO	
	要素 10: 事前確立セッション	*YES , *NO	
	要素 11: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
	要素 12: 会話の数	1-512, 10	
ASYNCADRE	非同期ネットワーク・アドレス項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・アドレス	文字値	
	要素 2: ダイヤル呼び出し再試行	1-255, 2	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
ASYNCLOCE	非同期リモート・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	通信名	
	要素 2: リモート・ロケーション識別コード	名前	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
RTLPASTRHRE	小売業パススルー項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 小売業装置	名前	
	要素 2: SNUF装置	名前	
	要素 3: 省略時のホスト・プログラム	名前	
	要素 4: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE , *LIBCRTAUT	オプション

上

構成リスト・タイプ (TYPE)

5つの指定可能な構成リスト・タイプのうちの1つを指定します。

これは必須パラメーターです。

*APPNDIR

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー検索フィルター構成リストが使用されます。このコマンドを使用して指定できるのは、テキスト記述(TEXT)パラメーターおよび省略時処置(DFTACN)パラメーターだけです。

注: APPNディレクトリー構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

*APPNLCL

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ローカル・ロケーション・リストです。構成リストには、最高476個までのAPPNローカル・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNRMT

APPNリモート・ロケーション・リストです。構成リストには、最高1898個までのAPPNリモート・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNSSN

APPNセッション・エンドポイント・フィルター構成リストが使用されます。

*ASYNCADR

非同期ネットワーク・アドレス・リストが作成されます。構成リストには、最高294個までの非同期ネットワーク・アドレス項目を使用することができます。

*ASYNCLOC

非同期リモート・ロケーション・リストが作成されます。構成リストには非同期リモート・ロケーション項目を最大で32000個まで入れることができます。

*RTLPASTHR

小売業パススルー・リスト。最大450個の小売業パススルー記入項目を構成リストで使用することができます。

*SNAPASTHR

SNAパススルー・リスト。構成リストには、最高254個までのSNAパススルー項目を使用することができます。このコマンドを使用して、SNA構成リスト用のテキスト記述だけを指定することができます。

注: 項目をSNA構成リストに追加するためには、構成リスト項目追加(ADDCFGLE)コマンドを使用してください。

装置の名前および記述を既存の項目に追加するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

上

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。この値は、必要ですが、構成リストが非同期ネットワーク・アドレス・リスト（構成リスト・タイプ (TYPE)パラメーターに*ASYNCADRが指定された）の時にだけ有効です。リスト・タイプにはシステム提供の名前、QAPPNLCL, QAPPNRMT, QASYNCADR, QASYNCLC, QRTLPASTR,およびQSNAPASSTRがあります。

上

省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)

ローカル・システムによって処理されるAPPN要求の省略時のフィルター処置を指定します。このフィルター処置は、構成リストに特にリストされていないすべてのディレクトリー検索要求およびセッション・エンドポイント要求に適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)またはTYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

*REJECT

要求は拒否されます。

*ACCEPT

要求は受け入れられます。

上

APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTFTR)

セッション・エンドポイント要求のフィルター操作が行なわれる時に、APPNリモート構成リスト項目が使用されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

*ACCEPT

APPNリモート構成リストに指定された項目のセッション・エンドポイント要求が受け入れられます。

*NONE

セッション・エンドポイント要求は、APPNリモート構成リスト中に指定された項目を使用してフィルター操作されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCLLE)

APPNローカル・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNLCLが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。この名前は、送られてくる要求がこのシステム用のものか、あるいはネットワーク中の別のシステム用のものかを判別するためにAPPNによって使用されます。ローカル・ロケーション名は固有としなければならず、構成リストQAPPNRMTで使用されるリモート・ロケーション名としてすでに存在してはならず、あるいは同じAPPNネットワーク中のローカル・ロケーションとして別のシステムに指定されてはいけません。

項目記述

各ローカル項目の20文字以下の短い記述を指定してください。

APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)

APPNリモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNRMTが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの完全な名前、あるいはアスタリスク(*)で終る総称名を指定してください。総称ロケーション名は、名前がアスタリスクの前の文字と一致している単一制御点で、すべて

のロケーションに対して1つのディレクトリー項目を定義できるようにするために使用されます。また、*ANYを指定することができ、システムはこれを通して送られてくるすべての要求を受け入れることができます。総称記入項目は、ネットワーク・ノードからのみ使用することができます。

リモート・ネットワークID

リモート・ロケーションが入っているネットワークのネットワークIDを指定してください。省略時の値*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。APPNはこの名前を使用して、ローカルとリモートの対になるロケーションの項目を突き合わせます。省略時の値*NETATRは、システム属性からのLCLLOCNAMEを使用します。

制御点名

リモート・ロケーションのネットワーク機能を備えている制御点を指定してください。この制御点名（リモート・ロケーションのディレクトリー項目）を使用することによって、ロケーションを見つけるために、ネットワークがより効果的に検索されます。リモート・ロケーション名が総称の場合には、このフィールドは必須です。省略時の値は*NONEです。

制御点ネットワークID

制御点が入っているネットワークのネットワークIDを指定してください。省略時の値*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ロケーション・パスワード

ローカル・ロケーション／リモート・ロケーション名の対にセッションを確立するとき使用するパスワードを指定します。この値には、偶数個の16進文字が含まれていなければなりません。省略時の値は*NONEです。

機密保護ロケーション

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

***NO** リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

***YES** リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査することができます。リモート・システムでは、ユーザーIDはオペレーティング・システムから検索されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

*VFYENCPWD

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードはオペレーティング・システムから検索されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがI5/OS V3R2M0以降を使用している場合にのみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない場合には、セッション確立は許可されないことに

なります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証 (VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話は SECURITY(NONE)として扱われることとなります。

会話の数

単一セッション接続の会話の数を指定してください。省略時の会話の数は10です。単一セッションが*NOの場合には、省略時の値を使用しなければなりません。会話の数の有効な範囲は1から512です。

ローカル制御セッション

ローカル制御セッションが、このローカル・ロケーション名/リモート・ロケーション名の対に使用できるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

事前確立セッション

ローカルおよびリモート・ロケーションとの間で接続が行なわれた時に、セッションが自動的に結合されるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

項目記述

各リモート項目に短い記述を指定します。省略時の値は*BLANKです。

注: リモート・ロケーション名、ネットワークID,およびローカル・ロケーション名の組み合わせは固有のものでなければなりません。また、リモート・ロケーション名は、構成リストQAPPNLCL内のローカル・ロケーション名として、あるいはLCLLOCNAMEまたはLCLCPNAMEネットワーク属性の現行値としてすでに存在するものであってはなりません。

上

非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)

非同期ネットワーク・アドレス項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCADRが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ネットワーク・アドレス

X.25ネットワーク・アドレスを指定します。この値には数字0から9しか入れることができません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出し中にエラーが起こった時に、リストの次の番号のダイヤル呼び出しが試みられる前にダイヤル呼び出しが再試行される回数を指定してください。ダイヤル呼び出しの再試行回数の有効な範囲は1から255です。

項目記述

各ネットワーク・アドレス項目の短い記述を指定してください。

上

非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOC)

非同期リモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCLOCが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションIDと結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定する名前を指定してください。これは、ローカル名としてリモート・システムで使用された名前と同じです。この値は固有でなければなりません。

リモート・ロケーションID

リモート・ロケーション名と結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定するIDを指定してください。このIDは、ローカルIDとしてリモート・システムで使用されたものと同じでなければなりません。

項目記述

各リモート・ロケーション項目の短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

上

小売業パススルー項目 (RTLPASTR)

小売業パススルー項目を指定してください。この値は、構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*RTLPASTRを指定した場合に必要です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

小売業装置名

ホストと通信する小売業装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

SNUF装置名

小売業装置がホストと通信するためのSNUF装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

省略時のホスト・プログラム名

セッションの開始を要求するSNAコマンド(INIT-SELF)にプログラム名が示されていない場合には、ホストで開始するプログラムの名前を指定してください。

項目記述

各小売業パススルー項目ごとの短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

CRTCFGL TYPE(*APPNLCL)

このコマンドは、全画面の入力画面を表示して、ユーザーが構成リストQAPPNLCLに新しい項目を追加できるようにします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF260D

構成リスト&1はすでに存在している。

CPF260E

構成リスト&1は作成されなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261D

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261F

構成リスト&1が削除された。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

鍵ストア・ファイルの作成 (CRTCKMKSF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

鍵ストア・ファイルの作成 (CRTCKMKSF)コマンドは、API、CLコマンド、およびGUIインターフェースの暗号サービス・セットによって暗号キー値のデータベース・ファイルを使用するために作成します。

鍵ストアの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションの暗号サービス・セクションの暗号サービス鍵ストアに関する部分を参照してください。

制約事項:

- 鍵ストア・ファイルを作成するライブラリーに対する実行(*EXECUTE)および追加(*ADD)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
KEYSTORE	鍵ストア・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 鍵ストア・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
MSTKEY	マスター・キー	1-8	必須, 定位置 2
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション

上

鍵ストア・ファイル (KEYSTORE)

鍵ストア・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 鍵ストア・ファイル

名前 作成する鍵ストア・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ファイルが作成される場所は、ジョブの現行ライブラリーです。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

上

マスター・キー (MSTKEY)

キーの値を暗号化するマスター・キーを指定します。

これは必須パラメーターです。

1から8 鍵ストアのキーを暗号化するために使用できるマスター・キーが8つあります。

上

権限 (AUT)

鍵ストア・ファイルに対する特定の私用権限またはグループ権限をもっていないユーザーに認可する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

鍵ストア・ファイルの共通権限は、ファイルの作成時にターゲット・ライブラリーのCRTAUT値から取られます。

*CHANGE

ユーザーは、鍵ストア・ファイルの読み取り、追加、更新および削除権限をもち、オブジェクト記述を読み取ることができます。

***ALL** ユーザーは、鍵ストア・ファイルですべての認可された操作を実行することができます。

***USE** ユーザーは、オブジェクト記述と内容を読み取ることはできますが、鍵ストア・ファイルを変更することはできません。

*EXCLUDE

ユーザーは、どのような方法を使用しても鍵ストア・ファイルにアクセスすることはできません。

名前 鍵ストア・ファイルは、指定された権限リストによって保護され、その共通権限は*AUTLに設定されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

鍵ストア・ファイルの簡単な記述を指定してください。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、単一引用符で囲んで指定してください。

上

例

```
CRTCKMKSF KEYSTORE(MYLIB/MYKEYS) MSTKEY(5) AUT(*EXCLUDE)
TEXT('キーはここに保管されます。')
```

このコマンドは、暗号サービス・キーを保管するためにライブラリーMYLIBでMYKEYSという名前のデータベース・ファイルを作成します。キーの値は、マスター・キー5で暗号化されたファイルに保管されます。ユーザーは、特にこのファイルの使用を認可されている必要があります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

CPF9D94

マスター・キーに保留値が存在する。

CPF9D9D

鍵ストア・ファイルの属性の設定中にエラーが起こりました。

CPF9DA0

鍵ストア・ファイルのオープン中にエラー。

CPF9DB3

修飾鍵ストア・ファイル名が無効です。

CPF9DB5

鍵ストア・ファイルは作成されていません。

CPF9DB7

鍵ストア・ファイルへの書き出し中にエラーが起こりました。

上

C ロケール記述の作成 (CRTCLD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

C/400*ロケール記述作成(CRTCLD)コマンドは、SRCFILEおよびSRCMBRパラメーターで供給されたソース情報を使用して、ロケール記述オブジェクト(*CLD)を作成します。ロケール記述ソース・ファイルが存在していなければなりません。

既存のロケールを変更するためには、Cロケール記述検索(RTVCLDSRC)コマンドを使用してください。

エラー・メッセージ: CRTCLD

*ESCAPE メッセージ

PSE1707

CRTCLDコマンドのリスト・オプションが正しく実行されなかった。

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1749

コンパイルは正常に実行されなかった。ロケール・オブジェクト&1は作成されませんでした。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CLD	ロケール名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ロケール名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCLDSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *CLD	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション, 定位置 4
OPTION	ソース・リスト・オプション	*NOSOURCE, *SOURCE, *NOSRC, *SRC	オプション, 定位置 5
LISTING	エラー・リスト・レベル	*NOSECLVL, *SECLVL	オプション, 定位置 6

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプションル, 定位置 7
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, <u>QSYSPRT</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REPLACE	置き換え	*YES, *NO	オプションル, 定位置 8
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプションル, 定位置 9
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V3R0M5, V3R1M0, V3R6M0	オプションル, 定位置 10

上

ロケール名 (CLD)

新しいC/400ロケール記述の名前およびライブラリーを指定します。

ロケール名

C/400ロケール記述の名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

Cロケール記述作成(CRTCLD)コマンドが処理される時には、ロケールを記憶するために現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

C/400ロケール記述を作成するライブラリーの名前を入力してください。このライブラリーはすでに存在しているものでなければなりません。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

C/400ロケール記述ソースのソース物理ファイル名およびライブラリーを指定します。ソース物理ファイルもライブラリーも存在しているものでなければなりません。

QCLDSRC

処理するC/400ロケール記述ソースが入っているソース物理ファイルの省略時の名前です。

ソース・ファイル名

C/400ロケール記述ソースが入っているファイルの名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL Cロケール記述作成(CRTCLD)コマンドが処理される時には、ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるためにライブラリー・リストが検索されます。

*CURLIB

Cロケール記述作成(CRTCLD)コマンドが処理される時には、ソース・ファイルを見つけるために現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーとして特定のライブラリーを指示していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

C/400ロケール記述ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

C/400ロケール記述ソースが入っているメンバーを指定します。このメンバーはSRCFILEパラメーターで指定したファイルおよびライブラリーにあります。このメンバーは存在しなければなりません。

***CLD** CLDパラメーターによって識別されるロケール名がメンバーの名前でもあります。

ソース・ファイル・メンバー名

処理するロケール記述ソースが入っているファイル・メンバーの名前を入力してください。

上

テキスト記述 (TEXT)

C/400ロケール記述を説明するテキストを入力してください。

***SRCMBRTXT**

ロケール記述ソースと関連したテキスト記述が使用されます。

***BLANK**

テキストはありません。

'記述' 50桁以内の記述テキストを入力し、それを単一引用符で囲んでください。引用符は50桁のストリングの一部ではありません。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

C/400ロケール記述ソースを処理する時に使用するオプションを指定します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

ソース・リストを作成しません。

SOURCE**またはSRC**

ソース・リストを作成します。

上

エラー・リスト・レベル (LISTING)

作成されたソース・リストに入れるエラー・メッセージの詳細のレベルを指定します。

***NOSECLVL**

第1レベルのエラー・メッセージ・テキストだけが、作成されたソース・リストに入れられます。

***SECLVL**

両方のレベルのメッセージ・テキストが、作成されたソース・リストに入れられます。第2レベル

のテキストには、エラーの原因、回復のために取るべき考えられるステップ、およびエラーのために取られた処理ステップの詳細説明が示されます。

上

印刷ファイル (PRTFILE)

ソース・リストの印刷に使用される印刷装置ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

QSYSPRT

リストは省略時の印刷装置ファイルQSYSPRTに送られます。

印刷ファイル名

ソース・リストを送りたい印刷装置ファイルの名前を入力してください。このファイルは、少なくとも132文字のレコード長をもつように定義されているものでなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 印刷装置ファイルを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

印刷装置ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーとして特定のライブラリーを指示していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

印刷装置ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

上

置き換え (REPLACE)

ロケール記述オブジェクトの既存のバージョンを現行バージョンで置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のロケール記述は、新しいバージョンで置き換えられます。古いバージョンは、ライブラリーQRPLOBJに移動され、システム日付および時刻に基づいて名前が変更されます。置き換えられたロケール記述のテキスト記述は、元のロケール記述の名前に変更されます。古いロケール記述は、明示的に削除しない場合には、次のIPL時に削除されます。

***NO** 既存のロケール記述は置き換えられません。指定したライブラリーに同じ名前のロケール記述が存在する場合には、メッセージが表示され、ロケール記述は作成されません。

上

権限 (AUT)

オブジェクトに対して特定権限をもっていないか、権限リスト上にないか、あるいはそのグループがオブジェクトに対して特定権限をもっていないユーザーに認可するオブジェクト権限を指定します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトの共通権限は、目的ライブラリー（作成されたオブジェクトが入れられるライブラリー）のCRTAUTキーワードから取られます。この値はオブジェクトの作成時に決定されます。オブジェクトの作成後にライブラリーに対するCRTAUT値が変わっても、新しい値が既存のオブジェクトに影響を及ぼすことはありません。

***CHANGE**

すべてのデータ権限と、所有者に限定されるかあるいはオブジェクト権限およびオブジェクト管理権限によって制御されたオブジェクトを除くすべての操作を実行する権限を提供します。オブジェクトを変更することができ、オブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権限および読み取り権限、すなわちプログラムの実行、ファイルの読み取りなどオブジェクトに対する基本的な操作の権限を提供します。オブジェクトを変更することはできません。

***ALL** 所有者に限定されるかあるいは権限リスト管理権限によって制御されたオブジェクトを除く、すべての操作の権限を認可します。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、またオブジェクトに基本的な機能を実行することができますが、所有権を移すことはできません。

***EXCLUDE**

オブジェクトをアクセスすることはできません。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

注: このパラメーターはCロケール記述作成(CRTCLD)コマンドでは機能をもっていませんが、オブジェクト作成用の他のCLコマンドとの整合性を保つために含まれています。使用可能なTGTRLS値のいずれかを使用して作成された*CLDオブジェクトは、前のバージョンのオペレーティング・システムで復元して使用することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで稼働中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、システムでV3R6M0が実行中の場合には、*CURRENTは、V3R6M0の導入されているシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。導入されているオペレーティング・システムの後のリリースのシステムでオブジェクトを使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のリリースで使用されます。たとえば、システムでV3R6M0が実行中の場合には、*PRVは、V2R3M0の導入されているシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。導入されているオペレーティング・システムの後のリリースのシステムでオブジェクトを使用することもできます。

リリース・レベル

リリースをVXR_{バージョン}MXの形式で指定してください。VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステム、あるいは導入されているオペレーティング・システムより後のリリースのシステムで使用することができます。

有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって決まり、新しいリリースごとに変わります。このリリースについて有効な値のリストを参照するためには、TGTRLSパラメーターからF4（プロンプト）キーを押してください。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PSE1707

CRTCLDコマンドのリスト・オプションが正しく実行されなかった。

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1749

コンパイルは正常に実行されなかった。ロケール・オブジェクト&1は作成されませんでした。

上

CLモジュールの作成 (CRTCLMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語モジュール作成(CRTCLMOD)コマンドは、指定されたCLソース・メンバーから制御言語(CL)モジュールを作成します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *MODULE	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト・記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *NONE	オプション, 定位置 4
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 5
LOG	ログ・コマンド	*JOB, *YES, *NO	オプション
REPLACE	モジュール・オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX, *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOBRUN, *JOB	オプション
OPTIMIZE	最適化	*NONE, *BASIC, *FULL, 10, 20, 30, 40	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	*STMT, *SOURCE, *LIST, *ALL, *NONE	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能	*PEP, *FULL, *NONE	オプション
INCFE	INCLUDEファイル	単一値: *SRCFILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: INCLUDEファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

モジュール (MODULE)

作成するモジュール・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

名前 作成するモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

モジュールはジョブの現行ライブラリーに保管されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 モジュールを保管するライブラリーを指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCLSRC

コンパイルするCLソース・メンバーが入っている、QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

名前 コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。このソース・ファイルは、データベース・ファイル、装置ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されま

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***MODULE**

コンパイルするCLソース・メンバーは、コンパイル済みモジュールのMODULEパラメーターに指定されたのと同じ名前のソース・ファイルのメンバーの中にあります。

名前 メンバー名が作成するモジュールの名前と同じでない場合に、CLソースが入っているメンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

コンパイル済みCLモジュールを簡単に説明するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLモジュールを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーからとられます。ソース・ファイルがインライン・データ・ファイルまたは装置ファイルであった場合には、このテキストはブランクとなります。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを作成するかどうかを指定します。

***PRINT**

コンパイル・リストが作成されます。このリストに含まれる情報は、ソース・リスト・オプション(OPTION)パラメーターに指定された値によって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストは作成されません。リストが不要な場合には、コンパイル時のパフォーマンスが向上することがあるので、このオプションを使用しなければなりません。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理時に作成される出力リストのタイプ、およびプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

モジュール作成オプション

***GEN** コンパイル処理のすべての段階が実行されます。

***NOGEN**

構文検査の後にコンパイルは停止します。モジュールは作成されません。

相互参照オプション

***NOXREF**

ソース・プログラム中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

***XREF**

ソース・プログラムの相互参照表が作成されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストが印刷されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、CoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)プロダクトが使用するイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトが使用するイベント・ファイルを作成します。このイベント・ファイルは、ソース・ライブラリーのファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、このオプションはユーザーのためにCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

ログ・コマンド (LOG)

作成されたCLプログラムに対するロギング・オプションを指定します。

***JOB** CLモジュールを実行中のコマンドのロギングは、ジョブのロギング・フラグの状況（ジョブ変更(CHGJOB)コマンドのLOGCLPGMパラメーターを参照）によって決まります。ログされたコマンドをリストするためには、ジョブのロギング・レベルが3または4でなければなりません。

*YESまたは*NOの値は、CHGJOBコマンドに指定されたどの値よりも優先します。

***YES** コマンドはすべての場合にログされます。

***NO** コマンドはログされません。

上

モジュール・オブジェクトの置き換え (REPLACE)

同じ名前のモジュールが指定したライブラリーにすでに存在していた場合に、既存のモジュールを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のモジュールをQRPLIBライブラリーに移動させることによって、それが置き換えられます。

注:

1. REPLACEパラメーターに*YESが指定されている時に実行中のCLモジュールを再コンパイルした場合には、実行中のCLモジュールでメッセージ待ち行列エラーが起こります。
2. このパラメーターに*YESを指定すると、AUTパラメーターの値は無視されることとなります。既存のモジュールが権限の情報源として使用されます。モジュールの権限を変更するためには、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドを使用することができます。

***NO** 既存のモジュールは置き換えられません。同じ名前のモジュールが指定したライブラリーに存在していた場合には、メッセージが表示され、コンパイルは停止します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトの特定権限をもたず、権限リストにも入っておらず、またこのオブジェクトの特定権限をもたないユーザー・グループに属しているユーザーに対して認可しようとしている権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

注: REPLACE(*YES)が指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このCLモジュールのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。この分類順序値は、使用する分類順序テーブルを決定するためにジョブの言語IDおよびコード化文字セットIDと一緒に使用されます。

単一値

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されます。

***JOB** 使用される分類順序は、CLモジュールの作成時のジョブと関連したSRTSEQです。

***JOBRUN**

使用される分類順序は、CLモジュールの実行時のジョブと関連したSRTSEQです。

***LANGIDUNQ**

分類順序テーブルでは、各文字ごとに固有の重みを使用され、これは、LANGIDパラメーターに指定された言語の順位別分類テーブルです。

***LANGIDSHR**

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターに指定された言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

修飾子1: 分類順序

名前 このCLモジュールで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***JOBRUN**

使用される言語IDは、CLモジュールの実行時のジョブと関連したLANGIDです。

***JOB** 使用される言語IDは、CLモジュールの作成時のジョブと関連したLANGIDです。

言語ID

ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

上

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたプログラム・コードの最適化レベルを指定します。ILE CLは最適化できません。互換性については*NONE以外の値は受け入れられますが、最適化は実行されません。ILE CLモジュールおよびプログラムは、*NONEより高い最適化レベルが必要なシステム機能では使用しないでください。

***NONE**

生成されたコードは最適化されません。この値は、変換時間の点からは最速の最適化のレベルです。このレベルによって、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。

***BASIC**

最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

***FULL**

最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

10 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

20 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

30 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

40 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

上

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

コンパイル済みモジュールに使用可能なデバッグ・レベル、およびソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューを指定します。

***STMT**

モジュールのステートメント番号および記号識別名を使用して、コンパイル済みモジュールをデバッグすることができます。

***NONE**

コンパイル済みモジュールをデバッグするためのデバッグ・オプションは使用できません。

***ALL** コンパイル済みモジュールをデバッグするためのデバッグ・オプションはすべて使用できます。ソースおよびデバッグ・リスト・ビューが生成されます。

***SOURCE**

コンパイル済みモジュールのデバッグのためにソース・ビューが生成されます。

***LIST** コンパイル済みモジュールのデバッグのためにリスト・ビューが生成されます。

上

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)

このパラメーターは廃止されました。

上

INCLUDEファイル (INCFILE)

CLソースの組み込み(INCLUDE)コマンドを使用してプログラムに組み込まれるメンバーを含むソース・ファイル指定します。

単一値

*SRCFILE

ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定されるソース・ファイルには、すべてのCL INCLUDEコマンドで指定されるソース・ファイル・メンバーが含まれます。

修飾子1: INCLUDEファイル

名前 すべてのCL INCLUDEコマンドで指定されたソース・ファイル・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

ここで指定するソース・ファイルのレコード長は、SRCFILEパラメーターに指定されたソース・ファイルのレコード長より大きいか等しくなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1: CLモジュールの作成

```
CRTCLMOD  PAYROLL  TEXT('給与計算プログラム')
```

このコマンドは、ILE CLコンパイラーを呼び出して、PAYROLLという名前のモジュール(*MODULE)を作成します。制御言語プログラムまたはILE CLプロシージャ・ソースは、省略時のソース・ファイルQCLSRCのメンバーPAYROLLに入っています。コンパイラー・リストが作成されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0C33

ターゲット・リリース&1が正しくない。

CPF0C35

ターゲット・リリース&1はサポートされているリリースではない。

CPF0807

コンパイラ印刷出力を含むファイルがオープンされなかった。

CPF0808

コンパイラ作成のコードにエラー。

CPF0814

ライセンス・プログラム5761-SS1のオプション9が導入されていない。

CPF0815

&2のCLプログラム&1を前のリリース用に作成することはできない。

CPF0821

モジュール&1は作成されなかった。

CPF0849

アドレス空間のアドレス指定の違反。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3224

ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。

上

CLプログラム作成 (CRTCLPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLプログラム作成(CRTCLPGM)コマンドは、指定されたCLソース・プログラムをもとにして制御言語(CL)プログラムを作成します。

制約事項: コンパイル済みプログラムが占める補助記憶域の量は、プログラム中のコマンドの数、コマンドによって実行される機能の種類（例えば、表示、作成、追加、および呼び出し）、および指定されたパラメーター値の種類（変数対定数）によって異なります。これらの要素の組み合わせによっては、プログラムに対するシステムの内部サイズ限界を超える場合があります（めったに起こらない）。限界を超えた場合には、プログラムを再作成しなければなりません（通常は、1つでなく複数を作成する）。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QCLSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 6 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *SECLVL, *NOSECLVL, *SRCDBG, *NOSRCDBG, *LSTDBG, *NOLSTDBG	オプション, 定位置 4
GENOPT	生成オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *NOLIST, *LIST, *NOXREF, *XREF, *NOPATCH, *PATCH	オプション, 定位置 5
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
LOG	ログ・コマンド	*JOB, *YES, *NO	オプション
ALWRTVSRC	RTVCLSRC可能	*YES, *NO	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX , *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOBRUN , *JOB	オプション
INCFIL	INCLUDEファイル	単一値: *SRCFILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: INCLUDEファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

上

プログラム (PGM)

作成するプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 作成するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

プログラムはジョブの現行ライブラリーに保管されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムを入れるライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCLSRC

コンパイルするCLソース・メンバーが入っている、QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

名前 コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。このソース・ファイルは、データベース・ファイル、装置ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

コンパイルするCLソース・プログラムの入っているソース・メンバー（ソース・ファイルの）の名前を指定します。

***PGM** ジョブ名は、**プログラム (PGM)**パラメーターに指定されたプログラム名と同じです。

名前 メンバー名が作成するプログラムの名前と同じでない場合には、CLソース・プログラムの入っているメンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLプログラムを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーからとられません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理の際に作成される出力のタイプ、および、このコマンドの処理結果としてプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

***SRCまたは*SOURCE**

コンパイラーは、プログラムのコンパイルに使用するソース入力のリストを作成します。

***NOSRCまたは*NOSOURCE**

完全なコンパイラー・ソース・リストは作成されず、コンパイル・エラーだけがリストされます。

相互参照オプション

***XREF**

コンパイラーは、ソース仕様の中の変数またはラベルに対する参照の相互参照表を作成します。

*NOSOURCEを指定した場合には、常に*NOXREFと見なされます。

***NOXREF**

ソース仕様の中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

プログラム作成オプション

***GEN** コンパイラーはプログラムを作成し、それを該当のライブラリーに入れます。

***NOGEN**

プログラムは作成されません。コンパイラーは、ソース仕様の構文検査を行ない、*SOURCEまたは*SRCが指定されていれば、ソース・リストを作成します。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

コンパイラー・エラーのために、第1レベル・テキストと一緒に第2レベル・テキストも印刷されます。

ソース・レベル・デバッグ・オプション

***NOSRCDBG**

ソース・レベル・デバッグ情報は生成されません。ソース・レベル・エラー情報は、*LSTDBGが指定されていなければ生成されません。

***SRCDBG**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)で使用されるソース・レベル・エラーおよびデバッグ情報を生成します。システム・デバッガーのソース・レベル・デバッグ機能を使用して(STRDBG OPMSRC(*YES)) OPMプログラムをデバッグしたい場合には、ソース・レベルまたはリスト・レベル・デバッグ情報も必要になります。コンパイラーがエラーなしで処理を完了した場合にも、イベント・ファイルが作成されます。

リスト・レベル・デバッグ・オプション

***NOLSTDBG**

リスト・ビューまたはリスト・レベル・デバッグ情報は生成されません。ソース・レベル・エラー情報は、*SRCDBGが指定されていなければ作成されません。

***LSTDBG**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)で使用されるリスト・ビュー、ソース・レベル・エラー情報、およびリスト・レベル・デバッグ情報を生成します。システム・デバッガーのソース・レベル・デバッグ機能を使用して(STRDBG OPMSRC(*YES)) OPMプログラムをデバッグしたい場合には、ソース・レベルまたはリスト・レベル・デバッグ情報も必要になります。

上

生成オプション (GENOPT)

使用するプログラム生成オプションを指定します。これらの値は、OPTION(*NOGEN)が指定されると無視されます。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

IRP/MIリスト・オプション

*NOLIST

プログラムの中間表現(IRP)のリストは作成されません。

***LIST** プログラムの中間表現(IRP)のリストが、生成されたマシン・インターフェース(MI)命令も含めて作成されます。

IRP/MI相互参照オプション

*NOXREF

プログラムの中間表現の中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

***XREF**

プログラムの中間表現の中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表が作成されます。

プログラム・パッチ域オプション

*NOPATCH

コンパイル済みプログラムの中に、プログラム・パッチ域のためのスペースは予約されません。

***PATCH**

コンパイル済みCLプログラムの中に、プログラム・パッチ域のためのスペースが予約されます。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に行われる権限の検査に、プログラムを実行中のユーザー(*USER)のみを組み込むか、あるいはプログラムを実行中のユーザーおよびプログラム所有者(*OWNER)の両方を組み込むかどうかを指定します。プログラム・ユーザーのプロファイルまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルは、各オブジェクトについてプログラムがもつ権限を含め、プログラムで使用できるオブジェクトを制御するために使用されます。ユーザー・プロファイル属性を変更できるのは、プログラム所有者またはQSECOFR権限をもつユーザーだけです。

注: REPLACE(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*USER

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

プログラムの処理時には、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理時にオブジェクトを検索してアクセスするために、両

方のユーザー・プロファイルにあるオブジェクト権限の集合セットが使用されます。 所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行プログラムの権限には組み込まれません。

上

ログ・コマンド (LOG)

作成されたCLプログラムに関するロギング・オプションを指定します。ここで指定した*YESまたは*NOは、ジョブ変更(CHGJOB)コマンドに指定した値より優先されます。

***JOB** 実行中のCLプログラムの中のコマンドのロギングは、ジョブのロギング・フラグの状況によって決まります (ジョブ変更(CHGJOB)コマンドのLOGCLPGMパラメーターを参照してください)。

***YES** すべての場合にコマンドがログに記録されます。

***NO** コマンドはログに記録されません。

上

RTVCLSRC可能 (ALWRTVSRC)

CLプログラムのソース仕様をプログラムと一緒に保管するかどうかを指定します。 保管したソース仕様は、CLソース・ステートメント検索(RTVCLSRC)コマンドを使用して検索することができます。

***YES** CLプログラムのソース仕様がプログラムと一緒に保管されます。

***NO** CLプログラムのソース仕様をプログラムとともに保管しません。

上

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定したライブラリーの中に同名の既存のプログラムがある場合に、その既存のプログラムを置き換えるかどうかを指定します。

注:

1. 実行中のCLプログラムがREPLACEパラメーターに*YESを指定して再コンパイルされた場合には、実行中のCLプログラムでメッセージ待ち行列エラーが起こる可能性があります。
2. このパラメーターに*YESを指定すると、**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターと**権限 (AUT)**パラメーターの値は無視されます。 権限の情報源として既存のプログラムが使用され、ユーザー・プロファイル属性は既存のプログラムから新しいプログラムにコピーされます。ユーザー・プロファイルを変更するためにはプログラム変更(CHGPGM)コマンドを使用し、プログラムの権限を変更するためにはオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドを使用してください。

***YES** 既存のプログラムをQRPLOBJライブラリーに移動して、これを置き換えます。

***NO** 指定したライブラリーの中にある同名の既存のプログラムを置き換えません。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトの特定権限をもたず、権限リストにも入っておらず、またこのオブジェクトの特定権限をもたないユーザー・グループに属しているユーザーに対して認可しようとしている権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

注: REPLACE(*YES)が指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このCLプログラムのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。この分類順序値は、使用する分類順序テーブルを決定するためにジョブの言語IDおよびコード化文字セットIDと一緒に使用されます。

単一値

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されます。

***JOB** 使用される分類順序は、CLプログラムの作成時にジョブと対応したSRTSEQです。

*JOBRUN

使用される分類順序は、CLプログラムの実行時にジョブと対応したSRTSEQです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルでは、各文字ごとに固有の重みを使用され、これは、LANGIDパラメーターに指定された言語の順位別分類テーブルです。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターに指定された言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

修飾子1: 分類順序

名前 このCLプログラムで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***JOBRUN**

使用される言語IDは、CLプログラムの実行時にジョブと対応するLANGIDです。

***JOB** 使用される言語IDは、CLプログラムの作成時にジョブと対応するLANGIDです。

言語ID

ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

上

INCLUDEファイル (INCFILE)

CLソースの組み込み(INCLUDE)コマンドを使用してプログラムに組み込まれるメンバーを含むソース・ファイルを指定します。

単一値

***SRCFILE**

ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定されるソース・ファイルには、すべてのCL INCLUDEコマンドで指定されるソース・ファイル・メンバーが含まれます。

修飾子1: INCLUDEファイル

名前 すべてのCL INCLUDEコマンドで指定されたソース・ファイル・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

ここで指定するソース・ファイルのレコード長は、SRCFILEパラメーターに指定されたソース・ファイルのレコード長より大きいか等しくなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1:任意のシステム・ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTCLPGM  PAYROLL TEXT('給与計算プログラム')
```

このコマンドは、CLコンパイラーを呼び出して、PAYROLLという名前のプログラムを作成します。制御言語プログラムまたはILE CLプロシージャ・ソースは、省略時のソース・ファイルQCLSRCのメンバー

PAYROLLに入っています。コンパイラー・リストが作成されます。プログラムは、プログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで処理され、任意のシステム・ユーザーが実行できます。

例2:許可ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTCLPGM  PGM(PARTS) SRCFILE(MYLIB/PARTDATA) AUT(*EXCLUDE)
          TEXT('このプログラムはすべての部品データを表示します')
```

このコマンドは、PARTSという名前のCLプログラムを作成して、現行ライブラリーに保管します。このプログラムのソースは、ライブラリーMYLIBにあるソース・ファイルPARTDATAのPARTSメンバーに入っています。コンパイラー・リストが作成されます。このプログラムは、このプログラムを実行するユーザーのプロファイルのもとで処理することができます。このユーザーは、所有者であるか、所有者がオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドで名前によって特定の権限を付与した別のユーザーです。

例3:前のリリース・システムで実行するプログラムの作成

```
CRTCLPGM  PGM(MYPGM) SRCFILE(MYLIB/MYDATA) TGTRLS(*PRV)
```

このコマンドは、前のリリース・システム用に保管でき、そのシステムで復元でき、そのシステムで実行できるCLプログラムを作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0C33

ターゲット・リリース&1が正しくない。

CPF0C35

ターゲット・リリース&1はサポートされているリリースではない。

CPF0801

プログラム&1は作成されなかった。

CPF0804

組み込み関数のオペランドが正しくない。理由コードは&1です。

CPF0807

コンパイラー印刷出力を含むファイルがオープンされなかった。

CPF0808

コンパイラー作成のコードにエラー。

CPF0814

ライセンス・プログラム5761-SS1のオプション9が導入されていない。

CPF0815

&2のCLプログラム&1を前のリリース用に作成することはできない。

CPF0816

%SWITCHマスク&1が正しくない。

CPF0849

アドレス空間のアドレス指定の違反。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3224

ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。

EVF3140

プログラムのデバッグ情報は作成されていない。

上

クラス作成 (CRTCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス作成コマンドは、クラス・オブジェクトを作成し、そのクラスに含まれる属性を指定します。クラスはそのクラスを使用するジョブの処理属性を定義します。ジョブによって使用されるクラスは、そのジョブを開始するために使用されるサブシステム記述ルーティング項目に指定されています。ジョブが複数のルーティング・ステップから成っている場合には、後続の各ルーティング・ステップによって使用されるクラスはそのルーティング・ステップを開始するために使用されるルーティング項目に指定されています。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RUNPTY	実行優先順位	1-99, <u>50</u>	オプション
TIMESLICE	タイム・スライス	0-9999999, <u>2000</u>	オプション
PURGE	除去適格	*YES, *NO	オプション
DFTWAIT	省略時の待ち時間	0-9999999, <u>30</u> , *NOMAX	オプション
CPUTIME	最大CPU時間	1-9999999, *NOMAX	オプション
MAXTMPSTG	最大一時記憶域	1-2147483647, *NOMAX	オプション
MAXTHD	最大スレッド数	1-32767, *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

クラス (CLS)

クラス名に使用する名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

クラスは、スレッドの現行ライブラリーに作成されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 クラスが作成されるライブラリーを指定します。

上

実行優先順位 (RUNPTY)

クラスを使用するジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）の範囲の値であり、同時に活動状態である他のジョブに関連した処理装置をジョブが競合する時の優先順位を表します。マルチスレッド・ジョブの場合には、実行優先順位はジョブ内のスレッドに許される最高の実行優先順位でもあります。ジョブ内の個々のスレッドはこれより低い優先順位をもつことができます。

この値はジョブの相対的な重要度を表し、絶対的な重要度ではありません。例えば、実行優先順位が25のジョブは実行優先順位が50のジョブの2倍重要であるということではありません。

50 このクラスを使用するジョブは、実行優先順位が50になります。

1から99

このクラスを使用するジョブの実行優先順位を指定してください。

上

タイム・スライス (TIMESLICE)

このジョブの他のスレッドまたは他のジョブに実行の機会が与えられるまでに、このクラスを使用するジョブの各スレッドに与えられる最大プロセッサ時間（ミリ秒）を指定します。タイム・スライスは、意味のある量の処理を行うためにジョブ内のスレッドに必要な時間の量を確認します。タイム・スライスの終わりにスレッドを非活動状態にすると、他のスレッドを記憶域プール内で活動状態にできます。

2000 各スレッドが処理できるようになるたびに、そのスレッドに2000ミリ秒という最大実行時間が割り振られます。

0から9999999

このクラスを使用するジョブ内の各スレッドが処理時間を与えられた時に実行できる最大時間（ミリ秒）を指定してください。

注：8より小さい値を指定することができますが、システムは処理を実行するのに最小でも8ミリ秒を要します。ジョブの実行属性を表示する場合には、タイム・スライス値が8以下になることはありません。

上

除去適格 (PURGE)

タイム・スライスの終了時または長時間待機（例えば、ワークステーション・ユーザーの応答の待機）がある時に、このジョブが主記憶域から取り出して補助記憶域に移すのに適格となるかどうかを指示します。オペレーティング・システムは、すでにこのパラメーターを使用しません。

***YES** ジョブは、主記憶域から取り出され、補助記憶装置に入れられるのに適格となります。ただし、複数のスレッドをもつジョブが主記憶域から除去されることはありません。

***NO** ジョブは主記憶域から取り出して補助記憶域に入れるには適格ではありません。ただし、主記憶域が必要な時には、このジョブ内のスレッドに属するページを補助記憶域に移動できます。その後、このジョブ内のスレッドが再び実行される時に、そのページは必要に応じて主記憶域に戻されます。

上

省略時の待ち時間 (DFTWAIT)

ジョブ中のスレッドが資源を獲得するためにシステム命令(LOCKマシン・インターフェース(MI)命令など)を待機する省略時の最大時間(秒数)を指定します。この省略時の待機時間は、与えられた状況下で他に待機時間が指定されていない時に使用されます。通常、この時間は、要求が終了するまでにシステム・ユーザーがシステムを待機する時間の量となります。ある1つの命令の待機時間を超えた場合には、エラー・メッセージを表示するか、メッセージ・モニター(MONMSG)コマンドによって自動的に処理することができます。

30 1つの命令が、完了するまでの待ち時間として最大30秒を与えられます。

***NOMAX**

最大待ち時間はありません。

0から9999999

命令が資源を獲得するまでシステムが待機する最大時間(秒数)を指定します。

上

最大CPU時間 (CPUTIME)

ジョブが使用できる最大処理装置時間(ミリ秒)を指定します。ジョブが複数のルーティング・ステップから成っている場合には、各ルーティング・ステップでこの処理装置時間を使用できます。最大時間を超えた場合には、ジョブは終了します。

***NOMAX**

使用する処理装置時間に制限はありません。

1から9999999

使用できる最大処理装置時間(ミリ秒)を指定してください。

上

最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)

ジョブが使用できる最大一時(補助)記憶域の容量(キロバイト数)を指定します。ジョブに複数のルーティング・ステップがある場合には、これはルーティング・ステップが使用できる最大一時記憶域となります。この一時記憶域は、プログラム自身に必要な記憶域用、またはジョブをサポートするために使用する暗黙に作成された内部システム・オブジェクトに必要な記憶域用に使用されます。これには、QTEMPライブラリー中の記憶域は含まれません。最大一時記憶域を超えた場合には、ジョブは終了します。このパラメーターは、ユーザー・プロファイルによって制御される永続記憶域の使用には適用されません。

***NOMAX**

システムの最大値が使用されます。

1から2147483647

使用できる一時記憶域の最大容量（キロバイト数）を指定します。

注：値はキロバイトで指定しますが、指定された値は最も近いメガバイトに四捨五入してクラスに記憶されます。

上

最大スレッド数 (MAXTHD)

このクラスを使用するジョブが任意の時に実行できるスレッドの最大数を指定します。マルチスレッドが同時に開始された場合には、この値を超えることがあります。この最大値を超えた場合には、正常に完了するまで余分なスレッドを実行することが許されています。追加のスレッドの開始は、ジョブ内のスレッドの最大数がこの最大値より低くなるまで禁止されます。

***NOMAX**

スレッドの最大数はありません。

1から32767

ジョブのスレッドの最大数を指定します。

注：スレッドによって使用される資源およびシステム上の使用可能な資源によって異なりますが、この最大値に達する前に追加のスレッドの開始が禁止されることがあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値から取られます。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェ

クト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCLS CLS(CLASS1) RUNPTY(60) TIMESLICE(900)
TEXT('THIS CLASS FOR ALL BATCH JOBS FROM DEPT 4836')
```

このコマンドは、CLASS1と呼ばれるクラスを作成します。このクラスは、ジョブに指定された現行ライブラリーに保管されます。ユーザー・テキスト'THIS CLASS FOR ALL BATCH JOBS FROM DEPT 4836'がクラスを記述します。このクラスの属性は、実行優先順位60と900ミリ秒のタイム・スライスを提供します。ジョブの実行がこのタイム・スライスの終了時に終了しなかった場合には、別のタイム・スライスが割り振られるまで、そのジョブが主記憶域から移すのに適格となります。他のパラメーターについては省略時の値と見なされます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1027

ライブラリー&1に対する権限がない。

CPF1039

クラス・ライブラリー&1が見つからない。

CPF1064

クラス&1がライブラリー&2に存在している。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

コマンド作成 (CRTCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド作成(CRTCMD)コマンドは、弊社提供コマンドによって使用されるのと同じコマンド処理サポートを使用できる新しいユーザー定義コマンド（すなわちコマンド定義）を作成します。コマンド定義とは、汎用ライブラリー(QGPL)またはユーザー・ライブラリーに記憶できるオブジェクトです。既存のコマンドを更新する（例えば1つのパラメーター・キーワードの名前を変更する）ためには、まずコマンド削除(DLTCMD)コマンドによって既存のコマンドを削除してから、コマンド作成(CRTCMD)コマンドで作成し直さなければなりません。ただし、値の中には、コマンド変更(CHGCMD)コマンドによって変更できるものもあります。

コマンドを作成するためには、一連のコマンド定義ステートメントをソース・ファイルに入力します。次に、コマンド作成(CRTCMD)コマンドを用いてそのソース・ファイルが処理され、コマンド定義オブジェクトが作成されます。次のコマンド定義ステートメントは必要に応じて使用されます。

- コマンド・ステートメント(CMD): 定義中の各コマンドに対して1つのCMDステートメントが必要です。
- パラメーター・ステートメント(PARM): 定義中の各コマンド・パラメーターに対して1つのPARMステートメントが必要です。これは、コマンド処理プログラム(CPP)に渡されるパラメーターを定義します。
- 要素ステートメント(ELEM): ELEMステートメントは値のリストにあるパラメーターをさらに詳細に定義します。リストの使用可能な各要素に対して1つのステートメントが必要です。
- 修飾子ステートメント(QUAL): QUALステートメントは、パラメーター（PARM ステートメントに定義される）または値のリストの要素(ELEM要素に定義される）で受け入れ可能な修飾された名前の各部分を記述するために必要です。
- 従属ステートメント(DEP): DEPステートメントはどのパラメーターが相互依存であるかを示します。
- プロンプト制御ステートメント(PMTCTL): PMTCTLステートメントは、プロンプトのパラメーターを選択するために使用する条件を記述します。

コマンド定義ステートメントの説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションにあります。

制約事項: CRTCMDコマンドを使用できるのは、実際のCLコマンドのコマンド定義を作成する場合だけです。すなわち、コマンド定義ステートメントそれ自体などの、ステートメントの定義の作成には使用できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	コマンドを処理するプログラム	単一値: *REXX その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: コマンドを処理するプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCMSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *CMD	オプション, 定位置 4
REXSRCFILE	REXXソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXソース・ファイル	名前, QREXSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REXSRCMBR	REXXソース・メンバー	名前, *CMD	オプション
REXCMDENV	REXXコマンド環境	単一値: *COMMAND, *CPICOMM, *EXECSQL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXコマンド環境	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REXEXITPGM	REXX出口プログラム	単一値: *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 出口コード	2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10	
THDSAFE	スレッド・セーフ	*YES, *NO, *COND	オプション
MLTTHDACN	マルチスレッド・ジョブの処置	*SYSVAL, *RUN, *MSG, *NORUN	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *CMDPMT, *BLANK	オプション
VLDCKR	妥当性検査プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MODE	有効なモード	単一値: *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *PROD, *DEBUG, *SERVICE	オプション
ALLOW	実行可能な環境	単一値: *ALL その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *BATCH, *INTERACT, *BPGM, *IPGM, *BREXX, *IREXX, *EXEC, *BMOD, *IMOD	オプション
ALWLMTUSR	制限ユーザー可能	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MAXPOS	最大定位置パラメーター数	0-75, * <u>NOMAX</u>	オプション
PMTFILE	プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , * <u>CURLIB</u>	
	要素 2: メッセージ・テキスト	* <u>STATIC</u> , * <u>DYNAMIC</u>	
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, <u>QCPFMSG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , * <u>CURLIB</u>	
HLPShelf	ヘルプ・ブックシェルフ	単純名, * <u>NONE</u> , * <u>LIST</u>	オプション
HLPPNLGRP	ヘルプ・パネル・グループ	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ・パネル・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , * <u>CURLIB</u>	
HLPID	ヘルプ識別コード	文字値, * <u>CMD</u> , * <u>NONE</u>	オプション
HLPschIDX	ヘルプ検索見出し	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , * <u>CURLIB</u>	
CURLIB	現行ライブラリー	名前, * <u>NOCHG</u> , * <u>CRTDFT</u>	オプション
PRDLIB	実行ライブラリー	名前, * <u>NOCHG</u> , * <u>NONE</u>	オプション
PMTovRPGM	プロンプト一時変更プログラム	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロンプト一時変更プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , * <u>CURLIB</u>	
AUT	権限	名前, * <u>LIBCRtauT</u> , * <u>USE</u> , * <u>ALL</u> , * <u>CHANGE</u> , * <u>EXCLUDE</u>	オプション
REPLACE	コマンドの置き換え	* <u>YES</u> , * <u>NO</u>	オプション
ENBGUI	GUI使用可能	* <u>YES</u> , * <u>NO</u>	オプション

上

コマンド (CMD)

作成するコマンドを指定します。

修飾子1: コマンド

名前 作成するコマンドの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

コマンドは、ジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドを探し出すライブラリーの名前を指定してください。

上

コマンドを処理するプログラム (PGM)

コマンドの処理に使用されるコマンド処理プログラム(CPP)の名前およびライブラリーを指定します。コマンド処理プログラムはコマンドの実行時まで必要ありません。

コマンド処理プログラムに渡されるパラメーターは、**ソース・ファイル (SRCFILE)**パラメーターに指定されたソース・ファイル中のコマンド定義ステートメントによって定義されたものです。

これは必須パラメーターです。

単一値

*REXX

このコマンドのCPPは、**REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)**パラメーターで識別されるREXXプロシージャーです。

修飾子1: コマンドを処理するプログラム

名前 コマンドを処理するCPPの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

コマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCMDSRC

QCMDSRCという名前のソース・ファイルには、コマンド定義ステートメントが入っています。

名前 作成されるコマンドのコマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 作成されるコマンドのコマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイルのライブラリー名を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

コマンドを作成するために使用されるコマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***CMD** ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定されたファイルがデータベース・ファイルである場合には、ソース・ファイルのメンバーの名前は、このコマンドの**コマンド (CMD)**パラメーターに指定した名前です。

名前 SRCFILEパラメーターに指定されたソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

上

REXXソース・ファイル (REXSRCFILE)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)が入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: REXXソース・ファイル

QREXSRC

QREXSRCという名前のファイルにはREXX CPPソース・ファイルが入ります。

名前 使用するソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 REXXソース・ファイルを探し出すために使用するライブラリーの名前を指定してください。

上

REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)

見かけ上のコマンド処理プログラム(CPP)として機能するREXXプロシージャが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***CMD** 省略時のメンバー名は、このコマンドの**コマンド (CMD)**パラメーターに指定された名前です。

名前 見かけ上のコマンド処理プログラムとして機能するREXXプロシージャが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

REXXコマンド環境 (REXCMDENV)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)が実行を開始する時に活動状態であるコマンド環境を指定します。システムの制御言語(CL)環境が使用されない場合には、REXXプロシージャで見つかるコマンドを処理するためのプログラムを指定することができます。REXX解釈プログラムは、プロシージャに組み込まれているコマンドを処理するために、このプログラムを呼び出します。この環境はREXX ADDRESS命令によって変更することができます。

単一値

***COMMAND**

制御言語(CL)コマンド環境が使用されます。

***CPICOMM**

通信コマンド環境用の共通プログラミング・インターフェース(CPI)が使用されます。CPICOMMは、REXXプロシージャ内に組み込まれたCLコマンドで使用されるコマンド環境です。

***EXECSQL**

構造化照会言語(SQL)コマンド環境が使用されます。EXECSQLは、SQLプロシージャに組み込まれたCLコマンドに使用されるコマンド環境です。

修飾子1: REXXコマンド環境

名前 REXXプロシージャに組み込まれているコマンドを処理するために呼び出すプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

REXX出口プログラム (REXEXITPGM)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)を開始する時に使用する出口プログラムを指定します。プログラムと出口コードの組み合わせを最大8組まで指定することができます。

単一値

***NONE**

REXX CPPには出口プログラムがありません。

要素1: プログラム

修飾子1: プログラム

名前 出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 出口コード

- 2 外部関数またはサブルーチンがREXXプログラムによって呼び出された時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。その後で、要求されたルーチンの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 3 解釈プログラムがコマンドを呼び出そうとしている時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。コマンド・ストリングおよび現行の環境名を指定するコマンドの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 4 REXX命令または関数がREXX外部データ待ち行列に対する操作を試みた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 5 セッション入出力操作が試みられた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 7 REXXプロシージャの各文節を停止する必要があるかどうかを判別するために、これの実行の後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 8 トレースをオンまたはオフにする必要があるかどうかを検査するために、REXXプログラムの各文節の実行後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 9 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最初の命令を解釈する前に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 10 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最後の命令を解釈した後に、関連したプログラムが呼び出されます。

上

スレッド・セーフ (THDSAFE)

コマンドがスレッド・セーフかどうかと、複数のスレッドがあるジョブで安全に使用できるかどうかを指定します。

***NO** コマンドはスレッド・セーフでなく、複数のスレッドがあるジョブで使用してはいけません。

***YES** コマンドはスレッド・セーフで、複数のスレッドがあるジョブで安全に使用することができます。

***COND**

コマンドは一定の条件付きでスレッド・セーフです。コマンドがスレッド・セーフとなる条件を判別するためには、そのコマンドのオンライン・ヘルプまたはその他の文書を参照してください。

上

マルチスレッド・ジョブの処置 (MLTTHDACN)

このコマンドのマルチスレッド・ジョブの処置を指定します。マルチスレッド・ジョブで取る処置が分からない場合には、省略時の値*SYSVALを使用してください。

***SYSVAL**

QMLTTHDACNシステム値で指定されたマルチスレッド・ジョブの処置が使用されます。

***RUN** コマンドを実行します。

***MSG** コマンドを実行し、診断メッセージを送ります。

***NORUN**

コマンドを実行しません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLコマンドを作成するために使用されるソース・ファイル・メンバーから取られません。

***CMDPMT**

テキスト記述は、コマンドのプロンプトが表示される場合に示されるコマンド・タイトルと同じになります。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50バイトを超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

妥当性検査プログラム (VLDCKR)

作成されるコマンドのパラメーターで追加のユーザー定義妥当性検査を実行するプログラムを指定します。また、コマンド処理プログラム(CPP)に渡すのと同じパラメーターが妥当性検査プログラムにも渡されます。妥当性検査プログラムは、ソース・ファイル中のコマンド定義ステートメントによって指定されたものを超えて、さらに通常の制御言語構文検査を超えて追加のパラメーター検査を実行します。妥当性検査の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションにあります。

単一値

***NONE**

このコマンドに対して別個の妥当性検査プログラムはありません。すべての妥当性検査は、コマンド分析プログラムおよびコマンド処理プログラムによって実行されます。妥当性検査でコマンドが処理または検査される時には常に、指定された変数および式は使用されません。

修飾子1: 妥当性検査プログラム

名前 コマンドの妥当性を検査する妥当性検査プログラムの名前およびライブラリーを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 妥当性検査プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

有効なモード (MODE)

新しく定義するコマンドに適用する操作環境のモードを指定します。

単一値

***ALL** コマンドは実行、デバッグ、および保守のすべてのタイプのモードで有効です。

その他の値 (最大3個指定可能)

***PROD**

コマンドは、実行モードの操作で有効です。

***DEBUG**

コマンドは、デバッグ・モードの操作で有効です。

***SERVICE**

コマンドは、保守モードの操作で有効です。

上

実行可能な環境 (ALLOW)

コマンドを処理できる環境を指定します。

単一値

***ALL** コマンドは、バッチ入力ストリーム、CLプログラム、REXXプロシージャー、またはCL ILEモジュール中で処理するか、あるいは対話式に処理することができます。また、処理のためにシステムAPIプログラムQCMDEXC、QCAEXEC、およびQCPCMDに渡すことができます。

その他の値 (最大9個指定可能)

***BATCH**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部でバッチ入力ストリーム中で処理することができます。

***INTERACT**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部で対話式に処理することができます。

***BPGM**

コマンドは、バッチ入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***IPGM**

コマンドは、対話式入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***BREXX**

コマンドは、バッチ・ジョブで実行されるREXXプロシージャー中で使用することができます。

***IREXX**

コマンドは、対話式ジョブで実行されるREXXプロシージャー中で使用することができます。

***BMOD**

コマンドは、バッチCL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***IMOD**

コマンドは、対話式CL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***EXEC**

コマンドは、CALLコマンドのパラメーターとして使用することができ、システムAPIプログラムQCMDXEC, QCAEXEC, およびQCAPCMDに文字ストリングの形で渡して処理することができます。*EXECを指定した場合には、*BATCHまたは*INTERACTも指定しなければなりません。

上

制限ユーザー可能 (ALWLMTUSR)

プロファイルで権限が制限されているユーザーが、メニューのコマンド入力行にコマンドを入力してそのコマンドを使用可能にできるかどうかを指定します。

***NO** プロファイルで権限が制限されているユーザーは、このコマンドをメニューのコマンド入力行に入力することはできません。

***YES** プロファイルで権限が制限されているユーザーでも、このコマンドをメニューのコマンド入力行に入力することができます。

上

最大定位置パラメーター数 (MAXPOS)

このコマンドに対して定位置に（パラメーター・キーワードなしで）指定できるパラメーターの最大数を指定します。このパラメーター値は非定数の必須パラメーター数より大きく、非定数パラメーターの合計数より小さくなければなりません。TYPE(*ZEROELEM)のパラメーター、CONSTANT属性のパラメーター、およびそのELEMおよびQUALにCONSTANT属性があるリストおよび修飾名、あるいはTYPE(*ZEROELEM)のパラメーターは、このコマンドに定位置コーディングできるパラメーター数に含まれません。

***NOMAX**

このコマンドには定位置コーディングの最大限界値の指定はありません。

0から99

定位置パラメーターの最大数を指定します。

上

プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)

コマンドのプロンプト・テキストを検索するためのメッセージ・ファイルを指定します。

単一値

***NONE**

プロンプト・テキストにメッセージ・ファイルは必要ありません。テキストが必要な場合には、コマンドを定義する定義ステートメントで提供されます。

要素1: プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 メッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メッセージ・テキスト

作成中のコマンドのプロンプトが表示されるときに、コマンド・オブジェクトに保管されたプロンプト・メッセージ情報がその作成中のコマンドによってどのように使用されるかを指定します。

***STATIC**

コマンドのプロンプトが表示されると、そのコマンドが作成されたときに*CMDオブジェクトに保管されたメッセージの静的コピーからプロンプト・テキストが検索されます。コマンドのプロンプト・テキストを2つ以上の各国語で表示する場合は、それぞれの各国語に別々の*CMDを作成する必要があります。

***DYNAMIC**

コマンドのプロンプトが表示されると、そのコマンドが作成されたときに*CMDオブジェクトに保管されたメッセージIDが使用され、このパラメーターに指定されたメッセージ・ファイルからプロ

ンプト・テキスト・メッセージが動的に検索されます。コマンドのプロンプトが表示されている場合は、CMD、PARM、QUAL、またはELEMコマンド定義ステートメントでPROMPTまたはCHOICEパラメーターに指定されたメッセージIDをプロンプト・テキスト・メッセージ・ファイルで見つける必要があります。

コマンドのプロンプトが表示されるときにメッセージ・ファイルを見つけてエラーが起ると、*CMDオブジェクトに保管されたプロンプト・メッセージの静的コピーからすべてのプロンプト・テキストが検索されます。メッセージ・ファイルが見つかって、そのメッセージ・ファイルの中に個々のプロンプト・テキスト・メッセージが見つからない場合は、*CMDオブジェクトに保管されたプロンプト・テキストの静的コピーがその1つのメッセージに使用されます。

PROMPTとCHOICEに指定されたメッセージID、およびこのパラメーターの最初の要素に指定されたメッセージ・ファイル、および2番目の要素に指定された*DYNAMICを設定したコマンドを作成すると、複数の各国語のプロンプト・テキストをもつことができるコマンドが1つ作成されます。プロンプトの表示時に、ライブラリー・リストにある所要の各国語でプロンプト・テキスト・メッセージ・ファイルをコピーすると、同じコマンドのプロンプトをその各国語で表示することができます。V5R5より、オペレーティング・システムおよびほとんどのIBM製品のCLコマンドでは、*DYNAMICオプションを使用して、コマンドの1つのコピーによってすべての導入済みの各国語バージョンを処理することができます。

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

依存関係(DEP)コマンド定義ステートメントで識別されたメッセージの検索元のメッセージ・ファイルを指定します。DEPステートメント上の**メッセージ識別コード (MSGID)**パラメーターによって、パラメーター構文エラーが検出されると送信するメッセージIDを指定することができます。'CPF'以外の3文字の接頭部付きのメッセージ識別の場合は、このパラメーターに指定されたメッセージ・ファイルが使用されます。接頭部'CPF'付きのメッセージでは、QCPFMSGがメッセージ・ファイルとして常に使用されます。

修飾子1: メッセージ・ファイル

QCPFMSG

メッセージ・ファイルQCPFMSGが、DEPエラー・メッセージの検索元のファイルです。

名前 DEPエラー・メッセージの検索元のメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ヘルプ・ブックシェルフ (HLPSELF)

このパラメーターはもはやサポートされていません。

ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)

このコマンドのヘルプ・パネル・グループを指定します。

単一値

*NONE

ヘルプ・パネル・グループは指定されません。

修飾子1: ヘルプ・パネル・グループ

名前 このコマンド用のヘルプ・パネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

パネル・グループを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 パネル・グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ヘルプ識別コード (HLPID)

このコマンドに対するヘルプ・セクションIDのすべてのルート名を指定します。このコマンドと関連したヘルプ・パネル・グループ内のすべてのヘルプ・セクションがこの名前が始まります。

*NONE

ヘルプIDは指定されません。パネル・グループ名をヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)パラメーターに指定すると、*NONEは許されません。

***CMD** コマンドの名前は、ヘルプ・パネル・グループ内のヘルプ・セクションIDのルートとして使用するのためのものです。

名前 このコマンドに対するヘルプ・セクションIDのすべてのルート名を指定してください。

上

ヘルプ検索見出し (HLPSCIDX)

ヘルプ画面から検索索引検索機能キーが押された時に使用されるヘルプ検索索引を指定します。

単一値

*NONE

このコマンドと関連したヘルプ検索索引はありません。

修飾子1: ヘルプ検索見出し

名前 見出し検索機能キーが押された時に使用される検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

注: また、このライブラリーは、コマンドの妥当性検査プログラム（ある場合）が処理される時の現行ライブラリーでもあります。

*NOCHG

現行ライブラリーは、このコマンドの処理のために変更されません。コマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、そのコマンドの処理が完了した後もその変更は有効となります。

*CRTDFT

コマンドの処理中に活動状態の現行ライブラリーはありません。コマンド処理の開始前に活動状態であった現行ライブラリーが処理完了時に復元されます。

このコマンドの単一値または特殊値に、あるいは活動状態の現行のライブラリーがない時に処理されるコマンドに置き換え値として*CURLIBが指定された場合には、現行ライブラリーとしてQGPLライブラリーが使用されます。

名前 現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、現行ライブラリーがその前の値に復元されます。ライブラリー・リスト変更(CHGLIBL) コマンドまたは現行ライブラリー変更(CHGCURLIB)コマンドによってコマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、その変更が有効となるのは、そのコマンドが処理されるまでです。現行ライブラリーにQTEMPを指定することはできません。

上

実行ライブラリー (PRDLIB)

コマンドの処理時に有効にするプロダクト・ライブラリーを指定します。

注: コマンドまたはメニューのプロダクト・ライブラリーは、コマンドまたはメニューが活動状態の間、別のコマンドまたはメニューでそのプロダクト・ライブラリーが変更されない限り、ライブラリー・リスト内に残されます。プロダクト・ライブラリーを変更したコマンドまたはメニューが終了すると、プロダクト・ライブラリーはそのコマンドまたはメニューを開始した時のものに復元されます。

***NOCHG**

コマンドの処理が開始される時点ではプロダクト・ライブラリーは変更されません。コマンドの処理中にプロダクト・ライブラリーが変更された場合には、その変更は、そのコマンド処理が完了した後も有効となります。

***NONE**

ジョブのライブラリー・リストにはプロダクト・ライブラリーがありません。プロダクト・ライブラリーはそのコマンド処理が完了した時にその前の値に復元されます。

名前 コマンドの処理時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、プロダクト・ライブラリーがその前の値に復元されます。プロダクト・ライブラリーにQTEMP を指定することはできません。

上

プロンプト一時変更プログラム (PMTOVRPGM)

省略時の値をパラメーターに指定された現行の実際の値で（プロンプト画面で）置き換えるプロンプト一時変更プログラム(POP)の名前およびライブラリーを指定します。POPを指定した場合には、（コマンド定義ソース中のPARMステートメントでKEYPARM(*YES)として指定された）キー・パラメーターが初期プロンプト画面で見ることのできる唯一のパラメーターになります。値がキー・パラメーターに対する入力である時には、残りのパラメーターは省略時の値ではなく実際の値で画面に表示されます。

***NONE**

プロンプト一時変更プログラムは指定されません。

注: コマンド定義ソース中にキー・パラメーターが存在している（すなわち、PARMステートメントでKEYPARM(*YES)を指定している）時に*NONEを指定した場合には、コマンドの作成時に警告メッセージが出され、すべてのパラメーターについてKEYPARM(*NO)と見なされます。

名前 コマンドのプロンプト一時変更プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プロンプト一時変更プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プロンプト一時変更プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド

(CRTLIB)で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

コマンドの置き換え (REPLACE)

作成されるコマンドと同じ名前、同じライブラリーにある既存のコマンド・オブジェクトを置き換えるかどうかを指定します。

*YESを指定した場合、同じ名前のコマンド・オブジェクトが同じライブラリーにすでに存在していると、既存のコマンドは名前変更されてライブラリーQRPLOBJに移動され、次回にオペレーティング・システムのIPLが行われると削除されます。

***YES** 作成の命令が正常に実行された場合には、既存のコマンドは同じコマンドの新しいバージョンで置き換えられます。

***NO** 既存のコマンドは置き換えられないで、既存のコマンドと同じ名前、タイプ、およびライブラリーの新しいコマンドを作成することはできません。

上

GUI使用可能 (ENBGUI)

コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるかどうかを指定します。

***NO** コマンド・プロンプト・パネルは、図形ユーザー・インターフェースへの変換には使用できなくなります。

***YES** パネルの内容に関する情報を5250データ・ストリームに組み込むことによって、コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるようになります。

上

例

```
CRTCMD  CMD(PAYROLL)  PGM(PAY076)  SRCFILE(PAYSOURCE)
          AUT(*EXCLUDE)
```

PAYROLLという名前のコマンドはソース・ファイルPAYSOURCEから作成されます。このコマンドは専用であり、PAY076という名前のコマンド処理プログラム(CPP)を呼び出します。バッチ入カストリームに入力された場合、制御言語プログラムでコンパイルされた場合、対話式に入力された場合、またはQCMDEXECプログラムに渡された場合は、これは有効なコマンドです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0201

コマンド&2はライブラリー&3に作成されなかった。

CPF0210

印刷装置ファイルをオープンすることができない。

CPF0212

ソース・ファイルをオープンすることができない。

上

サービス・クラス記述作成 (CRTCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

サービス・クラス記述作成(CRTCOSD)コマンドは、サービス・クラス記述を作成します。サービス・クラス記述は、拡張プログラム間通信機能(APPC)または拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)に組み込むことができるノードおよび伝送グループを決定します。サービス・クラスの詳細については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーおよびAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
COSD	サービス・クラス記述	通信名	必須, 定位置 1
TMSPTY	送信優先順位	*LOW, * <u>MED</u> , *HIGH	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROWILINE	回線の1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, 30	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M , 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, 0	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, 0	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, 0	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, 0	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, 0	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, 255	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, 0	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, 255	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, 0	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, 255		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROWINODE	ノードの1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>5</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>31</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW2LINE	回線の2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>60</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, <u>56000</u> , 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW2NODE	ノードの2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>10</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>63</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW3LINE	回線の3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>90</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200 , 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW3NODE	ノードの3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>20</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>95</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW4LINE	回線の4行目	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>120</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, <u>9600</u> , 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW4NODE	ノードの4行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>40</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>127</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROWSLINE	回線の5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>150</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200 , 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW5NODE	ノードの5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>80</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>159</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW6LINE	回線の6行目	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>180</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, <u>9600</u> , 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>128</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>128</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW6NODE	ノードの6行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>100</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>191</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW7LINE	回線の7行目	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>210</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800 , 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>196</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>196</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW7NODE	ノードの7行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>120</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>223</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*HIGH</u> , *LOW	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW8LINE	回線の8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>240</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>255</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>255</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW8NODE	ノードの8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, 150	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, 0	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, 255	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*HIGH , *LOW	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE , *LIBCRTAUT	オプション

上

サービス・クラス記述 (COSD)

サービス・クラス記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

この名前の桁数は1から8桁です。

これは必須パラメーターです。

上

送信優先順位 (TMSPTY)

このサービス・クラス記述の送信優先順位を指定します。

***LOW** このサービス・クラス記述には、最低の送信優先順位が使用されます。

***MED** このサービス・クラス記述には、中位の送信優先順位が使用されます。

***HIGH**

このサービス・クラス記述には、最高の送信優先順位が使用されます。

上

回線の1行目 (ROW1LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000,

168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000,
614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000,
1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの1行目 (ROW1NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPN ネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

上

回線の2行目 (ROW2LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE（機密保護なし）
- *PKTSWTNET（パケット交換網）
- *UNDGRDCBL（地下ケーブル）

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの2行目 (ROW2NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

上

回線の3行目 (ROW3LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの3行目 (ROW3NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

上

回線の4行目 (ROW4LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの4行目 (ROW4NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPN ネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

上

回線の5行目 (ROW5LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの5行目 (ROW5NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

上

回線の6行目 (ROW6LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの6行目 (ROW6NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

上

回線の7行目 (ROW7LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの7行目 (ROW7NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

上

回線の8行目 (ROW8LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

上

ノードの8行目 (ROW8NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCOSD  COSD(COSD1)
          ROWILINE(15 9600 19200 20 30
                  50 75 *SECURECND *GUARDCND
                  *PKTSWTNET *SATELLITE 100 200 50 100 25 50)
          TEXT('CUSTOMIZED ROWILINE')
```

このコマンドはCOSD1を作成します。ROWILINEにはすべての値が指定され、他のすべての行には省略時の値が受け入れられます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF26CB

サービス・クラス記述&1がエラーのために作成されなかった。

CPF2610

パラメーターが正しくない。

CPF2660

サービス・クラス記述&1はすでに存在している。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

CRQ記述の作成 (CRTCRQD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述作成(CRTCRQD)コマンドは、変更要求記述を作成するために使用することができます。変更要求記述には、指定した変更を完了するために実行される活動のリストが入っています。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	要求記述の変更	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 要求記述の変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*SBM, *OWNER	オプション
PRBID	問題識別コード	文字値, *NONE	オプション
PRBORG	問題の起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点名	通信名, *NETATR	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE	オプション

上

要求記述の変更 (CRQD)

作成する変更要求記述の名前およびライブラリーを指定します。

変更要求記述の名前は、次のライブラリーの値の1つによって修飾することができます。

*CURLIB

変更要求記述は、ジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

変更要求記述が作成されるライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

変更要求記述名

作成する変更要求記述の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

権限検査（この変更要求の実行時に行なわれる）が、変更要求記述を投入したユーザーを基準に行なわれるか、変更要求記述の所有者を基準に行なわれるかを指定します。変更要求を実行し変更要求で使用可能なオブジェクトを制御するためには、ユーザー・プロファイルが使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***SBM** 変更要求の実行時に、投入元のユーザー・プロファイルが使用されます。

***OWNER**

変更要求の実行時に、変更要求記述所有者のユーザー・プロファイルが使用されます。

注：これは、プログラムの所有者とプログラムのユーザー・プロファイルが使用される、その所有者のプロファイルの下で実行されるプログラムとは違います。この値が指定された場合には、所有者のプロファイルだけが使用されます。

問題識別コード (PRBID)

この変更要求記述に対応する問題のIDを指定します。別の起点システムの問題が同じIDを持つことがあります。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

問題IDは指定されません。

問題ID

変更要求記述に対応する問題のIDを指定してください。問題IDが見つからない場合には、診断メッセージが出されます。

問題の起点(PRBORO)

問題IDの起点システムを指定します。

使用できるネットワークIDの値は次の通りです。

***NETATR**

ネットワークIDは、このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じです。

ネットワークID

ネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

***NETATR**

制御点名は、このシステムのネットワーク属性で定義されたローカル制御点名と同じです。

制御点名

制御点名を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明するテキストを指定します。このパラメーターの詳細はAS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の付録Aにあります。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 最大50文字をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

オブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることはできません。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通権限は、ターゲット・ライブラリー (オブジェクトを入れるライブラリー) のCRTAUTパラメーターの値から取られます。共通権限は、オブジェクトの作成時に決定されます。オブジェクトの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合に、新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定された操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作以外のすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

注: *CHANGE権限を持つユーザーは、ユーザー・プロファイルの値(USRPRF)を変更することはできません。ユーザー・プロファイルの値を変更するためには、ユーザーが所有者であるか、あるいは*ALLOBJおよび*SECADM権限を持っていないければなりません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される以外のすべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの所有権も変更することができます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

権限リスト名

その権限が使用される権限リストの名前を指定してください。

上

例

例1:固有のライブラリーでの変更要求記述の作成

```
CRTCRQD  CRQD(MYLIB/CHG001)
```

このコマンドは、名前CHG001とテキスト記述と共にMYLIBの変更要求記述を作成します。

例2:別の個人プロファイルで実行される変更要求記述の作成

```
CRTCRQD  CRQD(CHG222)  USRPRF(*SBM)
```

このコマンドは、投入するユーザー・プロファイルで実行するCHG222と呼ばれる変更要求記述を作成します。

例3:変更要求記述の作成およびそれとの問題の関連付け

```
CRTCRQD  CRQD(CHG999)  PRBID(1234567890)  PRBORG(*NETATR STORE101)
```

このコマンドは、問題ID 1234567890と関連したCHG999と呼ばれる*CURLIBに変更要求記述を作成します。問題起点ネットワークIDはローカル・システムと同じです。制御点名はSTORE101です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF969A

変更要求記述が作成されたが警告が存在する。

上

通信サイド情報の作成 (CRTCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報の作成(CRTCSI)コマンドは、サイド情報オブジェクトを特定のライブラリーに作成します。サイド情報オブジェクト名は、そのサイド情報オブジェクトを作成するライブラリーの中で固有としなければなりません。システムがRMTLOCNAME, DEV, LCLLOCNAME,およびRMTNETIDパラメーターを使用して、APPC装置記述を選択する方法の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)に説明があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
TNSPGM	トランザクション・プログラム	文字値	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	装置	通信名, *LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

サイド情報 (CSI)

作成するサイド情報オブジェクト名を指定します。オブジェクト名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが含まれることになるオブジェクトの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

サイド情報オブジェクトは現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトを作成するライブラリーの名前を指定してください。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワークIDとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

これは必須パラメーターです。

上

トランザクション・プログラム (TNSPGM)

開始するリモート・システム上のトランザクション・プログラムの名前（最大64桁）を指定します。

注: SNAサービス・トランザクション・プログラム名を指定するためには、サービス・トランザクション・プログラム名の16進表現を入力してください。たとえば、16進表現が21F0F0F1であるサービス・トランザクション・プログラム名を指定するためには、X'21F0F0F1'を入力することになります。

SNAサービス・トランザクション・プログラム名の詳細は、SNA TRANSACTION PROGRAMMER'S REFERENCE MANUAL FOR LU TYPE 6.2にあります。

これは必須パラメーターです。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

装置 (DEV)

リモート・システムに使用される装置記述の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LOC**

装置名 装置はシステムによって決定されます。

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LOC** ローカル・ロケーション名はシステムによって判別されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ユーザーのロケーションの名前を指定してください。リモート・ロケーションに対して特定のロケーション名を指示したい場合には、ローカル・ロケーションを指定してください。

上

モード (MODE)

セッションの制御に使用されるモードを指定します。この名前は共通プログラミング・インターフェース(CPI)の通信モード名と同じです。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8つの空白文字が使用されます。

モード名

リモート・ロケーションのモード名を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMG値は使用できません。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションで使用されるリモート・ネットワークIDを指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワークIDとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

考えられる値は次の通りです。

***LOC** リモート・ロケーションのリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークは名前がありません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

オブジェクトの共通権限は、指定したライブラリーのCRTAUTパラメーターから取られます。この値は作成時に判別されます。オブジェクトが作成された後に、ライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト

サイド情報用に使用する権限の権限リストの名前を指定してください。

上

例

```
CRTCSI  CSI(QGPL/SIDEOBJ) RMTLOCNAME(APPC2)
        TNSPGM(TESTNOP) AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中にSIDE OBJという名前の通信サイド情報オブジェクトを作成します。リモート・ロケーション名はAPPC2に、トランザクション・プログラム名はTESTNOPに設定されています。オブジェクトに対する権限は*CHANGEです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3B82

通信サイド情報オブジェクト&1はすでにライブラリー&2に存在している。

CPF3B83

通信サイド情報オブジェクト&1がライブラリー&2に作成されなかった。

上

制御装置記述の作成(APPC) (CRTCTLAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

APPC制御装置記述作成(CRTCTLAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信(APPC)制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LINKTYPE	リンク・タイプ	*ANYNW, *FAX, *FR, *HPRIP, *ILAN, *LAN, *LOCAL, *OPC, *SDLC, *TDLC, *VRTAPPN, *X25	必須, キー, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
APPN	APPN可能	*YES, *NO	オプション
RMTINTNETA	リモートIPアドレス	文字値	オプション
LCLINTNETA	ローカルIPアドレス	文字値, *SYS	オプション
LDLCTMR	LDLCタイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: LDLC再試行カウント	0-255, <u>3</u>	
	要素 2: LDLC再試行タイマー	0-65535, <u>15</u>	
	要素 3: LDLC活性タイマー	0-65535, <u>10</u>	
LDLCLNKSPD	LDLCリンク速度	1200-603979776000, *CAMPUS, *WAN, 4M, 10M, 16M, 100M, *MIN, *MAX	オプション
LDLCTMSGRP	LDLC送信グループ	要素リスト	オプション
	要素 1: コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 2: コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 4: 伝搬遅延	*LAN, *MIN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TYPE	制御装置のタイプ	*BLANK, *FBSS, 3174, 3274, 3651, 3684, 3694, 4680, 4684, 4701, 4702, 4730, 4731, 4732, 4736	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1496, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, *ANY	オプション
RMTSYSNAME	リモート・システム名	文字値	オプション
EXCHID	交換識別コード	00000000-FFFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	*LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CANNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
ROLE	データ・リンクの役割	*NEG, *PRI, *SEC	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, 10, *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, 50	オプション
STNADR	端末アドレス	00-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
DSAP	LAN DSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	文字値, *QLLC, *ELLC, *LLC2	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, X''	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	*YES, *NO	オプション
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	*ENDNODE, *LENNODE, *NETNODE, *CALC	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	*NETNODE, *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
HPRPTHSWT	HPRパス・スイッチ	<u>*NO</u> , *YES	オプション
TMSGRPNBR	APPN伝送グループ番号	1-20, <u>1</u> , *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	<u>*VRYONPND</u> , *VRYON	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	<u>*ALL</u> , *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, <u>1440</u> , *NO	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>*LIND</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>*LIND</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>*LIND</u>	オプション
MDLCTL	モデル制御装置記述	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CNNNETID	接続ネットワークID	通信名, <u>*NETATR</u> , *NONE	オプション
CNNCPNAME	接続ネットワークCP	通信名	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
IDLCWDWSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*LIND</u> , *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
DSCTMR	切断タイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535, <u>170</u>	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>30</u>	
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*NO</u> , *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*POLLMT</u> , 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*CALC</u> , *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, <u>*CALC</u>	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANACCPTY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*CALC</u>	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, <u>*NONE</u>	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*LIND</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*LIND</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>300</u>	オプション
X25CNNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>300</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*CALC</u>	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>20</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>1050</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*ANYNW

この制御装置は、直接には回線に接続されていません。これは、固有のトランスポート(SNA)以外のトランスポートを介してAPPCアプリケーションを実行するために使用されています。*ANYNWを指定した時には、RMTCPNAMEおよびRMTNETIDが必要です。次のパラメーターを使用することができます。

- RMTNETID (リモート・ネットワークID)
- ONLINE (IPL時にオンライン)
- RMTCPNAME (リモートCP名)
- USRDFN1 (ユーザー定義1)
- USRDFN2 (ユーザー定義2)
- USRDFN3 (ユーザー定義3)
- テキスト
- AUT (権限)
- CMNRCYLMT (通信回復限界)

*FAX

この制御装置はローカルFAX回線に接続されます。*FAXを指定した場合には、次の選択基準が満たされなければなりません。

- 次のパラメーターを指定することができます。IPL時にオンライン(ONLINE)、接続装置(DEV)、権限(AUT)、テキスト記述(TEXT)、接続非交換回線(LINE)
- SWITCHEDおよびAPPNパラメーターは指定してはならず、*NOでなければなりません。
- APPNサポートは提供されません。したがって接続されたすべての装置にはAPPN(*NO)を指定しなければなりません。

*FR

この制御装置はフレーム・リレー回線に接続されています。

*HPRIP

この制御装置によって、HPR (ハイパフォーマンス・ルーティング) はリンク・レイヤーとしてインターネットを使用することができ、HPRデータをインターネット・ネットワークを通して転送することができます。

注: *HPRIPを指定する場合には、RMTINTNETAパラメーターに値を指定しなければなりません。

*ILAN

すべての通信がシステム内で行われるため、この制御装置は通信回線を使用しません。このリンク・タイプでは、複数のオペレーティング・システム(1つの物理システムで稼働)が物理通信リンクを使用しなくても通信することができます。

注: LINKTYPE(*ILAN)を指定した場合には、NODETYPEに指定する値は*LENNODEまたは*NETNODEでなければならず、SSAPパラメーターに指定する値はDSAPパラメーターに指定された値と異ならなければなりません。

*LAN

この制御装置は、分散データ・インターフェース(DDI), ETHERNET,またはトークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク回線に接続されています。

*LOCAL

すべての通信がローカルであるために、この制御装置は通信回線を使用しません。*LOCALを指定する場合には、次の基準が満たされなければなりません。

- SWITCHED, SNBU,およびAPPNは指定しないか、*NOでなければなりません。
- LINE, MAXFRAME, RMTNETID, RMTCPNAME, EXCHID, CPSSN, NODETYPE, TMSGRPNBR, SSCPID,およびROLEの各パラメーターは指定しないでください。
- SDLC, X.21短期保留モード, X.25,またはLAN構成に関連したパラメーターを指定してはいけません。
- LINKTYPE(*LOCAL)制御装置にはAPPN(*NO)が指定されていないと接続されたどの装置にもAPPN(*NO)を指定しなければなりません。

*OPC

この制御装置は、光バス(OPTICONNECT)に接続されます。

*SDLC

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

*TDLC

この制御装置は、平衡型データ・リンク制御(TDLC)回線に接続されます。

*VRTAPPN

この制御装置はAPPN通信用に使用されます。これは、特定の通信回線に接続されていません。

*VRTAPPNを指定した場合には、次の基準が満たされなければなりません。

- SWITCHEDはSNBUは指定しないでおくか、*NOでなければなりません。
- APPN(*YES)を指定しなければなりません。
- LINE, MAXFRAME, RMTNETID, RMTCPNAME, EXCHID, CPSSN, NODETYPE, TMSGRPNBR, SSCPID,およびROLEの各パラメーターは指定しないでください。
- SDLC, X.21短期保留モード, X.25,またはLAN構成に関連したパラメーターを指定してはいけません。

- LINKTYPE(*VRTAPPN)制御装置はAPPN通信をサポートするためのものであるため、接続されたどの装置にもAPPN(*YES)を指定しなければなりません。

***X25**

この制御装置はX.25回線に接続されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDL回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマナント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

***YES**

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

上

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。 *YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

*YES

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

上

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。 バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。 SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。 その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

*NO リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

*YES

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

上

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワーク(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。 TDLC回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

*YES

この制御装置はAPPN用です。

*NO

この制御装置はAPPN用ではありません。

上

リモートIPアドレス (RMTINTNETA)

制御装置が応答するTCP/IPホスト名またはIPアドレスを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

ホスト名

これは、IPアドレスに関連した有効なホスト名またはドメイン修飾ホスト名です。名前は1から255文字の範囲の長さでなければなりません。

ホストIPアドレス

IPアドレスは、IPv4、IPv6、またはIPv6にマップされたIPv4形式で指定できます。

IPv4 IPアドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*の形式で指定します。ここで、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。ドット付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されます。

IPv4 IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、*x::x::x::x::x::x*の形式で指定します。ここで、*x*は0からX'FFFF'までの範囲の16進数です。IPv6アドレス中で":"を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「::」は、アドレスの先行、埋め込み、または後続ゼロを圧縮する場合に使用できます。

IPv4マップのIPv6アドレスは、*::FFFF:nnn.nnn.nnn.nnn*の形式で指定します。ここで、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)

リモート・システムとの通信に使用されるTCP/IPインターフェースを示します。

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

*SYS

システムは、使用するローカルIPアドレスを選択します。

IPアドレス

IPアドレスは、IPv4、IPv6、またはIPv6にマップされたIPv4形式で指定できます。

IPv4 IPアドレスは、`nnn.nnn.nnn.nnn`の形式で指定します。ここで、`nnn`は0から255までの範囲の10進数です。ドット付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されます。

IPv4 IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、`x:x:x:x:x:x:x`の形式で指定します。ここで、`x`は0からX'FFFF'までの範囲の16進数です。IPv6アドレス中で`::`を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「`::`」は、アドレスの先行、埋め込み、または後続ゼロを圧縮する場合に使用できます。

IPv4マップのIPv6アドレスは、`::FFFF:nnn.nnn.nnn.nnn`の形式で指定します。ここで、`nnn`は0から255までの範囲の10進数です。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

別名

別名は、ADDTCPIFCおよびCHGTCPIFCコマンドの別名(ALIASNAME)パラメーターで指定したものと同じ値です。

上

LDLCタイマー (LDLCTMR)

LDLC (論理データリンク制御) タイマーおよび再試行回数を指定します。LDLC再試行回数およびLDLC再試行タイマーは、結合で使用されます。コマンドまたは要求が最初にリンクを通して伝送された時に、LDLC再試行回数およびLDLC再試行タイマーは初期化されます。応答を受信する前にLDLC再試行タイマーが満了した場合には、コマンドまたは要求が再伝送され、LDLC再試行回数が減らされ、LDLC再試行タイマーが再開します。LDLC再試行回数がゼロの時点でタイマーが満了した場合には、リンクは操作不可能とみなされます。LDLC活性タイマーは、RTP (高速トランスポート・プロトコル) 接続のその他のエンドポイントとそのエンドポイント間のパスの両方が非活動期間後にもまだ操作可能であることを確認するのに使用されます。

詳細については、HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

要素1: LDLC再試行カウント

3 LDLC再試行回数は3です。

再試行回数

LDLC再試行カウンターを指定します。有効な値の範囲は0から255です。

要素2: LDLC再試行タイマー

15 LDLC再試行タイマーは15秒に設定されます。

再試行タイマー

LDLC再試行タイマー間隔を指定します。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素3: LDLC活性タイマー

10 LDLC活性タイマーは10に設定されます。

活性タイマー

LDLC活性タイマーを指定します。有効な値の範囲は0から65535秒です。

上

LDLCリンク速度 (LDLCLNKSPD)

LDLC（論理データリンク制御）リンク速度をビット／秒で指定します。

詳細については、HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

*CAMPUS

使用されるキャンパス環境の省略時APPNリンク特性のセットを指定します。

*WAN

使用される広域ネットワーク環境の省略時APPNリンク特性のセットを指定します。

4M

リンク速度は秒当たり400万ビットです。

10M

リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

16M

リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M

リンク速度は秒当たり1億ビットです。

*MIN

秒当たり1200ビットより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX**

秒当たり100メガ・ビットより速いリンク速度が使用されます。

LDLCリンク速度

LDLCリンク速度を指定します。

有効な値の範囲は1200から603979776000です。

上

LDLC送信グループ (LDLCTMSGRP)

コスト/接続時間, コスト/バイト, 機密保護, および伝搬遅延のLDLC (論理データリンク制御) 伝送グループ特性を指定します。

詳細については, HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは, リンク・タイプ (**LINKTYPE**)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

要素1: コスト/接続時間

接続時間当たりのコストは, リンクを通して接続されている相対コストを指定します。

0 接続時間当たりのコストはゼロです。

接続時間当たりのコスト

接続時間当たりのコストを指定してください。有効な値の範囲は0から255です。

要素2: コスト/バイト

バイト当たりのコストは, リンクを通してデータを送信および受信する相対コストを指定します。

0 バイト当たりのコストはゼロです。

バイト当たりのコスト

バイト当たりのコストを指定してください。有効な値の範囲は0から255です。

要素3: 機密保護

機密保護は, リンクを通じた機密保護を指定します。

***NONSECURE**

リンクを通じた機密保護はありません。

***PKTSWTNET**

これはパケット交換ネットワークなので, ネットワークを通じてデータが必ずしも同じパスを使用しないという点で機密保護機能があります。

***UNDGRDCBL**

これは、地下ケーブルの機密保護機能のある配管です。

***SECURECND**

これは機密保護機能のある配管ですが、保護されていません。

***GUARDCND**

リンクは保護された配管で、物理的な傍受から保護されています。

***ENCRYPTED**

データ・フローは、暗号化されます。

***MAX** これは保護された配管で、直接接続および間接接続による盗聴配線から保護されています。

要素4: 伝搬遅延

伝搬遅延は、信号がリンクの一端からもう一端へと移動するのに必要な時間を指定します。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク遅延を指定します(0.48ミリ秒未満)。

***MIN** 最小遅延を指定します。

***TELEPHONE**

.48ミリ秒から49.152ミリ秒の遅延を持つテレホン・ネットワークを指定します。

***PKTSWTNET**

49.152ミリ秒から245.76ミリ秒の遅延を持つパケット交換ネットワークを指定します。

***SATELLITE**

サテライト遅延を指定します(245.76ミリ秒を超える)。

***MAX** 最大遅延を指定します。

上

制御装置のタイプ (TYPE)

この記述の制御装置のタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、APPN パラメーターに*NOを指定した場合だけです。

***BLANK**

T2.0制御装置が指定されていません。

***FBSS**

この記述は、金融機関支店システム・サービス(FBSS)制御装置を表します。

3174

この記述は3174制御装置を表します。

3274

この記述は3274制御装置を表します。

3651

この記述は3651制御装置を表します。

3684

この記述は3684制御装置を表します。

3694

この記述は3694検査プロセッサを表します。

4680

この記述は4680制御装置を表します。

4684

この記述は4684制御装置を表します。

4701

この記述は4701金融機関用制御装置を表します。

4702

この記述は4702金融機関用制御装置を表します。

4730

この記述は4730個人用銀行端末を表します。

4731

この記述は4731個人用銀行端末を表します。

4732

この記述は4732個人用銀行端末を表します。

4736

この記述4736セルフサービス・トランザクション・マシンを表します。

上

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

各種タイプでは次の値が使用されます。

- *LAN - 16393
- *SDLC - 521
- *TDLC - 4105
- *IDLC - 2048
- *X25 - 1024
- *FR - 1590
- *HPRIP - 1461

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプで有効なフレーム・サイズは次のとおりです。

- *FRの場合、265から8182の値を指定してください。
- *IDLCの場合、265から8196の範囲の値を指定してください。
- *LANの場合、265から16393 (DDI LAN では265から4444)の範囲の値を指定してください。
- *SDLCの場合、265, 521, 1033, または2057を指定してください。
- *X25の場合、256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 2048, または4096を指定してください。

注: *LINKTYPEにリストされた数値が有効なのは、制御装置の作成時にTYPE(*BLANK)が指定されている場合だけです。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

*ANY

システムが使用されるリモート・ネットワークIDを決定します。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

*ANY

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

上

リモート・システム名 (RMTSYSNAME)

OPTICONNECTバス接続があるリモート・システムの名前を指定します。リモート・システムの現行システム名は、そのシステムに対してDSPNETAを使用して判別することができます。

注: このパラメーターが有効なのは、LINKTYPE(*OPC)が指定されている場合だけです

上

交換識別コード (EXCHID)

この制御装置のリモート交換IDを指定します。制御装置は、接続の確立時に別のロケーションにそのIDを送信(交換)します。8桁の16進のIDには、ブロック番号用の3桁および特定制御装置用の5桁が含まれています。

注: 次の場合には、SDLC交換回線およびSNBU回線の両方でこのパラメーターが必要です。

- APPN(*YES)およびNODETYPE(*LENNODE)の両方が指定された場合。
- APPN(*NO)が指定されて、RMTCPNAMEが指定されない場合。

交換IDのブロック番号は制御装置と関連しています。

制御装置

ブロック番号

3174, 3274

001から0FE

3601 * 016 (* 3601は4701として構成される)

3651, 3684

005

3694 02F

4680 04D

4684 005

4702, 4702

057

5251 020

5294 045

5394 05F

5494 073

System i5

056

ディスプレイライター

03A

システム/36

03E

5251, 5394, および5294制御装置の場合には、最後の5桁の数字は000で開始しなければなりません。5494制御装置の場合には、最後の5桁の数字は000NN（この場合のNNは5494制御装置の端末アドレス）であるか、あるいは製造番号がXIで開始する時には、5494製造番号の最後の5桁のいずれかとなります。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

*DELAY

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

上

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

***DC**

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***C>NNBR**

C>NNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

項目名

項目名を指定してください。

上

データ・リンクの役割 (ROLE)

この接続でリモート制御装置が担うデータ・リンクの役割を指定します。1次端末は制御端末で、2次端末は応答端末です。1次端末は、2次端末にコマンドを送信することによりデータ・リンクを制御し、2次端末はコマンドに応答します。

*NEG

ローカル・システムとリモート・システムは、どのコンピューターが1次であるかを折衝します。

*PRI

リモート・システムは、この通信回線上の1次端末です。

*SEC

リモート・システムは、この通信回線上の2次端末です。

上

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

10

接続を中断できるようになるためには、その前に10個の非生産的応答が受信されなければなりません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

上

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

50

基本システムは、リモート・システムとの接続状態を最小5秒間維持します。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、**リンク・タイプ (LINKTYPE)**パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: **ROLE**パラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。**ROLE**パラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXY Yです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット (PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

*YES

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

*NO

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

上

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

*ENDNODE

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

***LENNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワーキング・ノードです。

***NETNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

***CALC**

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

上

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメーターは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメーターを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

***NETNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

***ENDNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

上

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR)を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES)を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメーターの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

***YES**

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

***NO**

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。

詳細については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーク・カテゴリーを参照してください。

*NO

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

*YES

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられます。

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

1

省略時の伝送グループは1です。

*CALC

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1から20の範囲の値を指定してください。

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

*VRYONPND

状況が「オンに構成変更保留中」、「オンに構成変更」、または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

***VRYON**

状況が「オンに構成変更」または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

上

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、APPC装置の自動作成には適用されません。このパラメーターは、この制御装置の従属装置にのみ適用されます。

***ALL**

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

***NONE**

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

上

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる（その装置に対して活動状態の会話がないうち）時間（分数）を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

1440

1440分(24時間)経過すると、システムは、自動構成されたアイドルの装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除します。

***NO**

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から10,000です。

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

モデル制御装置記述 (MDLCTL)

この制御装置が自動的に作成される制御装置記述の「モデル」であるかどうかを示します。リモート・システムとの通信が開始されるときに自動的に作成および構成される新しい制御装置記述には、タイマー遅延、再試行限界、フレーム・サイズなどのモデル記述の値が使用されます。新しい制御装置は、モデル制御装置の交換回線リスト(SWTLINLSTパラメーター)中のSINGLE回線記述の1つに接続しなければなりません。

モデル制御装置記述はどの装置にも接続されず、各回線記述には1つの制御装置記述しかオンに構成変更することができません。

モデル制御装置の詳細については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

注: このパラメーターが有効なのは、パラメーターLINKTYPEが*LANである場合だけです。

*NO

この制御装置はモデル制御装置ではありません。

*YES

この制御装置はモデル制御装置です。

上

接続ネットワークID (CNNNETID)

この制御装置記述の接続ネットワークIDを指定します。このパラメーター (他になし) に値が指定されている場合には、この制御装置記述は、接続ネットワークに対する接続を表します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

接続ネットワークIDはありません。

接続ネットワークNETID

ネットワークに対してこの制御装置記述を表す接続ネットワークIDを指定してください。

上

接続ネットワークCP (CNNCPNAME)

接続ネットワークの制御点の名前を指定します。

接続ネットワークは、着信または発信接続で制御装置記述を自動的に作成できるように定義されます。このパラメーターが有効なのは、MDLCTL(*YES)が指定された場合だけです。すなわち、CNNNETIDが指定された場合には必要です。

接続制御点名

接続制御点名を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置には最大254の装置を接続することができます。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。例えば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数），または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には，SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素1:最小接続タイマー

170

接続は，170秒間非活動状態になっていると切断されます。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素2:切断遅延タイマー

30

切断は30秒間遅延されます。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で，リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

上

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは，SHMが*NOの場合だけです。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

上

SDLCポーリング限界 (POLLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

上

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

上

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

上

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場

合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されません。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

肯定応答を戻すのに許された時間は30秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

省略時の時間は30秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNRRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

上

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

1440

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は10.5秒です。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1: リンク・タイプ*SDLCをもつAPPC制御装置の作成

```
CRTCTLAPPC  CTLD(OUTLAND) LINKTYPE(*SDLC)
             APPN(*NO) LINE(OUTLINE)
             RMTNETID(*NONE) STNADR(C1)
```

このコマンドは、非交換SDLC回線に接続され、C1という端末アドレスをもつAPPC制御装置記述を構成します。

例2: リンク・タイプ*HRPIPをもつAPPC制御装置の作成

```
CRTCTLAPPC  CTLD(GRIFFIN) LINKTYPE(*HRPIP)
             RMTINTNETA('9.5.5.1') RMTCPNAME(CJP)
```

このコマンドは、*HPRIPのリンク・タイプ、9.5.5.1のIPアドレス、およびCJPのリモート制御ポイントをもつGRIFFINという名前のAPPC制御装置記述を構成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成（非同期）(CRTCTLASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期制御装置記述の作成(CRTCTLASC)コマンドにより、非同期制御装置の制御装置記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
LINKTYPE	リンク・タイプ	*ASYNC, *X25	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNBR	接続番号	文字値, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNBR, *ANY	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	名前	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	*NO, *YES	オプション
ACKTMR	ファイル転送肯定応答タイマー	16-65535, <u>16</u>	オプション
RETRY	ファイル転送再試行	1-255, <u>7</u>	オプション
RMTVfy	リモート検査	*NO, *YES	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	名前	オプション
LCLID	ローカル識別コード	名前	オプション
PADEML	PADエミュレーション	*NO, *YES	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	

キーワード	記述	選択項目	ノート
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTL D)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*ASYNC

この制御装置は非同期回線に接続されています。

*X25

この制御装置はX.25回線に接続されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマナント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

*YES

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

上

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換(専用回線)接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

上

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

これは、制御装置が接続されている回線のタイプにより、電話番号、ネットワーク・アドレスまたはX.21接続番号のいずれかになります。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*C>NNNBR

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられません。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマナント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXY Yです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

非同期通信の場合には、各制御装置に1つの装置しか接続することはできません。装置名は、関連の装置記述が作成された時に指定された名前と同じでなければなりません。装置記述は前もって存在していなければなりません。

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)

ファイル転送サポートを使用している時、肯定応答のために使用できる時間を指定します。

有効な値は16から65535の範囲で、1秒間隔です。

上

ファイル転送再試行 (RETRY)

ファイル転送サポートを使用している時に、再試行回数を指定します。

有効な値の範囲は1から255です。

7

7は、再試行回数の省略時の値です。

上

リモート検査 (RMTVfy)

リモート・システムがローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とするかどうかを指定します。総称の制御装置および装置がX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しを受け入れるように構成されている場合には、リモート・システムは妥当性検査を必要とします。

*NO

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要としません。

*YES

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とします。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカルIDと結合している時に、リモート・システムに対するユーザーの制御装置を識別する名前を指定します。この名前は、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定された名前と同じでなければなりません。

上

ローカル識別コード (LCLID)

ローカル・ロケーション名と結合している時に、リモート・システムにこの制御装置を識別するIDを指定します。このIDは、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定されたIDと同じでなければなりません。

ローカルID

ローカルIDを指定してください。

PADエミュレーション (PADEML)

この制御装置がX.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートするかどうかを指定します。このPADエミュレーションはX.3,X.28,およびX.29のCCITT勧告に従います。このパラメーターは、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*X25が指定され、SWITCHEDが*YESで、初期接続(INLCNN)が*DIALに設定されている場合にだけ有効です。

*NO

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートしません。

*YES

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートします。

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

ユーザー機能 (USRFLC)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

注: このフィールドに入力する値は、ネットワーク・サブスクリプションの提供者によって決定されています。パケット・サイズ、ウィンドウ・サイズ、ユーザー・グループID、およびコレクトコールのキーワードを介して示される機能は指定しないでください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLASC CTLD(ASCCTL) LINKTYPE(*ASYN) LINE(ASCLIN)
```

このコマンドは、非交換非同期回線に接続される非同期制御装置を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成(BSC) (CRTCTLBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC制御装置記述の作成(CRTCTLBSC)コマンドは、2進データ同期通信(BSC) 制御装置の制御装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTTP, *SWTTP, *MPTRIB	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*PGM, *RJE, *EML	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNBR	接続番号	文字値	オプション
LCLID	ローカル識別コード	文字値, *NOID	オプション
RMTID	リモート識別コード	値 (最大 64 回の繰り返し): 文字値, *ANY, *NOID	オプション
RJEHOST	RJEホスト・タイプ	*RES, *JES2, *JES3, *RSCS	オプション
RJELOGON	RJE ホスト・サインオン/ログオン	文字値	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

接続タイプ (CNN)

このBSC制御装置が使用されている接続のタイプを指定します。

注: この値は、CRTLINBSCコマンドのCNNパラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

*NONSWTPP

非交換POINT-TO-POINT接続。

*SWTPP

交換POINT-TO-POINT接続。

*MPTRIB

マルチポイント従属接続。

上

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、**交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)**パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注：使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

上

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注：このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

注: この値は、CRTLINBSCコマンドのAPPTYPEパラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

***PGM**

アプリケーションはユーザー作成プログラムです。

***RJE**

アプリケーションはBSCリモート・ジョブ入力(RJE)です。

***EML**

アプリケーションはBSC 3270装置エミュレーションです。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

接続番号 (CNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

接続番号

接続番号を指定してください。

ローカル識別コード (LCLID)

リモート制御装置に対してローカル・システムを識別するために使用されるローカルIDを指定します。

*NOID

ローカル・システムは、制御装置と通信する時にヌルのIDを送信します。

LOCAL-ID

2から30桁の16進数で、偶数の文字を含むローカルIDを指定してください。IDにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- ローカルIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（例えばF3F3や8484など）。

リモート識別コード (RMTID)

リモートBSC制御装置のIDを指定します。最大64個のリモート制御装置IDを指定することができます。

*ANY

システムは、リモート制御装置が送信したどのIDでも受け入れます。

注: この値は、最後に指定された値であるか、あるいは指定された唯一の値である場合にのみ有効です。

*NOID

ローカル・システムは、リモート・システムが送信したヌルのIDを受け入れます。

リモートID

2から30桁の長さの16進数で、偶数の文字を含むリモート制御装置IDを指定してください。IDにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- リモートIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（例えばF1F1や8585など）。

RJEホスト・タイプ (RJEHOST)

RJEが接続されているホストのサブシステム・タイプを指定します。

***RES**

ホストはRES (リモート入力システム) です。

***JES2**

ホストはJES2 (ジョブ入力サブシステム2)です。

***JES3**

ホストはJES3 (ジョブ入力サブシステム3)です。

***RSCS**

ホストはRSCS (リモート・スプーリング通信システム) です。

上

RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)

RJEホスト・システムのサインオン・テキストとして使用される最大80文字のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。このパラメーターが必要なのは、APPTYPE(*RJE)を指定した場合だけです。ホスト・システムが必要とするサインオン情報を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は、CNNが*MPTRIBの場合には32、APPTYPEが*RJEの場合には24、他のすべての場合には1です。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLBSC  CTLD(BSC1)  CNN(*SWTPP)
            CNNBR(1234567)  LCLID(020202)
            RMTID(*ANY)  SWTLINLST(BSC1)  INLCNN(*ANS)
```

このコマンドは、交換回線上でいずれのリモート・ロケーションからの呼び出しも受け入れるBSC制御装置を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述作成（金融機関）(CRTCTLFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関制御装置記述作成(CRTCTLFNC)コマンドは、金融機関用制御装置の制御装置記述を作成します。
このコマンドの使用の詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	*FBSS, 3694, 4701, 4702, 4730, 4731, 4732, 4736	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	0	必須, 定位置 3
LINKTYPE	リンク・タイプ	*LAN, *SDLC, *X25	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1033, 256, 265, 512, 521, 1033, *LINKTYPE	オプション
EXCHID	交換識別コード	00000000-FFFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNBR, *ANY	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, 10, *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, 50	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	*QLLC, *ELLC	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, X''	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV	接続されている装置	値 (最大 255 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>050000000000</u>	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*NO</u> , *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*POLLMT</u> , 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*CALC</u> , *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, <u>*CALC</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANACCPTY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*CALC</u>	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, <u>*NONE</u>	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*LIND</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*LIND</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25CNNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*CALC</u>	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>20</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>350</u>	オプション
USRFLC	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

*FBSS

この記述は、金融機関支店システム・サービス(FBSS)制御装置を表します。

3694

この記述は3694検査プロセッサを表します。

4701

この記述は4701金融機関用制御装置を表します。

4702

この記述は4702金融機関用制御装置を表します。

4730

この記述は4730個人用銀行端末を表します。

4731

この記述は4731個人用銀行端末を表します。

4732

この記述は4732個人用銀行端末を表します。

4736

この記述4736セルフサービス・トランザクション・マシンを表します。

上

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

上

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***LAN**

この制御装置はローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に接続されています。

***SDLC**

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

***X25**

この制御装置はX.25回線に接続されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマナント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

*YES

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

上

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。*YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

*YES

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

上

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、**交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)**パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注：使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

上

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注：このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

各種リンク・タイプでは次の値が使用されます。

- *LAN - 521
- *SDLC - 265
- *X25 - 256

256

*X25のフレーム・サイズ。

265

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

512

*X25のフレーム・サイズ。

521

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

1033

*SDLCのフレーム・サイズ。

フレーム・サイズ

フレーム・サイズを指定してください。*LANの場合、265から521の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265, 521,または1033を指定してください。*X25 の場合、256, 265, 512,または521を指定してください。

注: 4730, 4731, 4732, 4736,または3694制御装置の場合には、*LINKTYPEまたは265を指定することができません。

交換識別コード (EXCHID)

この制御装置の交換IDを指定します。制御装置は、接続を確立する時に、別のロケーションにそのIDを送信します(IDを交換します)。8桁の16進のIDには、3桁のブロック番号と5桁の特定制御装置IDが示されます。

制御装置	ブロック 番号	16進 ID
3694	02F	XXXXX
4701	057	XXXXX
4702	057	XXXXX
4730	043	XXXXX
4731	043	XXXXX
4732	043	XXXXX
4736	043	XXXXX
*FBSS	000-FFF	XXXXX
3601 (4701と して構成)	016	XXXXX

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

接続番号 (CNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

10

接続を中断できるようになるためには、その前に10個の非生産的応答が受信されなければなりません。

***NOMAX**

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

上

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、短期保留モード(SHM)パラメーターに*YES、データ・リンクの役割(ROLE)パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

50

基本システムは、リモート・システムとの接続状態を最小5秒間維持します。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXYYです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット (PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は、4701または4702制御装置の場合には255、4730の場合には3、4731、4732、または4736制御装置の場合には2、*FBSS制御装置の場合には255、3694検査プロセッサの場合には4です。

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

050000000000

システム・サービス制御点IDの省略時の値。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

上

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

上

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

上

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

上

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

上

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 <d/d>

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場

合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されません。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTRY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。 <d>

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

上

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

350

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は3.5秒です。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLFNC  CTLD(FNC1)  TYPE(4701)  MODEL(0)  LINKTYPE(*SDLC)
           LINE(FNCLINE) STNADR(C1)
```

このコマンドは、非交換SDLC回線に接続され、C1という端末アドレスをもつ4701金融機関用制御装置を構成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

制御装置記述の作成(SNA ホスト) (CRTCTLHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト制御装置記述作成(CRTCTLHOST)コマンドは、システム・ネットワーク体系(SNA)ホスト制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの使用の詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
LINKTYPE	リンク・タイプ	*DLUR, *FR, *LAN, *SDLC, *X25	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
APPN	APPN可能	*YES, *NO	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, *ANY	オプション
ADJLNKSTN	隣接リンク端末	通信名, *NONE, *ANY	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	050000000000-05FFFFFFFF	オプション
LCLEXCHID	ローカル交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *LIND	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	*LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CANNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	<u>*QLLC</u> , *ELLC	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>X''</u>	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	<u>*YES</u> , *NO	オプション
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	<u>*ENDNODE</u> , *LENNODE, *NETNODE, *CALC	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	<u>*NETNODE</u> , *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
HPRPHTSWT	HPRパス・スイッチ	<u>*NO</u> , *YES	オプション
TMSGRPNBR	APPN伝送グループ番号	1-20, <u>1</u> , *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	<u>*VRYONPND</u> , *VRYON	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	<u>*ALL</u> , *DEVINIT, *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, <u>1440</u> , *NO	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>*LIND</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>*LIND</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>*LIND</u>	オプション
RECONTACT	オフへの構成変更の再接続	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
PRIDLUS	1次DLUS名	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
BKUDLUS	バックアップDLUS名	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
DEPPUNAME	従属PU名	通信名, <u>*NONE</u>	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	30-2550, <u>170</u>	オプション
RECNTMR	切断/再接続タイマー(T309)	1-2550, <u>170</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
IDLCWDSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCCNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*LIND</u> , *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*NO</u> , *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DSCTMR	切断タイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535, <u>170</u>	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>30</u>	
DSAP	LAN DSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANACCPTY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*CALC</u>	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, <u>*NONE</u>	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*LIND</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*LIND</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>300</u>	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>20</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>1050</u>	オプション
USRFLC	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*FR

この制御装置はフレーム・リレー回線に接続されています。

*LAN

この制御装置は、DDI, ETHERNET,またはトークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)回線に接続されています。

*SDLC

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

*X25

この制御装置はX.25回線に接続されます。

*DLUR

この制御装置は従属LU要求元端末(DLUR)機能に使用され、回線が接続されません。

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDL回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

*YES

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。 *YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

*YES

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

上

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注： 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X, または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。 その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

*NO リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

*YES

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

上

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワーク(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。 TDLC回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

*YES

この制御装置はAPPN用です。

***NO**

この制御装置はAPPN用ではありません。

上

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前 of 回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

各種タイプでは次の値が使用されます。

- *FR - 1590
- *IDLC - 2048
- *LAN - 16393

- *SDLC - 521
- *X25 - 1024

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプで有効なフレーム・サイズは次のとおりです。

- *FRの場合、265から8182の値を指定してください。
- *IDLICの場合、265から8196の範囲の値を指定してください。
- *LANの場合、265から16393 (DDI LAN では265から4444)の範囲の値を指定してください。
- *SDLCの場合、265, 521, 1033, または2057を指定してください。
- *X25の場合、256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 2048, または4096を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

*ANY

システムが使用されるリモート・ネットワークIDを決定します。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

*ANY

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

上

隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)

隣接したリンク端末の名前を指定します。この名前は、ホスト・システムとのリンクを確立する際に使用されるIBM System i5上の交換制御装置記述を特定するために、オペレーティング・システムで使用されます。IBM System i5の隣接したリンク端末名がリンクの活動化中にホスト・システムで指定された名前と一致していなければなりません。

*NONE

隣接リンク端末名は指定されません。

*ANY

システムが使用される隣接リンク端末を決定します。

隣接リンク端末名

隣接リンク端末名を指定してください。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

注: システム・サービス制御点ID (SSCPID)は12桁の16進値で、最初の2桁は16進数05です。APPN(*YES)およびNODETYPE(*LENNODE)を指定した場合、あるいはAPPN(*NO)を指定したが、RMTCPNAMEを指定していない場合には、SDLC交換およびSNBUではこのパラメーターは必須です。SHM(*YES)を指定した場合には、このパラメーターも指定しなければなりません。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

ローカル交換識別コード (LCLEXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別するために使用される番号を指定します。注:

このパラメーターは次の条件のいずれかの場合に必要です。

1. IBM System i5とSNAホスト・システムの間で並行接続が必要な場合。

2. 従属型物理装置名(DEPPUNAME)パラメーターが指定されていない場合に、従属型LU要求元(DLUR)のサポート(LINKTYPE(*DLUR))用とする。

*LIND

システムは、この制御装置記述に関連したEXCHIDパラメーターの回線記述に指定された交換IDを使用します。

ローカル交換ID

ローカル交換IDを指定してください。この8桁の16進数の最初の3桁はブロック番号を識別し、残り5桁はシステムを識別します。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH)、接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

*DELAY

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

上

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*C>NNBR

C>NNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

項目名

項目名を指定してください。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (**LINKTYPE**)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: **ROLE**パラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。 **ROLE**パラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXY Yです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。

- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャンネル番号。論理チャンネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャンネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット (PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

*YES

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

*NO

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

上

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

*ENDNODE

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

*LENNODE

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワークング・ノードです。

*NETNODE

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

*CALC

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

上

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメーターは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメーターを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

*NETNODE

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

*ENDNODE

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

上

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR)を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES)を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメーターの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

*YES

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

***NO**

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

上

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。

詳細については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーク・カテゴリを参照してください。

***NO**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

***YES**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられます。

上

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

1

省略時の伝送グループは1です。

***CALC**

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1から20の範囲の値を指定してください。

上

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

*VRYONPND

状況が「オンに構成変更保留中」、
「オンに構成変更」、または「活動状態」である場合にのみ、
APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

*VRYON

状況が「オンに構成変更」または「活動状態」である場合にのみ、
APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

上

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

*ALL

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、
APPC装置を除いて自動的に作成されます。

*DEVINIT

セッション印刷装置およびSNAホスト制御装置によって開始された
(装置開始) 表示装置だけが自動的に作成されます。

*NONE

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

上

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる
(その装置に対して活動状態の会話がない時) 時間
(分数) を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

1440

1440分(24時間) 経過すると、システムは、自動構成されたアイドルの装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除します。

*NO

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から10,000です。

上

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)

制御装置記述の通常のオフへの構成変更が実行された時に、ホスト・システムに再接続の要求を送るかどうかを指定します。

注: このパラメーターはX.25およびSDLC専用回線の場合にのみ有効です(LINKTYPEパラメーターに*X.25または*SDLCを指定し、SWITCHEDパラメーターに*NOを指定した場合)。

*YES

リモート・システムへの再接続要求が送信されます。

*NO

リモート・システムへの再接続要求は送信されません。この値を指定すると、リモート・システムに対して非活動状態の状況が示されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

1 次DLUS名 (PRIDLUS)

1次従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワークIDを指定します。

名前はXXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク（サブネット）のネットワークIDとなる接尾部からなります。DLUSがIBM System i5と同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワークIDは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワークIDです。

DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、IBM System i5はまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素1: 1次DLUS名

*NONE

1次CP名は指定されません。

1次DLUS名

1次従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素2: ネットワークID

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

従属LUサーバーのネットワークIDを指定してください。

上

バックアップDLUS名 (BKUDLUS)

バックアップ従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワークIDを指定します。

名前はXXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク（サブネット）のネットワークIDとなる接尾部からなります。DLUSがIBM System i5と同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワークIDは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワークIDです。

DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、IBM System i5はまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素1:バックアップDLUS名

*NONE

バックアップCP名は指定されません。

バックアップDLUS名

バックアップ従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素2:ネットワークID

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

バックアップ従属LUサーバーのネットワークIDを指定してください。

上

従属PU名 (DEPPUNAME)

接続用の追加の機密保護を提供している、DLURで使用される従属型物理装置(PU) 名を指定します。

この名前が指定されている場合には、DLUSノードからの活動化要求(SNA ACTPU)はこの名前を参照しなければなりません。さもないと、拒否されます。

IBM System i5 DLURノードがリモートDLUSノードとのセッションを開始すると(INLCNN(*DIAL)), 従属PU名がDLUSに送られ、DLUSはACTPU要求時にその名前を戻します。

リモートDLUSノードがそのDLUSノード上の事前定義の活動化によってDLURホスト制御装置とのセッションを開始した場合には、従属PU名とDLUSに指定されたPU名についての精密な調整が必要となります。

このパラメーターが指定されなかった場合には、制御装置のローカル交換IDおよびリモートCP名パラメーターの検査が行われます。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属PU名

DLURアプリケーションに使用される従属PU名を指定してください。

30-2550 (秒) (ACTTMR)

このタイマーは、システムがリモートDLUSノード（初期接続*DIAL）とのセッションの活動化を試みる時に使用されます。これは、システムがリモートDLUSからの応答を待機する時間です。

このパラメーターは、回復限界(CMNRCYLMT)のカウント限界およびタイマー間隔と一緒に使用されます。各試みごとに（カウント限界まで）、活動化要求（活動化タイマーで時間設定）が行われます。試みと試みの間に、システムは新しい活動化要求を試みる前に、タイマー間隔の間待機します（システムが、再試行エラー・メッセージを受信する前にタイムアウトになるものと仮定した場合）。

1次DLUSに対する試みで3つのパラメーターが使用され、カウント限界を超えると、システムはリセットして、バックアップDLUS（構成されている場合）に対して同じ再試行限界カウントを試みます。構成されたすべてのDLUSノードに対する再試行限界カウントが使い果たされると、エラー・メッセージがQSYSOPRメッセージ・ログに送られますが、このメッセージには活動化手順全体をやり直すためのオプションがあります。

170

170秒という省略時の値が使用されます。

活動タイマー値

30から2550（秒数）の範囲の値を指定してください。

切断／再接続タイマー(T309) (RECNNTMR)

このタイマーは、リモートDLUSノードに対するセッションで障害が起こった時に使用されます。これは、DLUSノードが活動化要求をホスト・システムに送り戻すのをホスト・システムDLURサポートが待機する時間です。このタイマーが切れると、ホスト・システムは次のことを行ないます。

- DLURホスト制御装置がINLCNN(*DIAL)に構成されている場合：
 1. DLURサポートは、セッション障害が起こった時点でシステムが接続されていたDLUSノードとのセッションの活動化を1回試みます。
 2. この試みが失敗した場合には、再試行オプションのあるQSYSOPRメッセージ・ログ中のエラー・メッセージが表示されます。再試行を選択した場合には、構成された1次／バックアップDLUSを介してもう一度活動化要求が送られます。
- DLURホスト制御装置がINLCNN(*ANS)に構成されている場合：
 1. DLUR制御装置はDLUSノードからの活動化の試みを待機します。

170

170秒という省略時の値が使用されます。

再接続タイマー値

30から2550（秒数）の範囲の値を指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置には最大254の装置を接続することができます。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*IDLC*フレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

*IDLC*応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。例えば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数）、または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には、SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素1:最小接続タイマー

170

接続は、170秒間非活動状態になっていると切断されます。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素2:切断遅延タイマー

30

切断は30秒間遅延されます。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で、リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAPの組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 **LANACKFRQ**パラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 **LANACKTMR**パラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されま

す。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

肯定応答を戻すのに許された時間は30秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

上

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

1440

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は10.5秒です。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

536 System i: プログラミング i5/OS コマンド COMMIT (コミット) ~

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLHOST  CTLD(HOST1) LINKTYPE(*LAN) SWTLINLST(LAN1)
             RMTCPNAME(CPX) ADPTADR(056000000011)
```

このコマンドは、ローカル・エリア・ネットワーク上にホスト制御装置を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成(ローカル WS) (CRTCTLLWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・ワークステーション制御装置記述の作成(CRTCTLLWS)コマンドにより、ローカル・ワークステーション制御装置の制御装置記述が作成されます。

注: 拡張無線制御装置構成データは、それぞれINZFILEおよびINZMBRパラメーターで指定したソース・ファイルおよびメンバーに入っています。制御装置をオンに構成変更すると、この構成データが無線アダプターにダウンロードされます。INZPGM(QZXCINZ)およびINZFILE(QEWCSRC)を使用し、INZMBRパラメーターに有効な値を指定することをお勧めします。拡張無線制御装置構成データのダウンロードの詳細については、AS/400 LAN,フレームおよびATMサポート (SD88-5012)を参照してください。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400装置構成 (SD88-5003)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	文字値	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	文字値, 1, 0001, 2, 0002	必須, 定位置 3
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前, *NONE	オプション
INZPGM	初期設定プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定プログラム	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 120 回の繰り返し): 名前	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, 10	オプション
AUTOCFG	自動構成制御装置	*NO, *YES	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

2637

9402システム上のASCIIローカル・ワークステーション制御装置。

2638

9402システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置

2661

9402システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置

266A

無線装置のローカル・ワークステーション制御装置が使用されます。

266C

ローカル・ワークステーション制御装置。

2722

ローカル・ワークステーション制御装置。

2746

平衡型ワークステーション制御装置。

2747

平衡型ワークステーション制御装置。

6040

9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6041

9406システム上のASCIIローカル・ワークステーション制御装置。

6050

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6054

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6055

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6056

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6140

9404システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6141

9404システム上のASCIIローカル・ワークステーション制御装置。

6180

ローカル・ワークステーション制御装置。

6A58

9401, 9402, 9404,または9406システム上のローカル・ワークステーション制御装置。

6A59

9401, 9402, 9404,または9406システム上のローカル・ワークステーション制御装置。

915A

9406-3XXシステムのローカル・ワークステーション制御装置が使用されます。 <d/d>

916A

9406-3XXシステムのローカル・ワークステーション制御装置が使用されます。

9173

9402-2XXシステムのLOCALTALKワークステーション・アダプターが使用されます。

上

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

ワークステーション制御装置のモデルを指定します。制御装置タイプ6A58および6A59の場合には、モデル0001はローカル・ワークステーション制御装置で、モデル0002はオペレーション・コンソール用です。他のすべての制御装置タイプはモデル0001のみを使用します。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

構成初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

注: このコマンドの説明の始めて説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

*NONE

初期設定ファイル名は指定されません。

初期設定ファイルの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定ファイル名

初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・ファイル名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が初期設定に使用されます。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

構成初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します(266A制御装置の場合のみ)。

注: このコマンドの説明の始めて説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

*NONE

ソース・ファイル・メンバーは指定されません。

初期設定メンバー名

初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメータには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・メンバー名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が使用されます。

上

初期設定プログラム (INZPGM)

構成の初期設定データを管理するプログラムの名前を指定します。

注: 2663無線アダプターの場合は、INZPGM(QZXCINZ)を指定されるようお奨めします。INZFILEおよびINZMBRの値の結果は、回線がオンに構成変更された時に、拡張無線回線メンバーの変更(CHGEWLM)コマンドに渡されます。

*NONE

初期設定プログラム名は指定されません。

初期設定プログラムの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定プログラム名

構成初期設定データを管理するプログラムの名前を指定してください。プログラム名を指定した場合には、この制御装置記述が作成される時に、このプログラムが呼び出されます。構成初期設定データを含むソース・ファイルおよびメンバーの名前がパラメーターとしてこのプログラムに渡されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

次のリストには各制御装置に接続できる装置記述の最大数および各制御装置で活動状態にできる装置の数を示しています。

制御装置

	装置記述／活動装置
2661	120/40
266A	56/56
2637	24/24
2638	56/24
6040	56/40
6041	36/18
6050	120/40
6054	56/56
6055	56/56
6056	56/56
6140	56/40
6141	36/18
6A58	1/1
6A59	1/1
915A	56/40
916A	56/40

上

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待機タイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

10

ローカル制御装置の場合、サブシステムはこの制御装置に接続された各ワークステーションの入出力の完了を最大10秒待機します。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下) にしてください。

上

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

*NO

これは、自動構成制御装置ではありません。

*YES

これは自動構成制御装置です。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

上

例

```
CRTCTLLWS  CTLD(MYCTLR) TYPE(6050) MODEL(1) RSRNAME(CTL02)
            INZFILE(*LIBL/MYFILE) INZMBR(MBR2)
```

このコマンドは、名前がMYCTLRで、資源名がCTL02の6050-1型ローカル・ワークステーション制御装置記述を作成します。ソース・ファイルMYFILE中のソース・メンバーMBR2に構成初期設定データが入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPD2761

型式がこの制御装置タイプに対して正しくない。

CPD2787

この制御装置タイプには、接続装置が多すぎる。

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成(ネットワーク) (CRTCTLNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク制御装置記述の作成(CRTCTLNET)コマンドは、ネットワーク制御装置の制御装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
LINE	接続回線	名前	オプション
CNNRSPTMR	応答タイマーの接続	1-3600, <u>170</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 255 回の繰り返し): 名前	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

接続回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

上

応答タイマーの接続 (CNNRSPTMR)

システムが送られてきた接続要求に応答する前に待つ時間の長さを指定します。

170

システムは、着信接続要求に応答するまで170秒間待機します。

接続応答タイマー

システムが着信接続要求に応答する前に待機する時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は1から 3600秒です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される最大255の装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLNET  CTLD(CTL0A)  LINE(LIN01)
```

このコマンドは、名前がCTL0Aのネットワーク制御装置記述を作成します。既存の回線LIN01が制御装置のネットワーク回線として指定されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成（小売業）(CRTCTLRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

小売業制御装置記述の作成(CRTCTLRTL)コマンドは小売業制御装置の制御装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	3651, 3684, 4680, 4684	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	0	必須, 定位置 3
LINKTYPE	リンク・タイプ	*SDLC, *X25, *LAN	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, *LINKTYPE	オプション
EXCHID	交換識別コード	00100000-FFFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNBR	接続番号	文字値, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNBR, *ANY	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
DSAP	LAN DSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, X''	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>050000000000</u>	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*NO</u> , *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*POLLMT</u> , 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*CALC</u> , *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, <u>*CALC</u>	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*CALC</u>	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, <u>*NONE</u>	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*LIND</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*LIND</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNRRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*CALC</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプションナル

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

3651

この記述は3651制御装置を表します。

3684

この記述は3684制御装置を表します。

4680

この記述は4680制御装置を表します。

4684

この記述は4684制御装置を表します。

注: 4690の場合には、制御装置タイプとして4680を指定してください。

上

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

上

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SDLC

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

*X25

この制御装置はX.25回線に接続されます。

*LAN

この制御装置は、分散データ・インターフェース(DDI), ETHERNET,またはトークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク回線に接続されています。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は非交換回線に接続されています。 X.25パーマネント・バーチャル・サーキット (PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

***YES**

この制御装置は交換回線に接続されます。 X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

上

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、**交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)**パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

上

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

フレーム・サイズは*SDLCでは521バイト、*X25では1024バイト、*LANでは1994バイトです。

最大フレーム・サイズ

この制御装置の最大フレーム・サイズとして521, 1033,または1994バイトを指定してください。リンク・タイプが*X25の場合には、1024だけを指定してください。リンク・タイプが*LANの場合には、1994だけを指定してください。

上

交換識別コード (EXCHID)

この制御装置の交換IDを指定します。制御装置は、接続を確立する時に、別のロケーションにそのIDを送信します(IDを交換します)。8桁の16進のIDには、3桁のブロック番号と5桁の特定制御装置IDが示されます。

制御装置	ブロック 番号	16進 ID
3694	02F	XXXXX
4701	057	XXXXX
4702	057	XXXXX
4730	043	XXXXX
4731	043	XXXXX
4732	043	XXXXX
4736	043	XXXXX
*FBSS	000-FFF	XXXXX
3601 (4701と して構成)	016	XXXXX

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*C>NNBR

C>NNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられません。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXY Yです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメータには省略時の値がありません。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメータは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワードを使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりに空白が埋め込まれます。全桁空白のパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は、3651制御装置の場合は14、3684制御装置の場合は2、4680制御装置の場合は84、4684制御装置の場合は254です。

活動状態にできる装置の最大数は、3651制御装置の場合は14、3684制御装置の場合は2、4680制御装置の場合は40、4684制御装置の場合は16です。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

050000000000

システム・サービス制御点IDの省略時の値。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

上

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

上

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

***NOMAX**

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されず（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起るまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 **LANACKFRQ**パラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

フレームを送信するために送信側システムに与えられる優先順位を指定します。 数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。 このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。 未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されません。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLRTL CTLD(CTRL05) TYPE(3651) MODEL(0) LINKTYPE(*SDLC)
SWITCHED(*YES) SWTLINLST(SWITCHED1)
EXCHID(00500005)
INLCNN(*ANS) STNADR(E1) CNNNBR(2553217)
```

このコマンドは、CTRL05という名前の3651-0型小売業制御装置記述を作成します。この制御装置は、SDLC交換回線上に電話番号255-3217で存在しています。制御装置への接続は、IBM System i5への着信呼び出しで開始されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成(リモート WS) (CRTCTLRWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・ワークステーション制御装置記述作成(CRTCTLRWS)コマンドは、リモート・ワークステーション制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの使用について、詳しくは、AS/400通信構成(SD88-5011)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	3174, 3274, 5251, 5294, 5394, 5494, 5594	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	0, 1, 0001, 2, 0002, 12, 0012, K01	必須, 定位置 3
LINKTYPE	リンク・タイプ	*LAN, *NONE, *SDLC, *X25	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 261, 265, 512, 517, 521, 1033, 1994, *LINKTYPE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別 コード	通信名, *NETATR, *NONE	オプション
EXCHID	交換識別コード	00100000-FFFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	*LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CANNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, 10, *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, <u>50</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	<u>*QLLC</u> , *ELLC	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャンネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>X'</u>	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	<u>*ALL</u> , *NONE	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
DEVWAITTMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, <u>120</u>	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>050000000000</u>	オプション
IDLCWDSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*LIND</u> , *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*NO</u> , *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*POLLMT</u> , 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*CALC</u> , *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, <u>*CALC</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*CALC</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*CALC</u>	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, <u>*NONE</u>	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*LIND</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*LIND</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25CNNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*CALC</u>	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>20</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>350</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
ALCRTYTMR	割り振り再試行タイマー	1-9999, <u>180</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

3174

この記述は3174制御装置を表します。

3274

この記述は3274制御装置を表します。

5251

この記述は5251制御装置を表します。

5294

この記述は5294制御装置を表します。

5394

この記述は5394制御装置を表します。

5494

この記述は5494制御装置を表します。

上

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

0

3174または3274制御装置の型式番号。

1

5294, 5394, または5494-1型制御装置の型式番号。

2

5394または5494-2型制御装置の型式番号。

12

5251-12型制御装置の型式番号。

K01

5294-K01型制御装置の型式番号。

上

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***LAN**

この制御装置はローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に接続されています。

***NONE**

この制御装置記述は回線に接続されません。

***SDLC**

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

***X25**

この制御装置はX.25回線に接続されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDL回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

*YES

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

上

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。*YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

*YES

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

上

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、**交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)**パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注： 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

上

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注： このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

リンク・タイプが*ISDNの3174制御装置の場合、521という値が使用されます。リンク・タイプが*LANの3174制御装置の場合、1994という値が使用されます。リンク・タイプが*SDLCの3174制御装置の場合、265という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の3174制御装置の場合、256という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の5394制御装置の場合、512という値が使用されません。リンク・タイプが*SDLCの5394制御装置の場合、517という値が使用されます。

最大フレーム・サイズ

- リンク・タイプが*SDLCまたは*X25である3174制御装置の場合、265の値を指定してください。
- リンク・タイプが*X25回線である5394制御装置の場合、265 または521を指定してください。
- リンク・タイプが*SDLCである5394制御装置の場合、261または517を指定してください。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

リモート・システムに関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムがリモート・システムに識別されるために使用される名前（最大8文字）を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

交換識別コード (EXCHID)

制御装置の交換IDを指定します。制御装置は、接続を確立する時に、別のロケーションにそのIDを送信します(IDを交換します)。8桁の16進のIDには、3桁のブロック番号と5桁の特定制御装置IDが示されます。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

*DELAY

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

上

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*C>NNBR

C>NNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられません。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

項目名

項目名を指定してください。

上

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

10

接続を中断できるようになるためには、その前に10個の非生産的応答が受信されなければなりません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

上

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

50

基本システムは、リモート・システムとの接続状態を最小5秒間維持します。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、**リンク・タイプ (LINKTYPE)**パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: **ROLE**パラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。 **ROLE**パラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXY Yです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット (PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりに空白が埋め込まれます。全桁空白のパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

*ALL

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

*NONE

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

指定できる装置の最大数は64ですが、制御装置のタイプによって変わります。

制御装置

装置の最大数

5251 9

5294 8

5494 56

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待ちタイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

120

省略時の時間は120秒です。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下)にしてください。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

050000000000

システム・サービス制御点IDの省略時の値。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。例えば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCCNNRTY (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数を使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

上

PRELDLY (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

REDLDLY (REDLDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

SDLCポーリング限界 (POLLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

上

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

上

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。 数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されま

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

肯定応答を戻すのに許された時間は30秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

上

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

350

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は3.5秒です。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

上

割り振り再試行タイマー (ALCRTYTMR)

LU6.2セッションの接続を試行してから次に試行するまでシステムが待機する時間の長さを秒数で指定します。

180

システムは、試行間で180秒間待機します。

1から9999

1から9999秒の範囲の時間の長さを指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLRWS  CTLD(CTL005)  TYPE(5294)  MODEL(1)  LINKTYPE(*SDLC)
            SWITCHED(*YES)  EXCHID(04500003)
            INLCNN(*ANS)  STNADR(03)
            CNNBR(5551234)  TEXT('CHICAGO BRANCH')
```

このコマンドは、CTL005という名前の5294-1型リモート制御装置記述を作成します。この制御装置は、SDLC交換回線上に電話番号555-1234で存在しています。制御装置への接続は、IBM System i5への着信呼び出しで開始されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成 (テープ) (CRTCTLTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ制御装置記述の作成(CRTCTLTAP)コマンドは、テープ制御装置の制御装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	文字値, <u>*RSRCNAME</u>	オプション, キー, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	文字値, <u>*RSRCNAME</u>	オプション, キー, 定位置 3
RSRCNAME	資源名	名前, <u>*NONE</u>	オプション, キー, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 8 回の繰り返し): 名前	オプション
AUTOCFG	自動構成制御装置	<u>*NO</u> , *YES	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

*RSRCNAME

装置型式は資源名パラメーターによって決定されます。

注: このパラメーターは無視されますが、従来のバージョンのコマンドとの互換性の維持のために指定することができます。

上

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

*RSRCNAME

装置型式は資源名パラメーターによって決定されます。

注: このパラメーターは無視されますが、従来のバージョンのコマンドとの互換性の維持のために指定することができます。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*NONE

この時点では資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

資源名

システム上の物理装置を識別するための名前を指定してください。TYPEパラメーターに*STGを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用すれば、資源名の判別に役立ちます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

614 System i: プログラミング i5/OS コマンド COMMIT (コミット) ~

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は3422または3430制御装置の場合には4、3480または3490制御装置の場合には8です。

上

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

*NO

これは、自動構成制御装置ではありません。

*YES

これは自動構成制御装置です。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLTAP CTLD(TAP01) TYPE(3422) MODEL(A01) SRCNAME(TAP01)
```

このコマンドは、3422テープ制御装置用のTAP01という名前の制御装置記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

制御装置記述の作成 (仮想WS) (CRTCTLVWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

仮想ワークステーション制御装置記述作成(CRTCTLVWS)コマンドは、仮想ワークステーション (パススルー) 制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの使用の詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 255 回の繰り返し): 名前	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-120, <u>20</u>	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

最大255の装置を指定することができます。

上

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待機タイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

20

省略時の時間は20秒です。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下) にしてください。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTCTLVWS  CTLD(VRTCTL325)  TEXT('S/325 VIRTUAL CONTROLLER')
```

このコマンドは、VRTCTL325という名前の制御装置記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

上

DDMファイル作成 (CRTDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理ファイル作成(CRTDDMF)コマンドは、分散データ管理機能(DDM)ファイルを作成します。

DDMファイルは、分散データ管理機能ネットワーク内のリモート（ターゲット）システムにあるファイルにアクセスするために、参照ファイルとして使用されます。ローカル・システムのDDMファイルには、リモート・ファイルの名前およびリモート・システムを識別する情報が入っています。このDDMファイルはまた、リモート・ファイルのレコードのアクセスに使用する方法も指定します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	DDMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DDMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RMTFILE	リモート・ファイル	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ファイル	単一値: *NONSTD その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 標準外ファイル'名'	文字値	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	単一値: *RDB その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
	要素 2: タイプ	*SNA, *IP	
RDB	リレーショナル・データベース	名前	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
DEV	装置	要素リスト	オプション
	要素 1: APPC装置記述	名前, *LOC	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
PORT	ポート番号	1-65535, *DRDA	オプション
ACCMTH	アクセス方式	単一値: *RMTFILE, *COMBINED その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート・ファイル属性	*KEYED, *ARRIVAL	
	要素 2: ローカル・アクセス方式	*BOTH, *RANDOM, *SEQUENTIAL	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
PTCCNV	保護された会話	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*RMTFILE, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	*YES, *NO	オプション

上

DDMファイル (FILE)

作成するDDMファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: DDMファイル

名前 作成するDDMファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

DDMファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 DDMファイルが入っているライブラリー名を指定します。

上

リモート・ファイル (RMTFILE)

ターゲット・システムでコーディングされているリモート・ファイルの名前を指定します。このファイル名はコード・ページ500に指定しなければなりません。分散データ管理機能(DDM)ファイルを作成するときには、リモート・ファイルが存在する必要はありません。

これは必須パラメーターです。

要素1: ファイル

単一値

*NONSTD

リモート・ファイル名は標準のSystem i5ファイル名ではありません。このパラメーターの2番目の要素にアポストロフィで囲んで完全なファイル名を指定してください。

修飾子1: ファイル

名前 リモート・システムで認識されているリモート・ファイルの名前を指定してください。リモート・システムがSystem i5の場合は、ファイル名を指定してください。このファイル名は最大10桁の長さとすることができます。リモート・システムがシステム/36である場合には、ファイル名はそのシステム/36ファイル・ラベルと同じです。このファイル名は最大8桁の長さとすることができます。リモート・システムがシステム/38である場合には、単純

(修飾されていない) ファイル名を指定することができます。このファイル名は最大10桁の長さとしてすることができます。他のすべてのリモート・システムのラベル(システム/38の修飾ファイル名を含む)は、*NONSTDの後にアポストロフィで囲んだりリモート・ファイル名を続けて使用する必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーを指定します。

注: ライブラリー名が使用されるのは、ターゲット・システムがSystem i5の場合に限ります。

*CURLIBが指定されている場合には、ファイルを見つけるために、ターゲット・システム上の呼び出されたジョブの中の現行ライブラリーが検索されます。*LIBLが指定されている場合には、ファイルを見つけるためにターゲット・システムで呼び出されたジョブのライブラリー・リストが検索されます。

要素2: 標準外ファイル'名'

文字値 System i5およびシステム/36で使用されている命名規則以外の規則を使用できるターゲット・システムの場合、修飾システム/38ファイル名を指定するとき、およびリモートのSystem i5またはシステム/38 ファイルのメンバー名を指定するときには、アクセスするリモート・ファイルの名前を255文字以内で指定してください。この名前はターゲット・システムが必要とする形式でコーディングしなければなりません。この名前は常にアポストロフィで囲まなければならないので、小文字、ブランク、ピリオド、または他の任意の特殊文字を含むことができます。

System i5,システム/38,およびシステム/36の名前は、大文字でなければならない、ブランクを使用することはできません。

ターゲット・システムがSystem i5またはシステム/38の場合には、ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名のすべてを指定できます。メンバー名を指定する場合は、完全なファイル名をアポストロフィで囲んで値*NONSTD の後に続けて示し、メンバー名は括弧で囲んで、(スペースなしで)ライブラリー名(システム/38)またはファイル名(System i5)のいずれかの直後に示す必要があります。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

分散データ管理機能(DDM)ファイルで使用されるリモート(ターゲット)システムのロケーション名またはアドレスを指定します。リモート・ロケーション名またはアドレスは、DDMファイルの作成前に定義する必要はありませんが、DDMファイルのオープン前には定義する必要があります。複数のDDMファイルで、ターゲット・システムの同じリモート・ロケーションを使用できます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***RDB** リモート・システムを判別するために、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

要素1: 名前またはアドレス

文字値 ターゲット・システムと関連したリモート・ロケーションの名前またはアドレスを指定してください。ターゲット・システムのアクセスで使用されるリモート・ロケーションは、DDMファイルが作成される時には存在している必要はありませんが、DDMファイルがオープンされる時には存在していなければなりません。リモート・ロケーションは、次のいくつかの形式を取ることができます。

- **SNA**リモート・ロケーション名(LU名)。最大8文字のリモート・ロケーション名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA (省略時の値) でなければなりません。
- ピリオドで区切ったSNAリモート・ネットワークIDおよびリモート・ロケーション名。最大8文字のリモート・ロケーション名および最大8文字のリモート・ネットワークIDを指定してください。この形式のパラメーターを使用する場合は、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA (省略時値) でなければならず、RMTNETIDパラメーターに指定する値と一致する必要があります。RMTNETIDパラメーターが指定されていない場合には、RMTLOCNAMEパラメーターと一致するようにRMTNETID値が設定されます。
- ドット10進数形式のIPアドレス。nnn.nnn.nnn.nnnの形式でインターネット・プロトコル・バージョン4アドレスを指定してください。nnnは、0-255の範囲の数値です。この形式を使用する場合、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。
- コロン付き16進形式のIPアドレス。:&ウナカホ. xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx&ウナカホ. :xxxx:xxxxの形式のインターネット・プロトコル・バージョン6アドレスを指定します。ここで、各xxxxは0からFFFFの範囲の16進数字です。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。IPバージョン6には、IPv4マップのIPv6アドレス形式 (例えば、:&ウナカホ.FFFF:1.2.3.4)があります。IPバージョン6の場合、圧縮形式のアドレスを指定できます。
- **IP**ホスト・ドメイン名。最大254文字の長さでインターネット・ホスト・ドメイン名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。

アドレス・タイプに*IPを指定した場合には、リモート・ロケーションのDDMサーバーは、TCP/IPの使用をサポートしなければならず、DEV, LCLLOCNAME, RMTNETID,およびMODEの各パラメーターは無視されます。

*IPを指定しない場合には、DDMサーバーは、SNA接続をサポートしていなければならず、PORTパラメーターは無視されます。

要素2: タイプ

***SNA** リモート・ロケーションは、システム・ネットワーク体系(SNA)のアドレス・タイプをもちます。

***IP** リモート・ロケーションは、インターネット・プロトコル(IP)のアドレス・タイプをもちます。

リモート・ロケーションの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMファイルのリモート・ロケーション情報の判別に使用するリレーショナル・データベース項目を指定します。

名前 ターゲット・システムまたはターゲット補助記憶域プール(ASP)グループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定してください。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMファイルの作成時に存在している必要はありませんが、DDMファイルのオープン時には存在している必要があります。**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに*RDBが指定されている場合には、このパラメーターは必須です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

装置 (DEV)

この分散データ管理機能(DDM)ファイルと一緒に使用されるソース・システムの通信装置名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した通信装置が使用されます。複数の装置をリモート・ロケーションと関連付けることができる場合には、システムがどの装置を使用するかを決定します。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。装置名がリモート・ロケーションには正しくない場合には、DDMファイルがオープンされると、エスケープ・メッセージが送られます。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LOC** リモート・ロケーションに指定したリモート・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

通信名 リモート・ロケーション名と一緒に使用されるローカル・ロケーション名を指定します。ローカル・ロケーション名は、リモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケーションを指示するためにだけ指定されます。

ローカル・ロケーション名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

上

モード (MODE)

リモート (ターゲット) システムと通信するためにリモート・ロケーション名と一緒に使用されるモード名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8桁の空白文字からなるモード名が使用されます。

通信名 モードの名前を指定してください。

モード名の詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションが存在するリモート・ネットワークのID (ID) を指定します。このIDは、リモート (ターゲット) システムと通信するために使用されます。

このパラメーターが指定されている場合には、**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターはこのRMTNETIDパラメーターと一致していなければなりません。RMTLOCNAMEパラメーターにネットワークIDを指定する場合は、このパラメーターと一致しなければなりません (そうでないとエラー・メッセージが出されます)。RMTLOCNAMEパラメーターにいずれのネットワークIDも指定しない場合は、このパラメーターとの矛盾が存在する可能性はありません。

RMTLOCNAMEパラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LOC** リモート・ロケーションに指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

通信名 リモート・ロケーション名と一緒に使用されるリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、リモート・ロケーションに対して特定のIDを指示するためにだけ指定されます。

リモート・ネットワークIDの詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

ポート番号 (PORT)

リモート・ファイルのあるシステムと通信するために、リモート・ロケーションで使用されるTCP/IPポートを指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*SNAが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*DRDA

446という既知のDRDAポートが使用されます。これは、System i5 DDM TCP/IPサーバーがlistenするポートです。

1から65535

使用するポート番号を指定してください。

アクセス方式 (ACCMTH)

リモート・ファイルをオープンしてそのレコードをアクセスするために使用されるDDMアクセス方式を指定します。リモート (ターゲット) システムがシステム/38またはSystem i5の場合、このパラメーターは無視されます。

*RMTFILE

指定したリモート・ファイルおよびそのファイルについてリモート (ターゲット) システムによってサポートされるアクセス方式の両方と矛盾しないアクセス方式を、ソース・システムが選択します。System i5およびシステム/38ターゲット・システム以外のシステムで、この値が使用され、ソース・システムがファイルのオープン時にアクセス方式を選択できない場合には、プログラム・ユーザーにメッセージが送られます。この場合、ファイルに対する適切なアクセス方式について、ターゲット・システムの誰かに接続した後で、CHGDDMFコマンドを使用して、このパラメーターに別の値を指定しなければなりません。

*COMBINED

DDM入出力共用アクセス方式がリモート・ファイルに対して使用されます。このアクセス方式は、キーによる結合(*KEYED *BOTH)とレコード番号による結合(*ARRIVAL *BOTH)アクセス方式の両方のファイル処理機能を結合します。レコードはキー値またはレコード番号によって選択することができます。それでキー値またはレコード番号で相対的にまたはランダムに位置を設定することができます。ファイル中に重複キーがある場合には、それらは、各ターゲット・システムのDDMアーキテクチャーの実行によって定義された順序で処理されます。

要素1: リモート・ファイル属性

*KEYED

リモート・ファイルはキー付きファイルです。

*ARRIVAL

リモート・ファイルは非キー付きファイルです。

要素2: ローカル・アクセス方式

***BOTH**

リモート・ファイルは順次とランダム両方のレコード・アクセスができます。

***RANDOM**

リモート・ファイルはランダム・レコード・アクセスができます。

***SEQUENTIAL**

リモート・ファイルは順次レコード・アクセスができます。

アクセス方式の決定

このパラメーターの2つの要素は、リモート・ファイルへのアクセスに使用されるアクセス方式を指示します。次の表に、ACCMTHパラメーターの値の組み合わせを示します。リモート・ファイル属性（左端のカラム）は、ターゲット・システム上のファイルのタイプを示します。ローカル・アクセス方式（最後の3カラム）は、ソースSystem i5プログラムがリモート・ファイルのレコードにアクセスしようとする方法を参照しています。

表 1. 図: 値のアクセス方式の組み合わせ

リモート ファイル 属性	ローカル・アクセス方式		
	*SEQUENTIAL	*RANDOM	*BOTH
*ARRIVAL	レコード番号 での相対	レコード番号 でのランダム	レコード番号 での組み合わせ
*KEYED	キーによる 相対	キーによる ランダム	キーによる 組み合わせ

レコード番号での相対アクセス方式(*ARRIVAL *SEQUENTIAL):

この方式では、レコード番号順の現行位置に対してアクセスできます。レコードの識別にレコード番号は指定されません。

レコード番号でのランダム・アクセス方式(*ARRIVAL *RANDOM):

この方式では、要求元が決定したランダム・シーケンスでレコード番号を指定して、レコードにアクセスできます。

レコード番号での組み合わせアクセス方式(*ARRIVAL *BOTH):

この方式は、レコード番号での相対およびレコード番号でのランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

キーによる相対アクセス方式(*KEYED *SEQUENTIAL):

この方式では、キー値の順序でキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードには、現行レコードからキー・シーケンスで前方または後方に移動してアクセスできます。レコードの識別にキー値は指定されません。

キーによるランダム・アクセス方式(*KEYED *RANDOM):

この方式では、ランダム・シーケンスでキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードは、ファイル内の位置でなく、そのキー値によって選択されます。

キーによる組み合わせアクセス方式(*KEYED *BOTH):

この方式は、キーによる相対およびキーによるランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

- *NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。
- *YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

保護された会話 (PTCCNV)

DDMファイルに対して開始されるDDM会話が保護会話であるかどうかを指定します。保護会話とは、障害が起こった場合でもリモート・システムで行われた更新が他のリモート資源またはローカル資源に対する更新と同期することを保証するために、2フェーズ・コミット・プロトコルを使用する会話のことです。DDMで2フェーズ・コミットメント制御を使用するには、保護会話が必要です。DDMによる2フェーズ・コミットメント制御の使用の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「分散データベース・プログラミング」トピック・コレクションを参照のこと。にあります。リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、PTCCNV(*NO)を指定しなければなりません。

- *NO** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話ではありません。
- *YES** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話です。このDDMファイルで2フェーズ・コミットメント制御を使用することができます。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

DDMファイルがプログラムによってオープンされる時に、リモート・ファイルのレコード様式のレベルIDを検査するかどうかを指定します。検査される場合には、プログラム内のレコード様式IDがリモート・ファイルのものと一致していなければなりません。一致していない場合には、エラー・メッセージが要求元プログラムに送られ、DDMファイルも関連したリモート・ファイルもオープンされません。オープン中にエラーがあったファイルは、自動的にクローズします。このパラメーターは、リモート・ファイルをオープンする前にデータベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドによって一時変更することができます。

***RMTFILE**

DDMファイルのオープン時に、リモート・ファイル (RMTFILEパラメーターで識別される) のレコード様式のレベルIDが検査されます。

ターゲット・システムがSystem i5でなくシステム/38でない場合、ソースSystem i5は、リモート・ファイルのレコード長とそこで使用されるキー・フィールドに基づいてレベル検査値を作成します。作成された値はプログラム中の値と比較され、それらが一致しなければ、リモート・ファイルをオープンすることができません。これにより、間違ったファイルが選択される危険性が減ります。

注: System i5またはシステム/38以外のシステムでこれを実行する前に、DDMファイルを使用してプログラムをコンパイル（または再コンパイル）する必要があります。コンパイル中に、DDMファイルを使用してターゲット・システムとの通信が確立され、ターゲット・システムからリモート・ファイルの属性が取得されて、レベルIDの値が生成されます。そして、後からのレベル検査のためにそれらがコンパイル済みプログラムに組み込まれます。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

注: ターゲット・システムでは、リモート・ファイルにアクセスするために必要な権限も、ターゲット・システムで開始されたジョブのユーザー・プロファイルを使用して検査されます。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、オブジェクトの権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、その新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 同じ名前およびライブラリーの新しいDDMファイルが正常に作成された場合には、既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しいDDMファイルを作成することはできません。

上

例

次の例では、DDMファイルの作成について説明します。

例1: 別のSystem i5でファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(SOURCE/SALES) RMTFILE(REMOTE/SALES)
        RMTLOCNAME(NEWYORK)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのSOURCEライブラリーに保管します。このDDMファイルは、NEWYORKという名前のリモート・ロケーションを使用して、ニューヨークのSystem i5のREMOTEライブラリーに保管されているSALESという名前のリモート・ファイルにアクセスします。

例2: 別のIBM System i5でファイル・メンバーにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(SOURCE/SALES) RMTLOCNAME(NEWYORK)
        RMTFILE(*NONSTD 'REMOTE/SALES(APRIL)')
```

このコマンドは、前の例と同じファイルを作成します。ただし、今度はリモートSALESファイルの特定のメンバーにアクセスします。そのメンバーはAPRILという名前です。

例3: システム/38のファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTLOCNAME(CHICAGO)
        RMTFILE(*NONSTD 'PAYROLL.REMOTE')
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリーOTHERに保管します。システム/38のライブラリーREMOTEのPAYROLLという名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDMファイルによってリモート・ロケーションCHICAGOが使用されます。

例4: システム/38でファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTFILE(PAYROLL)
        RMTLOCNAME(DENVER) LVLCHK(*NO)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリーOTHERに保管します。デンバーのシステム/38のPAYROLLという名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDMファイルによってリモート・ロケーションDENVERが使用されます。PAYROLLファイルとそれにアクセスするアプリケーション・プログラムの間で、レベル検査は実行されません。ACCMTHパラメーターが指定されていないので、ターゲット・システムのアクセス方式は、DDMファイルがオープンされてリモート・ファイルにアクセスするときにソース・システムによって選択されます。

例5: TCP/IPを介してファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTFILE(PAYROLL)
RMTLOCNAME(ROCHESTER.XYZ.COM *IP) PORT(*DRDA)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリー OTHERに保管します。 ROCHESTER.XYZ.COMのドメイン名を持つTCP/IPホストでPAYROLL という名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDM ファイルによってリモート・ロケーション ROCHESTER.XYZ.COM が使用されます。このホストは標準DRDAポート446 でLISTENします。 (*DRDAは省略時のポートであるため、この場合には、PORTパラメーターは実際には必要ありません。)

例6:ドット付き10進IPバージョン4アドレスと数値ポート番号を使用してTCP/IP経由でファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTFILE(PAYROLL)
RMTLOCNAME('9.5.36.17' *IP) PORT(5021)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリー OTHERに保管します。 9.5.36.17のIPアドレスを持つTCP/IPホストでPAYROLLという名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDMファイルによってリモート・ロケーション9.5.36.17が使用されます。このホストはポート5021をLISTENします。

例7:コロン付き16進IPバージョン6アドレスと数値ポート番号を使用してTCP/IP経由でファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTFILE(PAYROLL)
RMTLOCNAME('2001:DB8:0:B33D:8785:0:1734:F51C'
*IP) PORT(32)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリー OTHERに保管します。リモート・ロケーション2001:DB8:0:B33D:8785:&ウナカホ. 0:1734:F51Cは、IPアドレスが2001:DB8:0:B33D:8785:&ウナカホ. 0:1734:F51CのTCP/IPホストでPAYROLLという名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDMファイルで使用されます。このホストはポート32をLISTENします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

装置記述の作成(APPC) (CRTDEVAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC装置記述の作成(CRTDEVAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
MODE	モード	値 (最大 14 回の繰り返し): 通信名, *NETATR	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *CTLD, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前, <u>QSYSOPR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
APPN	APPN可能	*YES, *NO	オプション
SNGSSN	単一セッション	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 単一セッション可能	*YES	
	要素 2: 会話の数	1-512, <u>10</u>	
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション	*NO, *YES	オプション
PREESTSSN	事前確立セッション	*NO, *YES	オプション
LOCPWD	ロケーション・パスワード	文字値, *NONE	オプション
SECURELOC	保護ロケーション	*NO, *YES, *VFYENCPWD	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FF, <u>00</u>	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

リモート装置に対してローカル・システムを識別する固有のロケーション名を指定します。この名前をリモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに指定された名前と同じにすることはできません。リモート・ネットワークIDおよびローカル・ネットワークIDパラメーターで指定された値が同じである場合には、LCLLOCNAMEパラメーターとRMTLOCNAMEパラメーターに指定された名前の組み合わせは、同じ制御装置に接続されたそれぞれの装置記述に対して固有でなければなりません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

省略時のローカル・ロケーション名を判別するためには、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用してください。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークの名前を指定します。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

*NONE

リモート・ネットワーク名はX'40'です。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークのIDを指定してください。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

モード (MODE)

この装置のセッションを定義するモード名を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

モード名

この装置が使用するモード記述の名前を指定してください。モード名は、CPSVCMG または SNASVCMG であってはなりません。これらの名前はシステムで使用するために予約されます。

モード名を最大14個指定してください。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*CTLD

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL**

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

APPN可能 (APPN)

この装置が拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)用であるかどうかを指定します。

***YES**

この装置はAPPN用です。

***NO**

この装置はAPPN用ではありません。

上

単一セッション (SNGSSN)

リモート・ロケーションで単一または多重のセッションを使用するかどうかを指定します。単一セッションが使用される場合には、会話の数を指定しなければなりません。

単一値

***NO**

複数のセッションが使用されます。

要素1:単一セッション可能

***YES**

単一セッションが使用されます。

要素2:会話数

10

省略時の会話の数は10です。

会話数

会話の数として1から512の範囲内で有効な値を指定してください。

上

ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)

セッションがローカル制御セッションであるかどうかを指定します。

***NO**

単一セッションはリモートで制御されます。

***YES**

単一セッションはローカルで制御されます。

上

事前確立セッション (PREESTSSN)

リモート・システムとの接続が確立される時に、セッションが確立されるかどうかを指定します。

***NO**

接続時にセッションは自動的に確立されません。

***YES**

接続時にセッションが自動的に確立されます。

上

ロケーション・パスワード (LOCPWD)

接続の妥当性を検査するために使用するパスワードを指定します。

*NONE

パスワードはありません。

ロケーション・パスワード

パスワードを16進文字のストリングとして指定してください。

上

保護ロケーション (SECURELOC)

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

*NO

リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

*YES

リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査することができます。リモート・システムでは、ユーザーIDは機密保護管理者から入手されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

*VFYENCPWD

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードは機密保護管理者から入手されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがV3R2M0オペレーティング・システム以降を使用している場合にのみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない場合には、セッション確立は許可されないこととなります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証(VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話はSECURITY(NONE)として取り扱われることとなります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

指定可能な値は00からFFまでです。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVAPPC DEVD(APPC1) LOCADR(00) RMTLOCNAME(CHICAGO)
           CTL(CTLAPPC01) SNGSSN(*YES)
```

このコマンドは、APPC1という名前のAPPC通信装置の装置記述を作成します。この装置はX'00'というロケーション・アドレスをもち、シカゴにあり、制御装置CTLAPPC01に接続されています。この装置は、一度に1つのセッションに制限されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2654

装置記述&1が作成されたが、使用できないと考えられる。

CPF34D7

エラーのために&2中の出力待ち行列&1が変更されなかった。

上

装置記述の作成（非同期）(CRTDEVASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期装置記述の作成(CRTDEVASC)コマンドは、非同期(ASYNC)装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *NONE	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

*NONE

リモート・ロケーション名はありません。この装置は任意のリモート・ロケーションを表すことができます。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーション名, リモート・システム名, またはIPアドレスを指定してください。

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVASC DEVD(ASC001) RMTLOCNAME(NYC) CTL(CTLASCNYC)
```

このコマンドは、非同期通信装置を作成します。この装置はニューヨーク市にあって、制御装置CTLASCNYCに接続されています。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成(ASP) (CRTDEVASP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述作成(ASP) (CRTDEVASP)コマンドは、補助記憶域プール(ASP)装置の装置記述を作成します。

独立ディスク・プールの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, キー, 定位置 2
RDB	リレーショナル・データベース	名前, *GEN	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

上

資源名 (RSRCNAME)

ディスクの集合が認識される補助記憶域プール(ASP)を識別する資源名を指定します。

資源名 ディスクの集合が認識されるASPを識別する名前を指定してください。

上

リレーショナル・データベース (RDB)

補助記憶域プール(ASP)装置と関連するリレーショナル・データベース(RDB)名を指定します。

***GEN** 装置を正常にオンに変更すると、オペレーティング・システムによってRDB名が生成されます。装置がASPグループの1次ASPである場合は、RDB名は装置名と同じになります。ASP装置が2次ASPの場合、あるいはユーザー定義のファイル・システム(UDFS) ASPの場合は、RDB名は空白に設定されます。

リレーショナル・データベース名

ASP装置と関連するRDB名を指定してください。ASP装置記述が2次ASPまたはUDFS ASPの場合には、指定されたRDB名は使用されません。ASP装置記述がASPグループの1次ASPの場合に、ASPグループをオンに変更すると、指定されたRDB名はこのシステムとこのシステムに接続する他のシステム上でリレーショナル・データベースが認識されている名前になります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1: 独立ASP装置の作成

```
CRTDEVASP  DEVD(COMPANY1)  RSRNAME(COMPANY1)
```

このコマンドは、COMPANY1という名前の独立ASPの装置記述を作成します。装置記述の資源名もCOMPANY1です。独立ASP COMPANY1の操作上のメッセージは、ライブラリーQSYS中のメッセージ待ち行列QSYSOPRに送られます。

例2: 1次ASP装置の作成

```
CRTDEVASP  DEVD(WAREHOUSE2)  RSRNAME(WAREHOUSE2)
           RDB(WAREHOUSE_NUMBER_2)  MSGQ(INVENTORY/WH2)
```

このコマンドは、WAREHOUSE2という名前の1次ASPの装置記述を作成します。装置記述の資源名もWAREHOUSE2です。この1次ASP装置がオンに構成変更される時にASPグループと関連付けられるリレー

シヨナル・データベース(RDB)名はWAREHOUSE_NUMBER_2です。独立ASP WAREHOUSE2の操作上のメッセージはライブラリーINVENTORY中のメッセージ待ち行列WH2に送られます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成(BSC) (CRTDEVBS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC装置記述の作成(CRTDEVBS)コマンドにより、2進データ同期通信(BSC) 装置の装置記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
CNN	接続タイプ	*PP, *MPTRIB	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*BSCEL, *RJE, *EML, *BSC38, *RPGT	オプション
CTNWIN	回線争奪解消による回線獲得側	*SEC, *PRI	オプション
BLOCK	ブロック化のタイプ	*NONE, *ITB, *IRS, *NOSEP, *USER, *SEP	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SEPCHAR	区切り文字	00, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, <u>1E</u> , 20, 21, 22, 23, 24, 25, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2E, 2F, 30, 31, 33, 34, 35, 36, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション
RMTBSCSEL	リモートBSCSEL	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RCDLEN	レコード長	1-8192, <u>512</u>	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-8192, <u>512</u>	オプション
TRNSPY	透過モード伝送	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DTACPR	データの圧縮と圧縮解除	<u>*NO</u> , *YES	オプション
TRUNC	後書きブランクの切り捨て	<u>*NO</u> , *YES	オプション
GRPSEP	グループ区切りのタイプ	<u>*EOT</u> , *OFCSYS, *DEV3740	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	<u>3278</u> , 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	<u>*UPPER</u> , *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	<u>*NO</u> , *YES	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, <u>*ANY</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

指定可能な値は00からFFまでです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

接続タイプ (CNN)

この装置の接続タイプを指定します。

*PP

POINT-TO-POINT接続タイプが使用されます。

*MPTRIB

マルチポイント従属接続タイプが使用されます。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*BSCCL

アプリケーションは2進データ同期通信同等リンク(BSCCL)です。このパラメーターを指定すると、この装置がサポートする他のBSCシステムまたは装置と通信することができます。

*RJE

アプリケーションはBSCリモート・ジョブ入力(RJE)です。

*EML

アプリケーション・プログラムは、システム/38環境によって提供される3270エミュレーション・ユーティリティまたは3270プログラム・インターフェース・サポートを用いた3270エミュレーションです。

*BSC38

アプリケーション・プログラムは、システム/38環境プログラムです。このパラメーターは、アプリケーション・プログラムがシステム/38環境で使用されるBSC装置ファイルまたは混合装置ファイルを使用する時に、他のBSCシステムまたは装置と通信する装置に指定されます。

*RPGT

このパラメーターは、システム/36環境のRPG IIリモート通信(BSCA)を使用するアプリケーション・プログラムに指定されます。

注: また、アプリケーションがICFサポートを使用する時には、この値も指定されますが、呼び出し機能またはプログラム開始要求機能は不要です。この値が指定された場合には、リモートBSCCL (RMTBSCCL)パラメーターの値は自動的に*NOに設定されます。アプリケーションがICFを使用す

る場合には、この値を使用しようとする前に、呼び出しまたはプログラム開始要求サポートが必要ないことを確認してください。そうでないと、予期しない結果になることがあります。

上

回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)

回線争奪が発生した時点で制御を得るBSC端末を指定します。

*SEC

ローカル・システムが2次端末であることを指定します。これは、回線争奪が起こった場合に他の端末に譲歩します。

*PRI

ローカル・システムは1次端末であることを指定します。回線争奪が発生した場合には、この端末が制御を取ります。

上

ブロック化のタイプ (BLOCK)

システムまたはユーティリティーが伝送されたレコードをブロック化および非ブロック化するかどうかを指定します。

*NONE

システムは、ブロック化または非ブロック化を行いません。

*ITB

レコードは、中間テキスト・ブロック(ITB)制御文字のロケーションに基づいて、ブロック化または非ブロック化されます。

*IRS

レコードは、レコード間分離(IRS)文字のロケーションに基づいてブロック化または非ブロック化されます。

*NOSEP

装置との間を送受信される伝送ブロック内にはレコード分離文字はありません。システムは、DDS様式使用に指定された通りに、固定レコード長によりレコードのブロック化および非ブロック化を行いません。

*USER

ユーザー・プログラムは、レコード分離文字、BSCフレーム指示文字、透過伝送文字、およびその他のすべての文字を含めて、すべての制御文字を提供します。

***SEP**

レコードは、ユーザー指定のレコード分離文字のロケーションに基づいてブロック化または非ブロック化されます。

上

区切り文字 (SEPCHAR)

固有の1バイトのレコード分離文字を指定します。

有効な値の範囲は00からFFです。BSC制御文字は使用できません。

上

リモートBSC (RMTBSC)

リモート・システムとのBSCセッションのタイプを指定します。

***NO**

リモート・システムまたは装置がBSCコマンドを認識できません。ICF操作および戻りコードが使用されます。

***YES**

リモート・システムがBSC開始コマンドおよび終了コマンド、ならびにBSC オンライン・メッセージを認識することができます。

上

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

有効な値の範囲は1から32767です。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

上

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメータ)を超えてはいけません。

512

レコード長は512です。

注: このパラメータが有効となるのは、APPTYPE(*BSCSEL)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

ブロック長

送信されるレコードの最大ブロック長 (バイト数) を指定します。この値は、少なくとも送信される最大レコード・サイズでなければなりません。有効な値の範囲は1から32767です。

上

透過モード伝送 (TRNSPY)

ブロック化されたレコードの送信時に、テキスト透過伝送機能を使用するかどうかを指定します。この機能により、256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することができます。パックまたは2進データ・フィールドを伝送する場合には、この機能を使用しなければなりません。

***NO**

テキスト透過伝送機能は使用されません。

***YES**

256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することのできるテキスト透過伝送機能が使用されます。

上

データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)

データ圧縮を実行するかどうかを指定します。

注: TRNSPY(*YES)またはTRUNC(*YES)を指定した場合には、DTACPR(*YES)を指定することはできません。このパラメータが有効となるのは、APPTYPE(*BSCSEL)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

***NO**

データの圧縮または圧縮解除は行われません。

***YES**

データは出力の場合には圧縮され、入力の場合には圧縮解除されます。

上

後書きブランクの切り捨て (TRUNC)

後書きブランクを出力レコードから除去するかどうかを指定します。

*NO

後書きブランクは出力レコードから除去されません。

*YES

後書きブランクは出力レコードから除去されます。

上

グループ区切りのタイプ (GRPSEP)

データ・セットおよび文書などのデータのグループに対する区切り文字を指定します。

*EOT

伝送終結(EOT)制御文字が使用されます。

*OFCSYS

テキスト終結(ETX)制御文字を用いた伝送ブロック終了が使用されます。

*DEV3740

ヌル・レコード(STX ETX)が使用されます。

上

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値(要素)のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

3278

この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。

3284

この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3286

この装置は、3286印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3287

この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3288

この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3289

この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

上

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3278表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

***UPPER**

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

***LOWER**

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

上

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

***NO**

3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

***YES**

3270エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0から9の数字、記号+-、.、およびブランクが入れられます。

上

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を実の表示装置または印刷装置と関連付けます。装置アドレスは、そのワークステーション専用予約されます。装置が指定されないか、あるいは*ANYが指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

***ANY**

ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVBSC  DEVD(BSC001)  LOCADR(27)  RMTLOCNAME(BSC001LC)
            CTL(CTLBSC001)  CNN(*PP)  APPTYPE(*RJE)
```

このコマンドは、BSC001という名前の2進データ同期通信装置を作成します。そのアドレスはX'27'で、制御装置CTLBSC001に接続されています。装置の接続タイプは*PPで、RJEアプリケーションを使用します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成（暗号）(CRTDEVCRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

装置記述（暗号）作成(CRTDEVCRP)コマンドは、暗号装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE	必須, キー, 定位置 2
APPTYPE	適用業務タイプ	*CCA, *CCAUDX, *NONE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*NO, *YES	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PKAKEYFILE	PKAキー保管ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PKAキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DESKEYFILE	DESキー保管ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: DESキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

上

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

***NONE**

資源名は指定されません。 装置をオンに変更する前に、資源名を提供しなければなりません。

資源名

システム上の暗号装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を判別するためには、TYPE(*CRP)を指定してハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

暗号装置でセキュア・コンピューティング環境の内側で実行するアプリケーションを指定します。

***CCA**

暗号装置のフラッシュ・メモリーは、共通暗号アーキテクチャー(CCA)アプリケーションによって初期化されます。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

***CCAUDX**

暗号装置のフラッシュ・メモリーが初期化されるのは、システムが装置のフラッシュ・メモリー内にCCAアプリケーションまたはCCAユーザー定義拡張(UDX)を検出していない場合だけです。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

***NONE**

暗号装置は、フラッシュ・メモリー・アプリケーションをサポートしません。

注: この値が有効なのは、2058装置タイプの場合だけです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

***SYSVAL**

メッセージは、システム値QCFGMSGQで指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL**

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)

PKA (共通キー・アルゴリズム) キーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

***NONE**

省略時のPKA鍵データベースは使用されません。

その他の値

PKA鍵保管ファイル名

省略時のPKA鍵データベースの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)

この装置に使用されるDES (データ暗号化標準) が入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

***NONE**

省略時のDES鍵データベースは使用されません。

その他の値

DES鍵保管ファイル名

省略時のDES鍵データベースの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

CRTDEVCRP DEVD(CRP01) RSRNAME(CRP01)

このコマンドは、CRP01という名前の暗号装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成（表示装置）(CRTDEV DSP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置記述の作成(CRTDEV DSP)コマンドにより、表示装置の装置記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*LCL, *RMT, *VRT, *SNPT	必須, 定位置 2
TYPE	装置タイプ	3101, 3151, 3161, 3162, 3163, 3164, 3179, 3180, 3196, 3197, 3277, 3278, 3279, 3476, 3477, 3486, 3487, 5150, 5251, 5291, 5292, 5555, D220, T910, T925, T955, V100, V220, W30, W50, W60, *CALC, *NVT	必須, 定位置 3
MODEL	装置型式	0, 1, 2, 4, 5, 11, 3, 12, 23, 31, 32, 41, *ASCII, *DHCF, A1, A2, B1, B2, BA, B01, C01, E01, F01, G01, G02, C1, C2, D1, D2, EA, FA, FC, FD, EC, FE, FG, FW, HC, HG, HA, HW, W1, W2, 0000, 0001, 0002, 0004, 0005, 0011, 0003, 0012, 0023, 0031, 0032, 0041	必須, 定位置 4
EMLDEV	エミュレートされる平衡型装置	3196A2, 3197D2, *TYPE	オプション
PORT	ポート番号	0-17	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6	オプション
SHRSSNBR	共用セッション番号	0, 1, 2, 3	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE	オプション
EMLASCII	ASCII装置のエミュレート	*NO, *YES	オプション
ATTACH	物理的接続	*DIRECT, *PTT, *MODEM, *WIRE3, *WIRE4, *EIA422	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
KBDTYPE	キーボード言語タイプ	<u>*SYSVAL</u> , AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CSB, CSE, CYB, DMB, DME, DMI, DMM, ESB, FAB, FAE, FAI, FAM, FNB, FNE, FNI, FNM, FQB, FQI, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICE, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEI, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LAB, LAE, LTB, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEE, NEI, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PLB, PLE, PKB, PKE, PRB, PRE, PRI, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSE, SSM, SSI, SWB, SWE, SWI, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAB, UAE, UKB, UKE, UKI, UKM, USB, USE, USI, USM, VNB, VNE, YGI, YGM	オプション
DROP	サインオフ時の回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWBLN	カーソル明滅可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUXDEV	補助装置	値 (最大 31 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 補助装置のタイプ	6180, 6182, 6184, 6185, 6186M1, 6186M2, 7371, 7372	
	要素 2: 補助装置アドレス	1-31	
PRINTER	印刷装置	名前	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	<u>*CALC</u> , 241, 245, 247, 256	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	<u>*NONE</u> , *NRF, *CTLSSN, *DEVINIT, *APPINIT	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>170</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, <u>*ATTACH</u> , *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, <u>*NONE</u>	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, <u>*NONE</u>	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
LINESPEED	回線速度	<u>*TYPE</u> , *CALC, 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	<u>*TYPE</u> , *CALC, 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	<u>*TYPE</u> , *CALC, *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
STOPBITS	停止ビット	*TYPE, 1, 2	オプション
MAXOUT	最大未処理フレーム数	1-7, 7	オプション
IDLTMTR	アイドル・タイマー	10-250, 40	オプション
NRMPOLLTMR	NRMポーリング・タイマー	2-100, 3	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	5-64, 15	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイント	4141-FFFE	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *KBDTYPE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	
PRTDEV	印刷装置	名前, *SYSVAL	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PRTFILE	印刷出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷出力ファイル	名前, QSYSPRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置クラス (DEVCLS)

この表示装置または印刷装置の装置クラスを指定します。

*LCL

この装置記述はローカル・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

*RMT

この装置記述はリモート・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

*VRT

この装置記述は仮想表示装置用です。仮想表示装置を通して、ユーザーはリモート・システムからユーザー自身のシステムをアクセス（パススルー）することができます。仮想表示装置によって、リモート・システムまたはパーソナル・コンピューターがユーザー自身のシステムのインターフェースをエミュレートすることができます。

*SNPT

この装置記述は、SNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの表示装置を接続することができます。

注: ASCII装置は装置クラス*LCLで構成しなければなりません（モデムを介して接続するASCII装置を含む）。ASCII表示装置を仮想装置として使用するためには、ASCII表示装置をエミュレートする平衡型表示装置タイプで仮想装置記述を作成します（例えば、ASCII表示装置の場合は装置タイプ3196の仮想装置）。

上

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

- 3179
- 3180
- 3196
- 3197
- 3277
- 3278
- 3279
- 3476
- 3477
- 3486
- 3487
- 5150 (TDLCリンクによって接続する任意の表示装置)

- 5251
- 5291
- 5292
- 5555 (2バイト文字セット)
- *NVT (ネットワーク仮想端末)

ASCII装置には次のタイプ・コードが有効です。

- 3101
- 3151
- 3161
- 3162
- 3163
- 3164
- *CALC

注: *CALCを指定することにより、ASCII装置でポートの共用が可能になります。ASCIIポートの共用により、異なる装置タイプが異なる物理パラメーターを使用して、ポートを手操作で再構成しなくても（さまざまな時点で）同じポートを使用することができます。このパラメーターに*CALCを指定した場合には、このポートに接続されている表示装置の装置タイプをシステムが自動的に判断します。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003)またはASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

次のものは、DATA GENERAL, TELEVIDEO, DEC, WYSEの登録商標であり、ASCII装置に対して有効です。

タイプ 説明

D220	DATA GENERAL DASHER D220
T910	TELEVIDEO 910
T925	TELEVIDEO 925
T955	TELEVIDEO 955
V100	DEC VT-100
V220	DEC VT-220
W30	WYSE WY30
W50	WYSE WY50
W60	WYSE WY60

上

装置型式 (MODEL)

この記述の装置の型式番号を指定します。

これは必須パラメーターです。

各装置タイプの装置型式の有効な値は次の通りです。

タイプ 型式

3179	2
3180	2
3196	A1, A2, B1, B2
3197	C1, C2, D1, D2, W1, W2
3277	0, *DHCF
3278	0, 4, 5, *DHCF
3279	0, 5, *DHCF
3476	EA, EC
3477	FA, FC, FD, FE, FG, FW
3486	BA
3487	HA, HC, HG, HW
5150	1, 2, 3, 4, A1
5251	11
5291	1, 2
5292	1, 2
5555	B01, E01, C01, F01, G01, G02
*NVT	0000

ASCII装置の場合のみ。

*ASCII

この表示装置に対して型式番号が容易に判別できない場合には、この値を指定してください。システムが型式番号を割り当てます（装置に型式番号がある場合）。システムによって割り当てられた型式番号が使用する表示装置の実際の型式番号でない場合には、次の表から*ASCIIによって割り当てられる型式番号を判別してください。可能な場合には、使用する表示装置の型式番号をユーザーが判別し、その番号を入力してください。

使用できる選択項目は次の通りです。

タイプ 型式

3101	23 (*ASCII)
3151	11 (*ASCII), 31, 41
3161	11 (*ASCII), 12

3162 11 (*ASCII), 12, 31, 32

3163 11 (*ASCII), 12

3164 11 (*ASCII), 12

***CALC**

(*ASCII)

<d>

次のものは、DATA GENERAL、TELEVIDEO、DEC、WYSEの登録商標であり、ASCII装置に対して有効です。

タイプ 説明

D220 DATA GENERAL DASHER D220

T910 TELEVIDEO 910

T925 TELEVIDEO 925

T955 TELEVIDEO 955

V100 DEC VT-100

V220 DEC VT-220

W30 WYSE WY30

W50 WYSE WY50

W60 WYSE WY60

上

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

IBM 3151またはIBM 3162表示装置によって使用される平衡型装置エミュレーションを指定します。使用可能なエミュレーションは3196A2 (80桁画面を使用できる) および3197D2 (132桁画面を使用できる) です。

注: IBM 3151 - 31/41型の3197D2エミュレーションでは、このパラメーターを適切にセットした上で、さらに「拡張用のカートリッジ」(部品番号81X5575)の導入が必要です。

*TYPE

このパラメーターの省略時の値は3196A2です。

3196A2

80桁画面が使用されます。

3197D2

132桁画面が使用されます。

上

ポート番号 (PORT)

ローカル装置のポート番号を指定します。

平衡型装置の場合：指定できる値の範囲は0から7です。

ASCII装置の場合：指定できる値の範囲は0から17で、この装置が接続されるASCIIワークステーションのポートを示します。12ポート拡張機構がない場合には、ポート0から5が有効です。12ポート拡張機構がある場合には、ポート6から17が追加されます。

上

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0から6です。

上

共用セッション番号 (SHRSSNBR)

平衡型表示装置の共用セッション番号を指定します。このパラメーターが適用されるのは、3486および3487構成済み装置タイプだけです。

注：共用セッション・アドレスを付けることができるのは、2661, 6050, 9146,または915Aローカル・ワークステーション制御装置か、あるいは5494リモート・ワークステーション制御装置の場合だけであることを表示します。

0

共用セッション番号は0です。

1

共用セッション番号は1です。

2

共用セッション番号は2です。

3

共用セッション番号は3です。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00からFEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

5251 00, 02-09

5294 00-1B

5394 00-14

5494 00-37

3174 02-41

3274 02-41

SNAホスト

01-FE

4701 02-FE

4702 02-FE

4680 02-54

4684 02-FE

FBSS 02-FE

上

ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)

ASCII装置の場合には、構成された装置がサポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター) をエミュレートしているかどうかを指定します。ASCII装置が構成されている時には、次のパラメーターの選択項目はその装置の有効範囲に制限されます。

- ATTACH (物理的接続機構)
- LINESPEED (回線速度)
- WORDLEN (語の長さ)
- PARITY (パリティのタイプ)
- STOPBITS (停止ビットの数)

サポートされるASCII装置タイプをエミュレートしているASCII装置の場合には、これらの制約事項は適用されないことがあります (エミュレートを行う装置は、エミュレートされるASCII装置より、これらのパラメーターに対するより広い範囲の選択項目をもっている場合があります)。EMLASCII(*YES)が指定された時には、これらのパラメーターには制約事項はありません。ユーザーはこれらのパラメーターに、範囲いっぱいの値を入力することができますが、同時に、選択された値が構成中の装置に対して有効であることを確認する責任があります。

***NO**

構成しようとしている装置が**装置タイプ (TYPE)**パラメーターのサポートされているASCII装置タイプの1つであり、物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターの装置特有の制約事項が適用されることを示します。

***YES**

構成される装置が、サポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター)の1つをエミュレートしていること、および物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターに対して装置固有の制約事項が適用されないことを指定します。

上

物理的接続 (ATTACH)

ASCII表示装置の場合に、ASCIIワークステーション制御機構に対する表示装置の物理的接続機構を指定します。

***EIA422**

EIA-422接続機構を使用します(3101, 3151, 3161, 3162, 3163,および3164の場合にのみ有効)。

***DIRECT**

EIA-232直接接続機構を指定します。

***MODEM**

EIA-232モデム接続機構を指定します。

***PTT**

郵便電話電信(PTT)接続機構を指定します。

***WIRE3**

EIA-232 3線接続機構を指定します。

***WIRE4**

EIA-232 4線接続機構を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

注: コンソールまたは代替コンソール記述で指定された時には、このパラメーターは無視されます。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

キーボード言語タイプ (KBDTYPE)

この表示装置の国別キーボード言語IDを指定します。

注:

1. DEVCLS(*RMT)が指定されていて、TYPE(3277)、TYPE(3278)、またはTYPE(3279)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGI、ALI、BGB、BLI、CAI、CSB、DMI、FNI、FAI、HNB、IRB、ITI、JPB、MKB、NWI、PLB、PRI、RMB、RUB、SKB、SPI、SQB、SSI、SWI、TRB、USB、USI、またはYGI。その他の場合には、DEVCLS(*RMT)が指定されている時は、このパラメーターは無効です。
2. TYPE(3486)またはTYPE(3487)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGB、AGI、ALI、BGB、BLI、CAB、CAI、CLB、CSB、DMB、DMI、FAB、FAI、FNB、FNI、GNB (またはGKB)、HNB、ICB、ICI、IRB、ITB、ITI、JPB、KAB、MKB、NCB、NEB、NEI、NWB、PLB、PRB、PRI、RMB、RUB、SFI、SGI、SKB、SPB、SPI、SQB、SSB、SSI、SWB、SWI、TKB、TRB、UKB、UKI、USB、USI、またはYGI。
3. このパラメーターは、DEVCLS(*LCL)とTYPE(5150)の組み合わせの場合には任意指定となります。

*SYSVAL

システムにQKBDTYPEシステム値を使用するよう命令します。

キーボード言語タイプ

この表示装置の3文字の国別ID (EBCDICおよびASCIIに使用される) を指定してください。

このパラメーターの適切な値を確認するか、あるいは指定された言語で使用できるASCII表示装置を判別するためには、次の2つのテーブルを使用することができます。

- キーボード・マッピング・テーブルには、有効な国別ID、各IDによって表される言語、および各言語のASCII装置グループ（適用できる場合）が表示されます。
- ASCII表示装置および装置グループ・テーブルには、有効な表示装置とそれに関連したASCII装置グループが表示されます。

例えば、ユーザーが3101表示装置を作成したいものとし、ASCII表示装置および装置グループ・テーブルは、3101表示装置がASCII装置グループAをサポートしていることを示しています。キーボード・マッピング・テーブルは、装置グループAで使用できる有効な言語IDにAGB, AGI, CAB, CAI, FAB, FAI, ITB, ITI, UKB, UKI, USB, およびUSIが含まれていることを示しています。

次のキーボードは、カスタマイズしているオブジェクトも使用される場合にのみASCII表示装置によって指定することができます。ALI, BGB, CSB, ESB, HNB, LTB, LVB, MKB, PKB, PLB, RMB, RUB, SKB, SQB, TRB, UAB, およびYGI。

ID	言語 (国) - ASCII装置グループ
ALI	アルバニア
ALM	アルバニア・ユーロ通貨
CLB	アラビア語X/BASIC - D*
CLE	アラブX/BASICユーロ通貨
AGB	オーストリア/ドイツ- A, B
AGE	オーストリア/ドイツ・ユーロ通貨
AGI	オーストリア/ドイツ各国間- A, B
AGM	オーストリア/ドイツ各国間ユーロ通貨
BLI	ベルギー各国間- B
BLM	ベルギー各国間ユーロ通貨
BRB	ブラジル・ポルトガル語
BRE	ブラジル・ポルトガル語ユーロ通貨
BGB	ブルガリア
BGE	ブルガリア・ユーロ通貨
CAB	カナダ・フランス語- A, B
CAE	カナダ・フランス語ユーロ通貨
CAI	カナダ・フランス語各国間- A, B
CAM	カナダ・フランス語各国間ユーロ通貨
SPB	カタロニア語
RCB	中国語 (簡体字)

TAB 中国語（繁体字）
YGI クロアチア
YGM クロアチア・ユーロ通貨
CYB キリル
CSB チェコ共和国
CSE チェコ共和国ユーロ通貨
DMB デンマーク- B
DME デンマーク・ユーロ通貨
DMI デンマーク各国間- B
DMM デンマーク各国間ユーロ通貨
ESB エストニア
FNB フィンランド／スウェーデン- B
FNE フィンランド／スウェーデン・ユーロ通貨
FNI フィンランド／スウェーデン各国間- B
FNM フィンランド／スウェーデン各国間ユーロ通貨
FAB フランス(AZERTY) - A, B
FAE フランス(AZERTY)ユーロ通貨
FAI フランス(AZERTY)各国間- A, B
FAM フランス(AZERTY)各国間ユーロ通貨
FQB フランス(QWERTY)
FQI フランス(QWERTY)国際
GNB ギリシャ語（注を参照）
GNE ギリシャ語ユーロ通貨
NCB ヘブライ語- D*
NCE ヘブライ語ユーロ通貨
HIB ヒンディ語
HNB ハンガリー
HNE ハンガリー・ユーロ通貨
ICB アイスランド
ICE アイスランド・ユーロ通貨
ICI アイスランド各国間
ICM アイスランド各国間ユーロ通貨
INB 国際
INI 国際各国間
IRB イラン（ペルシア語）
ITB イタリア- A, B

ITE イタリア・ユーロ通貨
ITI イタリア各国間- A, B
ITM イタリア各国間ユーロ通貨
JEB 日本（英語）
JEI 日本（英語）各国間
JKB 日本語漢字
JPB 日本ラテン語拡張
JPE 日本ラテン語拡張ユーロ通貨
JUB 日本米国英語基本
KAB 日本（カタカナ）
KOB 韓国
LAB ラオス人民民主共和国
LAE ラオス人民民主主義共和国ユーロ通貨
ROB ローマ字-2/ROECE（中欧，東欧）
ROE ラテン語-2/ROECEユーロ通貨
LVB ラトビア
LTB リトアニア
MKB FYRマケドニア（前ユーゴスラビア連邦）
MKE FYRマケドニア・ユーロ通貨
NEB オランダ
NEE オランダ・ユーロ通貨
NEI オランダ各国間
NEM オランダ各国間ユーロ通貨
NWB ノルウェー- B
NWE ノルウェー・ユーロ通貨
NWI ノルウェー各国間- B
NWM ノルウェー各国間ユーロ通貨
PLB ポーランド
PLE ポーランド・ユーロ通貨
PRB ポルトガル- B
PRE ポルトガル・ユーロ通貨
PRI ポルトガル各国間- B
PRM ポルトガル各国間ユーロ通貨
RMB ルーマニア
RME ルーマニア・ユーロ通貨
RUB ロシア

RUE ロシア・ユーロ通貨
SQB セルビア (キリル語)
SQE セルビア (キリル) ユーロ通貨
YGI セルビア (ラテン文字)
YGM セルビア (ラテン語) ユーロ通貨
SKB スロバキア
SKE スロバキア・ユーロ通貨
YGI スロベニア
YGM スロベニア・ユーロ通貨
SPB スペイン- B
SPE スペイン・ユーロ通貨
SPI スペイン各国間- B
SPM スペイン各国間ユーロ通貨
SSB スペイン語圏- B
SSE スペイン語圏ユーロ通貨
SSI スペイン語圏各国間- B
SSM スペイン語圏各国ユーロ通貨
SWB スウェーデン- B
SWE スウェーデン・ユーロ通貨
SWI スウェーデン各国間- B
SWM スウェーデン各国間ユーロ通貨
SFI スイス/フランス語各国間- B
SFM スイス/フランス各国ユーロ通貨
SGI スイス/ドイツ語各国間- B
THB タイ
THE タイ・ユーロ通貨
TKB トルコ(QWERTY)
TKE トルコ(QWERTY)ユーロ通貨
TRB トルコ(F)
TRE トルコ(F)ユーロ通貨
UAB ウクライナ
UAE ウクライナ・ユーロ通貨
UKB 英国- A, B
UKE 英国ユーロ通貨
UKI 英国各国間- A, B
UKM 英国各国間ユーロ通貨

USB 米国／カナダ- A, B, C
USE 米国／カナダ・ユーロ通貨
USI 米国／カナダ各国間- A, B, C
USM 米国／カナダ各国間ユーロ通貨
PKB ウルドゥー語
PKE ウルドゥー語ユーロ通貨
VNB ベトナム
VNE ベトナム・ユーロ通貨
YGI 前ユーゴスラビアの言語
YGM 前ユーゴスラビア言語ユーロ通貨

注: GNBコードはギリシャの現在のIDです。 GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

ASCII装置および装置グループ

表示装置

ASCII装置グループ

3101 A
3151 B
3161 B
3162 B
3163 B
3164 B

次の装置は、TELEVIDEO, DEC,またはWYSEの商標であり、ASCII装置グループCまたはDの言語だけを指定しなければなりません。

表示装置

説明

D220 DATA GENERAL DASHER D220
T910 TELEVIDEO 910
T925 TELEVIDEO 925
T955 TELEVIDEO 955
V100 DEC VT-100
V220 DEC VT-220 (ASCII装置グループDおよびCをサポートする)
W30 WYSE WY30
W50 WYSE WY50
W60 WYSE WY60

上

サインオフ時の回線切断 (DROP)

リモート表示装置の場合に、回線上のすべての装置が使用されなくなった時に、システムによって回線が切断されるかどうかを指定します。

ユーザーがSIGNOFFコマンドでサインオフ時の回線切断 (DROP)パラメーターを指定している場合には、装置記述に指定されている値は、ユーザーがその装置でサインオフすることによって指定変更できます。

*YES

この装置および他のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、この装置が接続している制御装置への交換回線が切断されます。

*NO

制御装置のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、交換回線は制御装置からは切断されません。

上

カーソル明滅可能 (ALWBLN)

(プログラム制御の) 明滅カーソルが抑制されるかどうかを指定します。

注: 明滅カーソルの属性を変更することのできるキーボード・セットアップ機能をもつ表示装置によって、このパラメーターに指定されている値を一時変更することができます。

*YES

3179, 3180, 3196, 3197, 3476, 3477, 3486, 3487, 5251, 5291, および5292表示装置の場合には、カーソルを明滅させることができます。

*NO

カーソルの明滅は行われません。

上

補助装置 (AUXDEV)

5292-2型装置のIEEE-488ポートに接続される追加の装置の装置タイプおよびアドレス (ある場合) を指定します。5292-2型の同じIEEE-488 AUXDEVポートには最大31のプロッターを接続することができますが、異なったIEEE-488アドレスとなります。有効な追加装置タイプは、7371 (IBM 7371作図装置), 7372 (IBM 7372作図装置), 6180 (IBM 6180作図装置), 6182 (IBM 6182作図装置), 6184 (IBM 6184作図装置), 6185 (IBM 6185作図装置), 6186M1 (IBM 6186M1作図装置), および6186M2 (IBM 6186M2作図装置) です。有効な追加装置アドレスは1から31の数値です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

印刷装置 (PRINTER)

リモート表示装置の場合に、表示装置に対応する印刷装置の装置名を指定します。このパラメーターに指定されているワークステーション印刷装置の装置記述は、すでに作成されて現在システム上に存在していません。印刷装置および表示装置は両方とも同じ制御装置に接続しなければなりません。

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ (バイト数) を指定します。

*CALC

システムが使用に最も適した値を決定します。

これは推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*NONE

装置はすべてのアプリケーションに使用されません。

*NRF

装置はネットワーク経路指定機能(NRF)アプリケーションに使用されます。

*CTLSSN

この装置は*DEVINIT装置とのセッションを制御します。

*DEVINIT

688 System i: プログラミング i5/OS コマンド COMMIT (コミット) ~

この装置はセッションを開始します。

*APPINIT

アプリケーション・プログラムがセッションを開始します。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間（秒数）を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注：このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

170

170秒の活動化時間が指定されます。

活動化時間

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

表示装置の非活動タイマー（タイムアウト）値を指定します。また、このパラメーターはこのタイムアウト値を超えた時にどんなことが起こるかについても指定しますが、何が起こるかは当該装置のその他の属性によって異なります。

- ASCIIワークステーション制御装置に接続された表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、表示装置が非活動状態（データが送信も受信もされない状態）であると、ユーザーのジョブが取り消されます。表示装置は自動的にオフに構成変更され、再びオンに構成変更されて、新しいサインオン画面が表示されます。
- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続されている表示装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに結合されていない時間がタイムアウト値を超えると、QSYSOPR へのメッセージによってユーザーに通知され、セッションが終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。

- アプリケーション・タイプ値が*APPINIT, *DEVINIT,または*NRFである表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、装置が非活動状態（装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、装置に対するファイルのオープン要求が以後受け取られていない状態）であると、セッションが終了します。

注：サブシステムは装置に対してオープンされているファイルを常にもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置によっては使用されません（通常の対話式使用）。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

SNAパススルー(*SNPT)装置クラス・サポートを使用している接続の場合には、*ATTACHの省略時の値が*NOMAXにマップされます。

アプリケーション・タイプ値が*APPINIT, *CLTSSN, *DEVINIT,または*NRFである装置の場合には、*ATTACHの省略時の値が1分にマップされます。

郵便電話電信(*PTT)接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は*SEC15 (15秒) , *SEC30 (30秒) , および1から10分です。*ATTACHは*SEC30 (30秒) にマップされます。

その他の接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は1から30分および*NOMAX です。*ATTACHは、これらの接続機構の場合には、*NOMAXにマップされます。

***ATTACH**

この値は、**物理的接続 (ATTACH)**パラメーターで指定された値と、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターおよび**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターの一定の値によって変化します。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。 <d>

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFGLコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)またはAPPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNAパススルー・サポートを開始した後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

このパラメーターは、ファイルが*NRF用にオープンされた時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP)に送信されるログオン・ストリングも指定します。

*NONE

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストにブランクまたは他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*TYPE

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEはすべての表示装置に対して19200ビット/秒を選択しますが、3101表示装置は例外で、9600ビット/秒が選択されます。5150 A1装置または装置タイプ*CALCの場合には、*TYPEは1200ビット/秒を選択します。

*CALC

システムは、このポートに接続された表示装置の回線速度を自動的に計算します。*CALCが指定されている場合には、**パリティのタイプ (PARITY)**パラメーターおよび**語の長さ (WORDLEN)**パラメーターも指定しなければなりません。

注: *CALCを指定することにより、ASCII装置でポートの共用が可能になります。ASCIIポートの共用により、異なる装置タイプが異なる物理パラメーターを使用して、ポートを手操作で再構成しなくても (さまざまな時点で) 同じポートを使用することができます。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003)またはASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値は150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,または38400です。

上

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ (ビット/文字) を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムはこの装置タイプに推奨された設定値を使用します。*TYPEは、7ビットのワード長を選択する3101およびD220表示装置以外のすべての表示装置に8ビットのワード長を選択します。

7

7ビット・ワード長を指定します。

8

8ビット・ワード長を指定します。

***CALC**

ポートの共用を指定します。*CALCを指定した場合には、このポートに接続されている表示装置の語の長さをシステムが自動的に判断します。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003)またはASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

上

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT) 接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEは、*MARKを選択するD220以外のすべての表示装置用に*EVEN (偶数パリティ) を選択します。5150 A1装置の場合には、*TYPEは8ビットの語の長さには*NONEおよび7ビットの語の長さには*EVENを選択します。装置タイプ (TYPE)パラメーターに*CALCが指定されている場合には、*TYPEは*NONEを選択します。

***CALC**

ポートの共用を指定します。 *CALCを指定した場合には、このポートに接続されている表示装置のパリティをシステムが自動的に判断します。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003) およびASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

***EVEN**

偶数パリティを指定します。

***ODD**

奇数パリティを指定します。

***NONE**

パリティ・ビットを使用しないことを指定します。

***MARK**

マーク・パリティ (パリティでは1を使用する) を指定します。

***SPACE**

スペース・パリティ (パリティでは0を使用する) を指定します。

上

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEを指定すると、2停止ビットの設定値が選択されるDEC VT-100表示装置を除いて、すべての表示装置に対して1停止ビットが選択されます。

1停止ビットを指定します。

2

2停止ビットを指定します。

上

最大未処理フレーム数 (MAXOUT)

リモート・システム(5150ワークステーション)が応答する前にそのリモート・システムに逐次的に送られるフレームの最大数を指定します。フレームの最大数は1から7でなければなりません。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されている場合、あるいは、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

7

送信される省略時のフレーム数は7です。

最大未処理フレーム数

フレーム数として1から7の値を指定してください。

上

アイドル・タイマー (IDLTMR)

システムが応答を待機する時間(0.1秒間隔で)を指定します。指定した時間内に応答を受け取らない場合には、エラー回復手順が開始されます。このパラメーターは、数値が10から250の間にある場合、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されている場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合にだけ、有効です。

40

省略時の値は4.0秒です。

遊休タイマー

10から250の値を0.1秒間隔で指定してください。

上

NRMポーリング・タイマー (NRMPOLLTMR)

通常応答モード(NRM)の時にこの装置のポーリングの間隔(0.1秒間隔で)を指定します。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定されて、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定された場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合だけです。

3

省略時の値は0.3秒です。

NRMポーリング・タイマー

0.1秒間隔で2から100の値を指定します。

上

フレーム再試行 (FRAMERTY)

応答されていないコマンド・フレームまたは肯定応答されていない情報フレームに対する再試行回数を指定します。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されている場合、あるいは、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

15

省略時の再試行回数は15です。

フレーム再試行

再試行回数として5から64の値を指定してください。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

注: APPTYPE(*APPINIT)装置にはこのパラメーターが必要です。 APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理入出力装置のVTAM/NCP (仮想リモート通信アクセス方式/ネットワーク制御プログラム) 名です。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターがAPPTYPE(*CTLSSN) または APPTYPE(*APPINIT)と一緒に指定されている時には、リモート・ロケーション名はネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前となります。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークID (ID)の名前を指定します。APPTYPE(*APPINIT)装置に対してこのパラメーターを指定することができます。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークのIDを指定してください。

上

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すためにDBCSフィーチャー・コード形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

要素1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合：

SSSS =

文字の解像度（作成するために使用される行列点の数）。例えば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語
- C =中国語（繁体字）
- S =中国語（簡体字）

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値はブランクとすることができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにIBM System i5からの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。 その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

上

文字識別コード (CHRID)

ワークステーション表示装置がサポートする文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

*KBDTYPE

システムは、**キーボード言語タイプ (KBDTYPE)**パラメーターに指定された国別キーボード言語ID値に対応する図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

図形文字セットコード・ページ

この表示装置の属性に一致する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。図形文字セットおよびコード・ページの値は、1から32767の範囲内の数値でなければなりません。

上

印刷装置 (PRTDEV)

このワークステーションの省略時の印刷装置の名前を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れられます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されると見なされます。

*SYSVAL

システム値QPRTDEVに指定されている省略時のシステム印刷装置が使用されます。

印刷装置名

出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定してください。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

出力待ち行列(*OUTQ)オブジェクトを指定します。

指定できる出力待ち行列名の値は次の通りです。

*DEV

印刷装置ファイルのDEVパラメーターで指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。(印刷装置ファイルのDEVパラメーターはCRTPRTF, CHGPRTF,またはOVRPRTFコマンドによって判別されます。)

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されていると見なされます。

出力待ち行列名

出力待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

印刷出力ファイル (PRTFILE)

この表示装置のページ印刷キーの処理のために代替印刷装置ファイルの使用を指定します。

印刷出力ファイルは、その修飾名（ライブラリー名／印刷ファイル名）で指定されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。

注: WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には、ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボードIDを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEV DSP  DEVD(DSP4) TYPE(3180) MODEL(2)
          DEVCLS(*LCL) PORT(0)
          SWTSET(4) CTL(CTL01) KBDTYPE(USB)
```

このコマンドは、DSP4という名前の3180-2型ローカル装置記述を作成します。表示装置はローカル・ワークステーション制御装置CTL01のポート0にあります。装置には4というアドレスがあり、米国/カナダ用のキーボードが備わっています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2631

装置タイプ&2が正しくない。

上

装置記述の作成（金融機関）(CRTDEVFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

金融機関装置記述の作成(CRTDEVFNC)コマンドにより、金融機関用装置の装置記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	装置タイプ	3624, 3694, 4704, *FNCICF	必須, 定位置 2
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FF	必須, 定位置 3
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	8-4096, *CALC	オプション
DEVCLS	装置クラス	*NONE, *SNPT	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, 170	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

TYPEコード

説明

- 3624 自動取引装置 (システム/38互換金融機関サブシステム)
- 3694 書類読取処理装置 (システム/38互換金融機関サブシステム)
- 4704 金融機関表示装置 (システム/38互換金融機関サブシステム)

*FNCICF

金融機関サブシステムICF (互換性のあるICF)

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

- FBSS 01からFF
- 4701 01からFF
- 4702 01からFF
- 3694 01から04
- 4730 01から03
- 4731 01から02
- 4732 01から02
- 4736 01から02

LOCADR 01が使用されるのはシステム・モニター・セッションとの通信だけで、これが有効なのは装置タイプ (TYPE)パラメーターに*FNCICFが指定されている場合だけです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として8から4096バイトの範囲内の値を指定してください。

注: 3624, 3694,または4704装置タイプの場合には、*CALCが唯一の使用可能な値です。装置タイプ (TYPE)パラメーターに*FNCICFが指定されていて、3694, 4730, 4731, 4732,または4736制御装置に接続されている場合には、使用可能な値は*CALCまたは256だけです。

上

装置クラス (DEVCLS)

この装置に使用する装置クラスを指定します。

*NONE

この装置記述はSNAパススルー・サポートを使用しません。

*SNPT

この装置記述は、SNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの表示装置を接続することができます。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間（秒数）を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注：このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

170

170秒の活動化時間が指定されます。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に、セッションは終了します。

*NOMAX

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

*SEC15

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

*SEC30

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFGLコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:金融機関用装置記述の変更

```
CHGDEVFNC  DEVD(FNCDSP1)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、金融機関用装置FNCDSP1の装置記述を、装置がIPL時にオンに構成変更されるように変更します。

例2: 金融機関用装置記述の作成

```
CRTDEVFNC  DEVD(FNCDSP1) TYPE(*FNCICF) LOCADR(01)
CTL(FNCCTL1)
```

このコマンドは、FNCDSP1という名前の金融機関用装置記述を作成します。これは、アドレスがX'01'のICF金融機関用装置です。金融機関用制御装置FNCCTL1に接続されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成(SNA ホスト) (CRTDEVHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト装置記述の作成(CRTDEVHOST)コマンドにより、システム・ネットワーク体系(SNAホストシステム装置)の装置記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FF	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*RJE, *EML, *PGM	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, 241, 245, 247, 256, 497, 501, 503, 512, 768, 1009, 1015, 1024, 1280, 1536, 1792, 2048, 2304, 2560, 2816, 3072, 3328, 3584, 3840, 4096	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	*UPPER, *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	*NO, *YES	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, *ANY	オプション
ENDSSNHOST	ホストとのセッション終了	*UNBIND, *RSHUTD	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置が使用するアプリケーション・タイプを指定します。

*RJE

アプリケーションはBSCリモート・ジョブ入力(RJE)です。

*EML

アプリケーション・プログラムは、システム/38環境によって提供される3270エミュレーション・ユーティリティーまたは3270プログラム・インターフェース・サポートを用いた3270エミュレーションです。

*PGM

この装置はプログラム間通信によって使用されます。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*CALC

システムが使用に最も適した値を決定します。

これは推奨値です。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として使用される値(256から4096)を256の増分値で指定してください。241, 247, 497, 503, 1009, および1015の値を指定することもできますが、これらは装置がX.25ネットワークに接続されている場合にだけ有効です。

上

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値(要素)のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

3278

この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。

3284

この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3286

この装置は、3286印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3287

この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3288

この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3289

この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

上

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3278表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

***UPPER**

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

***LOWER**

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

上

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*NO

3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

*YES

3270エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0から9の数字、記号+-、.、およびブランクが入れられます。

上

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を実の表示装置または印刷装置と関連付けます。装置アドレスは、そのワークステーション専用に予約されます。装置が指定されないか、あるいは*ANYが指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

*ANY

ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

上

ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)

ホスト装置がホスト・システムとのセッションをどのように終了するかを指定します。ENDSSNHOSTパラメーターはいつでも変更することができ、変更後は直ちに有効となります。

*UNBIND

ホスト装置は、IBM System i5がセッションを終了するように要求するSNAコマンドを送信します。

*RSHUTD

ホスト装置は、ホスト・システムがセッションを終了するよう要求するSNAコマンドを送信します。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにIBM System i5からの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。 その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

***NONE**

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理され

る以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVHOST  DEVD(COMMDSP1)  LOCADR(FE)
             RMTLOCNAME(SYS) CTL(HOSTCTL001)
             APPTYPE(*EML)  EMLDEV(3284)
```

このコマンドは、COMMDSP1という名前のSNAホスト通信装置の装置記述を作成します。装置のアドレスはX'FE'です。制御装置HOSTCTL001に接続されていて、SYSと通信します。この装置は、3270エミュレーションを使用して3284印刷装置をエミュレートします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成(INTRA) (CRTDEVINTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム内通信装置記述の作成(CRTDEVINTR)コマンドは、2つのプログラムが伝送プロトコル(TP)回線を通じて通信しているかのように同じシステム内で相互に通信することを可能にするシステム内通信(INTRA)装置を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVINTR  DEVD(INTRALOC)  RMTLOCNAME(INTRARMT)
```

このコマンドは、INTRARMTという名前のリモート・ロケーションとのシステム内通信用にINTRALOCという名前の装置記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成（媒体ライブラリー）(CRTDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述（媒体ライブラリー）作成(CRTDEVMLB)コマンドは、媒体ライブラリー装置の装置記述を作成します。

最初に、このシステムで使用するために、この装置記述に関連付けられたすべてのテープ・ドライブ資源が割り振られます。テープ・ライブラリーの中のドライブ資源の割り振りを変更するためには、媒体ライブラリーの状況処理(WRKMLBSTS)コマンドまたは構成変更(VRYCFG)コマンドを使用してください。

注: ドライブの割り振りを使用できるのは、DEVCLS(*TAP)が指定されている場合だけです。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400装置構成 (SD88-5003)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*OPT, *TAP	必須, キー, 定位置 2
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE	必須, キー, 定位置 3
TYPE	装置タイプ	文字値, *RSRCNAME	オプション, キー
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
UNLOADWAIT	アンロード待機時間	文字値, *SYSGEN	オプション
MAXDEVTIME	装置待機最大時間	文字値, *SYSGEN	オプション
RSCALCPTY	資源割り振り優先順位	文字値, *JOB	オプション
INLMNTWAIT	初期マウント待機時間	文字値, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション
EOVMNTWAIT	ボリューム・マウント終了待機時間	文字値, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション
GENCTGID	カートリッジID生成	*VOLID, *SYSGEN	オプション
ROBOTDEV	ロボット装置記述	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	オプション
ROBOTHOST	ロボット・ホスト	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション
LCLINTNETA	ローカルIPアドレス	文字値, *NONE	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置クラス (DEVCLS)

作成する媒体ライブラリーのクラスを指定します。

*OPT

装置は光ディスク媒体ライブラリーです。

*TAP

装置はテープ媒体ライブラリーです。

上

資源名 (RSRCNAME)

ディスクの集合が認識される補助記憶域プール(ASP)を識別する資源名を指定します。

装置をオンに変更する前に、資源名を提供しなければなりません。

*NONE

この時点では資源名は指定されません。

資源名

システムの媒体ライブラリー装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(*STG)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

上

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

注: 装置タイプは、このコマンドのプロンプトをサポートするために使用されます。値は装置記述の一部としては保管されません。

*RSRCNAME

装置タイプは資源名パラメーターによって決定されます。

数字順にリストされた次の装置タイプを使用することができます。

- 3494
- 3495
- 3570
- 3590
- 3995
- 3996
- 399F
- 9427
- 9429

注: 装置タイプ3995, 3996, および399Fが有効なのは、DEVCLS(*OPT)が指定されている場合だけです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)

使用可能なドライブに対する未処理の要求がある場合に、ボリュームをアンロードする前にシステムがマウントされたボリュームを使用する別の要求を待機する時間を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけです。

*SYSGEN

システムの省略時の値が使用されます。

アンロード待機時間

待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から120です。

上

装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)

他のボリュームに対する要求がある場合に、ボリュームを内部装置にマウントしたままにしておくことができる最大分数を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけで、*DEVCLS(*TAP)が指定された場合は無視されます。

*SYSGEN

システムの省略時の値が使用されます。

これにより、ライブラリー装置のユーザーごとに同じ値を指定するのではなく、ライブラリー装置ユーザーごとに装置最大待機時間を指定することができます。

*NOMAX

要求は、テープ資源が使用可能になるまで待機します。

注: このパラメーターは、テープ装置の場合にのみ有効です。

最大装置時間

光ディスク装置の場合に、ボリュームをマウントしたままにしておくことができる時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は1から60です。テープ装置の場合に、要求でテープ資源の割り振りが待機される時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は1から600です。

上

資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)

資源割り振りの優先順位を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*JOB

資源割り振りの優先順位としてジョブの優先順位が使用されます。

資源割り振り優先順位

資源の要求時にこのジョブが指定される優先順位を指定してください。有効な値の範囲は1（最高）から99（最低）までです。

上

初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)

要求が初期マウントのテープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*JOB

割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

*IMMED

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

*NOMAX

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

初期マウント待機時間

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から600分です。

上

ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)

要求が、ボリュームのマウントが終わるまでの間、テープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*JOB

割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

*IMMED

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

ボリューム・マウント待機時間の終わり

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から600分です。

上

カートリッジID生成 (GENCTGID)

バー・コード読み取り機能なしでテープ・ライブラリーのそれぞれのボリュームにカートリッジIDを割り当てる方法を指定します。

*VOLID

カートリッジIDとしてボリュームIDを使用するように指定します。カートリッジIDは、それぞれのボリュームをマウントしてボリュームIDを読み取ることによって割り当てることができます。

*SYSGEN

システムがそれぞれのボリュームのカートリッジIDを生成するように指定します。システム生成のIDを使用する場合には、テープ操作に生成されたカートリッジIDを使用しなければなりません。カートリッジIDは、SLT001, SLT002, SLT003などの形式で順次に割り当てられます。

上

ロボット装置記述 (ROBOTDEV)

別のロボットでライブラリー装置のロボットを表す装置記述の名前を指定します。

上

ロボット・ホスト (ROBOTHOST)

TCP/IPホスト名またはロボット・ライブラリー・マネージャーのIPアドレスを指定します。最大2つまでのロボット・ライブラリー・マネージャーを指定できます。

*NONE

この時点ではロボット・ホストは指定されません。

ホスト名

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーの名前。ロボット・ホスト名またはドメイン修飾ロボット・ホスト名を入力することによって、ロボット・ホスト名が入力されます。ドメイン修飾ロボット・ホスト名には、255バイトまで入力できます。

ホストIPアドレス

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーのアドレス。IPアドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0から255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ホストIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲む必要があります。

上

ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)

ロボット・ライブラリー・マネージャーに接続しているインターフェースのローカルIPアドレスを指定します。これは、テープ媒体ライブラリーを使用するためにTCP/IPを開始する必要があるときにオペレーティング・システムが開始するインターフェースです。

*NONE

この時点ではTCP/IPアドレスは指定されません。

ローカルIPアドレス

開始するローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0から255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ローカルIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

*LIBL

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVMLB  DEVD(LIB01)  DEVCLS(*OPT)
           RSRCCNAME(LIB01)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、LIB01という名前の媒体ライブラリー装置の装置記述を作成します。ライブラリーは光ディスク・ライブラリーで、物理資源名はLIB01です。この装置記述はIPL時にオンに構成変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF67B0

テープ資源&2が指定されたライブラリー装置にない。

CPF67D1

ライブラリー装置記述が作成されなかった。

上

装置記述の作成(ネットワーク) (CRTDEVNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク装置記述の作成(CRTDEVNET)コマンドは、ネットワーク装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVN	装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	装置タイプ	*TCPIP, *USRDFN	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVN)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

*TCPIP

*TCPIP -伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル

*USRDFN

この装置は、ユーザー定義の通信アプリケーションのプログラム・インターフェースを使用してプログラムでサポートされているネットワークに接続されます。

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

接続される制御装置 (CTL)

このオブジェクトが接続される制御装置記述の名前を指定します。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロフィールまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVNET  DEVD(NETDEV02)  TYPE(*TCP/IP)
```

このコマンドは、NETDEV02という名前のネットワーク装置の装置記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成(NWSH) (CRTDEVNWSH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の作成(NWSH) (CRTDEVNWSH)コマンドは、ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH)装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVDD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, キー, 定位置 2
LCLIFC	ローカル (ターゲット) インターフェース	要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: サブネット・マスク	文字値	
	要素 2: ポート速度	<u>*AUTO</u>	
	要素 3: 二重	<u>*AUTO</u>	
	要素 4: ローカル SCSI インターフェース	要素リスト	
	要素 1: IPアドレス	文字値	
	要素 2: ゲートウェイ・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
	要素 3: SCSI TCPポート	1024-65535, <u>3260</u> , 860	
	要素 5: ローカル LAN インターフェース	要素リスト	
	要素 1: IPアドレス	文字値	
	要素 2: ゲートウェイ・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
	要素 3: 仮想イーサネット基本UDP ポート	1024-65471, <u>8801</u>	
	要素 6: ケーブル接続	<u>*NETWORK</u> , <u>*DIRECT</u>	
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*NO</u> , <u>*YES</u>	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SYSOPR</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SYSVAL</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , <u>*ALL</u> , <u>*USE</u> , <u>*EXCLUDE</u> , <u>*LIBCRTAUT</u>	オプション

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

資源名を決定するには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

これは必須パラメーターです。

名前

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの資源名を指定してください。

ローカル (ターゲット) インターフェース (LCLIFC)

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターのローカル(ターゲット)インターフェースを指定します。これは、サブネット・マスク、ポート速度、両面印刷、ローカルのSmall Computer System Interface (SCSI)構成、ローカルのローカル・エリア・ネットワーク(LAN)構成、およびケーブル接続のタイプで構成されています。

これは必須パラメーターです。

要素1: サブネット・マスク

文字値

ローカル・インターフェースと関連したサブネット・マスクを指定してください。サブネットの概要については、*TCP/IP FASTPATH SETUP*ブックを参照してください。

サブネット化は、インターネット・ドメインを区分する機能を提供します。サブネットを定義するIPアドレスのネットワーク・サブネット・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドのマスクを指定してください。サブネット・マスクはNNN.NNN.NNN.NNNという形式です。ここで、NNNは、0から255の範囲の10進数です。サブネット・マスクは、IPアドレスのネットワーク・クラスのネットワークID部分のすべてのビットをオフでマスクしなければなりません。例えば、サブネット・マスク255.255.255.0は、IPアドレス（これは指定されます）のネットワーク部分のすべてのピ

ットおよびIPアドレスの3バイト目のすべてのビットから構成される、クラスBサブネットを定義します。サブネット・マスクをコマンド入力行から入力する場合には、これをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ポート速度

このローカル・インターフェースによって示される物理ポートの速度を指定します。

*AUTO

ハードウェアは自動的にポート速度を決定します。

要素3: 二重

このローカル・インターフェースによって示される物理ポートによって使用される両面印刷モードを指定します。

*AUTO

ハードウェアは自動的に両面印刷を決定します。

要素4: ローカル SCSI インターフェース

ローカルSCSIインターフェース構成を指定します。

要素1: IPアドレス

文字値

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター上のSCSIインターフェースが応答する先のローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。選択するIPアドレスは、15/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。ローカルIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ゲートウェイ・アドレス

*NONE

ゲートウェイ・アドレスはありません。

文字値

SCSIインターフェースと関連したIPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスをDDD.DDD.DDD.DDDの形式で指定してください。ここで、DDDは0から255の範囲の10進数です。コマンド入力行からゲートウェイ・アドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素3: SCSI TCPポート

3260

ポート3260がローカルSCSI TCPポートとして使用されます。

ポート番号

ローカルSCSIインターフェースがISCSIトラフィックでLISTENするローカルSCSI TCPポートを指定します。ローカルSCSIインターフェースIPアドレスおよびTCPポートがともにISCSIターゲット・ポータルを定義します。INTERNET ASSIGNED NUMBERS AUTHORITY (IANA)によって割り当てられたISCSI接続の既知のTCPポート番号は3260であり、これが省略時のISCSIポート番号です。ISCSIシステム・ポートとしてIANAによって割り当てられたTCPポートは860です。有効な値は860で、範囲は1024から65535です。

要素5: ローカル LAN インターフェース

ローカルLANインターフェース構成を指定します。

要素1: IPアドレス

文字値

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター上のSCSIインターフェースが応答する先のローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定します。ここで、NNNは0から255の範囲の10進数です。ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。選択するIPアドレスは、I5/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。ローカルIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ゲートウェイ・アドレス

*NONE

ゲートウェイ・アドレスはありません。

文字値

LANインターフェースと関連したIPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスをDDD.DDD.DDD.DDDの形式で指定してください。ここで、DDDは0から255の範囲の10進数です。コマンド入力行からゲートウェイ・アドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素3: 仮想イーサネット基本UDP ポート

8801

ポート8801が仮想イーサネット基本UDPポートとして使用されます。

1024から65471

ローカルLANインターフェースがリモート・サーバーとの仮想イーサネット通信で使用する、最も小さい番号が付いたユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)ポートを指定します。仮想イーサネット通信は、UDPパケットにカプセル化されます。各仮想イーサネット・アダプターは、指定した基本ポート番号から基本ポート番号に構成済み仮想イーサネット・アダプターの数を足した数値までの範囲から、自動的にUDPポートが割り当てられます。

要素6: ケーブル接続

このローカル・インターフェースで使用されるケーブル接続のタイプを指定します。

*NETWORK

このローカル・インターフェースのケーブルは、ネットワークに接続されます。

*DIRECT

このローカル・インターフェースのケーブルは、リモート・システムのインターフェースに直接接続されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この装置記述で使用する通信回復限界を指定します。

単一値

*SYSVAL

システム値QCMNRCYLMTに指定された回復限界が使用されます。

要素1: カウント限界

2

指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。

要素2: 時間間隔

5

5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVNWSH  DEVD(DEVNWSH)  RSRNAME(LIN03)
             LCLIFC('255.255.255.128' *AUTO *AUTO
                   ('9.5.149.241' '9.5.149.129' 3260)
                   ('9.5.149.245' '9.5.149.122' 8801)
                   *DIRECT)
```

このコマンドは、DEVNWSHという名前のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター記述を作成します。DEVNWSHは、LIN03という名前の関連資源をもっています。ローカルSCSIおよびローカルLANインターフェースには、指定したTCP/IP IPアドレスが割り当てられます。ローカルSCSIインターフェースは、省略時TCPポート値を使用します。これは、IANAにより割り当てられたISCSI接続の既知のユーザーTCPポート番号です。ローカルLANインターフェースは、省略時の仮想イーサネット基本UDPポート値を使用します。ハードウェアは、ポート速度および両面印刷を決定します。このローカルSCSIインターフェースのケーブルは、リモート・システムのインターフェースに直接接続されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成（光ディスク）(CRTDEVOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述（光ディスク）作成(CRTDEVOPT)コマンドは、光ディスク装置の装置記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400装置構成 (SD88-5003)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVDD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE, *VRT	必須, キー, 定位置 2
TYPE	装置タイプ	文字値, *RSRCNAME, 6320, 6321, 632A, 632B, 6330, 6336	オプション, キー
LCLINTNETA	ローカルIPアドレス	*NONE, *SRVLAN	オプション
RMTINTNETA	リモートIPアドレス	文字値	オプション
NETIMGDIR	ネットワーク・イメージ・ディレクト リー	パス名	オプション
UID	ユーザーID番号	0-4294967295, <u>0</u>	オプション
GID	グループID番号	0-4294967295, <u>0</u>	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVDD)

装置記述の名前を指定します。

上

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

***NONE**

資源名は指定されません。 装置をオンに変更する前に、資源名を提供しなければなりません。

***VRT**

資源名は、装置記述の作成時にオペレーティング・システムによって生成されます。 資源名は仮想（物理ではない）ハードウェアを表します。 IBM System i5が仮想ハードウェア資源の最大数を作成すると、装置記述には最後に作成された資源が使用されます。

注: 装置記述が削除されても資源名は除去されません。 資源を名前指定して、既存の資源の新しい装置記述を作成することができます。

資源名

システムの媒体ライブラリー装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(*STG)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

上

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

注: 指定されたタイプ(TYPE)パラメーターが指定された資源名(RSRCNAME)パラメーターに有効でない場合には、OSはTYPEパラメーターを自動的に構成します。

***RSRCNAME**

装置タイプは、資源名(RSRCNAME)パラメーターによって決定されます。

このパラメーターに有効な装置タイプのリストを表示するためには、TYPEプロンプトからF4（プロンプト）を押してください。

上

ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)

仮想イメージ・ファイルをネットワーク上で使用する際にリモート・システムとの通信に使用されるTCP/IPインターフェースを指定します。

注: 資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*NONEが指定された場合、あるいは装置タイプ (TYPE)パラメーターに632B以外の値か*RSRCNAMEが指定された場合、このパラメーターは無効になります。

*NONE

インターネット・アドレスは指定されません。この値を指定すると、ネットワーク仮想イメージ・ファイルを使用できなくなります。

***SRVLAN**

保守ツール・サーバーまたはオペレーション・コンソール(LAN)で定義された値が指定されます。

上

リモートIPアドレス (RMTINTNETA)

この仮想光ディスク装置が仮想イメージ・ファイルを検索する、ネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのリモートIPアドレスを指定します。

注: ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)パラメーターに*SRVLANが指定されている場合、このパラメーターに値が必要です。

文字値

IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。小数点付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されることとなります。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ネットワーク・イメージ・ディレクトリー (NETIMGDIR)

この装置で使用するために準備された仮想イメージ・ファイルを格納しているネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのネットワーク・パスを指定します。

注: ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)パラメーターに*SRVLANが指定されている場合、このパラメーターに値が必要です。

パス名

仮想イメージ・ファイルを格納しているNFSサーバーのネットワーク・パスを指定します。最大127文字を指定することができます。

上

ユーザーID番号 (UID)

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのリモート・ユーザー・プロファイルのID番号を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、ローカルIPアドレス **LCLINTNETA**パラメーターに*SRVLANが指定された場合のみです。

0-4294967295

NFSサーバーのリモート・ユーザー・プロファイルのID番号を指定します。

上

グループID番号 (GID)

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのリモート・グループ・プロファイルのID番号を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、ローカルIPアドレス **LCLINTNETA**パラメーターに*SRVLANが指定された場合のみです。

0-4294967295

NFSサーバーのリモート・グループ・プロファイルのID番号を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

注: このパラメーターの値は、ローカルIPアドレス **LCLINTNETA**パラメーターに*SRVLAN が指定されている場合は*NOに設定されます。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:光ディスク装置記述の作成

```
CRTDEVOPT  DEVD(OPT01)  RSRNAME(*OPT01)  TYPE(*RSRNAME)
```

このコマンドは、OPT01という名前の光ディスク装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。

例2:仮想光ディスク装置記述の作成

```
CRTDEVOPT  DEVD(VRTOPT01)  RSRNAME(*VRT)  TYPE(*RSRNAME)
```

このコマンドは、VRTOPT01という名前の仮想光ディスク装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。すべての仮想光ディスク装置には632Bという**TYPE**値が割り当てられます。

例3:ネットワーク上での仮想イメージ・ファイルの使用時に仮想光ディスク装置記述を作成

```
CRTDEVOPT  DEVD(VRTOPT02)  RSRNAME(*VRT)  LCLINTNETA(*SRVLAN)
            RMTINTNETA('9.5.1.1')
            NETIMGDIR('/MyPath/My Catalog Directory')
            UID(123) GID(26) ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、VRTOPT02という名前の仮想光ディスク装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。すべての仮想光ディスク装置には632Bという**TYPE**値が割り当てられます。**MODEL**は、**LCLINTNETA**に値*SRVLANが指定されているため、003になります。この装置は、**RMTINTNETA**に指定されたネットワーク・ファイル・システム(NFS) サーバーのIPアドレスを使用する仮想イメージ・ファイルを検索します。**NETIMGDIR**で指定されたリモートNFSサーバー上のパス名は、仮想イメージ・ファイルの検索に使用されます。**UID**で指定されたユーザーID番号と**GID**で指定されたグループID番号で、リモートNFSサーバー上で使用されるプロファイルを特定します。この装置は、IPLで自動的にオンに構成変更されることはありません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成（印刷装置）(CRTDEVPRT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の作成（印刷装置）(CRTDEVPRT)コマンドにより、印刷装置の装置記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*LCL, *RMT, *VRT, *SNPT, *LAN	必須, キー, 定位置 2
TYPE	装置タイプ	3287, 3812, 4019, 4201, 4202, 4207, 4208, 4214, 4216, 4224, 4234, 4245, 4247, 5204, 5219, 5224, 5225, 5256, 5262, 5553, 5583, 6252, 6404, 6408, 6412, *IPDS	必須, キー, 定位置 3
MODEL	装置型式	0, 1, 2, 3, 4, 10, 13, 200, 301, 302, 3E3, *ASCII, *POST, AS8, B01, CTA, D1, D2, T08, T12, T20, *IPDS, *LU3, 0000, 0001, 0002, 0003, 0004, 0010, 0013, 0200, 0301, 0302	必須, キー, 定位置 4
LANATTACH	LAN接続機構	*LEXLINK, *IP, *USRDFN	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 8 回の繰り返し): 名 前	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・ アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFFE	オプション
ADPTTYPE	アダプター・タイプ	*INTERNAL, *EXTERNAL	オプション
ADPTCNNTYP	アダプター接続タイプ	*PARALLEL, *SERIAL	オプション
EMLDEV	エミュレートされる平衡型装置	3812, 5219, 5224, 5256	オプション
AFP	拡張機能の印刷	*NO, *YES	オプション
AFPATTACH	AFP接続機構	*WSC, *APPC	オプション
PORT	ポート番号	0-65535	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アド レス	00-FE	オプション
AUXPRT	補助印刷装置	*YES, *NO	オプション
EMLASCII	ASCII装置のエミュレート	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ATTACH	物理的接続	*DIRECT, *PTT, *MODEM, *WIRE3, *WIRE4, *EIA422	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
LNGTYPE	言語タイプ	*SYSVAL, AGB, AGI, ALI, BGB, BLI, BRB, CAB, CAI, CLB, CSB, CYB, DMB, DMI, ESB, FAB, FAI, FNB, FNI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICI, IRB, ITB, ITI, JPB, LTB, LVB, MKB, NCB, NEB, NEI, NWB, NWI, PKB, PLB, PRB, PRI, RMB, ROB, RUB, SFI, SGI, SKB, SPB, SPI, SQB, SSB, SSI, SWB, SWI, THB, TKB, TRB, UAB, UKB, UKI, USB, USI, YGI	オプション
PRTQLTY	印刷品質	*STD, *DRAFT, *NLQ	オプション
FONT	フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	文字値, 2, 3, 5, 8, 10, 11, 12, 13, 18, 19, 20, 21, 25, 26, 30, 31, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 46, 49, 50, 51, 52, 55, 61, 62, 63, 66, 68, 69, 70, 71, 72, 74, 75, 76, 80, 84, 85, 86, 87, 91, 92, 95, 96, 98, 99, 101, 102, 103, 109, 110, 111, 112, 154, 155, 157, 158, 159, 160, 162, 163, 164, 167, 168, 173, 174, 175, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 194, 195, 204, 205, 211, 212, 221, 222, 223, 225, 226, 229, 230, 232, 233, 234, 244, 245, 247, 248, 249, 252, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 279, 281, 282, 285, 290, 300, 400, 434, 435, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 1051, 1053, 1056, 1351, 1653, 1803, 2103, 4407, 4427, 4535, 4919, 4939, 5047, 5067, 5687, 5707, 5815, 5835, 5943, 6199, 6219, 6327, 6347, 8503, 8523, 8631, 8651, 8759, 8779, 8887, 8907, 12855, 12875, 16951, 16971, 17079, 17099, 33335, 33355, 33463, 33483, 33591, 33601, 33719, 33729, 34103, 34123, 34231, 34251, 37431, 41783, 41803	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	

キーワード	記述	選択項目	ノート
FORMFEED	用紙送り	* <u>TYPE</u> , *CONT, *CONT2, *CUT, *AUTOCUT	オプション
SEPDRAWER	区切り用紙入れ	1-255, * <u>FILE</u>	オプション
SEPPGM	セパレーター・プログラム	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: セパレーター・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
NBRDRAWER	用紙入れの数	1, 2, 3	オプション
PRTRRMSG	印刷装置エラー・メッセージ	* <u>INQ</u> , *INFO	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: * <u>CTLD</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前, <u>QSYSOPR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
MAXLENRU	要求単位の最大長	* <u>CALC</u> , 241, 245, 247, 256	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	* <u>NONE</u> , *NRF, *DEVINIT, *APPINIT	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>170</u> , *NOMAX	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, * <u>ATTACH</u> , *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, * <u>NONE</u>	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, * <u>NONE</u>	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, * <u>NONE</u>	オプション
PACING	ペーシング	1-7, <u>7</u>	オプション
LINESPEED	回線速度	* <u>TYPE</u> , 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	* <u>TYPE</u> , 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	* <u>TYPE</u> , *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション
STOPBITS	停止ビット	* <u>TYPE</u> , 1, 2	オプション
TRANSFORM	ホスト印刷の変換	* <u>NO</u> , *YES	オプション
MFRTYPMDL	メーカー・タイプ, 型式	文字値	オプション
PPRSRC1	用紙入れ 1	* <u>MFRTYPMDL</u> , *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
PPRSRC2	用紙入れ 2	* <u>MFRTYPMDL</u> , *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
ENVELOPE	エンベロープ・ソース	* <u>MFRTYPMDL</u> , *MONARCH, *NUMBER9, *NUMBER10, *B5, *C5, *DL, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASCII899	ASCII コード・ページ 899 サポート	*NO, *YES	オプション
IMGCFG	イメージ構成	文字値, *NONE	オプション
MAXPNDRQS	保留中要求の最大数	1-31, 6	オプション
PRTCVT	変換中の印刷	*NO, *YES	オプション
PRTRQSTMR	印刷要求タイマー	1-3600, *NOMAX	オプション
FORMDF	書式定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 書式定義	名前, F1C10110	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CHRID	文字識別コード	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	オプション
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *QSPWTR, *NETATR	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイント	4141-FFFE	
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *USRIDX, *PSFCFG, *USRQ, *USRSPC	
USRDTATFM	データ変換プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ変換プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USRDRVPGM	ユーザー定義ドライバー・プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー定義ドライバー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SYSDRVPGM	システム・ドライバー・プログラム	文字値, *HPPJLDRV, *IBMPJLDRV, *NETSTNDRV, *IBMSNMPDRV, *IBMIPDRV	オプション
SECURECNN	保護接続	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
VLDL	妥当性検査リスト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
PUBLISHINF	出版情報	要素リスト	オプション
	要素 1: 両面印刷のサポート	*UNKNOWN , *SIMPLEX , *DUPLEX	
	要素 2: サポート・カラー	*UNKNOWN , *NOCOLOR , *COLOR	
	要素 3: 当たりページ数, 黒	1-32767, *UNKNOWN	
	要素 4: 当たりページ数, カラー	1-32767, *UNKNOWN	
	要素 5: ロケーション	文字値, *BLANK , X''	
	要素 6: サポートのデータ・ストリーム	単一値: *UNKNOWN その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *PCL , *PS , *PDF , *IPDS , *SCS	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR , *NONE	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE , *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置クラス (DEVCLS)

この表示装置または印刷装置の装置クラスを指定します。

*LCL

この装置記述はローカル・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

*RMT

この装置記述はリモート・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

*VRT

この装置記述は仮想装置用です。

*SNPT

この装置記述はSNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの印刷装置を接続することができます。

*LAN

装置記述がローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に直接接続された印刷装置用です。

上

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

有効な値は次の通りです。

- 3287
- 3812
- 4214
- 4234
- 4245
- 4247
- 5219
- 5224
- 5225
- 5256
- 5262

- 5553 (2バイト文字セット印刷装置)
- 5583 (2バイト文字セット印刷装置)
- 6252
- 6404
- 6408
- 6412
- *IPDS

ASCII装置の場合のみ次の装置タイプが、さらに一般的な説明付きでリストされます。

タイプ 説明

- 4019** IBMレーザー・プリンター
- 4201** IBM PROPRINTER II
- 4202** IBM PROPRINTER XL
- 4207** IBM PROPRINTER X24
- 4208** IBM PROPRINTER XL24
- 4216** IBMパーソナル・ページ印刷装置
- 4224** IBM 4224印刷装置
- 4234** IBM 4234印刷装置
- 5204** IBM QUICKWRITER
- 6252** IBM IMPACTWRITER

注: PROPRINTER, QUICKWRITERおよびIMPACTWRITERはIBM社の登録商標です。

上

装置型式 (MODEL)

この記述の装置の型式番号を指定します。

タイプ 型式

- 3287** 0
- 3812** 1
- 4214** 2
- 4234** 2
- 4245** T12, T20
- 4247** CTA
- 5219** D1, D2
- 5224** 1, 2
- 5225** 1, 2, 3, 4
- 5256** 1, 2, 3

5262 1
5553 B01
5583 200
6252 T08
*IPDS 0
6404 CTA
6408 CTA
6412 CTA

ASCII装置の場合のみ。

***ASCII**

この印刷装置に対して型式番号が容易に判別できない場合には、この値を指定してください。システムが型式番号を割り当てます（装置に型式番号がある場合）。システムによって割り当てられた型式番号が使用する印刷装置の実際の型式番号でない場合があります。その場合には、次の表から*ASCIIによって割り当てられる型式番号を判別してください。可能な場合には、使用する印刷装置の型式番号をユーザーが判別し、その番号を入力してください。

使用できる選択項目は次の通りです。

タイプ 型式

4019 1 (*ASCII)
4201 2 (*ASCII), 3
4202 1 (*ASCII), 2, 3
4207 1 (*ASCII), 2
4208 1 (*ASCII), 2
4216 10 (*ASCII)
4224 301 (*ASCII), 302, 3E3
4234 13 (*ASCII)
5204 1 (*ASCII)
6252 AS8 (*ASCII)

上

LAN接続機構 (LANATTACH)

DEVCLS(*LAN)を指定した時に、印刷装置の接続形態を指定します。

*LEXLINK

印刷装置はLEXLINKに接続されます。

***IP**

印刷装置はTCP/IPに接続されます。

***USRDFN**

印刷装置接続は、LEXLINKまたはTCP/IPのいずれかでユーザー定義です。

上

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に印刷装置が関連付けられる交換回線の名前を指定します。この印刷装置と関連付けることのできる交換回線のタイプは、直接フレーム・リレー、トークンリング、イーサネットIEEE 802.3,およびすべての標準が指定されたイーサネットです。

最大8本の交換回線を指定することができます。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時のリモート印刷装置の12桁の16進数LANアドレスを指定します。有効な値の範囲は000000000001からFFFFFFFFFFFFEです。

上

アダプター・タイプ (ADPTTYPE)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に使用されるLAN印刷装置アダプターのタイプを指定します。

*INTERNAL

印刷装置は内部LANアダプター・カードをもっています。

*EXTERNAL

印刷装置は内部LANアダプター・カードをもっています。

上

アダプター接続タイプ (ADPTCNNTYP)

DEVCLS(*LAN)およびADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定された時に、外部LAN印刷装置アダプターによってサポートされているポートのタイプを指定します。

注: ADPTTYPE(*INTERNAL)を指定した時には、このパラメーターは無視されます。

*PARALLEL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数の並行ポートをサポートしています。

*SERIAL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数のシリアル・ポートをサポートしています。

上

エミュレートされる平衡型装置 (EMLDEV)

ASCII印刷装置の場合に、ASCII印刷装置がエミュレートする平衡型印刷装置のタイプを指定します。

3812

ASCII印刷装置4019, 4216,および5204には、3812-1型エミュレーションが有効です。

5219

4201, 4202,および4234以外のすべてのASCII印刷装置には、5219-D2型エミュレーションが有効です。

5224

すべてのASCII印刷装置の場合に、5224-1型エミュレーションが有効です。

5256

すべてのASCII印刷装置の場合に、5256-3型印刷装置が有効です。

上

拡張機能の印刷 (AFP)

この印刷装置が高機能印刷を行うかどうかを指定します。たいていのIPDS印刷装置は、AFP(*YES)またはAFP(*NO)のどちらでも構成できます。たいていの非IPDS印刷装置は、構成できるのはAFP(*NO)だけです。このパラメーターが使用されるのは、**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターで*LCL, *RMT,または*LANが指定され、**装置タイプ (TYPE)**で*IPDSが指定されている場合だけです。

*NO

この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されません。

*YES

この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されます。

上

AFP接続機構 (AFPATTACH)

印刷装置に使用される接続機構のタイプを指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

*WSC

3812または3816印刷装置が、ローカルまたはリモート・ワークステーション制御機構に接続されます。

*APPC

3820, 3825, 3827,および3835印刷装置は、APPC/APPNを使用してLU 6.2によって接続されます。

上

ポート番号 (PORT)

印刷装置のポート番号を指定します。有効な値の範囲は0から65535です。印刷装置によっては、有効な値の範囲はさらに制限される場合があります。

平衡型接続印刷装置の場合:有効な値の範囲は0から7です。

TCP/IPネットワークに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN), TYPE(3812),およびLANATTACH(*IP)は次のように指定されます。

注: 装置がSIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP), SYSDRVPGM(*IBMSNMPDRV)またはHP印刷装置ジョブ言語(PJL), SYSDRVPGM(*IBMPJLDRV)をサポートしている場合には、装置の資料を参照するか、あるいはポート番号の判別を装置メーカーに依頼してください。

装置がINTERNET PRINTING PROTOCOL (IPP), SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)をサポートしている場合には、周知のポート番号は631です。

ASCII端末制御装置に接続する印刷装置の場合: 有効な値は0から17の範囲であり、印刷装置が接続されるASCII端末制御装置のポートを示します。12ポート拡張機能がないと、ポート0から5だけが有効です。12ポート拡張機構がある場合には、ポート6から17が追加されます。

LANに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN) TYPE(3812),およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)は次のように指定されます。

注: ADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定される場合は、使用するパラレル・ポートまたはシリアル・ポートのポート番号値を示します (外部LANアダプターに複数ポートがあるとき)。有効な値の範囲は0から17です。

ADPTTYPE(*INTERNAL)が指定される場合は、ポート番号は不要です。

上

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0から6です。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00からFEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

5251 00, 02-09

5294 00-1B

5394 00-14

5494 00-37

3174 02-41

3274 02-41

SNAホスト

01-FE

4701 02-FE

4702 02-FE

4680 02-54

4684 02-FE

FBSS 02-FE

上

補助印刷装置 (AUXPRT)

ASCII印刷装置の場合に、この印刷装置記述が補助印刷装置用のものであるかどうかを指定します。補助印刷装置は、ASCIIワークステーション制御機構に物理的にケーブル接続されるのではなく、ASCII表示装置に接続されます。印刷装置に送られたすべてのデータは表示装置を通過します。

*YES

この印刷装置をASCII表示装置の補助ポートに接続するよう指定します。

*NO

この印刷装置がASCIIワークステーション制御装置に物理的にケーブル接続されることを指定します。

補助印刷装置の場合には、次のパラメーターが、この印刷装置が接続されるASCII表示装置に指定されるパラメーターと一致しなければなりません。

- ATTACH (物理的接続機構)
- LINESPEED (回線速度)
- WORDLEN (語の長さ)
- PARITY (パリティのタイプ)
- STOPBITS (停止ビットの数)

上

ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)

ASCII装置の場合には、構成された装置がサポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター) をエミュレートしているかどうかを指定します。ASCII装置が構成されている時には、次のパラメーターの選択項目はその装置の有効範囲に制限されます。

- ATTACH (物理的接続機構)
- LINESPEED (回線速度)
- WORDLEN (語の長さ)
- PARITY (パリティのタイプ)
- STOPBITS (停止ビットの数)

サポートされるASCII装置タイプをエミュレートしているASCII装置の場合には、これらの制約事項は適用されないことがあります(エミュレートを行う装置は、エミュレートされるASCII装置より、これらのパラメーターに対するより広い範囲の選択項目をもっている場合があります)。EMLASCII(*YES)が指定された時には、これらのパラメーターには制約事項はありません。ユーザーはこれらのパラメーターに、範囲いっぱい値を入力することができますが、同時に、選択された値が構成中の装置に対して有効であることを確認する責任があります。

*NO

構成しようとしている装置が**装置タイプ (TYPE)**パラメーターのサポートされているASCII装置タイプの1つであり、物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターの装置特有の制約事項が適用されることを示します。

*YES

構成される装置が、サポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター) の1つをエミュレートしていること、および物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターに対して装置固有の制約事項が適用されないことを指定します。

上

物理的接続 (ATTACH)

ASCII表示装置の場合に、ASCIIワークステーション制御機構に対する表示装置の物理的接続機構を指定します。

*EIA422

EIA-422接続機構を使用します(3101, 3151, 3161, 3162, 3163,および3164の場合にのみ有効)。

*DIRECT

EIA-232直接接続機構を指定します。

*MODEM

EIA-232モデム接続機構を指定します。

*PTT

郵便電話電信(PTT)接続機構を指定します。

*WIRE3

EIA-232 3線接続機構を指定します。

*WIRE4

EIA-232 4線接続機構を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

言語タイプ (LNGTYPE)

ASCII印刷装置では、この印刷装置の省略時の国別キーボード言語IDを記述します。

次の言語は、ホスト印刷変換かワークステーション・カスタマイズのいずれかが使用されている場合にのみASCII装置で使用することができます。ALI, BGB, CSB, ESB, HNB, IRB, JPB, LTB, LVB, MKB, PKB, PLB, RMB, RUB, SKB, SQB, TRB, UAB,およびYGI。

*SYSVAL

システムはQKBDTYPEシステム値を使用します。

言語タイプ

次のテーブルからこの印刷装置に正しい国別キーボード言語IDを指定してください。

ID	言語 (国) - ASCII装置グループ
ALI	アルバニア
CLB	アラビア語X/BASIC - D*
AGB	オーストリア/ドイツ- A, B
AGI	オーストリア/ドイツ各国間- A, B
BLI	ベルギー各国間- B
BRB	ブラジル・ポルトガル語
BGB	ブルガリア
CAB	カナダ・フランス語- A, B
CAI	カナダ・フランス語各国間- A, B
SPB	カタロニア語
YGI	クロアチア/セルビア (ローマ字) /スロベニア
CYB	キリル
CSB	チェコ共和国
DMB	デンマーク- B
DMI	デンマーク各国間- B
ESB	エストニア
FNB	フィンランド/スウェーデン- B
FNI	フィンランド/スウェーデン各国間- B
FAB	フランス(AZERTY) - A, B
FAI	フランス(AZERTY)各国間- A, B
GNB	ギリシャ語 (注を参照)

NCB ヘブライ語- D*

HNB ハンガリー

ICB アイスランド

ICI アイスランド各国間

IRB イラン (ペルシア語)

ITB イタリア- A, B

ITI イタリア各国間- A, B

JPB 日本ラテン語拡張

ROB ローマ字-2/ROECE (中欧, 東欧)

LVB ラトビア

LTB リトアニア

MKB FYRマケドニア (前ユーゴスラビア連邦)

NEB オランダ

NEI オランダ各国間

NWB ノルウェー- B

NWI ノルウェー各国間- B

PLB ポーランド

PRB ポルトガル- B

PRI ポルトガル各国間- B

RMB ルーマニア

RUB ロシア

SQB セルビア (キリル語)

SKB スロバキア

SPB スペイン- B

SPI スペイン各国間- B

SSB スペイン語圏- B

SSI スペイン語圏各国間- B

SWB スウェーデン- B

SWI スウェーデン各国間- B

SFI スイス/フランス語各国間- B

SGI スイス/ドイツ語各国間- B

THB タイ

TKB トルコ(QWERTY)

TRB トルコ(F)

UAB ウクライナ

UKB 英国- A, B

UKI 英国各国間- A, B
USB 米国／カナダ- A, B, C
USI 米国／カナダ各国間- A, B, C
PKB ウルドゥー語
YGI 前ユーゴスラビアの言語

注: GNBコードはギリシャの現在のIDです。 GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

上

印刷品質 (PRTQLTY)

ASCII印刷装置の省略時の印刷品質を下位品質から最上品質の順に、ドラフト(*DRAFT)、標準(*STD)、または近英字品質(*NLQ)のいずれにするかを指定します。すべてのASCII印刷装置のタイプ(すべてのエミュレーション)はこのパラメーターでサポートします。印刷装置が5219をエミュレートしている(EMLDEVパラメーター)場合は、この品質はこの印刷装置の送り先の個別印刷ファイルによって一時変更します。

注: すべての平衡型印刷装置エミュレーションがこのパラメーターをサポートします。ASCII印刷装置が5219平衡型印刷装置をエミュレートしている場合には、この印刷品質設定値は、この印刷装置に送信される個々の印刷ファイルによって一時変更されます。

*STD

標準品質設定値を指定します。

*DRAFT

ドラフト品質設定値を指定します。

*NLQ

近英字品質の設定値を指定します。

上

フォント識別コード (FONT)

3812, 3816, 5219印刷装置(5219印刷装置をエミュレートするASCII印刷装置を含む) , およびIPDS印刷装置で使用されるフォントIDおよびポイント・サイズを指定します。フォントID (10桁まで) は, この印刷装置で使用されます。各フォントIDには暗黙の1インチ当たりの文字数(CPI)値があります。IDまたはポイント・サイズが指定されていない場合には, システムにより自動的に設定されます。

注: いくつかのフォントは印刷装置によって置き換えられることがあります。 詳細については, 各印刷装置の手引き書を参照してください。

要素1:フォントID

ID

この印刷装置に関連したフォントIDを指定してください。

要素2:ポイント・サイズ

*NONE

ポイント・サイズはシステムによって指定され, 指定されたフォントIDによって決定されます。

ポイント・サイズ

0.1から999.9の範囲のポイント・サイズを指定してください。

上

用紙送り (FORMFEED)

このスプール・ファイルに使用される用紙送り接続機構を指定します。このパラメーターは、印刷装置への用紙の送り方を決定します。すべての印刷装置がこのパラメーターをサポートするわけではありません。このパラメーターがサポートされているかどうかを判別するには、印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドを参照してください。

注: ホスト印刷変換機能が使用可能になった時に、FORMFEEDパラメーターはPPRSRC1パラメーターに指定された値によって一時変更されます。

*TYPE

用紙送りの値は、印刷装置タイプに基づいてシステムによって判別されます。

MODEL(*IPDS)の場合には、この値を正確に判別できません。*CONT, *CONT2, *CUT,または *AUTOCUTから印刷装置に適切な値を選択する必要があります。

***CONT**

印刷装置で連続用紙が使用されます。一部の印刷装置(3812, 4216)には、連続用紙送り接続機構が備わっていません(これらは実際には連続用紙をサポートしない)。しかし、場合によっては、エミュレートされる平衡型印刷装置のサポートと合わせるために、*CONTを指定しなければなりません。

***CONT2**

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構が必要です。この値は4214, 4234, 4247,および*IPDS印刷装置に使用できません。

***CUT**

印刷装置で単票用紙が使用されます。単票用紙の場合には、用紙位置決めのメッセージは送信されません。この値は、SCS 5219印刷装置をエミュレートしている4216印刷装置を除き、すべてのASCII印刷装置に有効です。

***AUTOCUT**

単票用紙が自動的に印刷装置に送り込まれます。この印刷装置には、用紙送り接続機構が備わっていません。*AUTOCUT機能は、5219印刷装置をエミュレートしている4207, 4208, 4216, 4224,および5204印刷装置に対して有効です。

上

区切り用紙入れ (SEPDRAWER)

分離ページを印刷するためにどの用紙入れを選択するかを指定します。

*FILE

分離ページは、残りのスプール・ファイルと同じ用紙入れからの用紙に印刷されます。

分離ページ用紙入れ

分離ページを印刷する用紙入れを指示する1から255の範囲の値を指定してください。

注：一部の印刷装置の場合には、SEPDRAWER(3)は封筒引き出しを暗黙のうちに指定します。

上

セパレーター・プログラム (SEPPGM)

ジョブおよびファイル区切り文字の印刷時にユーザーがユーザー出口プログラムを呼び出せるようにすることによって、分離ページのスタイルを指定します。

*NONE

分離ページは変更されません。

出口プログラム名

出口プログラム名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出口プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

用紙入れの数 (NBRDRAWER)

*AUTOCUTを使用して用紙送り(FORMFEEDパラメーター)に定義したASCII印刷装置の場合に、印刷装置の用紙送り接続機構がサポートする用紙入れは1台なのか、2台なのか、あるいは3台なのかを指定します。用紙送りが*CONTまたは*CUTの場合には、このパラメーターは適用されません。

注: 用紙入れ数のパラメーターは、印刷装置が用紙をどの用紙入れから選択するかではなく、物理的にサポートする用紙入れの数を指定します。どの用紙入れを選択するかは、印刷装置に送信される個々の印刷装置ファイルによって指示されます。

1

1つの用紙入れが物理的にサポートされます。

2

2つの用紙入れが物理的にサポートされます。

3

3つの用紙入れが物理的にサポートされます。

FORMFEED(*AUTOCUT)をサポートする印刷装置では、次の数の用紙入れがサポートされます。

1. 4207-1および4208印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(1)だけです。
2. 4224印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(3)だけです。
3. 4207-2, 4216, および5204印刷装置では、1, 2, および3のNBRDRAWER値がサポートされます。

注: NBRDRAWER(3)は、2つの用紙入れおよび封筒入れが使用されます。

上

印刷装置エラー・メッセージ (PRTERMSG)

回復可能エラーに対して、装置が照会メッセージまたは通知メッセージのどちらを受け取るのかを指定します。このパラメーターは、ASCIIワークステーション制御装置に接続された印刷装置には適用されません。

*INQ

回復可能エラーに対して、照会メッセージが送信されます。

***INFO**

回復可能エラーに対して、通知メッセージが送信されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***CTLD**

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL**

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ (バイト数) を指定します。

*CALC

システムが使用に最も適した値を決定します。

*CALCの値はX.25ネットワークに接続されていない装置に対して指定しなければなりません。

*CALCはX.25ネットワークに接続された装置に対して指定することができます。すべての場合に

*CALCが推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*NONE

装置はすべてのアプリケーションに使用されません。

*NRF

装置はネットワーク経路指定機能(NRF)アプリケーションに使用されます。

*DEVINIT

この装置はセッションを開始します。

*APPINIT

アプリケーション・プログラムがセッションを開始します。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間（秒数）を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注: このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

170

装置は170秒待機します。

***NOMAX**

装置は無制限に待機します。

注: *NOMAXは、DEVCLS(*LAN)とAFP(*YES)の時それらが指定された時にのみ有効です。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する数値を指定してください。

注: LANATTACHが*LEXLINKであり、指定された秒数を経過した場合には、照会メッセージが出されます。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

非活動タイマー（タイムアウト）値を指定します。このパラメーターは、装置の他の属性に基づいて、タイムアウト値を超えた時に何が起こるのかも指定します。

- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続された装置の場合には、ユーザーはQSYSOPRに対するメッセージによって通知され、セッションは、装置がホスト・アプリケーションに結合されていない時間がタイムアウト値を超えた時に終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。
- アプリケーション・タイプの値が*APPINIT, *DEVINIT,または*NRFである装置の場合には、セッションは、タイムアウト値を超える時間の間装置が非活動状態になった（装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、その装置についてファイルをオープンするための追加要求を受け取らなかった）時に終了します。

注：サブシステムは常に装置に対してオープンされたファイルをもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置では使用されません（通常の対話式使用）。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

その他の接続機構の場合には、有効な値の範囲は1から30分です。

***ATTACH**

この値は、物理的接続機構(ATTACHパラメーター)の値と、装置クラス(DEVCLS)およびアプリケーション・タイプ(APPTYPE)パラメーター上の一定の値によって変化します。

1. DEVCLS(*SNPT)またはAPPTYPE(*DEVINIT)のサポートでは、*ATTACHは*NOMAX にマップします。
2. DEVCLS(*LAN)では、*ATTACHは*SEC15にマップします。
3. APPTYPE(*NRF)およびAPPTYPE(*APPINIT)のサポートでは、*ATTACHは1分にマップします。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFLGコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)または APPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNA パススルー・サポートを開始した後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

このパラメーターは、ファイルが*NRF用にオープンされた時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP)に送信されるログオン・ストリングも指定します。

*NONE

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストにブランクまたは他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

上

ペーシング値 (PACING)

要求／応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7

7ビット・ワード長を指定します。

ペーシング値

1から7の範囲内の値を指定してください。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*TYPE

システムはこの装置タイプに推奨された設定値を使用します。*TYPEはすべての印刷装置に19200ビット/秒を選択します。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値は150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,または38400です。

上

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ（ビット／文字）を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

*TYPE

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEはすべての印刷装置に8ビットの語の長さを選択します。

7

7ビット・ワード長を指定します。

8

8ビット・ワード長を指定します。

上

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT) 接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEは、すべての印刷装置に対して*EVEN（偶数パリティ）を選択します。

***EVEN**

偶数パリティを指定します。

***ODD**

奇数パリティを指定します。

***NONE**

パリティ・ビットを使用しないことを指定します。

***MARK**

マーク・パリティ（パリティでは1を使用する）を指定します。

***SPACE**

スペース・パリティ（パリティでは0を使用する）を指定します。

上

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

*TYPE

1

1停止ビットを指定します。

2

2停止ビットを指定します。

上

ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)

印刷装置がホスト印刷変換サポートを使用するかどうかを指定します。

*NO

印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用しません。

*YES

印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用します。

上

メーカー・タイプ、型式 (MFRTYPMDL)

ホスト印刷変換機能を使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定します。

文字値 印刷装置の対応するメーカー、タイプ、および型式を指定します。

次のリストには、使用している装置に指定された値が示されています。

注: MFRTYPMDLに*WSCSTXXXが指定されている場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定しなければなりません。

メーカー、タイプ、および型式テーブル

*IBM2380	IBM 2380パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2380プラス・プリンター
*IBM2381	IBM 2381パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2381プラス・プリンター
*IBM2390	IBM 2390パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2390プラス・プリンター
*IBM2391	IBM 2391パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2391プラス・プリンター
*IBM3112	IBM 3112ページ印刷装置
*IBM3116	IBM 3116ページ印刷装置
*IBM3130	IBM 3130拡張印刷装置
*IBM3812	IBM 3812ページ印刷装置
*IBM3816	IBM 3816ページ印刷装置
*IBM3912HP	IBM 3912ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM3916HP	IBM 3916ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM39302	IBM 39302 IBM 3930-02Sページ印刷装置
	IBM 39302 IBM 3930-02Dページ印刷装置
*IBM39303	IBM 39303 IBM 3930-03Sページ印刷装置
	IBM 39303 IBM 3930-03Dページ印刷装置
*IBM4019	IBM 4019レーザー・プリンター IBM 4019Eレーザー・プリンターE
*IBM4019HP	IBM 4019レーザー・プリンター (HPモード) IBM 4019Eレーザー・プリンターE (HPモード)
*IBM4029	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E IBM 4029-020レーザー・プリンター6 IBM 4029-030レーザー・プリンター10 IBM 4029-040レーザー・プリンター10L
*IBM4029HP	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E (HPモード) IBM 4029-020レーザー・プリンター6 (HPモード) IBM 4029-030レーザー・プリンター10 (HPモード) IBM 4029-040レーザー・プリンター10L (HPモード)
*IBM4037	IBM 4037 5E印刷装置
*IBM4039HP	IBM 4039レーザー・プリンター10D (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Dプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Rプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Rプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Lプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16Lプラス (HPモード)

*IBM4070	IBM 4070 IJ (IBMモード)
*IBM4070EP	IBM 4070 IJ (EPSONモード)
*IBM4072	IBM 4072 EXECJET
*IBM4076	IBM 4076 EXECJET II印刷装置(HPモード)
*IBM42011	IBM 4201-1 PROPRINTER
*IBM42012	IBM 4201-2 PROPRINTER II
*IBM42013	IBM 4201-3 PROPRINTER III
*IBM42021	IBM 4202-1 PROPRINTER XL
*IBM42022	IBM 4202-2 PROPRINTER II XL
*IBM42023	IBM 4202-3 PROPRINTER III XL
*IBM42071	IBM 4207-1 PROPRINTER X24
*IBM42072	IBM 4207-2 PROPRINTER X24E
*IBM42081	IBM 4208-1 PROPRINTER XL24
*IBM42082	IBM 4208-2 PROPRINTER XL24E
*IBM4212	IBM 4212 PROPRINTER 24P
*IBM4216	IBM 4216-10パーソナル・ページ・プリンター
*IBM4226	IBM 4226-302印刷装置
*IBM4230	IBM 4230-4S3印刷装置(IBMモード)
	IBM 4230-4I3印刷装置(IBMモード)
*IBM4232	IBM 4232-302印刷装置(IBMモード)
*IBM4244ASF	IBM 4244印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
*IBM4244DUAL	IBM 4244印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
*IBM4244MAN	IBM 4244印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
*IBM4247ASF	IBM 4247印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
*IBM4247DUAL	IBM 4247印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
*IBM4247MAN	IBM 4247印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
*IBM4308	IBM INFOPRINTカラー8
*IBM4312	IBMネットワーク印刷装置12
*IBM4317	IBMネットワーク印刷装置17
*IBM4320	IBM INFOPRINT 20
*IBM4322	IBM INFOPRINT 21
*IBM4324	IBM ネットワーク印刷装置24
*IBM4332	IBM INFOPRINT 32
*IBM4340	IBM INFOPRINT 40
*IBM47121	IBM 4712-1トランザクション印刷装置
*IBM47122	IBM 4712-2トランザクション印刷装置
*IBM47221	IBM 4722-1文書印刷装置
*IBM47222	IBM 4722-2文書印刷装置
*IBM4770	IBM 4770インクジェット・トランザクション印刷装置
*IBM4912	IBM INFOPRINT 12
*IBM5152	IBM 5152グラフィック印刷装置
*IBM5201	IBM 5201-2 QUIETWRITER
*IBM5202	IBM 5202-1 QUIETWRITER III
*IBM5204	IBM 5204-1 QUICKWRITER
*IBM5216	IBM 5216 WHEELPRINTER
*IBM5575	IBM 5579-H02型印刷装置
	IBM 5579-K02型印刷装置
	IBM 5577-T02型印刷装置
	IBM 5579-S02型印刷装置
	IBM 5577-K02型印刷装置
	IBM 5577-J02型印刷装置
	IBM 5577-G02型印刷装置
	IBM 5577-H02型印刷装置
	IBM 5577-F02型印刷装置
	IBM 5577-B02型印刷装置
	IBM 5575-H02型印刷装置
	IBM 5575-F02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5575-B02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5573-K02型印刷装置
	IBM 5573-J02型印刷装置
	IBM 5573-H02型印刷装置
	IBM 5573-G02型印刷装置
	IBM 5572-B02型印刷装置
	IBM 5417-011型印刷装置
	IBM 5407-011型印刷装置
	IBM 5327-011型印刷装置
	IBM 4208-502型印刷装置

*IBM6400	IBM 6400印刷装置(IBMモード)
*IBM6400EP	IBM 6400印刷装置(EPSONモード)
*IBM6404	IBM 6404印刷装置(IBMモード)
*IBM6404EP	IBM 6404印刷装置(EPSONモード)
*IBM6408	IBM 6408-A00印刷装置(IBMモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6408EP	IBM 6408-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBM6412	IBM 6412-A00印刷装置(IBMモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6412EP	IBM 6412-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBMPAGES	IBM 5589-H01印刷装置
	IBM 5588-H02印刷装置
	IBM 5587-H01印刷装置
	IBM 5586-H02印刷装置
	IBM 5585-H01印刷装置
	IBM 5584-K02型印刷装置
	IBM 5584-H02印刷装置
	IBM 5584-G02印刷装置
*IBMPAGESNPB	*IBMPAGESと同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*IBMPAGES300	IBMネットワーク・プリンター12 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター17 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター24 (PAGESフィーチャー付き)
	IBM INFOPRINT 20 (PAGESフィーチャーなし)
	IBM INFOPRINT 32 (PAGESフィーチャーあり)
	IBM INFOPRINT 40 (PAGESフィーチャーあり)
*IBMPAGES300NPB	*IBMPAGES300と同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*INFOPRINT8C	IBM INFOPRINTカラー8
*INFOPRINT12	IBM INFOPRINT 12
*INFOPRINT20	IBM INFOPRINT 20
*INFOPRINT21	IBM INFOPRINT 21
*INFOPRINT32	IBM INFOPRINT 32
*INFOPRINT40	IBM INFOPRINT 40
*INFOPRINT70	IBM INFOPRINT 70
*INFOPRINT85	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT1116	IBM INFOPRINT 1116
*INFOPRINT1120	IBM INFOPRINT 1120
*INFOPRINT1125	IBM INFOPRINT 1125
*INFOPRINT1130	IBM INFOPRINT 1130
*INFOPRINT1140	IBM INFOPRINT 1140
*INFOPRINT1145	IBM INFOPRINT 1145
*INFOPRINT1220C	IBM INFOPRINTカラー1220
*INFOPRINT1222	IBM INFOPRINT 1222
*INFOPRINT1226	IBM INFOPRINT 1226
*INFOPRINT1228C	IBM INFOPRINTカラー1228
*INFOPRINT1312	IBM INFOPRINT 1312
*INFOPRINT1332	IBM INFOPRINT 1332
*INFOPRINT1334C	IBM INFOPRINTカラー1334
*INFOPRINT1352	IBM INFOPRINT 1352
*INFOPRINT1354C	IBM INFOPRINTカラー1354
*INFOPRINT1357C	IBM INFOPRINTカラー1357
*INFOPRINT1372	IBM INFOPRINT 1372
*INFOPRINT1400C	IBM INFOPRINTカラー14xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1410	IBM INFOPRINT 1410 MFP
*INFOPRINT1412	IBM INFOPRINT 1412
*INFOPRINT1422	IBM INFOPRINT 1422
*INFOPRINT1500	IBM INFOPRINT 15xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1500C	IBM INFOPRINTカラー15xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1600	IBM INFOPRINT 16xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1600C	IBM INFOPRINTカラー16xxシリーズ印刷装置

*INFOPRINT2000	IBM INFOPRINT 2000
*INFOPRINT2085	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2190	IBM INFOPRINT 2190
*INFOPRINT2210	IBM INFOPRINT 2210
*INFOPRINT2235	IBM INFOPRINT 2235
*INFOPRINT2705	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2706	IBM INFOPRINT 2105ES
*INFOPRINT2761	IBM INFOPRINT 2060ES
*INFOPRINT2775	IBM INFOPRINT 2075ES
*INFOPRINT2785	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2790	IBM INFOPRINT 2090ES
*INFOPRINT6500	IBM INFOPRINT 6500 (Epsonモード)
*CANLIPS3	CANON LIPS3 DBCS印刷装置
*CANLIPS3NPB	*CANLIPS3と同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*CPQPM15	COMPAQ PAGEMARK 15 (HPモード)
*CPQPM20	COMPAQ PAGEMARK 20 (HPモード)
*EPAP2250	EPSON ACTIONPRINTER 2250
*EPAP3250	EPSON ACTIONPRINTER 3250
*EPAP5000	EPSON ACTIONPRINTER 5000
*EPAP5500	EPSON ACTIONPRINTER 5500
*EPDFX5000	EPSON DFX-5000
*EPDFX8000	EPSON DFX-8000
*EPEPL7000	EPSON EPL-7000
*EPEPL8000	EPSON EPL-8000
*EPFX850	EPSON FX-850
*EPFX870	EPSON FX-870
*EPFX1170	EPSON FX-1170
*EPLQ510	EPSON LQ-510
*EPLQ570	EPSON LQ-570
*EPLQ860	EPSON LQ-860
*EPLQ870	EPSON LQ-870
*EPLQ1070	EPSON LQ-1070
*EPLQ1170	EPSON LQ-1170
*EPLQ2550	EPSON LQ-2550
*EPLX810	EPSON LX-810
*EPSQ870	EPSON SQ-870
*EPSQ1170	EPSON SQ-1170
*ESCPDBCS	EPSON ESC/P DBCS印刷装置
*HP11	HP LASERJETシリーズII
*HP11D	HP LASERJET IID
*HP11P	HP LASERJET IIP
*HP11I	HP LASERJET III
*HP11ID	HP LASERJET IIID
*HP11IP	HP LASERJET IIIP
*HP11ISI	HP LASERJET IIISI
*HP4	HP LASERJET 4
*HP5	HP LASERJET 5シリーズ
*HP5SI	HP LASERJET 5SI
*HP6	HP LASERJET 6シリーズ
*HP310	HP DESKJET 310
*HP320	HP DESKJET 320
*HP500	HP DESKJET 500
*HP520	HP DESKJET 520
*HP540	HP DESKJET 540
*HP550C	HP DESKJET 550C
*HP560C	HP DESKJET 560C
*HP1100	HP LASERJET 1100シリーズ
*HP1200C	HP DESKJET 1200C
*HP1600C	HP DESKJET 1600C
*HP4000	HP LASERJET 4000シリーズ
*HP5000	HP LASERJET 5000シリーズ
*HP8000	HP LASERJET 8000シリーズ
*HPCOLORLJ	HP COLOR LASERJET 5
*HPDBCS	HP LASERJET互換印刷装置DBCS入力用
*HPPAINT	HP PAINTJET

HP PAINTJET XL
HP PAINTJET XL300

*LEX2380 LEXMARK用紙印刷装置2380プラス
*LEX2381 LEXMARK用紙印刷装置2381プラス
*LEX2390 LEXMARK用紙印刷装置2390プラス
*LEX2391 LEXMARK用紙印刷装置2391プラス
*LEX4227 LEXMARK 4227用紙印刷装置
*LEXMARKC LEXMARK Cシリーズ印刷装置
*LEXMARKC510 LEXMARK C510カラー印刷装置
*LEXMARKC750 LEXMARK C750カラー印刷装置
*LEXMARKC752 LEXMARK C752カラー印刷装置
*LEXMARKC910 LEXMARK C910カラー印刷装置
*LEXMARKC912 LEXMARK C912カラー印刷装置
*LEXMARKE LEXMARK Eシリーズ印刷装置
*LEXMARKE322 LEXMARK E322印刷装置
*LEXMARKE323 LEXMARK E323印刷装置
*LEXMARKE330 LEXMARK E330印刷装置
LEXMARK E332N印刷装置
*LEXMARKT LEXMARK Tシリーズ印刷装置
*LEXMARKT420 LEXMARK T420印刷装置
*LEXMARKT520 LEXMARK T520印刷装置
*LEXMARKT522 LEXMARK T522印刷装置
*LEXMARKT620 LEXMARK T620印刷装置
*LEXMARKT622 LEXMARK T622印刷装置
*LEXMARKT630 LEXMARK T630印刷装置
*LEXMARKT632 LEXMARK T632印刷装置
*LEXMARKT634 LEXMARK T634印刷装置
*LEXMARKW LEXMARK Wシリーズ印刷装置
*LEXMARKW812 LEXMARK W812印刷装置
*LEXMARKW820 LEXMARK W820印刷装置
*LEXMARKX422 LEXMARK X422 MFP
*LEXOPTRA LEXMARK OPTRA FAMILY (HPモード)
*LEXOPTRAC LEXMARK OPTRA Cカラー印刷装置
*LEXOPTRAN LEXMARK OPTRA N印刷装置
*LEXOPTRAS LEXMARK OPTRA S印刷装置ファミリー
*LEXOPTRAS LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置
LEXMARK OPTRAカラー1200印刷装置
*LEXOPTRAT LEXMARK OPTRA T印刷装置シリーズ
*LEXOPTRAW LEXMARK OPTRA W印刷装置シリーズ
*NECP2 NEC P2 PINWRITER
*NECP2200 NEC P2200 PINWRITER
*NECP2200XE NEC P2200 XE PINWRITER
*NECP5200 NEC P5200 PINWRITER
*NECP5300 NEC P5300 PINWRITER
*NECP6200 NEC P6200 PINWRITER
*NECP6300 NEC P6300 PINWRITER
*NEPCPR201 NEC PC-PR101 DBCS印刷装置
NEC PC-PR201 DBCS印刷装置

*NONE 印刷装置は、CVTIMG APIによって生成された
ページ記述子言語をサポートします。
注：装置タイプが*SCSまたは*AFPDSの
スプール・ファイルは、これらの印刷装置
のホスト印刷変換機能では処理できま
せん。

*OKI184IBM OKIDATA MICROLINE 184 TURBO (IBMモード)
*OKI320IBM OKIDATA MICROLINE 320 (IBMモード)
*OKI321IBM OKIDATA MICROLINE 321 (IBMモード)
*OKI390IBM OKIDATA MICROLINE 390 PLUS (IBMモード)
*OKI391IBM OKIDATA MICROLINE 391 PLUS (IBMモード)
*OKI393IBM OKIDATA MICROLINE 393 PLUS (IBMモード)
*OKI590IBM OKIDATA MICROLINE 590 (IBMモード)
*OKI591IBM OKIDATA MICROLINE 591 (IBMモード)
*OKI400 OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置
*OKI800 OKIDATA OL800 LEDページ印刷装置
*OKI810 OKIDATA OL810 LEDページ印刷装置
*OKI820 OKIDATA OL820 LEDページ印刷装置
*OKI3410 OKIDATA PACEMARK 3410

*PAN1123EP	PANASONIC KX-P1123 (EPSONモード)
*PAN1124EP	PANASONIC KX-P1124 (EPSONモード)
*PAN1124IEP	PANASONIC KX-P1124I (EPSONモード)
*PAN1180EP	PANASONIC KX-P1180 (EPSONモード)
*PAN1180IEP	PANASONIC KX-P1180I (EPSONモード)
*PAN1191EP	PANASONIC KX-P1191 (EPSONモード)
*PAN1624EP	PANASONIC KX-P1624 (EPSONモード)
*PAN1654EP	PANASONIC KX-P1654 (EPSONモード)
*PAN1695EP	PANASONIC KX-P1695 (EPSONモード)
*PAN2123EP	PANASONIC KX-P2123 (EPSONモード)
*PAN2124EP	PANASONIC KX-P2124 (EPSONモード)
*PAN2180EP	PANASONIC KX-P2180 (EPSONモード)
*PAN2624EP	PANASONIC KX-P2624 (EPSONモード)
*PAN4410HP	PANASONIC KX-P4410 (HPモード)
*PAN4420HP	PANASONIC KX-P4420 (HPモード)
*PAN4430HP	PANASONIC KX-P4430 (HPモード)
*PAN4450IHP	PANASONIC KX-P4450I (HPモード)
*PAN4451HP	PANASONIC KX-P4451 (HPモード)
*PANASONIC2310	PANASONIC DP-2310印刷装置
*PANASONIC3010	PANASONIC DP-3010印刷装置
*PANASONIC3510	PANASONIC DP-3510印刷装置
*PANASONIC3520	PANASONIC DP-3520印刷装置
*PANASONIC4510	PANASONIC DP-4510印刷装置
*PANASONIC4520	PANASONIC DP-4520印刷装置
*PANASONIC6010	PANASONIC DP-6010印刷装置
*PANASONIC6020	PANASONIC DP-6020印刷装置
*PDF	Portable Document Format
*PDFEMBDDT	Portable Document Format。すべてのTrueType フォント参照が出力文書に組み込まれます。
*PDFIBMWT	Portable Document Format。システムに付属の IBM WorldTypeフォントが標準PDFフォント参照 にマップされます。
*RICOH1515	RICOH AFICIO 1515印刷装置シリーズ
*RICOH2015	RICOH AFICIO 2015印刷装置シリーズ
*RICOH2018	RICOH AFICIO 2018印刷装置シリーズ
*RICOH2022	RICOH AFICIO 2022印刷装置シリーズ
*RICOH2027	RICOH AFICIO 2027印刷装置シリーズ
*RICOH2032	RICOH AFICIO 2032印刷装置シリーズ
*RICOH2035	RICOH AFICIO 2035印刷装置シリーズ
*RICOH2045	RICOH AFICIO 2045印刷装置シリーズ
*RICOHAP400	RICOH AFICIO AP400印刷装置シリーズ
*RICOHAP600N	RICOH AFICIO AP600N印刷装置シリーズ
*RICOHAP900	RICOH AFICIO AP900印刷装置シリーズ
*RICOHAP3200	RICOH AFICIO AP3200印刷装置シリーズ
*RICOHAP4510	RICOH AFICIO AP4510印刷装置シリーズ
*RICOHCL2000	RICOH AFICIO CL2000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL3100	RICOH AFICIO CL3000Eカラー印刷装置シリーズ RICOH AFICIO CL3100Nカラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL4000	RICOH AFICIO CL4000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL5000	RICOH AFICIO CL5000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7000	RICOH AFICIO CL7000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7100	RICOH AFICIO CL7100カラー印刷装置シリーズ
*RICOHMP1100	RICOH AFICIO MP1100印刷装置シリーズ
*RICOHMP1350	RICOH AFICIO MP1350印刷装置シリーズ
*RICOHMP9000	RICOH AFICIO MP9000印刷装置シリーズ
*RICOHSP4100N	RICOH AFICIO SP4100N印刷装置シリーズ RICOH AFICIO SP4110N印刷装置シリーズ
*RICOHSP9100DN	RICOH AFICIO SP9100DN印刷装置シリーズ
*RICOHSPC811DN	RICOH AFICIO SPC811DNカラー印刷装置シリーズ
*WORKIO_BL	PANASONIC WORKiO DP-23xxシリーズ印刷装置 PANASONIC WORKiO DP-30xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_BM	PANASONIC WORKiO DP-35xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_CR	PANASONIC WORKiO DP-Cxxxシリーズ・カラー印刷装置
*XR4215MRP	XEROX 4215/MRP (HPモード)
*XR4219MRP	XEROX 4219/MRP (HPモード)
*XR4220MRP	XEROX 4220/MRP (HPモード)
*XR4230MRP	XEROX 4230/MRP (HPモード)

*XR4235	XEROX 4235 LASERPRINTING (HPモード)
*XR4700II	XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置 (HPモード)
*WSCSTA3	印刷装置はリストされていない(A3サイズ用紙)
*WSCSTA4	印刷装置はリストされていない(A4サイズ用紙)
*WSCSTA5	印刷装置はリストされていない(A5サイズ用紙)
*WSCSTB4	印刷装置はリストされていない(B4サイズ用紙)
*WSCSTB5	印刷装置はリストされていない(B5サイズ用紙)
*WSCSTCONT80	印刷装置はリストされていない(8インチ連続用紙)
*WSCSTCONT132	印刷装置はリストされていない(13.2インチ連続用紙)
*WSCSTEXECUTIVE	印刷装置はリストされていない(エグゼクティブ・サイズ用紙)
*WSCSTLEDGER	印刷装置はリストされていない(レジャー・サイズ用紙)
*WSCSTLEGAL	印刷装置はリストされていない(リーガル・サイズ用紙)
*WSCSTLETTER	印刷装置はリストされていない(レターサイズ用紙)
*WSCSTNONE	印刷装置はリストされていない(用紙サイズ未指定)
*WSCST	印刷装置はリストされていない

上

用紙入れ 1 (PPRSRC1)

用紙入れ1で使用される用紙のタイプを指定します。

*MFRTYPMDL

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

*LETTER

この用紙入れの用紙はレター・サイズ(8.5 X 11インチ) です。

*LEGAL

この用紙入れの用紙は規格サイズ(8.5 X 14インチ) です。

*LEDGER

この用紙入れの用紙は元帳サイズ(11 X 17インチ) です。

*EXECUTIVE

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ(7.25 X 10.5インチ) です。

*A3

この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

*A4

この用紙入れの用紙はA4サイズ(210MM X 297MM)です。

*A5

この用紙入れの用紙はA5サイズ(148 X 210MM)です。

*B4

この用紙入れの用紙はB4サイズ(257MM X 364MM)です。

*B5

この用紙入れの用紙はB5サイズ(182 X 257MM)です。

*CONT80

この用紙入れの用紙は連続用紙(8.0インチ)です。

***CONT132**

この用紙入れの用紙は連続用紙(13.2インチ)です。

***NONE**

用紙入れ番号1は指定されていません。

上

用紙入れ 2 (PPRSRC2)

用紙入れ2で使用される用紙のタイプを指定します。

*MFRTYPMDL

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

*LETTER

この用紙入れの用紙はレター・サイズ(8.5 X 11インチ) です。

*LEGAL

この用紙入れの用紙は規格サイズ(8.5 X 14インチ) です。

*LEDGER

この用紙入れの用紙は元帳サイズ(11 X 17インチ) です。

*EXECUTIVE

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ(7.25 X 10.5インチ) です。

*A3

この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

*A4

この用紙入れの用紙はA4サイズ(210MM X 297MM)です。

*A5

この用紙入れの用紙はA5サイズ(148 X 210MM)です。

*B4

この用紙入れの用紙はB4サイズ(257MM X 364MM)です。

*B5

この用紙入れの用紙はB5サイズ(182 X 257MM)です。

*NONE

用紙入れ番号1は指定されていません。

上

エンベロープ・ソース (ENVELOPE)

3番目の用紙入れで使用される封筒のタイプを指定します。

*MFRTYPMDL

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

*MONARCH

この用紙入れの封筒はモナーク・サイズ(3.875 X 7.5インチ)です。

*NUMBER9

この用紙入れの封筒は9番サイズ(3.875 X 8.875インチ)です。

*NUMBER10

この用紙入れの封筒は10番サイズ(4.125 X 9.5インチ)です。

*B5

この用紙入れの封筒はB5サイズ(176MM X 250MM)です。

*C5

この用紙入れの封筒はC5サイズ(162MM X 229MM)です。

*DL

この用紙入れの封筒はDLサイズ(110MM X 220MM)です。

*NONE

封筒用紙入れは指定されていません。

上

ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899)

印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されているかどうかを指定します。

***NO**

印刷装置にASCIIコード・ページ899は導入されていません。

***YES**

印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されています。

上

イメージ構成 (IMGCFG)

この印刷装置のイメージ構成を指定します。イメージ構成オブジェクトは、各種のイメージおよび印刷データ・ストリーム形式に対する変換サービスを提供します。

*NONE

イメージ構成は指定されません。

イメージ構成

印刷装置用のイメージ構成を指定してください。

次のリストには、提供されているイメージ構成オブジェクトと普及している多くの印刷装置に推奨されるイメージ構成オブジェクトが含まれています。

イメージ構成オブジェクト・テーブル

----- HP PCLデータ・ストリーム-----	
*IMGA01	PCL 300-DPI印刷装置
*IMGA02	PCL 600-DPI印刷装置
*IMGA03	PCL 1200-DPI印刷装置
*IMGA04	PCL 300-DPIカラー印刷装置
*IMGA05	PCL 600-DPIカラー印刷装置
*IMGA06	PCL 1200-DPIカラー印刷装置
*IMGA07	PCL 75-DPI印刷装置 (圧縮なし)
*IMGA08	PCL 600-DPI カラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGA09	PCL 300-DPI印刷装置 (圧縮なし)
-----ポストスクリプト・データ・ストリーム-----	
*IMGB01	ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGB02	ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGB03	ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGB04	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGB05	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
*IMGB06	ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
*IMGB07	ポストスクリプト600X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB08	ポストスクリプト1200X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB09	ポストスクリプト360-DPIカラー印刷装置
*IMGB10	ポストスクリプト720-DPIカラー印刷装置
*IMGB11	ポストスクリプト1440X720-DPIカラー印刷装置
*IMGB12	ポストスクリプト400-DPI印刷装置
*IMGB13	ポストスクリプト800-DPIカラー印刷装置
*IMGB14	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGB15	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
----- IPDSデータ・ストリーム-----	
*IMGC01	IPDS 240-DPI印刷装置
*IMGC02	IPDS 300-DPI印刷装置
*IMGC03	IPDS 600-DPI印刷装置
*IMGC04	IPDS 1200-DPI印刷装置
*IMGC05	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC06	IPDS 300-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC07	IPDS 600-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC08	IPDS 1200-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC09	IPDS 240-DPI印刷装置 (IM/1イメージのみ)
*IMGC10	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)

(IM/1イメージのみ)

*IMGC11	IPDS 240-DPI印刷装置(CCITT G4圧縮)
-----	PCLおよびポストスクリプト・データ・ストリーム-----
*IMGD01	PCL/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGD02	PCL/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGD03	PCL/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD04	PCL/ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGD05	PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
*IMGD06	PCL/ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
*IMGD07	PCL 300-DPI/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGD08	PCL 300-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD09	PCL 600-DPI/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGD10	PCL 600-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD11	PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)

印刷装置テーブルによる、推奨されるイメージ構成オブジェクト

COMPAQ Pagemarc 20	*IMGD01
EPSON EPCL-4印刷装置	*IMGA01
EPSON EPCL-5印刷装置	*IMGA02
EPSON STYLUS PHOTO (ポストスクリプト付き)	*IMGB10
EPSON STYLUS COLOR 600, 800 (ポストスクリプト付き)	*IMGB11
HP COLOR LASERJET 5	*IMGA04
HP COLOR LASERJET 5M	*IMGD04
HP DESKJET 560C, 820C, 1200C	*IMGA04
HP DESKJET 500, 600, 1200	*IMGA01
HP DESKJET 1600C, 1600CN	*IMGA04
HP DESKJET 1600CM	*IMGD04
HP LASERJET II, IID, IIP	*IMGA09
HP LASERJET II, IID, IIP (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L	*IMGA01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
HP LASERJET 4, 4P, 4V, 4SI, 4 PLUS	*IMGA02
HP LASERJET 4M, 4MP, 4MV, 4SI MX, 4M PLUS	*IMGD02
HP LASERJET 5, 5P, 5SI	*IMGA02
HP LASERJET 5M, 5MP, 5SI MX	*IMGD02
HP LASERJET 6, 6P, 6L	*IMGA02
HP LASERJET 6M, 6MP	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(IPDS機構付き)	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 3130, 3160-1 AF印刷装置(240画素モード)	*IMGC01
IBM 3130 AF印刷装置(300画素モード)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 32 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 32 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 60	*IMGC03
IBM INFOPRINT 62モデル2	*IMGC05
IBM INFOPRINT 62モデル3	*IMGC06
IBM INFOCOLOR 70	*IMGB05
IBM INFOPRINT 4000	*IMGC05
IBM INFOPRINT 4000 (高解像度)	*IMGC06
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置	*IMGC09
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC01
IBM 3829 AF印刷装置	*IMGC01
IBM 3835-001 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3835-001 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC05
IBM 3835-002, 3900 AF印刷装置	*IMGC05
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA01
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 3930-02ページ印刷装置(IPDSディスク)	*IMGC01
IBM 3930-03ページ印刷装置	*IMGA01
IBM 3930-03ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
IBM 3935 AF印刷装置	*IMGC02
IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)	*IMGA09

IBM 4019レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
IBM 4028レーザー・プリンター	*IMGC06
IBM 4029レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4029レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB02
IBM 4039レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4039レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD07
IBM 4049レーザー・プリンター	*IMGA02
IBM 4049レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 4079カラー・ジェット・プリンターPS	*IMGB09
IBM 4303ネットワーク・カラー・プリンター	*IMGB05
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (LAN)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ポストスクリプト付き) (ASCII/LAN)	*IMGD02
LEXMARK 4039PLUS	*IMGB02
LEXMARK OPTRA Cカラー・プリンター	*IMGD11
LEXMARK OPTRA E, E+	*IMGA02
LEXMARK OPTRA N	*IMGD02
LEXMARK OPTRA R+, RX+, LX+, LXN+	*IMGD02
LEXMARK OPTRA S印刷装置	*IMGD02
LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置	*IMGD05
OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置	*IMGA01
OKIDATA OL800, OL810 LEDページ印刷装置	*IMGA02
QMS 2025, 3225	*IMGB12
QMS MAGICOLOR CX	*IMGD04
TEKTRONIX PHASER 140	*IMGB09
TEKTRONIX PHASER 300	*IMGB04
TEKTRONIX PHASER 400	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 540, 550	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 560	*IMGB06
XEROX 4219/MRP	*IMGA01
XEROX 4220/MRP	*IMGA02
XEROX 4230 DOCUPRINTER	*IMGA02
XEROX 4512, 4517ネットワーク・プリンター	*IMGA02
XEROX 4520MP印刷装置	*IMGB13
XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置	*IMGD04
XEROX 4915カラー・レーザー・プリンター	*IMGB08
XEROX 4920, 4925カラー・レーザー・プリンター	*IMGB05

上

保留中要求の最大数 (MAXPNDRQS)

印刷装置の待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

6

最大6つまでの印刷要求を待ち行列に入れることができます。

最大印刷要求数

待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を示す1から31の数値を指定してください。

上

変換中の印刷 (PRTCVT)

AFPを使用するファイルがIPDSに完全に変換される前に印刷を始めるかどうかを指定します。

*YES

IPDS変換を完了する前に印刷が開始されます。

*NO

IPDS変換を完了する前に印刷は開始されません。

上

印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)

印刷要求が連続用紙を使用する印刷装置に送信されてから、出力の最後のページが印刷装置から用紙スタッカーに入れられるまでの間に、待機する秒数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定され、**用紙送り (FORMFEED)**パラメーターに*CONTが指定されている場合だけです。

*NOMAX

タイマーは使用されません。

印刷要求タイマー

印刷要求が送られてから、出力の最後のページを印刷装置から出すまでに待機する秒数(1から3600)を指定してください。

上

書式定義 (FORMDF)

印刷要求に対する他の書式定義仕様がない時に使用される書式定義の名前を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

F1C10110

書式定義F1C10110を使用してください。

書式定義名

使用する書式定義の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

書式定義を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

書式定義が入っているライブラリーを指定してください。

上

文字識別コード (CHRID)

印刷装置の場合に、分離ページ・フォントが明示的に指定されていない時にジョブおよびファイル分離ページを印刷するのに使用するフォントを示す文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。このパラメーターは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESを指定した場合、および**AFP接続機構 (AFPATTACH)**パラメーターに*APPCを指定した場合、または**ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)**パラメーターに*YESを指定した場合にだけ、使用されます。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

要素1:文字セット

図形文字セット

この印刷装置の属性と一致する図形文字セットの値を指定します。有効な値の範囲は1から32767です。

要素2:コード・ページ

コード・ページ

印刷装置の属性と一致するコード・ページ・セット値を指定します。有効な値の範囲は1から32767です。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

印刷装置のリモート・ロケーション名を指定します。この値はSNAネットワークIDと制御点名、インターネット・プロトコル(IP)ホスト名、またはIPアドレスとすることができます。

SNAリモート・ロケーション名は、NNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用して指定します。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCは制御点名です。制御点名のみを指定した場合には、ネットワークIDの値としてRMTNETIDパラメーター値が使用されます。

IPリモート・ロケーション名は1から255文字の長さでなければなりません。

注: このパラメーターはAFP(*YES)とAFPATTACH(*APPC)の両方を指定した場合、あるいはLANATTACH(*IP)またはLANATTACH(*USRDFN)を指定した場合に有効です。APPTYPE(*APPINIT)を指定した時には、このパラメーターは必須です。APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理装置の仮想記憶通信アクセス方式/IBMネットワーク制御プログラム(VTAM/NCP)名です。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーション名、リモート・システム名、またはIPアドレスを指定してください。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターが有効なのは、AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されているか、あるいはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている場合だけです。APPTYPE(*APPINIT)装置のローカル・ロケーション名は、IBMネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前です。

*NETATR

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

上

モード (MODE)

この装置のセッション限界およびセッション特性の定義に使用されるモードの名前を指定します。

QSPWTR

印刷装置で特に使用するために存在するモード。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

この装置によって使用されるモード記述の名前を指定してください。

上

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すためにDBCSフィーチャー・コード形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

要素1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合:

SSSS =

文字の解像度 (作成するために使用される行列点の数)。例えば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語
- C =中国語 (繁体字)
- S =中国語 (簡体字)

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値はブランクとすることができます。

上

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

***NONE**

ユーザー定義のオプションは指定しません。

ユーザー定義オプション

スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションによって使用されるユーザー定義オプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

上

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

ユーザー定義オブジェクト名として指定できる値は次の通りです。

*NONE

ユーザー定義オブジェクト名は指定されません。

ユーザー定義オブジェクト名

スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオブジェクトの名前を指定してください。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 ユーザー定義オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

- *DTAARA (データ域)
- *DTAQ (データ待ち行列)
- *FILE (ファイル)
- *PSFCFG (PSF構成)
- *USRIDX (ユーザー索引)
- *USRQ (ユーザー待ち行列)

- *USRSPC (ユーザー・スペース)

上

データ変換プログラム (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用されるユーザー定義データ・プログラムを指定します。

注:

1. このパラメーターは、AFP(*YES)が指定されている時には*NONEでなければなりません。
2. TRANSFORM(*YES)が指定された場合には、このパラメーターは*NONEでなければなりません。

*NONE

ユーザー定義のデータ変換プログラムは指定しません。

ユーザー定義データ変換プログラム名

ユーザー定義データ変換プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)

ユーザー定義のドライバー・プログラムの修飾名を指定します。

注: このパラメーターは、AFP(*YES)が指定されているか、あるいはDEVCLS(*LAN), TYPE(3812)およびLANATTACH(*IP)が指定されている時には無効です。

*NONE

ユーザー定義のドライバー・プログラムは指定しません。

ユーザー定義のドライバー・プログラム名

ユーザー定義のドライバー・プログラム名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

システム・ドライバー・プログラム (SYSDRVPGM)

IBM System i5印刷装置出力をTCP/IPネットワークを介して接続されている印刷装置に送る機能を提供するシステム定義ドライバー・プログラムの名前を指定します。

注: このパラメーターは、DEVCLS(*LAN)、TYPE(3812)およびLANATTACH(*IP)が指定されている時のみ有効です。

***HPPJLDRV**

HP互換印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMPJLDRV**

IBMネットワーク印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***NETSTNDRV**

ネットワーク端末のドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMSNMPDRV**

IBM SNMP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMIPDRV**

IBM IPP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

上

保護接続(SECURECNN)

印刷装置にセキュア接続を確立するかどうかを指定します。セキュア接続は、接続を通じて受け渡しされる印刷データの秘密を維持するための暗号化通信セッションを提供します。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPDRV)が指定されているときだけです。

*NO

印刷装置との接続は保護されません。

*YES

印刷装置との接続が保護されます。印刷装置はSSL (SECURE SOCKETS LAYER)またはTLS (TRANSPORT LAYER SECURITY)をサポートし、システム・デジタル証明書をもっている必要があります。保護接続の詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

上

妥当性検査リスト (VLDL)

印刷装置が認証を要求する場合に使用される妥当性検査リストを指定します。妥当性検査リストでは、スプール・ファイルを作成するユーザーの名前、印刷装置の名前、またはシステムの名前について検査されます。名前と関連した認証情報が印刷装置に戻されます。妥当性検査リストの構築に関する詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)が指定されているときだけです。

*NONE

妥当性検査リストが指定されません。

妥当性検査リスト・オブジェクト

認証情報が入っている妥当性検査リストの名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

LIGHTWEIGHT DIRECTORY ACCESS PROTOCOL (LDAP)ディレクトリーに公開できる印刷装置に関する情報を指定します。

要素1:両面印刷のサポート

印刷装置が用紙の両面への印刷をサポートしているかどうかを指定します。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***SIMPLEX**

印刷装置は用紙の片面への印刷のみをサポートします。

***DUPLEX**

印刷装置は用紙の両面への印刷をサポートします。

要素2:カラーのサポート

印刷装置がカラー・インク印刷をサポートしているかどうかを指定します。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***COLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートします。

***NOCOLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートしません。

要素3: 1分当たりの黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1から32767の範囲内の整数値です。

要素4: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数

印刷装置が作成できる1分当たりのカラー・インクのページ数。

注: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数は、要素2で*COLORが指定されたときにのみ有効です。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

カラーのページ・カウント

印刷装置がカラー・インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1から32767の範囲内の整数値です。

要素5:設置場所

印刷装置の設置場所を手短に説明します。

***BLANK**

印刷装置の設置場所は指定されていません。

場所 印刷装置が設置されている場所を説明する30文字以内のテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

要素6:サポートされているデータ・ストリーム

印刷装置にサポートされているデータ・ストリーム・フォーマットを指定します。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***PCL** 印刷装置はPCL (印刷装置コマンド言語) をサポートします。

***PS** 印刷装置はPOSTSCRIPTをサポートします。

***PDF** 印刷装置はPDF (PORTABLE DOCUMENT FORMAT) をサポートします。

***IPDS** 印刷装置はIPDS (高機能印刷装置データ・ストリーム) をサポートします。

***SCS** 印刷装置はSCS (SNA文字ストリング) をサポートします。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにIBM System i5からの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。 その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

***NONE**

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークのID (ID)を指定します。 AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されている時、またはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている時に、このパラメーターは必須パラメーターです。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークのIDを指定してください。

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。

注: WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には、ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボードIDを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:ローカル印刷装置記述の作成

```
CRTDEVPRT  DEVD(PRT1) TYPE(5219) DEVCLS(*LCL)
            MODEL(D1)  PORT(0)
            SWTSET(1)  CTL(CTL01) FONT(011)
```

このコマンドは、PRT1という名前のローカル印刷装置の装置記述を作成します。これは、CTL01のポート0に接続された5219-D1型印刷装置です。1というアドレスをもち、COURIERフォントを使用します。

例2:LAN印刷装置記述の作成

```
CRTDEVPRT  DEVD(PRT2) DEVCLS(*LAN) TYPE(3812) MODEL(1)
            ADPTADR(999999999999) FONT(011)
            MFRTYPMDL(*IBM3812)
```

このコマンドは、PRT2という名前のLAN印刷装置の装置記述を作成します。これは、IBM 3812ページ・プリンターに接続された3812-1型印刷装置です。999999999999というアドレスをもち、COURIERフォントを使用します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPDB12C

リモート・ロケーション名&2が正しい形式になっていない。

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2631

装置タイプ&2が正しくない。

CPDB1B8

パラメーターの組み合わせが無効です。理由コードは&2です。

上

装置記述の作成（小売業）(CRTDEVRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

小売業装置記述の作成(CRTDEVRTL)コマンドは、小売業装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FE	必須, 定位置 2
RTMLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
PACING	ペーシング値	0-7, <u>7</u>	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, 247, 256, 503, 512, 1015, 1024	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*OTHER, *RCMS, *SBMRTLPGM	オプション
DEVCLS	装置クラス	*NONE, *SNPT	オプション
ACTTMR	活性化タイマー	1-2550, <u>170</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAバススルー装置記述	名前, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAバススルー・グループ名	名前, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

ペーシング値 (PACING)

要求/応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7

7ビット・ワード長を指定します。

ペーシング値

1から7の範囲内の値を指定してください。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として247, 256, 503, 512, 1015,または1024バイトを指定します。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*OTHER

この装置は、HCP (ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)パラメーターに01が指定されている場合) または制御装置のアプリケーションのいずれかと通信します。 LOCADRパラメーターに01が指定されている場合には、常に*OTHERを指定する必要があります。 4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、このパラメーターを指定してはいけません。

*RCMS

この装置はリモート変更管理機能サーバー(RCMS)と通信します。 *RCMSは、4680または4684制御装置の場合にだけ指定してください。 4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、*RCMSを指定する必要があります。

*SBMRTLPGM

この装置は、ADCS SUP (ユーザー・プログラム開始) サポートを使用して小売業制御装置でプログラムを開始するために、小売業プログラム投入(SBMRTLPGM)コマンドで使用されます。 この値が有効となるのは、制御装置に小売業POS通信機能ライセンス・プログラムが使用されている場合だけです。 4684制御装置に*SBMRTLPGMを指定してはいけません。

上

装置クラス (DEVCLS)

この装置に使用する装置クラスを指定します。

*NONE

この装置記述はSNAパススルー・サポートを使用しません。

*SNPT

この装置記述はSNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの表示装置を接続することができます。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間(秒数)を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注: このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

170

170秒の活動化時間が指定されます。

活動化時間

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に、セッションは終了します。

有効な値の範囲は1から30分です。

*NOMAX

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

***NONE**

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFGLコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

***NONE**

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVRTL  DEVD(RTL1)  LOCADR(05)
            RMTLOCNAME(DETROIT)  CTL(CTL4)
```

このコマンドは、RTL1という名前の小売業装置記述を作成します。この小売り業装置のロケーション・アドレスはX'05'です。リモート・ロケーション名はDETROITで、装置は小売業制御装置CTL4に接続されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成(SNPT) (CRTDEVSNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の作成(SNAパススルー) (CRTDEVSNT)コマンドは、SNAパススルー (SNPT) 装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE	必須, 定位置 2
SNPTCLS	SNAパススルー・クラス	*UP, *DOWN	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション, 定位置 4
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>170</u>	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

上

SNAパススルー・クラス (SNPTCLS)

この装置をSNAパススルー・ホスト制御装置またはSNAパススルー・ダウンストリーム(APPC)制御装置に接続するかどうかを指定します。

*UP

SNAパススルー・ホスト制御装置に接続する装置を指定します。

*DOWN

SNAパススルー・ダウンストリーム(APPC)制御装置に接続する装置を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

このオブジェクトが接続される制御装置記述の名前を指定します。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間 (秒数) を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注: このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

170

170秒の活動化時間が指定されます。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFGLコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにIBM System i5からの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。 その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。 オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)

コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVSNPT  DEVD(SNPTDEV1)  LOCADR(05) SNPTCLS(*UP)
              CTL(MYCTL)    SNPTDEV(DOWNDEV1)
```

このコマンドは、SNPTDEV1という名前のSNAパススルー装置記述を作成します。装置のロケーション・アドレスはX'05'です。装置は制御装置MYCTLに接続されています。SNAパススルー・クラスは*UPで、この装置と関連した装置名はDOWNDEV1です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2654

装置記述&1が作成されたが、使用できないと考えられる。

上

装置記述の作成(SNUF) (CRTDEVSNUF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の作成(SNUF)(CRTDEVSNUF)コマンドは、システム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)装置の装置記述を作成します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FF	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
PGMSTRRQS	プログラム開始要求可能	*NO, *YES	オプション
SPCHOSTAPP	特別なホスト適用業務	*NONE, *FLASH	オプション
APPID	適用業務識別コード	名前	オプション
HOST	ホスト・タイプ	*CICS, *IMS, *IMSRTR, *ADCS	オプション
RCDLEN	レコード長	1-32767, <u>512</u>	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-32767, <u>512</u>	オプション
DFTPGM	省略時のプログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 省略時のプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
HCPEML	HCPエミュレーション	文字値, *STRUSRPGM, 3651, 3684, <u>4680</u> , 4684	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

上

プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)

プログラム開始要求(PSR)を通じたホスト・システム呼び出しのために、この装置を予約するかどうかを指定します。

*NO

この装置は、PSR要求用に予約されません。

*YES

この装置は、PSR要求用に予約されます。

上

特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)

SNUFが、顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)または情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)応用層以外の特殊なホスト・アプリケーション用のサポートをカスタマイズしているかどうかを指定します。

*NONE

SNUFは、特殊なホスト・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしていません。

*FLASH

SNUFは、連邦準備フラッシュ・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしています。

上

適用業務識別コード (APPID)

ログオン・メッセージとともに送信されるVTAMアプリケーションIDを指定します。

上

ホスト・タイプ (HOST)

装置が通信を行うホスト・システムのタイプを指定します。

上

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

有効な値の範囲は1から32767です。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

有効な値の範囲は1から32767です。

上

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

指定可能な値は1から32767までです。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

上

省略時のプログラム (DFTPGM)

プログラム開始要求が受信されたが、プログラムが指定されていない場合に呼び出されるプログラム名を指定します。

プログラムは、その修飾名(ライブラリー名/プログラム名)で指定されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

HCPエミュレーション (HCPEML)

実行したいホスト・コマンド・プロセッサ(HCP)エミュレーションを指定します。

3651

ホストはADCSを実行中であり、3651 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

3684

ホストはADCSを実行中であり、3684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

4680

ホストはADCSを実行中であり、4680 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

ホストはADCSを実行中であり、4684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

*STRUSRPGM

ホストはADCSを実行中であり、ユーザー・プログラム開始(SUP)エミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにIBM System i5からの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。 その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTDEVSNUF  DEVD(SNUFDEV02)  LOCADR(FE)  RMTLOCNAME(DETROIT)
              CTL(SNUFCTL01)  PGMSTRRQS(*YES)  DFTPGM(PAYROLL)
```

このコマンドは、SNUFDEV02という名前のSNUF通信装置の装置記述を作成します。この装置はデトロイトの通信制御装置SNUFCTL01に接続されていて、ロケーション・アドレスX'FE'にあります。装置はプログラム開始要求が可能で、その省略時のプログラムはPAYROLLです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

装置記述の作成 (テープ) (CRTDEVTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ装置記述の作成(CRTDEVTAP)コマンドにより、テープ装置の装置記述が作成されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
TYPE	装置タイプ	文字値, *RSRCNAME	オプション, キー, 定位置 2
MODEL	装置型式	文字値, *RSRCNAME	オプション, キー, 定位置 3
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE, *VRT	オプション, キー, 定位置 4
SWTSET	スイッチの設定値	文字値	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
ASSIGN	オンに構成変更時の装置割当て	*YES, *NO	オプション
UNLOAD	オフに構成変更時の装置アンロード	*YES, *NO	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

*RSRCNAME

装置タイプは、資源名(RSRCNAME)パラメーターによって決定されます。

注: *RSRCNAMEを使用する場合には、資源名は既存のテープ資源でなければなりません。

このパラメーターに有効な装置タイプのリストを表示するためには、TYPEプロンプトからF4（プロンプト）を押してください。

上

装置型式 (MODEL)

この記述の装置の型式番号を指定します。

注: このパラメーターは無視されますが、このコマンドの以前のバージョンに対応させるために指定することができます。

*RSRCNAME

装置型式は資源名パラメーターによって決定されます。

装置型式

この記述の装置型式を指定してください。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表す仮想または物理ハードウェアを識別する資源名を指定します。物理ハードウェア資源の場合には、WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*NONE

資源名は指定されません。 装置をオンに変更する前に、資源名を提供しなければなりません。

*VRT

資源名は、装置記述の作成時にオペレーティング・システムによって生成されます。資源名は仮想（物理ではない）ハードウェアを表します。IBM System i5が仮想ハードウェア資源の最大数を作成すると、装置記述には最後に作成された資源が使用されます。

注: 装置記述が削除されても資源名は除去されません。資源を名前指定して、既存の資源の新しい装置記述を作成することができます。

資源名

システム上の物理または仮想装置を識別するための名前を指定してください。

上

スイッチの設定値 (SWTSET)

注: このパラメータはすでに有効ではありません。すべてのテープ装置にRSRCNAME パラメータを指定してください。SWTSETパラメータは、このコマンドの以前のバージョンに対応させるために提供されるものです。指定すると、SWTSET パラメータはシステムによって資源名に変換されます。

テープ装置のスイッチの設定を指定します。

3422, 3480,および3490テープ装置の場合には、使用可能な値は0からFです。

3430テープ装置の場合には、使用可能な値は0から3です。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

RSRCNAME(*VRT)が指定されていると、このパラメータは無効です。

上

オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)

テープ駆動機構をオンに構成変更する時に、これをシステムに割り当てるかどうかを指定します。

*YES

テープ駆動機構は、装置のオンへの構成変更時に割り当てられます。

*NO

装置のオンへの構成変更時に、テープ駆動機構は割り当てられません。

上

オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)

装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構がアンロードされるかどうかを指定します。

*YES

装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構はアンロードされます。

*NO

装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構はアンロードされません。テープは巻き戻されますが、テープの始めマーカを超えることはありません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

*SYSOPR

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

例

例1:仮想テープ装置記述の作成

```
CRTDEVTAP  DEVD(VIRTAP01) RSRCTYPE(*VRT)
```

このコマンドは、VIRTAP01という名前の仮想テープ装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。すべての仮想テープ装置は、63B0という**TYPE**値および001という**MODEL**値が割り当てられます。

例2: 資源名を持つテープ装置記述の作成

```
CRTDEVTAP  DEVD(TAPDEV01) RSRCTYPE(TAPERSRC)
```

このコマンドは、資源TAPERSRCをもつTAPDEV01という名前のテープ装置の装置記述を作成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

上

ディレクトリーの作成 (CRTDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンドは、新しいディレクトリーをシステムに追加します。

ディレクトリーは、他のオブジェクトの名前を含むオブジェクトです。ライブラリーおよびフォルダーはディレクトリーの1つのタイプです。ディレクトリーが作成されると、リンクがディレクトリーの接頭部に追加されます。オブジェクトをディレクトリーに入れる前に、そのディレクトリーが作成されていなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- MD
- MKDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- 作成されるディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システムのライブラリーであるか、“ルート” (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、次の制約事項が適用されます。
 - オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
- 作成されるディレクトリーがQDLSの既存のフォルダー中のフォルダーである場合には、次の制約事項が適用されます。
 - 既存のフォルダーの変更(*CHANGE)権限が必要です。
- パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- “ルート” (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システム内にディレクトリーを作成する場合には、新しいディレクトリーを入れるディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
- ディレクトリーを作成している場合には、所有者ID (UID)がそのディレクトリーを作成中のユーザーです。

ディレクトリーが“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システム内に作成される場合には、以下が適用されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオフの場合は、グループID (GID)はそのディレクトリーを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオンの場合には、新規ディレクトリーのグループID (GID)は親ディレクトリーのGIDに設定されます。

ディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内に作成される場合には、1次ユーザー・プロファイルからGIDが取得されます。その他のファイル・システムについては、GIDは親ディレクトリーから取得されます。

- オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通権限	名前, *INDIR , *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通権限	単一値: *INDIR , *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL , *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT , *YES, *NO, *CHGONLY	オプション
RSTDRNMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO , *YES	オプション

上

ディレクトリー (DIR)

作成するディレクトリーのパス名を指定します。

注: 文字Qで始まる名前は使用しないでください。システムは、そのような名前のライブラリーまたはディレクトリーをシステム・ライブラリーまたはシステム・ディレクトリーと見なします。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

データの共通権限 (DTAAUT)

ディレクトリーに対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいは作成されたディレクトリーからすべての権限を継承するように指定します。

***INDIR**

作成するディレクトリーの権限は、作成されたディレクトリーによって決定されます。新しいディレクトリーの直前のディレクトリーが権限を決定します。“ルート” (/), QOPENSYS, またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。

QDLSフォルダーについて作成されたディレクトリーの省略時の値として、第1レベルのフォルダーの*EXCLUDEが使用されます。第2レベル以上で作成された場合には、前のレベルの権限が使用されます。QOPENSYS,および"ルート" (/)ファイル・システムは、親ディレクトリーのデータ権限の値を使用します。値*INDIRがオブジェクトの共通権限 (OBJAUT)パラメーターまたはDTAAUTパラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定する必要があります。

- *RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),オブジェクト変更(*OBJALTER),およびオブジェクト参照(*OBJREF)権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限を提供します。
- *RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、および書き込み(*RW)権限は、*OBJOPRおよびデータ読み取り(*READ),追加(*ADD),更新(*UPD),削除(*DLT)権限を提供します。
- *RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、および実行(*RX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ,実行(*EXECUTE)権限を提供します。
- *WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、および実行(*WX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD, *UPD, *DLT, *EXECUTE権限を提供します。
- *R** オブジェクトの内容を検討することができます。読み取り(*R)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ権限を提供します。
- *W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(*W)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD, *UPD, *DLT権限を提供します。
- *X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

***NONE**

オブジェクトに対するデータ権限は与えられません。この値を*NONEのOBJAUT値と一緒に使用することはできません。

名前 使用する権限リストの名前を指定してください。権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

上

オブジェクトの共通権限 (OBJAUT)

ディレクトリーのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このディレクトリーが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリ

ーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。OBJAUTパラメーターまたは**データの共通権限 (DTAAUT)**パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

***NONE**

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER,または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER,または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

***OBJEXIST**

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

***OBJMGT**

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

***OBJALTER**

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

***OBJREF**

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

上

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このディレクトリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

*SYSVAL以外のこのパラメーターの値は、一部のファイル・システムではサポートされないことがあります。

***SYSVAL**

ディレクトリー内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、オブジェクト作成監査(QCRTOBJAUD)システム値によって決まります。

*NONE

このオブジェクトを使用したりあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

*USRPRF

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD) コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定ユーザーに対する監査を変更するために使用されます。

*CHANGE

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

上

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるたびに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

この属性を指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーの場合だけです。その他のファイル・システムの場合には、*PARENTを指定する必要があります、これは無視されます。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

*PARENT

このディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

***YES** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムで記述されている規則に従ってスキャンされます。

***NO** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

*CHGONLY

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連の出口プログラムに記述された

規則に従ってスキャンされます。 スキャン・ソフトウェアが更新されても、オブジェクトはスキャンされません。 この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。 そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

上

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。 この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じで、ネットワーク・ファイル・システム(NFS), QFILESVR.400, "ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーにしか設定できません。 NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、この属性をサポートします。

***NO** このディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。

***YES** このディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真である場合だけです。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

上

例

例1:ディレクトリーの作成

```
CRTDIR DIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRを作成して、これを現行ディレクトリーに追加します。残りのパラメーターには省略時の値が使用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

上

文書作成 (CRTDOC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE CREATE DOCUMENT (CRTDOC) COMMAND ALLOWS YOU TO CREATE A NEW DOCUMENT WHEN USING OFFICEVISION/400.

FIRST THE CREATE DOCUMENT DETAILS DISPLAY IS SHOWN. THEN, IF THE ENTER KEY IS PRESSED ON THIS DISPLAY, THE EDIT DISPLAY IS SHOWN.

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DOC	文書	文字値	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *PRV	オプション, 定位置 2
TXTPRF	テキスト・プロファイル	名前, *DFT, *SYSTEM	オプション, 定位置 3
TEXT	文書記述	文字値, *DFT	オプション, 定位置 4
DETAILS	文書明細	*YES, *NO	オプション, 定位置 5
EDIT	文書の編集	*YES, *NO	オプション, 定位置 6
EXITPNL	出口表示画面	*YES, *NO	オプション, 定位置 7

上

文書 (DOC)

SPECIFIES THE NAME OF THE DOCUMENT TO BE CREATED. A MAXIMUM OF 12 CHARACTERS CAN BE SPECIFIED IN THE REQUIRED FORMAT (DOCUMENT.EXT).

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

上

フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAME OF THE FOLDER THAT WILL CONTAIN THE DOCUMENT BEING CREATED.

*PRV THE NAME OF THE FOLDER USED IN YOUR LAST SESSION WILL CONTAIN THE DOCUMENT.

FOLDER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE FOLDER THAT WILL CONTAIN THE DOCUMENT BEING CREATED.

テキスト・プロファイル (TXTPRF)

SPECIFIES THE TEXT PROFILE USED AS THE BASE FOR THE DOCUMENT.

***DFT** THE DEFAULT TEXT PROFILE IS USED.

***SYSTEM**

THE SYSTEM TEXT PROFILE IS USED.

PROFILE-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE TEXT PROFILE TO USE. A MAXIMUM OF 12 CHARACTERS CAN BE SPECIFIED.

文書記述 (TEXT)

SPECIFIES THE DOCUMENT DESCRIPTION.

***DFT** A DEFAULT DESCRIPTION IS SPECIFIED FOR THE DOCUMENT.

DESCRIPTION

SPECIFY A MAXIMUM OF 44 CHARACTERS, ENCLOSED IN APOSTROPHES.

文書明細 (DETAILS)

SPECIFIES WHETHER TO REQUEST OR BYPASS THE DOCUMENT DETAILS DISPLAY.

***YES** THE DOCUMENT DETAILS DISPLAY IS SHOWN.

***NO** THE DOCUMENT DETAILS DISPLAY IS NOT SHOWN.

文書の編集 (EDIT)

SPECIFIES WHETHER DOCUMENT EDITING IS BYPASSED.

***YES** THE DOCUMENT IS EDITED AFTER BEING CREATED.

***NO** THE DOCUMENT IS NOT EDITED AFTER BEING CREATED.

出口表示画面 (EXITPNL)

SPECIFIES WHETHER THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

***YES** THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

***NO** THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS NOT SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

上

例

CRTDOC DOC(NEWDOC) FLR(MYFLR)

THIS COMMAND CREATES A NEW DOCUMENT CALLED NEWDOC IN FOLDER MYFLR.

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

OFCFFFC

ユーザーの記憶容量を超えた。

OFCFFFD

損傷のあるオブジェクトが見つかった。

OFC8EA3

OFFICEVISION AS/400用エディターは、画面に展開するために使用可能でない。

OFC80B5

OS/400用OFFICEVISIONエディターがシステムで使用可能でない。

OFC800A

フォルダーは使用中である。

OFC800E

&1は、文書またはフォルダーとしてすでに存在している。

OFC800F

表示装置はテキストをサポートしていない。

OFC8006

フォルダーが見つからない。

OFC8008

フォルダーについての要求は認められない。

OFC801D

最大数のテキスト・セッションが活動状態である。

OFC801E

DWエディターまたはテキスト援助機能をロードすることができない。

OFC8017

フォルダー・ディレクトリーがいっぱいである。

OFC8019

必要なモジュールがシステム上にない。

OFC802E

P Cエディターの要求が正常に実行されなかった。

OFC821B

文書&1を再利用する必要がある。

OFC9811

フォルダーを再利用する必要がある。

上

表示装置ファイル作成 (CRTDSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドは表示装置ファイルを作成します。装置ファイルには、使用される装置を識別したり、任意指定として装置によって使用されるレコード様式を識別（データ記述仕様(DDS)に指定されている場合）するファイル記述が入っています。装置ファイルにはデータは入っていません。表示装置ファイルは、装置ファイルに関連した1つまたは複数の表示装置にレコードを送信したり、表示装置からレコードを受信したりします。

ファイル記述表示には、次の2つの場所で指定されている情報が入っています。(1) DDS（使用する場合）が入っているソース・ファイル、(2) CRTDSPFコマンドの中。DDSには、装置ファイル中の各レコード様式の仕様、および各レコード様式中のフィールドの仕様が入っています。

表示装置ファイル記述に指定されているパラメーター値を変更または一時変更するためには、プログラム中で表示装置ファイル変更(CHGDSPF)または表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドを使用します。一時変更コマンドは、表示装置ファイルがプログラムによってオープンされる前に実行しなければなりません。一時変更される値は、そのプログラムが実行中の場合のみ変更されます。プログラムが終了すると、表示装置ファイルに指定されている元のパラメーター値が使用されます。

注: アプリケーション・プログラムが交換回線上でワークステーションのセッション確立を試みた場合に、回線接続が切られているか、確立されていない場合には、アプリケーション・プログラムは、接続が確立されるまで、いつまでも待ちます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
DEV	表示装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *REQUESTER	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
IGCEXNCHR	外字	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SRCMBRTXT</u> , *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 4
MAXDEV	装置の最大数	1-256, <u>1</u>	オプション
ENHDSP	拡張表示	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RSTDSP	画面復元	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: <u>*DEV</u> D, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECfmt	10進数形式	*FILE, <u>*JOB</u>	オプション
SFLENDTXT	SFLENDテキスト	*FILE, <u>*MSG</u>	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, <u>*IMMED</u> , *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, <u>*NOMAX</u> , *IMMED	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: <u>*JOB</u> , *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, <u>*JOB</u>	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション

上

ファイル (FILE)

作成する表示装置ファイルを指定します。

表示装置ファイルを高水準言語プログラムで使用する場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 作成する表示装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

表示装置ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 表示装置ファイルが作成されたライブラリーを指定します。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

表示装置ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS) ソースが入っているソース・ファイル (指定されている場合) を指定します。

単一値

*NONE

この表示装置ファイル用のDDSはありません。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 表示装置ファイルを作成するために使用されるDDSが入っているソース・ファイル名を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーを指定します。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成する表示装置ファイルのDDSソースが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

*FILE ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれ以下でなければなりません。

表示装置 (DEV)

表示装置のユーザーとそのジョブとの間でデータ・レコードを受け渡しするために、この表示装置ファイルで使用される1つまたは複数の表示装置名を指定します。

単一値

*NONE

表示装置名は指定されません。表示装置の名前は、表示装置ファイル変更 (CHGDSPF)コマンドまたは表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンド、あるいはファイルをオープンする高水準言語プログラムに後から指定しなければなりません。

その他の値 (最大50個指定可能)

*REQUESTER

プログラムが呼び出される表示装置は、ファイルのオープン時に割り当てられた装置です。

名前 1つまたは複数の表示装置の名前を指定してください。名前の1つとして*REQUESTERを指定することができます。最大50の装置名(*REQUESTERを含む)を指定できますが、合計数はファイルのオープン時に**装置の最大数 (MAXDEV)**パラメーターに指定された数を超えることはできません。

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

外部記述ファイルの場合

***NO** ファイルの2バイト文字セット(DBCS)属性だけが、データ記述仕様(DDS)に指定されたものです。

***YES** DBCS属性には、DDSに指定される属性のほかに、(1)代替データ・タイプのDDSキーワード(IGCALTTYP)を有効にするもの、および(2)フィールド、値、またはメッセージのDBCS属性を識別するものがあります。

上

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字を処理するかどうかを指定します。DBCS外字を処理するときには、装置にはシステムの援助が必要です。システムが文字の外観を装置に指示しなければ、装置は文字を表示または印刷できません。外字は、DBCS装置ではなくDBCSフォント・テーブルに記憶されます。外字処理は、DBCS装置に使用可能なDBCSフォント・テーブルに記憶される文字を作成するために必要なオペレーティング・システムの機能です。

***YES** システムはDBCS外字を処理します。

***NO** システムは外字を処理しません。外字は未定義文字として表示されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されたソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

SRC**またはSOURCE**

ソース・ステートメントの印刷出力 (エラーのリストを含む) が作成されます。

NOSRC**またはNOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

***SECLVL**

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、CoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)プロダクトのイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトで使用できるイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、この値はユーザーのためにCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

装置の最大数 (MAXDEV)

ファイルがオープンされている時に、表示装置ファイルに同時に接続することのできる表示装置の最大数を指定します。

1 この表示装置ファイルでは、ただ1つの装置名または*REQUESTERを指定することができます。

1から256

同時に表示装置ファイルに接続できる装置の最大数を指定してください。

上

拡張表示 (ENHDSP)

この表示装置ファイルによって表示装置に表示されるデータがその表示装置で使用可能な拡張機能を使用しているかどうかを指定します。

***YES** 表示装置ファイルのデータは、表示装置で使用可能な拡張機能を使用して表示されます。この機能には、略語、選択カーソル、および図形ウィンドウ枠を含めることができます。

***NO** この表示装置ファイルのデータは、5250表示装置上にある場合と同じように表示されます。略語、選択カーソル、または図形ウィンドウ枠など、この表示装置で使用可能な拡張機能は使用されません。この値は通常、すべての表示装置相互間の文字を基礎とした対話を維持するために使用されます。

上

画面復元 (RSTDSP)

同じ表示装置で異なる表示装置ファイルが異なるデータを表示できるように、この表示装置ファイルが保留される（一時的に非活動状態にされる）時に、表示されているデータを保管するかどうかを指定します。このファイルのデータを保管した場合には、そのファイルを再び使用する時に、そのデータが装置の画面に復元されます。

***NO** ファイルが保留されていると、このファイルによって表示中のデータは保管されません。

***YES** このファイルが保留される時に表示されているデータは保管され、ファイルが再び使用された時に表示装置に復元されます。

上

書き出し据え置き (DFRWRT)

読み取り要求が行われた時に、他のデータと一緒に書き出されるまで、データの書き出しを遅延するかどうかを指定します。データを受信した直後に制御権がプログラムに戻されます。

***YES** プログラムが書き出し要求を出した場合には、バッファの処理後に制御権が戻されます。これにより、パフォーマンスが向上することがあります。

***NO** 書き出し操作の後、ユーザー・プログラムは入出力の完了まで制御権を受け取りません。

上

文字識別コード (CHRID)

表示装置ファイルに対して行うことができる文字変換のタイプを指定します。必要な場合には、システムは装置との間で送受信する文字データを変換します。これにより、文字の正しい16進バイト値が装置に送信され、アプリケーション・プログラムに戻されます。

単一値

***DEV**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために装置のCHRIDが使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDは常に装置のCHRIDと同じなので、変換が行われることはありません。

***SYSVAL**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すためにQCHRIDシステム値が使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行われます。

***JOBCCSID**

装置のCHRID、ジョブのCCSID、または表示装置ファイルのCCSID値の間に相違がある場合に、文字変換を行うことを指定してください。入力時に、必要な場合は、文字データが装置のCHRIDからジョブのCCSIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、文字データがジョブのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、表示装置ファイルの固定文字データが表示装置ファイルのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。

注: CHRIDコマンド・パラメーターに*CHRIDCTL特殊値が指定されているときにCHRIDコマンド・パラメーターまたはCHRIDCTLジョブ属性のいずれかで直接指定された*JOBCCSID特殊値は、ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されている場合には使用できません。V2R3M0より前に作成されたファイルにはCCSIDによるタグが付けられず、*JOBCCSIDサポートとの組み合わせで使用することはできません。

***CHRIDCTL**

この表示装置ファイルに対するCHRIDコマンド・パラメーターで特殊値*JOBCCSIDを使用するか*DEVを使用するかを判別するために、システムがCHRIDCTLジョブ属性を検査することを指定します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 使用する図形文字セットの番号を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

要素2: コード・ページ

整数 使用するコード・ページの番号を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

注: 図形文字セットとコード・ページは、CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために使用される値を指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行われます。

上

10進数形式 (DECFMT)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECFMTジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

上

SFLENDテキスト (SFLENDTXT)

サブファイルを表示する場合に、「続く...」および「終わり」というテキストが検索される場所を指定します。「続く...」および「終わり」というテキストは、サブファイル制御レコードにSFLEND(*MORE) DDSキーワードが指定されている時にサブファイル中に表示されます。

***MSG** ファイルのオープン時にシステムの現行活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。

***FILE** ファイルの作成時にファイルに格納された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。このテキストは、ファイルが作成された時にシステムの活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索されます。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれから指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

***NOMAX**

システムが操作の完了を待機する時間に制限はありません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

整数 プログラムが待機する最大秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767秒です。

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないため、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起きます。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

単一値

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

分類順序 (SRTSEQ)

このユーザー・プロファイルに使用される分類順序を指定します。この分類順序とLANGIDパラメーターと一緒に使用されて、使用される分類順序テーブルが決まります。

単一値

***JOB** ジョブ属性で指定されたSRTSEQ値が使用されます。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは複数の文字について同じ重みを含むことができるもので、LANGIDパラメーターで指定された言語と関連した共用重み付きテーブルです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルには、コード・ページのそれぞれの文字に対して固有の重みが入っていません。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 使用するソート・シーケンス・テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

言語識別コード (LANGID)

分類順序 (SRTSEQ)パラメーターに*LANGIDSHRまたは*LANGIDUNQが指定された時に使用される言語IDを指定します。この言語IDとSRTSEQパラメーターと一緒に使用されて、ファイルが使用する分類順序テーブルが決められます。

***JOB** ジョブに指定された言語IDが使用されます。

文字値 言語IDを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時にIDの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムのオープン時に、表示装置ファイルのレコード様式のレベルID を検索するかどうかを指定します。

***YES** レコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて一致しない場合は、オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

注: 既存のファイルをこのジョブまたは別のジョブが使用中であった場合には、それを置き換えることはできません。

注: ファイルに対する権限値はユーザーのユーザー・プロファイルによって決められます。既存のファイルが置き換えられる場合には、新しいファイルに対する権限値は置き換えられたファイルからコピーされません。

***YES** 同じ名前およびライブラリーの新しい表示装置ファイルが正常に作成された場合には、既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しい表示装置ファイルを作成することはできません。

上

例

例1: 省略時の任意指定パラメーターの指定

```
CRTDSPF FILE(DSPHIST) SRCFILE(PRSNNL/JOBHIST)
```

このコマンドは、PRSNLライブラリーに保管されているJOBHISTという名前のソース・ファイルを使用して、現行ライブラリーに保管されるDSPHISTという名前の表示装置ファイルを作成します。他のパラメーターはすべて省略時値が使用されます。装置ファイルに割り当てられるのは、この装置ファイルを使用するプログラム（すなわち、*REQUESTER）を要求する装置だけです。ファイルのオープン時にレコード様式のレベルIDが検査されます。ユーザーは、装置ファイルのオブジェクト操作権限だけを持ちます。

例2: DBCSデータ処理の指定

```
CRTDSPF FILE(IGCDSP) SRCFILE(IGCLIB/IGCSRC) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーIGCLIBのソース・ファイルIGCSRCから表示装置ファイルIGCDSPを作成します。ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

配布リスト作成 (CRTDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト作成(CRTDSTL)コマンドによって、配布ディレクトリーの項目のリストである新しい配布リストを作成することができます。配布リストは、ローカル・ユーザー、リモート・ユーザー、間接ユーザー、およびプログラム式ワークステーション・ユーザーの項目を含むことができます。またリモート配布リストを含むことができますが、ローカル配布リストは含むことはできません。配布リスト作成(CRTDSTL)コマンドは、項目のない配布リストを作成します。配布リストに項目を追加するためには、配布リスト項目追加(ADDDSTLE)コマンドが使用されます。

制約事項:リストID (ID)は、ディレクトリー内の他のリストIDに対してだけでなく、すべてのローカル・ユーザーIDに対しても固有としなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
LSTD	リスト記述	文字値	必須, 定位置 2
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

リスト識別コード (LSTID)

配布リストの2つの部分から成る固有のリストIDを指定します。ユーザーIDおよびアドレスに適用されているものと同じ規則および制約が、配布リストにも適用されます。各部分に、最大8文字まで指定することができます。

これは必須パラメーターです。

小文字が指定された場合には、システムはそれを大文字に変更し、大文字として記憶します。

上

リスト記述 (LSTD)

配布リストを詳しく識別するための配布リストの記述を指定します。最大50文字まで指定することができます。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス, システム名およびグループ, およびX.400 O/Rパラメーターだけが, このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて, 入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には, 表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には, 省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって, これらの値を一時変更することができます。

単一値

*SYSVAL

システムは, QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVVD

システムは, このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは, 対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には, エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

例

```
CRTDSTL  LSTID(DEPT48K DLIST)
          LSTD('部門48K配布リスト')
```

このコマンドは, 部門48Kのメンバーが入っている配布リストを作成します。このリストIDが固有である場合は, 配布リストが作成されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9088

リスト&1 &2はディレクトリーに作成されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

データ域作成 (CRTDTAARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域作成 (CRTDTAARA)コマンドは、データ域を作成し、それを指定されたライブラリーに保管します。また、データの属性も指定します。データ域は、特定の値に初期設定することもできます。

データ域は、ジョブの中でかまたはジョブの間で複数のプログラムによって使用されるデータを伝え、記憶するために使用されます。プログラムでは、データ域検索 (RTVDTAARA)コマンドを使用してデータ域の値を使用することができます。

データ域は、同時に複数のジョブで使用されていない場合には、明示的に適切なジョブに割り振ることができます。データ域が同時に複数のジョブで使用されている場合には、異なる複数のジョブから同時に変更されることがないように、データ域が保護されます。データ域は、データ域変更 (CHGDTAARA)コマンドを使用して変更されます。システムでは、2つのコマンドが同時に同じデータ域を変更することは許されません。

データ域は、変更されるたびに補助記憶域で更新されます。これによって、プログラムまたはシステムに障害が起こった場合でも、変更は、失われずに確実に保管されます。

CRTDTAARAコマンドでは、分散データ管理機能(DDM)データ域を任意に作成することができます。これは、TYPEパラメーターに*DDMを指定することによって行われます。DDMデータ域は、DDMネットワーク中のリモート（ターゲット）システムにあるデータ域にアクセスするために、プログラムによって参照データ域として使用されます。ローカル（ソース）システムのプログラムは、リモート・データ域の名前ではなく、DDMデータ域の名前でリモート・データ域を参照します。DDMデータ域名はリモート・データ域名と同じにすることができます。

ソース・システムのDDMデータ域には、リモート・データ域の名前およびそのリモート・データ域があるリモート（ターゲット）システムの名前が入っています。

DDMデータ域は、リモート・システム上のデータ域を検索および更新するためにRTVDTAARAコマンドおよびCHGDTAARAコマンドで使用できます。

そのデータ域は作成時にジャーナル処理が可能です。詳細については、ジャーナル処理済みライブラリー開始(STRJRNLIB)コマンドを参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、データ域があるライブラリーに対するオブジェクト操作権および追加権限がユーザーに必要です。
2. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - a. マルチスレッドを使用できるジョブのDDMデータ域の作成はスレッド・セーフではありません。
 - b. DDMデータ域の作成は、ジョブで複数のスレッドが活動状態の時には正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTAARA	データ域	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
TYPE	タイプ	*DEC, *CHAR, *LGL, *DDM	必須, 定位置 2
LEN	長さ	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 長さ	1-2000	
	要素 2: 小数点以下の桁数	0-9	
VALUE	初期値	無制限	オプション, 定位置 4
RMTDTAARA	リモート・データ域	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: リモート・データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *RDB	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前	オプション
DEV	APPC装置記述	名前, <u>*LOC</u>	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*LOC</u> , *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*LOC</u> , *NETATR, *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

データ域 (DTAARA)

作成したいデータ域の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ域

名前 作成されるデータ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

データ域は、スレッドの現行ライブラリーに作成されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ域が作成されるライブラリーを指定します。

上

タイプ (TYPE)

作成されるデータ域に入る値のタイプを指定します。タイプは、文字値、10進数値、または論理値（1または0）とすることができます。あるいは、分散データ管理機能(DDM)データ域を作成することができます。

これは必須パラメーターです。

***DEC** データ域には10進数値が入ります。

***CHAR**

データ域には、文字ストリング値が入ります。

***LGL** このデータ域には、オン/オフ、真/偽、あるいは、YES/NOなどの2つの対立する条件を表すために使用できる1(1)またはゼロ(0)の論理値が入ります。

***DDM** 作成されるデータ域はDDMデータ域です。このデータ域には、アクセスされるリモート・データ域の名前およびそのデータ域が入っているリモート（ターゲット）システムの名前が入っています。

上

長さ (LEN)

作成されるデータ域の長さを指定します。10進数データ域の場合には、小数点の右に任意に桁数を指定することができます。データ域の値に可能な最大長および長さを指定しなかった時に使用される省略時の長さは、データ域のタイプによって決定されます。3つのタイプのそれぞれの最大長および省略時の値は次の通りです。

- 10進数
 - 最大— 24桁で、小数点以下の桁数は9桁
 - 省略時の値— 15桁で、小数点以下の桁数は5桁
- 文字
 - 最大— 2000文字
 - 省略時の値— 32文字
- 論理値—最大値および省略時値のいずれも1文字

注: 文字タイプの場合に、**初期値 (VALUE)**パラメーターに指定する場合には、省略時の長さは初期値の長さと同じです。

要素1: 長さ

1から2000

このデータ域が持つことのできる値の長さを指定します。このデータ域の値の長さには、値の小数点以下の桁数が含まれます。10進数値の最大長は24桁で、小数点以下の桁数は9桁を超えることはできません。CLプログラム中でこのデータ域を使用するためには、合計の長さを15桁に制限しなければなりません。

要素2: 小数点以下の桁数

0から9 **10進数(*DEC)**データ域の小数点の右側の桁数を指定します。これが指定されない場合には、0の値と見なされます。

上

初期値 (VALUE)

作成時にデータ域に割り当てられる初期値を指定します。この値は、このコマンドの**タイプ (TYPE)**パラメーターに指定されたタイプでなければなりません。値が指定されない場合には、文字データ域は空白に初期設定され、10進数データ域は0の値に初期設定され、また、論理データ域は0に初期設定されます。

非制限値

データ域の初期値を指定します。

上

リモート・データ域 (RMTDTAARA)

ターゲット・システムのリモート・データ域の名前を指定します。DDMデータ域を作成する時には、このデータ域が存在している必要はありません。

修飾子1: リモート・データ域

名前 リモート・データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** データ域を見つけるために、ターゲット・システムで呼び出されたスレッドのライブラリー・リストが検索されます。

*CURLIB

データ域を見つけるために、ターゲット・システムで呼び出されたスレッドの現行ライブラリーが検索されます。呼び出されたスレッドに現行ライブラリーがない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 リモート・データ域があるライブラリーを指定します。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトで使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

注: 複数のDDMデータ域がターゲット・システムに同じリモート・ロケーションを使用することができます。使用されるリモート・ロケーションは、リモート・データ域をサポートするオペレーティング・システムのリリースにあるシステムを示す必要があります。

***RDB** リモート・システムの判別には、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

通信名 ターゲット・システムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。DDMデータ域が作成される時には、ターゲット・システムにアクセスする時に使用されるリモート・ロケーションが存在している必要はありませんが、DDMデータ域がアクセスされる時には存在していなければなりません。

リモート・ロケーションの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMデータ域に関するリモート・ロケーション情報を判別するために使用されるリレーショナル・データベース項目を指定します。

通信名 ターゲット・システムまたはターゲットASPグループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定します。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMデータ域の作成時に存在している必要はありませんが、DDMデータ域のオープン時には存在している必要があります。このパラメーターは、**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに*RDBを指定した場合は必須です。

上

APPC装置記述 (DEV)

このDDMデータ域で使用されるソース・システムのAPPC装置記述の名前を指定します。DDMデータ域が作成される時には、この装置記述が存在している必要はありません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。装置名がリモート・ロケーションに正しくない場合には、プログラム装置項目が獲得される時にメッセージが送られます。装置名の詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定された**省略時ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)**が使用されます。

通信名 リモート・ロケーションと関連したローカル・ロケーションの名前を指定してください。ローカル・ロケーション名は、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケーションを指示する場合にだけ指定されます。リモート・ロケーションに対してローカル・ロケーション名が正しくない場合には、DDMデータ域がアクセスされる時に、エスケープ・メッセージが送られます。ローカル・ロケーション名の詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

モード (MODE)

ターゲット・システムと通信するためにリモート・ロケーション名で使用されるモード名を指定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定された**省略時モード (DFTMODE)**が使用されます。

通信名 使用されるモードの名前を指定してください。 リモート・ロケーションとローカル・ロケーションの組み合わせにモード名が正しくない場合には、DDMデータ域がアクセスされる時にエスケープ・メッセージが送られます。

モード名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

ターゲット・システムと通信するために使用されるリモート・ロケーションがあるリモート・ネットワークID (ID)を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連付けられているリモート・ネットワークIDが使用されます。リモート・ロケーションに複数のリモート・ネットワークIDが関連付けられている場合には、どのリモート・ネットワークIDを使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定された**ローカル・ネットワークID (LCLNETID)**が使用されません。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

通信名 リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のリモート・ネットワークIDを指示する場合にだけ指定されます。 リモート・ロケーションに対してリモート・ネットワークIDが正しくない場合には、DDMデータ域がアクセスされる時に、エスケープ・メッセージが送られます。

リモート・ネットワークIDの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値から取られます。 CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

例1:ゼロの値を持つデータ域の作成

```
CRTDTAARA DTAARA(TOTSALES) TYPE(*DEC) LEN(15 2)
          VALUE(0) TEXT('TOTAL SALES ACCUMULATOR')
```

このコマンドは、TOTSALESという名前のデータ域を作成し、それをスレッドに指定された現行ライブラリーに保管します。TOTSALESには次の属性があります。これは、小数部分が2桁で、初期値が0の15桁の数値データ域です。

例2:ブランクに初期設定されるデータ域の作成

```
CRTDTAARA DTAARA(CUSTOMER) TYPE(*CHAR) LEN(148)
          TEXT('CUSTOMER NAME AREA')
```

このコマンドは、CUSTOMERという名前のデータ域を作成します。このデータ域には、148文字までの長さの文字ストリングを入れることができます。初期値は指定されないため、データ域はブランクに初期設定されます。

例3:別のシステムのデータ域にアクセスするDDMデータ域の作成

```
CRTDTAARA DTAARA(SOURCE/SALES) TYPE(*DDM)
          RMTDTAARA(REMOTE/SALES) RMTLOCNAME(NEWYORK)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMデータ域を作成し、それをソース・システム上のSOURCEライブラリーに保管します。このDDMデータ域は、NEWYORKという名前のリモート・ロケーションを使用して、ニューヨークのシステムのREMOTEライブラリーに保管されているSALESという名前のリモート・データ域にアクセスします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1008

データ域&2は作成されなかった。

CPF1015

&2にデータ域&1が見つからない。

CPF1021

データ域&2のライブラリー&1が見つからない。

CPF1022

ライブラリー&1データ域&2に対する権限がない。

CPF1023

データ域&1が&2に存在している。

CPF1024

TYPEパラメーターとVALUEパラメーターが矛盾している。

CPF1025

LENパラメーターとVALUEパラメーターが矛盾している。

CPF1026

VALUEパラメーターは'0'または'1'でなければならない。

CPF1047

&2のデータ域&1の長さが正しくない。

CPF1062

文字値として、ヌル・ストリングは正しくない。

CPF1092

ライブラリー&1にデータ域&2を作成することができない。

CPF180B

機能&1は使用できない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

上

データ・ディクショナリー作成 (CRTDTADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー作成(CRTDTADCT)コマンドは、データ・ディクショナリーを作成します。ユーザーが対話式データ定義ユーティリティ(DDU)を使用してデータベース・ファイルを記述し、作成できるようになるためには、データ・ディクショナリーを作成しなければなりません。ユーザーはDDUまたはCRTDTADCTコマンドを使用して、データ・ディクショナリーを作成することができます。詳細は、IDDU USE (SC41-5704)にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	必須, 定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

データ・ディクショナリー (DTADCT)

データ・ディクショナリーが作成される時に割り当てられる名前を指定します。ディクショナリー名は作成されたライブラリー名と同じでなければなりません。また、ライブラリーはすでに存在しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' アポストロフィで囲んで最大50文字までのテキストを指定します。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限をシステムが決定します。**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

例1:データ・ディクショナリーの作成およびUSE権限の認可

```
CRTDTADCT DTADCT(DEPT547) AUT(*USE)
          TEXT('DEPT547 DICTIONARY')
```

このコマンドは、ライブラリーDEPT547にDEPT547という名前のデータ・ディクショナリーを作成します。他のユーザーに対するディクショナリーに指定された権限は*USEです。

例2:制限付きデータ・ディクショナリーの作成

```
CRTDTADCT DTADCT(DEPT245) AUT(MYLIST)
          TEXT('RESTRICTED DICTIONARY')
```

このコマンドは、ライブラリーDEPT245にDEPT245という名前の制限付きデータ・ディクショナリーを作成します。ユーザーに対してディクショナリーに指定された権限は、MYLISTという名前の許可リストからのものです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2DAB

権限リスト&1が見つからなかった。

CPF2D71

ディクショナリー名を&1とすることはできない。

CPF2F04

ディクショナリー&1はすでに存在している。

CPF2F07

ディクショナリー&1にエラーがある。

CPF2F11

ディクショナリー&1は作成されなかった。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

データ待ち行列作成 (CRTDTAQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ待ち行列作成(CRTDTAQ)コマンドでは、データ待ち行列を作成し、それを指定したライブラリーに記憶します。

i5/OSシステム・オブジェクトの1つのタイプであるデータ待ち行列は、ジョブの中でかまたはジョブの間で複数のプログラムによって使用されるデータを伝え、記憶するために使用されます。単一の待ち行列との間で複数のジョブがデータを送受信することができます。

出力待ち行列上のデータ待ち行列の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「印刷」カテゴリーを参照してください。

データ待ち行列作成(CRTDTAQ)コマンドでは、TYPE(*DDM)が指定された場合に、任意選択で分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列が作成されます。DDMデータ待ち行列は、DDMネットワーク内のリモート(ターゲット)システムにあるデータ待ち行列にアクセスするために、プログラムによって参照データ待ち行列として使用されます。ローカル(ソース)システムのプログラムは、リモート・データ待ち行列の名前ではなく、DDMデータ待ち行列の名前によってリモート・データ待ち行列を参照します。しかし、DDMデータ待ち行列名をリモート・データ待ち行列名と同じにすることができます。

ソース・システムのDDMデータ待ち行列には、リモート・データ待ち行列の名前と、そのリモート・データ待ち行列が置かれているリモート(ターゲット)システムの名前が入れます。

制約事項:このコマンドのユーザーは、データ待ち行列が入っているライブラリーに対する追加(*ADD)権限を持っていることが必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TYPE	タイプ	*STD, *DDM	オプション
MAXLEN	最大項目長	1-64512	オプション, 定位置 2
FORCE	補助記憶域への強制書き込み	*NO, *YES	オプション
SEQ	順序	*FIFO, *LIFO, *KEYED	オプション
KEYLEN	キーの長さ	1-256	オプション
SENDERID	送信元IDの組み込み	*NO, *YES	オプション
SIZE	待ち行列サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 最大項目数	整数, *MAX16MB, *MAX2GB	
	要素 2: 初期項目数	整数, 16	

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUTORCL	自動再利用	*NO, *YES	オプション
RMTDTAQ	リモート・データ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: リモート・データ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *RDB	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前	オプション
DEV	APPC装置記述	名前, *LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

作成するデータ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 データ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

データ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

上

タイプ (TYPE)

作成されるデータ待ち行列のタイプを指定します。標準データ待ち行列または分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列を作成することができます。

***STD** 標準データ待ち行列が作成されます。この値の使用には、MAXLENパラメーターが必要です。

***DDM** DDMデータ待ち行列が作成されます。この値には、アクセスされるリモート・データ待ち行列の名前(RMTDTAQパラメーター)とそのデータ待ち行列が入っているリモート(ターゲット)システムの名前(RMTLOCNAMEパラメーター)が必要です。

上

最大項目長 (MAXLEN)

データ待ち行列に送られる項目の最大長を指定します。

注:

1. データ待ち行列を出力待ち行列と関連付ける場合には、最大長値が少なくとも128 が必要です。
2. このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

1から64512

最大項目長を指定します。有効なのは1から64512の範囲内の値です。

上

補助記憶域への強制書き込み (FORCE)

データ待ち行列は、このデータ待ち行列に関して項目が送受信された時に補助記憶装置に強制記憶されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

***NO** 送受信命令はすぐには補助記憶装置に強制記憶されません。

***YES** 送受信命令はただちに補助記憶装置に強制記憶されます。これにより、プログラムまたはシステムに障害が起こった場合でも、確実に変更は失われません。これには、追加のシステム・オーバーヘッドが必要です。

上

順序 (SEQ)

項目がデータ待ち行列から受け取られる順序を指定します。

注:

1. データ待ち行列を出力待ち行列と関連付ける場合には、順序値が*FIFOまたは*LIFOである必要があります。
2. このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

***FIFO** データ待ち行列項目は先入れ先出し順序で受け取られます。

***LIFO** データ待ち行列項目は後入れ先出し順序で受け取られます。

***KEYED**

データ待ち行列項目はキーによって受け取られます。キーは、その送信元によって項目に追加された接頭部です。

上

キーの長さ (KEYLEN)

キーの文字数を指定します。

注: このパラメーターは、SEQ(*KEYED)およびTYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

1から256

キーの長さを指定します。有効な値の範囲は1から256です。

上

送信元IDの組み込み (SENDERID)

データ待ち行列に送られる各メッセージに付けられる送信元IDを指定します。このIDには、ジョブ名および送信元の現在のユーザー・プロファイルが入っています。

注: このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

***NO** 送信済みメッセージには送信元IDが組み込まれません。

***YES** 送信済みメッセージには送信元IDが組み込まれます。

上

待ち行列サイズ (SIZE)

データ待ち行列用に割り振られる記憶域の容量を指定します。パラメーター要素は、データ待ち行列の最大項目数および初期項目数から構成されます。

注: このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

要素1: 最大項目数

データ待ち行列に追加できる最大項目数を指定するために、次のいずれかが使用されます。

***MAX16MB**

システムは待ち行列に追加できる最大項目数を計算し、約16メガバイト(MB)の最大サイズまで拡張することができます。1 MBは1,048,576バイトと等しくなります。この値は初期項目数16を持ち、バージョン4リリース5モディフィケーション0 (V4R5M0)より前のオペレーティング・システムのリリースとの互換性を提供します。

***MAX2GB**

システムは、データ待ち行列に追加できる最大項目数を計算します。データ待ち行列は約2ギガバイト(GB)の最大サイズまで拡張することができます。1 GBは1,073,741,824バイトと等しくなります。

項目数 データ待ち行列には、少なくともこの項目数を保持することができます。マシンによって使用される拡張サイズを基にして、データ待ち行列の最大項目数は指定された値よりわずかに大きい場合があります。指定する値は0より大きくしなければなりません。

要素2: 初期項目数

データ待ち行列に最初に割り振られる記憶域の容量を指定します。待ち行列は、最大項目長の初期項目数を保持するように作成されます。

16 最初に、記憶域は16項目の最大項目長が保持されるように割り振られます。

初期項目数

データ待ち行列に保持できる初期項目数の値を指定してください。この値は0より大きくしなければなりません。

自動再利用 (AUTORCL)

データ待ち行列が空になっている時に、データ待ち行列用に割り振られた記憶域が自動的に再利用（解放）されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

***NO** データ待ち行列が空になっている時に、データ待ち行列用に割り振られた記憶域は解放されません。

***YES** データ待ち行列が空になっている時に、データ待ち行列用に割り振られた記憶域が解放されます。初期項目数のための記憶域が割り振られたままになります。

リモート・データ待ち行列 (RMTDTAQ)

ターゲット・システム上のリモート・データ待ち行列を指定します。このデータ待ち行列は、DDMデータ待ち行列の作成時に存在している必要はありません。

修飾子1: リモート・データ待ち行列

名前 アクセスされるリモート・データ待ち行列を識別するデータ待ち行列の名前を指定してください。名前が10文字を超えることはできません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

- ***LIBL** (省略時のライブラリー修飾子) とみなされるかまたはそれが指定された場合には、データ待ち行列を見つけるために、ターゲット・システム上の呼び出されたジョブのライブラリー・リストが検索されます。
- ***CURLIB**が指定された場合には、データ待ち行列を見つけるために、ターゲット・システム上の呼び出されたジョブの現行ライブラリーが検索されます。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトで使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

注: 複数のDDMデータ待ち行列で、ターゲット・システムに対して同じリモート・ロケーションを使用することができます。使用されるリモート・ロケーションは、リモート・データ待ち行列をサポートするi5/OSのリリースにあるシステムを指し示していなければなりません。

***RDB** リモート・システムを判別するために、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

名前 ターゲット・システムと関連付けられるリモート・ロケーションの名前を指定してください。DDMデータ待ち行列が作成される場合には、ターゲット・システムのアクセスに使用されるリモート・ロケーションが存在している必要はありませんが、DDM データ待ち行列がアクセスされる場合には、それが存在していなければなりません。

リモート・ロケーションの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMデータ待ち行列のリモート・ロケーション情報の判別に使用されるリレーショナル・データベース項目を指定します。

通信名 ターゲット・システムまたはターゲットASPグループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定してください。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMデータ待ち行列の作成時に存在している必要はありませんが、DDMデータ待ち行列の使用時には存在している必要があります。**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに***RDB**が指定されている場合には、このパラメーターは必須です。

上

APPC装置記述 (DEV)

このDDMデータ待ち行列で使用されるソース・システム上のAPPC装置記述の名前を指定します。DDMデータ待ち行列が作成される場合には、この装置記述が存在している必要はありません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。その装置名がリモート・ロケーションに対して有効でない場合には、プログラム装置項目が必要とされた時にメッセージが送られます。装置名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

名前 リモート・ロケーションと関連付けられるローカル・ロケーションの名前を指定してください。ローカル・ロケーション名は、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケー

ションを指示する場合にだけ指定されます。 ローカル・ロケーション名がリモート・ロケーションに対して有効でない場合には、DDMデータ待ち行列がアクセスされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

ローカル・ロケーション名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

上

モード (MODE)

ターゲット・システムと通信するためにリモート・ロケーション名で使われるモード名を指定します。

***NETATR**

ネットワーク属性で指定されたモード名が使われます。

名前 リモート・システムと通信をするために使われるモードの名前を指定してください。モード名がリモート・ロケーションとローカル・ロケーションのどの組み合わせに対しても有効でない場合には、DDMデータ待ち行列がアクセスされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

モード名の詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションが置かれており、ターゲット・システムとの通信に使われるリモート・ネットワークID (ID)を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDが使われます。複数のリモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どのリモート・ネットワークIDを使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたRMTNETID値が使われます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使われません。

リモート・ネットワークID

リモート・ロケーションと関連付けられるリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のリモート・ネットワークIDを指示する場合にだけ指定されます。 リモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションに対して有効でない場合には、DDMデータ待ち行列がアクセスされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

リモート・ネットワークIDの詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

データ待ち行列を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで指定します。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:標準データ待ち行列の作成

```
CRTDTAQ DTAQ(DEPTADTA) MAXLEN(100) AUT(*EXCLUDE)
        TEXT('SPECIAL DATA + FILES FOR DEPTA')
```

このコマンドは、DEPTADTAという名前のデータ待ち行列を作成し、それを現行ライブラリーに書き込みます。最大長項目は100です。AUT(*EXCLUDE)が指定されているので、このデータ待ち行列は、待ち行列

を作成したユーザーおよび特殊権限の与えられたユーザーだけが使用し、制御することができます。部門Aのユーザーには、オブジェクト権限認可(GTROBJAUT)コマンドを使用して、このデータ待ち行列を使用する権限を与えることができます。

例2:別のシステムのデータ待ち行列にアクセスするためのDDMデータ待ち行列の作成

```
CRTDTAQ  DTAQ(SOURCE/SALES)  TYPE(*DDM)
          RMTDTAQ(REMOTE/SALES) RMTLOCNAME(NEWYORK)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMデータ待ち行列を作成し、それをソース・システムのSOURCEライブラリーに保管します。このDDMデータ待ち行列は、NEWYORKという名前のリモート・ロケーションを使用して、ニューヨークのシステムのREMOTEライブラリーに保管されているSALESという名前のリモート・データ待ち行列にアクセスします。

例3:サイズ属性および自動再利用を指定したデータ待ち行列の作成

```
CRTDTAQ  DTAQ(MYLIB/MYDTAQ) MAXLEN(80)
          SIZE(*MAX2GB 100)  AUTORCL(*YES)
```

このコマンドは、MYDTAQという名前のデータ待ち行列を作成し、それをMYLIBライブラリーに保管します。最大項目長は80バイトであり、待ち行列項目は先入れ先出し(FIFO)順で受け取られます。このデータ待ち行列には、最初は100項目を保留するための記憶域が割り振られます。データ待ち行列は約2ギガバイトの最大サイズまで拡張することができます。すべての待ち行列項目が受け取られた場合には、このデータ待ち行列用の記憶域が自動的に再利用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2109

OBJパラメーターが*ALLまたは総称名の場合は、NEWOBJの値は*SAMEでなければならない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2116

DATA (*YES)が指定されたが、*ALLまたは*FILEがOBJTYPEリストにない。

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF2123

指定した名前またはタイプのオブジェクトはライブラリー&2に存在していない。

CPF2130

&1個のオブジェクトが複製された。&2個のオブジェクトが複製されていません。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2152

タイプ*&1のオブジェクトをQTEMPの中に作成することはできない。

CPF2162

ライブラリー&1のすべてのオブジェクトを複製することはできない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2185

TOLIB, TOASPDEV,またはNEWOBJパラメーターが正しくない。

CPF2186

オブジェクト&1をライブラリー&2に作成することができない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF327E

ファイル&1の代替名は使用できない。

CPF6565

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9827

オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

上

複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト複製(CRTDUPOBJ)コマンドは、単一または1グループのオブジェクトをコピーします。ファイルをそっくりそのまま複製するわけではありません。新しいオブジェクトを元のオブジェクトが入っているライブラリーに保管する場合には、その名前を変更しなければなりません。元のオブジェクトが入っているライブラリー以外のライブラリーに作成する場合には、新しく作成するオブジェクトは元のオブジェクトの名前を保存することができます。総称オブジェクト名、または*ALL、または複数のオブジェクト・タイプを指定すれば、関連オブジェクトのグループをコピーすることができます。関連オブジェクトのグループをコピーする場合には、新しいオブジェクトが作成されるライブラリーに別のライブラリーを指定しなければなりません。物理ファイル内のデータまたは保管ファイル内のデータがコピーされるかどうかを指定することもできます。また、既存のデータベース・ファイルに関連付けされた制約またはトリガーが新しく作成されるファイルに関連付けされるかどうか、および既存のデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルID を新しく作成されるデータベース・ファイルにコピーするべきかどうかを指定できます。

注: ライブラリー作成(CRTLIB)コマンドの作成権限(CRTAUT)パラメーターでコピー先ライブラリーについて指定された値は、重複オブジェクトには使用されません。重複オブジェクトの共通および専用権限は、以下の例外を除き、元のオブジェクトと同じになります。INSTEAD OFトリガーの重複処理によらない場合には、新しいデータベース・ファイルは、旧ファイルに対する挿入、更新、または削除機能を失い、旧ファイルの対応する挿入、更新、または削除権限は新規ファイルに認可されません。重複オブジェクトの所有者は、コマンドを出すユーザーのユーザー・プロファイルであるか、コマンドを出すユーザーのユーザー・プロファイルが所有者としてグループ・プロファイルを指定しているメンバー・ユーザー・プロファイルである場合には、グループ・プロファイルです。

CRTDUPOBJコマンドを使用してファイルを複写する時には、オブジェクト(OBJ)パラメーターに指定された既存のファイルの形式は、新しいオブジェクト(NEWOBJ)パラメーターに指定された新しく作成されるファイルと共用されます。同じ形式を共用するファイル・オブジェクトの最大数(およそ32K)に達した場合には、FROMファイルの形式を共用する代わりに、新規作成ファイルによって新しい形式が作成されます。

注: 同じ形式を共用するすべてのファイルは関連していると見なされ、保管操作が実行された時には、同じ保管リストにまとめてグループ化されます。

論理ファイルが別のライブラリーにコピーされる時には、そのファイルの基礎を決めるのに次の2つの場合があります。

1. 論理ファイルとその基礎になっている物理ファイルの両方がもともと同じライブラリーに入っている場合には、論理ファイルの複製が作成される前に、物理ファイルの複製が新しいライブラリーに作成されていなければなりません。この2つの複製が作成された後、新しい物理ファイルが新しい論理ファイルの基礎になります。
2. 論理ファイルとその基礎になっている物理ファイルがもともと別のライブラリーに入っている場合には、論理ファイルを複製する前に物理ファイルを複製する必要はありません。この場合には、元の論理ファイルの基礎になっていた同じ物理ファイルが複製論理ファイルの基礎になります。第1の場合と異

なり、論理ファイルが複製される前に物理ファイルが新しいライブラリーに複製された場合でも、複製物理ファイルではなく元の物理ファイルが複製論理ファイルの基礎になります。

CRTDUPOBJコマンドによってデータベース・ファイルを作成する時には、**重複制約 (CST)**パラメーターを使用して、既存のファイルと関連した制約を新規作成のファイルと関連付けるかどうかを指定することができます。同様に、**重複トリガー (TRG)**パラメーターを使用して、既存のファイルと関連したトリガーを新規作成のファイルと関連付けるかどうかも指定できます。トリガーの複製に関しては、特別な考慮事項があることに注意してください。例えば、複製では、既存のファイルと関連したトリガー・プログラムが既存のファイルと同じライブラリー中にあったかどうかによって異なります。また、**重複ファイルID (FILEID)**パラメーターを使用して、既存のファイルと関連したファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが新しく作成するファイルで使用されるかどうかも指定できます。

注: 詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリーを参照してください。

複製されるオブジェクトがジャーナル処理される資格属性のあるオブジェクト・タイプの場合には、オブジェクトが作成された後にジャーナル記録を自動的に開始する方法が2つあります。

1. ターゲット・ライブラリーがジャーナル処理されている場合は、ライブラリーのジャーナル継承規則は、オブジェクトに対してジャーナル処理を開始するかどうかを決定します。
2. ターゲット・ライブラリーがQDFTJRNという名前のデータ域を持っている場合は、そのQDFTJRNデータ域の値に基づいて、オブジェクトが自動的にジャーナル処理を開始します。

注: QDFTJRNデータ域は、ターゲット・ライブラリーのジャーナル処理状態およびジャーナル継承規則に優先します。

注: QDFTJRNデータ域は将来のリリースではサポートしません。

ライブラリー記述の表示(DSPLIBD)コマンドを使用して、ライブラリーのジャーナル情報を表示してください。ライブラリーのジャーナル処理の詳細については、ライブラリーのジャーナル開始(STRJRNLIB)コマンドを参照してください。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

1. 既存のオブジェクトに対する使用(*USE)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
2. 新しいオブジェクトのライブラリーに対する使用(*USE)および追加(*ADD)権限が必要です。
3. オブジェクトが権限リストである場合には、権限リスト管理(*AUTLMGT)権限が必要です。
4. 重複した保管ファイルを作成するためには、保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。 **データの複製(DATA)**パラメーターに*YESが指定されていると、保管ファイルの内容が複製されます。
5. オブジェクトが複製される場合には、その複製は作成先ライブラリーと同じ補助記憶域プール(ASP)に作成されます。
6. CRTDUPOBJコマンドを使用してファイルのコピーを作成する時に、**データの複製(DATA)**パラメーターに*YESを指定した場合には、アクセスを不可能にするために、データ・コピー中には新しい重複ファイル・オブジェクトが占有されます(タイムアウトなしの*EXCLロックと類似したもの)。データ・コピーが進行中に新しい重複ファイル・オブジェクトを参照する機能を使用しようとする、そのデータ・コピーが完了するまで、そのワークステーションをロックする結果となります。データ・コピーが完了するまで、新しい重複ファイル・オブジェクトで使用してはいけない機能の例は次の通りです。

- WRKACTJOB (オプション11-ロック; オプション8-WRKOBJLCK)
 - DSPDBR
 - DSPFD
 - DSPFFD
 - DSPJOB (オプション12-ロック; F10-ジョブ・レコード・ロック;オプション14-ファイルのオープン)
 - DSPLIB (新しい重複ファイルが入っているライブラリー)
 - DSPOBJD
 - WRKOBJLCK
 - DSPRCDLCK
 - 新しい重複ファイルを参照するその他のすべての機能
7. データベース・ファイルまたは保管ファイルを複製する時に、複製元ライブラリーの記憶域が1次または2次補助記憶域プール(ASP)から割り振られる場合には、複製先ライブラリーの記憶域は、複製元ライブラリーの記憶域と同じASPグループ内のASPから割り振られるか、またはシステムASP (ASP 1)あるいは基本ユーザーASP (ASP 2から32)から割り振られなければなりません。 データベース・ファイルまたは保管ファイルのあるASPグループから別のASPグループに重複することは、サポートされていません。
 8. *GSS, *FNTRSC, *FORMDF, *OVL, *CSI, *PAGDFN,または*PAGSEGのタイプの重複オブジェクトの作成時には、新しいオブジェクトの名前の長さは8桁を超えてはいけません。
 9. ユーザー空間(*USRSPC)およびユーザー見出し(*USRIDX)のユーザー定義域オブジェクトをコピーできるのは、システム値QALWUSRDMN (ライブラリーでユーザー定義域オブジェクトが使用できる) で使用できるライブラリーに対してだけです。 しかし、ユーザー・オブジェクトがシステム・ドメイン・オブジェクトとして作成された場合には、制約はありません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
FROMLIB	FROMライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 57 回の繰り返し): *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *JOBQ, *JOBQ, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *SBSD, *SCHIDX, *SRVPGM, *SSND, *TBL, *USRIDX, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 3
TOLIB	TOライブラリー	名前, * FROMLIB , *SAME, *CURLIB	オプション, 定位置 4
NEWOBJ	新しいオブジェクト	名前, * OBJ , *SAME	オプション, 定位置 5
ASPDEV	複写元ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション
TOASPDEV	宛先ASP装置	名前, * ASPDEV , *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション
DATA	データの複写	* NO , *YES	オプション
CST	重複制約	* YES , *NO	オプション
TRG	重複トリガー	* YES , *NO	オプション
FILEID	重複ファイルID	* NO , *YES	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

複製される1つまたは複数のオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定されたライブラリー中で、権限があり、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターに指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが複製されます。

総称名 指定されたライブラリー内で複製されるオブジェクトのグループを指定してください。総称オブジェクト名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*) が続いた文字ストリングとして指定されます。例えば、ABC*です。総称名は、総称オブジェクト名と同じ接頭部で始まり、適切な権限のあるすべてのオブジェクトを指定します。

名前 複写の対象となる特定のオブジェクトの名前を指定してください。

FROMライブラリー (FROMLIB)

複製されるオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

注: *LIBLは、特定オブジェクトおよび単一の特定オブジェクト・タイプのみ指定することができます。

*CURLIB

複製されるオブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 複製されるオブジェクトを見つけるために検索されるライブラリーの名前を指定してください。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

複製されるオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターは、単一値として指定することも、1つまたは複数のオブジェクト・タイプのリストとして指定することもできます。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 指定されたライブラリー内において指定された名前をもつオブジェクト・タイプのうち、権限のあるものがすべて複製されます。**オブジェクト(OBJ)**パラメーターに*ALLも指定された場合には、指定されたライブラリー内にあるもののうち、権限があり、しかも複製可能なタイプであるすべてのオブジェクトが複製されます。

その他の値

オブジェクト・タイプ

複製されるオブジェクトのタイプに対する1つまたは複数の値を指定してください。

TOライブラリー (TOLIB)

重複オブジェクトが作成されるライブラリーを指定します。

注: ライブラリーが補助記憶域プール(ASP)内にある場合には、複製するオブジェクトは、ASP内に存在できる有効なオブジェクト・タイプでなければなりません。このオブジェクト・タイプがASPに存在できる有効なタイプでない場合には、エラー・メッセージが送られます。

***FROMLIB**

新しいオブジェクトを含むライブラリーは、元のライブラリーを含むライブラリーと同じ名前を持つこととなります。これは必ずしも元のオブジェクトを含むライブラリーと同じライブラリーとは限らないので、注意してください。複製元ASP装置(ASPDEV)パラメーターと宛先ASP装置(TOASPDEV)パラメーターが同じ補助記憶域プール(ASP)装置を記述している場合には、これは同じライブラリーです。同じライブラリーである場合には、新しいオブジェクト(NEWOBJ)パラメーターを使用して、元のオブジェクトの名前と異なる名前を新しいオブジェクトに割り当てなければなりません。ASPDEVパラメーターとTOASPDEVパラメーターが異なるASP装置を記述している場合には、異なるASP装置上にある異なるライブラリー（ライブラリー名は同じ）です。

***SAME**

上記の*FROMLIBを参照してください。*SAMEと*FROMLIBは同じ意味を持っています。

***CURLIB**

新しいオブジェクトはスレッドの現行ライブラリーに入れられます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。このパラメーターに*CURLIBを指定した場合には、宛先ASP装置(TOASPDEV)パラメーターが*でなければならぬか、TOASPDEVパラメーターが*ASPDEVで、複製元ASP装置(ASPDEV)パラメーターが*でなければなりません。

名前 新しいオブジェクトを入れるライブラリーの名前を指定してください。

上

新しいオブジェクト (NEWOBJ)

新しいオブジェクトの名前を指定します。TOライブラリー(TOLIB)パラメーターに*SAMEまたは*FROMLIBを指定し、複製元ASP装置(ASPDEV)パラメーターと宛先ASP装置(TOASPDEV)パラメーターの両方に同じ補助記憶域プール装置を指定した場合には、名前をここに指定しなければなりません。複製されるデータベース・ファイル中のメンバーの名前は、新しいファイルでも同じままです。

***OBJ** 新しいオブジェクトは、元のオブジェクトと同じ名前をもちます。これを指定する場合には、新しいオブジェクトと元のオブジェクトが異なるライブラリーになければなりません。

***SAME**

上記の*OBJを参照してください。*SAMEと*OBJは同じ意味を持っています。

名前 新しいオブジェクトの名前を指定してください。

上

複写元ASP装置 (ASPDEV)

複製されるオブジェクトが入っているライブラリー（**FROM**ライブラリー(**FROMLIB**)パラメーター）に対して記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいオブジェクトが複製されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。FROMLIBパラメーターに*LIBLまたは*CURLIBを指定した時にこのパラメーターを使用する場合には、*が唯一の有効な値です。

* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

上

宛先ASP装置 (TOASPDEV)

新しいオブジェクトが入るライブラリー（**TO**ライブラリー(**TOLIB**)パラメーター）に対して記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ずそのオブジェクトが正しいライブラリーに複製されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。TOLIBパラメーターに*CURLIBを指定した時に、このパラメーターを使用する場合には、TOASPDEV(*)を指定しなければならないか、TOASPDEV(*ASPDEV)を指定して、**複写元ASP装置(ASPDEV)**パラメーターを*にしなければなりません。

*ASPDEV

ASPDEVパラメーターに指定されたASP装置がライブラリーを見つけるために検索されます。

* 現在、スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32),およびスレッドのASPグループ内の1次および2次ASP（スレッドがASPグループを持っている場合）が含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブ

ライリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

上

データの複写 (DATA)

データベース物理ファイルまたは保管ファイル内のデータ・レコードを、新しいオブジェクトにコピーするかどうかを指定します。中に入っているデータがコピーされるかどうかにかかわらず、データベース物理ファイルのメンバーがコピーされます。

***NO** データベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードは、新しいオブジェクトにコピーされません。

***YES** データベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードが新しいオブジェクトにコピーされます。

注:

1. 別のジョブが更新のために使用中であるファイルは複製できません。
2. 新しいファイルの相対レコード番号は元のファイルと同じです。

上

重複制約 (CST)

既存のデータベース物理ファイルと関連した制約を、新規作成のファイルにコピーするかどうかを指定します。データベース物理ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

***YES** 既存のデータベース物理ファイルと関連した制約が新規作成のファイルにコピーされます。

***NO** 既存のデータベース物理ファイルと関連した制約が新規作成のファイルにコピーされません。

上

重複トリガー (TRG)

既存のデータベース・ファイルと関連したトリガーを、新規作成のファイルにコピーするかどうかを指定します。データベース・ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

注: トリガーの複写に関して注意する必要がある特別な考慮事項があります。例えば、複写では、既存のファイルと関連したトリガー・プログラムが既存のファイルと同じライブラリー中にあったかどうかによって異なります。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリーを参照してください。

***YES** 既存のデータベース・ファイルと関連したトリガーが新規作成のファイルにコピーされます。

***NO** 既存のデータベース・ファイルと関連したトリガーが新規作成のファイルにコピーされません。

上

重複ファイルID (FILEID)

既存のデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが新しく作成するファイルで使用されるかどうかを指定します。データベース・ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

***NO** 既存のデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDは新しく作成するファイルで使用されません。新しく作成するファイルのメンバー・レベルおよびファイル・レベルIDは、システムによって生成されます。例えば、1070224092922などです。

***YES** 既存のデータベース・ファイルのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDは新しく作成するファイルで使用されます。同じファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDを持つ2つのデータベース・ファイルを持つと、データベースの操作に影響する場合があります。この値は、まったく同じデータベース・ファイルが必要な場合にのみ使用すべきです。

上

例

例1: データ・レコード、制約、およびトリガーを含むデータベース・ファイルの複写

```
CRTDUPOBJ OBJ(FILEA) FROMLIB(LIB1) OBJTYPE(*FILE)
          TOLIB(LIB2) DATA(*YES)
```

ライブラリーLIB1中のFILEAという名前のファイルは、ライブラリーLIB2に複製されます。ライブラリーLIB1のFILEAに認可されていた権限は、ライブラリーLIB2に作成されたFILEAに認可されます。ライブラリーLIB1中のFILEAと関連したデータ・レコード、制約、およびトリガーがライブラリーLIB2に作成されたFILEAにコピーされます。新しいファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが、ライブラリーLIB2に作成されたFILEA用に生成されます。これは、ライブラリーLIB2のFILEAのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDが、ライブラリーLIB1のFILEAのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDと違うことを意味します。

例2: データ・レコード、制約、およびトリガーを含まず、同じファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDを保持しないデータベース・ファイルの複写

```
CRTDUPOBJ OBJ(FILEB) FROMLIB(LIB3) OBJTYPE(*FILE) NEWOBJ(FILEDUP)
          DATA(*NO) CST(*NO) TRG(*NO) FILEID(*YES)
```

ライブラリーLIB3中のFILEBの名前のファイルがライブラリーLIB3中にFILEDUPとして複写されます。ライブラリーLIB3中のFILEBと関連したデータ・レコード、制約、およびトリガーはライブラリーLIB3に作成されたFILEDUPにコピーされません。ライブラリーLIB3に作成されたFILEDUPのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDは、ライブラリーLIB3のFILEBのファイル・レベルおよびメンバー・レベルIDと同じに

なります。FILEBで認可されていた権限が、以下の例外を除いてライブラリーLIB3に作成された新しいFILEDUPに対して認可されます。INSTEAD OFトリガーの重複処理によらない場合には、新しいデータベース・ファイルFILEDUPは、旧データベース・ファイルFILEBに対する挿入、更新、または削除機能を失い、旧データベース・ファイルFILEBの対応する挿入、更新、または削除権限は新規データベース・ファイルFILEDUPに認可されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2109

OBJパラメーターが*ALLまたは総称名の場合は、NEWOBJの値は*SAMEでなければならない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2116

DATA (*YES)が指定されたが、*ALLまたは*FILEがOBJTYPEリストにない。

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF2123

指定した名前またはタイプのオブジェクトはライブラリー&2に存在していない。

CPF2130

&1個のオブジェクトが複製された。&2個のオブジェクトが複製されていません。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2152

タイプ*&1のオブジェクトをQTEMPの中に作成することはできない。

CPF2155

FROMLIBには*LIBLを指定することはできない。

CPF216C

TOLIB(*CURLIB)にはTOASPDEV値は無効である。

CPF216D

TOLIB, NEWOBJ,またはTOASPDEVパラメーターが正しくない。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2162

ライブラリー&1のすべてのオブジェクトを複製することはできない。

CPF2173

ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2185

TOLIB, TOASPDEV,またはNEWOBJパラメーターが正しくない。

CPF2186

オブジェクト&1をライブラリー&2に作成することができない。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9827

オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

上

編集記述作成 (CRTEDTD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述作成(CRTEDTD)コマンドは、指定された編集記述の編集マスクを定義し、それをQSYSライブラリーに入れます。ユーザーは、5つまでの編集記述を定義することができます。これらの各編集記述のバージョンは、QSYSライブラリーに提供されています。弊社提供のバージョンの詳細は、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)にあります。新しいバージョンを作成するためには、最初に編集記述削除(DLTEDTD)コマンドで弊社提供のバージョンを削除しなければなりません。

編集記述は、数値フィールドを編集するために、データ記述仕様および高水準言語プログラムで使用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
EDTD	編集記述	5, 6, 7, 8, 9	必須, 定位置 1
INTMASK	整数マスク	文字値, *NONE	オプション
DECPNT	小数点文字	文字値, '!', *NONE	オプション
FRACMASK	小数マスク	文字値, *NONE	オプション
FILLCHAR	充てん文字	文字値, *BLANK	オプション
CURSYM	通貨記号	文字値, *NONE	オプション
ZEROBAL	ゼロ値の編集	*YES, *NO	オプション
NEGSTS	否定状況文字	文字値, *NONE	オプション
POSSTS	肯定状況文字	文字値, *NONE	オプション
LFTCNS	左の定数文字	文字値, *NONE	オプション
RGTCNS	右の定数文字	文字値, *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

編集記述 (EDTD)

作成されるユーザー定義の編集記述を識別するための1桁の数字のコード(5, 6, 7, 8,または9)を指定します。作成されたオブジェクト(QSYSライブラリーに記憶される) の実際の名前は、**QEDITN**であり、**N**はこのパラメーターで指定される1桁の数字の編集コードです。

これは必須パラメーターです。

上

整数マスク (INTMASK)

10進数フィールドの整数部分の編集を記述する文字ストリング（マスク）を指定します。ブランク、ゼロ、アンパーサンド(&)以外の文字は、編集処理では定数として取り扱われます。ブランク、ゼロ、アンパーサンドの意味は、次のとおりです。

- ブランク： 各ブランクは、充填文字またはゼロ消去が終わっている場合には編集される値の数字で置き換えられます。
- ゼロ(0)： 最も左のゼロは、数字置き換え文字であり、ゼロ消去を終了させるためにも用いられます。整数マスク中のその他のすべてのゼロは、定数として扱われます。
- アンパーサンド(&)：ブランクに置き換えられます。

注： CRTEDTDコマンドにはINTMASK(*NONE)とFRACMASK(*NONE)の両方を指定することはできません。その代わりに、INTMASKとFRACMASKにブランクを指定し、印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドまたは表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドにGENLVL(30)を指定してください。これにより、ファイルを作成することができますが、編集コード・キーワードは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

編集マスクは10進数フィールドの整数部分で使用されません。

'整数マスク'

10進フィールドの整数部分の編集マスクとして使用する文字ストリングを指定します。整数マスクには、アポストロフィで囲まれた最大31文字を使用することができます。

上

小数点文字 (DECPNT)

10進フィールドの場合に、編集結果の整数(INTMASK)部分と小数(FRACMASK)部分を区切る小数点として使用する単一文字を指定します。フィールドに小数点以下の桁数がない場合には、この文字は使用されず、編集結果の長さにおいては考慮されません。

注： DECPNTに指定された区切り文字がINTMASKパラメーターでも使用されている場合には、それは整数マスクでは特殊な意味をもちません。これは、定数としてのみ扱われるか、整数マスクの数字置き換え文字として扱われます。

考えられる値は次の通りです。

',' (ピリオド)

ピリオド（または小数点）は区切り文字です。指定する場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。

*NONE

区切り文字は指定されません。編集結果に小数点が必要な場合です。

'区切り文字'

小数点として使用するコンマ(,)などの区切り文字を指定します。英数字または特殊文字を使用することができますが、特殊文字の場合はアポストロフィで囲まなければなりません。

小数マスク (FRACMASK)

10進フィールドの小数部分（小数点の右側の部分）の編集を記述する文字ストリング（マスク）を指定します。文字の意味は、**整数マスクプロンプト**（INTMASKパラメーター）で説明した通りです。例外として、ゼロはすべて定数として処理され、ブランクは、充填文字で置き換えられません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

編集マスクは、10進フィールドの小数部分では使用しません。

'小数マスク'

10進フィールドの小数部分の編集マスクとして使用する文字ストリングを指定します。小数マスクには、アポストロフィで囲まれた最大31文字を使用することができます。

充てん文字 (FILLCHAR)

ゼロ消去の結果の各桁に使用する文字を指定します。指定した文字で、整数マスクの最初の有効桁の左にあるすべての先行ゼロ（または置き換えゼロ）が置き換えられます。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

充てん文字はブランクです。

'充填文字'

充填文字として使用される文字を指定してください。英数字または特殊文字を使用することができますが、特殊文字の場合はアポストロフィで囲まなければなりません。

通貨記号 (CURSYM)

浮動通貨記号として使用する文字ストリングを指定します。指定した文字ストリングは、最初の有効桁（または定数）のすぐ左に現われます。最初の有効桁がゼロ（ゼロ消去の終了桁に現われる）の場合には、文字ストリングは、該当のゼロが位置する桁で終わります。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

浮動通貨記号は指定しません。編集結果には不要です。

'浮動通貨記号'

金額フィールドの浮動通貨記号として使用される文字ストリングを指定してください。最大15桁の英数字および特殊文字をアポストロフィで囲んで指定することができます。

ゼロ値の編集 (ZEROBAL)

ゼロの値に対する編集処置を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 通常の編集規則に従います。編集規則の詳細については、AS/400 CL (制御言語) 解説書 (SC88-5339)の編集記述作成(CRTEDTD)コマンドの説明を参照してください。

***NO** 編集されるフィールドにゼロの値がある場合には、フィールドの全体 (整数部, 小数点, 小数部) が、編集マスク中の定数を含めて充填文字で置き換えられます。

上

否定状況文字 (NEGSTS)

フィールドが負の値の場合に、編集結果の直後に続く文字ストリングを指定します。フィールドが正の場合には、ストリングの長さに合わせて空白が用いられます。これは、肯定状況文字プロンプト(POSSTSパラメーター) に値が指定されていない場合に限り行われます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文字ストリングは指定されません。編集結果のフィールドの右側に空白が使用されます。

'負の状況文字ストリング'

フィールドの値が負の場合に、編集済みフィールドの直後に続く文字ストリングを指定します。負の状況の文字ストリングとして、アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

上

肯定状況文字 (POSSTS)

フィールドが正またはゼロの場合に、編集結果の直後に続く文字ストリングを指定します。フィールドが負の場合には、ストリングの長さに合わせて空白が用いられます。これは、否定状況文字プロンプト (NEGSTSパラメーター) に値が指定されていない場合に限り行われます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文字ストリングは指定されません。編集結果のフィールドの右側に空白が使用されます。

'正の状況文字ストリング'

フィールドの値が正の場合に、編集済みフィールドの直後に続く文字ストリングを指定します。正の状況の文字ストリングとして、アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

上

左の定数文字 (LFTCNS)

編集結果の最左端に常に現われる文字ストリング定数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

編集済みフィールドの左側に固定情報は現われません。

'左固定情報'

編集済みフィールドの左側に常に現われる文字ストリングを指定します。アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

上

右の定数文字 (RGTCNS)

編集結果の最右端に常に現われる文字ストリング定数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

編集済みフィールドの右側に固定情報は現われません。

'右固定情報'

編集済みフィールドの右側に常に現われる文字ストリングを指定します。アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、QSYSの作成権限と同じです。QSYSの作成権限はライブラリー記述

表示(DSPLIBD) コマンドを使用して表示することができます。ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドによって作成権限を変更しても、新しい権限は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

この例は、以下を前提としています。

FIELD A

値001234をもつ6桁(4個の整数と2個の小数部の桁)

FIELD B

FIELD Aと同じ、ただし負の値をもつ(-001234)

FIELD C

FIELD Aと同じ、ただしゼロ値をもつ(000000)

DATE 値091878をもつ6桁 (小数部の桁をもたない)

ブランク・スペースを表すのに、文字**B**が使用されます。

例1:編集記述5の作成

```
CRTEDTD  EDTD(5)  INTMASK(' , , 0')  FRACMASK(' ')
          NEGSTS('DB ')  POSSTS('CREDIT')
          LFTCNS('¥')  RGCNS(' **')
```


FIELDA

論理マスクは負の値の場合には'¥B,BB0.BBDBBBBB B**'であり、正の値の場合には'¥B,BB0.BB CREDIT B**'です

編集の結果は¥BBB12.34CREDITB**です

FIELDB

論理マスクは同じです

編集の結果は¥BBB12.34DBBBBBB**です

FIELD C

論理マスクは同じです

編集の結果は¥BBBBB.00CREDITB**,あるいはZEROBAL(*NO)が指定されている場合には ¥BBBBBBBBB CREDITB**です

例2:編集記述6の作成

```
CRTE DTD  EDTD(6) INTMASK(' . 0 ') DECPNT(',')
          FRACMASK(' ') CURSYM('DM') NEGSTS('- **')
```

FIELDA

論理マスクは浮動DM付きの'BBB.B0B,BB-B**'です

編集の結果はBBBDM12,34BBBBです

FIELD B

論理マスクは同じです

編集の結果はBBBDM12,34-B**です

FIELD C

論理マスクは同じです

編集の結果はBBBBBDM0,00BBBB,あるいはZEROBAL(*NO)が指定されている場合には BBBBBBBBBBBBBBBBです

例3:編集記述7の作成

```
CRTE DTD  EDTD(7) INTMASK('0 MONTH DAY YEAR')
          LFTCNS('DATE IS ')
```

日付 論理マスクはINTMASKパラメーター値と同等です

編集の結果はDATEBISBB9MONTH18DAYB78YEARです

例4:編集記述9の作成

```
CRTE DTD  EDTD(9) INTMASK(' , 0') DECPNT(' . ')
          FRACMASK(' ') FILLCHAR('*') NEGSTS(' ERROR **')
```

FIELD A

論理マスクは'B,BB0.BBBBBBBBBBBB'または'B,BB0.BBBERRORB**'です (どちらも*を充てん文字として使用しています)

編集の結果は***12.34BBBBBBBBBBBです

FIELD B

論理マスクは同じです

編集の結果は***12.34BERRORB**です

FIELD C

論理マスクは同じです

編集の結果は*****.00BBBBBBBBB,あるいはZEROBAL(*NO)が指定されている場合には
*****BBBBBBBBBです

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

上

フォルダー作成 (CRTFLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォルダー作成(CRTFLR)コマンドによって、フォルダーを作成することができます。このフォルダーは、文書およびその他のフォルダーを編成するために使用されます。

制約事項:

既存のフォルダーにフォルダーを作成する場合には、既存のそのフォルダーに対して変更(*CHANGE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FLR	フォルダー	文字値	必須, 定位置 1
INFLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, *FLR	オプション
AUT	権限	名前, *INFLR, *EXCLUDE, *ALL, *CHANGE, *USE	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-32, *INFLR	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

フォルダー (FLR)

作成中のフォルダーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 作成中のフォルダーの名前（1から12桁の範囲で、任意指定のエクステンションも含まれる）を指定してください。エクステンションが含まれない場合には、文書またはフォルダー名は最大8桁までとすることができます。エクステンションが含まれる場合には、エクステンションはピリオドで始まり、最大3桁まで追加することができます。フォルダー名のエクステンションによって、システム上のフォルダーの選択的リストを行うのに役立つ特定の情報を使用して、フォルダーを識別することができます。

上

フォルダー中 (INFLR)

作成中のフォルダーを入れるフォルダーの名前を指定します。

*NONE

フォルダーは別のフォルダー内に作成されません。すなわち、これは第1レベルのフォルダーと見なされます。

名前 新しく作成されるフォルダーを入れるフォルダーの名前(1から63桁の範囲)を指定します。

フォルダーを他のフォルダーに入れることができ、特定のフォルダー名はそれを含むフォルダー内でだけ固有であればよいために、フォルダーを識別するために、いくつかのフォルダー名をつなぐことが必要になることがあります。これは一般にフォルダー内のオブジェクトへのパスと呼ばれます。フォルダーのパスは次の通りです。

- 1つまたは複数のフォルダー名。複数のフォルダー名の場合には、それぞれをスラッシュ(/)で区切ります。2つのフォルダー名の例はFOLDERA/FOLDERBです。
- 合計桁数が63桁を超えないもの

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***FLR** テキストは**フォルダー (FLR)**パラメーターに指定されたフォルダー名です。

文字 最大44桁までをアポストロフィで囲んで指定します。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*INFLR

フォルダーが第1レベルのフォルダーである場合には、その権限は*EXCLUDEです。フォルダーが第1レベルのフォルダーでない場合には、その権限は**フォルダー中 (INFLR)**パラメーターに指定されたフォルダーからコピーされます。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

名前 権限リストの名前を指定してください。共通権限は*AUTLに設定され、権限リストは作成されたフォルダーに結び付けられます。

上

補助記憶域プールID (ASP)

フォルダーを作成する補助記憶域プール(ASP)のIDを指定します。このパラメーターは、INFLR(*NONE)が指定された時（第1レベルのフォルダーを作成する時）しか指定することができません。

*INFLR

フォルダーはその親フォルダーのASPに作成されます。INFLR(*NONE)が指定された時には、これはシステムASPです。

1から32

フォルダーを作成するASPのID (ID)を指定してください。この値は、システムに構成されているASPを指定しなければなりません。ASPの構成については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値（テキスト'記述' (TEXT)パラメーターに適用される）として入力しているデータの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDは、コマンドの入力に使用された表示装置と関連しています。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

例

例1:フォルダーの別のフォルダー内での作成

```
CRTFLR  FLR(QTR1)  INFLR('PAYROLL/1987')  AUT(*CHANGE)
          TEXT('第1四半期の給与計算')
```

このコマンドは、フォルダーQTR1をフォルダーPAYROLL/1987内に作成します。共通はフォルダーに対する*CHANGE権限（文書をフォルダーに追加し、フォルダー記述を変更し、あるいはフォルダーの内容を表示することができる）が認可されています。フォルダー1987は、第1レベル・フォルダーであるPAYROLLフォルダー内にあります。

例2:フォルダーのASP内での作成

```
CRTFLR  FLR(MANFCTNG)  INFLR(*NONE)  ASP(2)  AUT(*USE)
          TEXT('製造')
```

このコマンドは、フォルダーMANFCTNGを第1レベル・フォルダーとして、システム上に以前に構成済みの、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 2内に作成します。共通はフォルダーに対する*USE権限（フォルダーの記述または内容を表示することができる）が認可されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A18

フォルダー&1は作成されなかった。

上

ファームウェア・プロダクトの作成 (CRTFMWPRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファームウェア・プロダクトの作成(CRTFMWPRD)コマンドは、サーバー・ファームウェア用のプログラム一時修正(PTF)を導入するためのライセンス・プログラムを作成します。CRTFMWPRDコマンドは、配布媒体を作成するために使用されたシステム以外のハードウェア・プラットフォームに対してサーバー・ファームウェア更新を組み込むために、セントラル・サイトの配布処理の一部として使用されます。作成されたファームウェア・プロダクトのためのPTFの導入後、ターゲット・システムでの導入時に使用される配布媒体を作成する際に、そのプロダクトを選択する必要があります。セントラル・サイトの配布処理を使用したソフトウェアの配布の詳細については、i5/OS Information Centerを参照してください。

プロダクトIDが有効なファームウェア・プロダクトでない場合、またはリリースがファームウェア・プロダクトに対して有効でない場合は、そのファームウェア・プロダクトにプログラム一時修正(PTF)は組み込まれません。プロダクトの正しいIDおよびリリースの判断に際しての援助については、IBM SYSTEMSハードウェアINFORMATION CENTER ([HTTP://PUBLIB.BOULDER.IBM.COM/INFOCENTER/ESERVER/V1R3S/INDEX.JSP](http://PUBLIB.BOULDER.IBM.COM/INFOCENTER/ESERVER/V1R3S/INDEX.JSP))の「フィックスおよびアップグレード」トピック（「トピックの概要」>「サービス、サポート、およびトラブルシューティング」>「フィックスおよびアップグレード」）を参照してください。

サーバー・ファームウェア・プロダクトが配布用に必要でなくなった場合は、ライセンス・プログラムの削除(DLTLICPGM)コマンドを使用して、そのファームウェア・プロダクトを削除できます。DLTLICPGMコマンドは、PTF保管ファイルは削除しません。PTFの保管ファイルを削除するには、プログラム一時修正の削除(DLTPTF)コマンドを使用します。

制約事項:このコマンドは*EXCLUDE権限を共通権限として出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRDID	プロダクト識別コード	文字値	必須、定位置 1
RLS	リリース	文字値、'V×R×M×'	必須、定位置 2

上

プロダクト識別コード (PRDID)

作成するファームウェア・プロダクトのIDを指定します。

プロダクトID

プロダクトIDを指定してください。このIDは7文字の長さで、57339XXの形式(Xは、0から9の任意の数) でなければなりません。

リリース (RLS)

作成するファームウェア・プロダクトのリリース・レベルを指定します。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション番号です。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

例

```
CRTFMWPRD PRDID(5733906) RLS(V1R1M0)
```

このコマンドは、IDが5733906、リリース・レベルがV1R1M0のファームウェア・プロダクトを作成します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0C0E

ファームウェア・プロダクト&1は作成されませんでした。

フォント資源の作成 (CRTFNTRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源作成(CRTFNTRSC)コマンドは、物理ファイルからフォント資源オブジェクトを作成します。物理ファイルには、フォント資源情報が入っています。たとえば、フォント資源情報は、S/370ホスト・システムから受け取ることができ、システム・アプリケーション体系(SAA)形式になっていてかまいません。CRTFNTRSCコマンドによって処理される情報のタイプに応じ、その結果はフォント文字セット、コード・ページ、またはコード化フォントのいずれかです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FNTRSC	オプション, 定位置 3
FNTCAPTURE	フォント取り込み	*FILE, *NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	フォント資源の置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

フォント資源 (FNTRSC)

作成されるフォント資源を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

名前 フォント資源の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

フォント資源を記憶するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 フォント資源を記憶したいライブラリーを指定してください。

上

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られたフォント資源が入っているファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

名前 使用するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイル名が入っているライブラリーを指定してください。

上

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

フォント資源レコードが入っているファイル・メンバーを指定します。

***FNTRSC**

ファイル・メンバーの名前は、このコマンドのフォント資源 (FNTRSC)パラメーターに指定されます。

名前 ソース・ファイル (FILE)パラメーターによって指定されたファイル中のメンバーの名前を指定してください。

上

フォント取り込み (FNTCAPTURE)

フォント文字セットまたはコード・ページをフォント収集に適格としてマークを付けるかどうかを指定します。FNTCAPTURE(*YES)のマークがあるフォントおよびコード・ページは、フォントの取り込みをサポートする印刷装置でのダウンロード後に取り込むことができます。これにより、フォントの取り込みをサポートするIPDS印刷装置は、フォントの取り込みに*YESのマークがつけられてダウンロードされたフォントを動的に取り込んだり、ホストでキャッシュ処理することができます。取り込まれたフォントは、その後、印刷装置の電源がオフにされ、再びオンにされた後も、PSFでは印刷装置常駐フォントであるかのようにみなされ、印刷装置に留まります。印刷装置へのフォントの順次ダウンロードが取り除かれることにより、印刷

のパフォーマンスは向上します。機密保護の重要なフォントにFNTCAPTURE(*YES)としてのマークをつける際には注意が必要です。LAN接続の印刷装置の場合には、印刷装置に取り込まれたフォントに、他のユーザーが同じシステムの別の印刷ジョブまたは別のシステムの別の印刷ジョブからアクセスできる可能性が存在します。印刷ジョブで参照されるホスト・フォントを使用するためには、そのフォントが印刷装置に取り込まれているかどうかにかかわらず、フォント・オブジェクトおよびそのライブラリーに対する権限が必要です。フォント文字セットおよびコード・ページのマーク付けに加えて、使用中の印刷装置でフォントの取り込みを活動化することも必要です。IPDS印刷装置でフォントの取り込みを活動化するためには、CRTSPFCFGまたはCHGPSFCFGコマンドにFNTCAPTURE(*YES)を指定しなければなりません。

注:

- 取り込みに適格なものとしてマークされたフォント文字セットとコード・ページの対は、フォントの取り込みをサポートしない印刷装置にもダウンロードされます。
- コード化フォントのマーク付けはサポートされていません。コード化フォントにマークをつけようとしても、変更は有効となりません。

***FILE** フォント・ソース仕様に記憶されたフォント取り込み情報がフォントのマーク付けに使用されません。情報が見つからない場合には、*NOとみなされます。

***YES** 印刷装置にダウンロードした後で、フォント文字セットまたはコード・ページは収集に適格となります。印刷装置がフォント収集をサポートしていない場合には、この情報は無視されて、フォントがダウンロードされます。

***NO** フォント文字セットまたはコード・ページはフォント収集に適格ではありません。また、これは印刷装置にダウンロードされることになります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***MBRTXT**

テキストは、フォント資源を作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されます。原始ステートメント入力ユーティリティ(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドのいずれかを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

フォント資源の置き換え (REPLACE)

作成中のフォント資源と同じ名前をもつ既存のフォント資源を置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のフォント資源は置き換えられます。

***NO** 同じ名前のフォント資源がシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のフォント資源は置き換えられません。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

例

```
CRTFNRSC  FNRSC(MYLIB/GOTHIC12) FILE(*LIBL/FONTRSCS)
          MBR(*FNRSC) AUT(*USE)
          TEXT('GOTHIC FONT 12 PITCH')
```

このコマンドは、MYLIBにフォント資源GOTHIC12を作成します。ユーザーのライブラリー・リスト中にあるソース・ファイルFONTRSCSがメンバーGOTHIC12と共に入力データとして使用されます。AUTパラメーターに*USEを指定することにより、その他のユーザーがGOTHIC12にアクセスできますが、変更はできません。テキストはフォント資源を記述しています。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

上

フォント・テーブルの作成 (CRTFNNTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル作成(CRTFNNTBL)コマンドによって、印刷サービス機能(PSF)で使用するフォント・マッピング・テーブルを作成することができます。これらのテーブルにより、以下を制御するフォント・テーブルの項目を変更、追加、および除去することができます。

1. ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング
2. 印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのマッピング
3. ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング
4. 印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング
5. 印刷装置常駐から印刷装置常駐フォント置き換えへのマッピング

印刷装置からホストへのフォント・マッピングおよびホストから印刷装置へのフォント・マッピング（上記の最初の4つのテーブル）の実行では、ユーザー・テーブルが最初に一致を検索されます。一致が見つからない場合には、次にシステム・フォント・テーブルまたはコード・ページ・テーブルが検索されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つからない場合、または指定された置き換えフォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FNTTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

フォント・テーブル (FNTTBL)

作成するフォント・テーブルの名前を指定します。このパラメーターで許可されている単一値ごとにシステムで作成できるフォント・マッピング・テーブルは1個だけです。これらの値の1つを指定すると、フォント・マッピング・テーブルがライブラリーQUSRSYSに以下の名前の1つで作成されます。

単一値	フォント・テーブル
-----	-----
*PHFCS	QPHFCS
*PHCP	QPHCP
*HPFCS	QHPFCS
*HPCP	QHPCP

また、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを作成することができます。複数の印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルをシステムに作成することができます。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・マッピング・テーブルが作成されます。このテーブルを作成する時には、QPHFCSという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルは、アプリケーションが印刷装置常駐フォントを参照し、印刷装置(3827, 3825, 3820, 3900-1型など)が常駐フォントをサポートしていない時に使用されます。印刷サービス機能 (PSF)は、印刷装置常駐フォントからホスト常駐フォントに参照をマップしてそれをダウンロードしなければなりません。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが作成されます。このテーブルが作成される場合には、QHPCPという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルはQPHFCSテーブルのように、アプリケーションが印刷装置常駐コード・ページを参照し、使用される印刷装置が印刷装置常駐コード・ページをサポートしていない時に使用されます。印刷装置常駐コード・ページがホスト常駐コード・ページにマップされて、PSFによって印刷装置にダウンロードされなければなりません。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング・テーブルが作成されます。このテーブルが作成される場合には、QHPFCSという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルは、アプリケーションがホスト常駐フォント (フォント文字セットおよびコ

ード・ページ)を参照し、印刷装置(4224, 4234, 4230, 64XXなど)がホスト常駐フォントのダウンロードをサポートしていない時に使用されます。PSFは、ホスト常駐フォントから印刷装置常駐フォントへの参照をマップしなければなりません。

***HPCP**

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが作成されます。このテーブルが作成される場合には、QHPCPという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルはQHPFCSのように、アプリケーションがホスト常駐コード・ページを参照し、使用される印刷装置がホスト常駐コード・ページをサポートしていない時に使用されます。ホスト常駐コード・ページが印刷装置常駐コード・ページにマップされて、PSFによって印刷装置にダウンロードされなければなりません。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 作成する印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの名前を指定します。

フォント・テーブルの名前は、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを作成する時に指定しなければなりません。この印刷装置常駐フォント置き換えテーブルは、次の3つの条件がすべて存在している時に使用してください。

- PSF接続印刷装置に印刷している。
- 使用している印刷装置によってサポートされていない印刷装置常駐フォントを、アプリケーションが指定している。
- システムによって選択されたものと異なる置き換え印刷装置常駐フォントを指定したい。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを特定のPSF印刷装置で使用するには、PSF構成の作成(CRTPSF CFG)コマンドまたはPSF構成の変更(CHGPSFCFG)コマンドのFNNTBLパラメーターでフォント・テーブルの名前を指定する必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

フォント・テーブルの保管に現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルを保管したいライブラリーの名前を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

フォント・テーブルについて簡単に説明したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'文字値'

50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定します。

上

権限 (AUT)

オブジェクトに対して特定権限をもたないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのグループ・プロファイルがオブジェクトに対して特定権限をもたないユーザーに与える権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーのライブラリー作成(CRTLIB)コマンドのCRTAUTパラメーターに指定された値を使用して、そのオブジェクトの権限を判別します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

変更権限によって、ユーザーはオブジェクトに対して基本的な機能を変更し実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される操作を除いて、すべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御、オブジェクトの機密保護を指定、オブジェクトを変更、オブジェクトに対して基本的な機能を実行、またオブジェクトの所有権を変更することができます。

***USE** 使用権限は、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはオブジェクトをアクセスすることはできません。

名前 オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTFNTTBL  FNTTBL(*PHFCS)
            TEXT('PRINTER TO HOST FONT MAPPING TABLE')
```

このコマンドは、印刷装置からホストへのフォント・マッピング・テーブルを作成します。このテーブルはQPHFCSと名前が付けられ、ライブラリーQUSRSYS中に作成されます。テーブルは項目なしで作成されます。フォント・テーブル項目追加(ADDFNTTBLE)およびフォント・テーブル項目変更(CHGFNTTBLE)コマンドを実行することによって、項目を追加または変更することができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

PQT0121

ライブラリー&2にフォント・テーブル&1が作成されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

上

書式定義の作成 (CRTFORMDF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書式定義作成(CRTFORMDF)コマンドは、物理ファイルから書式定義を作成します。物理ファイルには、書式定義情報が入っています。たとえば、書式定義情報は、S/370*ホスト・システムから受け取ることができ、システム・アプリケーション体系(SAA)形式になっていてかまいません。

制約事項: スプール・ファイルのシステム/370*システムへのネットワークの場合には、書式定義名の先頭2文字は'F1'でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FORMDF	書式定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 書式定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FORMDF	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	書式定義の置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

書式定義 (FORMDF)

作成される書式定義を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 書式定義

名前 書式定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

書式定義を保管するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 書式定義を記憶したいライブラリーを指定してください。

上

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られた書式定義レコードが入っているファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 書式定義レコードが入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

書式定義レコードが入っているファイル・メンバーを指定します。

***FORMDF**

ファイル・メンバーの名前は、このコマンドの**書式定義 (FORMDF)**パラメーターに指定されます。

名前 ソース・ファイル (FILE)パラメーターによって指定されたファイル中のメンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***MBRTXT**

テキストは、書式定義を作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されます。原始ステートメント入力クーティリティー(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドのいずれかを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

書式定義の置き換え (REPLACE)

作成中の書式定義と同じ名前をもつ既存の書式定義を置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存の書式定義は置き換えられます。

***NO** 同じ名前の書式定義がシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存の書式定義は置き換えられません。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTFORMDF  FORMDF(*CURLIB/FORMDF1)
            FILE(*CURLIB/FORMDF) MBR(F1A01238)
            AUT(*EXCLUDE)
            TEXT('DEFAULT FORM DEFINITION FOR AFP PRINTERS')
```

このコマンドは、現行ライブラリーまたはQGPLライブラリー（現行ライブラリーがない場合）に書式定義FORMDF1を作成します。入力データは、現行ライブラリーのメンバーF1A01238があるソース・ファイルFORMDFから取られます。権限に*EXCLUDEを指定すると、所有者に対するオブジェクトの使用法が制限されます。テキストは、表示されている書式定義について記述しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

上

フィルターの作成 (CRTFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルターの作成(CRTFTR)コマンドでは、指定したタイプのフィルター・オブジェクトが作成されます。フィルターには、選択項目と処置項目が入っています。フィルターによって、ユーザーはデータをグループに分類して、それぞれのグループに適用する特別な処置を指定することができます。この代表的なユーザーは、システム・プログラマーあるいはシステムの管理を担当するオペレーターです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TYPE	タイプ	*ALR, *PRB	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

フィルター (FILTER)

作成されるフィルターの修飾名を指定します。

指定したライブラリーはシステム補助記憶域プール(ASP番号1)もしくは構成基本ユーザーASP (ASP番号2-32)に存在していなければなりません。独立ASP上のライブラリーは指定できません。考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

フィルターを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されません。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

作成するフィルターの名前を指定してください。

上

タイプ (TYPE)

作成されるフィルターのタイプを指定します。 フィルターのタイプは、フィルターを使用できるアプリケーションおよびフィルターに入れることができる項目のタイプを決定します。

- *ALR フィルターは警報フィルターです。 I5/OS警報管理機能は、受信または生成する警報についてこのフィルターを使用することができます。
- *PRB フィルターは問題フィルターです。 I5/OS問題管理機能は、作成、変更、または削除される問題項目にこのフィルターを使用することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

- *ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

- *USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

```
CRTFTR  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  TYPE(*ALR)  AUT(*CHANGE)
        TEXT('ユーザー・フィルター')
```

このコマンドは、MYFILTERという名前の警報フィルターをライブラリーMYLIB内に作成します。タイプは*ALRであり、共通には「ユーザー・フィルター」と説明されているフィルターに対する*CHANGE権限があります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

上

グラフィックス・シンボル・セットの作成 (CRTGSS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフィックス・シンボル・セット作成(CRTGSS)コマンドは、シンボル・セットが入っている物理ファイルからグラフィックス・シンボル・セット・オブジェクトを作成します。ファイルの内容に応じて、CRTGSSコマンドは、ベクトル・シンボル・セット（モード3図形文字）またはイメージ・シンボル・セット（モード2図形文字）のいずれかを作成します。

シンボル・セット・オブジェクトは、図形データ表示管理プログラム(GDDM*)または図形表示ルーチン(PGR)グラフィックス・アプリケーション・プログラム、あるいはビジネス・グラフィックス・ユーティリティ図表で弊社提供のグラフィックス・シンボル・セットの代りとして使用することができます。ビジネス・グラフィックス・ユーティリティの詳細は、AS/400ユーティリティ：ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ(BGU)使用者の手引きと参照 (N:SC09-1408)に説明があります。

制約事項：このコマンドで使用する物理ファイルには、80バイト以上で400バイト以下のレコードが入っていなければなりませんし、ソース・ファイルには92バイト以上で412バイト以下のレコードが入っていなければなりません。ファイルの内容はシンボル・セットの形式となっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GSS	グラフィックス・シンボル・セット	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフィックス・シンボル・セット	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *GSS	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

グラフィックス・シンボル・セット (GSS)

作成するグラフィックス・シンボル・セットの名前およびライブラリー名を指定します。ライブラリー名が指定されないと、グラフィックス・シンボル・セットはライブラリー***CURLIB** に入れます。グラフィックス・シンボル・セット名は、最大8桁の長さとすることができます。

これは必須パラメーターです。

上

ファイル (FILE)

シンボル・セットの作成に使用するソース・データ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、グラフィックス・シンボル・セットが記憶されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**が使用されます。

ライブラリー名

グラフィックス・シンボル・セットが入るライブラリーを指定します。

上

メンバー (MBR)

シンボル・セットの作成に使用するファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***GSS** 入力データの入るファイル・メンバーの名前は、作成されるシンボル・セットと同じ名前になります。

メンバー名

シンボル・セット入力データの入るファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***MBRTXT**

テキストは、シンボル・セットの作成に使用されるファイル・メンバーから取り出されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'**記述**' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

1048 System i: プログラミング i5/OS コマンド COMMIT (コミット) ~

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限をシステムが決定します。**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

例

例1:ソース・ファイルと同じ名前のセットの作成

```
CRTGSS  GSS(GSSLIB/ADMVARP) FILE(GSSLIB/ADMVARP)
```

このコマンドは、ソース・ファイルと同じ名前のシンボル・セットを同じライブラリーに作成します。

例2:別のライブラリーからのセットの作成

```
CRTGSS  GSS(*CURLIB/VECTOR1) FILE(GSSLIB/QDATASRC)
        MBR(SCHEM) AUT(*ALL) TEXT('SCHEMATIC VECTOR SYMBOLS')
```

このコマンドは、ライブラリーGSSLIBのファイルQDATASRCにあるメンバーSCHEMからQGPLライブラリーにVECTOR1という名前のシンボル・セットを作成します。公開にはシンボル・セット上に完全な権限があります。シンボル・セット・データはソース物理ファイルQDATASRCに保管されていることは事実ですが、シンボル・セット・データの内容の一部が表示できないので、ソース入力ユーティリティー(SEU)によって編集または表示できません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8660

記号セット&1がライブラリー&2に作成されなかった。

上

ICFファイル作成 (CRTICFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能ファイル作成(CRTICFF)コマンドは、このコマンドに指定された情報およびソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)からシステム間通信機能(ICF)ファイルを作成します。

ICFファイルは、通信装置との入出力操作を行うために使用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
ACQPGMDEV	獲得するプログラム装置	文字値, *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL	オプション, 定位置 4
MAXPGMDEV	プログラム装置の最大数	1-256, 1	オプション
MAXRCLEN	最大レコード長	1-32767, *CALC	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	1-32767, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	1-32767, *NOMAX, *IMMED	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
REPLACE	ファイルの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション

上

ファイル (FILE)

作成するシステム間通信機能(ICF)ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ICF通信ファイル

名前 ICFファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ICFファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ICFファイルを入れるライブラリー名を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

ICFファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)ソースが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QDDSSRC

QDDSSRCという名前のソース・ファイルには、ICFファイルの作成に使用されるDDSソースが入っています。

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成されるICFファイルのデータ記述仕様(DDS)ソースが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ICF通信ファイル (FILE)**パラメーターに指定されたICFファイル名と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

上

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

上

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

上

獲得するプログラム装置 (ACQPGMDEV)

ファイルのオープン時にファイルで使用するために獲得されるプログラム装置を指定します。

***NONE**

プログラム装置が獲得されずにファイルがオープンされます。このファイルで使用されるプログラム装置で入出力を開始するためには、前もってそれらのプログラム装置のすべてを明示的に獲得しておかなければなりません。

文字値 ファイルのオープン時に獲得される最初のプログラム装置の名前を指定してください。プログラム装置はファイルがオープンされる前にファイルに追加しなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されるソース・ファイル・メンバーからとられます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される印刷出力のタイプを指定します。このパラメーターには、次の値を最大3つまで任意の順に指定できます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

プログラム作成オプション

*SRCまたは*SOURCE

ファイルの作成に使用されたソース・ステートメントおよび起こったエラーの印刷出力が作成されます。

*NOSRCまたは*NOSOURCE

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出された場合には、エラーを含むレコード様式と一緒にソース・ステートメントがリストされます。

ソース・リスト・オプション

*LIST ソース・ステートメントおよび他のフィールド記述の参照から得られるファイル仕様の詳細リストを示す展開ソース印刷出力が作成されます。

*NOLIST

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

*NOSECLVL

DDS印刷出力のメッセージ・セクションは、DDSの処理中に見つかったエラーの第2レベル・メッセージ・テキストを含みません。

*SECLVL

第2レベル・メッセージ・テキストがソース・リストに組み込まれます。

上

プログラム装置の最大数 (MAXPGMDEV)

ICFファイルに追加できるプログラム装置項目の最大数を指定します。プログラム装置項目の追加は、システム間通信機能装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドを使用して行います。

1 1つのプログラム装置項目または*REQUESTERだけをこのICFファイルに追加することができます。

1から256

このICFファイルに対して定義されているか、あるいはこのICFファイルに追加できるプログラム装置項目の最大数を指定してください。

上

最大レコード長 (MAXRCDLLEN)

ファイルのオープン時に使用されるレコード長の最大バイト数を指定します。

***CALC**

ファイル中の最大のレコードについて計算した長さが、ファイルのオープン時に使用されます。

1から32767

最大レコード長を指定してください。このレコード長がファイル中の最も大きなレコードに対して計算された長さより小さい場合には、計算された値が使用されます。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれから指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

***NOMAX**

システムが操作の完了を待機する時間に制限はありません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

整数 プログラムが待機する最大秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767秒です。

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないため、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起こります。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

単一値

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

ファイルがプログラムによってオープンされる時に、ICF装置ファイルのレコード様式のレベルIDを検査するかどうかを指定します。

***YES** レコード様式のレベルIDが検査されます。一致しないレベルIDがある場合には、ファイルをオープンしようとしたプログラムにオープン・エラー・メッセージが送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。
*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 新しいICFファイルが正常に作成された場合には、同じ名前およびライブラリーの既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しいICFファイルを作成することはできません。

上

例

```
CRTICFF FILE(QGPL/ICFTEST) SRCFILE(QGPL/QDDSSRC)
        MAXPGMDEV(5) ACQPGMDEV(DENVER)
```

このコマンドは、QGPLライブラリーにファイルICFTESTを作成します。このファイルの作成に使用されるDDSソースは、QGPLライブラリーのファイルQDDSSRCからのメンバーICFTESTに入っています。このファイルは最大5つのプログラム装置で使用できます。ファイルのオープン時には、プログラム装置DENVERが取得されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

上

DBCS変換辞書作成 (CRTIGCDCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書作成(CRTIGCDCT)コマンドにより、指定した2バイト文字セット(DBCS)変換辞書が作成され、その辞書が指定したライブラリーに保管されます。この辞書には、英数字項目とそれらに関連したDBCSの語句が入っています。システムは、DBCS変換を行なう場合にDBCS変換辞書を参照します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	要素リスト	オプション
	要素 1:	文字値, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	

上

DBCS変換辞書 (IGCDCT)

作成される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書の名前および辞書が保管されるライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、辞書はジョブの現行ライブラリーに保管されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

これは必須パラメーターです。

注: ユーザー作成のDBCS変換辞書にはどのような名前でも付けることができますが、QUSRIGCDCTと名付けられた場合にのみ、その辞書はDBCS変換に使用されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成されるオブジェクトが入るライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)の作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

例

```
CRTIGCDCT  IGCDC(DBCSLIB/QUSRIGCDCT)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されるQUSRIGCDCTという名前のDBCS変換辞書を作成します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8431

DBCS変換辞書&2はライブラリー&3に作成されなかった。

イメージ・カタログの作成 (CRTIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ作成(CRTIMGCLG)コマンドは、イメージ・カタログ・オブジェクト(*IMGCLG)をライブラリーQUSRSYSに作成して、そのイメージ・カタログをターゲット・ディレクトリーと関連付けるために使用します。

またこのコマンドは、ストリーム・ファイル・タイプ(*STMF)のイメージ・カタログ・オブジェクトQIMGCLGをディレクトリー(DIR)パラメーターで指定されたディレクトリーに作成します。このカタログ・オブジェクトは、イメージ・カタログ作成(CRTIMGCLG)コマンドまたはイメージ・カタログ変更(CHGIMGCLG)コマンドにIMPORT(*YES)が指定された場合に、イメージ・カタログ・ディレクトリーからイメージ・カタログを回復するために使用されます。

イメージ・カタログは仮想光ディスク装置または仮想磁気テープ装置と関連付けることができます。これには、イメージ・カタログ項目追加(ADDIMGCLGE)コマンドを使用してイメージ・カタログに追加されたイメージに関する情報が含まれています。イメージ・カタログには、次の情報が入っています。

ディレクトリー名

イメージ・ファイルが常駐するディレクトリー。

装置名 イメージ・カタログと関連した仮想装置の装置名。

カタログ状況

イメージ・カタログの現況と仮想装置とのその関連付け。

カタログの補助記憶域プール(ASP)しきい値

作成時または追加スペース割り振り時に仮想ボリュームが使用できる補助記憶域プール(ASP)のパーセンテージ。

イメージ・カタログには、各項目に次の情報が入っています。

イメージ・ファイル名

イメージ・ファイルの名前。

ボリュームIDまたは名前

イメージ・ファイルを表す光ディスクまたはテープ・ボリュームのフォーマットされた名前。

索引番号

イメージ・カタログ中のこのイメージの順序。

イメージ・ファイル状況

仮想装置中のイメージの状況。

テキスト

イメージの簡略説明。

制約事項:

- イメージ・カタログを作成するには、次の権限が必要です。
 - QUSRSYSライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限。

- 2. イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
- REFIMGCLGパラメーターが指定された場合には、次の追加権限が必要です。
 1. 参照イメージ・カタログに対する使用(*USE)権限。
 2. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 仮想ボリュームの追加(ADDVRTVOL)パラメーターが指定された場合には、さらに次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. イメージ・カタログに対する変更(*CHANGE)権限。
- IMPORT(*YES)が指定された場合には、ディレクトリー(DIR)パラメーターで指定されたディレクトリー内のイメージ・カタログ・オブジェクトに対する読み取り(*R)およびオブジェクト管理 (*OBJMGT)権限が必要になります。
- ディレクトリーと関連付けることができるイメージ・カタログは1つだけです。
- DIR(*REFIMGCLG)が指定された場合には、REFIMGCLGパラメーターによって定義されたカタログは作動可能な状況であってはいけません。
- イメージ・カタログ・ディレクトリーでは、次のファイル・システムがサポートされています。
 1. "ルート" (I)
 2. QOPENSYS
 3. *TYPE2ファイルをサポートするユーザー定義ファイル・システム(UDFS)。
- イメージ・カタログ・ディレクトリーの場合、UDFSのルート・ディレクトリーはサポートされていません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
DIR	ディレクトリー	パス名, *REFIMGCLG	必須, 定位置 2
TYPE	イメージ・カタログ・タイプ	*OPT, *TAP	オプション, 定位置 3
CRTDIR	ディレクトリーの作成	*YES, *NO	オプション
IMPORT	イメージカタログのインポート	*NO, *YES	オプション
CLGASPTHLD	カタログASPしきい値	1-99, *CALC, *MAX	オプション
ADDVRTVOL	仮想ボリュームの追加	1-256, *NONE	オプション
REFIMGCLG	参照イメージ・カタログ	名前	オプション
PREFIX	FILE & VOLUME名接頭部	文字値, *GEN	オプション
IMGSIZ	イメージ・サイズ	48-1000000, *IMGCLGTYPE, *CD650, *DVD2600, *DVD4700	オプション
ALCSTG	記憶域サイズの割り振り	*MIN, *IMGSIZ	オプション
VOLTYP	ボリューム・タイプ	*SL, *NL	オプション
DENSITY	テープ密度	*VRT256K, *VRT240K, *VRT64K, *VRT32K	オプション
NEWOWNID	新しい所有者識別コード	文字値, *BLANK	オプション
CODE	コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUT	権限	名前, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE	オプション

上

イメージ・カタログ (IMGCLG)

作成するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

上

ディレクトリー (DIR)

このイメージ・カタログと関連したディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名 イメージ・カタログのディレクトリーのパス名を指定します。シンボリック・リンクがパス名中に存在しない場合には、リンクが解決されて、絶対パスが使用されます。

*REFIMGCLG

新規イメージ・カタログでの参照として別のイメージ・カタログの名前を指定します。

注: 制限およびサポートされる使用に関しては、*REFIMGCLGパラメーターを使用して作成されるカタログの要件は複雑です。詳細については、**i5/OS Information Center** (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ストレージ・ソリューション」カテゴリーを参照してください。

上

イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)

作成するイメージ・カタログのタイプを指定します。

***OPT** これは光ディスク・イメージ・カタログです。このタイプのカタログで使用できるのは、光ディスク・イメージ・カタログの項目だけです。

***TAP** これはテープ・イメージ・カタログです。このタイプのカタログで使用できるのは、テープ・イメージ・カタログの項目だけです。

上

ディレクトリーの作成 (CRTDIR)

ディレクトリー(DIRパラメーター)が存在しない場合に、それを作成する必要があるかどうかを指定します。

***YES** ディレクトリーが存在しない場合には、それが作成されます。作成されるディレクトリーは次の省略時の権限を持ちます。

ユーザー	データ 権限	オブジェクト権限			
		存在	MGT	ALTER	REF
*PUBLIC 所有者	*EXCLUDE *RWX	X	X	X	X

他のすべての属性については、CRTDIRコマンドで供給される省略時の値が選択されます。

***NO** ディレクトリーは作成されません。

上

イメージカタログのインポート (IMPORT)

イメージ・カタログ・ディレクトリーからカタログおよび項目情報をインポートするかどうかを指定します。

***NO** イメージ・カタログ・ディレクトリーから情報の入っていないイメージ・カタログを作成します。

***YES** ディレクトリー(DIR)パラメーターで指定されたディレクトリーにあるイメージ・カタログ・オブジェクトQIMGCLGからデータをインポートして、カタログを作成します。

注: イメージ・カタログの作成(CRTIMGCLG)コマンドに指定されたイメージ・カタログ(IMGCLG)、ディレクトリー(DIR)、およびテキスト記述(TEXT)パラメーターがこのイメージ・カタログ用に使用されます。その他の値はすべて、イメージ・カタログ・オブジェクトQIMGCLGからインポートされます。

上

カタログASPしきい値 (CLGASPTHLD)

作成時または追加スペース割り振り時に、仮想ボリュームが使用できる補助記憶域プール(ASP)のパーセンテージを指定します。新規ボリュームが追加されるか、割り振られる場合、あるいは書き込み操作時にファイルが拡張される場合は、この値を使用する必要があります。

***CALC**

最大記憶域のしきい値が計算されます。イメージ・カタログ仮想ボリュームによって使用されるASPスペースは、ASPの残りスペースの95%または5GBより大きくなります。仮想ボリュームの最大記憶域のしきい値に達すると、テープ操作が停止し、媒体の終わりエラーとなります。ALCSTG(*IMGSIZ)が指定されると、仮想ボリュームの追加でもこの制限が調べられます。

***MAX** イメージ・カタログ・ディレクトリーが存在するASPで使用可能な最大記憶域が仮想ボリュームによって使用されます。

1から99

仮想ボリュームによって使用されるイメージ・カタログ・ディレクトリーのASPスペースのパーセントを指定してください。

上

仮想ボリュームの追加 (ADVVRTVOL)

イメージ・カタログに自動的に追加する仮想ボリュームの数を指定します。こうした新規仮想ボリュームの作成では次の属性が使用されます。

1. PREFIX
2. ALCSTG
3. VOLNAM
4. VOLTYP
5. DENSITY
6. NEWOWNID
7. CODE

このパラメーターは、テープ・イメージ・カタログおよび光ディスク・イメージ・カタログの場合に有効です。光ディスク・イメージ・カタログの場合、ボリュームが追加され、完全に割り振られますが、初期設定はされません。テープ・イメージ・カタログの場合、ボリュームは追加され、初期設定されます。詳細については、イメージ・カタログ項目追加(ADDIMGCLGE)コマンドを参照してください。

*NONE

仮想ボリュームは追加されません。

1から256

イメージ・カタログに追加する仮想ボリュームの数を指定してください。

上

参照イメージ・カタログ (REFIMGCLG)

新規イメージ・カタログの参照としてイメージ・カタログの名前を指定します。新規の従属イメージ・カタログには、従属イメージ・カタログの作成時に参照イメージ・カタログ中に存在するイメージ・カタログの項目が含まれます。参照イメージ・カタログに対する追加の変更は従属イメージ・カタログ中には反映されません。

このパラメーターが有効なのは、DIR(*REFIMGCLG)が指定された場合だけです。

名前 参照イメージ・カタログの名前を指定します。

上

FILE & VOLUME名接頭部 (PREFIX)

ADVVRTVOLパラメーターのボリューム名およびファイル名を生成するために使用される3文字を指定します。

***GEN** 3文字のボリューム名およびイメージ・ファイル名接頭部がシステムによって生成されます。

文字値 ボリューム名およびイメージ・ファイル名を生成するために使用される最大3文字の接頭部を指定してください。

上

イメージ・サイズ (IMGSIZ)

作成される新規イメージ・ファイルのサイズを指定します。

光ディスク・イメージ・カタログの場合、このパラメーターは、作成される光ディスク・イメージ・ファイルのサイズおよび割り振られるシステム記憶域の容量を示します。

テープ・イメージ・カタログの場合、このパラメーターは、このテープ・イメージ・ファイルに可能な最大サイズを示します。ALCSTG(*MIN)を指定した場合には、イメージ・ファイルの初期化に必要な記憶域の容量だけが割り振られます。ALCSTG(*IMGSIZ)を指定した場合には、割り振られる記憶域の容量は、IMGSIZパラメーターに指定された値となります。

*IMGCLGTYPE

作成されるイメージ・ファイルのサイズは、イメージ・カタログのタイプによって決定されます。

光ディスク・イメージ・カタログでは、作成されるイメージ・ファイルのサイズが650メガバイトになることを指定します。このサイズで作成された光ディスク・イメージは、任意の650 MB標準媒体に書き込むことができます。

テープ・イメージ・カタログの場合、作成されるイメージ・ファイルの最大サイズは1ギガバイトに設定されます。

*CD650

光ディスク・イメージ・ファイルのサイズは650メガバイトになります。このサイズで作成された光ディスク・イメージは、任意の650 MB標準光ディスク媒体に書き込むことができます。

*DVD2600

光ディスク・イメージ・ファイルのサイズは2.6ギガバイトです。このサイズで作成された光ディスク・イメージは、任意の2.6 GB媒体に書き込むことができます。

*DVD4700

光ディスク・イメージ・ファイルのサイズは4.7ギガバイトです。このサイズで作成された光ディスク・イメージは、任意の4.7 GB媒体に書き込むことができます。

数値 新しいイメージ・ファイルのメガバイト数を指定します。光ディスク・イメージ・ファイルでは、有効な範囲は48から16000メガバイトです。テープ・イメージ・ファイルでは、有効な範囲は48から1000000メガバイトです。

上

記憶域サイズの割り振り (ALCSTG)

テープ・イメージ・ファイルで、イメージ・サイズ (IMGSIZ)パラメーターに指定された記憶域全体の容量を割り振るかどうかを指定します。

***MIN** 作成時点でテープ・イメージ・ファイルの初期設定に必要な記憶域のみが割り振られます。

*IMGSIZ

イメージ・サイズ (IMGSIZ)パラメーターに指定された記憶域全体の容量を割り振ります。

上

ボリューム・タイプ (VOLTYP)

この仮想テープ・ボリュームのボリュームのタイプを指定します。

***SL** ボリュームのタイプは標準ラベル・テープ・ボリュームです。

***NL** ボリュームのタイプはラベルなしテープ・ボリュームです。

上

テープ密度 (DENSITY)

この仮想テープ・ボリュームの密度を指定します。

***VRT256K**

このボリュームの形式は*VRT256Kです。これは、256KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、256KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VRT240K**

このボリュームの形式は*VRT240Kです。これは、240KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、240KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VRT64K**

このボリュームの形式は*VRT64Kです。これは、64KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、64KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VRT32K**

このボリュームの形式は*VRT32Kです。これは、32KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、サポートされるすべてのテープ装置に複写することができます。

上

新しい所有者識別コード (NEWOWNID)

この仮想テープ・ボリュームのテープ所有者のIDを指定します。このパラメーターが使用されるのは、*SLのボリューム・タイプの場合だけです。

***BLANK**

IDは指定されません。

名前 仮想テープ・ボリュームの所有者を識別する14文字以下を指定します。14文字より少ない文字が指定された場合には、フィールドが左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

上

コード (CODE)

ボリューム・ラベルが書き出される文字コードを指定します。ラベルの後に書き出される保管データ以外のデータは、すべて同じコードでなければなりません。保管テープ以外のテープ上でコードを混用することはできません。このパラメーターが使用されるのは、*SLのボリューム・タイプの場合だけです。

*EBCDIC

ボリューム・ラベルは、EBCDICで書き出され、IBM標準ラベルです。追加のデータもすべてEBCDICで書き出さなければなりません。

*ASCII

ボリューム・ラベルは、ASCIIで書き出され、ANSI標準ラベルです。追加のデータもすべてASCIIで書き出さなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

作成しているイメージ・カタログを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキスト記述はブランクとなります。

文字値 このイメージ・カタログの最大50文字までのテキストを指定します。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1:光ディスク・イメージ・カタログの作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DIR('/MYDIR')
```

このコマンドは、光ディスク・イメージ・カタログ**MYCLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、これにディレクトリー**/MYDIR**を関連付けます。

例2:参照イメージ・カタログを使用したイメージ・カタログの作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DIR(*REFIMGCLG) REFIMGCLG(MYCLG2)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG2**に基づいて光ディスク・イメージ・カタログ**MYCLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、これにイメージ・カタログ**MYCLG2**で指定されたディレクトリーを関連付けます。

例3:テープ・イメージ・カタログの作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(TAPECLG)  DIR('/TAPEDIR') TYPE(*TAP)
```

このコマンドは、テープ・イメージ・カタログ**TAPECLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、これにディレクトリー**/TapeDir**を関連付けます。

例4:追加ボリュームをもつテープ・イメージ・カタログの作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(TAPECLG)  DIR('/TAPEDIR') TYPE(*TAP)
          ADDVRTVOL(12)  IMGSIZ(1500)
```

このコマンドは、テープ・イメージ・カタログ**TAPECLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、これにディレクトリー**/TapeDir**を関連付けます。また省略時のボリューム値をもち、最大サイズ1500 MBの12個のテープ・ボリュームを追加します。省略時のボリューム値は次の通りです。

- PREFIX(*GEN)
- ALCSTG(*MIN)
- VOLTYP(*SL)
- DENSITY(*VRT256K)
- NEWOWNID(*BLANK)
- CODE(*EBCDIC)

例5:イメージ・カタログ・ディレクトリーからインポートされるイメージ・カタログの作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) DIR('/MyDir') IMPORT(*YES)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、ディレクトリー**/MyDir**をこれに関連付けます。イメージ・カタログ・ディレクトリーからカタログおよび項目情報を更新します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC02

イメージ・カタログ&1がライブラリー&2に作成されなかった。

CPFBC12

イメージ・カタログ&1が作成された。ボリューム&3の&2は追加されなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

ジョブ記述作成 (CRTJOBBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述作成 (CRTJOBBD)コマンドは、1つ以上のジョブで使用できるジョブ関連属性の特定セットを入れるジョブ記述オブジェクトを作成します。この属性によって、各ジョブがシステム上でどのように実行されるかが決まります。同じジョブ記述を複数のジョブで使用することができます。ジョブ記述中の値は、通常、バッチ・ジョブ (BCHJOB) およびジョブ投入 (SBMJOB)コマンドのパラメーターが指定されない場合に、それらの対応するパラメーターの省略時の値として使用されます。

ジョブ記述中の値は、BCHJOBおよびSBMJOBコマンドに指定した値によって一時変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ記述を作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限。
 - ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。
- *USRPRF以外の会計コードによってジョブ記述を作成するには、アカウント・コード変更 (CHGACGCDE)コマンドに対する*USE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOBBD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前, QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQでの)	1-9, 5	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	1-9, 5	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *USRPRF, *SYSVAL, *WRKSTN	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *USRPRF, *DEV, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
USER	ユーザー	名前, *RQD	オプション, 定位置 2
ACGCDE	アカウント・コード	文字値, *USRPRF, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SYSVAL, *BLANK	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, QCMDI, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, *NONE, *RTGDTA	オプション
INLLIBL	初期ライブラリー・リスト	単一値: *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 250 回の繰り返し): 名前	オプション
INLASGRP	初期ASPグループ	名前, *NONE	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, <u>4</u>	
	要素 2: 重大度	0-99, <u>0</u>	
	要素 3: テキスト	*NOLIST, *MSG, *SECLVL	
LOGCLPGM	CL プログラム・コマンドのログ	*NO, *YES	オプション
LOGOUTPUT	ジョブ・ログ出力	*SYSVAL, *JOBLOGSVR, *JOBEND, *PND	オプション
JOBMSGQMX	ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ	2-64, *SYSVAL	オプション
JOBMSGQFL	ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置	*SYSVAL, *NOWRAP, *WRAP, *PRTWRAP	オプション
SYNTAX	CL構文検査	0-99, *NOCHK	オプション
ENDSEV	終了重大度	0-99, <u>30</u>	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージ応答	*RQD, *DFT, *SYSRPLY	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*NO, *YES	オプション
DATE	ジョブ日付	日付, *SYSVAL	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, 00000000	オプション
DEVRCYACN	装置回復処置	*SYSVAL, *MSG, *DSCMSG, *DSCENDRQS, *ENDJOB, *ENDJOBNO LIST	オプション
TSEPOOL	タイム・スライス終了プール	*SYSVAL, *NONE, *BASE	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
ALWMLTTHD	マルチスレッド使用可能	*NO, *YES	オプション
SPLFACN	スプール・ファイル・アクション	*SYSVAL, *KEEP, *DETACH	オプション
DDMCNV	DDM会話	*KEEP, *DROP	オプション

上

ジョブ記述 (JOB D)

作成するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。 スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

名前 オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブ記述を使用する投入ジョブが入れられる省略時のジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

修飾子1: ジョブ待ち行列

QBATCH

QBATCHジョブ待ち行列が、ジョブを入れる待ち行列となります。

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

注: ジョブ記述の作成時にジョブ待ち行列が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません (修飾されたジョブ待ち行列の名前がジョブ記述に保管されるため)。

上

ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)

このジョブ記述を使用するジョブに使用されるジョブ待ち行列スケジューリング優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

5 このジョブ記述を使用するジョブのスケジューリング優先順位は5です。

1から9 このジョブ記述を使用するジョブのスケジューリング優先順位を指定します。

上

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブ記述を使用するジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

5 このジョブ記述を使用して作成されるスプール・ファイルの出力優先順位は5です。

1から9 このジョブ記述を使用するジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位の値を1から9の範囲で指定してください。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時の印刷装置の修飾名を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターに指定されているものとみなしています。

*USRPRF

このジョブ記述を使用するジョブの印刷装置名は、ジョブが開始された時にジョブと関連したユーザー・プロファイルから取られます。

*SYSVAL

ジョブが開始された時のシステム値QPRTDEVの値が印刷装置として使用されます。

*WRKSTN

このジョブ記述で使用される印刷装置は、ジョブが開始される時のジョブに対応したワークステーションに割り当てられている印刷装置です。

名前 このジョブ記述を使用するジョブによって使用される印刷装置を指定します。

出力待ち行列 (OUTQ)

このジョブ記述を使用するジョブの省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。このパラメーターは、出力待ち行列に*JOBを指定するスプール印刷装置ファイルに対してのみ適用されます。

単一値

*USRPRF

このジョブ記述を使用するジョブの出力待ち行列名は、ジョブを開始した時にジョブと関連したユーザー・プロファイルから獲得されます。

***DEV** 印刷装置ファイルの装置 (DEV)パラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。この出力待ち行列の名前は印刷装置と同じです。印刷装置ファイルのDEVパラメーターは、印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF)、印刷装置ファイル変更 (CHGPRTF)、または印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF)コマンドによって決定されます。

注: これは、印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに省略時の値が指定されていることを前提としています。

*WRKSTN

このジョブ記述で使用される出力待ち行列は、ジョブが開始された時点でそのジョブに関連付けられるワークステーションに割り当てられている出力待ち行列です。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 このジョブ記述で使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

注: ジョブ記述の作成時に出力待ち行列が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません (修飾された出力待ち行列名がジョブ記述に保管されるため)。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ユーザー (USER)

このジョブ記述に関連したユーザー・プロファイルの名前を指定します。名前QSECOFR, QSPL, QDOC, QDBSHR, QRJE, QSYS, QLPAUTO, QLPINSTALL, QTSTRQS,およびQDFTOWNは、このパラメーターに有効な項目ではありません。

***RQD** ジョブ記述を使用するためには、ユーザー名が必要です。ワークステーション項目の場合には、ワークステーションでサインオンする時にユーザー名を入力しなければなりません。関連するユーザー名がジョブに使用される名前となります。自動始動ジョブ項目またはバッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドによって使用される項目に指定されるジョブ記述の場合には、*RQDは有効ではありません。これがジョブ投入 (SBMJOB)コマンドで有効なのは、*CURRENTが**ユーザー (USER)**パラメーターに指定されている場合だけです。

名前 このジョブ記述を使用するバッチ・ジョブに対応したユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。対話式ジョブの場合には、これは、ユーザー名を入力せずにシステムにサインオンするために使用する省略時のユーザー名となります。

上

アカウント・コード (ACGCDE)

この記述を使用するジョブのシステム資源の使用状況を記録する時に使用される会計コードを指定します。*USRPRF以外の会計コードを指定するには、アカウント・コード変更 (CHGACGCDE)コマンドが許可されていないければなりません。

*USRPRF

このジョブ記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブと関連したユーザー・プロファイルから獲得されます。

*BLANK

このジョブ記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

文字値 このジョブ記述を使用して、その会計統計がシステム会計ジャーナルQACGJRNに記録されるジョブの会計コードを指定します。15文字未満を入力した場合には、stringの右側にブランクが埋め込まれます。

上

印刷テキスト (PRTTXT)

各ページの最後での1行のテキストの印刷を指定します。

*SYSVAL

システム値QPRTTXT中の値が使用されます。

*BLANK

テキストは印刷されません。

文字値 各ページの最後に印刷する文字stringを指定してください。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力することができます。

上

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブを開始するためにこのジョブ記述で使われるルーティング・データを指定します。

QCMDI

ジョブを、QSYSライブラリー中のIBM提供の制御言語処理プログラム(QCMD)に経路指定するために、IBM提供の対話式サブシステムが省略時のルーティング・データQCMDIを使用します。

*RQSDTA

要求データまたはコマンド (RQSDTA)パラメーターに指定された最初の80文字までの要求データがジョブのルーティング・データとして使用されます。

文字値 このジョブ記述を使用するジョブのルーティング・データを指定します。最大80文字を（必要であればアポストロフィで囲んで）入力することができます。

上

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブ記述を使用するジョブのジョブ・メッセージ待ち行列の最後の項目として入れられる要求データを指定します。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

***RTGDTA**

経路指定データ (RTGDTA)パラメーターに指定されたルーティング・データがジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目として入れられます。

文字値 単一の要求としてジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目として入れられる文字ストリングを指定してください。最大256文字を入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。CLコマンドを入力する場合には、これを単一アポストロフィで囲まなければならないが、アポストロフィが通常使用されるコマンドの中では、アポストロフィを2重にしなければなりません。

上

初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)

このジョブ記述を使用するジョブに使用されるライブラリー・リストの初期ユーザー部分を指定します。

注: ライブラリー・リスト内でのライブラリー名の重複は許されません。

単一値

***SYSVAL**

このジョブ記述を使用するジョブにシステムの省略時のライブラリー・リストが使用されます。この省略時のライブラリー・リストには、このジョブ記述を使用するジョブが開始される時点でシステム値QUSRLIBLに指定されたライブラリー名が入っています。

***NONE**

ライブラリー・リストのユーザー部分は空です。システム部分だけが使用されます。

その他の値 (最大250個指定可能)

名前 このジョブ記述を使用するジョブに使用されるライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーを指定します。

注: ライブラリーは、ここにリストされたのと同じ順序で検索されます。

上

初期ASPグループ (INLASPGRP)

このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドに、補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドは、ASPグループの設定 (SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更できます。ASPグループがスレッドと関連付けられた場合は、それらのASPグループの独立ASP中のすべてのライブラリーがアクセス可能となり、これらのライブラリー中のオブジェクトは正規のライブラリー修飾オブジェクト名の構文を使用して参照することができます。指定されたASPグループの独立ASPのライブラリーと、システムASP (ASP番号1)および基本ユーザーASP (ASP番号2から32)とをプラスしたものが、そのスレッドのライブラリー・ネーム・スペースを形成します。

制約事項:

1. ジョブ記述QGPL/QDFTJOBDDおよびQGPL/QDFTSVRは、ASPグループ名を指定するために変更できません。これらのジョブ記述の場合は、INLASPGRPは*NONEでなければなりません。

*NONE

このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドがASPグループなしで開始されることを指定します。ライブラリー・ネームスペースには、どのASPグループからのライブラリーも入れられません。ライブラリー・ネーム・スペースに入れられるのは、システムASPおよび基本ユーザーASPのライブラリーだけです。

名前 このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドに、ASPグループの名前が設定されることを指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASP装置の名前です。このASPグループ中のすべてのASPからのすべてのライブラリーがライブラリー・ネーム・スペースに入れられます。

上

メッセージのロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用されるメッセージのロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。

要素1: レベル

4 このジョブ記述を使用するジョブに対して、メッセージ・ロギング・レベル4が使用されます。

0から4 ジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定します。

0 メッセージは記録されません。

1 ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られる、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージが記録されます。これには、ジョブ開始、ジョブ終了、およびジョブ完了状況の指示が含まれます。

2 次の情報が記録されます。

- ロギング・レベル1の情報
- このメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度コードの高レベル・メッセージを出す結果となる要求メッセージです。要求メッセージと、関連したすべてのメッセージの両方が記録されます。

注: 高レベル・メッセージとは、要求メッセージを受け取るプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージのことです。例えば、QCMDは、要求メッセージを受け取るIBM提供の要求処理プログラムです。

3 次の情報が記録されます。

- ロギング・レベル1と2の情報
- すべての要求メッセージ
- CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

4 次の情報が記録されます。

- すべての要求メッセージと、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージ（トレース・メッセージを含む)。
- CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

要素2: 重大度

0 このジョブ記述を使用するジョブに対して、メッセージ重大度レベル0が使用されます。

0から99

ジョブ・ログに記録されるエラー・メッセージを決定するために、ロギング・レベルと一緒に使用されるメッセージ重大度レベルを指定します。

要素3: テキスト

***NOLIST**

ジョブが異常終了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブ終了コードが20以上である場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに表示されるメッセージには、メッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方が含まれています。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き出されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプ(原因と回復)の両方がジョブ・ログに書き出されます。

上

CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されたコマンドの中で、記録することのできるコマンドを、CLプログラムのメッセージ待ち行列を経由してジョブ・ログに記録するかどうかを指定します。このパラメーターは、ジョブのロギング・フラグの状況をセットします。*NOを指定した場合には、ロギング・フラグ状況は**オフ**となり、CLコマンドは記録されません。ここで*YESを指定し、CLプログラム作成 (CRTCLPGM)コマンドの**メッセージのロギング (LOG)**パラメーターに*JOBを指定した場合には、CLプログラム中の記録可能なすべてのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

***NO** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されません。

***YES** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されます。

上

ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)

ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

ジョブ・ログ出力値は、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で変更できます。ジョブのジョブ・ログ出力値を変更するには、ジョブの変更(QWTCHGJB) APIまたはジョブの変更(CHGJOB)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で表示できます。ジョブ・ログを表示するには、ジョブ・ログの表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブが完了して、ジョブ・ログがまだ作成または除去されていない時に除去できます。ジョブ・ログを除去するには、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIまたはジョブの終了(ENDJOB)コマンドを使用してください。

***SYSVAL**

システム値QLOGOUTPUTに指定された値が使用されます。

***JOBLOGSVR**

ジョブ・ログは、ジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。ジョブ・ログ・サーバーの詳細については、ジョブ・ログ・サーバーの開始(STRLOGSVR)コマンドを参照してください。

***JOBEND**

ジョブ・ログは、ジョブそのものによって作成されます。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。例えば、システムがシステムの電源遮断(PWRDWN SYS)コマンドを処理している時には、ジョブはその固有のジョブ・ログを作成しません。

***PND** ジョブ・ログは作成されません。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

上

ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを指定します。

***SYSVAL**

ジョブ開始時のQJOBMSGQMX (システム値) の値がジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズとして使用されます。

2から64

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ (メガバイト数) を指定します。

上

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時に取る処置を指定します。

***SYSVAL**

QJOBMSGQFLシステム値に指定された値が使用されます。

***NOWRAP**

いっぱいになった時にメッセージ待ち行列は折り返しません。この処置でジョブが終了します。

***WRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、メッセージ待ち行列の始めに折り返し、再びメッセージが入れ始められます。

***PRTWRAP**

メッセージ待ち行列がいっぱいになった時には、ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しが行われ、折り返しによってオーバーレイされたメッセージが印刷されます。

CL構文検査 (SYNTAX)

(このジョブ記述を使用するジョブの場合) ジョブ・メッセージ待ち行列に入れられた要求をCLコマンドとして構文検査するかどうかを指定します。構文検査が指定された時には、ジョブの実行時にはではなくコマンド投入時にコマンドの構文が検査されます。これによって、構文エラーをより早く診断できるようになります。検査が指定されている場合には、構文エラーのためにジョブの処理が終了するメッセージ重大度も指定することができます。

***NOCHK**

要求データはCLコマンドとして構文検査されません。

0から99

ジョブの実行を終了させることができる最低のメッセージ重大度を指定します。要求データはCLコマンドとして構文検査されます。ここで指定するエラー・メッセージ重大度より大きいか等しい構文エラーが発生した場合には、エラーのあるコマンドが入っているジョブの実行が禁止されます。

終了重大度 (ENDSEV)

バッチ・ジョブ終了の原因となるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度レベルを指定します。バッチ入力ストリーム中の要求が、要求処理プログラムQCMDまたはQCLに送られ、その結果としてエスケープ・メッセージが出され、その重大度がここで指定したレベルより大きいか等しい時に、バッチ・ジョブが終了します。このパラメーター値が比較される重大度は、バッチ・ジョブ中の非コンパイルCLコマンドの結果として出され、モニターされないエスケープ・メッセージの重大度です。

30 バッチ入力ストリーム要求によって結果的に重大度が30より大きいか等しいエスケープ・メッセージが出されると、ジョブが終了します。

0から99

バッチ入力ストリーム中の要求の結果として出される、このジョブ記述を使用するジョブを終了させるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度を指定します。エスケープ・メッセージは特徴として最大重大度レベル50を持つので、エスケープ・メッセージの結果としてジョブを終了させるためには、50またはそれ以下の値を指定しなければなりません。指定された値より大きいか等しい重大度レベルを持つ、ここでは扱われていないエスケープ・メッセージが出されると、ジョブが終了します。

照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)

このジョブ記述を使用するジョブで照会メッセージに応答する方法を指定します。通常の方法で照会メッセージに응答するか、省略時の応答を出すか、あるいは一定の条件が満たされた場合に、その条件に基づいて照会メッセージに응答を出すように指定することができます。満たされた条件は、システム応答リスト項目追加 (ADDRPYLE)コマンドのシステム応答リスト項目にリストされます。

***RQD** このジョブ記述を使用するジョブによって出される事前定義の照会メッセージに응答が必要です。

***DFT** このジョブ記述を使用するジョブの実行中に出される事前定義の照会メッセージに省略時の応答が使用されます。省略時の応答は、メッセージ記述に定義されるか、あるいは省略時のシステムの応答です。

***SYSRPYL**

項目がこのジョブ記述を使用するジョブによって出された照会メッセージのメッセージIDおよび任意の比較値に一致するかどうかを判別するためには、システム応答リストが検査されます。一致があった場合には、その応答リスト項目の応答値が使用されます。そのメッセージに項目が存在していない場合には、応答が必要です。

上

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

このジョブ記述を使用するジョブが保留状態でジョブ待ち行列に入れられるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドによって解放されるか、あるいはジョブ終了 (ENDJOB)コマンドかジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ)コマンドのいずれかによってそれが終了されるまで、保留されます。

***NO** このジョブ記述を使用するジョブは、ジョブ待ち行列に入れられる時に保留されません。

***YES** このジョブ記述を使用するジョブは、ジョブ待ち行列に入れられる時に保留されます。

上

ジョブ日付 (DATE)

ジョブ開始時にこのジョブ記述を使用するジョブに割り当てられる日付を指定します。

***SYSVAL**

ジョブの開始時のQDATEシステム値の値が、ジョブ日付として使用されます。

日付 開始するジョブのジョブ日付を指定します。DATFMTジョブ属性に現在指定されている形式を使用しなければなりません。

上

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブ記述を使用するジョブで使用される8個のジョブ・スイッチの初期設定値を指定します。これらのスイッチはCLプログラムの中で設定またはテストすることができ、これらのスイッチを使用してプログラムの流れを制御することができます。各単一桁スイッチに有効な値は、0 (オフ) または1 (オン) だけです。

00000000

このジョブ記述を使用するジョブについてのジョブ・スイッチの最初の設定値は、全桁ゼロです。

文字値 ジョブ・スイッチの設定値を変更するための8個の0と1の組み合わせを (必要であればアポストロフィで囲んで) 指定してください。

上

装置回復処置 (DEVRCYACN)

このジョブ記述を使用する対話式ジョブの*REQUESTOR装置で入出力エラーが見つかった時にそのジョブに対して取られる回復処置を指定します。非対話式ジョブの場合には、この属性は無視されます。

*SYSVAL

ジョブが開始された時のシステム値QDEVRCYACNの値が、このジョブ記述に対する装置回復処置として使用されることとなります。

***MSG** 入出力操作を要求するアプリケーション・プログラムは、操作が正常に実行されなかったことを示すエラー・メッセージを受け取ります。

*DSCMSG

ジョブは自動的に切断されます。ジョブは、再接続されると、入出力エラーが起こったが、装置が回復されていることを示すエラー・メッセージを受け取ります。装置は回復されていますが、エラーの前の画面の内容を再表示しなければなりません。

*DSCENDRQS

ジョブは自動的に切断されます。ジョブが一度再接続されると、前の要求を出した処理プログラムを指定する要求終了 (ENDRQS)コマンドが出されます。要求処理プログラムがない場合には、エラー・メッセージが出されます。

*ENDJOB

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログが作成されます。

*ENDJOBNO LIST

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログは作成されません。

上

タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)

対話式ジョブがタイム・スライスの終わりに達した時にそれらを別の主記憶域プールに移すかどうかを指定します。長時間待ちが起こった時には、ジョブは、最初に行われていたプールに戻されます。これは、他の対話式ジョブの対話式応答時間に対する影響を最小限にするのに役立ちます。

*SYSVAL

ジョブが開始された時のシステム値QTSEPOOLの値が、このジョブ記述のタイム・スライス終了時のプールの処置として使用されることとなります。

*NONE

タイム・スライスの終わりに達した時に、ジョブは移動されません。

*BASE

タイム・スライスの終わりに達した時に、ジョブは基本プールに移されます。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、そのオブジェクトが作成されているライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーはオブジェクトに対して基本的な操作（例えば内容の表示など）を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)

ジョブを複数のユーザー・スレッドで実行できるかどうかを指定します。この属性によって、オペレーティング・システムがジョブの中でシステム・スレッドを作成することが妨げられることはありません。ジョブを開始してからは、このジョブ属性を変更することはできません。この属性は、自動始動ジョブ、事前開始ジョブ、ジョブ・スケジュール項目から投入されたバッチ・ジョブ、そしてジョブ投入 (SBMJOB)およびバッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドを使用して開始されたジョブに適用されます。他のすべてのタイプのジョブを開始する時には、この属性は無視されます。この属性を*YESに設定する必要があるのは、複数のユーザー・スレッドを作成する機能で排他的に使用するジョブ記述の場合だけです。

***NO** このジョブは、複数のユーザー・スレッドで実行することはできません。

***YES** このジョブは、複数のユーザー・スレッドで実行することができます。

上

スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)

ジョブの終了後にジョブ・インターフェースを介してスプール・ファイルにアクセスするかどうかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB) コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。ジョブからスプール・ファイルを切り離すと、ジョブの終了時にジョブ構造のリサイクルが可能になるためにシステム資源の使用が削減されます。

***SYSVAL**

システム値QSPLFACNに指定された値が使用されます。

***KEEP**

ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に存在している場合には、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されます。ジョブの残りのスプール・ファイルがすべて独立ASP (ASP 33から255)に入っていると、それらのスプール・ファイルはジョブから切り離され、ジョブはシステムから除去されます。

***DETACH**

ジョブが終了すると、スプール・ファイルはジョブから切り離されて、そのジョブはシステムから除去されます。

上

DDM会話 (DDMCNV)

分散データ管理機能(DDM)プロトコルを使用する接続が、使用中でない時に活動状態のままであるかどうかを指定します。この接続には、APPCの会話、活動TCP/IPの会話、またはOPTICONNECT接続が含まれます。DDMプロトコルは、分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャ(DRDA)アプリケーション、DDMアプリケーション、またはDB2マルチシステム・アプリケーションで使用されます。分散データ管理機能の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)を参照してください。

***KEEP**

システムは、次の場合を除いて、もはや使用されていない場合であってもDDM会話の接続を活動状態に保ちます。

- ルーティング・ステップがソース・システムで終了した。
- DDM会話再利用 (RCLDDMCNV)コマンドまたは資源再利用 (RCLRSC)コマンドを使用して、会話を切り離す明示的な要求がある。
- 通信障害または内部的な障害がある。
- System iで実行されていないアプリケーション・サーバーに対するDRDA接続が終了する。

***DROP**

システムは、DDM割り振り会話がもはや使用されなければ、それを終了します。例えば、アプリケーションがDDMファイルをクローズする時、あるいはDRDAアプリケーションがSQL DISCONNECTステートメントを実行する時などです。

上

例

例1:対話式ジョブのジョブ記述の作成

```
CRTJOBDB  JOBD(INT4)  USER(*RQD)  RTGDТА(QCMDI)
           INQMSGRPY(*SYSRPLY)
           TEXT('INTERACTIVE #4 JOBD FOR DEPARTMENT 127')
```

このコマンドは、ユーザーの現行ライブラリーにINT4という名前のジョブ記述を作成します。このジョブ記述は、対話式ジョブ用であり、部門127 (DEPARTMENT 127)で使用されます。サインオンする時には、パスワードを入力しなければなりません。ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルと比較される経路指定データとして、文字QCMDIが使用されます。すべての照会メッセージがシステム応答リストの項目と比較され、応答を自動的に出すかどうかが決まります。

例2:指定した待ち行列上のジョブのジョブ記述の作成

```
CRTJOBDB  JOBD(BATCH3)  USER(*RQD)  JOBQ(NIGHTQ)  JOBPTY(4)
           OUTPTY(4)  ACGCDE(NIGHTQ012345)  RTGDТА(QCMDB)
           TEXT('BATCH #3 JOBD FOR HIGH PRIORITY NIGHT WORK')
```

このコマンドは、ユーザーの現行ライブラリーにBATCH3という名前のジョブ記述を作成します。この記述を使用するジョブはジョブ待ち行列NIGHTQに入れます。この記述とそのスプール出力を使用するジョブの優先順位は4です。QCMDB は、ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルの項目と比較される経路指定データです。このジョブ記述を使用するジョブの会計統計の記録時には、NIGHTQ012345の会計コードが使用されます。

例3:要求データの指定

```
CRTJOBDB  JOBD(PAYWK)  USER(QPGMR)  RTGDТА(QCMDB)
           RQSDТА('CALL PAY025 PARM(WEEKLY UNION)')
```

このコマンドは、ユーザーの現行ライブラリーにPAYWKという名前のジョブ記述を作成します。このジョブ記述を使用するジョブは、プログラマーのためのIBM提供のユーザー・プロファイルQPGMRの下で実行され、そのユーザー・プロファイルにある会計コードを使用します。ジョブがSBMJOBコマンドを介して開始された場合には、そのコマンドを投入した担当者の会計コードが自動的に使用されます。経路指定データQCMDBが、ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルの項目と比較されます。コマンド処理プログラムに渡される要求データは、実行されるアプリケーション・プログラムの名前を指定し、そのプログラムにパラメーターを渡すCALLコマンドです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1621

ジョブ記述&1がライブラリー&2に作成されなかった。

上

ジョブ待ち行列作成 (CRTJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列作成(CRTJOBQ)コマンドは新しいジョブ待ち行列を作成します。ジョブ待ち行列には、システムによって処理されるのを待っているジョブの項目が入ります。次のいずれかのコマンドを使用することにより、ジョブ待ち行列にジョブを入れることができます。

- データベース読み取りプログラム開始(STRDBRDR)
- ディスケット読み取りプログラム開始(STRDKTRDR)
- 印刷装置書出プログラム開始(STRPRTWTR)
- ディスケット書き出しプログラム開始(STRDKTWTR)
- ジョブ投入(SBMJOB)
- データベース・ジョブの投入(SBMDBJOB)
- ディスケット・ジョブ投入(SBMDKTJOB)
- ジョブ転送(TFRJOB)

新しいジョブ待ち行列を作成した後、その項目を適切なサブシステム記述に追加しなければなりません。それにはジョブ待ち行列項目追加(ADDJOBQE)コマンドを使用してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
OPRCTL	操作員制御	*YES, *NO	オプション, 定位置 2
AUTCHK	検査権限	*OWNER, *DTAAUT	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

作成するジョブ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 作成するジョブ待ち行列に付けたい名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 一時ライブラリーQTEMPは有効なライブラリー名ではありません。ジョブ待ち行列は永続ライブラリー内になければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

操作員制御 (OPRCTL)

ジョブ制御権限を持つユーザーに、このジョブ待ち行列の制御を許可するかどうかを指定します。

***YES** ジョブ制御権限を持つユーザーは、待ち行列を制御することができます。

***NO** ジョブ制御権限を持つユーザーは、他の特殊権限も持っている場合を除いて、この待ち行列を制御することはできません。

上

検査権限 (AUTCHK)

ジョブ待ち行列に対してどのタイプの権限を持つユーザーが、ジョブ待ち行列を保留または解放することによって待ち行列を制御できるかを指定します。特殊権限を持つユーザーもジョブ待ち行列を制御できる場合があります。

***OWNER**

ジョブ待ち行列権限テストを通過するためには、要求元はジョブ待ち行列に対する所有権限を必要

とします。要求側は、ジョブ待ち行列の所有者となるか、グループ・プロファイルをジョブ待ち行列所有者と共用するか、あるいはジョブ待ち行列所有者の権限を借用するプログラムを実行することによって所有権を持つことができます。

***DTAAUT**

ジョブ待ち行列に対して追加、読み取り、および削除の各権限を持つユーザーが待ち行列を制御することができます。

上

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***USE** 使用権限は、ジョブ待ち行列にジョブを投入するなど、待ち行列に対して基本的な操作を実行することをユーザーに許可します。

***CHANGE**

*DTAAUTが**検査権限 (AUTCHK)**パラメーターに指定された場合には、変更権限によって、ユーザーは他のユーザーが投入したジョブを制御することができます。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、そのオブジェクトが作成されているライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

上

例

```
CRTJOBQ JOBQ(DEPTA) AUT(*EXCLUDE)
      TEXT('SPECIAL QUEUE FOR DEPT A JOBS')
```

このコマンドは、DEPTAという名前のジョブ待ち行列を作成し、それを現行ライブラリーに書き込みます。AUT(*EXCLUDE)が指定され、OPRCTL(*YES)とみなされているので、このジョブ待ち行列は、待ち行列を作成したユーザーおよびジョブ制御権限(*JOBCTL)を持っているユーザーによってのみ使用され、制御されます。また、スプール制御権限(*SPLCTL)を持っているユーザーも待ち行列を制御できます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2192

オブジェクト&1をライブラリー&3に作成することはできない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3323

ジョブ待ち行列&1はすでに&2に存在している。

CPF3351

一時ライブラリー&1はジョブ待ち行列&2に対して正しくない。

CPF3354

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3356

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF3371

スプール・ユーザー・プロファイルQSPLに損傷があるか、または見つからない。

CPF9818

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

ジャーナル作成 (CRTJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル作成(CRTJRN)コマンドは、ジャーナルを指定された属性を持つローカル・ジャーナルとして作成し、指定されたジャーナル・レシーバーをジャーナルに接続します。ジャーナルが作成されると、オブジェクト変更はそれに対してジャーナル処理することができるか、あるいはユーザー項目をそこに送ることができます。作成されたジャーナルの状態は*ACTIVEになります。

制約事項:

- ライブラリーQTEMPの中にジャーナルを作成することはできません。
- 指定されるレシーバーはこのコマンドを出す前に作成されていなければならず、しかも空でなければなりません（すなわち、レシーバーは以前にジャーナルに接続されていないか、あるいはジャーナルへの接続の処理中でなければなりません）。
- このコマンドは、リモート・ジャーナルを作成するために使用することができません。ADDRMTJRN (リモート・ジャーナル追加)コマンドの説明またはi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションのリモート・ジャーナル追加(QJOADDRMOTEEJOURNAL) APIを参照してください。
- RCVSIZEOPTパラメーターからの*MAXOPTの値の1つがジャーナルに対して有効でない場合には、接続されているジャーナル・レシーバーに指定できる最大しきい値は1,919,999キロバイトです。
- ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にある場合には、指定するジャーナル・レシーバーはジャーナルのライブラリーと同じASPグループ内の独立ASP上になければなりません。同様に、ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にない場合には、指定するジャーナル・レシーバーを独立ASP上に置くことはできません。
- ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にある場合には、ASP(*LIBASP)を指定しなければなりません。
- RCVSIZEOPT(*MINFIXLEN)およびFIXLENDTAをシステム機密保護監査ジャーナルQSYS/QAUDJRNに使用することはできません。機密保護監査ジャーナルのジャーナル項目は、監査目的に使用できるすべてのデータを入れるために必要です。
- JRNOBJLMT(*MAX10M)が有効なのは、RCVSIZEOPTパラメーターに*MAXOPTの値の1つが指定されている場合だけです。
- JRNOBJLMT(*MAX10M)は、ジャーナルに指定されると、変更することができません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRNRVCV	ジャーナル・レシーバー	値 (最大 2 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ASP	ASP番号	1-32, *LIBASP	オプション
MSGQ	ジャーナル・メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジャーナル・メッセージ待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MNGRCV	レシーバーの管理	*SYSTEM, *USER	オプション
DLTRCV	レシーバーの削除	*NO, *YES	オプション
RCVSIZOPT	レシーバー・サイズ・オプション	単一値: *SYSDFT, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *RMVINTENT, *MINFIXLEN, *MAXOPT1, *MAXOPT2, *MAXOPT3	オプション
MINENTDTA	項目固有のデータの最小化	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *FILE, *FLDBDY, *DTAARA	オプション
JRNCACHE	ジャーナル・キャッシング	*NO, *YES	オプション
MNGRCVDLY	受信側遅延時間の管理	1-1440, 10	オプション
DLTRCVDLY	受信側遅延時間の削除	1-1440, 10	オプション
FIXLENTA	固定長データ	単一値: *JOBUSRPGM その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *JOB, *USR, *PGM, *PGMLIB, *SYSSEQ, *RMTADR, *THD, *LUW, *XID	オプション
JRNOBJLMT	ジャーナル・オブジェクト限界	*MAX250K, *MAX10M	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

上

ジャーナル (JRN)

作成されるジャーナルの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

作成されるジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ジャーナルは、ジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナルが作成されるライブラリーを指定してください。

上

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

指定したジャーナルに接続するジャーナル・レシーバーを指定します。

ジャーナル・レシーバーは2つまで接続できますが、2番目のジャーナル・レシーバーは無視されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

レシーバー名

ジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

ジャーナル・レシーバーは、以前にジャーナルに接続されたことがないか、あるいはジャーナルへの接続の処理中でない必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ASP番号 (ASP)

システムがジャーナル用の記憶域を割り振る補助記憶域プール(ASP)を指定します。

***LIBASP**

ジャーナルの記憶域スペースは、ジャーナルのライブラリーの記憶域スペースとして同じ補助記憶域プールから割り振られます。この値は、独立ユーザーASP内にジャーナルが必要な場合に使用します。

ASP ID

ジャーナルの記憶域スペースを割り振るASPのIDを指定するには、1から32の範囲内で値を指定します。有効な値は、システムでのASPの定義方法によって異なります。ジャーナルを基本非ライブラリー・ユーザーASPに入れたい場合のみ、ASP番号を指定します。

注: 値1はシステムASPであり, その他の値はユーザーASPを示します。

上

ジャーナル・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

このジャーナルに関連したメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。次の1つが起こった時に、この待ち行列にメッセージが送信されます。

- 接続されたジャーナル・レシーバーのしきい値を超えた時に、ジャーナルの属性がMNGRCV(*USER)である場合はメッセージCPF7099が送信されます。
- 接続されたジャーナル・レシーバーのしきい値を超えた時に、ジャーナルの属性がMNGRCV(*SYSTEM)である場合には、システムは新しいレシーバーの作成および接続を試みます。古いレシーバーが切り離された時には、メッセージCPF7020が送信されます。ロックの競合のためにこの試みが失敗した場合には、システムはメッセージCPI70E5を送って、ジャーナル変更操作が成功するまで、10分ごとに（あるいはMNGRCVDLYパラメーターを介して要求した回数だけ）やり直します。ジャーナル変更が他の理由で失敗した場合には、メッセージCPI70E3が送られます。
- ジャーナル・レシーバーの順序番号が2,147,000,000を超えると、メッセージCPI70E7が送信されます。RCVSIPOPT(*MAXOPT1または*MAXOPT2)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されている場合には、順序番号が9,900,000,000を超えるとメッセージCPI70E7が送信されます。RCVSIPOPT(*MAXOPT3)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されていた場合で、順序番号が18,446,644,000,000,000を超えるとメッセージCPI70E7が送信されます。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っているかどうか、あるいはロックの競合以外の理由で新しいジャーナル・レシーバーの作成および接続が失敗するかどうかをシステムが判別できない場合には、メッセージCPI70E3が送信されます。
- リモート・ジャーナル操作を実行する場合には、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。
- システムがロックの競合のためにレシーバーを削除できないか、出口プログラムがレシーバーを削除できないことを示しているか、あるいはレシーバーがすべてのリモート・ジャーナルに対して完全に複製されていない場合には、CPI70E6が送られて、操作は10分ごとに（あるいはDLTRCVDLYパラメーターを介して要求された回数だけ）やり直されます。削除がその他のなんらかの理由で正常に実行されない場合には、CPI70E1が送られます。

しきい値を設定するためには、ジャーナル・レシーバー作成(CRTJRNRCV)またはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドの説明を参照してください。

注: このパラメーターには、ライブラリーQTEMPの中のメッセージ待ち行列を指定することはできません。

注: ジャーナル・メッセージ待ち行列に送られる一部のメッセージも、QSYSOPRメッセージ待ち行列およびQHSTに送られます。

QSYSOPR

メッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

ジャーナル・メッセージ待ち行列

ジャーナル・メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。メッセージを送る時に、このメッセージ待ち行列が使用可能でない場合には、そのメッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナルのメッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナルのメッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

レシーバーの管理 (MNGRCV)

ジャーナル・レシーバーの変更を管理する（現在接続されているジャーナル・レシーバーを切り離して新しいジャーナル・レシーバーを接続する）方法を指定します。

***SYSTEM**

システムがジャーナル・レシーバーの変更を管理します（この機能はシステムのジャーナル変更管理と呼ばれる）。接続されたジャーナル・レシーバーがそのサイズのしきい値に達すると、システムは接続されたジャーナル・レシーバーを切り離し、新規ジャーナル・レシーバーを作成して接続します。ジャーナル・レシーバーが切り離されると、メッセージCPF7020がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。

また、RCVSIPOPT(*MAXOPT1または*MAXOPT2)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されている場合には、ジャーナル・レシーバーの順序番号が9,900,000,000を超えるとシステムはCHGJRNコマンドを実行してその順序番号をリセットします。

RCVSIPOPT(*MAXOPT3)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されていた場合で、ジャーナル・レシーバーの順序番号が18,446,644,000,000,000を超えると、システムはCHGJRNコマンドを実行して順序番号をリセットしようとします。その他のすべてのジャーナル・レシーバーの場合は、順序番号が2,147,000,000を超えるとシステムはこのCHGJRNを試みません。

さらに、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更中には、システムは、RCVSIPOPTが*MAXOPT3でなければ、CHGJRNコマンドを実行して新しいジャーナル・レシーバーを作成および接続し、そのIPLまたはオンへの構成変更に対するコミットメント制御回復の必要のないジャーナルのジャーナル順序番号をリセットします。RCVSIPOPTが*MAXOPT3の場合には、順序番号が18,446,600,000,000,000の順序番号のしきい値を超えない限り、この順序番号はリセットされず、新しいジャーナル・レシーバーは接続されません。

注:

1. ジャーナル・レシーバーのしきい値は、この値を指定する前に、*NONE以外の値で指定されていなければなりません。
2. MNGRCV(*SYSTEM)を指定しても、CHGJRNコマンドを使用してジャーナル・レシーバーを管理することはできません。
3. また、少数のジャーナル項目しかない場合も、順序番号はリセットされません。

***USER**

ユーザーは、新規レシーバーを接続して古いレシーバーを切り離すためにジャーナル変更(CHGJRN)コマンドを出すことによって、ジャーナル・レシーバーの変更を管理します。

レシーバーの削除 (DLTRCV)

ジャーナル・レシーバーが必要でなくなった時にシステムがこれらを削除するか、あるいはシステムのジャーナル変更管理またはユーザーの出したCHGJRNコマンドによってこれらのジャーナル・レシーバーが切り離された後でユーザーがこれらを削除するために、システム上に残しておくかどうかを指定します。

注: このパラメーターを指定できるのは、MNGRCV(*SYSTEM)が指定されている場合だけです。

***NO** システムはジャーナル・レシーバーを削除しません。

***YES** ジャーナル・レシーバーはシステムによって削除されます。

ジャーナルがDLTRCV(*YES)属性を持っている場合には、次の条件のためにシステムがレシーバーを削除できないことがあります。これらの条件の1つが起こった場合には、システムはメッセージCPI70E6を送って、操作が成功するまで削除操作を10分ごとに（あるいはDLTRCVLDLYパラメーターを介して要求された回数だけ）やり直します。

- ジャーナル・レシーバーまたはそのジャーナルに対するロックの競合が起きている。
- QIBM_QJO_DLT_JRNRCV出口点の方法によって登録済みの出口プログラムは、レシーバーが削除に適格でないことを示しています。
- ジャーナルがそれと対応したリモート・ジャーナルを持っていて、対応したリモート・ジャーナルの1つまたは複数はまだこのレシーバーの完全なコピーを持っていません。

レシーバー・サイズ・オプション (RCVSIZOPT)

ジャーナルに接続されたレシーバーのサイズに影響を与えるオプションを指定します。

単一値

***SYSDFT**

システムは現在の推奨値を使用します。現在この値を指定することは、*MAXOPT2および*RMVINTENTを指定することと同じです。

***NONE**

レシーバーに接続されたジャーナル項目のサイズに影響を与えるオプションはありません。レシーバーに入れられたジャーナル項目はすべて永続的です。FIXLENDTAで定義された固定長データは、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるすべてのジャーナル項目に含まれます。これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約2 GB (2,147,483,647)に、最大順序番号は2,147,483,136にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは15,761,440バイトです。

その他の値（最大3回までの繰り返し）

***RMVINTENT**

ジャーナルに接続されたレシーバーのサイズは、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更回復のみに必要な内部項目が（以後必要なくなったときに）自動的に除去されることによって減少されます。

***MINFIXLEN**

接続されているジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目のサイズは、回復目的に必要なとみなされない固定長データの自動除去によって削減されます。このオプションは、FIXLENDTAも指定されている場合には無効です。

***MAXOPT1**

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は9,999,999,999にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは15,761,440バイトです。

*MAXOPT2または*MAXOPT3が指定された場合には、この値を指定することはできません。

***MAXOPT2**

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は9,999,999,999にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは4,000,000,000バイトです。

*MAXOPT1または*MAXOPT3が指定された場合には、この値を指定することはできません。

***MAXOPT3**

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は18,446,744,073,709,551,600にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは4,000,000,000バイトです。これらのジャーナル・レシーバーは、V5R3M0より前のリリースに保管および復元することも、V5R3M0より前のリリースではどのシステムのどのリモート・ジャーナルにも複製することもできません。また、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更中には、MNGRCV(*SYSTEM)が指定されていると、システムは、順序番号が18,446,600,000,000,000,000の順序番号のしきい値を超えていない限り、新しいジャーナル・レシーバーを作成および接続し、ジャーナル順序番号をリセットするためのCHGJRNコマンドを自動的に実行しません。

*MAXOPT1または*MAXOPT2が指定された場合には、この値を指定することはできません。

上

項目固有のデータの最小化 (MINENTDTA)

ジャーナル項目が最小化された特定のデータを持つことができるオブジェクト・タイプを指定します。

項目特有のデータを最小化するために*FLDBDYオプションを使用しているジャーナル・レシーバーは、V5R4M0より前のリリースに保管および復元することはできず、V5R4M0より前のリリースのシステムのリモート・ジャーナルに複製することもできません。最小化された項目特定データを持つジャーナル項目の制約事項と使用法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

***NONE**

オブジェクト・タイプは最小化された項目特定データを持つジャーナル項目を使用できません。すべてのジャーナル処理済みオブジェクトのジャーナル項目は、完全な項目特定データを持つジャーナルに入れられます。

***FILE** ジャーナル処理されたファイルに、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。最小化はフィールド境界では行われません。したがって、この項目特有のデータは表示可能でなく、監査目的に使用することはできません。*FLDBDYが指定されている場合には、この値を指定することはできません。

*FLDBDY

ジャーナル処理されたファイルに、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。ジャーナル処理済みファイルの最小化は、フィールド境界で行われます。したがって、この項目特有のデータは表示可能で、監査目的に使用することができます。

*DTAARA

ジャーナル処理されたデータ域に、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。

上

ジャーナル・キャッシング (JRNCACHE)

ディスクに書き出される前にジャーナル項目がキャッシュされるかどうかを指定します。

***NO** 単一システムの回復に必要な場合には、ジャーナル項目はただちにディスクに書き込まれます。

***YES** ジャーナル項目はメイン・メモリーに書き込まれます。メイン・メモリーに複数のジャーナル項目がある場合には、そのジャーナル項目はメイン・メモリーからディスクへ書き込まれます。アプリケーションが多数の変更を実行した場合には、同期ディスク書き込みが少なくなると、パフォーマンスが改善されることとなります。しかし、メイン・メモリーの内容が保存されていないシステム障害の際に最後の1つの変更でも失うことが受け入れられない場合には、このオプションの使用はお奨めできません。このタイプのジャーナル処理は主としてバッチ・ジョブに向けられていて、単一のシステム回復がジャーナル処理の主要な理由である対話式アプリケーションの場合には適していません。

注: コミットメント制御を使用するアプリケーションでは、コミットメント制御で一部のジャーナル・キャッシュが実行されるので、パフォーマンスの改善は少ない傾向があります。

注: キャッシュ内にある項目は、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンド、ジャーナル項目受信(RCVJRNE)コマンド、ジャーナル項目検索(RTVJRNE)コマンド、またはQJORETRIEVEJOURNALENTRIES APIを使用して表示することはできません。また、キャッシュ内の項目も、リモート・ジャーナルを持つターゲット・システムには送られません。ただし、これらのジャーナル項目は、ジャーナル・レシーバー属性表示(DSPJRNRCVA)コマンドまたはQJORTVJRNERECEIVERINFORMATION APIを介して戻されたジャーナル・レシーバーの最後の順序番号に含まれています。

注: この値は、ライブラリーがQGPLでない限り、ジャーナル名がQで始まっていたり、ジャーナル・ライブラリーがQで始まっている場合は指定することができません。

上

受信側遅延時間の管理 (MNGRCVDLY)

ジャーナルがシステム管理(MNGRCV(*SYSTEM))の場合に、このジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続しようとする次の試みを遅延させるために使用する時間(分数)を指定します。

10 システムがこのジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続するために必要なオブジェクトを割り振れない場合には、10分間待機してから再度試みます。

1から1440

システムがこのジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続するために必要なオブジェクトを割り振れない場合には、指定された時間(分数)だけ待機してから再度試みます。

受信側遅延時間の削除 (DLTRCVDLY)

システムがこのジャーナルに関連付けられたジャーナル・レシーバーを削除するために必要なオブジェクトを割り振ることができず、ジャーナルにDLTRCV(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターが、ジャーナル・レシーバーを削除する次の試みを遅延させるために使用する時間（分数）を指定します。

10 システムは、10分待ってやり直します。

1から1440

システムは、指定された分数だけ待ってやり直します。

固定長データ (FIXLENDTA)

接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目の固定長部分に含められるデータを指定します。このパラメーターは、RCVSIPOPT(*MINFIXLEN)も指定された場合には無効です。

*SAME

値は変更されません。

*JOBUSRPGM

ジョブ名、ユーザー名、およびプログラム名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***JOB** ジョブ名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***USR** 有効なユーザー・プロファイル名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***PGM** プログラム名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められません。

*PGMLIB

プログラム・ライブラリー名およびプログラム・ライブラリーが入っている補助記憶域プール装置名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

*SYSSEQ

システム・シーケンス番号は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。システム・シーケンス番号は、システム上のすべてのジャーナル・レシーバーのすべてのジャーナル項目に相対順序を与えます。

*RMTADR

該当する場合に、リモート・アドレス、アドレス・ファミリー、およびリモート・ポートは、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***THD** スレッドIDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。スレッドIDは、同じジョブで実行中の複数のスレッド間での識別を助けます。

***LUW** 該当する場合に、作業論理単位IDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。作業論理単位IDは、特定のコミット・サイクルに関連した作業を識別します。

***XID** 該当する場合に、トランザクションIDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含まれます。トランザクションIDは、特定のコミット・サイクルに関連したトランザクションを識別します。

上

ジャーナル・オブジェクト限界 (JRNOBJLMT)

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数に影響を与えるオプションを指定します。

***MAX250K**

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数は250,000です。

***MAX10M**

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数は10,000,000です。このようなジャーナルに関連付けられたジャーナル・レシーバーは、V5R4M0より前のリリースに保管または復元することができず、V5R4M0より前のリリースにリモート・ジャーナル処理を介して複製することもできません。

この値をジャーナルに指定すると、JRNOBJLMTに下限を設定することはできません。

このオプションを選択する場合には、関係するランタイム・パフォーマンスに考慮する必要があります。この新しい属性では、1つのジャーナルに多数のオブジェクトをジャーナル処理する機会があります。要するに、より多くのオブジェクトをアクティブに同時に変更できて、ジャーナルのランタイム・パフォーマンスに影響する潜在的な機会があることとなります。したがって、この1つのジャーナルにジャーナル項目を入れる頻度がランタイム・パフォーマンス問題を引き起こすとすれば、ジャーナル処理されるオブジェクトを複数のジャーナルに分割することが優れた代替案となります。

単一のジャーナルに関連付けられたオブジェクトの量を増やすと、IPL時間、独立ASPのオンへの構成変更時間、または災害時回復時間が増えることに留意してください。一般的な、大ざっぱな実際に即した方法としては、アクティブに変更するオブジェクトの数が5,000より大きくなりそうな場合には、それらのオブジェクトの一部を別のジャーナルでジャーナル処理することを検討してみてください。システムの終了時に、所定のジャーナルでアクティブに変更するオブジェクトの数が大きくなればなるほど、IPLまたは独立ASPのオンへの構成変更時にジャーナルの回復に要する時間は長くなります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

上

例

例1: 補助記憶域プールを使用するジャーナルの作成

```
CRTJRN  JRN(MYLIB/JRNLA) JRNRCV(MYLIB/RCV01) ASP(3)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBの中にJRNLAという名前のジャーナルを作成します。ジャーナルの記憶域スペースは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3から割り振られます。ライブラリーMYLIBのジャーナル・レシーバーRCV01がジャーナルJRNLAに接続されます。ジャーナルの共通権限は、ライブラリーMYLIBのCRTAUTパラメーターから取られます。

例2: より大きいオブジェクト限界を持つジャーナルの作成

```
CRTJRN  JRN(YOURLIB/JRNLB) JRNRCV(YOURLIB/RCV01)
         RCVSIZOPT(*MAXOPT3 *RMVINTENT)
         JRNBJLMT(*MAX10M)
```


このコマンドは、ライブラリーYOURLIBに、最大10,000,000オブジェクトをそこにジャーナル処理できるJRNLBという名前のジャーナルを作成します。ライブラリーYOURLIBのジャーナル・レシーバーRCV01はジャーナルJRNLBに接続されます。ジャーナルの共通権限は、ライブラリーYOURLIBのCRTAUTパラメーターから取られます。より大きなジャーナル・オブジェクト限界を使用すると、レシーバー・サイズ・オプション・パラメーターの最大オプションの値の1つを指定する必要があります。この場合には、レシーバー・サイズ・オプション・パラメーターに*MAXOPT3が選択されています。これにより、ジャーナル・レシーバーは約1テラバイトまで大きくすることができ、順序番号は18,446,744,073,709,551,600に、最大ジャーナル項目のサイズは4,000,000,000バイトに達します。回復目的だけに必要な項目は、それ以上システムで必要がなくなった時に除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF70A0

FIXLENDTAパラメーターは使用できない。

CPF70A1

FIXLENDTAパラメーターはRCVSIZOPT(*MINFIXLEN)と一緒に使用できない。

CPF70B5

JRNOBJLMT(&1)は使用できません。

CPF70B8

指定されたMINENTDTA値は使用できません。

CPF70E0

&1での操作は実行できない。

CPF70E2

DLTRCV(*YES)は使用できない。

CPF70E5

指定されたRCVSIZOPT値は許されない。

CPF70F1

ジャーナル・レシーバーしきい値がジャーナルに対して大きすぎる。

CPF70F5

レシーバーのしきい値が正しくない

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF701A

ジャーナル・レシーバーが操作に適格でない。

CPF7010

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF7011

記憶域または資源が十分でない。

CPF7012

オブジェクト&1の補助記憶域プール&4が見つからない。

- CPF7015**
JRNRCVの指定にエラーがある。
- CPF7017**
メッセージ待ち行列パラメーターにはライブラリーQTEMPは正しくない。
- CPF704E**
RCVSIZOPT(*MINFIXLEN)は使用できない。
- CPF708A**
QSYSのジャーナルQAUDJRNが作成または復元されなかった。
- CPF708D**
ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。
- CPF708E**
*MAXOPT1, *MAXOPT2,または*MAXOPT3を指定したジャーナル・レシーバーは許可されない。
- CPF709F**
ジャーナル・キャッシングを開始できない。理由コードは&3です。
- CPF9801**
ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。
- CPF9802**
&3のオブジェクト&2は認可されていない。
- CPF9803**
ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。
- CPF9806**
ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。
- CPF9810**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF9820**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。
- CPF9830**
ライブラリー&1を割り当てることができない。
- CPF9839**
オブジェクト&1は作成されなかった。
- CPF9840**
オブジェクト&1は作成されなかった。
- CPF9873**
ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。
- CPF9875**
ASP &1で資源を超えています。

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan